

川口市子どもの生活実態調査 結果報告書

平成 31 年 3 月

川口市

目次

I	調査概要	1
1.	調査の目的	1
2.	実施概要	1
3.	配布・回収状況	2
4.	調査の背景	4
5.	生活困難層の算出方法	5
6.	報告書を見るにあたっての注意点	6
II	子ども票 調査結果	7
1.	学校以外でのふだんの生活の状況について	7
2.	学校のことや勉強のことについて	69
3.	いろいろな人とのかかわりについて	88
4.	あなたの健康状況について	114
5.	あなたがふだん考えていることについて	131
III	保護者票 調査結果	143
1.	子育て支援事業の利用状況について	143
2.	あなたとあなたのご家族のことについて	183
3.	お子さんのお母さん、お父さんの仕事について	195
4.	お子さんの健康状況について	215
5.	子育てや教育について	241
6.	現在の暮らしについて	267
7.	ご両親のこれまでの経験について	290
IV	課題と今後の方向性	300
1.	生活困難層の状況	300
2.	個別の支援分野に関連した状況	303

I 調査概要

参考資料1 子どもの生活・学習支援事業の調査結果.....	318
1. 子どもの生活・学習支援事業の調査結果の概要.....	318
2. 学習支援員調査.....	319
3. 教室利用者調査.....	331
4. 教室利用者保護者調査.....	336
参考資料2 資源量調査結果.....	341
1. 資源量調査結果の概要.....	341
2. 地域で貧困家庭への支援等を行っている団体の現状.....	341
3. 地域において、貧困家庭を支えるために今後求められる資源.....	342
参考資料3 調査票.....	343
1. 学校調査（小学5年生用）.....	343
2. 学校調査（中学2年生用）.....	349
3. 学校調査（保護者用）.....	355
4. 生活保護調査（小学生用）.....	363
5. 生活保護調査（中学生用）.....	369
6. 生活保護調査（保護者用）.....	375
7. 子どもの生活・学習支援事業の調査（学習支援員用）.....	383
8. 子どもの生活・学習支援事業の調査（教室利用者用）.....	386
9. 子どもの生活・学習支援事業の調査（教室利用者保護者用）.....	387
10. 資源量調査.....	388

I 調査概要

1. 調査の目的

戦後、日本社会が資本主義経済の中で発展を遂げ、社会が豊かになっていく傍ら、ライフスタイルや家族構造の変化が起こり、各家庭の生活水準には、格差が生じてきました。特に、日本社会において生活する中で満たされるべき最低水準の生活を送ることができていない家庭が存在していることが、近年注目されています。中でも、子どものいる家庭の中で、生活、教育、健康状態、保護者の就労などの様々な面において、満たされていない家庭が存在し、「子どもの貧困」として語られるようになってきています。

子どもたちが、生まれ育った家庭の経済社会状況にかかわらず、未来への希望を持ち、自立する力を伸ばすことのできる機会と環境を提供することは、社会としての責任です。川口市においても、すべての子どもたちとその保護者とが、健やかに、未来に向かって歩んでいける市をつくっていきたいと考えています。

そのため、子どもの生活に関する実態を調査し、本市における困難な状況に置かれている子どもの実態を把握することにより、今後の施策立案に生かすため、市内の小・中学生及びその保護者に対して調査を実施したものです。

2. 実施概要

調査種別	対 象	実施期間	配布・回収方法
学校調査	小学5年生子ども・保護者 (全校各1クラス)	6月29日～7月13日	学校配布・学校回収
	中学2年生子ども・保護者 (全校各1クラス)		
生活保護調査	生活保護世帯子ども・保護者 (小学4年生から中学3年生までの子どものいる全世帯)	7月3日～7月31日	ケースワーカー 配布・郵送回収

※注1 実施にあたっては、学校調査、生活保護調査のいずれも、子ども、保護者ご本人それぞれ宛ての調査票及び回収用封筒を用意して実施した。回収の際は、回答者（子ども、保護者それぞれ）自身で回答済調査票を回収用封筒に入れて封をし、それをさらに家庭ごとに1つの大きな封筒に入れて頂いて、回収を行った。

3. 配布・回収状況

学校調査

学校調査における配布・回収状況は以下の通りです。学校調査では、保護者の調査票（以後、保護者票という）における世帯の昨年1年間の手取り収入を基に、無回答であった対象を除くすべての対象を、「生活困難層」または「非生活困難層」と定義して、調査結果の分析を行いました（「5. 生活困難層の算出方法」参照）。

なお、子どもについても、調査票の分析にあたって、回答家庭の保護者の回答と紐付けし、「生活困難層」または「非生活困難層」と定義を行いました。定義を行うため、子どもと保護者の双方から調査票を回収できた世帯のみが「有効回収数」となります。有効回収数は、小学5年生では子ども・保護者のいずれも1,579件、中学2年生では子ども・保護者のいずれも800件でした。

本報告書上では、子ども・保護者のいずれも、小学5年生1,579件、中学2年生800件による回答を取り扱っています。

	配布 世帯数 (配布件数 = a)	回収状況			
		報告書区分		有効回収数 = b	有効回収率 (b ÷ a)
		子ども	保護者		
小学5年生	1,761 世帯 (1,761 件)	1,604 件	1,598 件	1,579 件	89.7%
中学2年生	928 世帯 (928 件)	807 件	807 件	800 件	86.2%

※注1 学校調査では、1世帯につき、子どもと保護者にそれぞれ調査票を1部ずつ配布している。そのため、配布世帯数と配布件数が等しい数である。

注2 「有効回収率」とは、調査において有効である調査票の割合を指し、ここでは、配布件数に対する有効回収数の割合を指す。

注3 子どもについては、小学5年生、中学2年生で一部設問の内容や聞き方が異なる部分があるが、概ね同一の調査票を用いているため、本報告書上では「子ども票」として調査結果をまとめて掲載する。

注4 中学2年生では、回収した子ども、保護者の件数は同数の807件であるが、子どもと保護者の双方から調査票を回収できた世帯については、そのうちの800件であった。

生活保護調査

生活保護調査における配布・回収状況は以下の通りです。生活保護調査では、子どもの調査票の種類（小学生または中学生）を基に、すべての対象を「小学生」または「中学生」と区分して、調査結果の分析を行いました。

なお、保護者についても、調査票の分析にあたって、回答家庭の子どもの調査票種類（学校区分）を基に、「小学生」または「中学生」と区分を行いました。その際、保護者については、回収した中に同世帯の子どもの調査票が同封されていない世帯が3世帯あったため、有効回収数は139件となりました。一方、子どもについては回収したすべての調査票が有効となり、有効回収数は167件となりました。

本報告書上では、子ども167件（小学生66件、中学生101件）、保護者139件による回答を取り扱っています。

		配布 世帯数	配布件数 =a	回収状況		
				回収数	有効回収数 =b	有効回収率 (b÷a)
報告書区分	子ども	379 世帯	498 件	167 件	167 件	33.5%
	小学生		218 件	66 件	66 件	30.3%
	中学生		280 件	101 件	101 件	36.1%
	保護者	379 世帯	379 件	142 件	139 件	36.7%

※注1 生活保護調査では、1世帯に複数の対象となる子どもがいた場合には、複数の子ども調査票を配布している。そのため、子どもについては、配布世帯数と配布件数が等しい数ではない。

注2 「有効回収率」とは、調査において有効である調査票の割合を指し、ここでは、配布件数に対する有効回収数の割合を指す。

注3 子どもについては、小学生、中学生で一部設問の内容や聞き方が異なる部分があるが、概ね同一の調査票を用いているため、本報告書上では「子ども票」として調査結果をまとめて掲載する。

4. 調査の背景

日本においては、子どもの相対的貧困率¹（以後、子どもの貧困率²という）が、1980年代から上昇傾向にあり、平成27年の「国民生活基礎調査」の結果から算出した子どもの貧困率は13.9%、実に7人に1人の子どもが相対的貧困状態にあるとされています（「参考」参照）。「相対的貧困」とは、その人が住んでいる社会、時代において、一般的に行われている通常の習慣や行為が行えない状態のことを指し、先進国における貧困ともいうことができます。

子どもの貧困率が増加している中、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均等を図るため、子どもの貧困対策を総合的に推進する「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が平成25年6月に成立しました。さらに、平成26年8月には「子供の貧困対策に関する大綱」が閣議決定され、子供の貧困対策を総合的に推進するための基本的な方針、子供の貧困に関する指標、指標の改善に向けた当面の重点施策が国より示されています。

また、埼玉県においても、「埼玉県子育て応援行動計画（平成27～31年度）」に子どもの貧困対策に関する施策を位置づけ推進するとともに、今後の子どもの健やかな育ちの支援と貧困対策の推進に向けて、平成30年度には「子どもの生活に関する調査」を行い、子どものいる家庭の状況の把握が進められています。

このように、国・埼玉県において子どもとその家庭の置かれた状況を把握し、対策を講じる動きが進んでいます。そこで、本市においても、子どもとその家庭を取り巻く状況を調査し、把握するべきと考えられます。

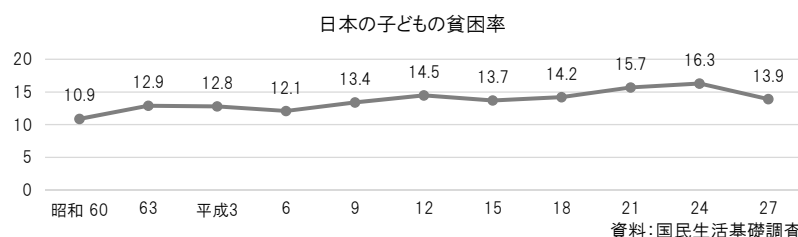
¹ 相対的貧困率：貧困線に満たない人の割合。貧困の本来的な概念としては、経済的な困窮以外にも、生活、教育や経験、就労などの側面も含まれるが、相対的貧困の割合を定義するための指標として、所得から算出した貧困線が用いられる。

² 子どもの貧困率：17歳以下の子ども全体に占める、貧困線に満たない子どもの割合。

【参考】日本の子どもの相対的貧困の状況

日本における子どもの貧困率は若干の増減を繰り返しながらも増加傾向にあり、平成27年には13.9%となっています。

なお、平成25年に発表された国際比較結果（日本のデータは平成22年の国民生活基礎調査に基づく）では、子どもの貧困率は先進31カ国中10番目の高さとなっています。



5. 生活困難層の算出方法

本報告書においては、国の国民生活基礎調査における貧困線を参考に、学校調査の結果に関して、「生活困難層」を定義し、分析を行っています。

貧困線とは、等価可処分所得（世帯の可処分所得（収入から税金・社会保険料等を除いた、いわゆる手取り収入）を世帯人員の平方根で割って調整した所得）の中央値の半分の額を指します。直近の国民生活基礎調査（平成 28 年調査）における平成 27 年の貧困線は 122 万円となっています。

本調査（以後、本ページ内では学校調査を指す）においては、世帯の昨年 1 年間（平成 29 年 1 月～12 月）の手取り収入を 18 段階の選択式で聞いています。各世帯人員別の「生活困難層」に該当する選択肢は下記の通りです。

■本調査における生活困難層の定義

人員	本調査における選択肢	(参考) 国民生活基礎調査に基づく貧困線
2 人	～175 万円未満	173 万円
3 人	～210 万円未満	211 万円
4 人	～245 万円未満	244 万円
5 人	～275 万円未満	273 万円
6 人	～300 万円未満	299 万円
7 人	～300 万円未満	323 万円
8 人	～350 万円未満	345 万円
9 人	～350 万円未満	366 万円

〔 例：世帯人員 2 人の場合 保護者が、「～175 万円未満」までの選択肢を選んだ世帯を「生活困難層」として取り扱います。 〕

本調査における生活困難層の割合は、小学 5 年生で 7.5%、中学 2 年生で 9.6%となっています。ただし、本調査における手取り収入の聞き方については、国の国民生活基礎調査とは異なるものとなっています。そのため、本調査における生活困難層の割合を、国の貧困率と単純に比較することはできないことに注意が必要です。また、今回の「生活困難層」の定義については、本報告書における分析のみで用いるものです。

■本調査における対象ごとの割合

	小学 5 年生		中学 2 年生	
	有効回収数	全体に占める割合	有効回収数	全体に占める割合
生活困難層	118 件	7.5%	77 件	9.6%
非生活困難層	1,322 件	83.7%	646 件	80.8%
手取り収入について無回答	139 件	8.8%	77 件	9.6%
合計	1,579 件	100.0%	800 件	100.0%

6. 報告書を見るにあたっての注意点

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の読み取り文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「無回答」とあるものは、回答が記入されていない、または回答の判別が困難なものです。

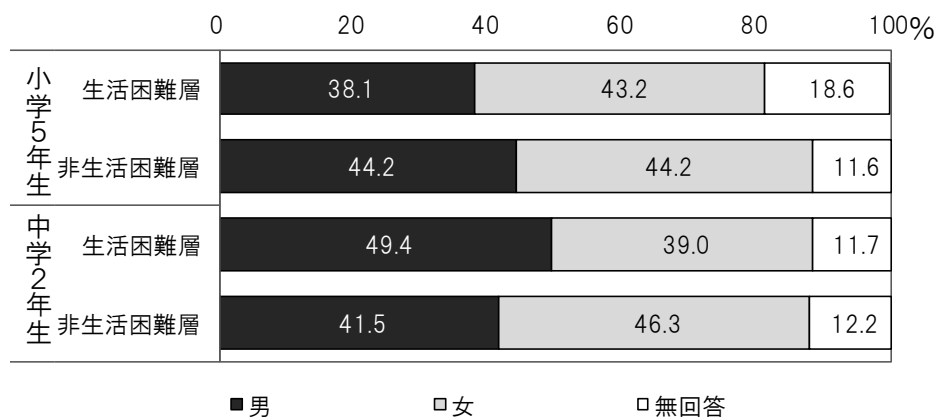
Ⅱ 子ども票 調査結果

1. 学校以外でのふだんの生活の状況について

問1 あなたの性別を教えてください。(○はひとつだけ)

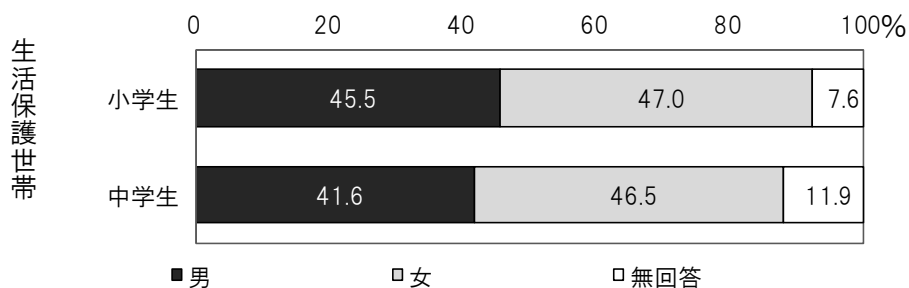
学校調査

性別については、生活困難層に着目すると、小学5年生で「男」が38.1%、「女」が43.2%、中学2年生で「男」が49.4%、「女」が39.0%となっています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生、中学生のいずれも、「男」「女」がともに4割台となっています。



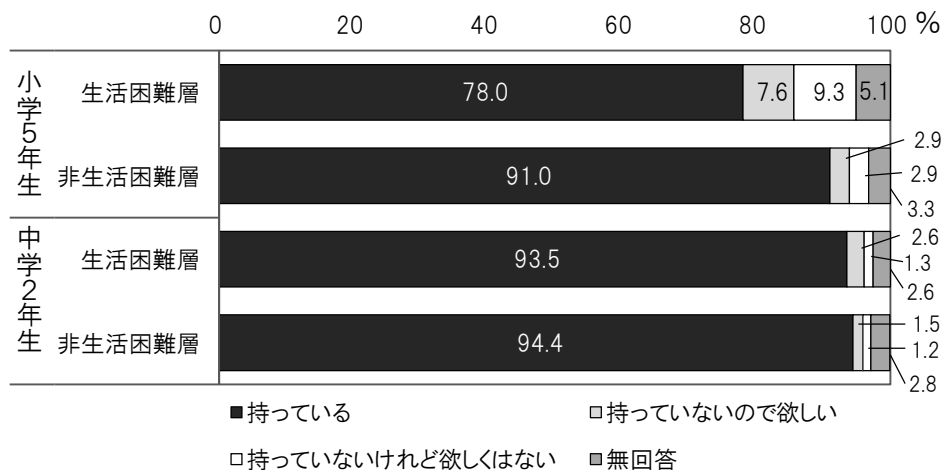
Ⅱ 子ども票

問2 あなたが持っているもの、使うことができるものを教えてください。（それぞれについて、○はひとつだけ）

① 本（教科書やマンガはのぞきます）

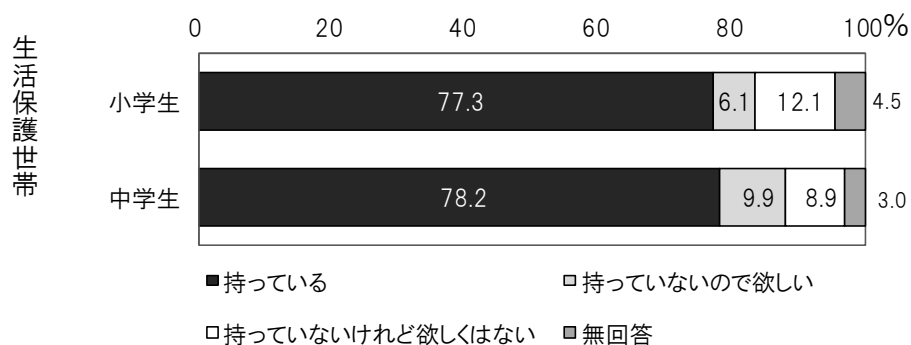
学校調査

教科書やマンガ以外の本については、すべての対象で「持っている」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では、「持っていないので欲しい」が7.6%、「持っていないけれど欲しくはない」が9.3%と、それぞれ非生活困難層と比べ高くなっています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「持っている」が7割台と最も多くなっています。また、小学生では、「持っていないけれど欲しくはない」が12.1%と1割を超えています。

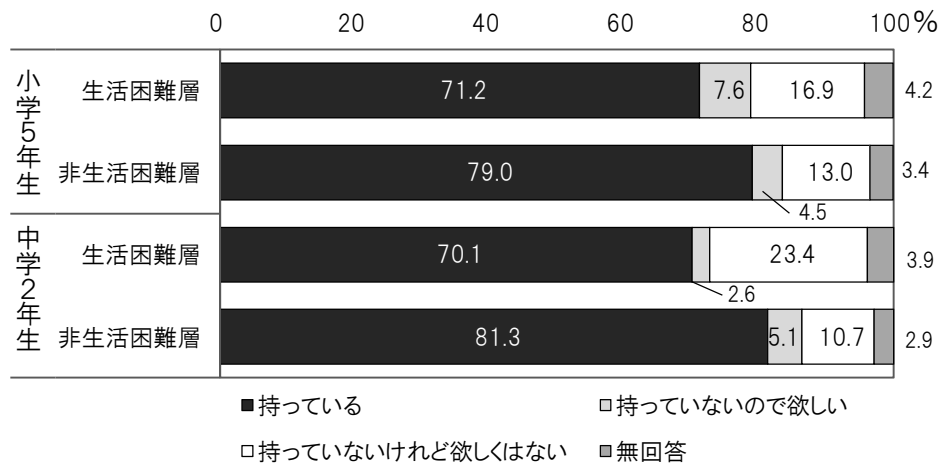


問2 あなたが持っているもの、使うことができるものを教えてください。(それぞれについて、○はひとつだけ)

② マンガや雑誌

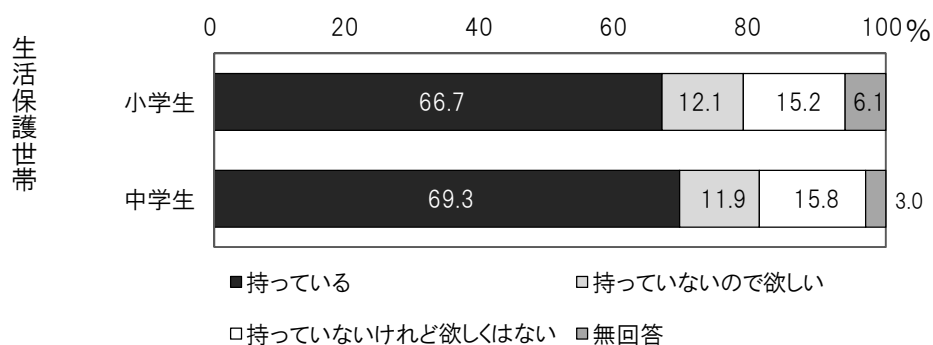
学校調査

マンガや雑誌については、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「持っている」で非生活困難層を下回っています。また、中学2年生では、「持っていないけれど欲しい」が23.4%と、非生活困難層に比べ12.7ポイント高くなっています。このことから、学年が上がると、マンガや雑誌の所有を希望しない子どもの割合が、非生活困難層に比べ、高くなる傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「持っている」が6割台と最も多く、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。小学生、中学生のいずれも、「持っていないけれど欲しい」と「持っていないけれど欲しくない」が1割台となっています。



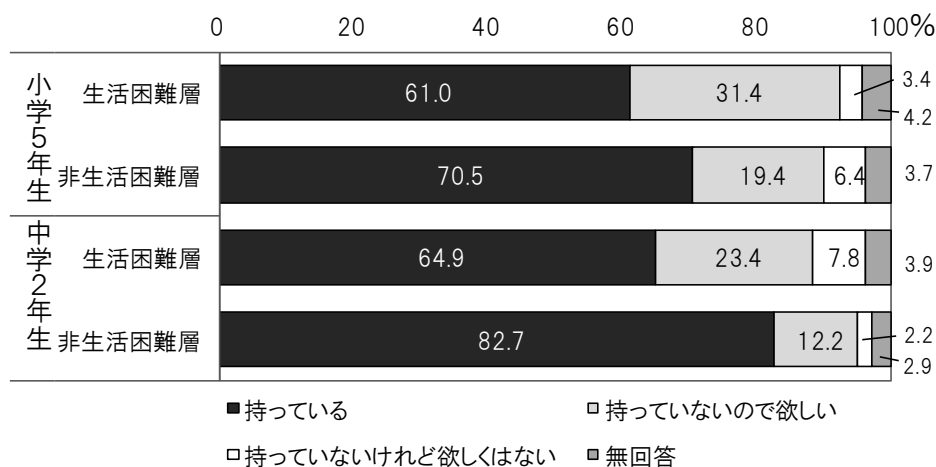
Ⅱ 子ども票

問2 あなたが持っているもの、使うことができるものを教えてください。(それぞれについて、○はひとつだけ)

③ 自分の使う部屋(兄弟姉妹といっしょに使っている場合もふくみます)

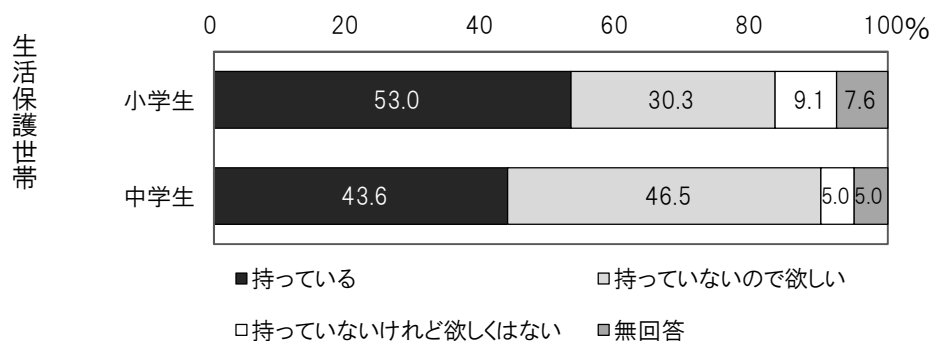
学校調査

自分の使う部屋については、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「持っている」で非生活困難層を下回っています。また、「持っていないので欲しい」について、小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層を上回っています。さらに、学年が上がると、「持っている」が非生活困難層では増加している一方、生活困難層では変化がない状況です。このことから、小学5年生、中学2年生のいずれも、自分の使う部屋の所有割合は非生活困難層よりも低く、学年が上がっても所有割合は変化していない傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「持っている」が53.0%、中学生では「持っていないので欲しい」が46.5%と最も多くなっています。小学生と比べると、中学生では「持っていないので欲しい」が特に多くなっています。

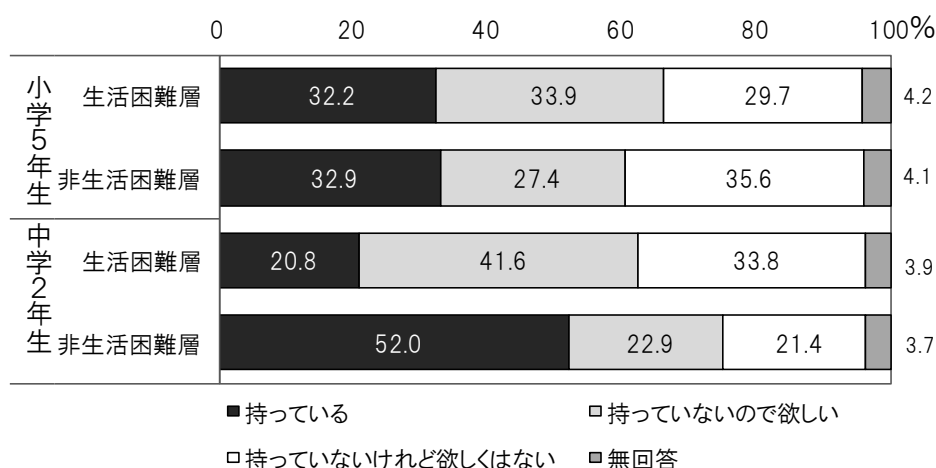


問2 あなたがもっているもの、使うことができるものを教えてください。(それぞれについて、○はひとつだけ)

④ インターネットにつながるパソコン(兄弟姉妹といっしょに使っている場合もふくみます)

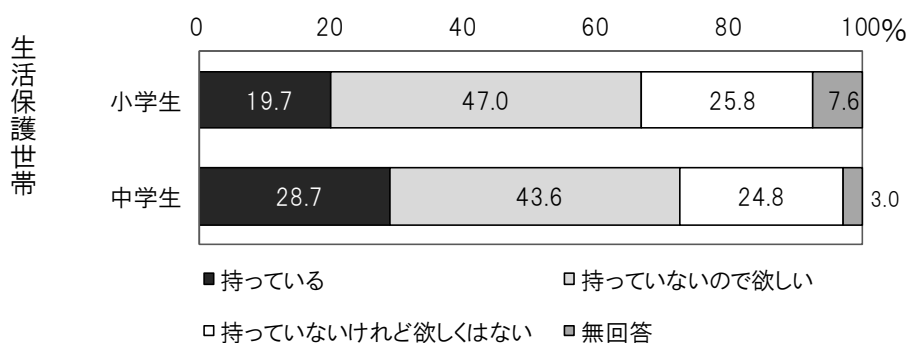
学校調査

インターネットにつながるパソコンについては、生活困難層に着目すると、小学5年生では大きな差がないのに対し、中学2年生では「持っている」が20.8%と、非生活困難層に比べ31.2ポイント低くなっています。また、中学2年生では、「持っていないので欲しい」が41.6%と、非生活困難層と比べ18.7ポイント高くなっています。このことから、生活困難層では、中学2年生で所有割合が低いものの、所有が希望される傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「持っていないので欲しい」が4割台と最も多く、「持っている」と「持っていないけれど欲しくはない」はいずれも1割台から2割台となっています。



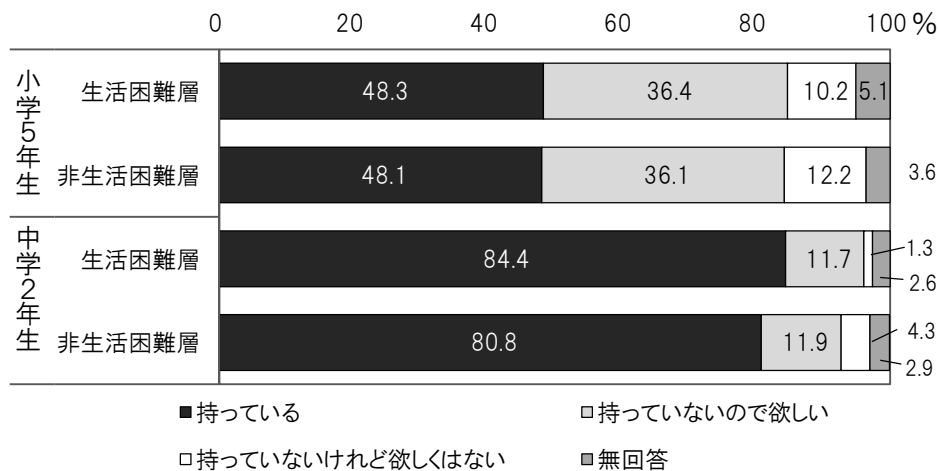
Ⅱ 子ども票

問2 あなたが持っているもの、使うことができるものを教えてください。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑤ 携帯電話・スマートフォン

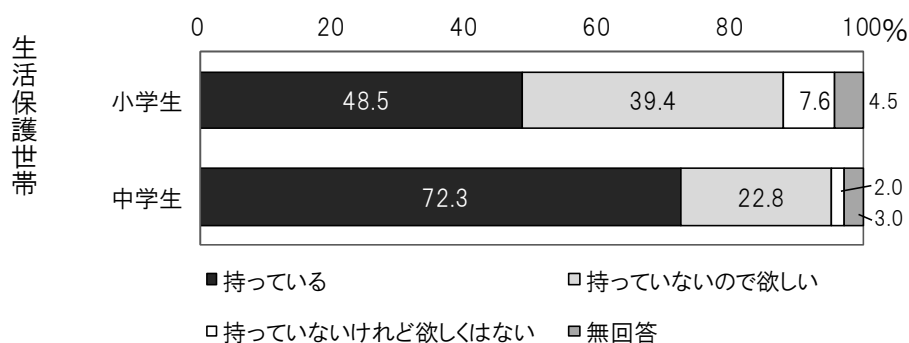
学校調査

携帯電話・スマートフォンについては、すべての対象で「持っている」が最も多くなっています。生活困難層・非生活困難層のいずれも、小学5年生では「持っている」が4割後半なのに対して、中学2年生では8割前半から半ばとなっており、生活困難層・非生活困難層間での傾向の違いは見られません。このことから、生活困難層においても、携帯電話・スマートフォンを子どもが持つことについて、重要視される傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「持っている」が4割台から7割台と最も多く、学年が上がると高くなっています。また、小学生では「持っていないので欲しい」が39.4%と、中学生の22.8%に比べて16.6ポイント高くなっています。

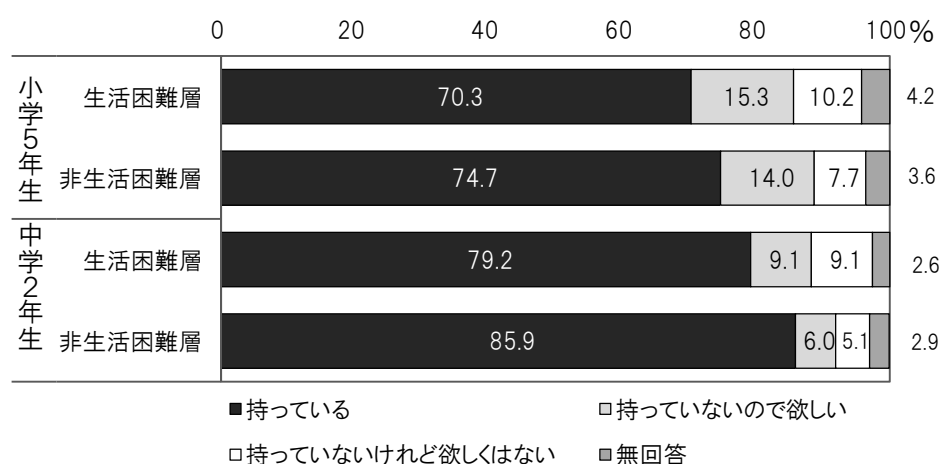


問2 あなたが持っているもの、使うことができるものを教えてください。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑥ 勉強机

学校調査

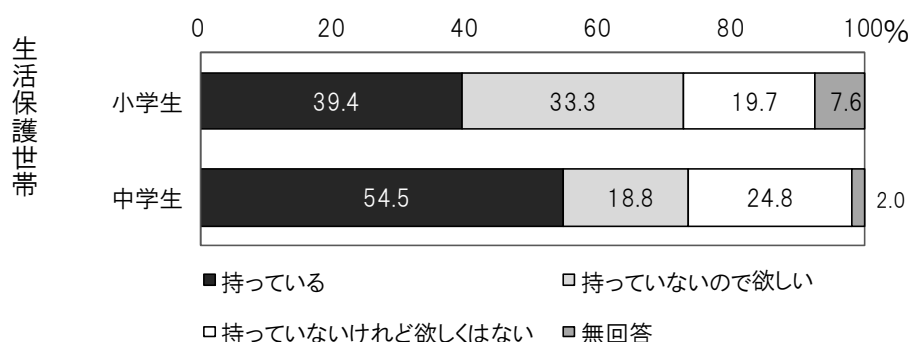
勉強机については、すべての対象で「持っている」が最も多くなっており、学年が上がると、生活困難層・非生活困難層のいずれも、割合が高くなっています。一方、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「持っている」が非生活困難層を下回っています。このことから、学年が上がると、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、勉強机の所有が重要視されているものの、生活困難層では非生活困難層と比べてやや所有割合が下回る傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「持っている」が3割台から5割台と最も多く、学年が上がると高くなっています。小学生では「持っていないので欲しい」が33.3%と、中学生の18.8%に比べて14.5ポイント高くなっています。また、小学生、中学生のいずれも、「持っていないけれど欲しくはない」が1割台から2割台となっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「持っている」が顕著に低くなっています。



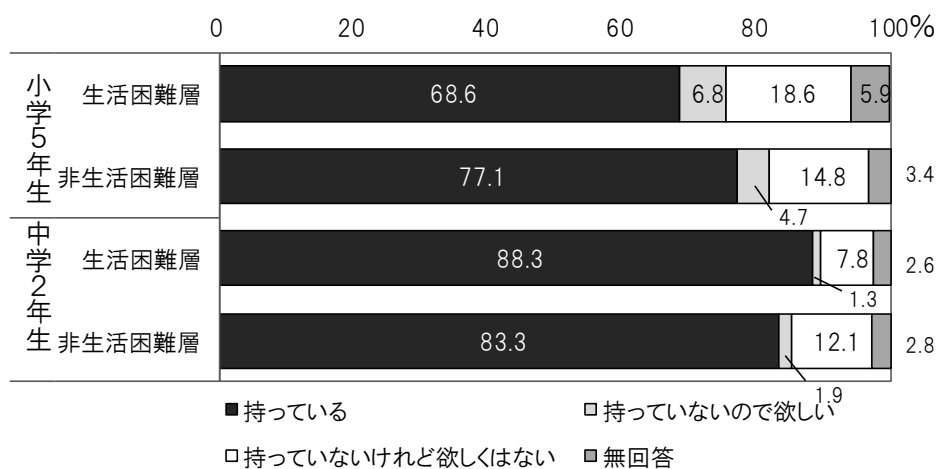
Ⅱ 子ども票

問2 あなたが持っているもの、使うことができるものを教えてください。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑦ スポーツ用品(バット、グローブ、ボール、運動ぐつ、ユニフォームなど)

学校調査

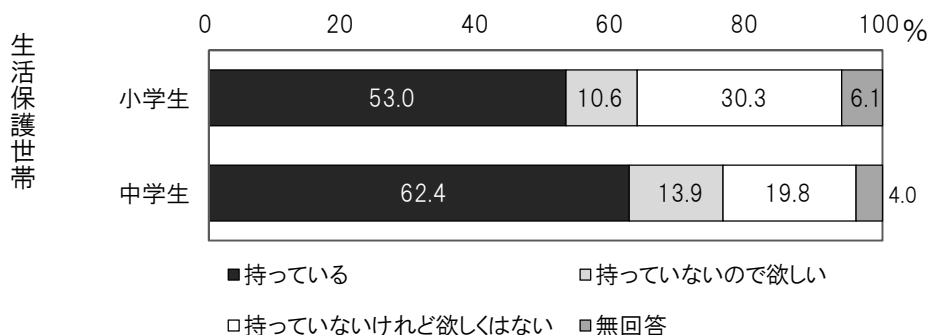
スポーツ用品については、すべての対象で「持っている」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では、「持っている」が68.6%と、非生活困難層を下回っている一方、中学2年生では、非生活困難層を上回っています。このことから、スポーツ用品については、小学5年生では生活困難層で所有割合が低いものの、中学2年生では生活困難層・非生活困難層間での差が見られず、学年が上がると所有が重要視される傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「持っている」が5割台から6割台と最も多く、学年が上がると高くなっています。また、小学生では「持っていないけれど欲しくはない」が30.3%と特に多くなっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「持っている」が顕著に低くなっています。

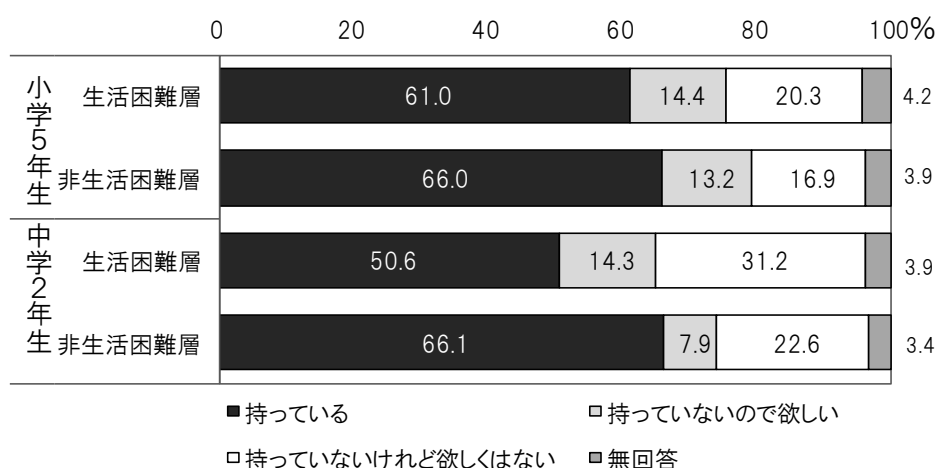


問2 あなたが持っているもの、使うことができるものを教えてください。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑧ ほとんどの友達が持っているおもちゃ・ゲーム機

学校調査

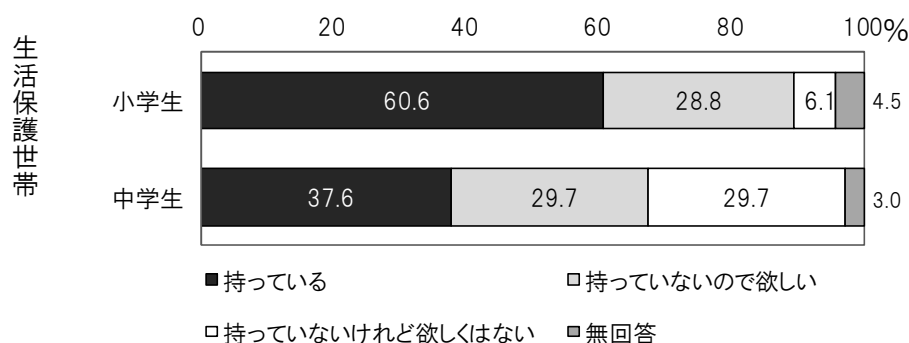
ほとんどの友だちが持っているおもちゃ・ゲーム機については、すべての対象で「持っている」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「持っている」について、非生活困難層を下回り、中学2年生では小学5年生よりも10.4ポイント低くなっています。また、中学2年生では「持っていないけれど欲しくはない」が31.2%と、非生活困難層に比べ特に高くなっています。このことから、ほとんどの友達を持っているおもちゃ・ゲーム機については、生活困難層では、学年が上がると所有割合は減少し、さらに、所有していなくとも欲しいとは思わない子どもの割合が多くなる傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「持っている」が3割台から6割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。小学生では「持っていないので欲しい」が3割弱となっていますが、中学生では「持っていないので欲しい」と「持っていないけれど欲しくはない」がいずれも3割弱となっています。

学校調査と比べると、特に中学生では、学校調査の中学2年生と比べて、所有割合は低くなっています。



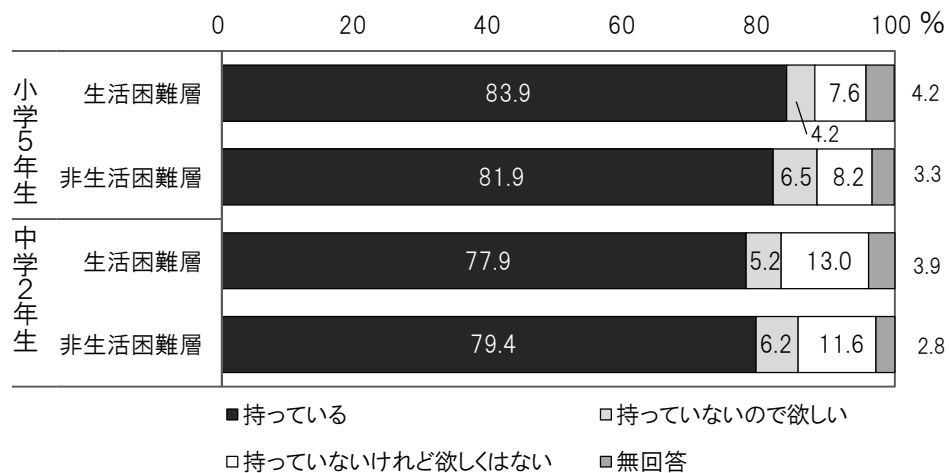
Ⅱ 子ども票

問2 あなたが持っているもの、使うことができるものを教えてください。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑨ 自分で選んだ服

学校調査

自分で選んだ服については、すべての対象で「持っている」が最も多く、対象ごとの大きな差はありません。また、「持っていないけれど欲しくはない」は、学年が上がると増加するものの、生活困難層・非生活困難層間での差はない状況です。このことから、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、自分で選んだ服を所有している子どもが多い傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「持っている」が6割台から7割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。中学生では「持っていないので欲しい」が20.8%と、小学生の13.6%に比べて7.2ポイント高くなっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、所有割合は低くなっています。

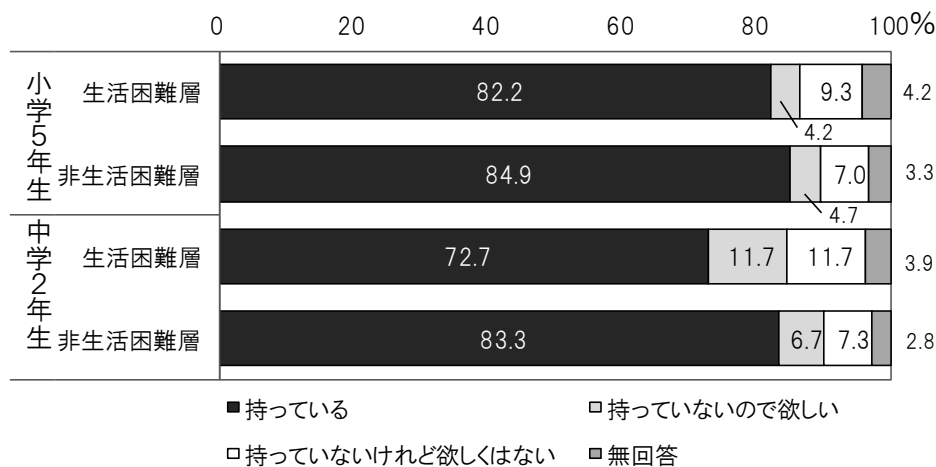


問2 あなたが持っているもの、使うことができるものを教えてください。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑩ 複数のくつ

学校調査

複数のくつについては、すべての対象で「持っている」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、中学2年生では「持っている」が72.7%と、非生活困難層に比べ10.6ポイント低く、「持っていないので欲しい」が11.7%と、非生活困難層に比べやや高くなっています。このことから、中学2年生では生活困難層で所有割合が低いものの、所有が希望される傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「持っている」が6割台から7割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、小学生、中学生いずれも、「持っていないので欲しい」が1割台から2割台、中学生では「持っていないけれど欲しくはない」が11.9%となっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、所有割合は低くなっています。



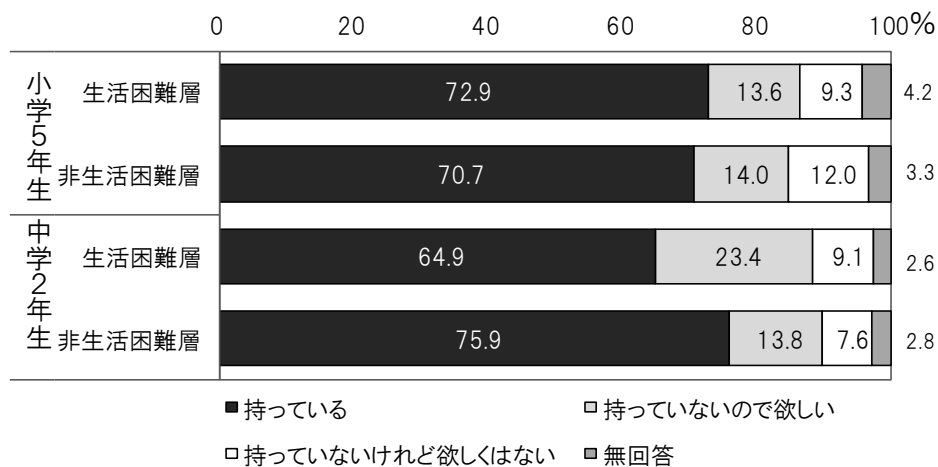
Ⅱ 子ども票

問2 あなたが持っているもの、使うことができるものを教えてください。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑪ おこづかい

学校調査

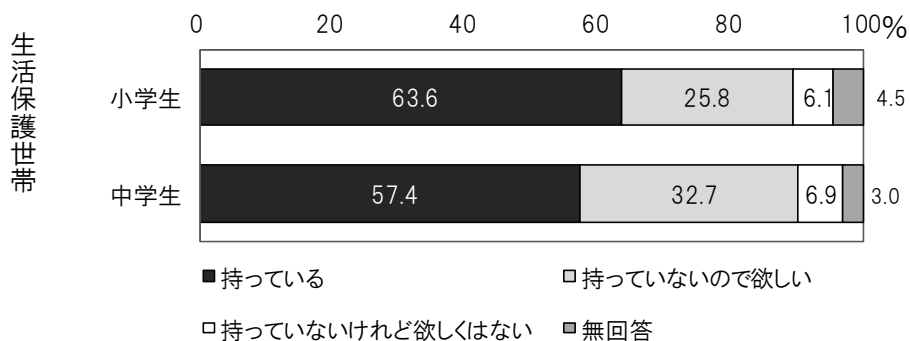
おこづかいについては、すべての対象で「持っている」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、中学2年生では、「持っている」で非生活困難層を下回っています。また、「持っていないので欲しい」が23.4%と、非生活困難層に比べ9.6ポイント高くなっています。このことから、学年が上がると、おこづかいをもらっている割合は生活困難層では非生活困難層よりも低く、特に生活困難層で欲しいと希望される傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「持っている」が5割台から6割台と最も多くなっています。また、小学生、中学生いずれも、「持っていないので欲しい」が2割台から3割台となっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、所有割合は低くなっています。

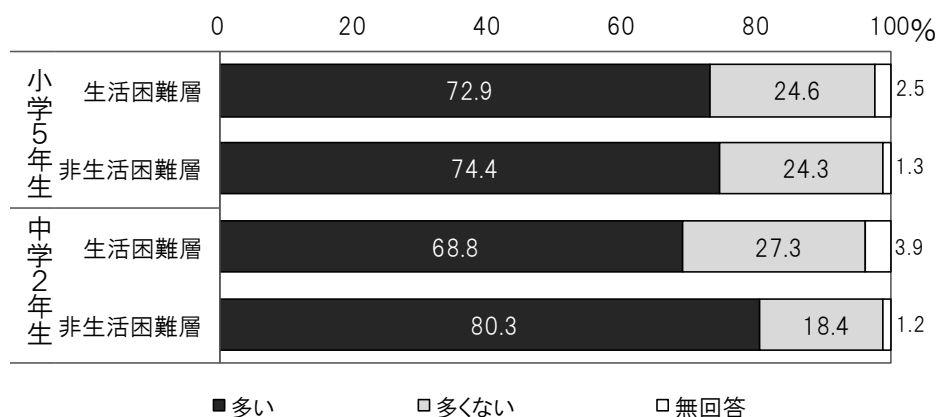


問3 あなたは、学校からの帰宅後は、どこでだれと過ごしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

① 自分の家で、家族と過ごす

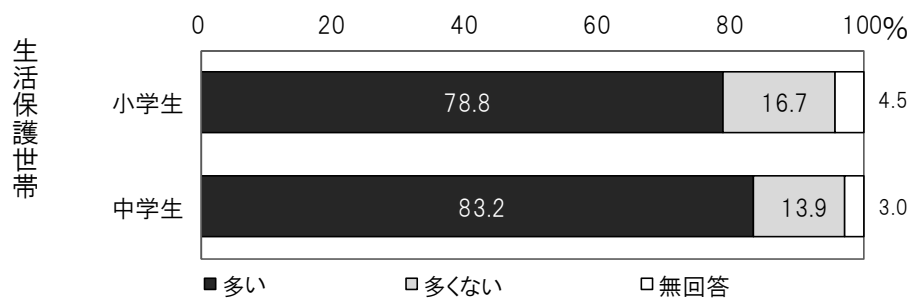
学校調査

自分の家で、家族と過ごすことが多いかについては、すべての対象で「多い」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、中学2年生では、「多い」が68.8%と、非生活困難層に比べ11.5ポイント低くなっています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多い」が7割台から8割台と、「多くない」を上回っており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。



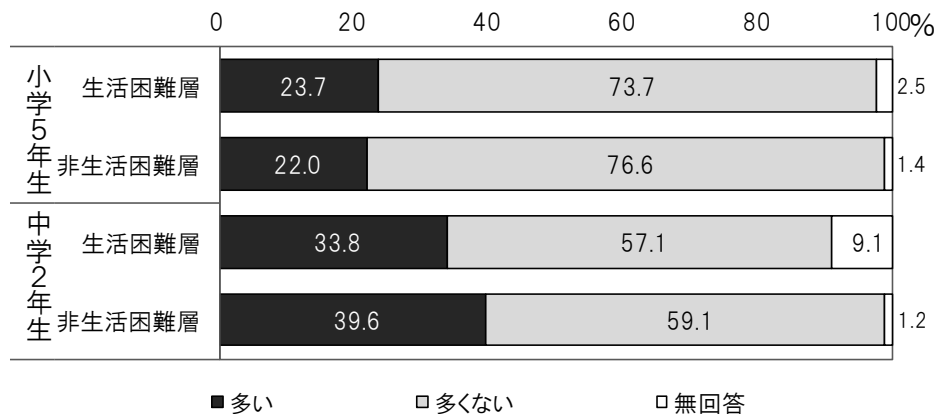
Ⅱ 子ども票

問3 あなたは、学校からの帰宅後は、どこでだれと過ごしていますか。（それぞれについて、○はひとつだけ）

② 自分の家で、ひとりで過ごす

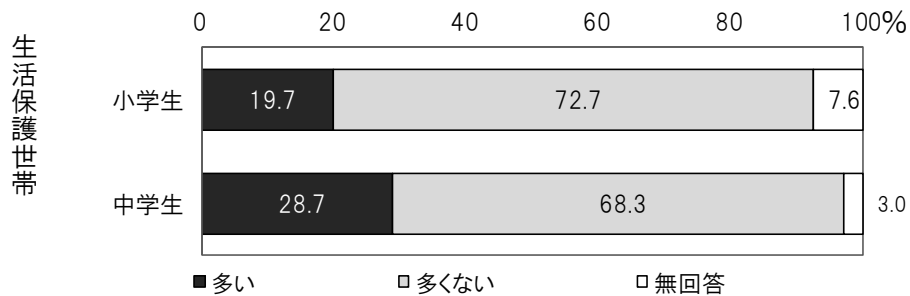
学校調査

自分の家で、ひとりで過ごすことが多いかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。生活困難層、非生活困難層のいずれも、学年が上がると「多い」の割合が高くなっています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が6割台から7割台と、「多い」を上回っています。また、中学生では「多い」が28.7%となっています。

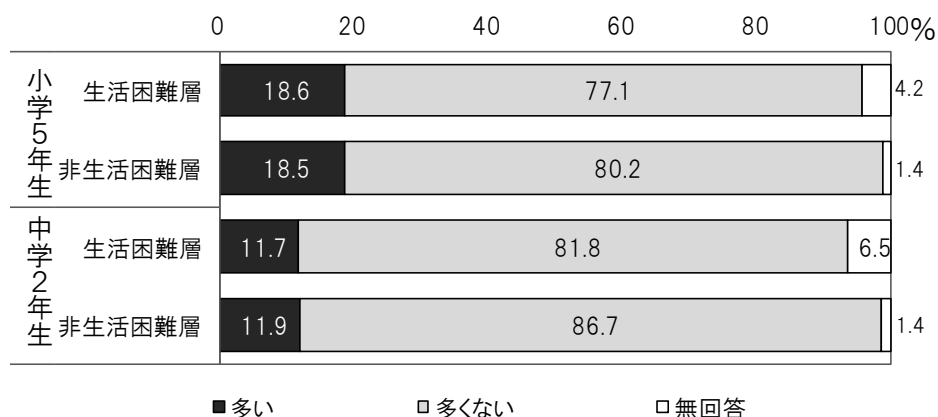


問3 あなたは、学校からの帰宅後は、どこでだれと過ごしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

③ 自分の家以外の家(親せき・友達)で過ごす

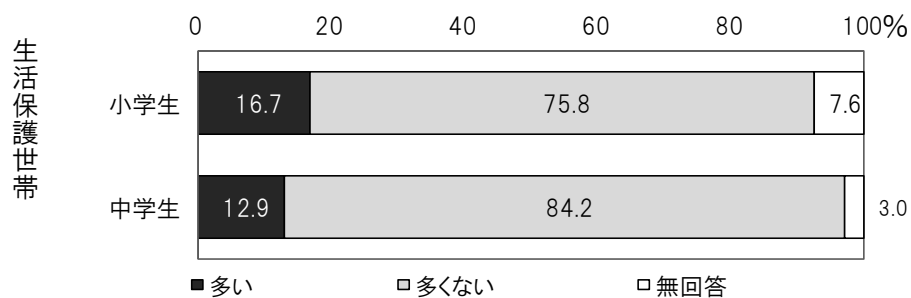
学校調査

自分の家以外の家(親せき・友達)で過ごすことが多いかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。また、生活困難層、非生活困難層のいずれも、学年が上がると「多い」の割合は低下する傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が7割台から8割台と、「多い」を上回っています。



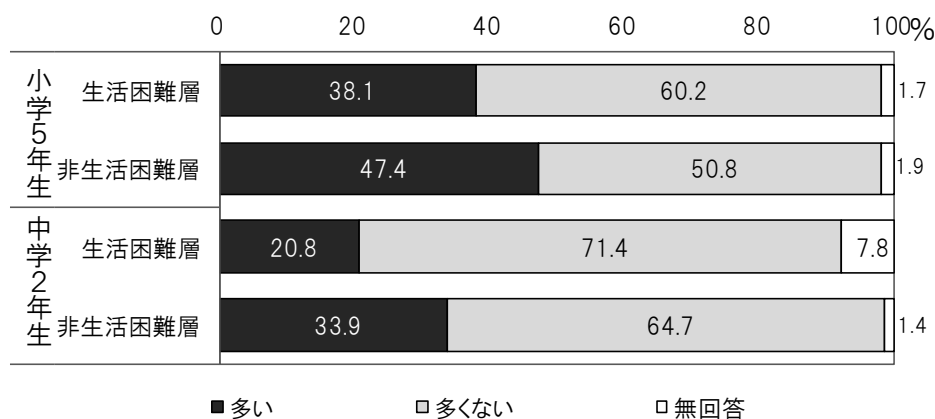
Ⅱ 子ども票

問3 あなたは、学校からの帰宅後は、どこでだれと過ごしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

④ 習い事(スポーツ・音楽・習字・英語など)で先生や友達と過ごす

学校調査

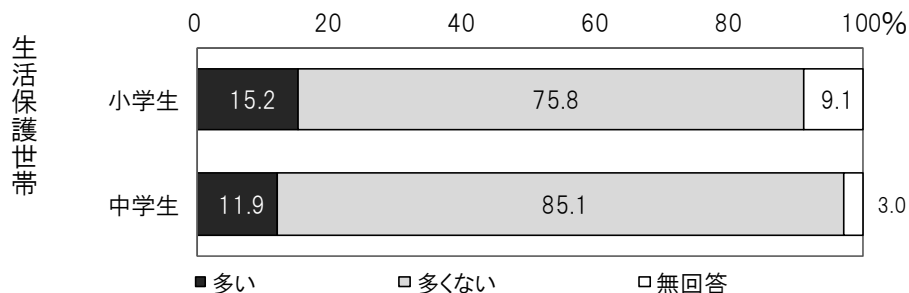
習い事(スポーツ・音楽・習字・英語など)で先生や友達と過ごすことが多いかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では60.2%と、非生活困難層に比べ9.4ポイント高く、中学2年生では71.4%と、非生活困難層に比べ6.7ポイント高くなっています。このことから、学年が上がると、生活困難層・非生活困難層のいずれも「多い」の割合は低下し、特に生活困難層で顕著となっています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が7割台から8割台と、「多い」を上回っており、学年が上がると高くなっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「多い」が顕著に低くなっています。

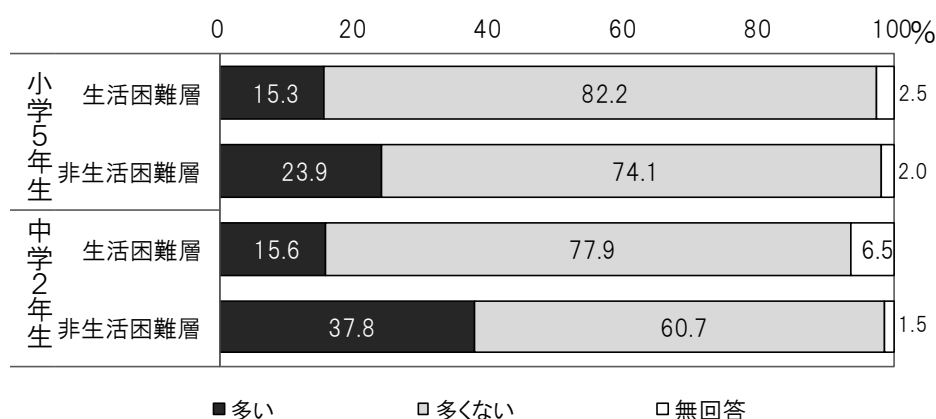


問3 あなたは、学校からの帰宅後は、どこでだれと過ごしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑤ 学習塾で先生や友達と過ごす

学校調査

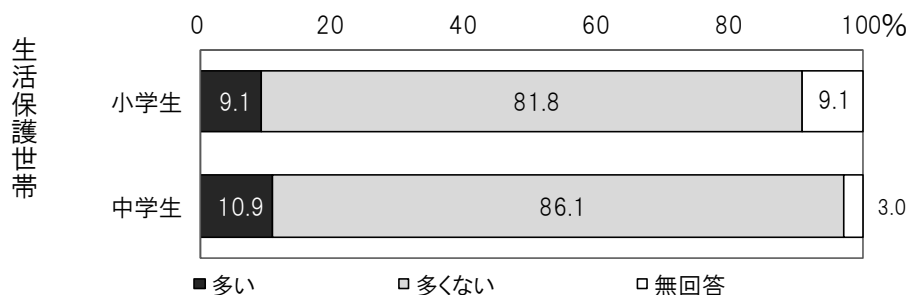
学習塾で先生や友達と過ごすことが多いかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では82.2%と、非生活困難層に比べ8.1ポイント高く、中学2年生では77.9%と、非生活困難層に比べ17.2ポイント高くなっています。学年が上がると、「多い」が非生活困難層では増加するものの、生活困難層ではほとんど変化していないことから、学習塾で先生や友達と過ごす機会が、学年が上がっても生活困難層では獲得できていない傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が8割台と、「多い」を上回っており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「多い」が顕著に低くなっています。



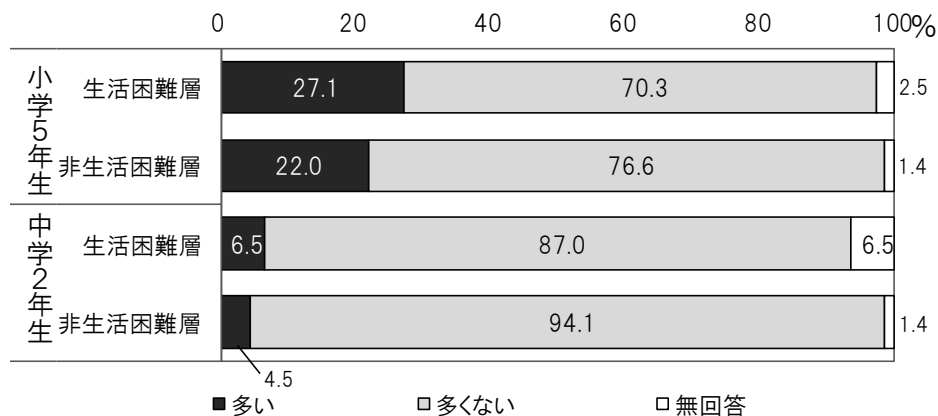
Ⅱ 子ども票

問3 あなたは、学校からの帰宅後は、どこでだれと過ごしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑥ 公園や児童館・児童センター、図書館で友達などと過ごす

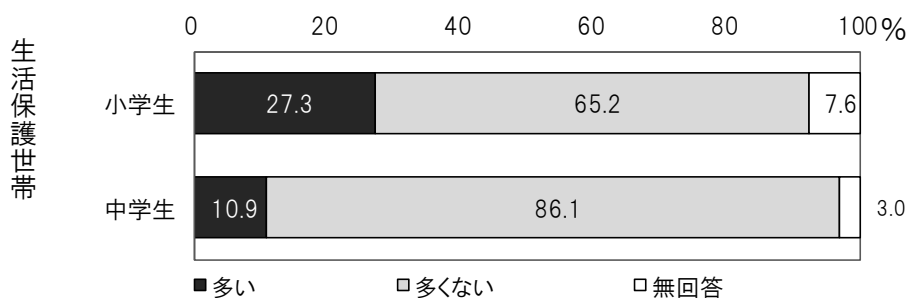
学校調査

公園や児童館・児童センター、図書館で友達などと過ごすことが多いかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、「多い」については、小学5年生で非生活困難層を上回っている一方、生活困難層、非生活困難層のいずれも、学年が上がると割合が減少しており、中学2年生では生活困難層・非生活困難層間での傾向の違いは見られません。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が6割台から8割台と、「多い」を上回っています。また、小学生では「多い」が27.3%と、中学生の10.9%に比べて16.4ポイント高くなっています。

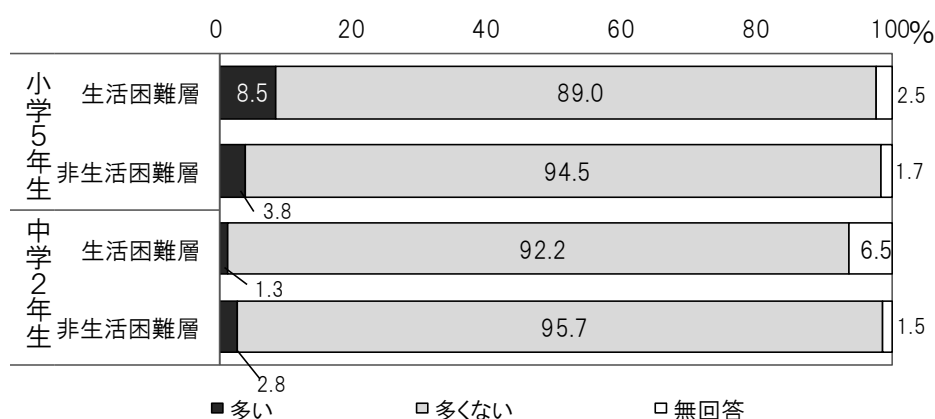


問3 あなたは、学校からの帰宅後は、どこでだれと過ごしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑦ 公園や児童館・児童センター、図書館でひとりで過ごす

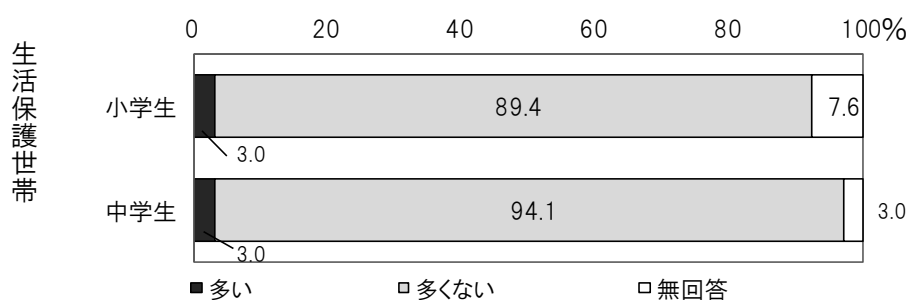
学校調査

公園や児童館・児童センター、図書館でひとりで過ごすことが多いかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、「多い」については、小学5年生では8.5%と、非生活困難層と比べてやや高くなっています。公園や児童館・児童センター、図書館で過ごす頻度は、「問3⑥ 友達などと」においても、生活困難層の小学5年生で非生活困難層と比べて「多い」の割合が高く、「ひとりで」の場合も同様の傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が8割台から9割台と、「多い」を上回っており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。



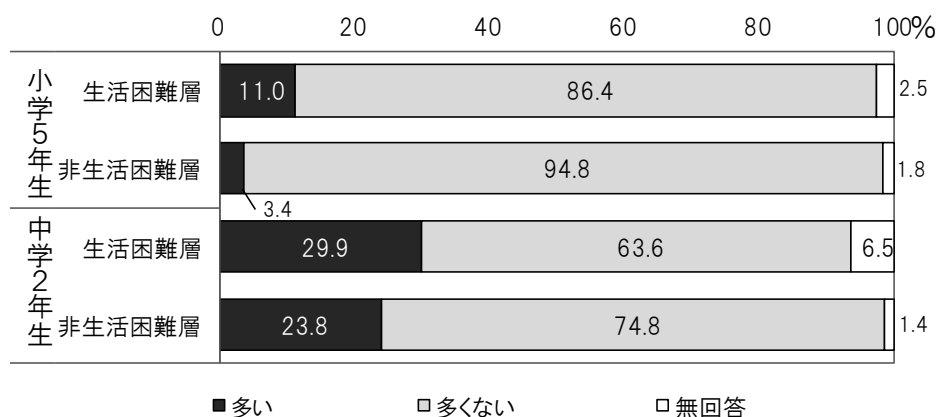
Ⅱ 子ども票

問3 あなたは、学校からの帰宅後は、どこでだれと過ごしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑧ ショッピングセンターやファストフード店で友達などと過ごす

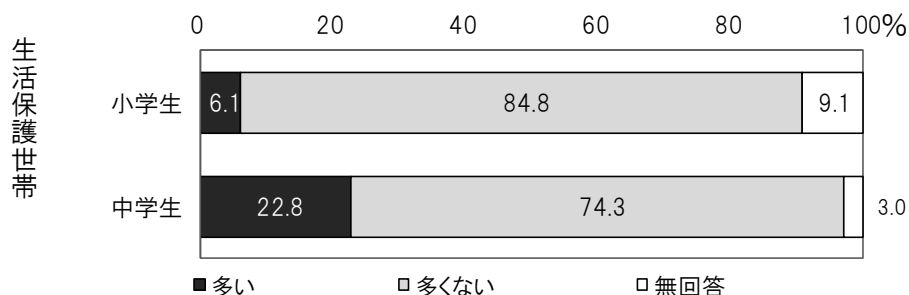
学校調査

ショッピングセンターやファストフード店で友達などと過ごすことが多いかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、「多い」が小学5年生では11.0%と、非生活困難層に比べ7.6ポイント高く、中学2年生では29.9%と、非生活困難層に比べ6.1ポイント高くなっています。生活困難層・非生活困難層のいずれも、学年が上がると割合が増加し、特に中学2年生では、ショッピングセンターやファストフード店で友達などと過ごすことが多い子どもが3割弱いることがわかります。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が7割台から8割台と、「多い」を上回っています。また、中学生では「多い」が22.8%と、小学生の6.1%に比べて多く、16.7ポイント高くなっています。

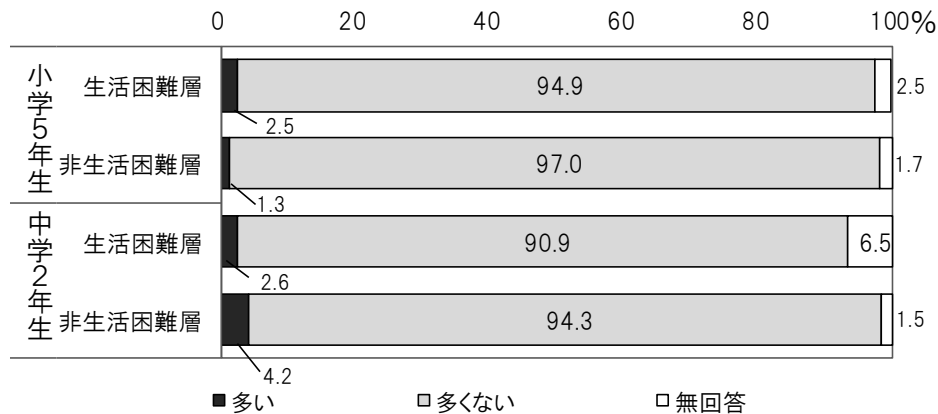


問3 あなたは、学校からの帰宅後は、どこでだれと過ごしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑨ ショッピングセンターやファストフード店でひとりで過ごす

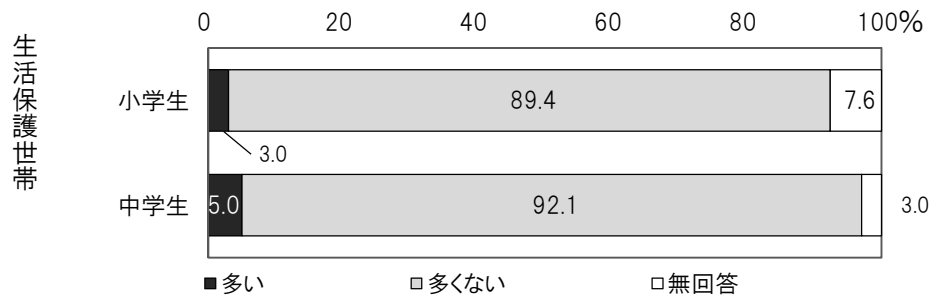
学校調査

ショッピングセンターやファストフード店でひとりで過ごすことが多いかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。対象ごとの差はなく、生活困難層・非生活困難層間での傾向の違いは見られません。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が8割台から9割台と、「多い」を上回っており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。



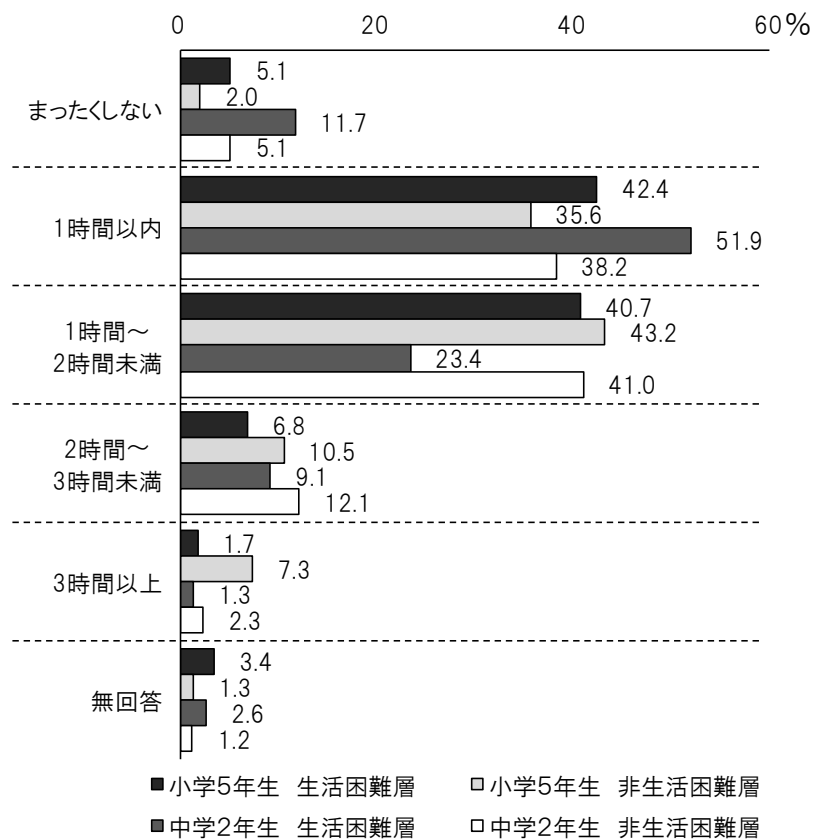
Ⅱ 子ども票

問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

① 勉強や宿題をする

学校調査

学校からの帰宅後、勉強や宿題をする時間については、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「1時間以内」が4割前半から5割前半と最も多く、非生活困難層を上回っています。また、中学2年生では、「まったくしない」が11.7%と高いほか、「1時間以内」が51.9%と、非生活困難層と比べ13.7ポイント高くなっています。このことから、非生活困難層と比べて生活困難層では勉強する時間が少ない傾向が見られ、特に中学2年生において顕著となっています。

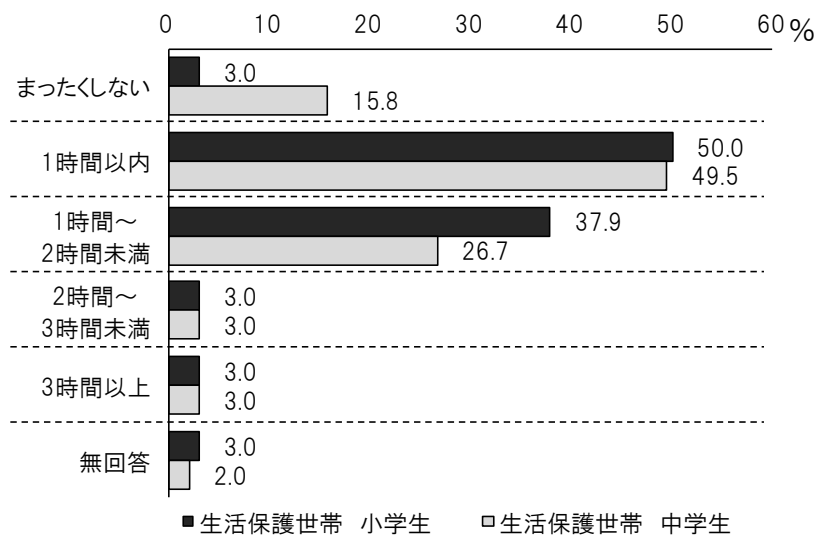


問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

① 勉強や宿題をする

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「1時間以内」が4割台から5割と最も多くなっています。また、小学生では「1時間～2時間未満」が37.9%と、中学生の26.7%に比べて11.2ポイント、中学生では「まったくしない」が15.8%と、小学生の3.0%に比べて12.8ポイント高くなっています。



Ⅱ 子ども票

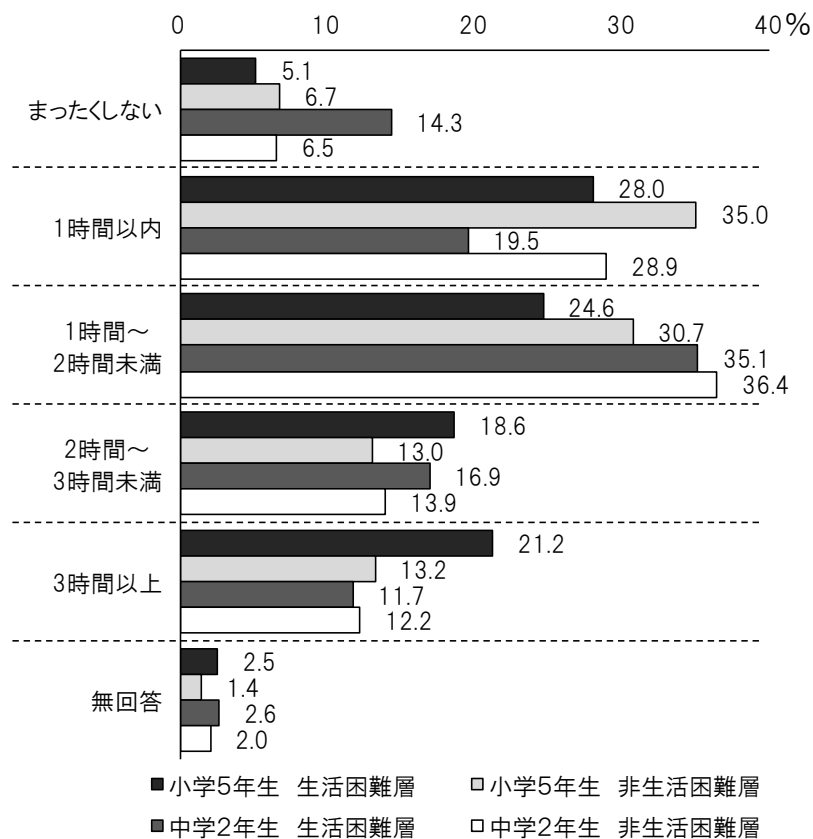
問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

② テレビやDVDを見る

学校調査

学校からの帰宅後、テレビやDVDを見る時間については、生活困難層に着目すると、小学5年生では「1時間以内」が28.0%、中学2年生では「1時間～2時間未満」が35.1%で最も多くなっています。小学5年生では、「2時間～3時間未満」「3時間以上」でともに非生活困難層を上回り、2時間以上の合計は39.8%と、非生活困難層と比べて13.6ポイント高くなっています。一方、中学2年生では、「まったくしない」が14.3%と、非生活困難層と比べて7.8ポイント高いほか、「1時間以内」についても非生活困難層と比べて9.4ポイント低くなっています。

このことから、生活困難層では、非生活困難層と比べて、小学5年生ではテレビやDVDの視聴時間が長い傾向が見られる一方、中学2年生では視聴時間が短い傾向が見られます。

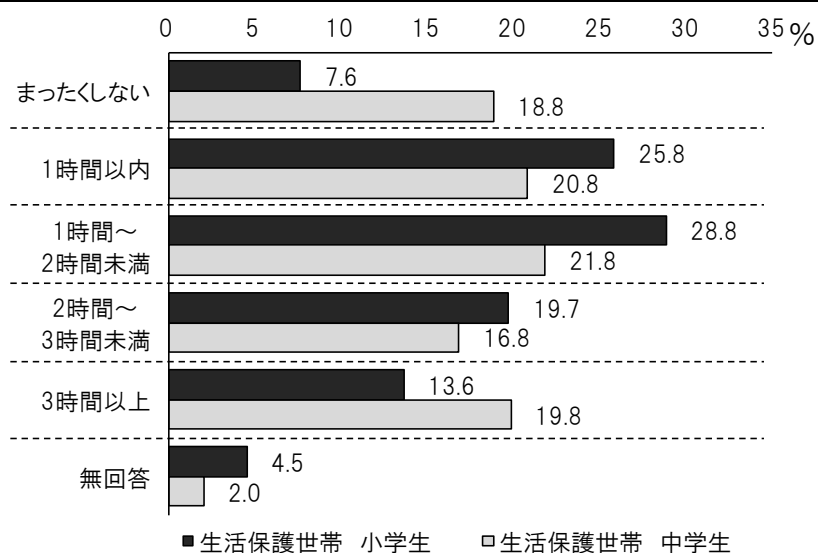


問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

② テレビやDVDを見る

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「1時間～2時間未満」が最も多く、次いで「1時間以内」となっています。また、中学生では「まったくしない」が18.8%と、小学生の7.6%に比べて11.2ポイント多くなっています。



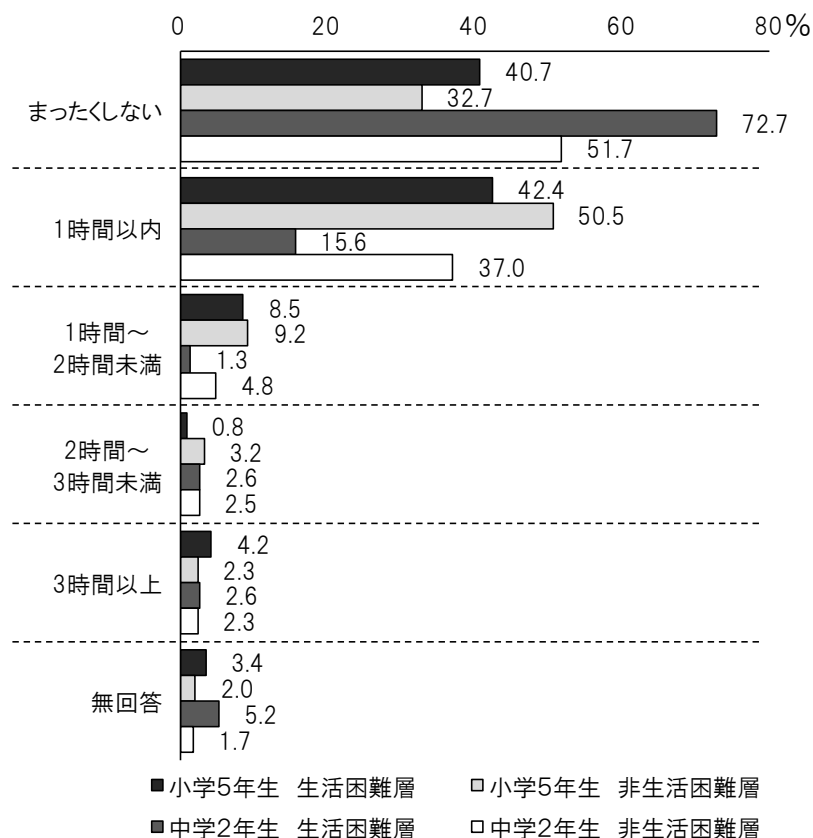
Ⅱ 子ども票

問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

③ 家で本(マンガはのぞく)を読む

学校調査

学校からの帰宅後、家で本（マンガはのぞく）を読む時間については、生活困難層に着目すると、小学5年生では「1時間以内」が42.4%で最も多く、非生活困難層と比べて8.1ポイント低くなっています。また、「まったくしない」が40.7%と、非生活困難層に比べて8.0ポイント高くなっています。さらに、中学2年生では、「まったくしない」が72.7%と、非生活困難層と比べて21.0ポイント高くなっています。生活困難層・非生活困難層のいずれも学年が上がると本を読む時間が少なくなる傾向が見られます。また、生活困難層では、非生活困難層に比べて本を読む時間が短い傾向が見られ、中学2年生の生活困難層では大半が本を読んでいないことがわかります。

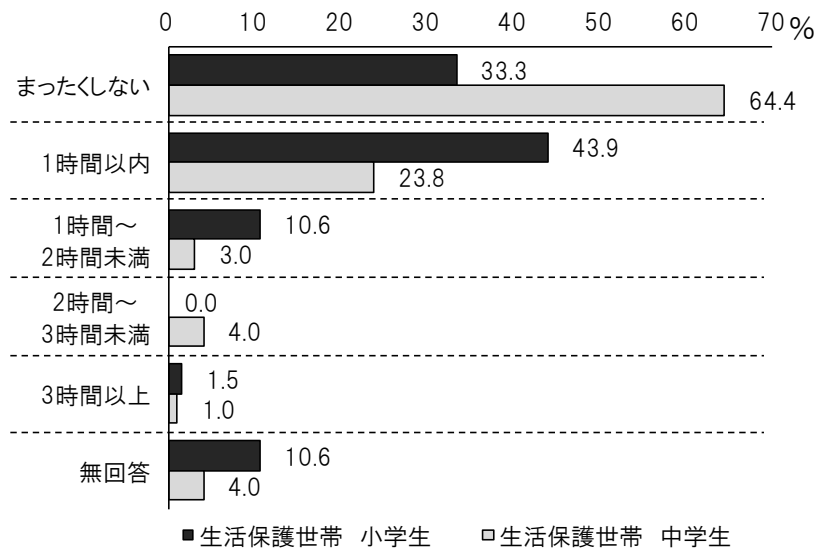


問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

③ 家で本(マンガはのぞく)を読む

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「1時間以内」が43.9%、中学生では「まったくしない」が64.4%と、最も多くなっています。学年別に見ると、小学生では家で本(マンガはのぞく)を読む割合が高く、「1時間以内」「1時間～2時間未満」のいずれでも中学生を上回っています。



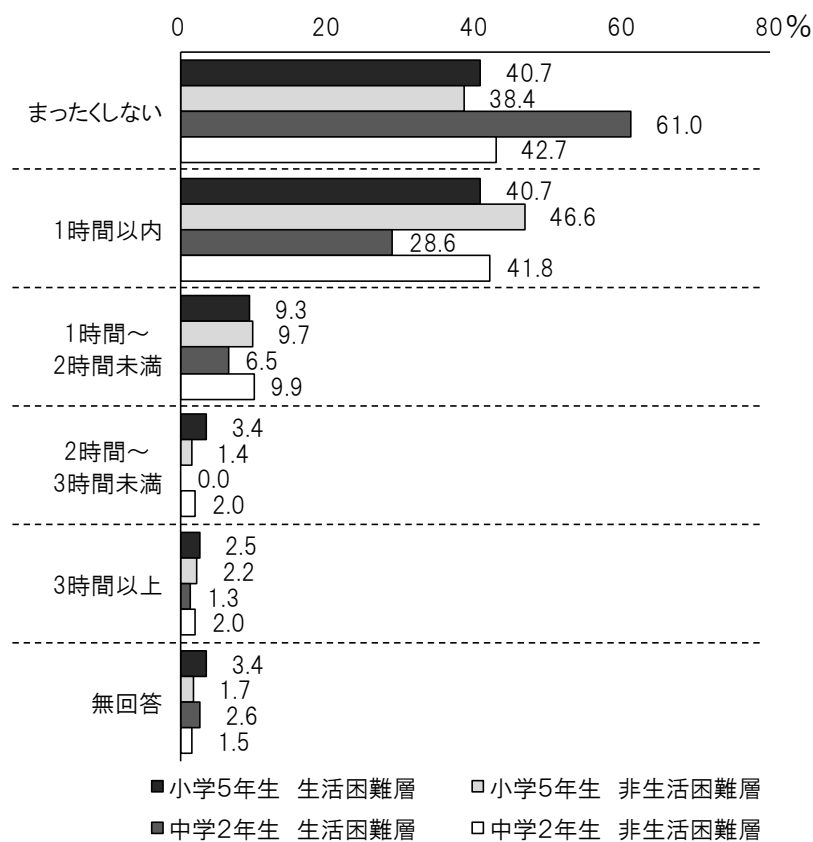
Ⅱ 子ども票

問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

④ 家でマンガや雑誌を読む

学校調査

学校からの帰宅後、家でマンガや雑誌を読む時間については、生活困難層に着目すると、小学5年生では「まったくしない」と「1時間以内」が40.7%で最も多く、「1時間以内」は非生活困難層と比べて5.9ポイント低くなっています。また、中学2年生では「まったくしない」が61.0%で最も多く、非生活困難層と比べて18.3ポイント高くなっています。生活困難層・非生活困難層のいずれも、学年が上がると「まったくしない」の割合が多くなり、中学2年生の生活困難層では大半がマンガや雑誌を読んでいないことがわかります。

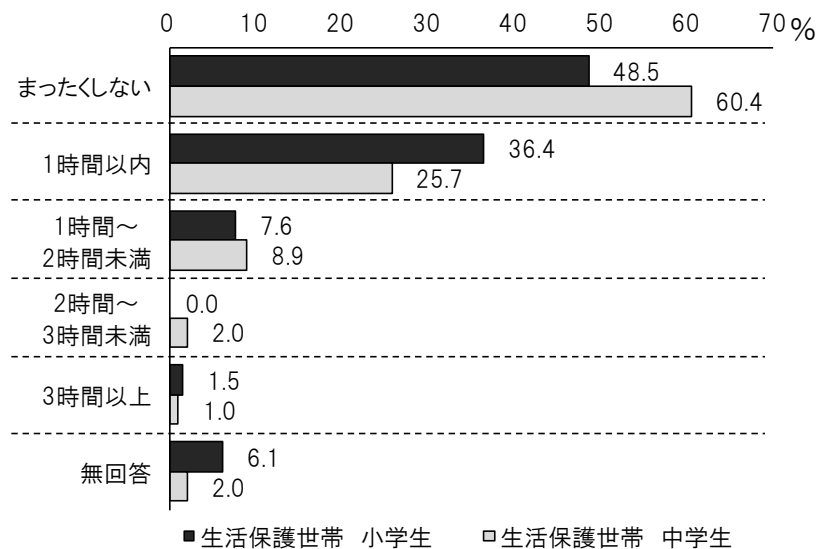


問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

④ 家でマンガや雑誌を読む

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「まったくしない」が4割台から6割台と最も多く、次いで「1時間以内」が2割台から3割台となっています。学年別に見ると、小学生では「まったくしない」「無回答」を除いた合計が45.5%と中学生に比べて7.9ポイント高くなっており、時間は中学生よりも短いものの、家でマンガや雑誌を読んでいる傾向が見られます。



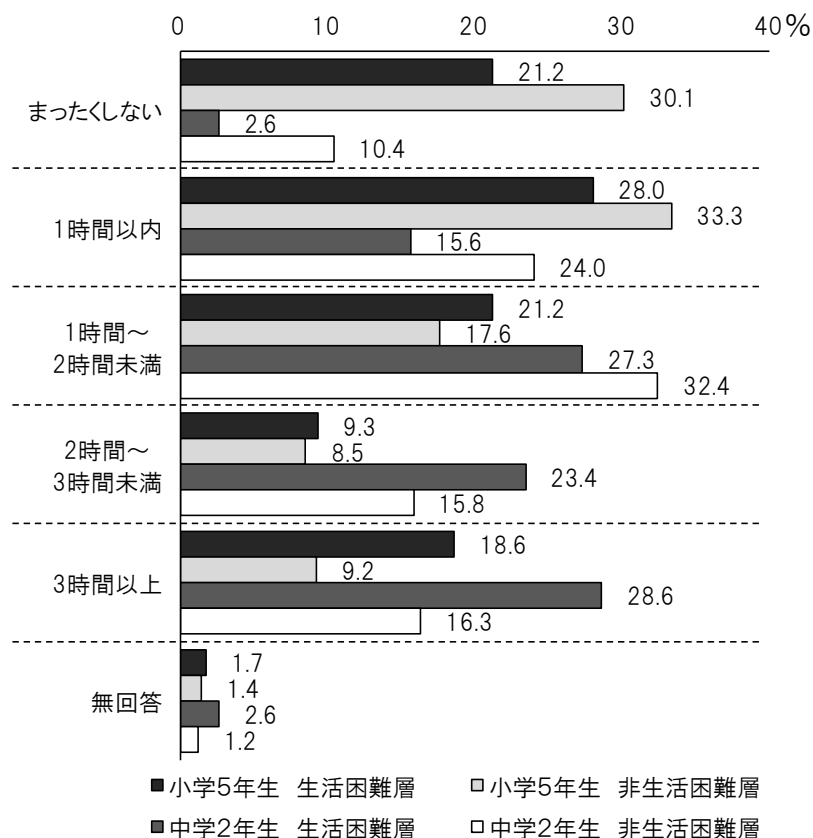
Ⅱ 子ども票

問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑤ パソコン・スマホでインターネットやゲームをする

学校調査

学校からの帰宅後、パソコン・スマホでインターネットやゲームをする時間については、生活困難層に着目すると、小学5年生では「1時間以内」が28.0%で最も多くなっています。また、「3時間以上」が18.6%と、非生活困難層と比べて9.4ポイント高くなっています。中学2年生では、「3時間以上」が28.6%で最も多く、非生活困難層と比べて12.3ポイント高くなっています。また、「2時間～3時間未満」は23.4%で非生活困難層と比べて7.6ポイント高くなっており、非生活困難層に比べて生活困難層ではインターネットやゲームをしている時間が長い傾向にあることがわかります。また、「まったくしない」の割合が生活困難層・非生活困難層のいずれも学年が上がると大幅に少なくなる傾向が見られます。

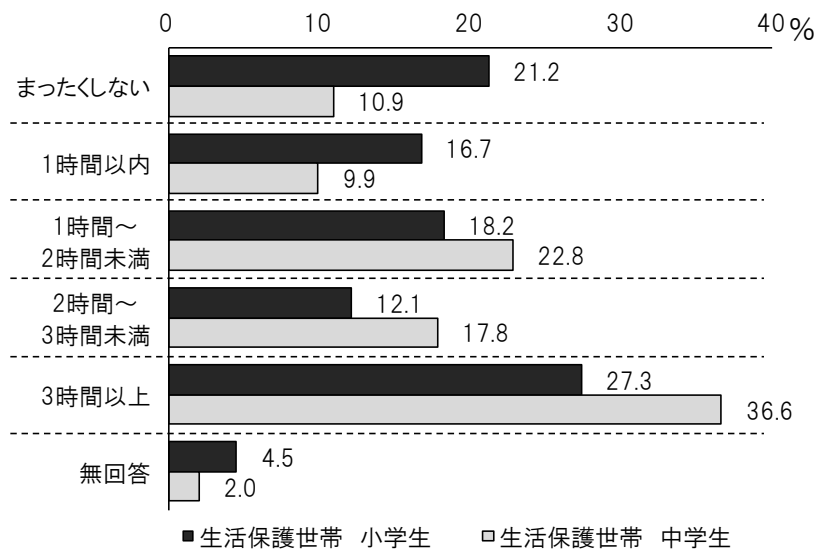


問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑤ パソコン・スマホでインターネットやゲームをする

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「3時間以上」が2割台から3割台と最も多く、学年が上がると高くなっています。また、小学生では「まったくしない」が21.2%と、中学生に比べて10.3ポイント高く、「1時間以内」が16.7%と、中学生に比べて6.8ポイント高くなっており、学年別に見ると、中学生でパソコン・スマホでインターネットやゲームをする時間が長い傾向にあります。



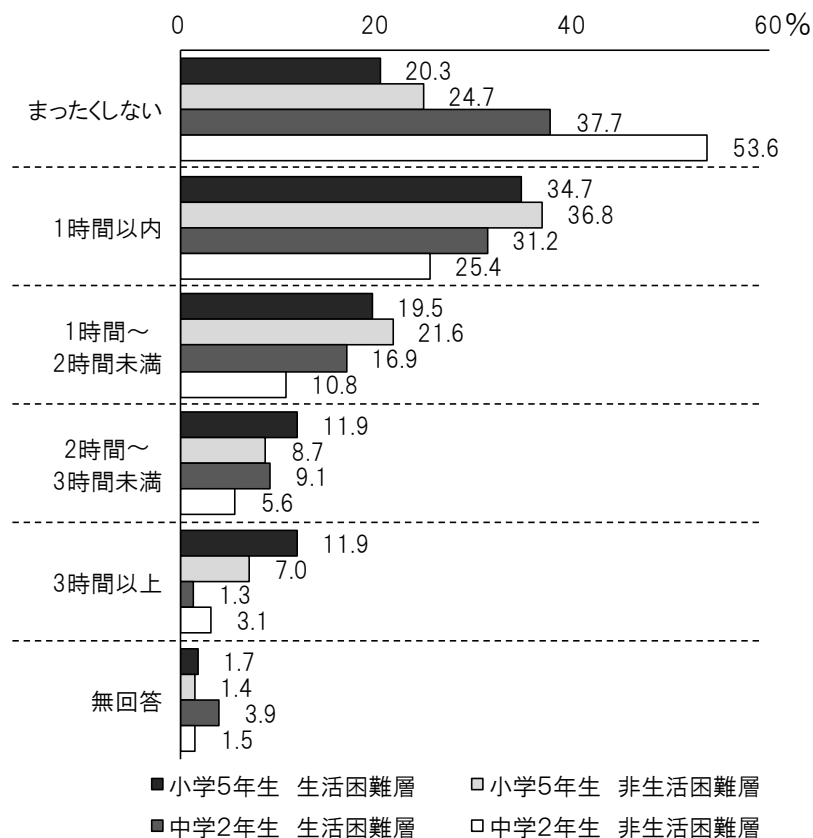
Ⅱ 子ども票

問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑥ 公園や校庭で体を動かす

学校調査

学校からの帰宅後、公園や校庭で体を動かす時間については、生活困難層に着目すると、小学5年生では「1時間以内」が34.7%で最も多く、「まったくしない」と「無回答」を除いた合計割合は78.0%と、非生活困難層をやや上回っています。また、中学2年生の生活困難層では、「まったくしない」が非生活困難層と比べて15.9ポイント低く、「まったくしない」と「無回答」を除いた合計割合は58.5%と、非生活困難層と比べて13.6ポイント高くなっています。このことから、生活困難層では放課後に公園や校庭で体を動かして過ごしている機会・時間が、非生活困難層に比べて、特に中学2年生で多い傾向が見られます。

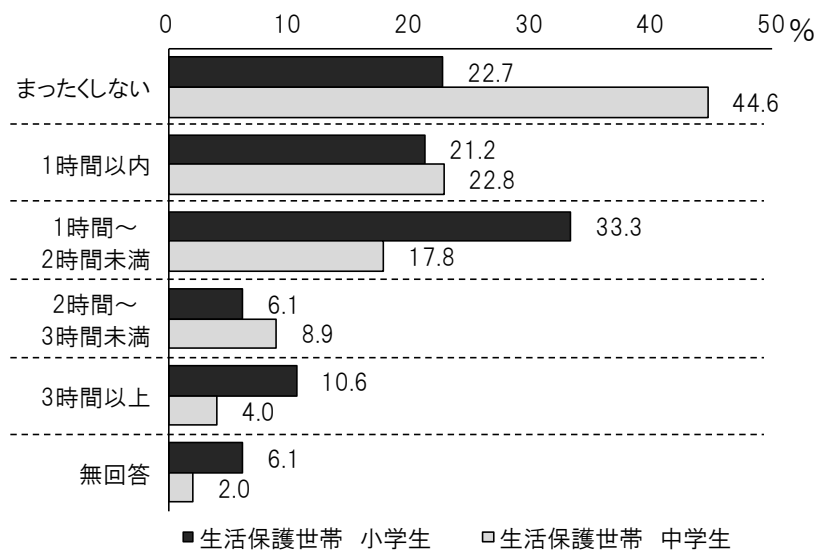


問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑥ 公園や校庭で体を動かす

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「1時間～2時間未満」が33.3%、中学生では「まったくしない」が44.6%と最も多くなっています。また、小学生では「3時間以上」が10.6%となっています。



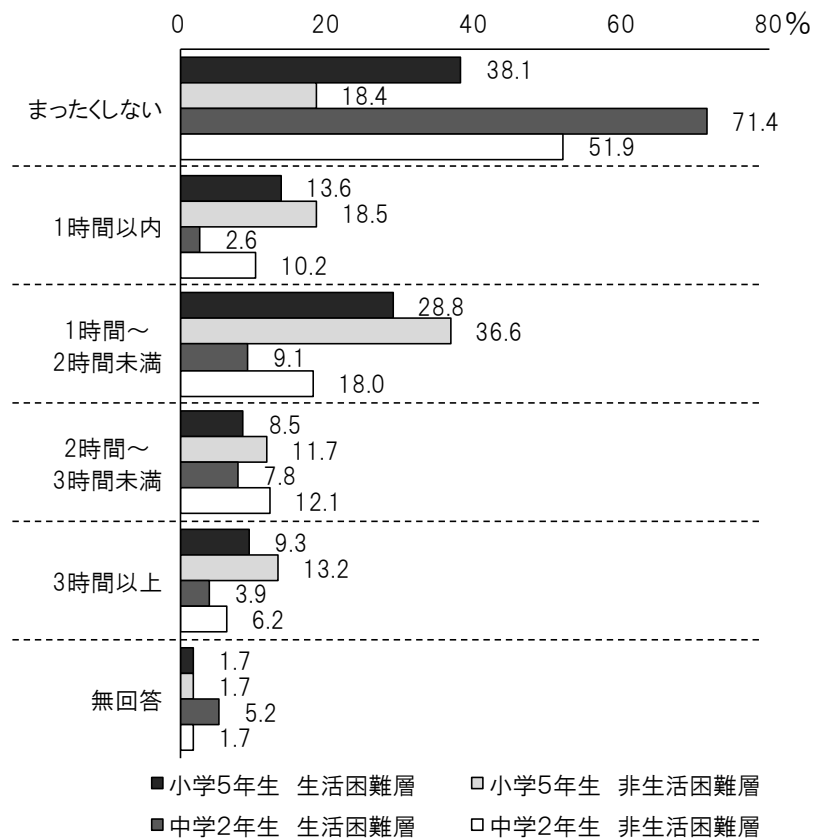
Ⅱ 子ども票

問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑦ 習い事(スポーツ・音楽・習字・英語など)に行く

学校調査

学校からの帰宅後、習い事(スポーツ・音楽・習字・英語など)に行く時間については、生活困難層に着目すると、「まったくしない」が小学5年生では38.1%、中学2年生では71.4%と、いずれの学年も最も多く、非生活困難層と比べて19ポイント以上高くなっています。このことから、生活困難層は非生活困難層と比べて習い事をする機会が少なく、学年が上がるとその傾向がより顕著に見られます。



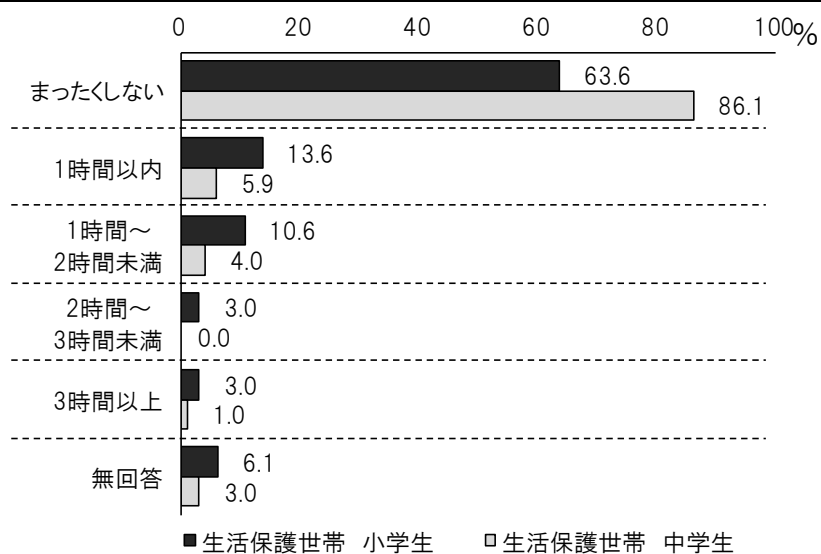
問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑦ 習い事(スポーツ・音楽・習字・英語など)に行く

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「まったくしない」が6割台から8割台と最も多くなっています。また、小学生では「1時間以内」が13.6%、「1時間～2時間未満」が10.6%と、いずれも中学生を上回り1割を超えています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「まったくしない」が顕著に多くなっています。



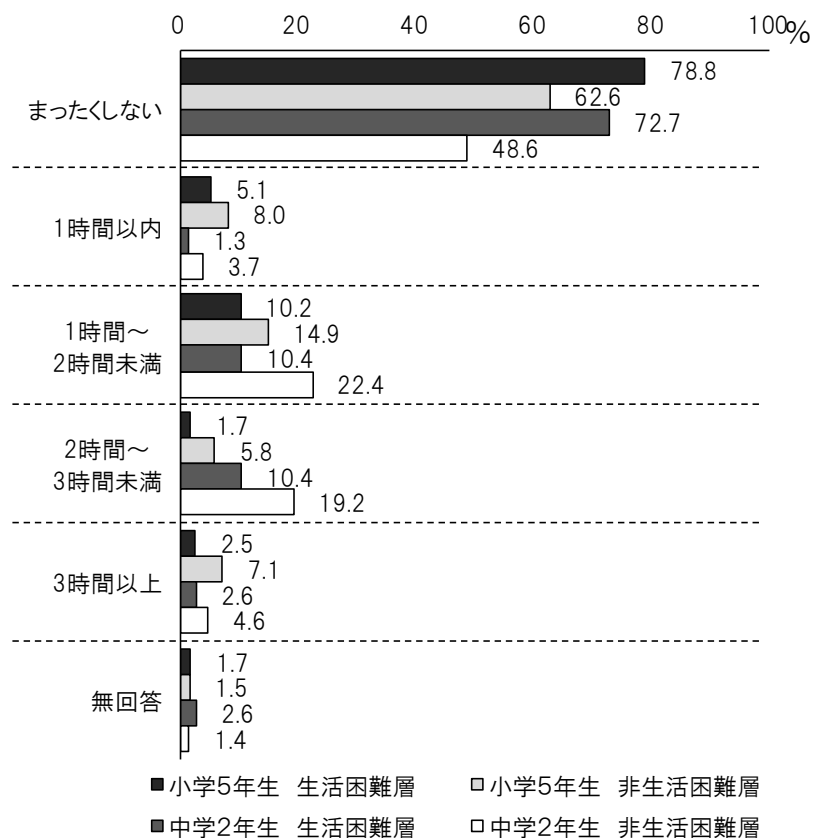
Ⅱ 子ども票

問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑧ 学習塾に行く

学校調査

学校からの帰宅後、学習塾に行く時間については、生活困難層に着目すると、小学5年生では「まったくしない」が78.8%で最も多く、非生活困難層と比べて16.2ポイント高くなっています。また、中学2年生では、「まったくしない」が72.7%で最も多く、非生活困難層と比べて24.1ポイント高くなっています。非生活困難層では、「まったくしない」の割合は学年が上がると減少し、中学2年生では「1時間～2時間未満」や「2時間～3時間未満」が約2割となっています。一方、生活困難層では、「まったくしない」の割合は学年が上がっても大きな変化は見られません。このことから、生活困難層と非生活困難層で勉強する機会に差が生じており、学年が上がるとその差が拡大する傾向が見られます。

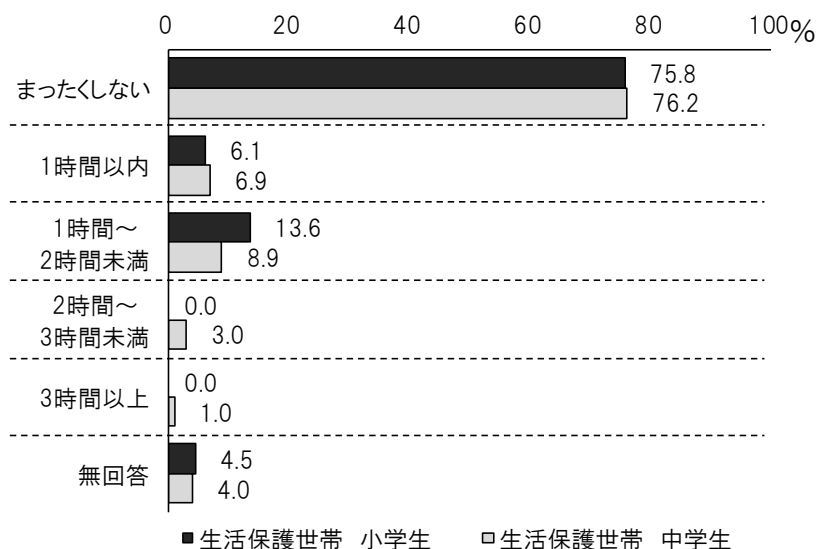


問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑧ 学習塾に行く

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「まったくしない」が7割台と最も多くなっています。また、小学生では「1時間～2時間未満」が13.6%となっています。



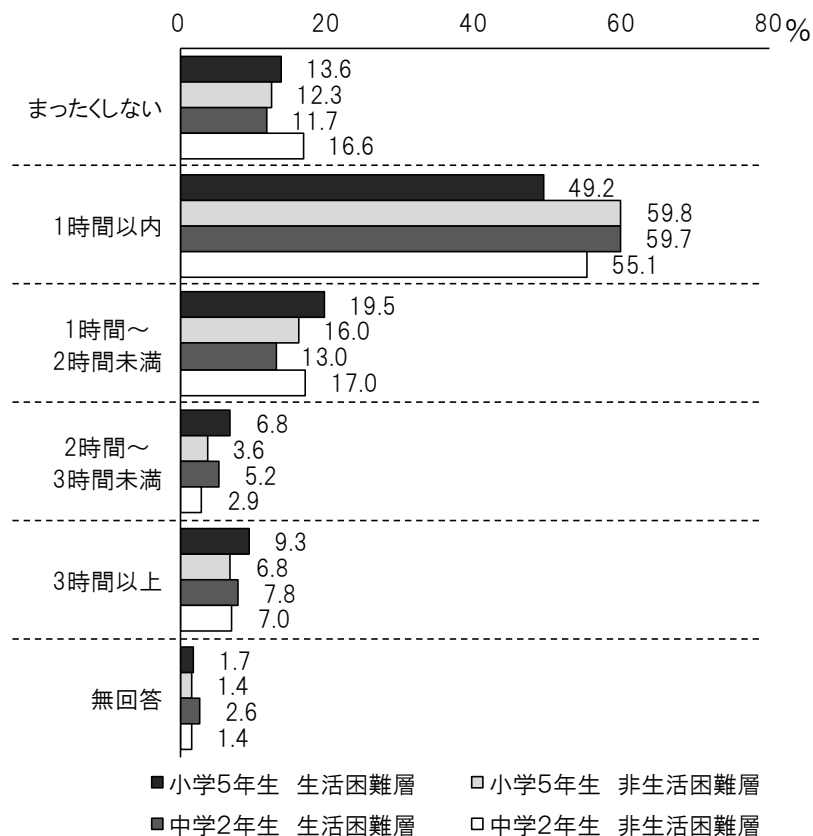
Ⅱ 子ども票

問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑨ 家族と話したり、家の手伝いをする

学校調査

学校からの帰宅後、家族と話したり、家の手伝いをする時間については、生活困難層に着目すると、小学5年生では「1時間以内」が49.2%で最も多く、非生活困難層と比べて10.6ポイント低くなっています。一方、「1時間～2時間未満」から「3時間以上」では非生活困難層と比べて高くなっています。また、中学2年生では、「1時間以内」が59.7%で最も多く、非生活困難層に比べて4.6ポイント高くなっています。

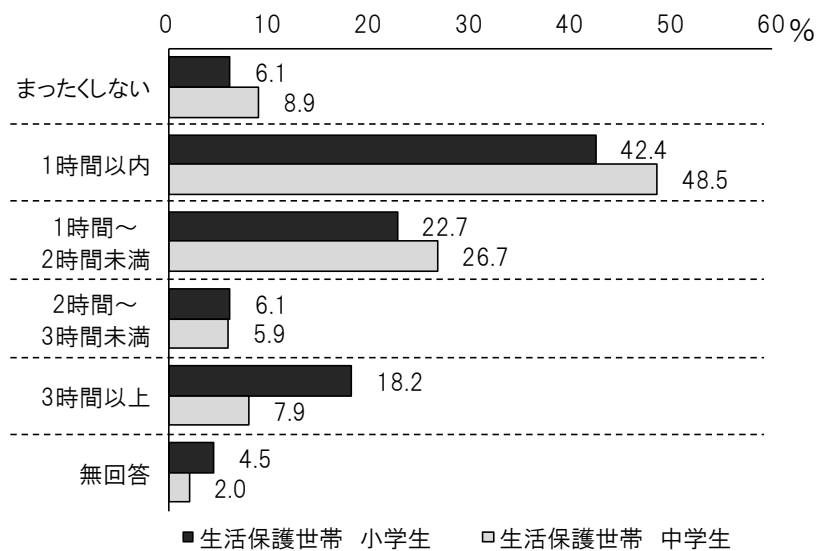


問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑨ 家族と話したり、家の手伝いをする

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「1時間以内」が4割台と最も多くなっています。また、小学生では「3時間以上」が18.2%と、中学生の7.9%に比べて10.3ポイント高くなっています。



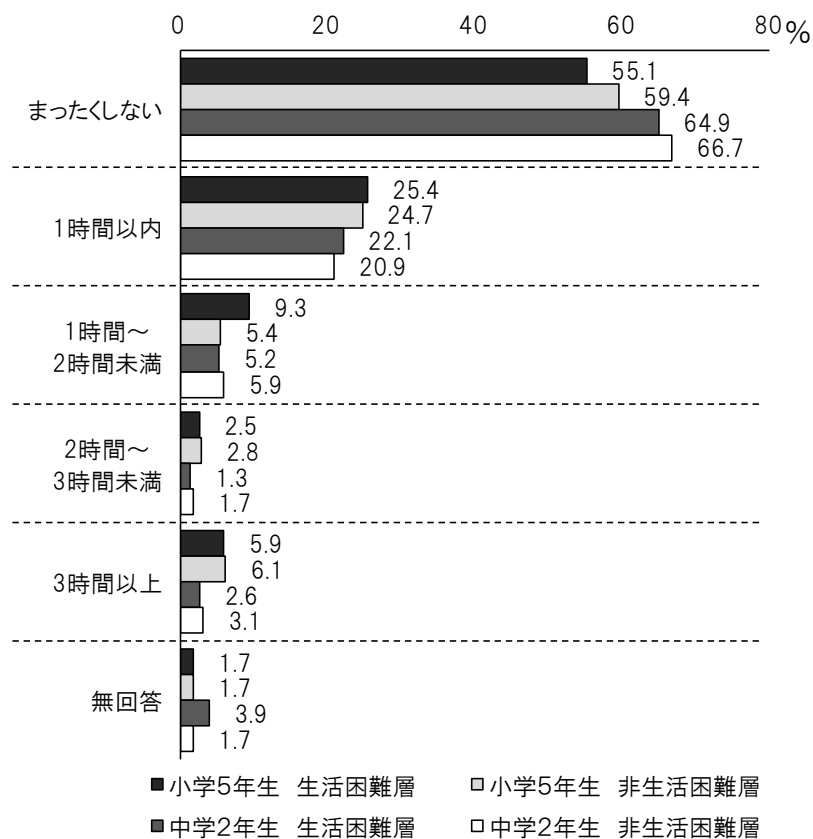
Ⅱ 子ども票

問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑩ 兄弟姉妹の世話

学校調査

学校からの帰宅後、兄弟姉妹の世話をする時間については、生活困難層に着目すると、小学5年生では「まったくしない」が55.1%で最も多く、非生活困難層と比べて4.3ポイント低くなっています。また、中学2年生では、「まったくしない」が64.9%で最も多く、非生活困難層もほぼ同じ割合となり、生活困難層と非生活困難層での差は見られません。

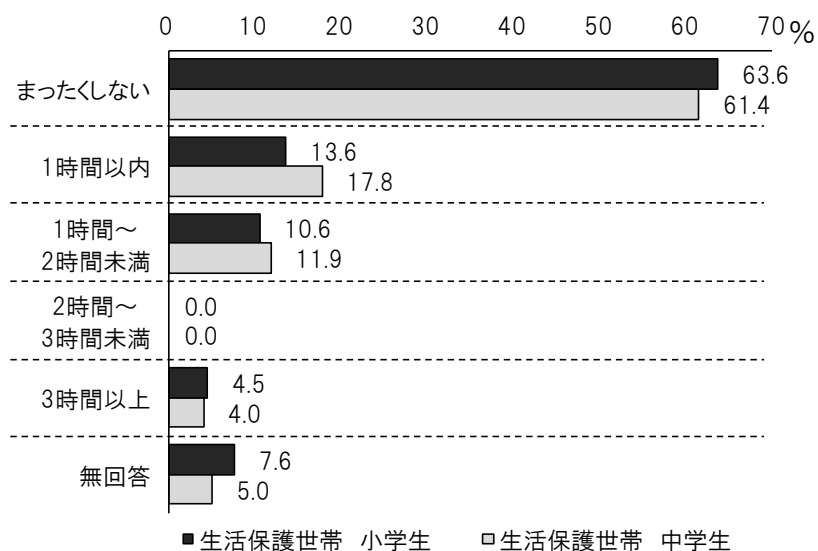


問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑩ 兄弟姉妹の世話

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「まったくしない」が6割台と最も多くなっています。また、小学生、中学生のいずれも、「1時間以内」と「1時間～2時間未満」が1割台となっています。



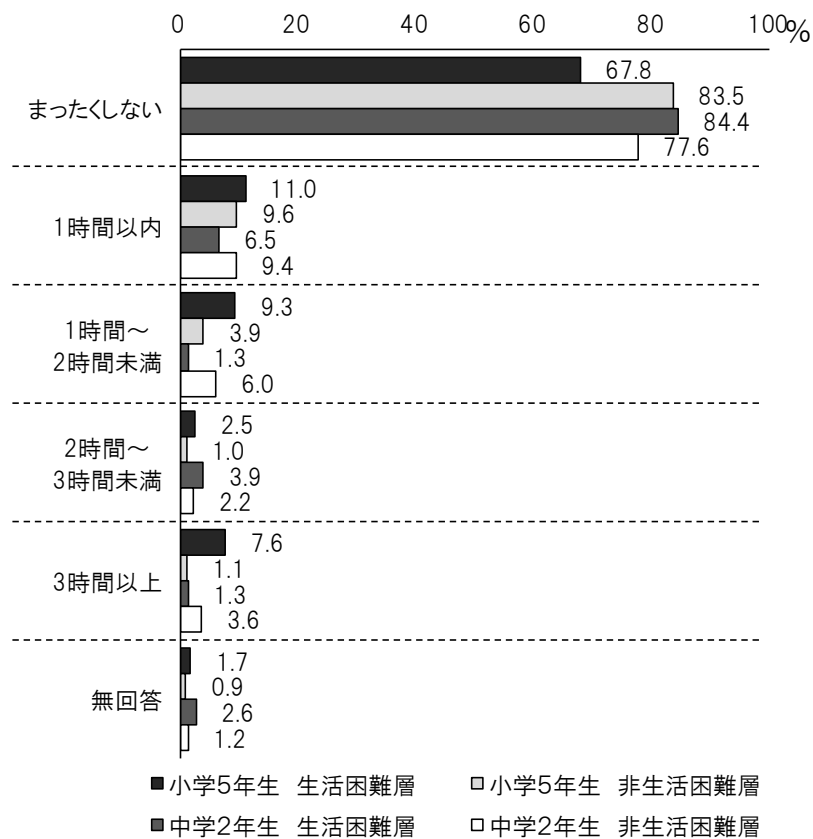
Ⅱ 子ども票

問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑪ ゲームセンターやカラオケなどで遊ぶ

学校調査

学校からの帰宅後、ゲームセンターやカラオケなどで遊ぶ時間については、生活困難層に着目すると、小学5年生では「まったくしない」が67.8%で最も多く、非生活困難層と比べて15.7ポイント低くなっています。また、中学2年生では、「まったくしない」が84.4%で最も多く、非生活困難層と比べて6.8ポイント高くなっています。このことから、小学5年生の生活困難層では、非生活困難層に比べてゲームセンターやカラオケなどで遊ぶ機会・時間が少ない傾向が見られます。

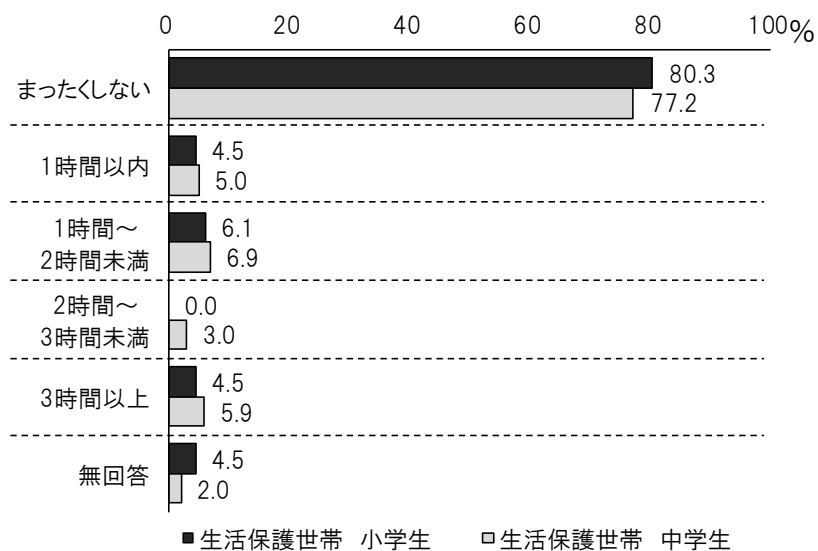


問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑪について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑪ ゲームセンターやカラオケなどで遊ぶ

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「まったくしない」が7割台から8割台と最も多く、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。



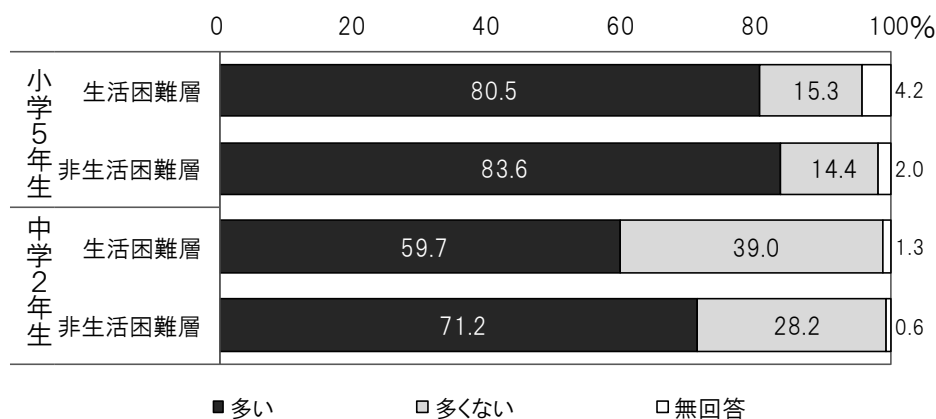
Ⅱ 子ども票

問5 あなたは、休日、学校に行かない日は、どこでだれと過ごしていますか。（それぞれについて、○はひとつだけ）

① 自分の家で、家族と過ごす

学校調査

休日、自分の家で家族と過ごしているかについては、すべての対象で「多い」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では、生活困難層と非生活困難層で差は見られませんが、中学2年生では、「多い」が59.7%と、非生活困難層と比べて11.5ポイント低くなっています。生活困難層と非生活困難層のいずれも、学年が上がると休日に家族と過ごすことが減る傾向が見られ、生活困難層ではその傾向が顕著であることがわかります。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多い」が7割台から8割台と、「多くない」を上回っており、学年が上がると低くなっています。

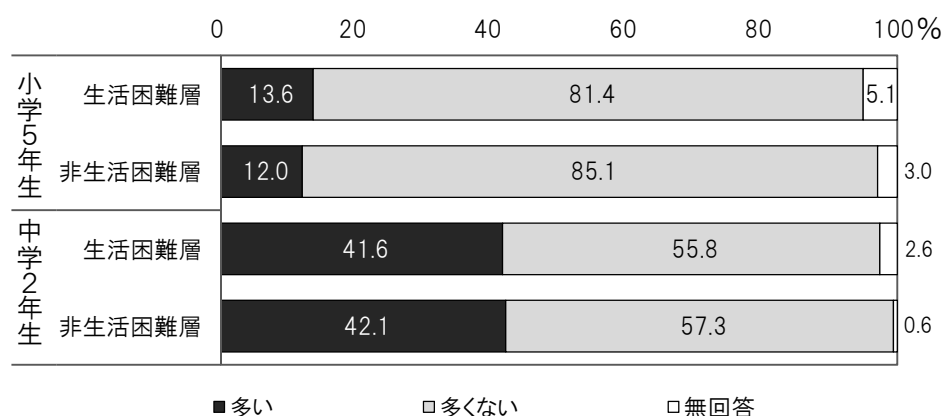


問5 あなたは、休日、学校に行かない日は、どこでだれと過ごしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

② 自分の家で、ひとりで過ごす

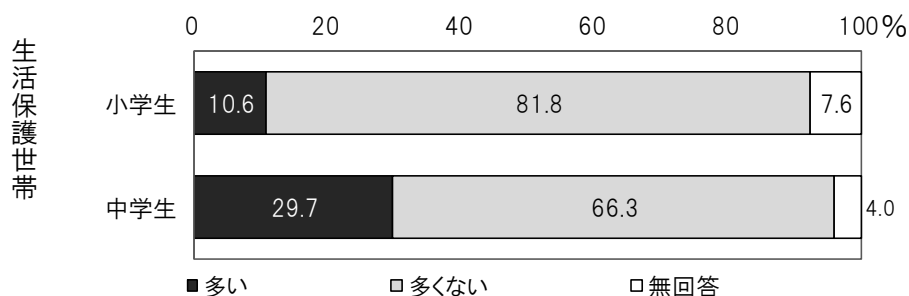
学校調査

休日、自分の家でひとりで過ごしているかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。生活困難層と非生活困難層での差は見られず、いずれも学年が上がると「多い」の割合が高くなり、中学2年生では休日にひとりで過ごすことが増える傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が6割台から8割台と、「多い」を上回っています。また、中学生では「多い」が29.7%と、小学生の10.6%に比べて19.1ポイント高くなっています。



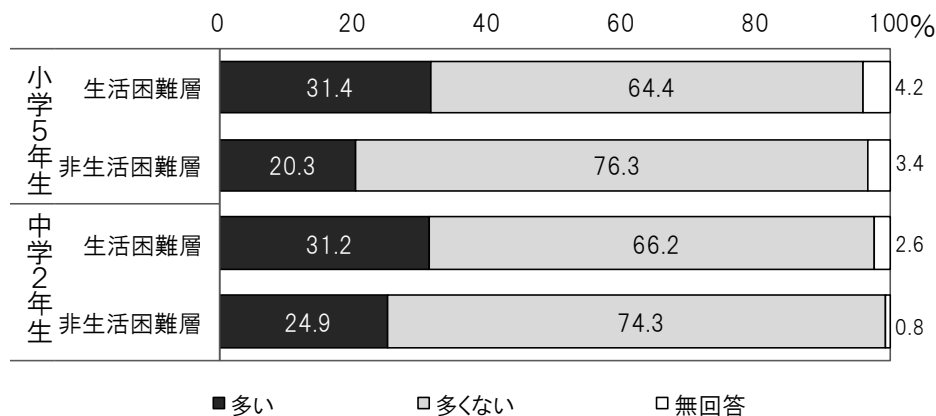
Ⅱ 子ども票

問5 あなたは、休日、学校に行かない日は、どこでだれと過ごしていますか。（それぞれについて、○はひとつだけ）

③ 自分の家以外の家（親せき・友達）で過ごす

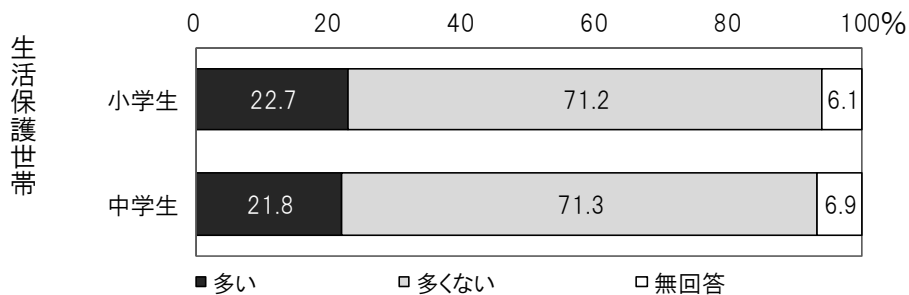
学校調査

休日、自分の家以外の家（親せき・友達）で過ごしているかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、いずれの学年も、「多い」が非生活困難層を上回り、小学5年生では 31.4%で 11.1 ポイント高く、中学2年生では 31.2%で 6.3 ポイント高くなっています。このことから、非生活困難層に比べて生活困難層では自分の家以外の家で過ごすことが比較的多い傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が7割台と、「多い」を上回っており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

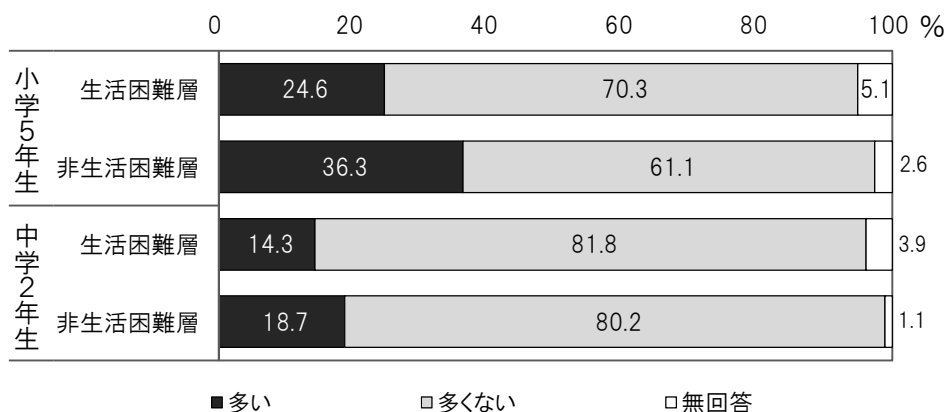


問5 あなたは、休日、学校に行かない日は、どこでだれと過ごしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

④ 習い事(スポーツ・音楽・習字・英語など)で先生や友達と過ごす

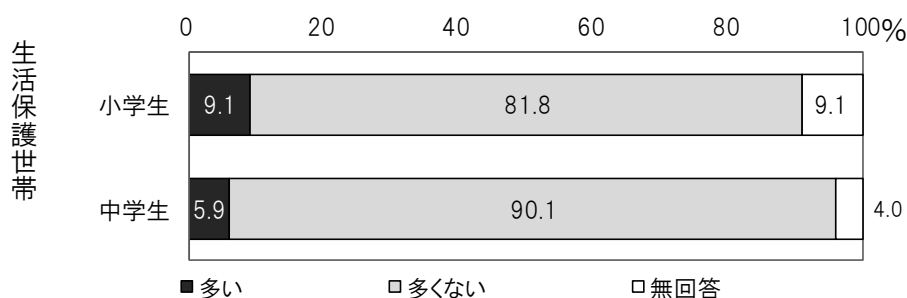
学校調査

休日、習い事(スポーツ・音楽・習字・英語など)で先生や友達と過ごしているかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では「多い」が24.6%で、非生活困難層と比べて11.7ポイント低くなっています。中学2年生では生活困難層と非生活困難層での差は見られず、いずれも「多い」が1割台と、小学5年生に比べて低くなっています。このことから、習い事については、小学5年生で休日に習い事をする頻度の差が生じている状況が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が8割台から9割台と、「多い」を上回っており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。



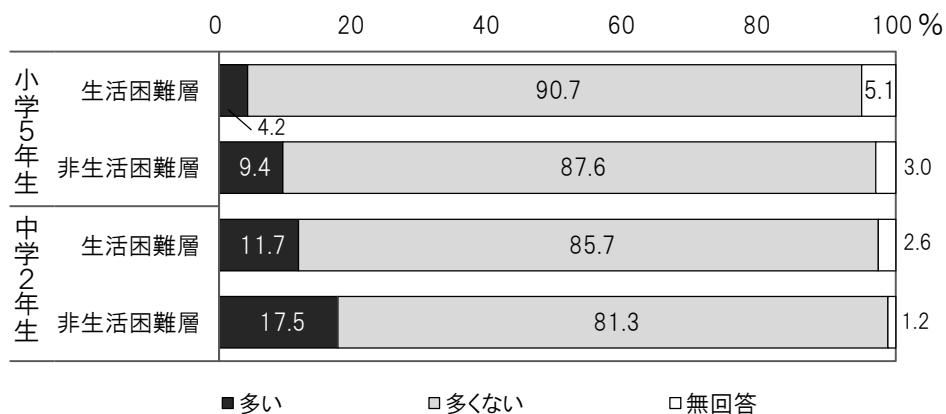
Ⅱ 子ども票

問5 あなたは、休日、学校に行かない日は、どこでだれと過ごしていますか。（それぞれについて、○はひとつだけ）

⑤ 学習塾で先生や友達と過ごす

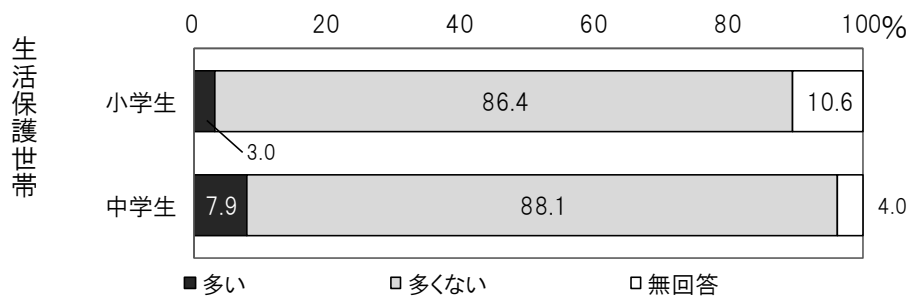
学校調査

休日、学習塾で先生や友達と過ごしているかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。学年が上がると「多い」の割合が高くなり、かつ、生活困難層に着目すると、いずれの学年も「多い」は非生活困難層を下回っています。このことから、生活困難層では、休日に学習塾で過ごす機会が非生活困難層に比べて少ない傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が8割台と、「多い」を上回っており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

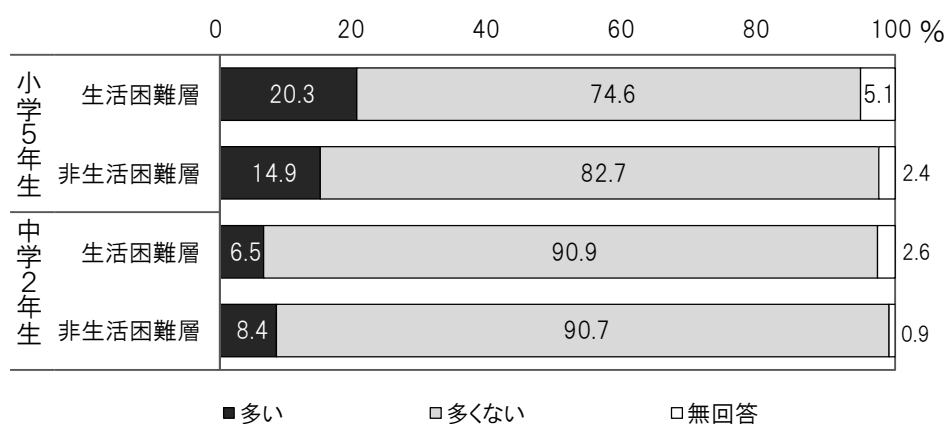


問5 あなたは、休日、学校に行かない日は、どこでだれと過ごしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑥ 公園や児童館・児童センター、図書館で友達などと過ごす

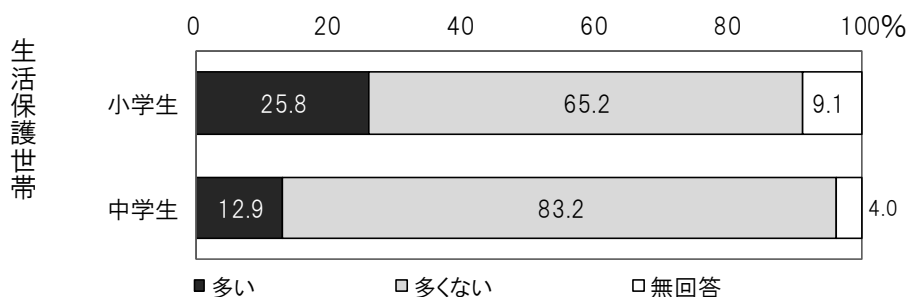
学校調査

休日、公園や児童館・児童センター、図書館で友達などと過ごしているかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では「多い」が20.3%で、非生活困難層と比べて5.4ポイント高くなっています。中学2年生では、生活困難層・非生活困難層のいずれも「多い」は1割未満となっており、小学5年生と比べて低く、生活困難層・非生活困難層による差は見られません。このことから、小学5年生の生活困難層では、休日に公園や公共施設で友達と過ごす割合が非生活困難層と比べてやや高い傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が6割台から8割台と、「多い」を上回っています。また、小学生では「多い」が25.8%と、中学生の12.9%に比べて12.9ポイント高くなっています。



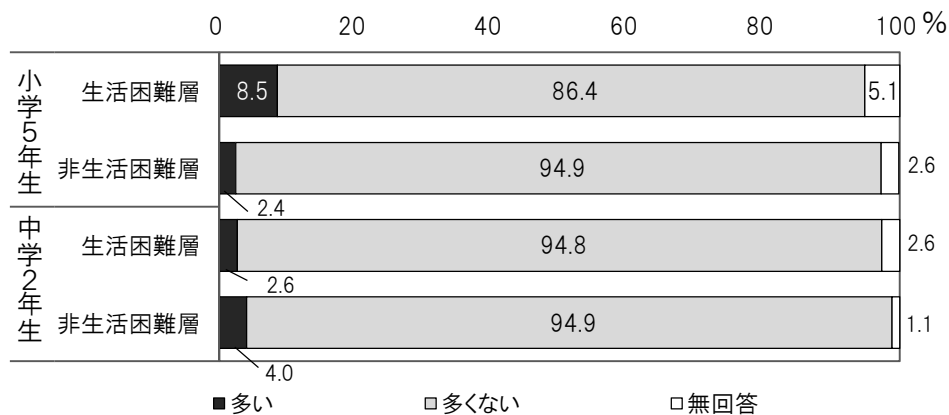
Ⅱ 子ども票

問5 あなたは、休日、学校に行かない日は、どこでだれと過ごしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑦ 公園や児童館・児童センター、図書館にひとりで過ごす

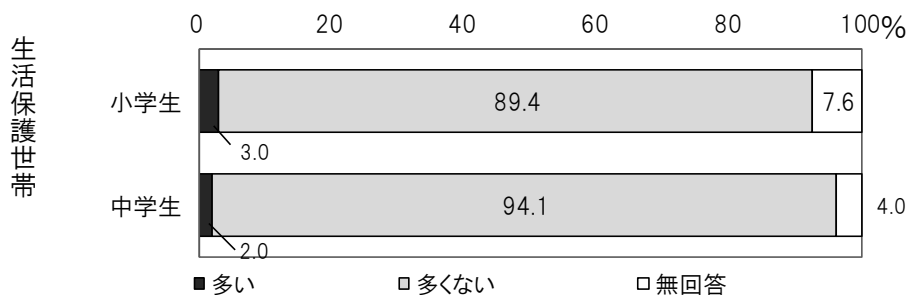
学校調査

休日、公園や児童館・児童センター、図書館にひとりで過ごしているかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では「多い」が8.5%で、非生活困難層と比べて6.1ポイント高い一方、中学2年生では、生活困難層・非生活困難層での差は見られない状況です。休日に公園や公共施設でひとりで過ごしている子どもの割合はわずかであるものの、小学5年生の生活困難層ではやや多い傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が8割台から9割台と、「多い」を上回っており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

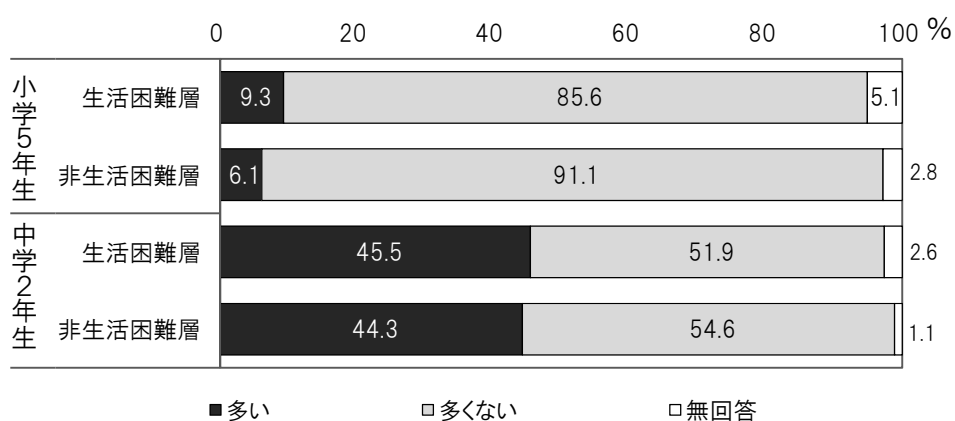


問5 あなたは、休日、学校に行かない日は、どこでだれと過ごしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑧ ショッピングセンターやファストフード店で友達などと過ごす

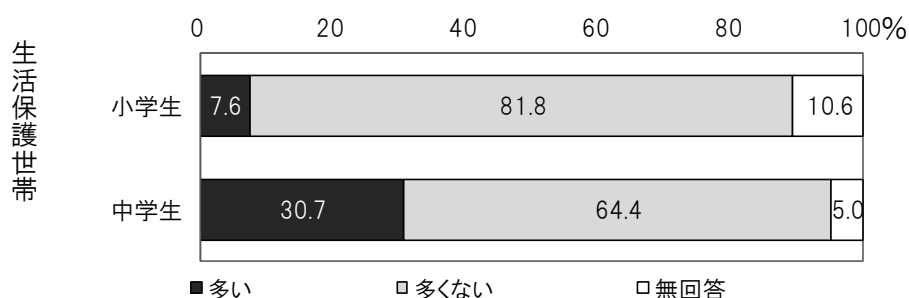
学校調査

休日、ショッピングセンターやファストフード店で友達などと過ごしているかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。いずれの学年でも生活困難層・非生活困難層での差は見られず、学年が上がると「多い」の割合が増え、小学5年生では1割未満であるのに対して、中学2年生では4割台となっています。このことから、中学2年生では、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、半数近くが休日にショッピングセンターやファストフード店で友だちと過ごしている傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が6割台から8割台と、「多い」を上回っています。また、中学生では「多い」が30.7%と、小学生の7.6%に比べて23.1ポイント高くなっています。



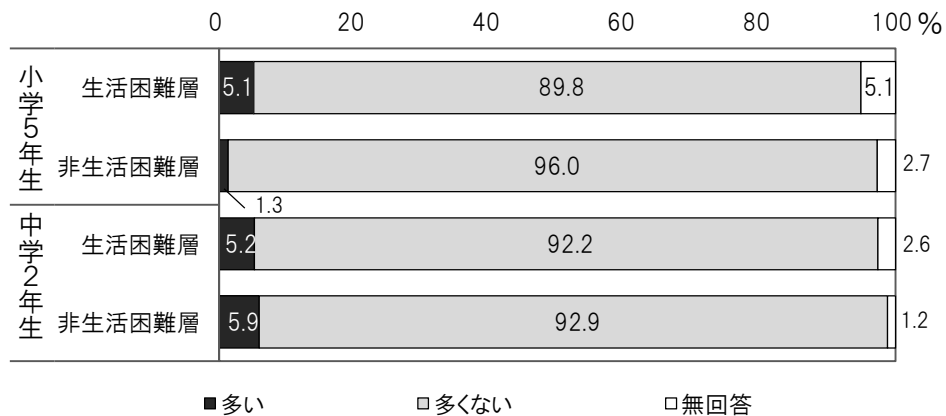
Ⅱ 子ども票

問5 あなたは、休日、学校に行かない日は、どこでだれと過ごしていますか。（それぞれについて、○はひとつだけ）

⑨ ショッピングセンターやファストフード店にひとりで過ごす

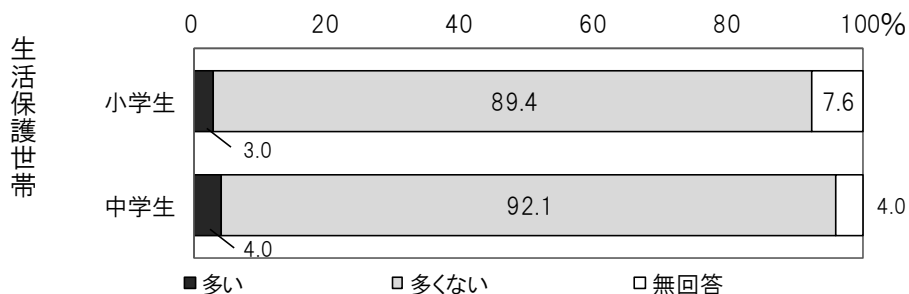
学校調査

休日、ショッピングセンターやファストフード店にひとりで過ごしているかについては、すべての対象で「多くない」が最も多く、対象ごとの差は見られません。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が8割台から9割台と、「多い」を上回っており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

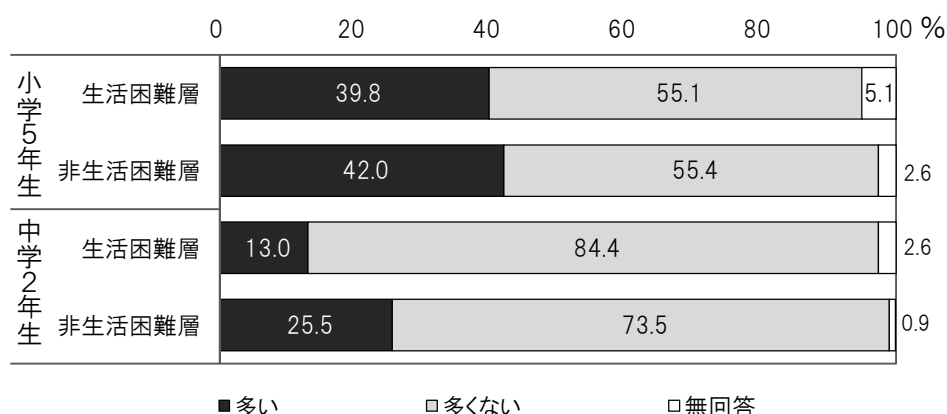


問5 あなたは、休日、学校に行かない日は、どこでだれと過ごしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑩ テーマパークや観光地に、家族とでかける

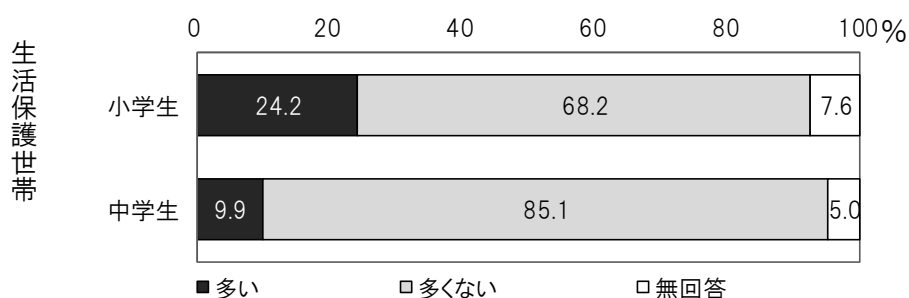
学校調査

休日、テーマパークや観光地に家族とでかけているかについては、すべての対象で「多くない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では生活困難層・非生活困難層のいずれも、「多い」が約4割となっています。また、中学2年生では、「多い」が13.0%と、非生活困難層と比べて12.5ポイント低くなっています。このことから、中学2年生の生活困難層では非生活困難層と比べて家族とでかける機会が少ない傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「多くない」が6割台から8割台と、「多い」を上回っています。また、小学生では「多い」が24.2%と、中学生の9.9%に比べて14.3ポイント高くなっています。



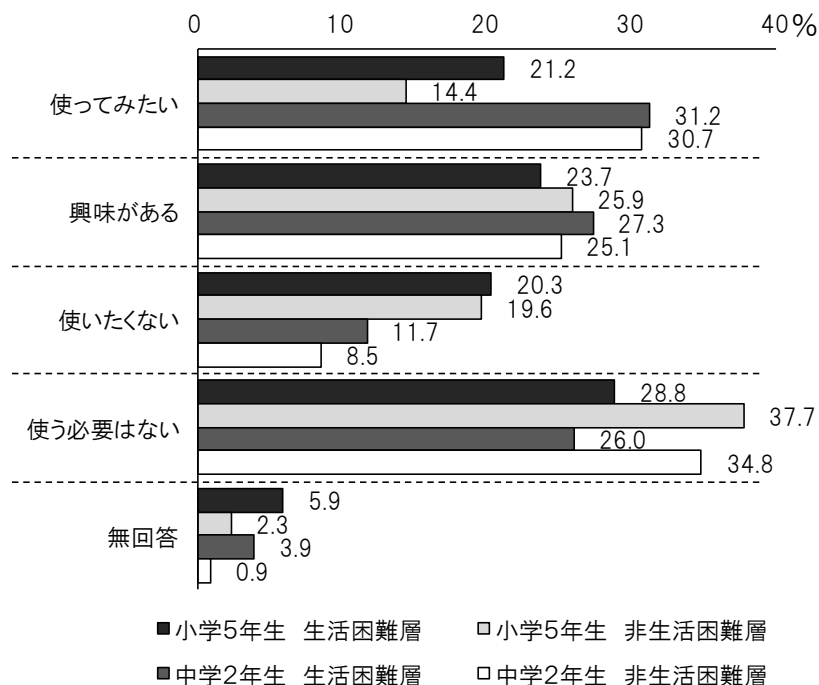
Ⅱ 子ども票

問6 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

① (家以外で)平日の放課後に夜までいることができる場所

学校調査

(家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所を使ってみたいと思うかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生では「使う必要はない」が28.8%で最も多くなっていますが、「使ってみたい」は21.2%で、非生活困難層と比べて6.8ポイント高くなっています。また、中学2年生では、生活困難層・非生活困難層のいずれも「使ってみたい」が約3割となっています。このことから、小学5年生では、非生活困難層と比べると生活困難層での事業ニーズが高い一方、中学2年生では生活困難層・非生活困難層にかかわらず、一定の事業ニーズがある傾向が見られます。

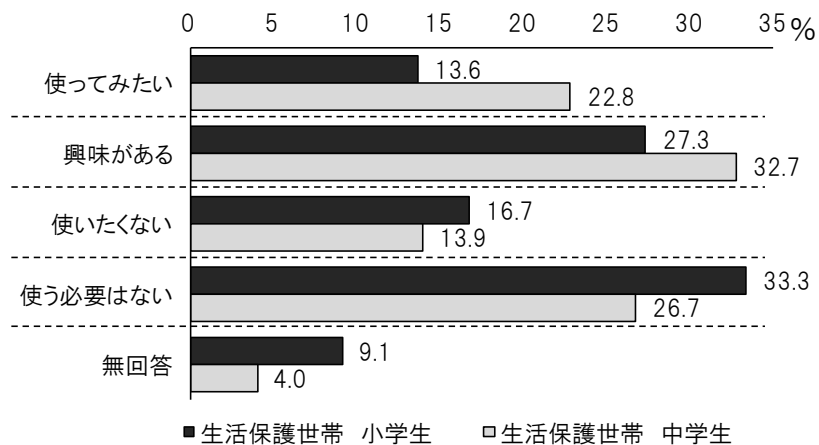


問6 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。（それぞれについて、○はひとつだけ）

①（家以外で）平日の放課後に夜までいることができる場所

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「使う必要はない」が33.3%、中学生では「興味がある」が32.7%と、最も多くなっています。また、中学生では「使ってみたい」が22.8%と、小学生の13.6%に比べて9.2ポイント高くなっています。



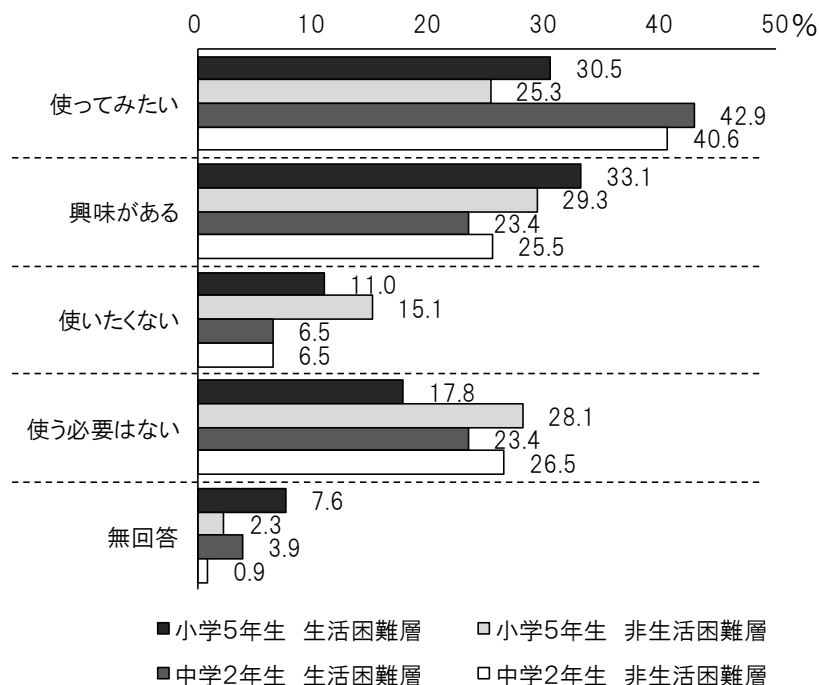
Ⅱ 子ども票

問6 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

② (家以外で)休日にいることができる場所

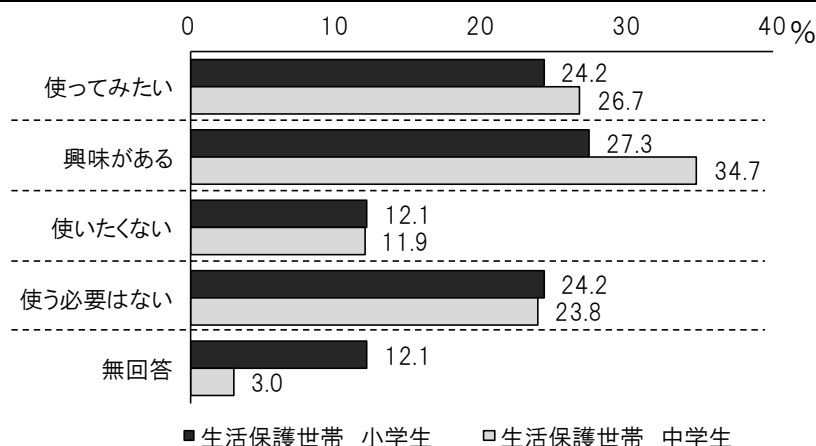
学校調査

(家以外で)休日にいることができる場所を使ってみたいと思うかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生では「興味がある」が33.1%で最も多く、非生活困難層と比べて3.8ポイント高くなっています。また、次いで「使ってみたい」が30.5%と、非生活困難層と比べて5.2ポイント高くなっています。中学2年生では、生活困難層・非生活困難層のいずれも「使ってみたい」が約4割となっています。このことから、小学5年生では、非生活困難層と比べて生活困難層での事業ニーズが高い一方、中学2年生では生活困難層・非生活困難層にかかわらず、一定の事業ニーズがある傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「興味がある」が2割台から3割台と最も多くなっています。また、「使う必要はない」がいずれも2割台となっています。

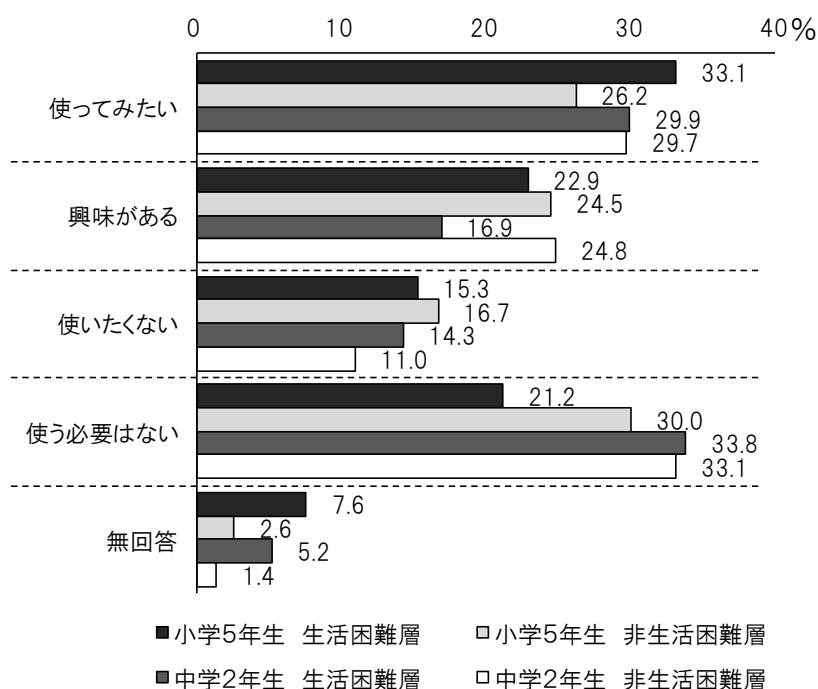


問6 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

③ 家の人がない時、夕ご飯をみんなで食べることができる場所

学校調査

家の人がない時、夕ご飯をみんなで食べることができる場所を使ってみたいと思うかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生では、「使ってみたい」が33.1%で最も多く、非生活困難層と比べて6.9ポイント高くなっています。また、中学2年生では、生活困難層・非生活困難層とも「使う必要はない」が3割強、「使ってみたい」が約3割となっています。このことから、小学5年生では、非生活困難層と比べて生活困難層での事業ニーズが高い一方、中学2年生では生活困難層・非生活困難層にかかわらず、一定の事業ニーズがある傾向が見られます。



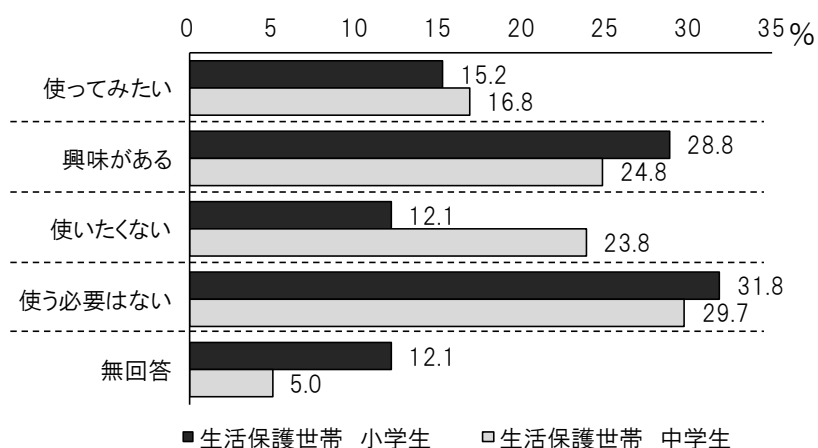
Ⅱ 子ども票

問6 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。（それぞれについて、○はひとつだけ）

③ 家の人がいらない時、夕ご飯をみんなで食べることができる場所

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「使う必要はない」が2割台から3割台と最も多く、次いで「興味がある」が2割台となっています。また、中学生では「使いたくない」が23.8%と、小学生の12.1%に比べて11.7ポイント高くなっています。

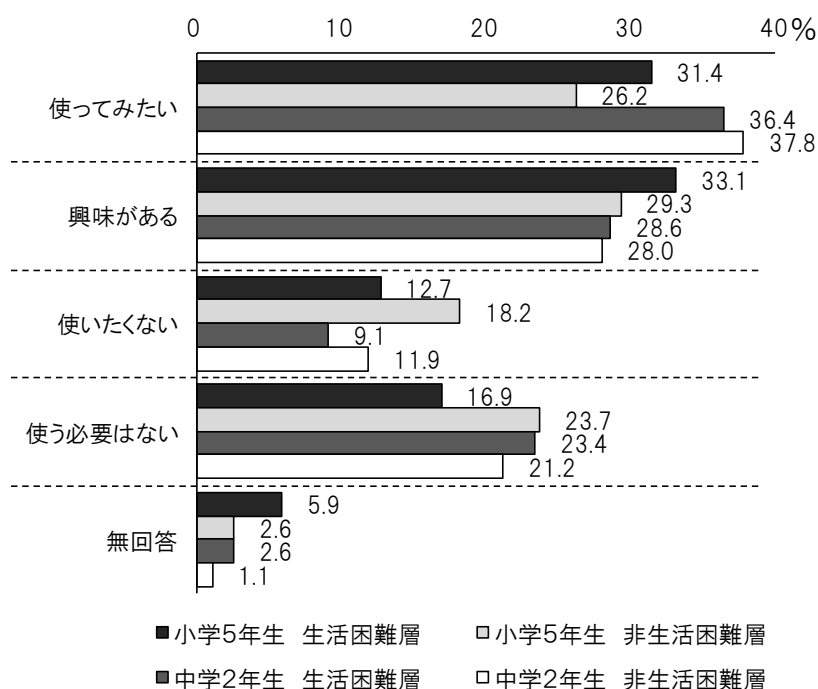


問6 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

④ (学校以外で)勉強を無料でみてる場所

学校調査

(学校以外で)勉強を無料でみてる場所を使ってみたいと思うかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生では、「興味がある」が33.1%で最も多く、非生活困難層と比べて3.8ポイント高くなっています、また、次いで「使ってみたい」が31.4%と、非生活困難層と比べて5.2ポイント高くなっています。中学2年生では、生活困難層・非生活困難層とも「使ってみたい」が3割台で最も多くなっています。このことから、小学5年生では、非生活困難層と比べて生活困難層での事業ニーズが高く、中学2年生では生活困難層・非生活困難層にかかわらず、一定の事業ニーズがある傾向が見られます。



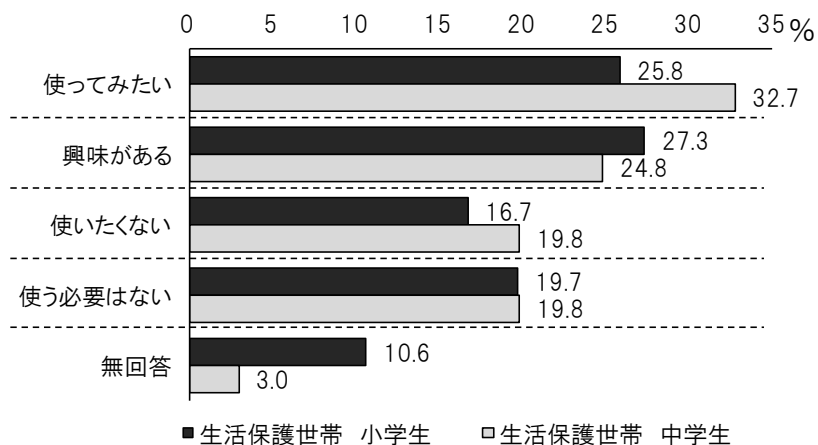
Ⅱ 子ども票

問6 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。（それぞれについて、○はひとつだけ）

④（学校以外で）勉強を無料でみてる場所

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「興味がある」が27.3%、中学生では「使ってみたい」が32.7%と、最も多くなっています。

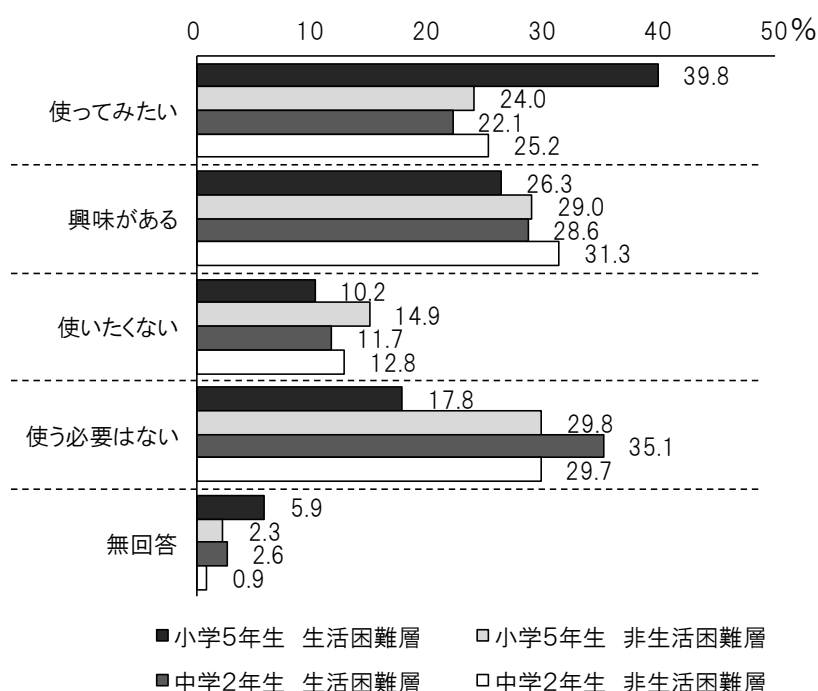


問6 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑤ (学校以外で)勉強、進学、家族のことなど、なんでも相談できる場所

学校調査

(学校以外で)勉強、進学、家族のことなど、なんでも相談できる場所を使ってみたいと思うかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生では、「使ってみたい」が39.8%で最も多く、非生活困難層と比べて15.8ポイント高くなっています。また、中学2年生の生活困難層では、「使う必要はない」が35.1%で最も多く、非生活困難層と比べて5.4ポイント高くなっています。このことから、特に小学5年生の生活困難層において、なんでも相談できる場所を必要としている傾向が見られます。



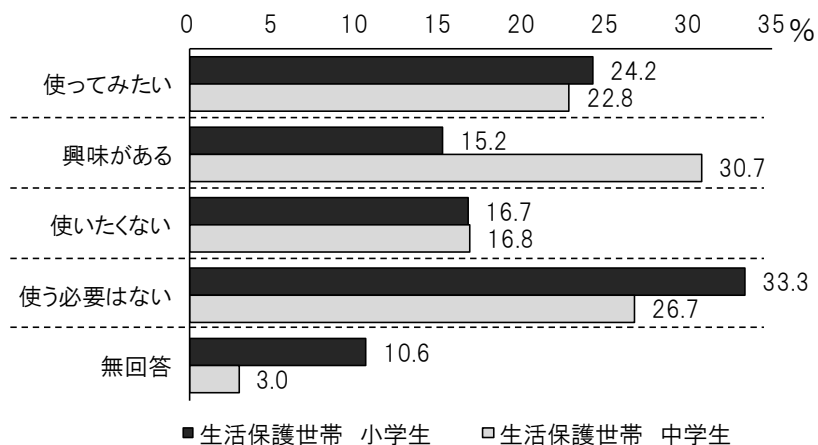
Ⅱ 子ども票

問6 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑤ (学校以外で)勉強、進学、家族のことなど、なんでも相談できる場所

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「使う必要はない」が33.3%、中学生では「興味がある」が30.7%と、最も多くなっています。

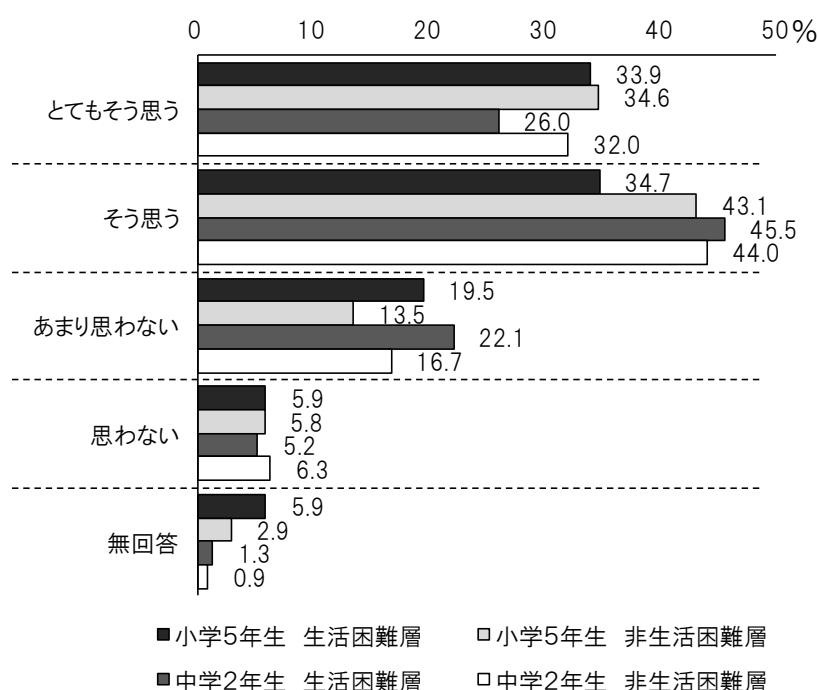


2. 学校のことや勉強のことについて

問7 学校に行くのは楽しみですか。(〇はひとつだけ)

学校調査

学校に行くのは楽しみかについては、すべての対象で「そう思う」が最も多くなっています。しかし、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「とてもそう思う」と「そう思う」の合計割合が非生活困難層をやや下回り、反対に、「あまり思わない」と「思わない」の合計割合が非生活困難層をやや上回っています。このことから、生活困難層では、学校に行くのが楽しみだと感じている児童生徒が非生活困難層と比べてやや少ない傾向が見られます。

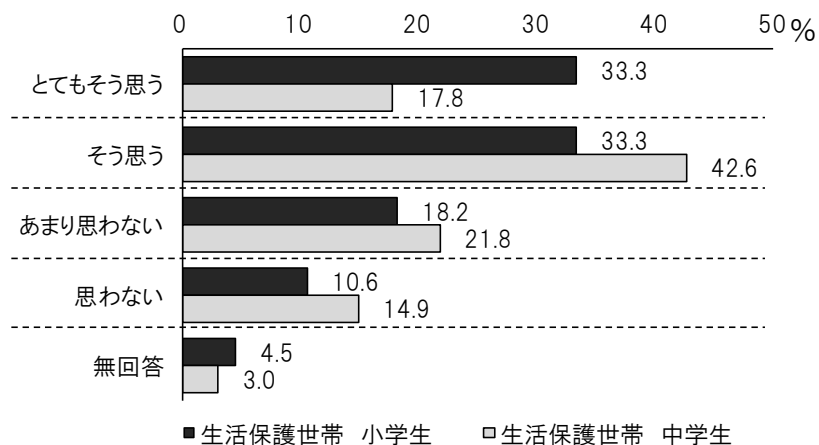


Ⅱ 子ども票

問7 学校に行くのは楽しみですか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

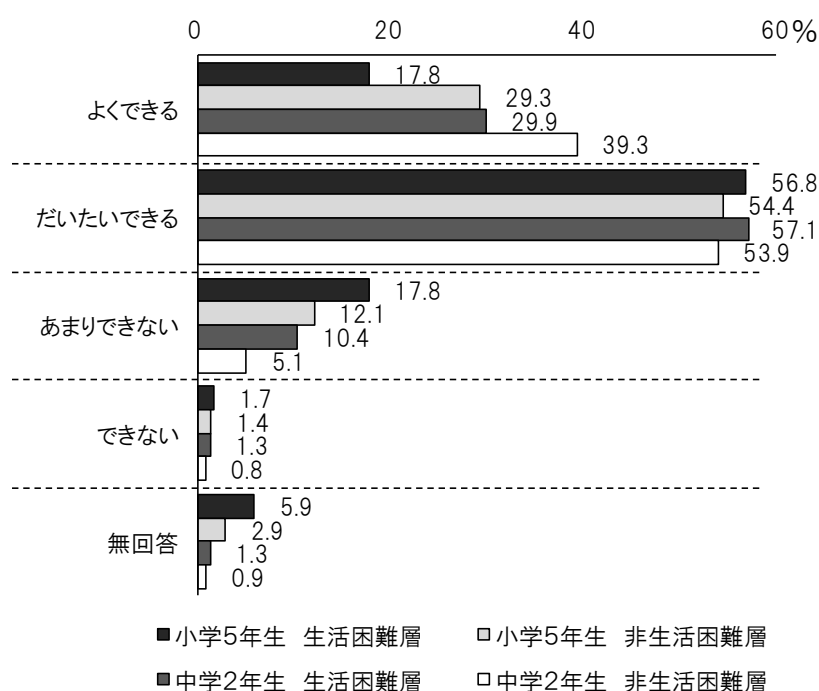
生活保護世帯について見ると、小学生では「とてもそう思う」と「そう思う」がともに 33.3%、中学生では「そう思う」が 42.6%と、最も多くなっています。また、「とてもそう思う」と「そう思う」の合計割合は、中学生では小学生と比べて 6.2 ポイント低く、学年が上がると学校に行くのが楽しみだと感じている児童生徒の割合に減少が見られます。



問8 学校の授業で使うものを忘れずに準備できますか。(〇はひとつだけ)

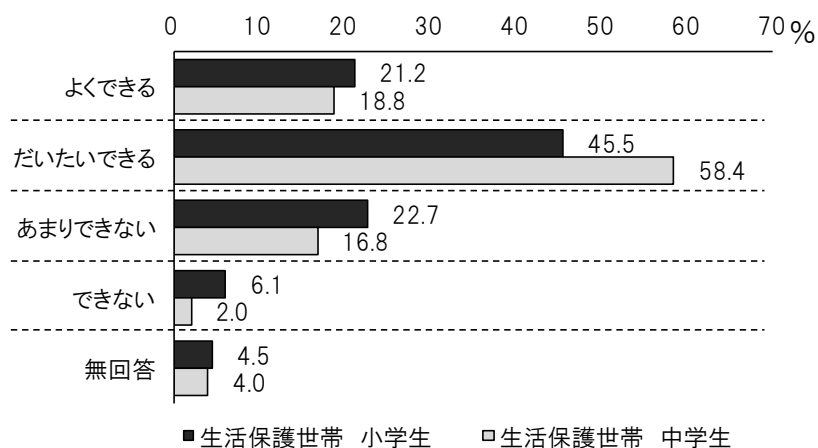
学校調査

学校の授業で使うものを忘れずに準備できるかについては、いずれも「だいたいできる」が5割以上で最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では、「よくできる」が非生活困難層と比べて11.5ポイント低い一方、「あまりできない」が非生活困難層と比べて5.7ポイント高くなっています。中学2年生でも同様の傾向で、「よくできる」が非生活困難層と比べて9.4ポイント低く、「あまりできない」が5.3ポイント高くなっています。このことから、生活困難層では非生活困難層と比べて、学校の授業で使うものを忘れずに準備をすることができない割合がやや高い傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「だいたいできる」が4割から5割台と最も多くなっています。学年が上がると、「よくできる」と「だいたいできる」の合計割合が多くなっています。

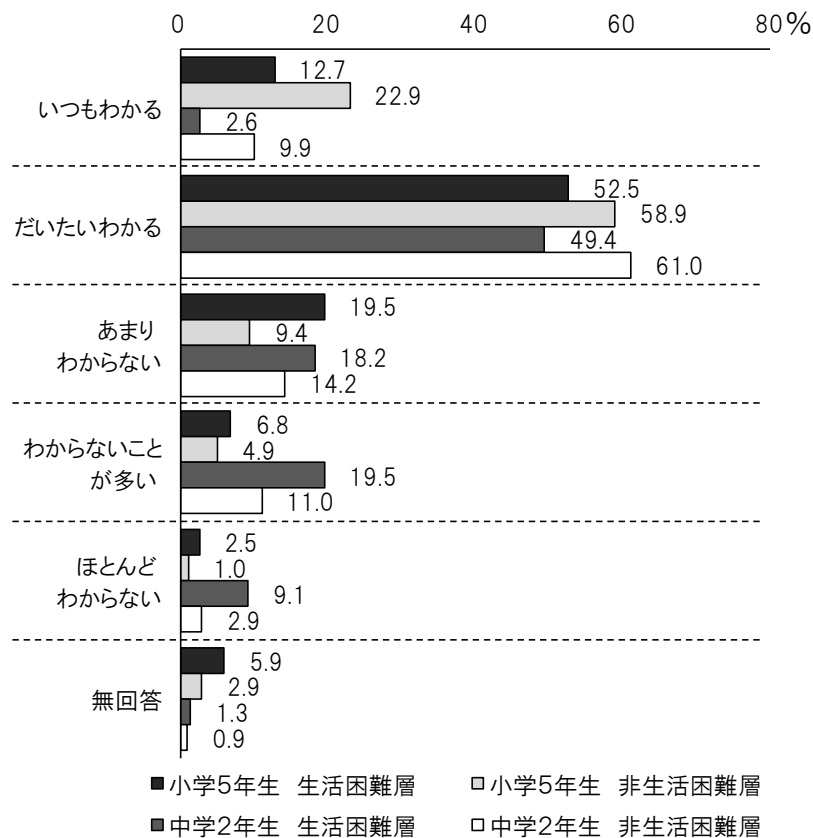


Ⅱ 子ども票

問9 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

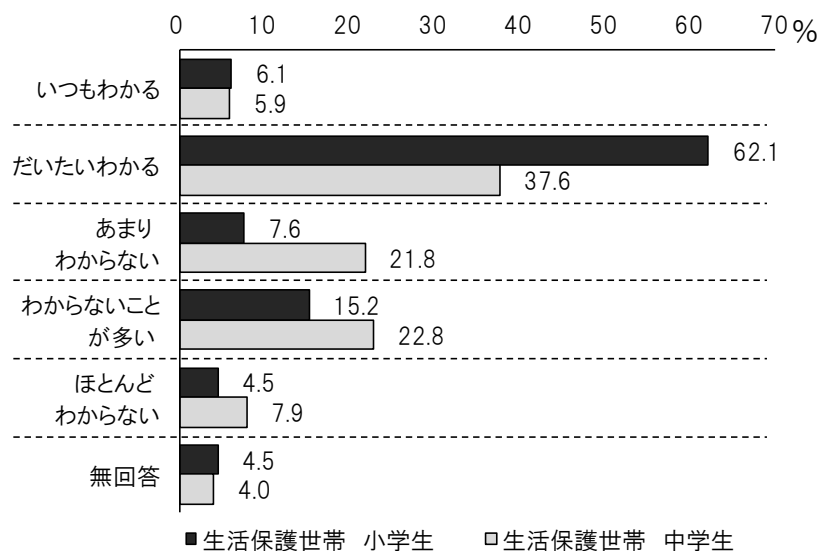
学校の授業がわからないことがあるかについては、すべての対象で「だいたいわかる」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では、「だいたいわかる」が52.5%で最も多く、非生活困難層と比べて6.4ポイント低くなっています。また、「いつもわかる」が、非生活困難層と比べて10.2ポイント低くなっています。中学2年生では、「だいたいわかる」が49.4%で最も多くなっていますが、非生活困難層と比べて11.6ポイント低く、「いつもわかる」では7.3ポイント低くなっています。さらに、中学2年生では「わからないことが多い」や「ほとんどわからない」も非生活困難層と比べて多くなっています。このことから、生活困難層では非生活困難層と比べて学校の授業の理解度が低い傾向が見られます。



問9 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「だいたいわかる」が3割台から6割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「あまりわからない」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」を合わせた《わからない》が、小学生に比べて多くなっています。



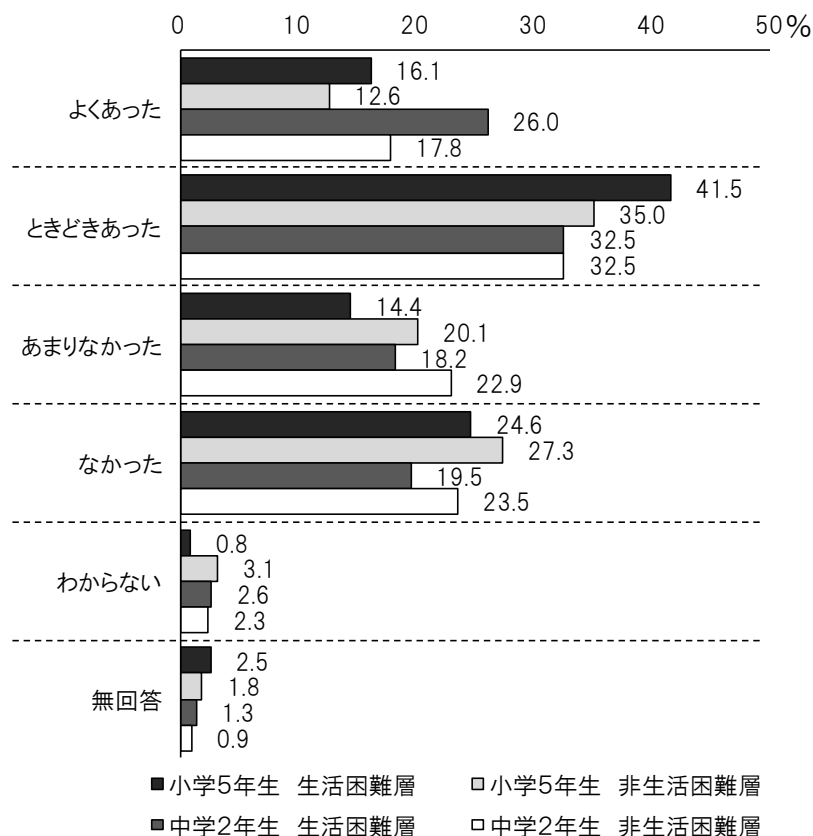
Ⅱ 子ども票

問 10 あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

① 学校に行きたくないと思った

学校調査

学校に行きたくないと思ったことがあるかについては、すべての対象で「ときどきあった」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では、「ときどきあった」が41.5%で最も多く、非生活困難層と比べて6.5ポイント高くなっています。また、「よくあった」では、非生活困難層と比べて3.5ポイント高くなっています。中学2年生では、「ときどきあった」が32.5%で最も多く、非生活困難層と等しい割合となっている一方、「よくあった」は26.0%で、非生活困難層と比べて8.2ポイント高くなっています。このことから、生活困難層では非生活困難層と比べて学校に行きたくないと思う割合が多い傾向が見られます。

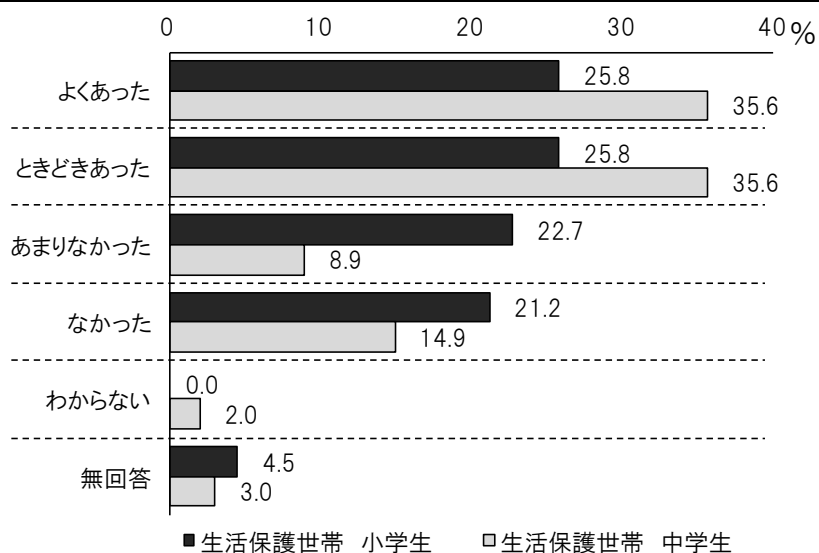


問 10 あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

① 学校に行きたくないと思った

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「よくあった」と「ときどきあった」がともに2割台から3割台と最も多く、学年が上がると、学校に行きたくないと思った頻度は高くなっています。



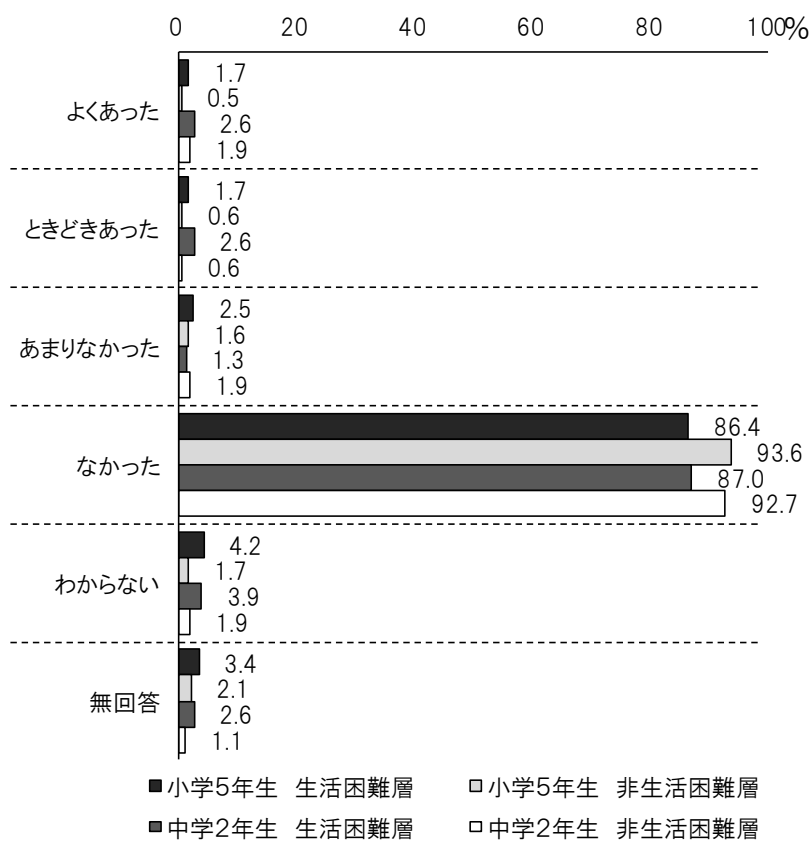
Ⅱ 子ども票

問 10 あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

② 1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)

学校調査

1か月以上学校を休んだことがあるかについては、いずれも「なかった」が最も多く、対象ごとの差はありません。

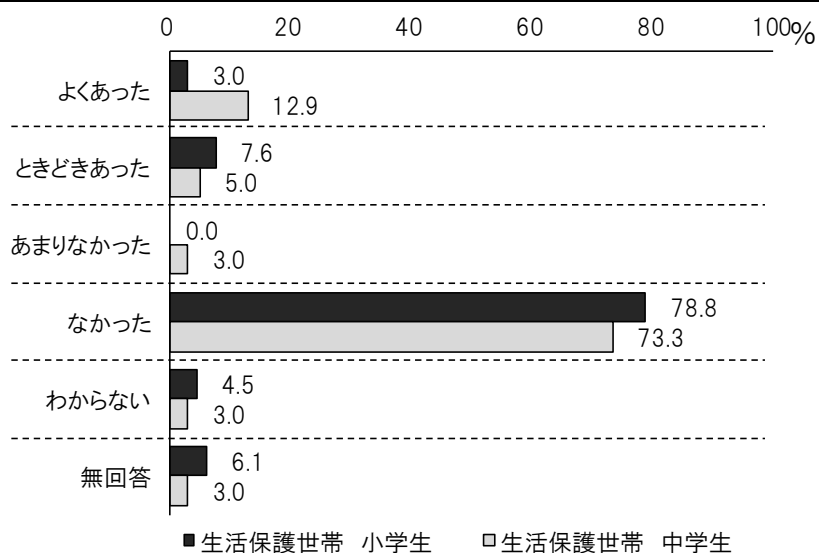


問 10 あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

② 1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「なかった」が7割台と最も多くなっています。また、中学生では「よくあった」が12.9%と、小学生の3.0%に比べて9.9ポイント高くなっています。



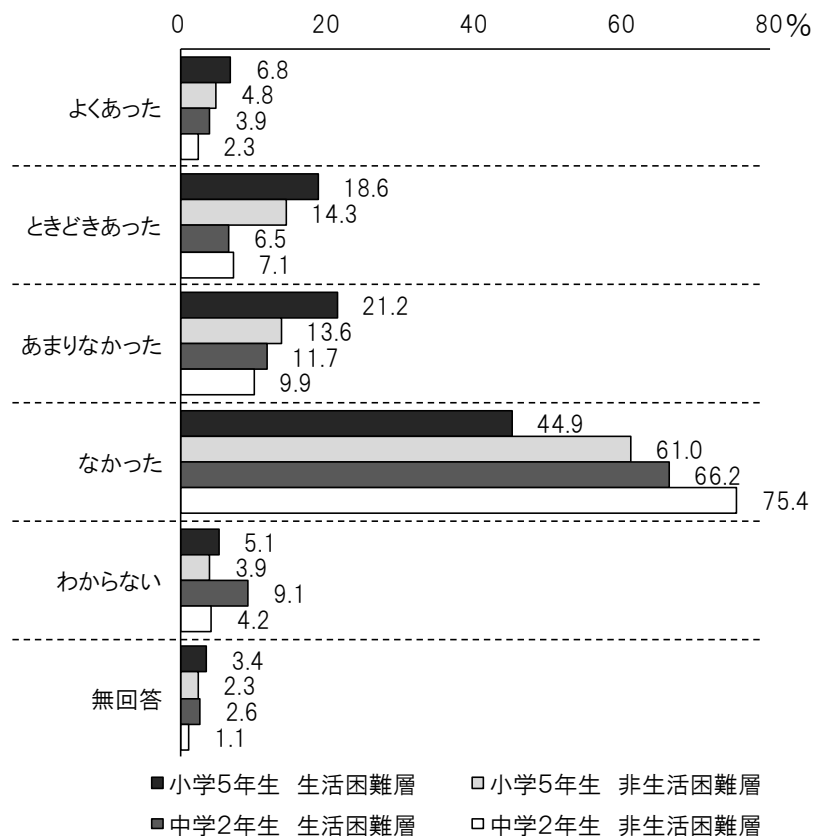
Ⅱ 子ども票

問 10 あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

③ いじめられた

学校調査

いじめられたことがあるかについては、すべての対象で「なかった」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では、「なかった」が44.9%で最も多く、非生活困難層と比べて16.1ポイント低くなっています。また、「よくあった」が2.0ポイント、「ときどきあった」が4.3ポイント高くなっています。中学2年生の生活困難層では、「なかった」が66.2%で最も多く、非生活困難層と比べて9.2ポイント低い一方、「わからない」が4.9ポイント高くなっています。このことから、小学5年生の生活困難層では、非生活困難層と比べていじめられたことがある割合がやや高い傾向が見られます。

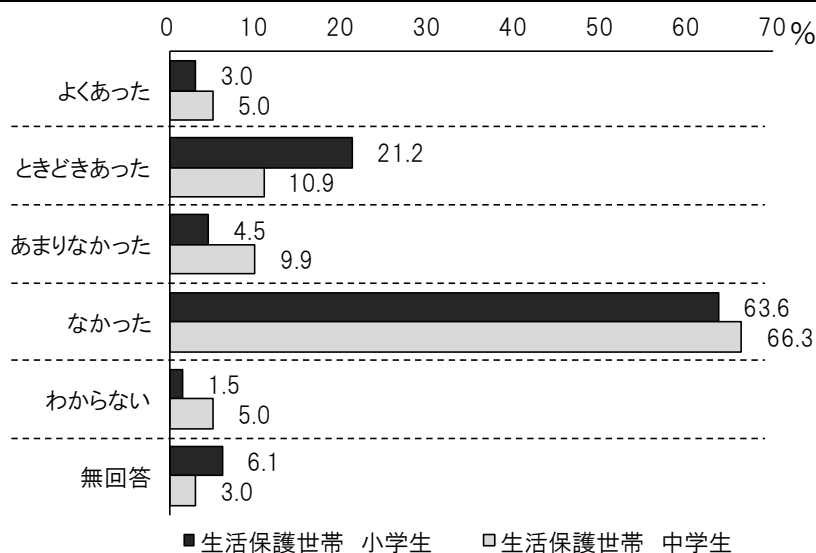


問 10 あなたは、これまでに以下のようなことがありましたか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

③ いじめられた

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「なかった」が6割台と最も多くなっています。また、小学生では「ときどきあった」が21.2%と、中学生の10.9%に比べて10.3ポイント高くなっています。

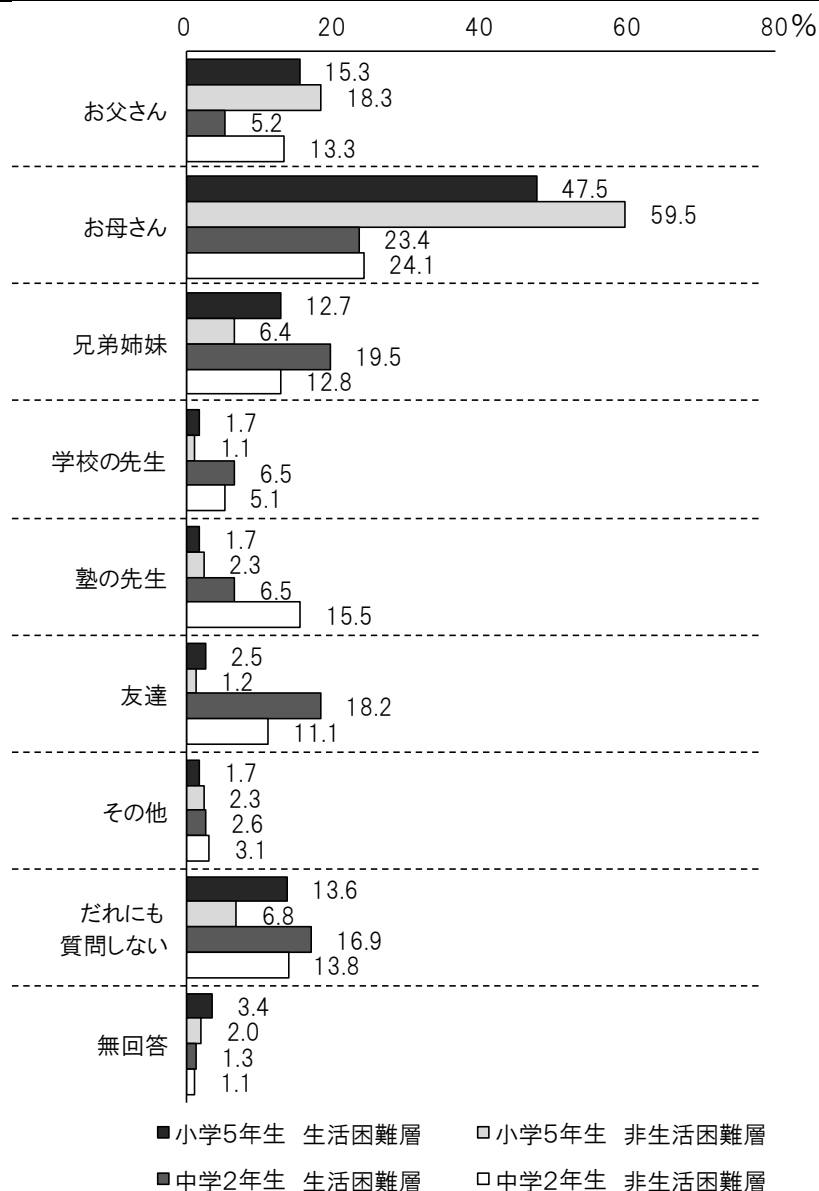


Ⅱ 子ども票

問 11 家で勉強していてわからないとき、だれに質問をしますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

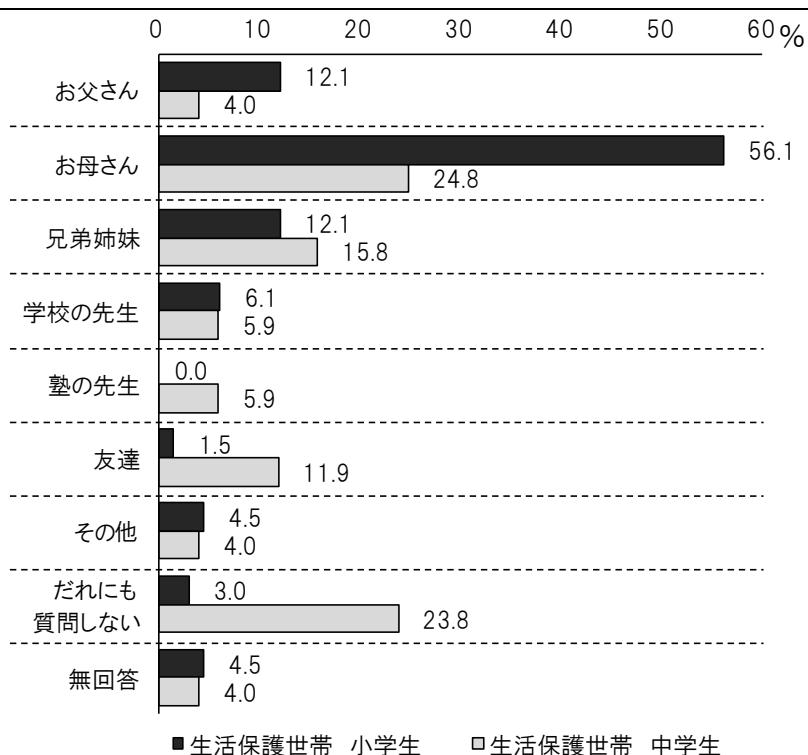
家で勉強していてわからないときに質問する人については、すべての対象で「お母さん」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では47.5%と、非生活困難層に比べて12.0ポイント低くなっています。また、「だれにも質問しない」は13.6%と、非生活困難層と比べて6.8ポイント高くなっています。中学2年生では「塾の先生」が6.5%と、非生活困難層と比べて9.0ポイント低くなっています。生活困難層・非生活困難層にかかわらず、学年が上がると「お父さん」や「お母さん」の割合は減り、「兄弟姉妹」や「友達」などで割合が増える傾向が見られます。



問 11 家で勉強していてわからないとき、だれに質問をしますか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれの対象も「お母さん」が2割台から5割台と最も多く、学年が上がると低くなっています。また、小学生では「お父さん」「お母さん」が中学生に比べて多い一方、中学生では「友達」「だれにも質問しない」が小学生に比べて多くなっています。

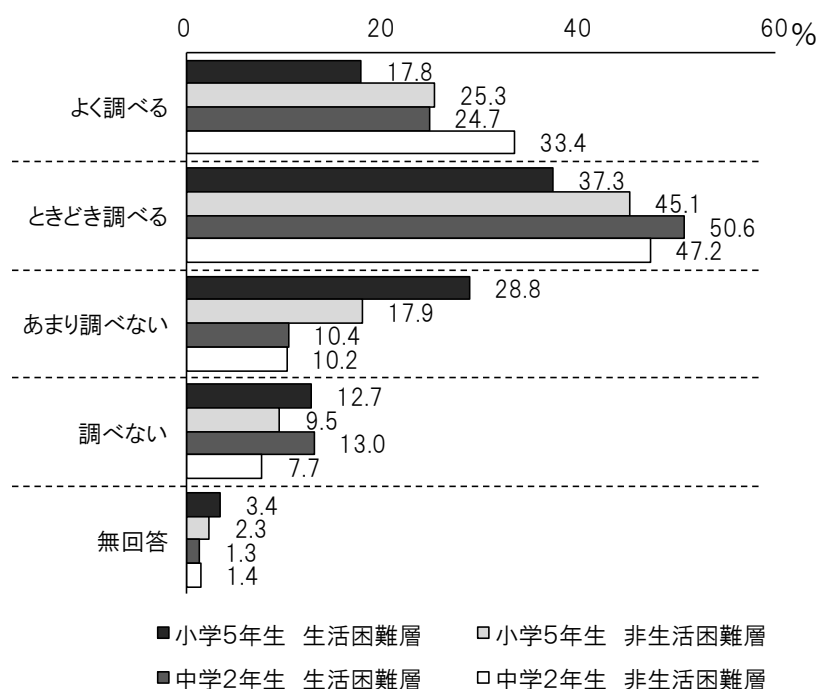


Ⅱ 子ども票

問12 何か興味のあることを本や図鑑、辞書、インターネットを使って調べますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

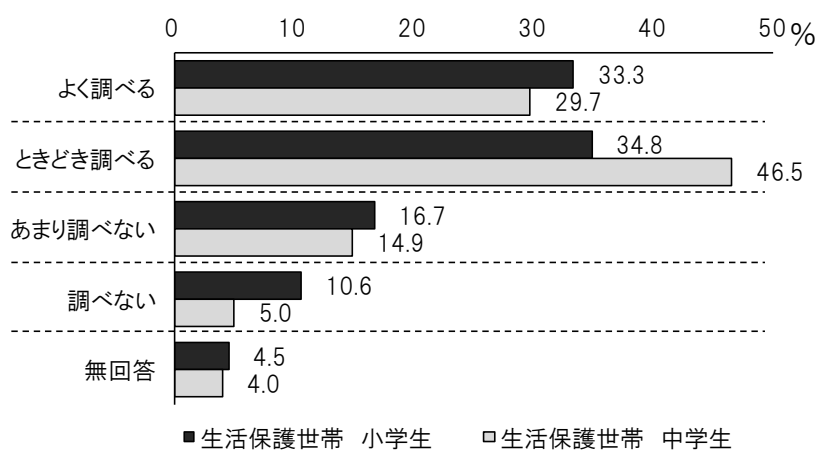
何か興味のあることを本や図鑑、辞書、インターネットを使って調べるかについては、すべての対象で「ときどき調べる」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では、「ときどき調べる」が37.3%で最も多く、非生活困難層と比べて7.8ポイント低くなっている一方、「あまり調べない」は10.9ポイント高くなっています。また、中学2年生では、「ときどき調べる」が50.6%で最も多く、非生活困難層と比べて3.4ポイント高くなっている一方、「よく調べる」では8.7ポイント低く、「調べない」が5.3ポイント高くなっています。このことから、興味があることを調べる行動に移す割合が非生活困難層と比べて低い傾向が見られます。



問 12 何か興味のあることを本や図鑑、辞書、インターネットを使って調べますか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「ときどき調べる」が3割台から4割台と最も多く、次いで「よく調べる」が2割台から3割台となっています。また、小学生では「調べない」が10.6%と1割を超えており、中学生では何か興味のあることを調べる頻度がやや高くなっています。



Ⅱ 子ども票

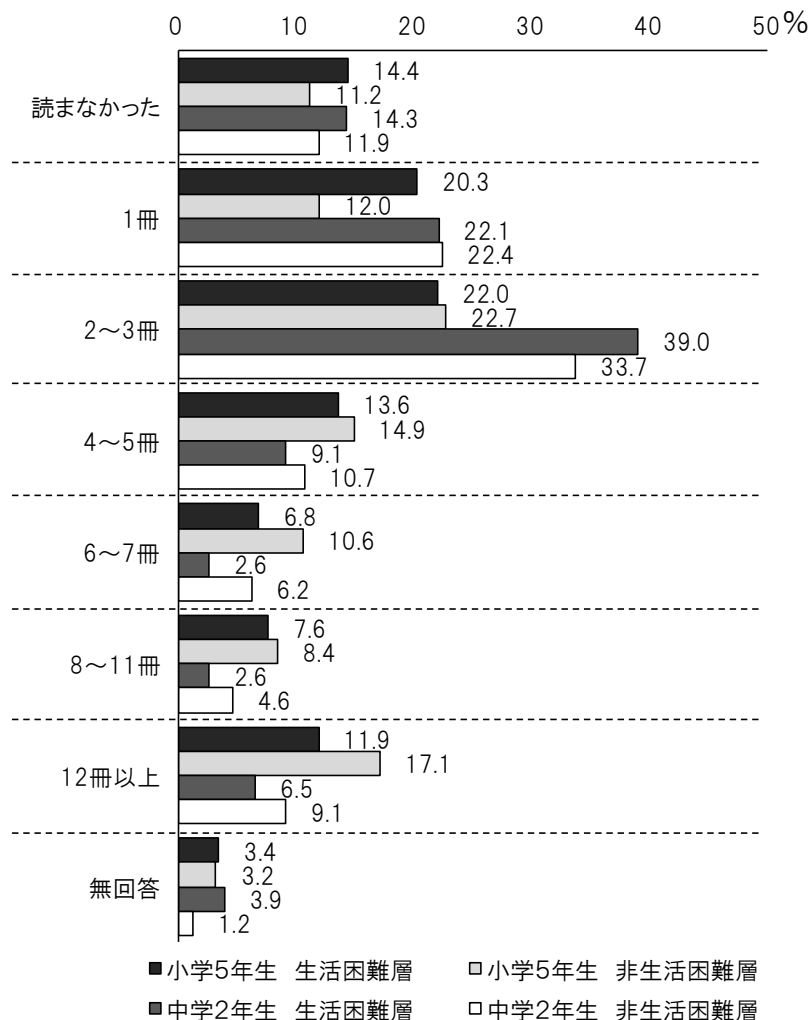
問 13 あなたは、この1か月に本(教科書やマンガ・雑誌以外の本)を何冊くらい読みましたか。(〇はひとつだけ)

※自宅以外で読んだ本も数えてください。

※パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本(電子書籍)も数えてください。

学校調査

この1か月に本(教科書やマンガ・雑誌以外の本)を何冊くらい読んだかについては、すべての対象で「2～3冊」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では、「1冊」が20.3%と、非生活困難層と比べて8.3ポイント高くなっています。また、中学2年生では、「2～3冊」が39.0%と、非生活困難層と比べて5.3ポイント高くなっています。「4～5冊」以上では、いずれの学年も非生活困難層の割合が多くなっています。このことから、生活困難層では、非生活困難層と比べて読む本の冊数が少ない傾向が見られます。



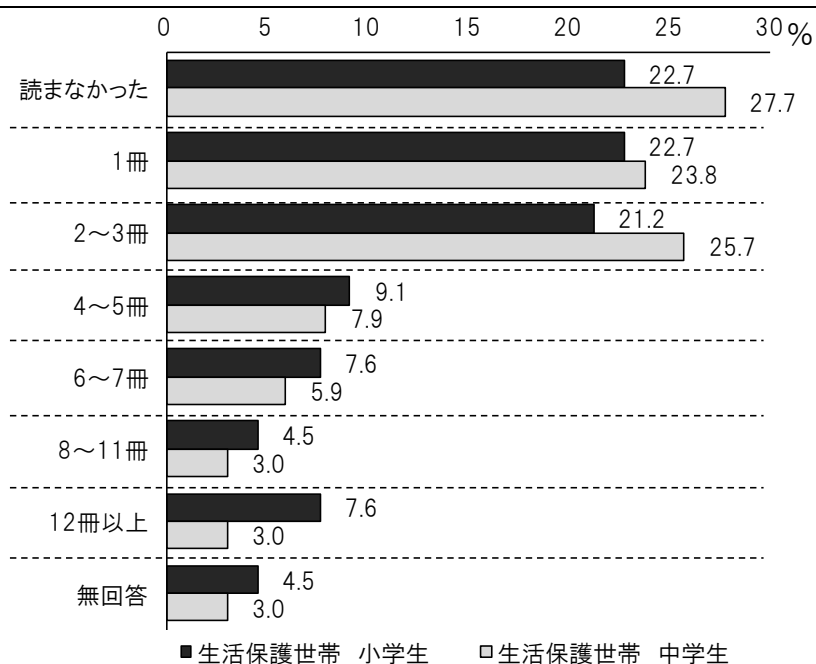
問 13 あなたは、この1か月に本(教科書やマンガ・雑誌以外の本)を何冊くらい読みましたか。(〇はひとつだけ)

※自宅以外で読んだ本も数えてください。

※パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本(電子書籍)も数えてください。

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「読まなかった」と「1冊」がともに22.7%、中学生では「読まなかった」が27.7%と、最も多くなっています。また、小学生では「12冊以上」が7.6%と、中学生をやや上回っています。

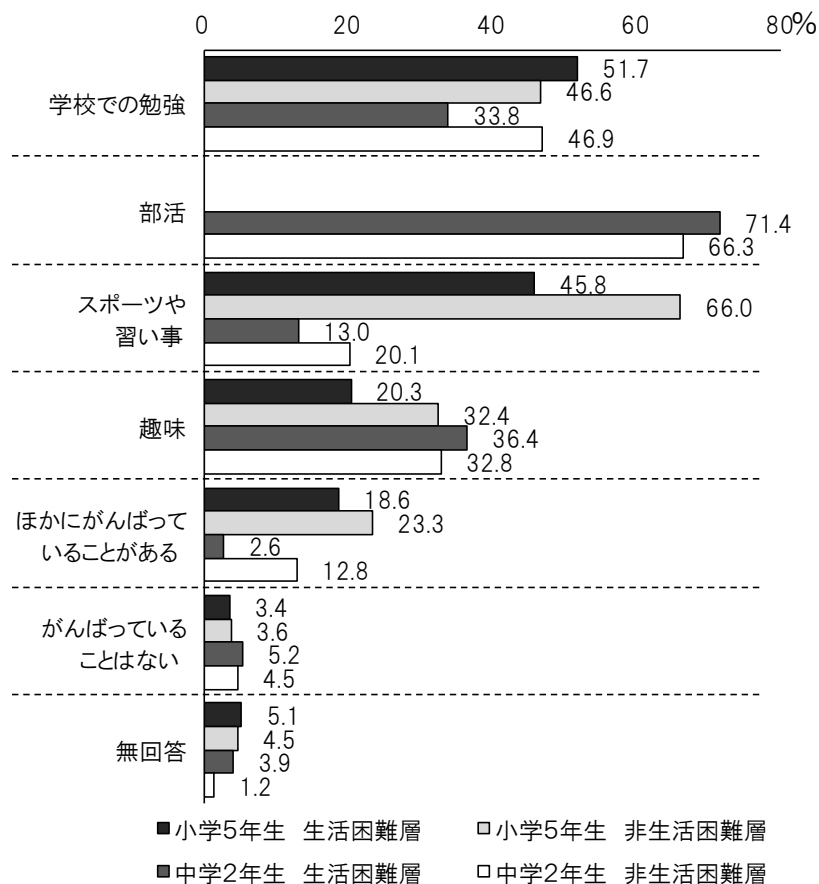


Ⅱ 子ども票

問 14 あなたが頑張っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

学校調査

頑張っていることについては、生活困難層に着目すると、小学5年生では、「学校での勉強」が51.7%で最も多く、非生活困難層と比べて5.1ポイント高くなっています。一方で、「スポーツや習い事」は45.8%で20.2ポイント、「趣味」は20.3%で12.1ポイント、それぞれ非生活困難層と比べて低くなっています。また、中学2年生では、「部活」が71.4%で最も多く、非生活困難層と比べて5.1ポイント高くなっています。一方で、「学校での勉強」は33.8%で13.1ポイント、「ほかにかんばっていることがある」は2.6%で10.2ポイント、それぞれ非生活困難層と比べて低くなっています。さらに、「がんばっていることはない」は学年や生活困難層・非生活困難層にかかわらず、5%前後となっています。このことから、学年や生活困難層・非生活困難層にかかわらず、何かしら頑張っている取り組み対象があることがうかがえます。その内容に着目すると、生活困難層の小学5年生では「スポーツや習い事」や「趣味」、中学2年生では「学校での勉強」が非生活困難層と比べ、低い傾向が見られます。

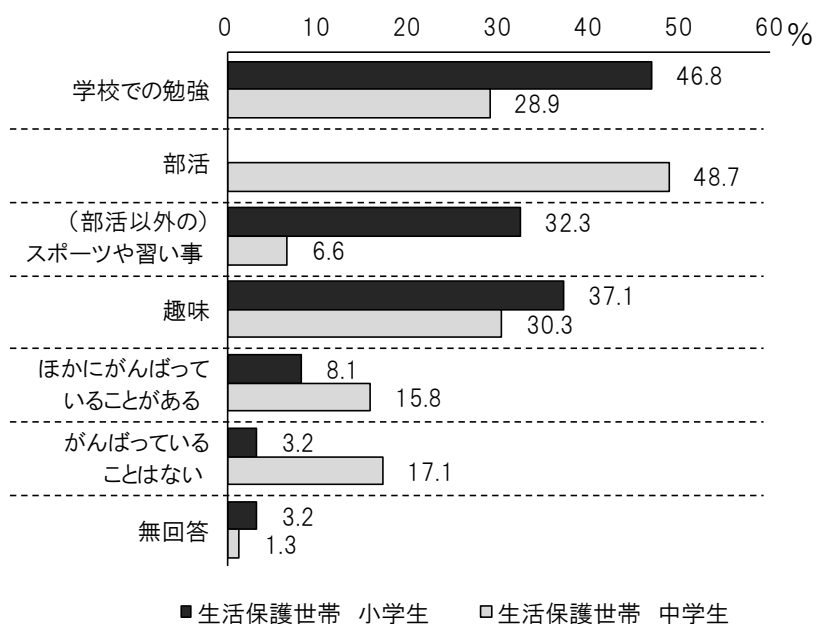


※部活は、中学2年生のみの選択肢

問 14 あなたが頑張っていることは何ですか。(〇はいくつでも)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「学校での勉強」が46.8%、中学生では「部活」が48.7%と、最も多くなっています。また、小学生では「(部活以外の) スポーツや習い事」が32.3%と、中学生の6.6%に比べて25.7ポイント高く、中学生では「ほかにかんばっていることがある」「がんばっていることはない」が1割台と、小学生に比べて多くなっています。



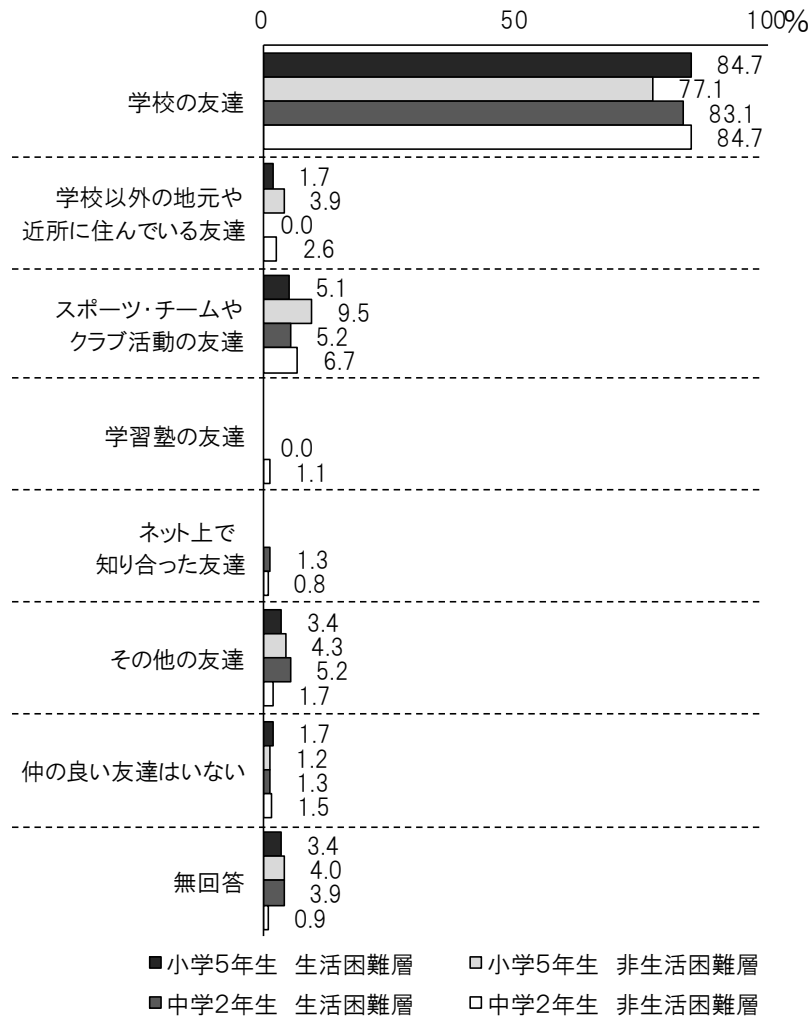
※部活は、生活保護世帯中学生のみの選択肢

3. いろいろな人とのかかわりについて

問 15 あなたの一番仲が良い友達は、どのような友達ですか。(〇はひとつだけ)

学校調査

一番仲が良い友達については、すべての対象で「学校の友達」が最も多く、対象ごとの差はありません。

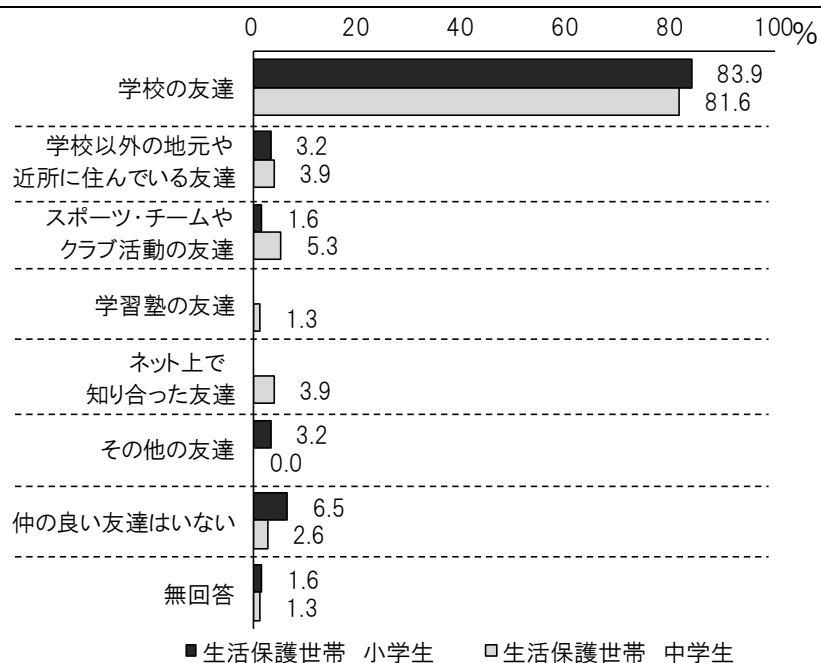


※学習塾の友達・ネット上で知り合った友達は、中学2年生のみの選択肢

問 15 あなたの一番仲が良い友達は、どのような友達ですか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「学校の友達」が8割台と最も多く、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。



※学習塾の友達・ネット上で知り合った友達は、生活保護世帯中学生のみの選択肢

Ⅱ 子ども票

問 16 人とかかわりについて、ふだんどのように思っていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

① 友達とたくさん遊んでいると思う

【小学5年生のみ】

学校調査

友達とたくさん遊んでいると思うかについては、すべての対象で「とてもそう思う」が最も多く、対象ごとの差はありません。



【小学生のみ】

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、「とてもそう思う」が65.2%と最も多く、次いで「少しはそう思う」が18.2%となっています。



問 16 人とかかわりについて、ふだんどのように思っていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

① 同性の友達と遊んだり、仲良くしていると思う

【中学2年生のみ】

学校調査

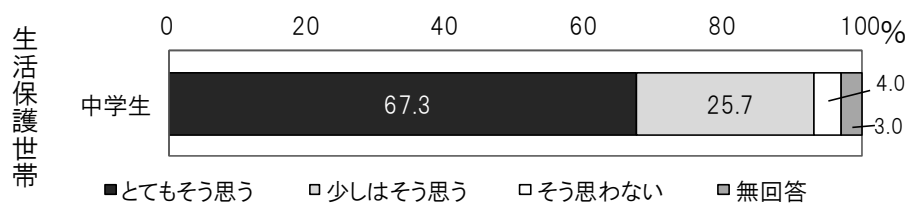
同性の友達と遊んだり、仲良くしていると思うかについては、すべての対象で「とてもそう思う」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、「とてもそう思う」が76.6%で、非生活困難層と比べて7.1ポイント低くなっています。



【中学生のみ】

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、「とてもそう思う」が67.3%と最も多く、次いで「少しはそう思う」が25.7%となっています。



Ⅱ 子ども票

問 16 人とかかわりについて、ふだんどのように思っていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

② 友達と仲良くしていると思う

【小学5年生のみ】

学校調査

友達と仲良くしていると思うかについては、すべての対象で「とてもそう思う」が最も多く、対象ごとの差はありません。



【小学生のみ】

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、「とてもそう思う」が74.2%と最も多く、次いで「少しはそう思う」が13.6%となっています。



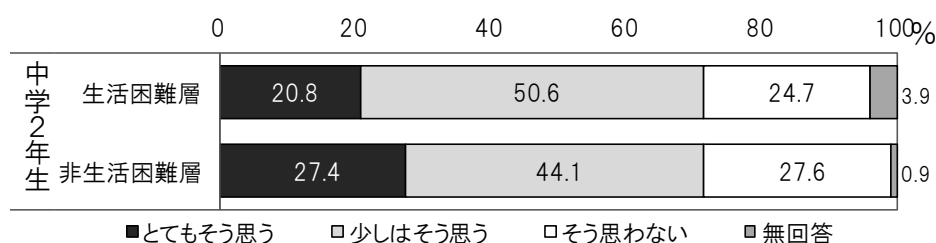
問 16 人とかかわりについて、ふだんどのように思っていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

② 異性の友達と遊んだり、仲よくしていると思う

【中学2年生のみ】

学校調査

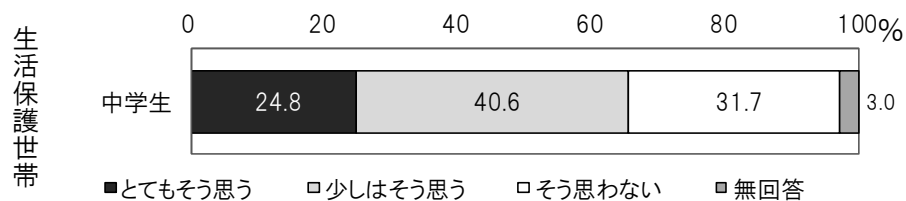
異性の友達と遊んだり、仲良くしていると思うかについては、すべての対象で「少しはそう思う」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、「とてもそう思う」が20.8%で、非生活困難層と比べて6.6ポイント低くなっています。



【中学生のみ】

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、「少しはそう思う」が40.6%と最も多く、次いで「そう思わない」が31.7%となっています。



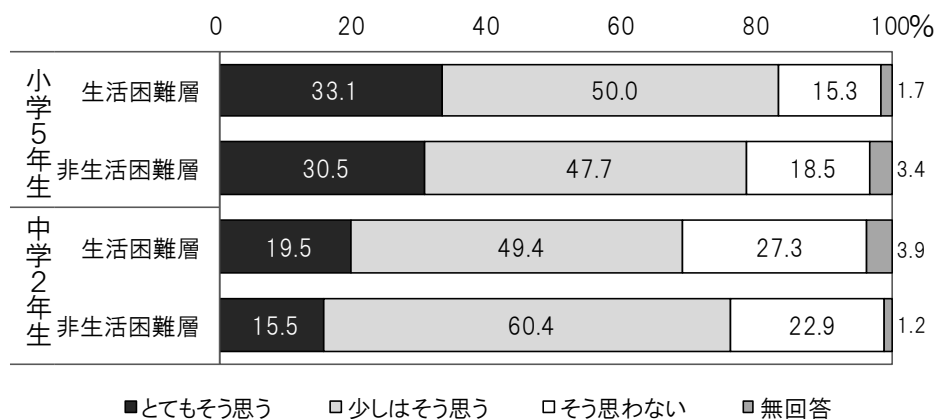
Ⅱ 子ども票

問 16 人とかかわりについて、ふだんどのように思っていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

③ 友達に好かれていると思う

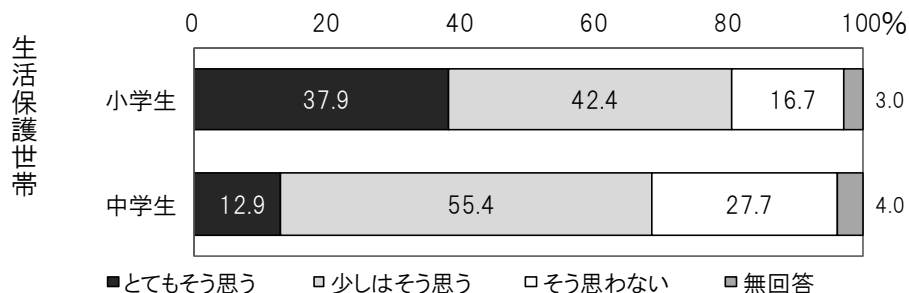
学校調査

友達に好かれていると思うかについては、すべての対象で「少しはそう思う」が最も多くなっています。また、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、学年が上がると「とてもそう思う」の割合が低くなる傾向が見られます。生活困難層に着目すると、中学2年生では、「そう思わない」が27.3%と、非生活困難層と比べて4.4ポイント高くなっています。このことから、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、学年が上がると友だちに好かれていないと感じている生徒の割合が高くなる傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「少しはそう思う」が4割台から5割台と最も多くなっています。学年が上がると、「とてもそう思う」と「少しはそう思う」の合計割合が低くなり、「そう思わない」が高くなっています。

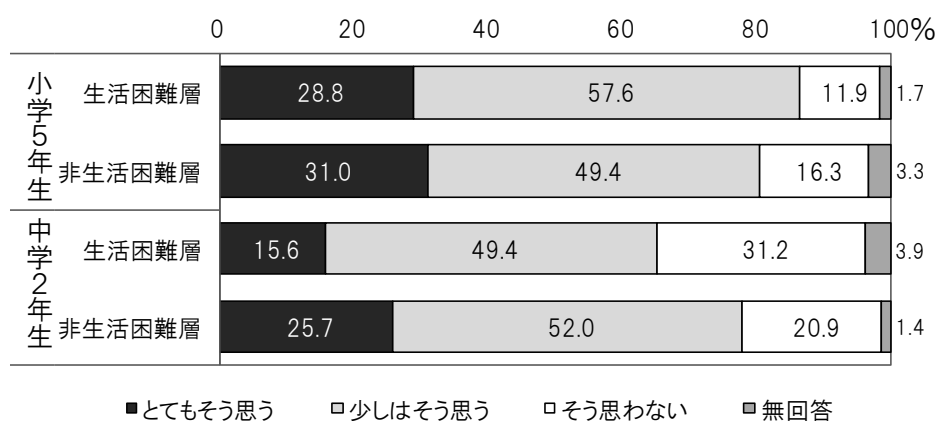


問 16 人とかかわりについて、ふだんどのように思っていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

④ 学校の先生からよいところを認められていると思う

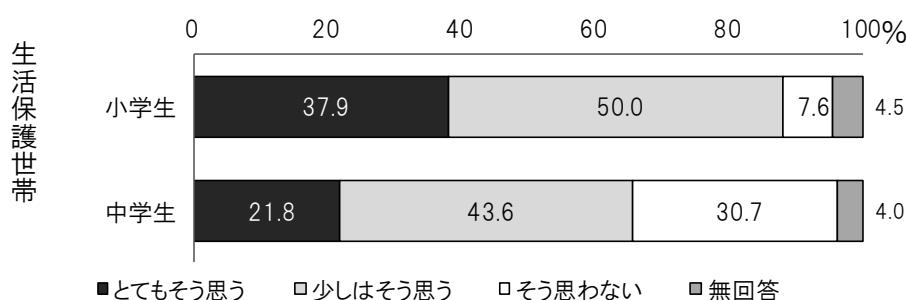
学校調査

学校の先生からよいところを認められていると思うかについては、すべての対象で「少しはそう思う」が最も多くなっています。また、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、学年が上がると「とてもそう思う」の割合が低くなる傾向が見られ、生活困難層ではその傾向が顕著となっています。生活困難層に着目すると、中学2年生では、「そう思わない」が31.2%と、非生活困難層と比べて10.3ポイント高くなっています。このことから、中学2年生の生活困難層では、先生によりよいところを認められていないと感じている割合が非生活困難層と比べて多い傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「少しはそう思う」が4割台から5割と最も多くなっています。学年が上がると、「とてもそう思う」と「少しはそう思う」の合計割合が低くなり、「そう思わない」が高くなっています。



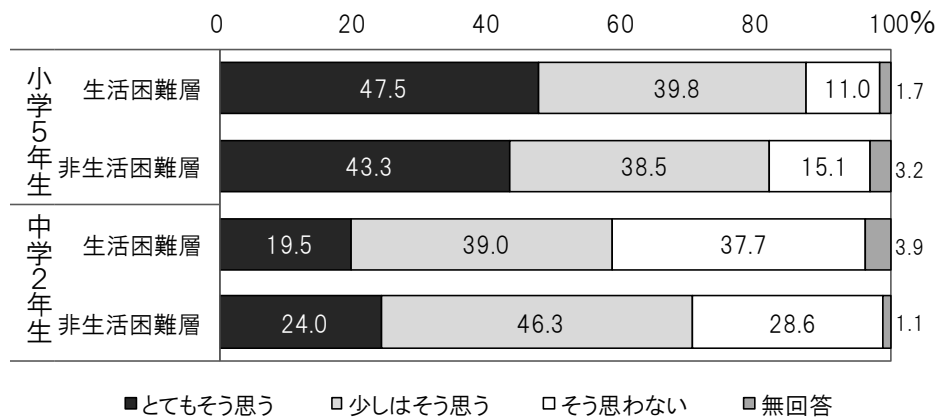
Ⅱ 子ども票

問 16 人とかかわりについて、ふだんどのように思っていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑤ 学校の先生と話すのはうれしいと思う

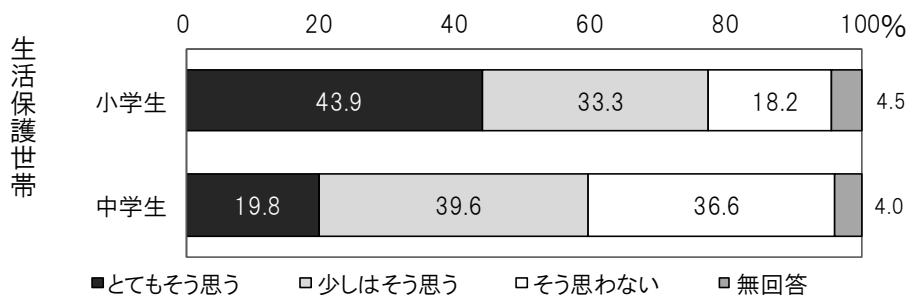
学校調査

学校の先生と話すのはうれしいと思うかについては、小学5年生で「とてもそう思う」が4割半ば、中学2年生で「少しはそう思う」が3割後半から4割半ばと最も多くなっています。また、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、学年が上がると「とてもそう思う」の割合が低くなる傾向が見られ、生活困難層ではその傾向が顕著となっています。生活困難層に着目すると、中学2年生では、「そう思わない」が37.7%と、非生活困難層に比べ9.1ポイント高くなっています。このことから、生活困難層・非生活困難層にかかわらず学年が上がると、先生と話すことをうれしいと思わない生徒の割合が高くなる傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「とてもそう思う」が43.9%、中学生では「少しはそう思う」が39.6%と、最も多くなっています。また、中学生では「そう思わない」が36.6%と、小学生に比べて高くなっています。

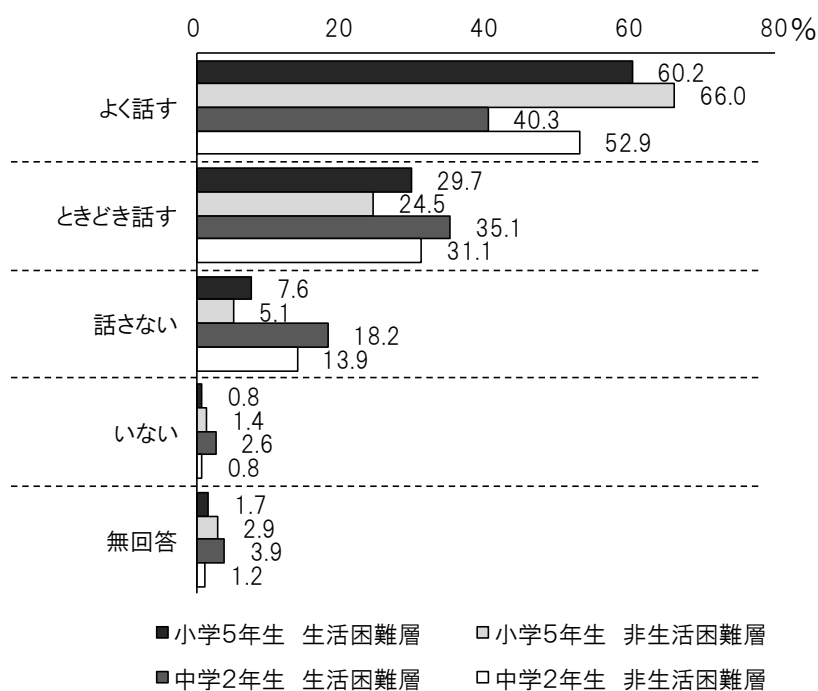


問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

① お母さん

学校調査

困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことをお母さんにどれくらい話すかについては、すべての対象で「よく話す」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では、「よく話す」が60.2%で最も多いものの、非生活困難層と比べて5.8ポイント低くなっています。また、中学2年生では、「よく話す」が40.3%で最も多いものの、非生活困難層と比べて12.6ポイント低くなっています。さらに、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、学年が上がると「よく話す」の割合が低くなり、「ときどき話す」や「話さない」の割合が高くなっています。このことから、母親に困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことなどを話す頻度は生活困難層で低い傾向が見られ、また、学年が上がると話す頻度が低くなる傾向が見られます。



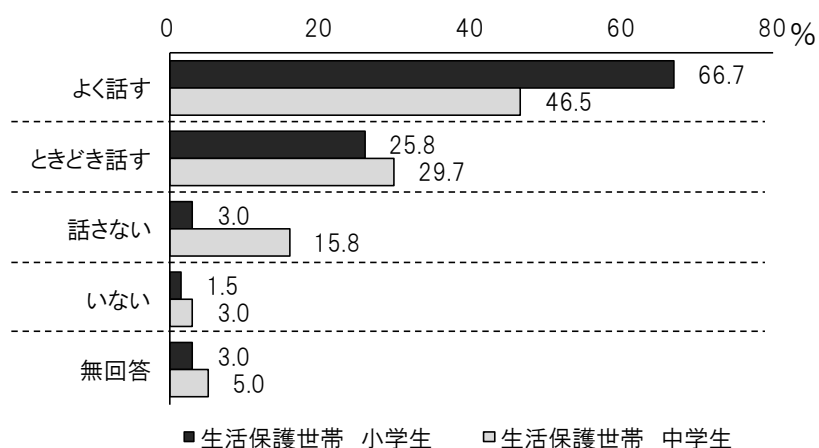
Ⅱ 子ども票

問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

① お母さん

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「よく話す」が4割台から6割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「話さない」が15.8%と、小学生に比べて12.8ポイント高く、学年が上がると話す頻度は低くなっています。

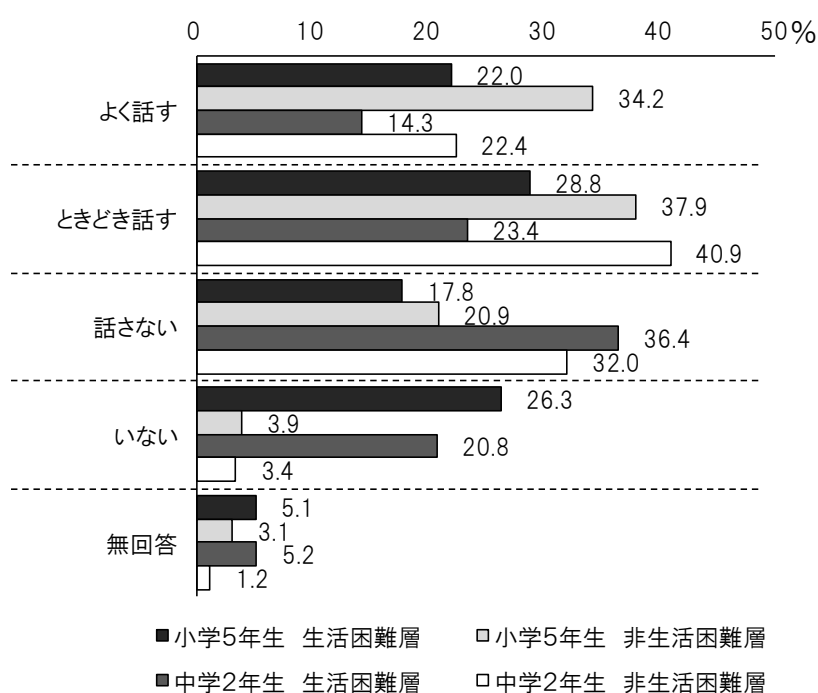


問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

② お父さん

学校調査

困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことをお父さんにどれくらい話すかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生では「ときどき話す」、中学2年生では「話さない」が最も多くなっています。さらに、小学5年生、中学2年生のいずれも、「いない」が、非生活困難層を大きく上回っています。このことから、父親に困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことなどを話す頻度は生活困難層で低く、特に中学2年生で低い傾向が見られます。



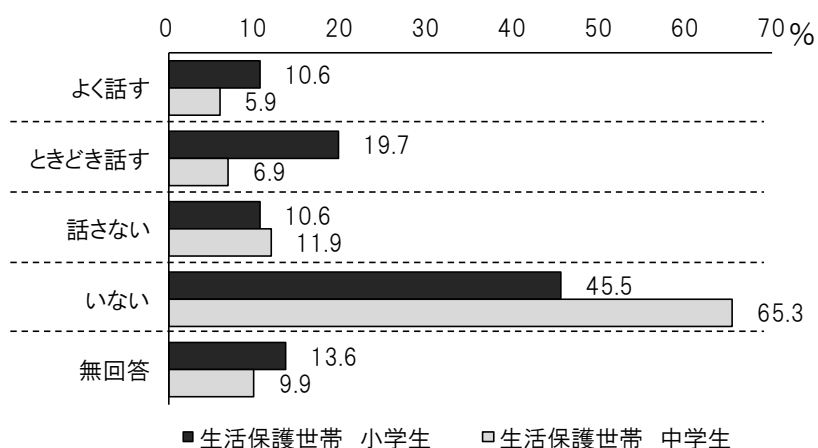
Ⅱ 子ども票

問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

② お父さん

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「いない」が4割台から6割台と最も多く、学年が上がると高くなっています。また、小学生では「ときどき話す」が19.7%と、中学生に比べて12.8ポイント高く、学年が上がると話す頻度は低くなっています。

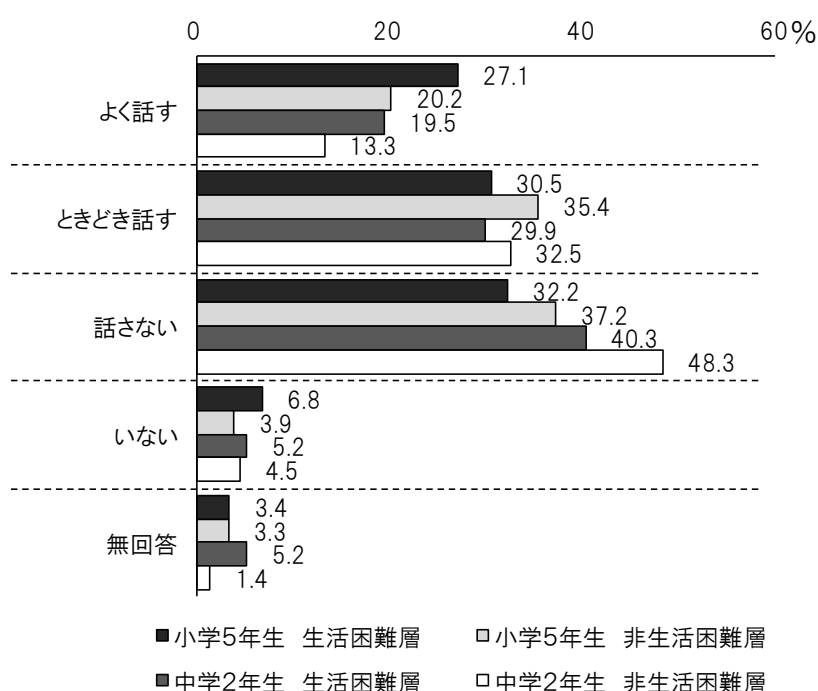


問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

③ おばあちゃん・おじいちゃん、いとかなどの親せき

学校調査

困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことをおばあちゃん・おじいちゃん、いとかなどの親せきにどれくらい話すかについては、すべての対象で「話さない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「よく話す」で非生活困難層を上回っている一方、「話さない」では非生活困難層を下回っています。このことから、生活困難層では非生活困難層と比べて祖父母・いとかなどの親せきに困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことなどを話す頻度が高い傾向が見られます。



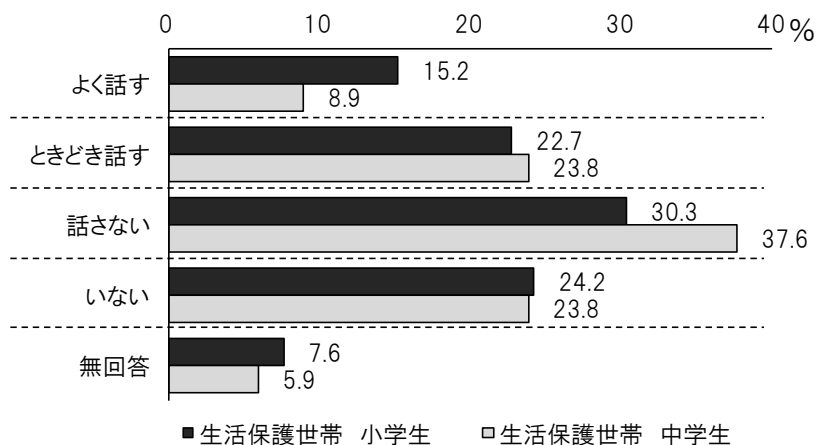
Ⅱ 子ども票

問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

③ おばあちゃん・おじいちゃん、いとかなどの親せき

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「話さない」が3割台と最も多くなっています。また、小学生では「よく話す」が15.2%と、中学生に比べてやや多くなっています。

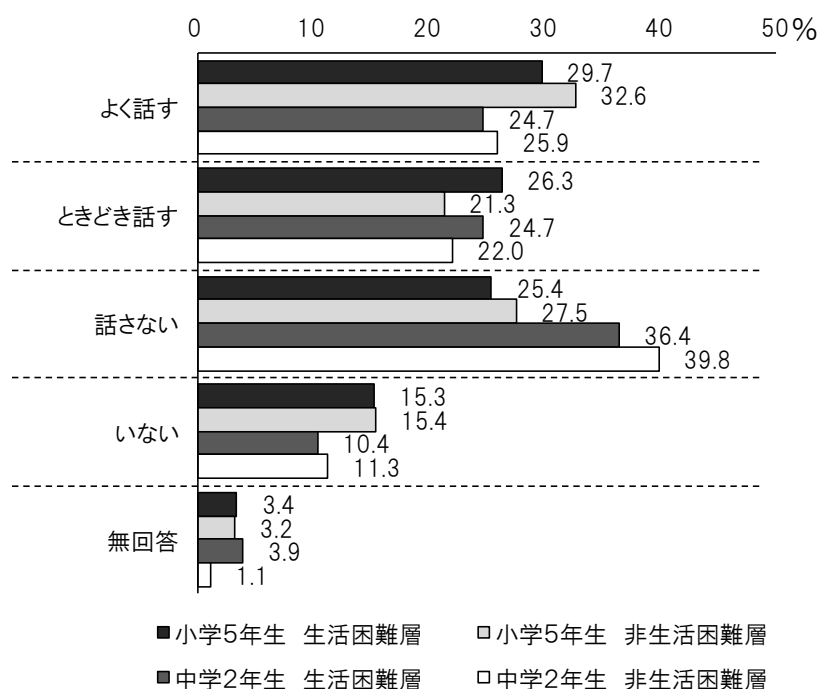


問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、〇はひとつだけ)

④ 兄弟姉妹

学校調査

困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを兄弟姉妹にどれくらい話すかについては、小学5年生で「よく話す」が2割後半から3割前半、中学2年生で「話さない」が3割半ばから後半と最も多くなっています。「よく話す」と「ときどき話す」の合計割合は、小学5年生では5割台、中学2年生では4割台と、生活困難層・非生活困難層間での差は見られず、学年が上がると低くなっています。一方、中学2年生では、生活困難層・非生活困難層のいずれも「話さない」で3割を超えています。このことから、学年が上がると、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、「話さない」の割合が高くなる傾向が見られます。



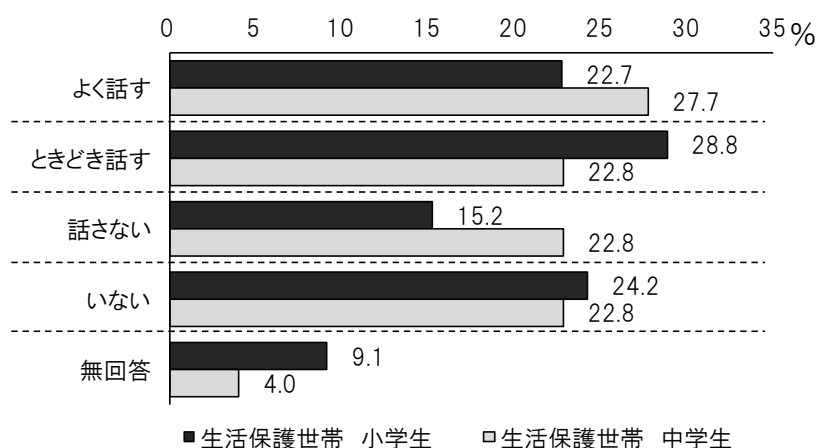
Ⅱ 子ども票

問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

④ 兄弟姉妹

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「ときどき話す」が28.8%、中学生では「よく話す」が27.7%と、最も多くなっています。また、中学生では「話さない」が22.8%と、小学生に比べて7.6ポイント高くなっています。

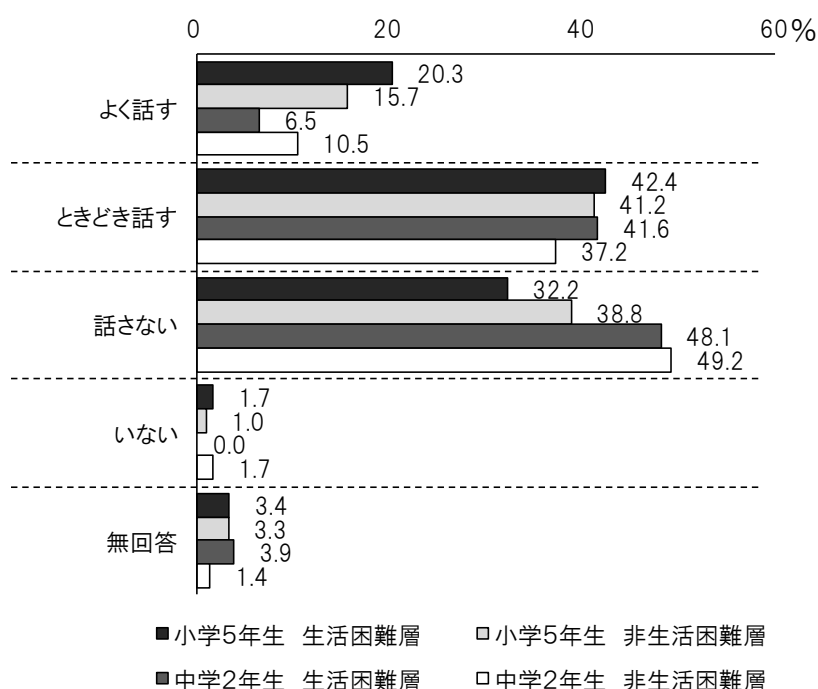


問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑤ 学校の先生

学校調査

困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを学校の先生にどれくらい話すかについては、小学5年生で「ときどき話す」が4割前半、中学2年生で「話さない」が4割後半と最も多くなっています。「よく話す」と「ときどき話す」の合計割合は、小学5年生では5割後半から6割前半、中学2年生では4割台と、生活困難層・非生活困難層間での差は大きくは見られず、学年が上がると低くなっています。一方、中学2年生では、生活困難層・非生活困難層のいずれも「話さない」で5割弱となっています。このことから、学年が上がると、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、学校の先生と困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことなどを話す頻度は低下する傾向が見られます。



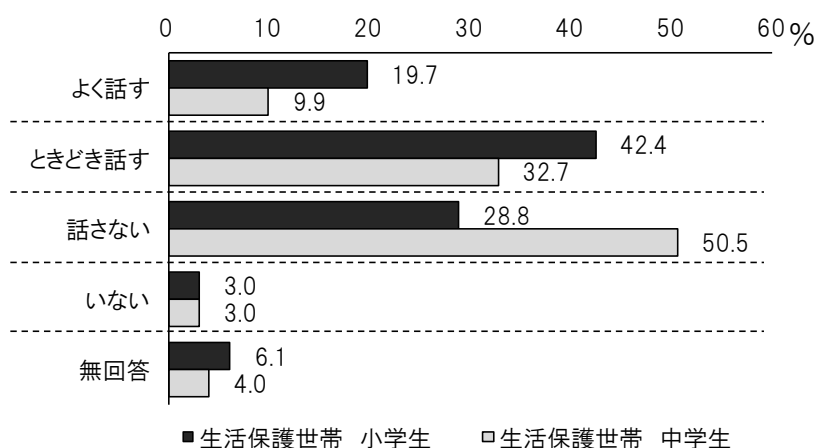
Ⅱ 子ども票

問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑤ 学校の先生

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「ときどき話す」が42.4%、中学生では「話さない」が50.5%と、最も多くなっています。また、小学生では「よく話す」と「ときどき話す」を合わせた《話す》が6割台と、中学生に比べて多くなっています。

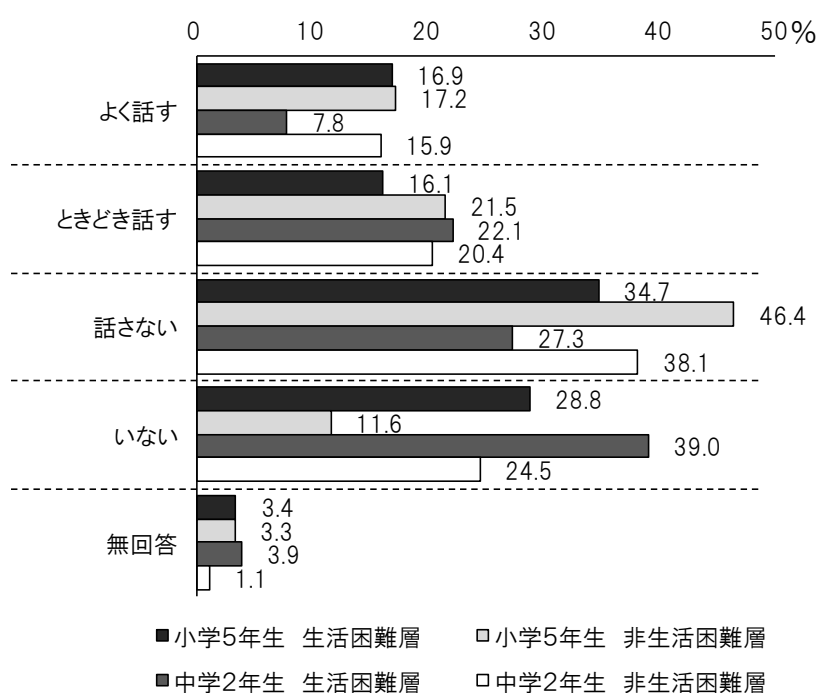


問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑥ スポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生

学校調査

困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことをスポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生にどれくらい話すかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生では、「いない」が28.8%と、非生活困難層に比べ17.2ポイント高く、中学2年生では39.0%と、非生活困難層に比べ14.5ポイント高くなっています。このことから、生活困難層では、話し相手となりうるスポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生自体が「いない」子どもの割合が多い傾向が見られます。



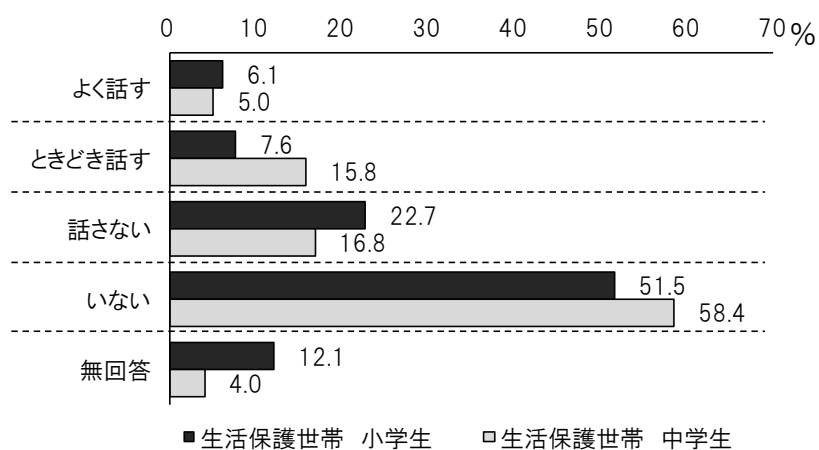
Ⅱ 子ども票

問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑥ スポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「いない」が5割台と最も多くなっています。また、中学生では「ときどき話す」が15.8%と、小学生に比べて8.2ポイント高くなっています。

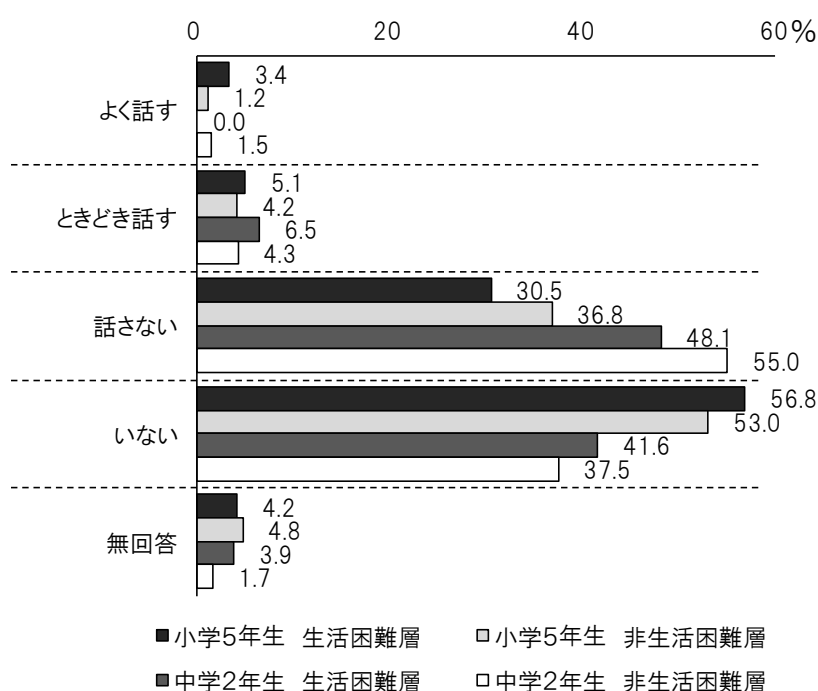


問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑦ スクールカウンセラー

学校調査

困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことをスクールカウンセラーにどれくらい話すかについては、小学5年生で「いない」が5割前半から半ば、中学2年生で「話さない」が4割後半から5割半ばと最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「話さない」で非生活困難層を下回っています。このことから、生活困難層では、スクールカウンセラーと困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことなどを話す頻度は、非生活困難層に比べて高い傾向が見られます。



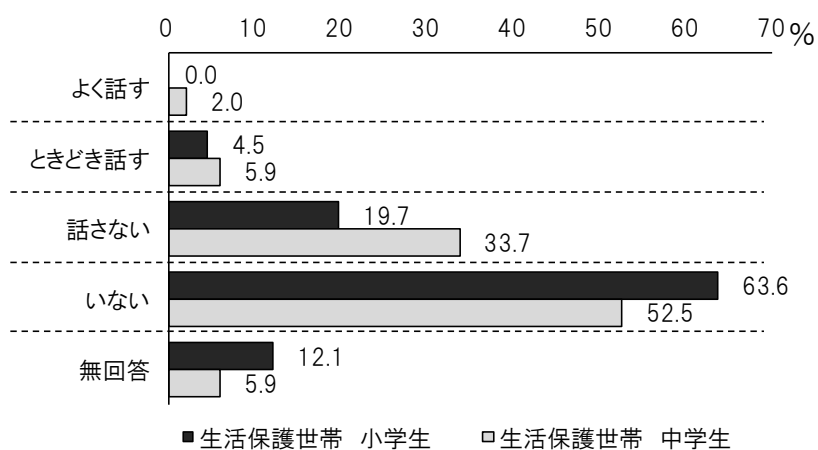
Ⅱ 子ども票

問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑦ スクールカウンセラー

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「いない」が5割台から6割台と最も多くなっています。また、中学生では「話さない」が33.7%と、小学生に比べて14.0ポイント高くなっています。

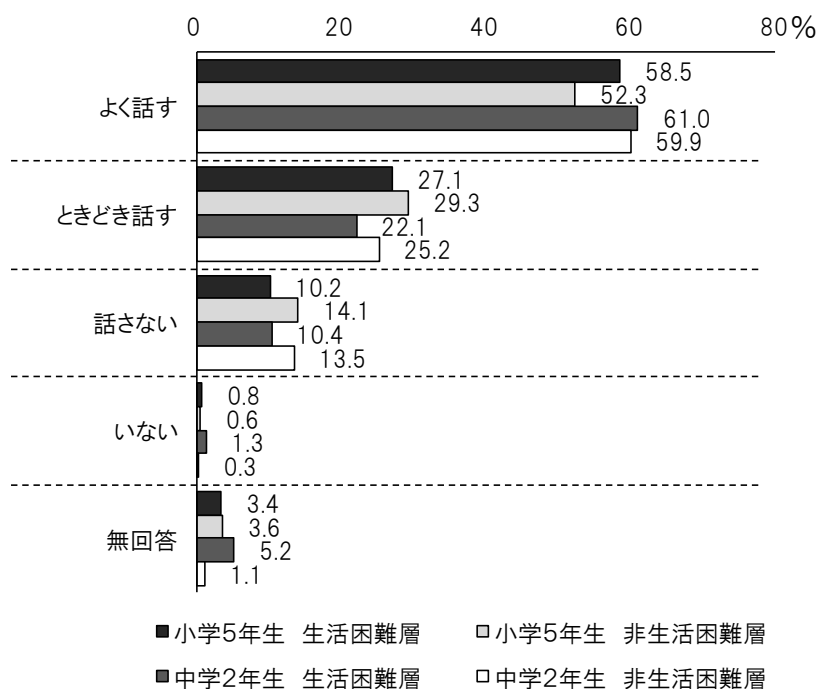


問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、〇はひとつだけ)

⑧ 友達

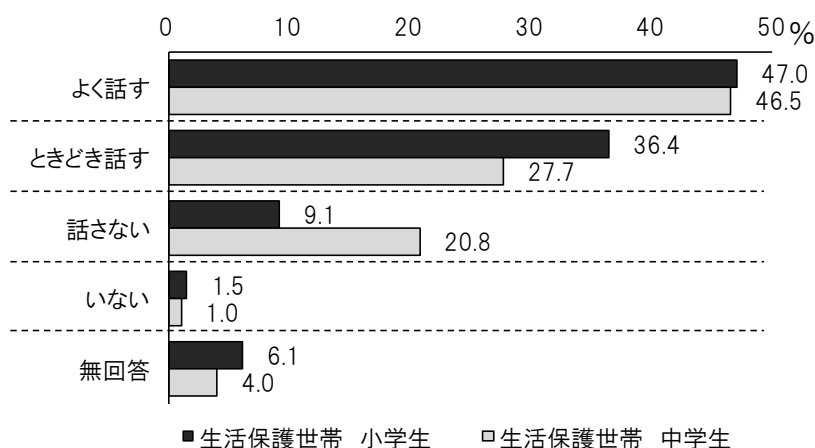
学校調査

困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを友達にどれくらい話すかについては、すべての対象で「よく話す」が最も多く、対象ごとの差はありません。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「よく話す」が4割台と最も多くなっています。また、小学生では「ときどき話す」が36.4%と、中学生に比べて8.7ポイント、中学生では「話さない」が20.8%と、小学生に比べて11.7ポイント高くなっています。



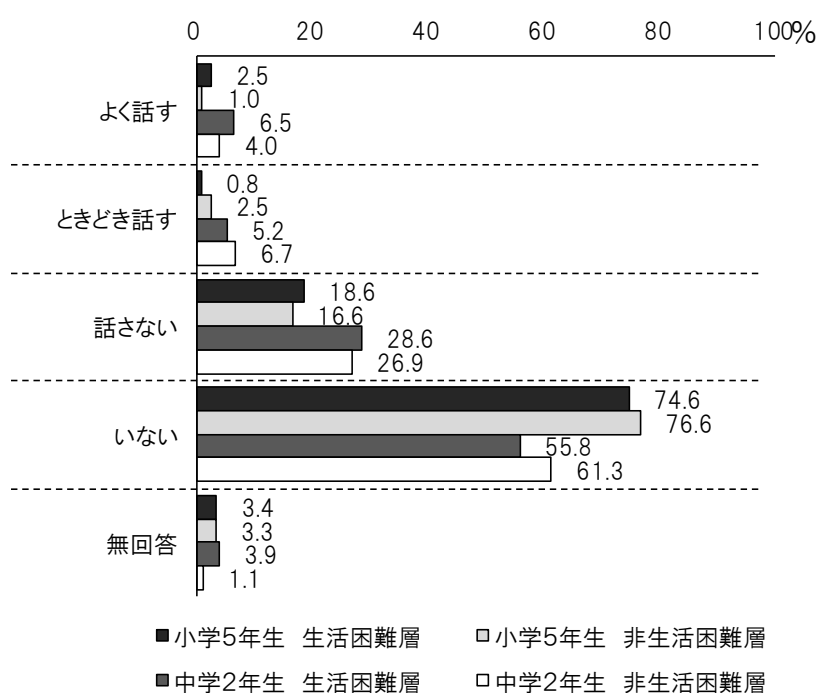
Ⅱ 子ども票

問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑨ インターネット上で知り合った人

学校調査

困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことをインターネット上で知り合った人にどれくらい話すかについては、すべての対象で「いない」が最も多くなっています。また、小学5年生で「いない」が7割半ばなのに対して、中学2年生では5割半ばから6割前半と少なくなっています。このことから、学年が上がると、インターネット上で知り合った人がいる割合は増加する傾向が見られるものの、生活困難層・非生活困難層間での差は見られません。

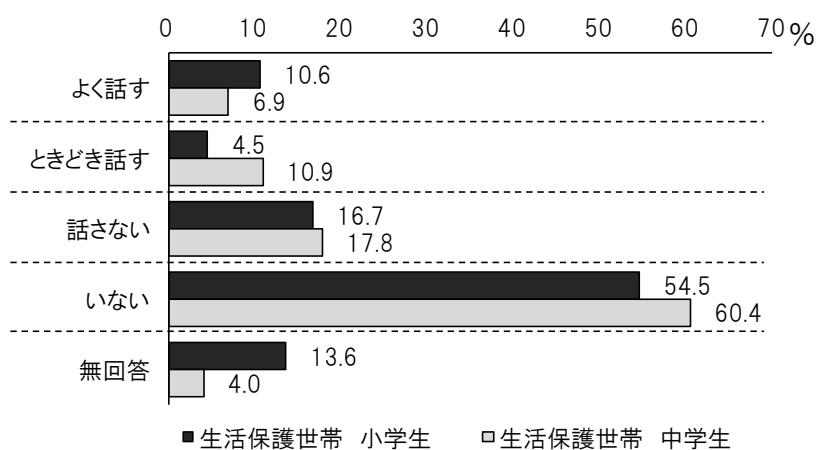


問 17 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑨ インターネット上で知り合った人

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「いない」が5割台から6割台と最も多くなっています。また、小学生では「よく話す」が10.6%、中学生では「ときどき話す」が10.9%、といずれも1割を超えています。また、いずれも「話さない」が1割台となっています。

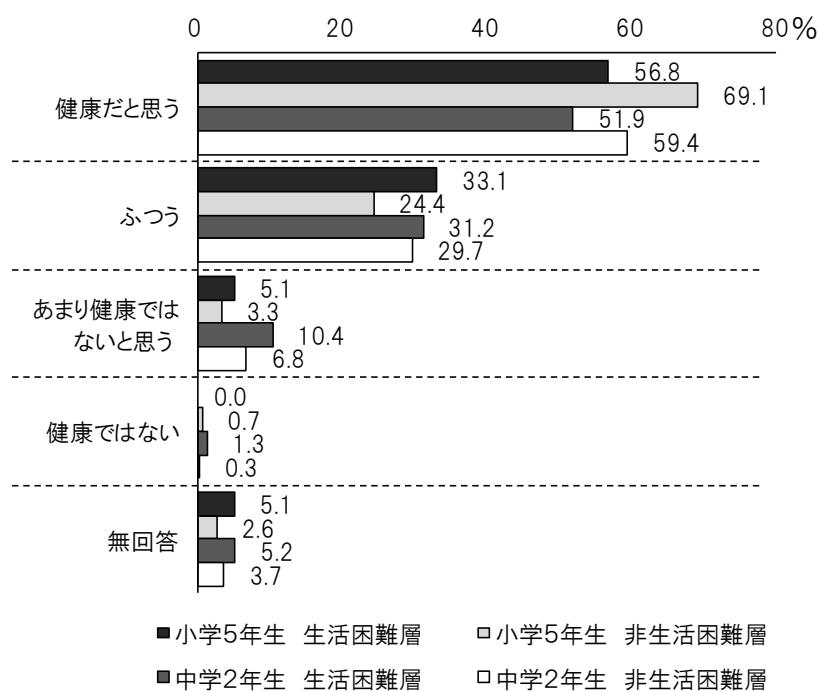


4. あなたの健康状況について

問 18 あなたは今健康ですか。(○はひとつだけ)

学校調査

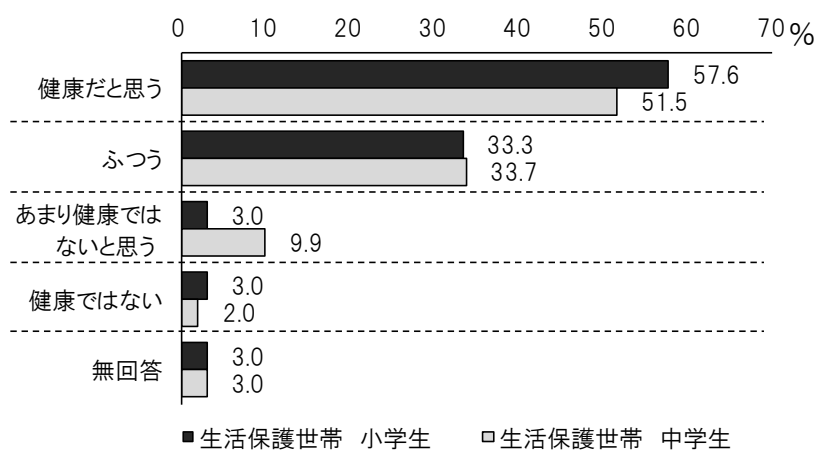
今の健康状態については、すべての対象で「健康だと思う」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生で「健康だと思う」が 56.8%と、非生活困難層に比べ 12.3 ポイント低くなっています。



問 18 あなたは今健康ですか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「健康だと思う」が5割台と最も多く、次いで「ふつう」が3割台となっています。また、中学生では「あまり健康ではないと思う」が 9.9%と、小学生をやや上回っています。

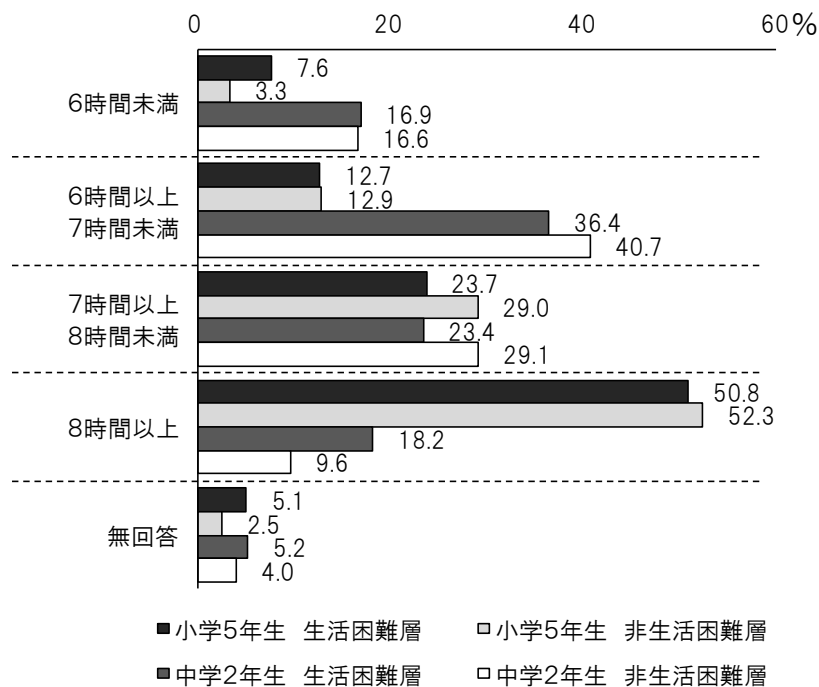


Ⅱ 子ども票

問 19 学校に行く日の睡眠時間を教えてください。(〇はひとつだけ)

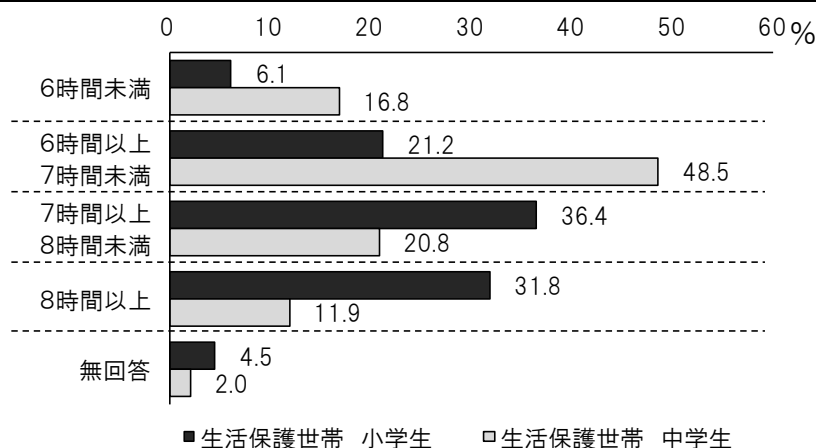
学校調査

学校に行く日の睡眠時間については、小学5年生で「8時間以上」が5割前半、中学2年生で「6時間以上7時間未満」が3割半ばから4割前半と、最も多くなっています。このことから、学年が上がると、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、概ね睡眠時間は短くなる傾向が見られます。



生活保護調査

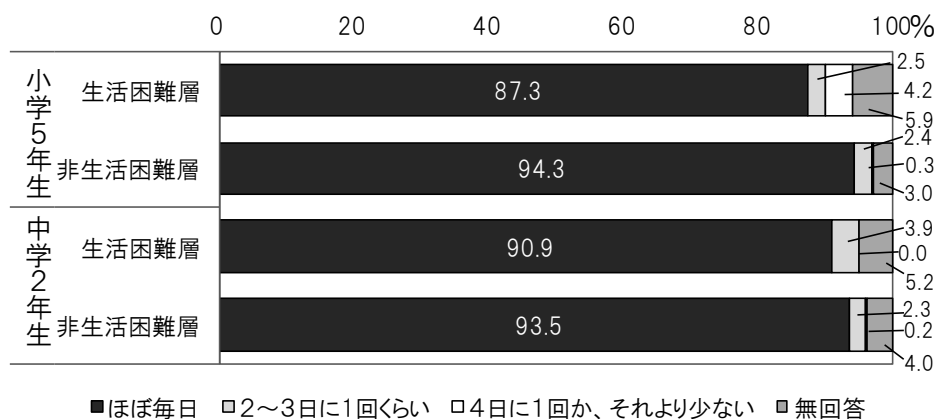
生活保護世帯について見ると、小学生では「7時間以上8時間未満」が36.4%、中学生では「6時間以上7時間未満」が48.5%と、最も多くなっています。小学生で「7時間以上8時間未満」と「8時間以上」を合わせた《7時間以上》が中学生に比べて多く、中学生では「6時間未満」と「6時間以上7時間未満」を合わせた《7時間未満》が小学生に比べて多くなっています。



問 20 お風呂(または、シャワー)に入る回数はどのくらいですか。(〇はひとつだけ)

学校調査

お風呂(または、シャワー)に入る回数については、すべての対象で「ほぼ毎日」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「ほぼ毎日」の割合が非生活困難層を下回っています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「ほぼ毎日」が7割台から8割台と最も多く、学年が上がると高くなっています。また、小学生では「2～3日に1回くらい」が16.7%と、中学生に比べて多くなっています。

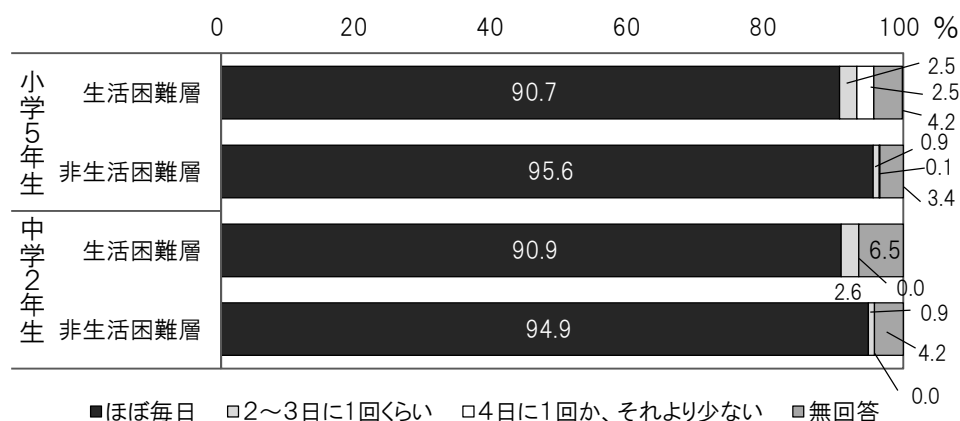


Ⅱ 子ども票

問 21 下着(パンツ)を交換する回数はどのくらいですか。(〇はひとつだけ)

学校調査

下着(パンツ)を交換する回数については、すべての対象で「ほぼ毎日」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「ほぼ毎日」の割合が非生活困難層を下回っています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「ほぼ毎日」が8割台から9割台と最も多く、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

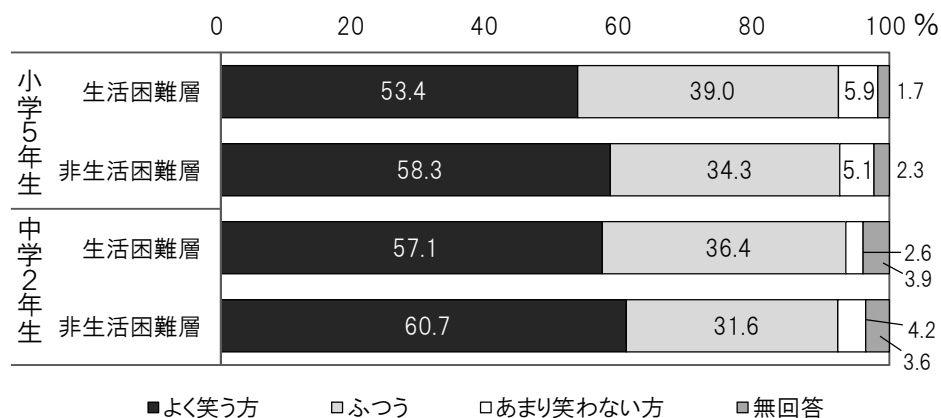


問 22 あなたは、クラスの人たちと比べると、自分をどのように思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

① 笑い

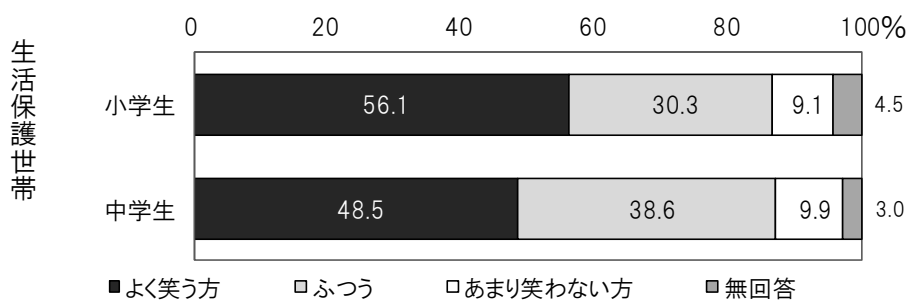
学校調査

クラスの人たちと比べて、よく笑うかについては、すべての対象で「よく笑う方」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「よく笑う方」で非生活困難層をやや下回っています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「よく笑う方」が4割台から5割台と最も多く、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「ふつう」が38.6%と、小学生に比べて8.3ポイント高くなっています。



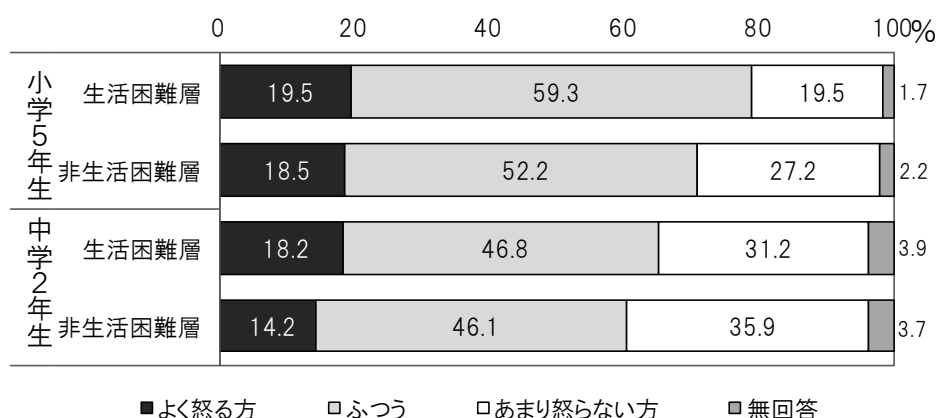
Ⅱ 子ども票

問 22 あなたは、クラスの人たちと比べると、自分をどのように思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

② 怒り

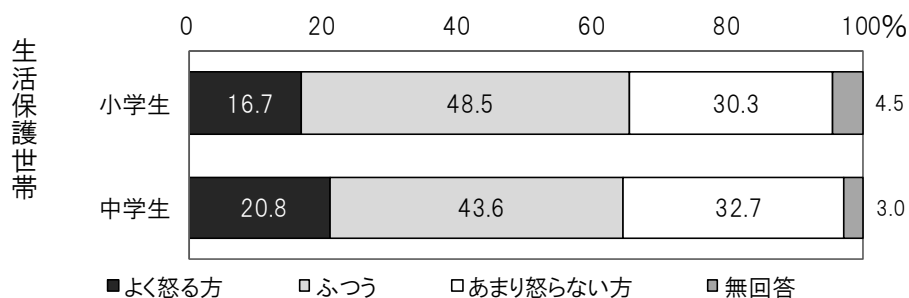
学校調査

クラスの人たちと比べて、よく怒るかについては、すべての対象で「ふつう」が最も多くなっています。また、小学5年生で「あまり怒らない方」が1割後半から2割後半なのに対して、中学2年生では3割前半から後半とやや小学5年生を上回っています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「あまり怒らない方」で、非生活困難層を下回っています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「ふつう」が4割台と最も多く、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

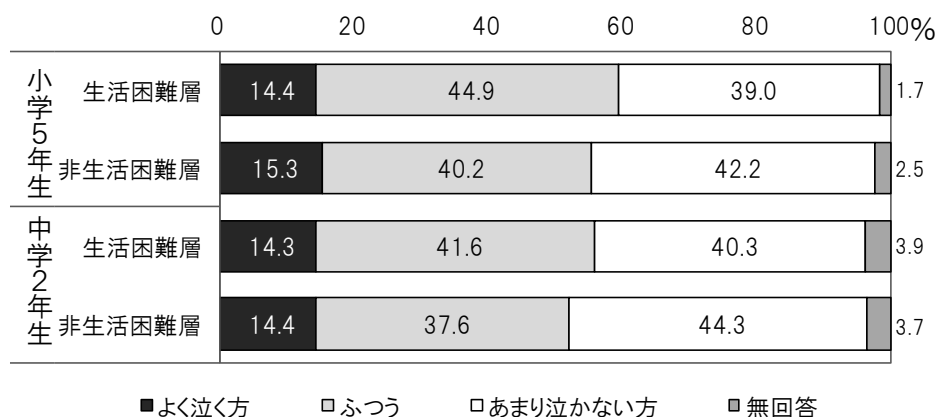


問 22 あなたは、クラスの人たちと比べると、自分をどのように思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

③ 涙

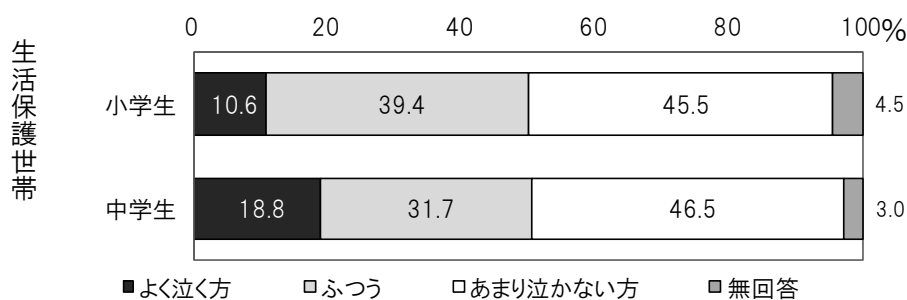
学校調査

クラスの人たちと比べて、よく泣くかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「あまり泣かない方」で、非生活困難層をやや下回っていますが、生活困難層・非生活困難層間での大きな差は見られません。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「あまり泣かない方」が4割台と最も多くなっています。また、小学生では「ふつう」が39.4%と、中学生に比べて7.7ポイント高く、中学生では「よく泣く方」が18.8%と、小学生に比べて8.2ポイント高くなっています。



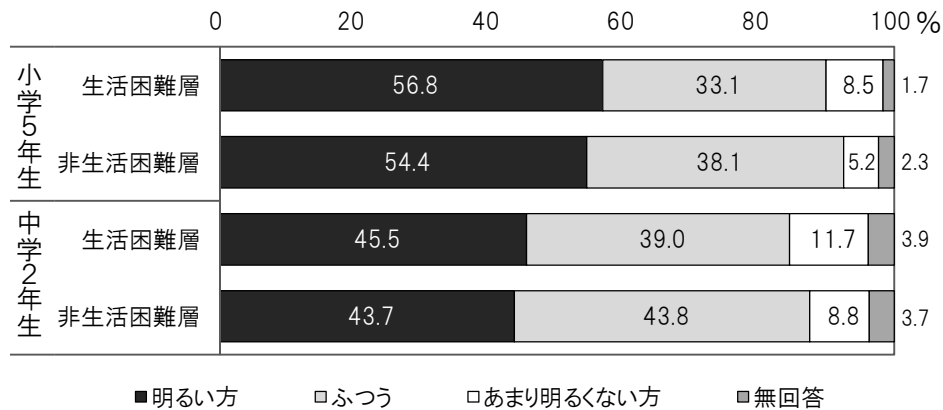
Ⅱ 子ども票

問 22 あなたは、クラスの人たちと比べると、自分をどのように思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

④ 性格

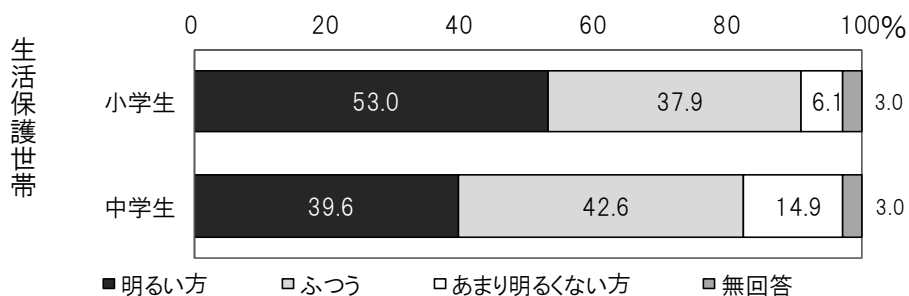
学校調査

クラスの人たちと比べて、性格が明るい方かについては、生活困難層・非生活困難層のいずれも学年が上がると「明るい方」の割合が低くなっています。また、生活困難層・非生活困難層間での大きな傾向の違いは見られません。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「明るい方」、中学生では「ふつう」が最も多く、「明るい方」は、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「あまり明るくない方」が 14.9%と、小学生に比べて 8.8 ポイント高くなっています。

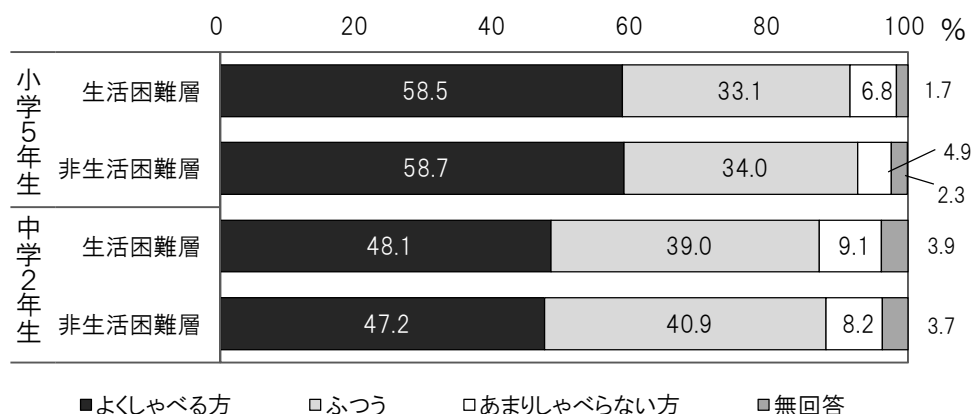


問 22 あなたは、クラスの人たちと比べると、自分をどのように思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑤ 話すこと

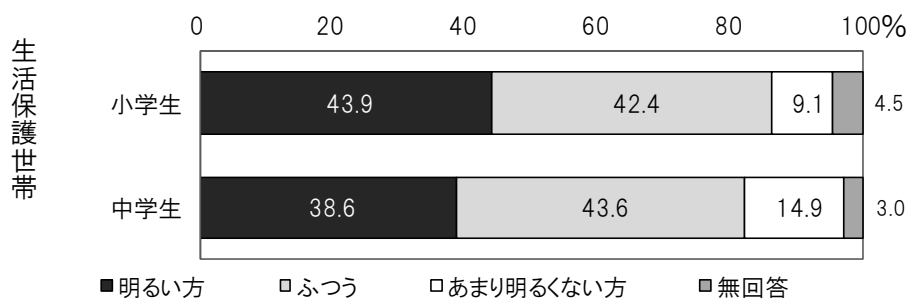
学校調査

クラスの人たちと比べて、よく話すかについては、生活困難層・非生活困難層のいずれも「よくしゃべる方」が最も多くなっています。生活困難層・非生活困難層間での大きな傾向の違いは見られません。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「明るい方」、中学生では「ふつう」が最も多くなっています。学年が上がると、「明るい方」がやや低くなっています。



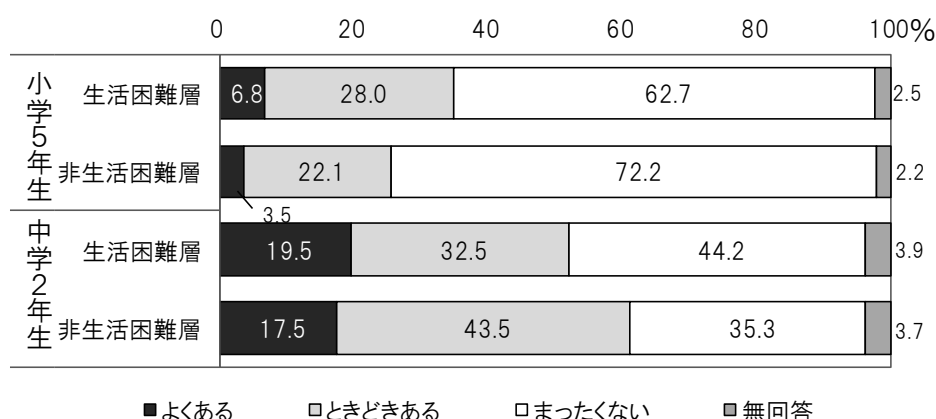
Ⅱ 子ども票

問 23 あなたは、つぎのことがどれくらいありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

① 昼間の居眠り

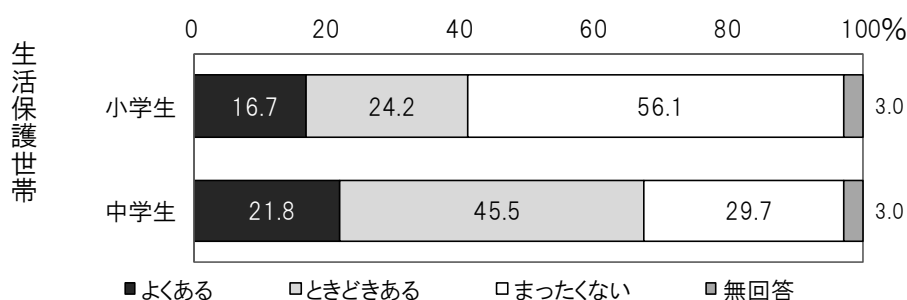
学校調査

昼間の居眠りがよくあるかについては、小学5年生では「まったくない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生で、「よくある」と「ときどきある」の合計が、非生活困難層を上回っています。このことから、生活困難層では、小学5年生で昼間の居眠りがある割合が非生活困難層よりも高い一方、中学2年生では非生活困難層よりも低い傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「まったくない」が56.1%、中学生では「ときどきある」が45.5%と、最も多くなっています。また、中学生では「よくある」と「ときどきある」を合わせた《ある》が67.3%と、小学生に比べて26.4ポイント高くなっています。

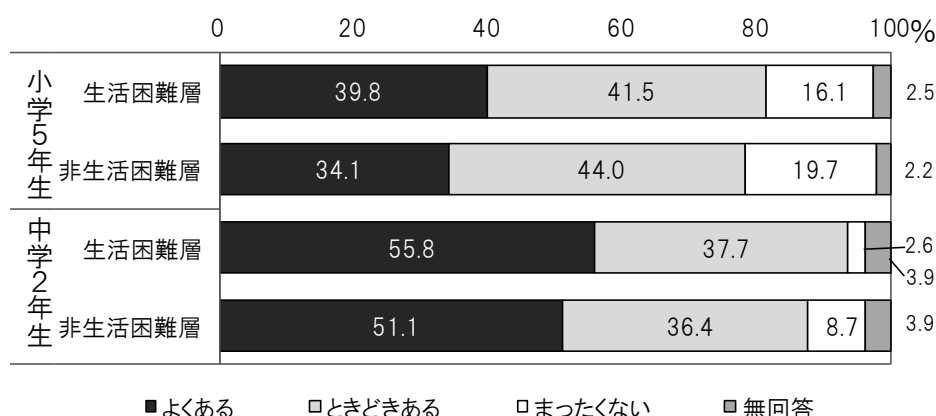


問 23 あなたは、つぎのことがどれくらいありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

② 疲れやすい

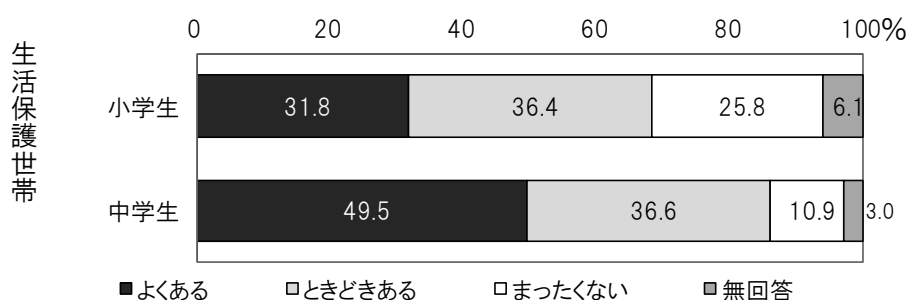
学校調査

疲れやすいことがあるかについては、小学5年生で「ときどきある」が4割前半から半ば、中学2年生で「よくある」が5割前半から半ばと最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「よくある」の割合が非生活困難層を上回っています。また、生活困難層・非生活困難層のいずれも、学年が上がると「よくある」が増加しています。このことから、生活困難層では、非生活困難層よりも疲れやすいと感じる頻度が高く、学年が上がるとそう感じる子どもの割合が高くなる傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「ときどきある」が36.4%、中学生では「よくある」が49.5%と、最も多くなっています。また、中学生では「よくある」と「ときどきある」を合わせた《ある》が86.1%と、小学生に比べて17.9ポイント高くなっています。



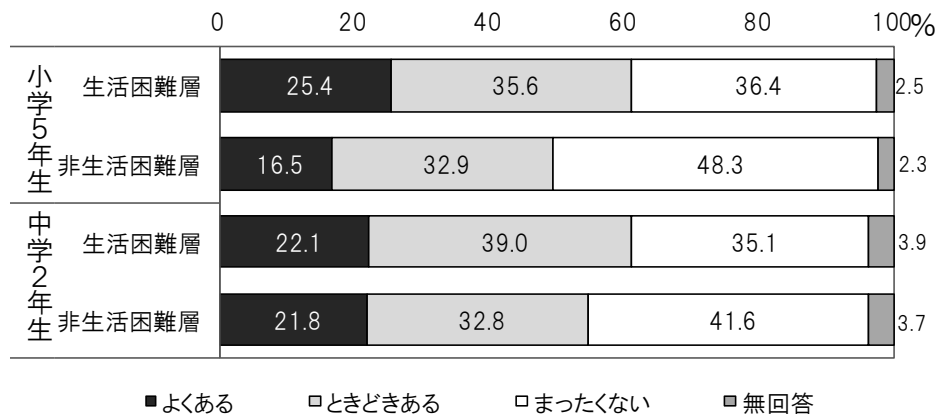
Ⅱ 子ども票

問 23 あなたは、つぎのことがどれくらいありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

③ 朝、食欲がない

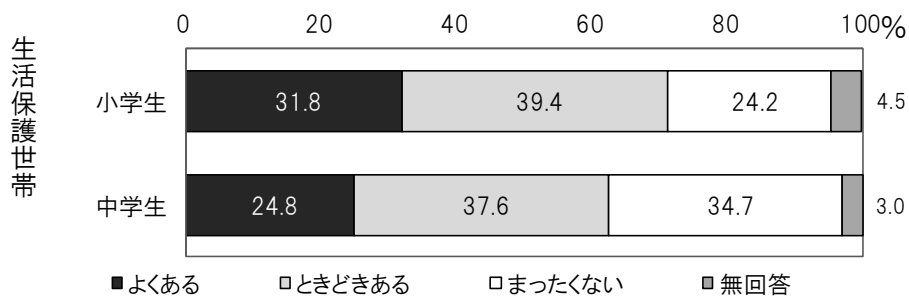
学校調査

朝、食欲がないことがあるかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生では「まったくない」、中学2年生では「ときどきある」が最も多くなっています。また、小学5年生では「よくある」が25.4%と、非生活困難層に比べ8.9ポイント高くなっています。このことから、生活困難層では朝、食欲がない頻度が非生活困難層よりも高い傾向が見られます。



生活保護調査

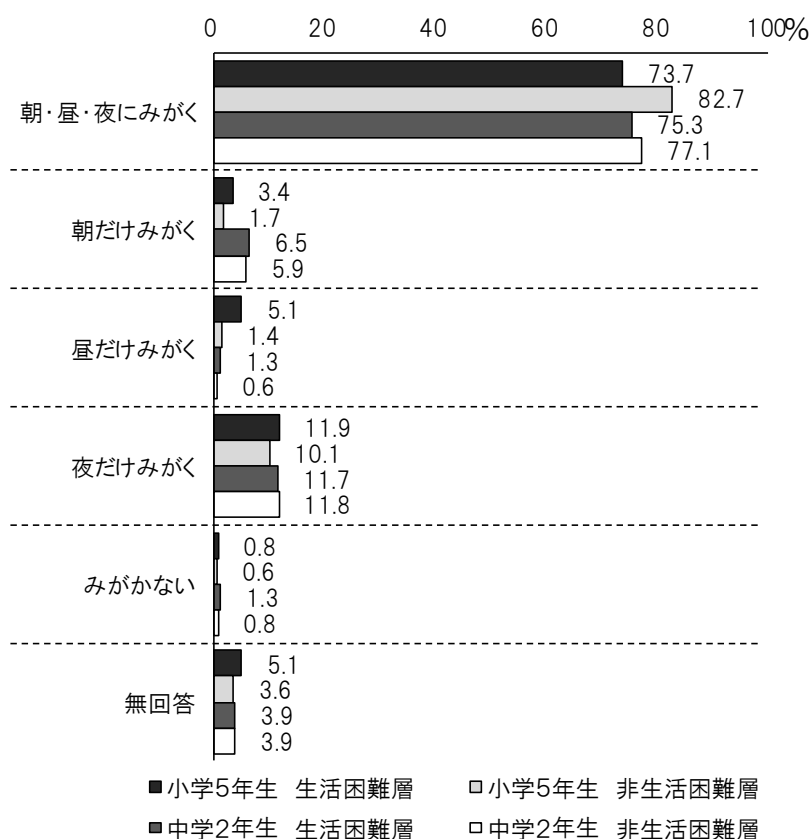
生活保護世帯について見ると、いずれも「ときどきある」が3割台と最も多くなっています。また、小学生では「よくある」が31.8%、中学生では「まったくない」が34.7%と、それぞれ3割を超えています。



問 24 あなたはいつ歯みがきをしますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

いつ歯みがきをするかについては、すべての対象で「朝・昼・夜にみがく」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では、「朝・昼・夜にみがく」が73.7%と、非生活困難層に比べ9.0ポイント低くなっています。また、「夜だけみがく」は生活困難層・非生活困難層にかかわらず、小学5年生、中学2年生のいずれも1割程度見られます。このことから、小学5年生では生活困難層で1日3回みがく習慣がない子どもの割合が非生活困難層と比べて高いものの、歯みがきの頻度に生活困難層・非生活困難層での大きな差は見られないことがわかります。



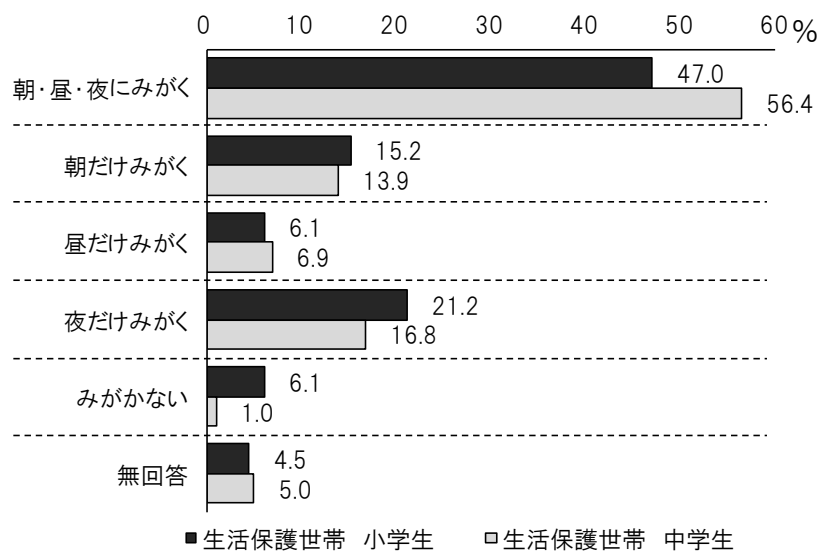
Ⅱ 子ども票

問 24 あなたはいつ歯みがきをしますか。(○はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「朝・昼・夜にみがく」が4割台から5割台と最も多く、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

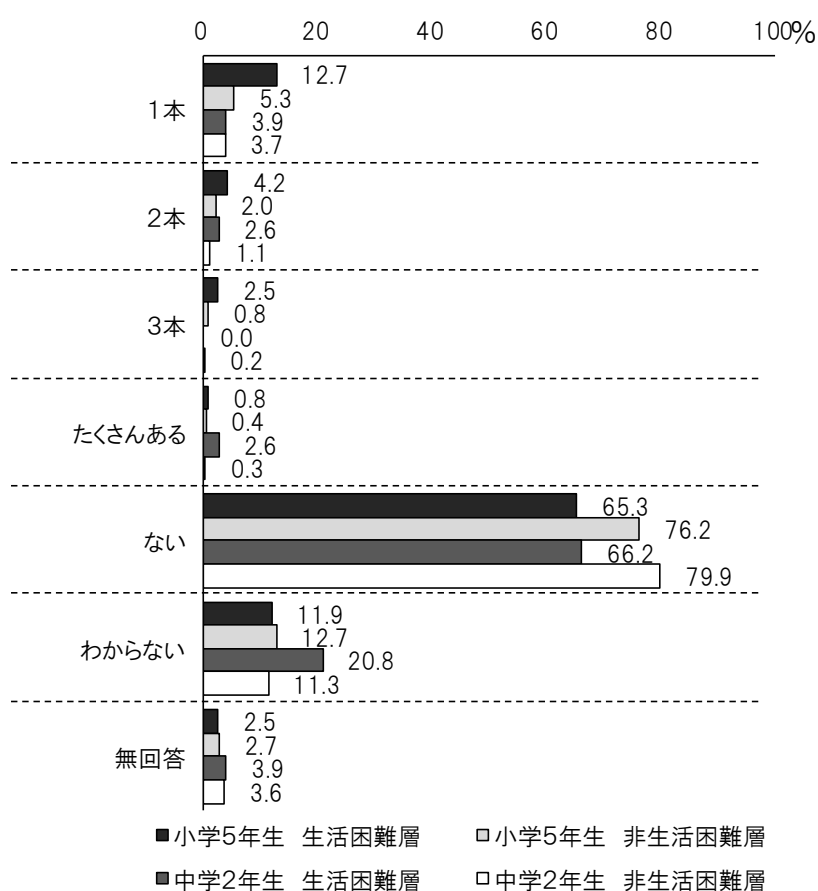
学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、1日3回みがく習慣がない子どもの割合が顕著に高くなっています。



問 25 今、痛い歯や虫歯はありますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

今、痛い歯や虫歯はあるかについては、すべての対象で「ない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では「ない」が65.3%と、非生活困難層に比べ10.9ポイント低く、中学2年生では66.2%と、非生活困難層に比べ13.7ポイント低くなっています。また、わずかではあるものの、「1本」「2本」「3本」について該当する子どもが見られ、特に小学5年生では「1本」が生活困難層で12.7%と、非生活困難層に比べ7.4ポイント高くなっています。このことから、痛い歯や虫歯は「ない」子どもが生活困難層・非生活困難層のいずれも6割を超えているものの、生活困難層では1本以上ある子どもの割合が非生活困難層を上回っている傾向が見られます。

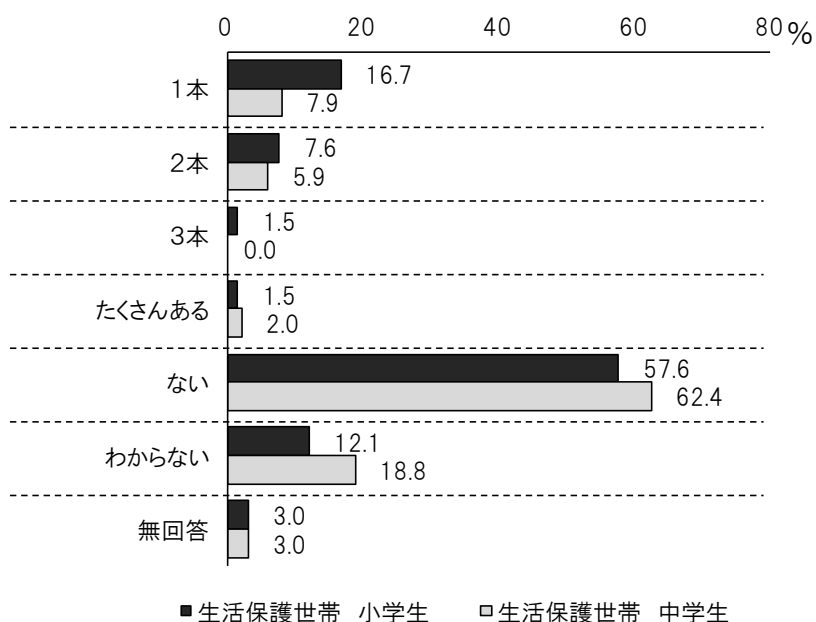


Ⅱ 子ども票

問 25 今、痛い歯や虫歯はありますか。(○はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「ない」が5割台から6割台と最も多くなっています。また、小学生では「1本」が16.7%と中学生をやや上回っているほか、小学生、中学生いずれも「わからない」が1割を超えています。



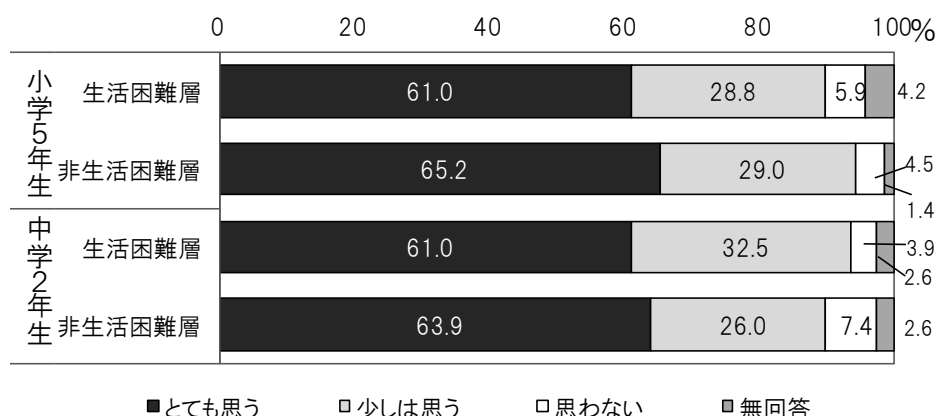
5. あなたがふだん考えていることについて

問 26 あなたは、次の①から⑦のことについて、どのように思いますか。（それぞれについて、○はひとつだけ）

① がんばればよいことがあると思う

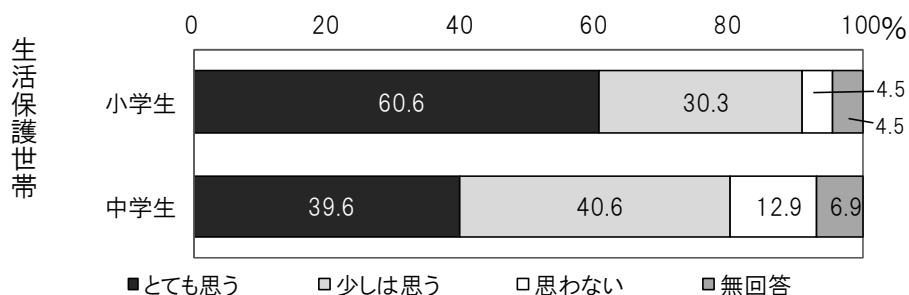
学校調査

がんばればよいことがあると思うかについては、すべての対象で「とても思う」が最も多く、対象ごとの差はありません。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「とても思う」が60.6%、中学生では「少しは思う」が40.6%と、最も多くなっています。



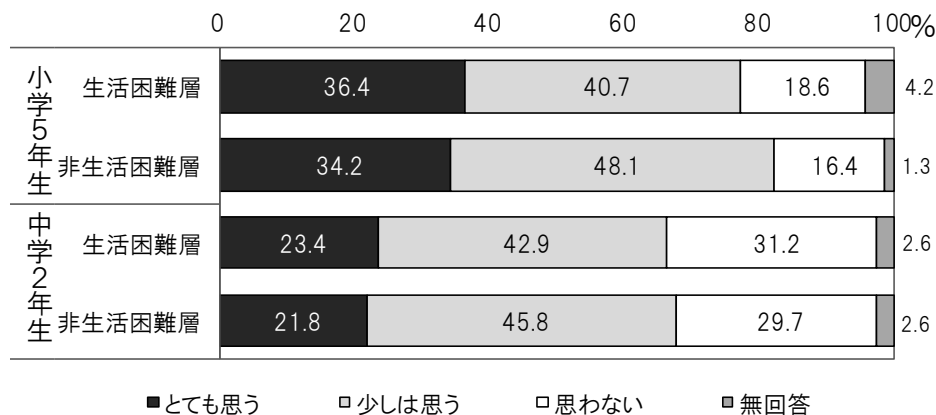
Ⅱ 子ども票

問 26 あなたは、次の①から⑦のことについて、どのように思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

② 自分には自信があると思う

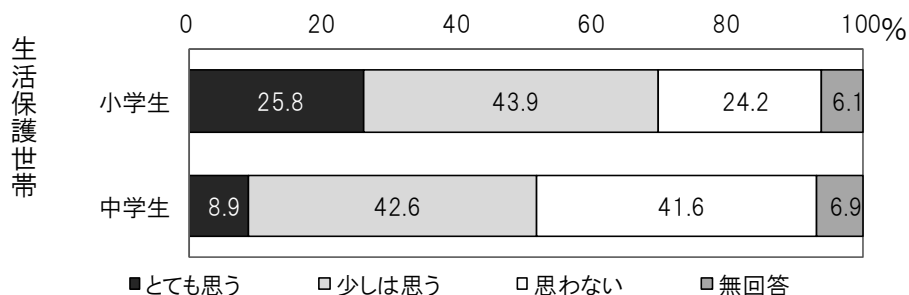
学校調査

自分には自信があると思うかについては、すべての対象で「少しは思う」が最も多くなっています。「とても思う」と「少しは思う」の合計割合は、小学5年生では7割後半から8割前半、中学2年生では6割後半と、生活困難層・非生活困難層間での差は大きくは見られず、学年が上がると低くなっています。一方、中学2年生では、生活困難層・非生活困難層のいずれも「思わない」が3割前後と、小学5年生と比べて高くなっています。このことから、学年が上がると、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、自分には自信があると思う子どもの割合は低下する傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「少しは思う」が4割台と最も多くなっています。学年が上がると「思わない」が多くなっており、中学生では41.6%と、「少しは思う」と同程度となっています。

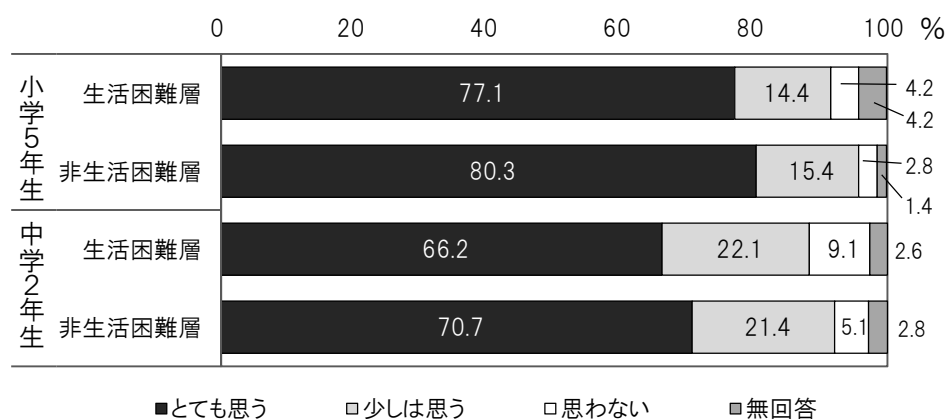


問 26 あなたは、次の①から⑦のことについて、どのように思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

③ 家で過ごすのは安心できると思う

学校調査

家で過ごすのは安心できると思うかについては、すべての対象で「とても思う」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「とても思う」で非生活困難層を下回っており、生活困難層では家での安心感が低いと感じる子どもが、非生活困難層に比べてやや多い傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「とても思う」が5割台から8割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「少しは思う」が28.7%と、小学生に比べて16.6ポイント高くなっています。



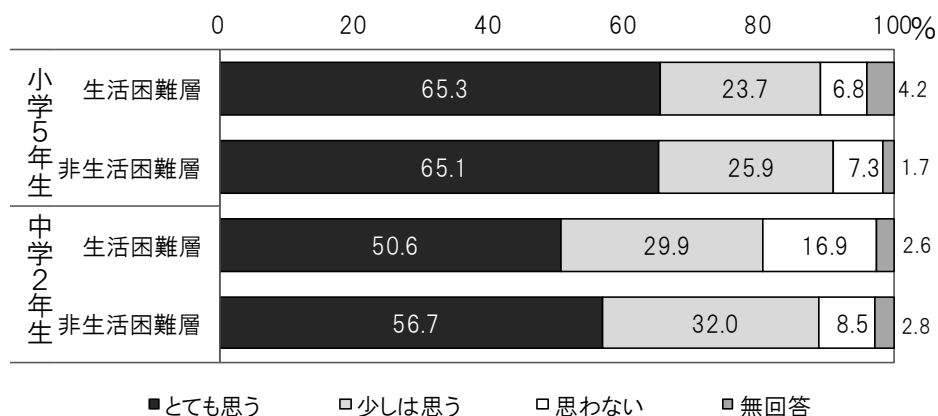
Ⅱ 子ども票

問 26 あなたは、次の①から⑦のことについて、どのように思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

④ 自分は家族に愛されていると思う

学校調査

自分は家族に愛されていると思うかについては、すべての対象で「とても思う」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、中学2年生では「思わない」が16.9%と、非生活困難層に比べ8.4ポイント高くなっています。このことから、中学2年生の生活困難層では、対家族の自己肯定感が非生活困難層と比べて低くなっている傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「とても思う」が4割台から7割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「少しは思う」が31.7%と、小学生に比べて15.0ポイント高くなっています。

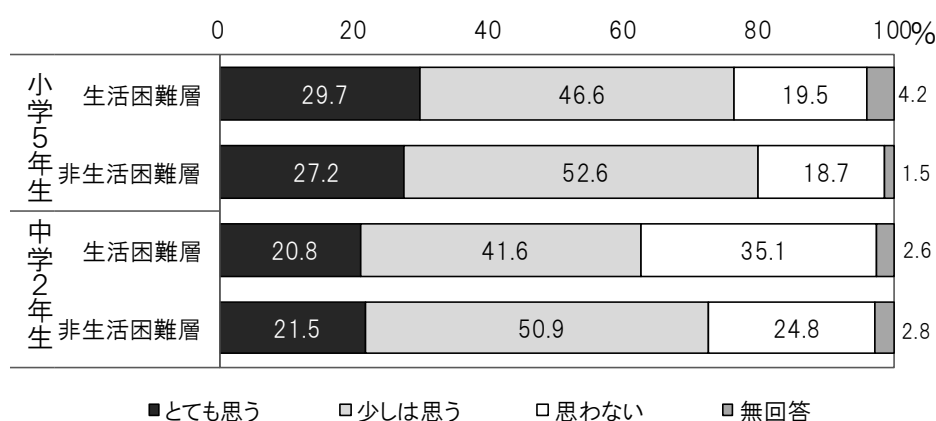


問 26 あなたは、次の①から⑦のことについて、どのように思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑤ 自分は人のために役立っていると思う

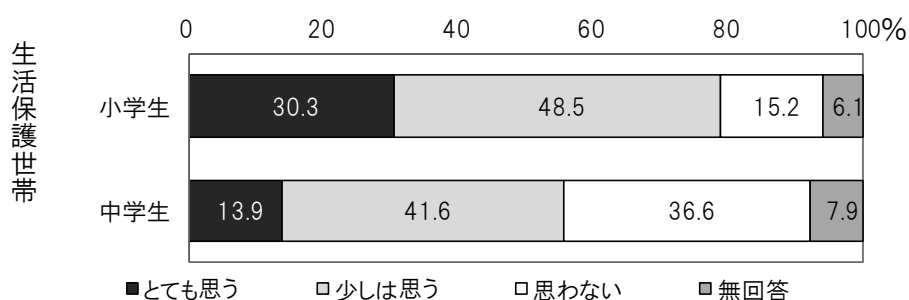
学校調査

自分は人のために役立っていると思うかについては、すべての対象で「少しは思う」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、中学2年生では「思わない」が35.1%と、非生活困難層に比べ10.3ポイント高くなっています。このことから、学年が上がると、生活困難層では、対人の自己肯定感が非生活困難層と比べて低くなっている傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「少しは思う」が4割台と、最も多くなっています。また、小学生では「とても思う」が30.3%と、中学生に比べて16.4ポイント高く、中学生では「思わない」が36.6%と、小学生に比べて21.4ポイント高くなっています。学年が上がると、「思わない」が多くなっています。



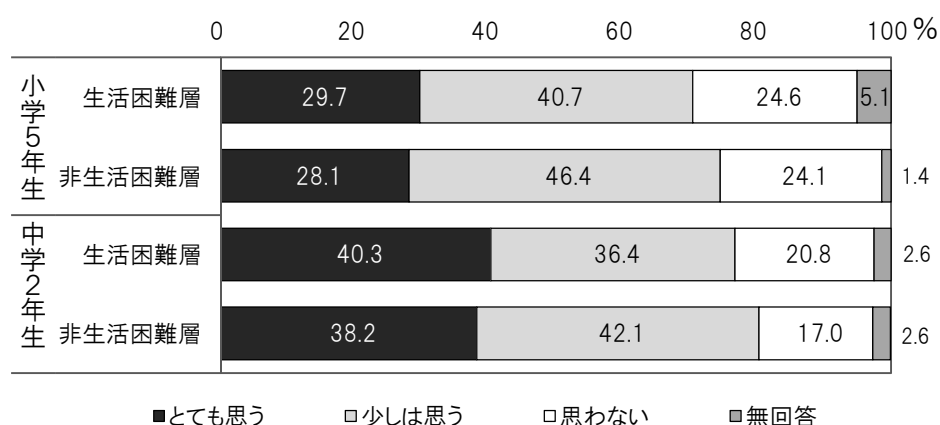
Ⅱ 子ども票

問 26 あなたは、次の①から⑦のことについて、どのように思いますか。（それぞれについて、○はひとつだけ）

⑥ 不安を感じることもある

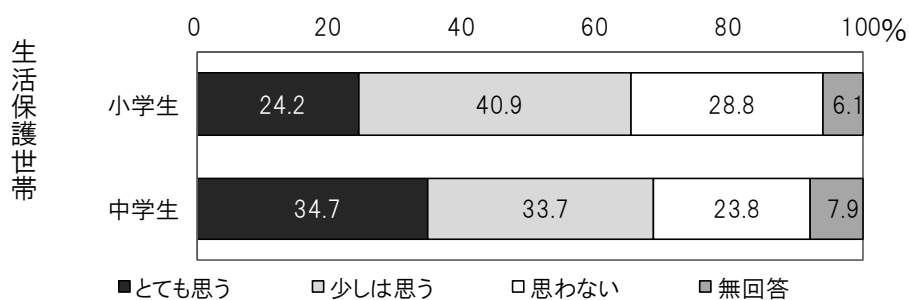
学校調査

不安を感じることもあるかについては、生活困難層・非生活困難層のいずれも学年が上がると「とても思う」の割合が多くなっています。生活困難層に着目すると、中学2年生では「とても思う」の割合が4割を超え、非生活困難層をやや上回っているものの、生活困難層・非生活困難層での大きな差は見られません。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「少しは思う」が40.9%、中学生では「とても思う」が34.7%と、最も多くなっています。

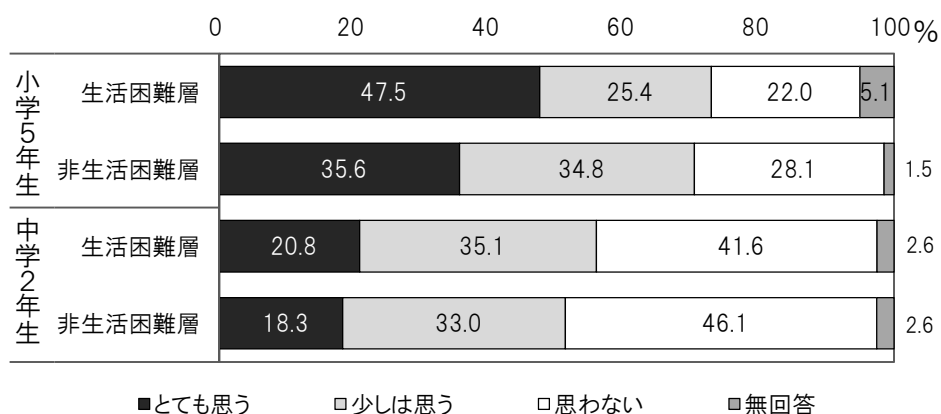


問 26 あなたは、次の①から⑦のことについて、どのように思いますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

⑦ ひとりでいることがさびしいと思う

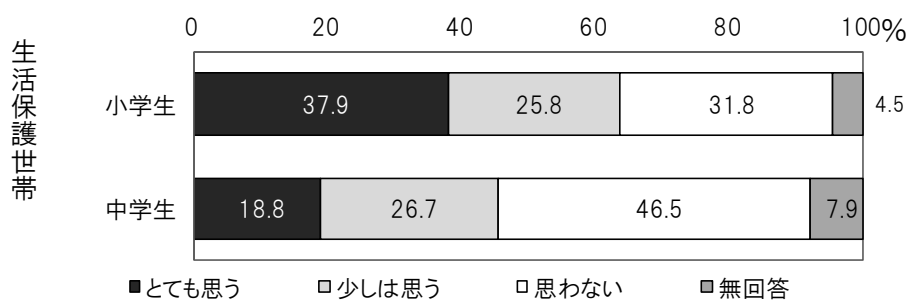
学校調査

ひとりでいることがさびしいと思うかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生では「とても思う」が47.5%と、非生活困難層に比べ11.9ポイント高くなっています。また、学年が上がると、「とても思う」の割合が低くなり、中学2年生では、生活困難層・非生活困難層での大きな傾向の違いは見られません。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「とても思う」が37.9%、中学生では「思わない」が46.5%と、最も多くなっています。

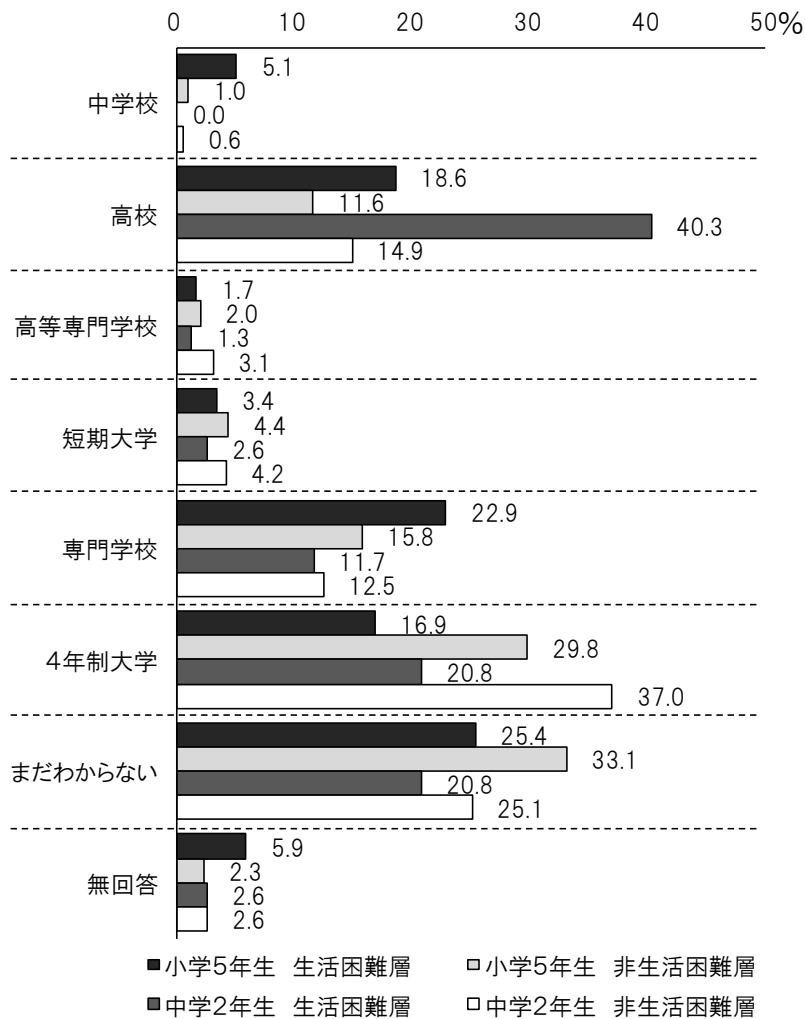


Ⅱ 子ども票

問 27 どの段階まで進学したいですか。(〇はひとつだけ)

学校調査

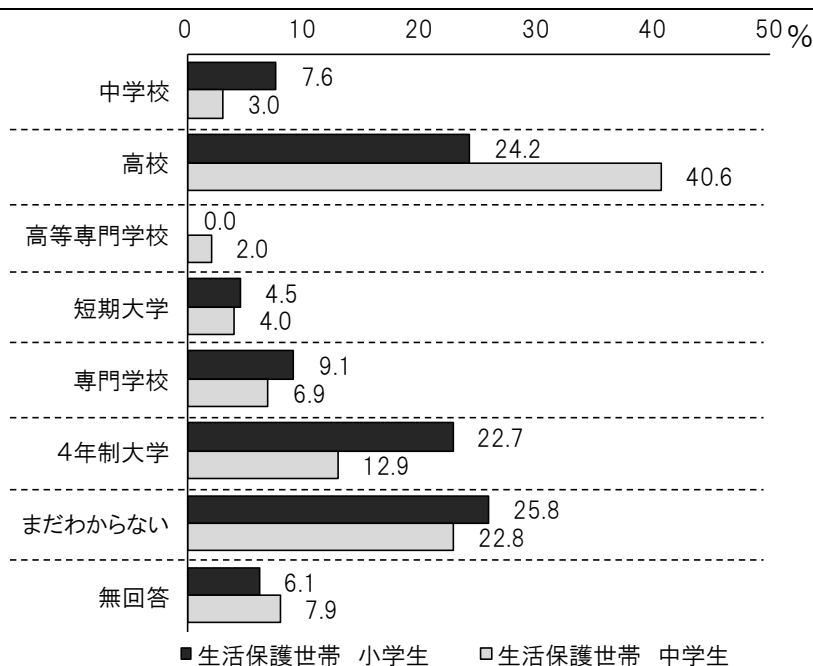
どの段階まで進学したいかについて、「まだわからない」を除いて、生活困難層の小学5年生では「専門学校」、中学2年生では「高校」、非生活困難層の小学5年生、中学2年生ではいずれも「4年制大学」がそれぞれ最も多くなっています。このことから、生活困難層では非生活困難層と比べて「高校」や「専門学校」等の段階までの進学意向が高く、学年が上がる、「高校」までの意向がより高くなる傾向が見られます。



問 27 どの段階まで進学したいですか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「まだわからない」が25.8%、中学生では「高校」が40.6%と、最も多くなっています。小学生では「4年制大学」が22.7%と、中学生に比べて9.8ポイント高い一方、中学生では「高校」で小学生よりも16.4ポイント高くなっています。

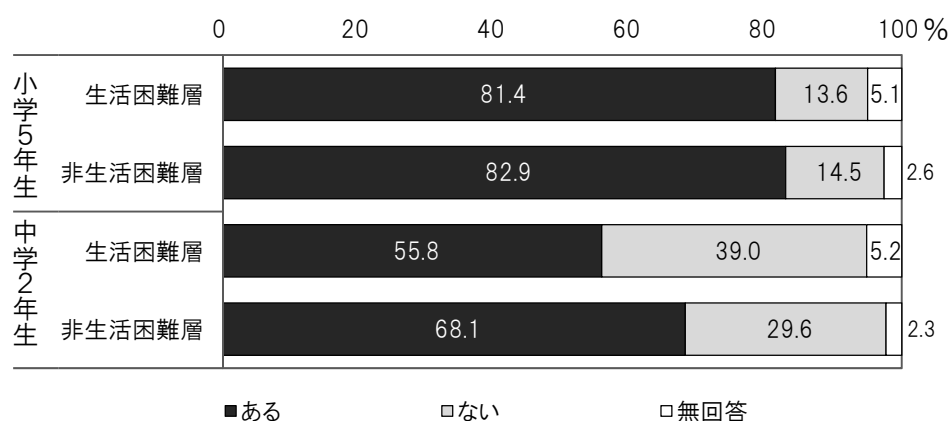


Ⅱ 子ども票

問 28 将来、なりたい職業や夢はありますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

将来、なりたい職業や夢があるかについては、すべての対象で「ある」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では「ある」が8割前半なのに対して、中学2年生では5割半ばから6割後半と、学年が上がると少なくなっています。また、中学2年生では「ない」が39.0%と、非生活困難層に比べ9.4ポイント高くなっています。このことから、学年が上がると、将来、なりたい職業や夢がある子どもの割合は減少する傾向が見られ、特に生活困難層ではその傾向が顕著に見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「ある」が5割台から7割台と、「ない」を上回っており、学年が上がると低くなっています。

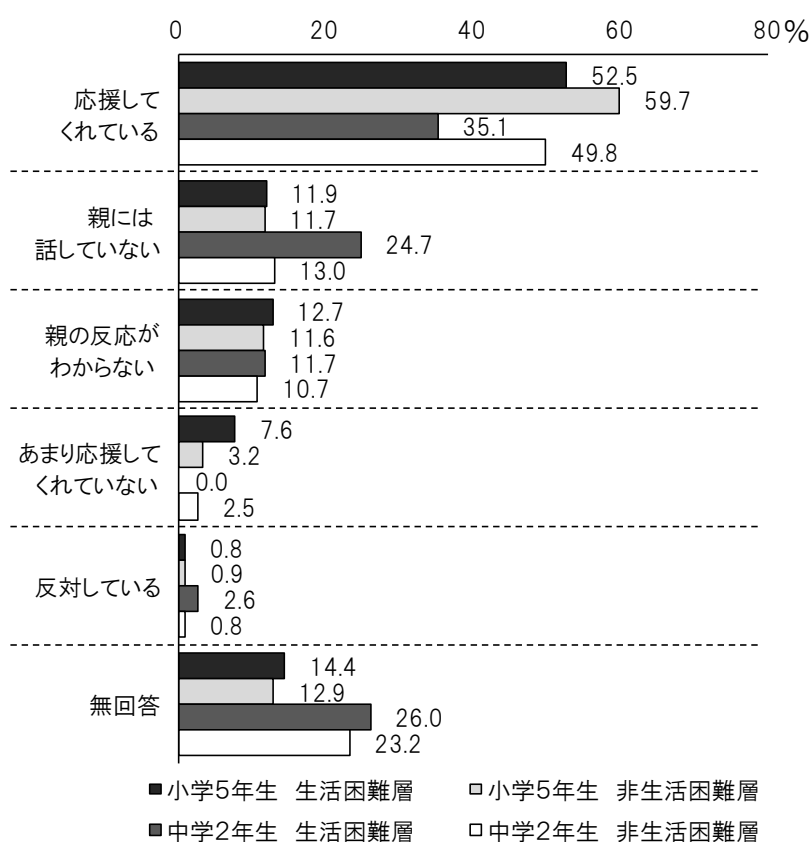


問 28 で、「1. ある」と答えた方にお聞きます。

問 28-1 あなたのなりたい職業や夢を、親は応援してくれていますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

なりたい職業や夢を、親は応援してくれているかについては、すべての対象で「応援してくれている」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、中学2年生では35.1%と、非生活困難層に比べ 14.7 ポイント低くなっています。また、「親には話していない」が24.7%と、非生活困難層に比べ 11.7 ポイント高くなっています。このことから、生活困難層では学年が上がると、「応援してくれている」と感じる子どもの割合が減少し、「親には話していない」と、自身でなりたい職業や夢を抱え込んでしまっている子どもの割合が増加している傾向が見られます。



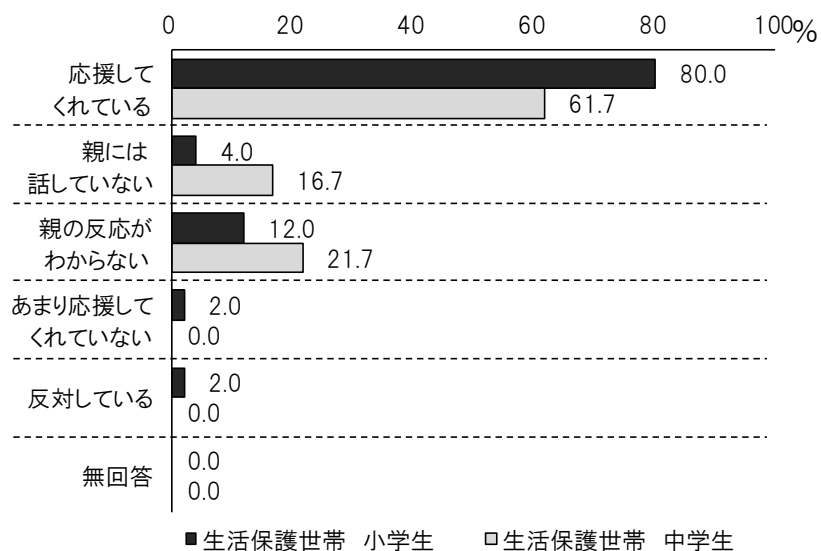
Ⅱ 子ども票

問 28 で、「1. ある」と答えた方にお聞きします。

問 28-1 あなたのなりたい職業や夢を、親は応援してくれていますか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「応援してくれている」が6割台から8割と多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「親の反応がわからない」が21.7%と、小学生の12.0%に比べて9.7ポイント高くなっています。



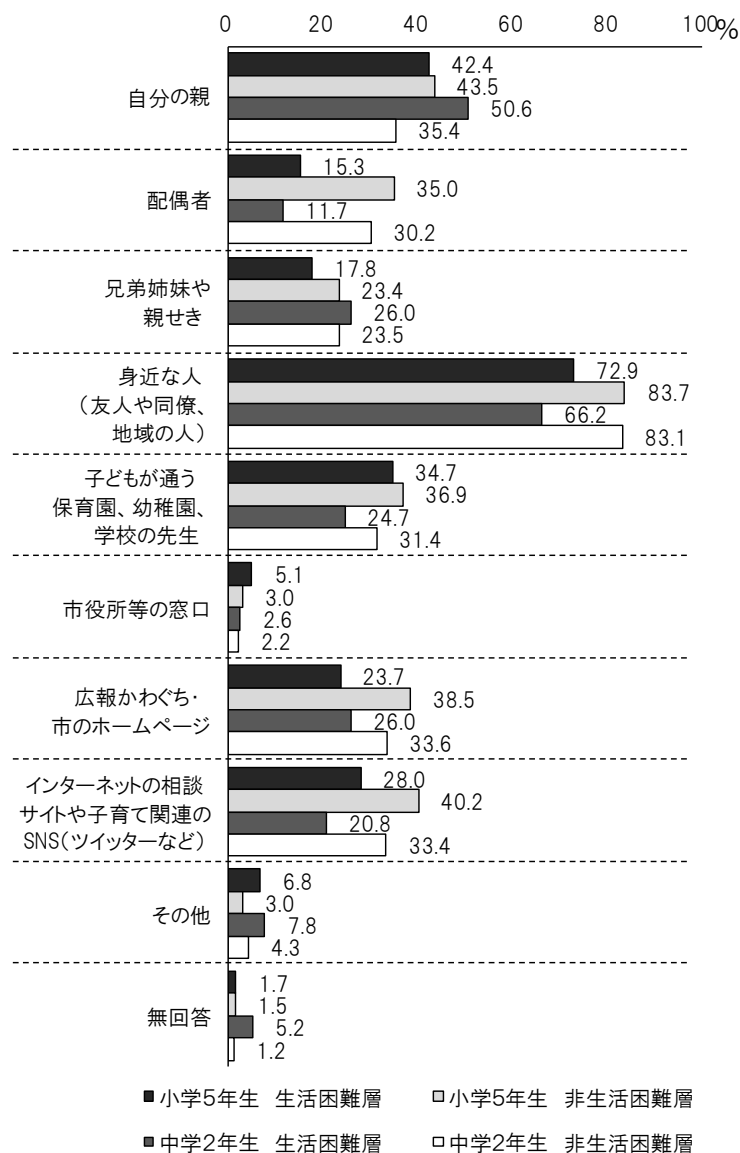
Ⅲ 保護者票 調査結果

1. 子育て支援事業の利用状況について

問1 あなたは、子育てや暮らしに関する情報はどこから手に入れますか。(あてはまる番号すべてに○)

学校調査

子育てや暮らしに関する情報の入手先については、すべての対象で「身近な人（友人や同僚、地域の人）」が最も多く、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも非生活困難層と比べて10ポイント以上下回っています。また、「配偶者」「インターネットの相談サイトや子育て関連のSNS（ツイッターなど）」も同様に、非生活困難層を下回っています。一方、中学2年生では、「自分の親」で15.2ポイント非生活困難層を上回っています。このことから、生活困難層では、自分の親以外の情報源が非生活困難層と比べて少ないことがうかがえます。

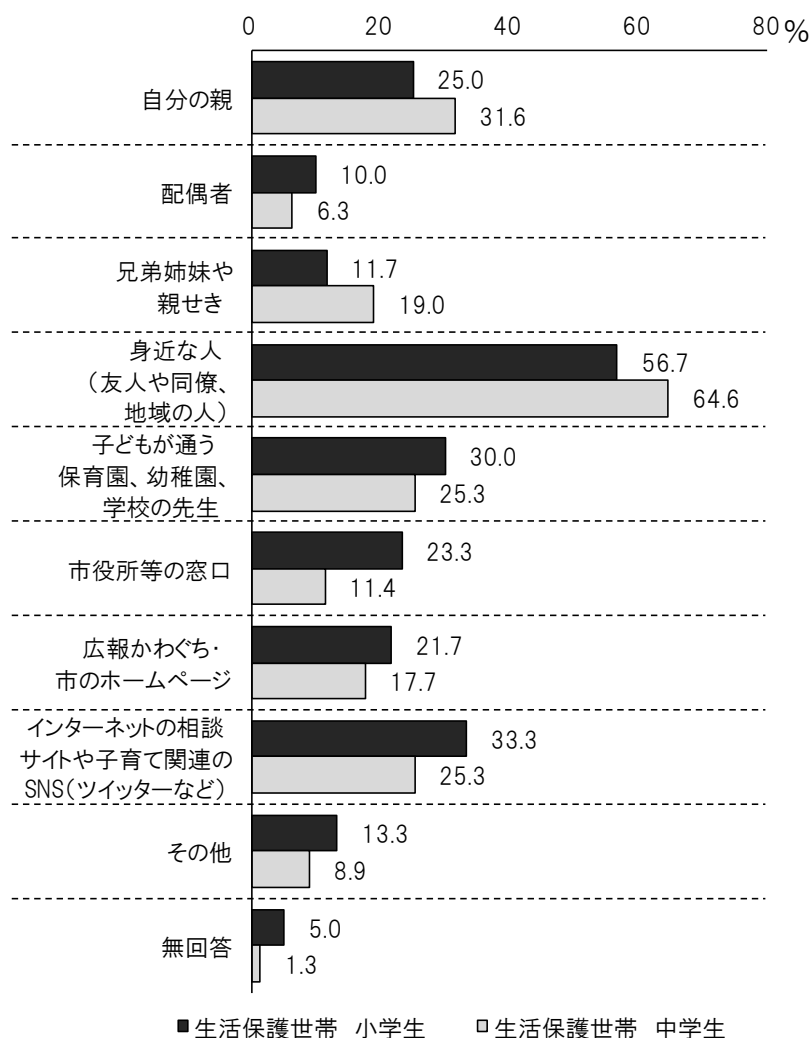


Ⅲ 保護者票

問1 あなたは、子育てや暮らしに関する情報はどこから手に入れますか。(あてはまる番号すべてに○)

生活保護調査

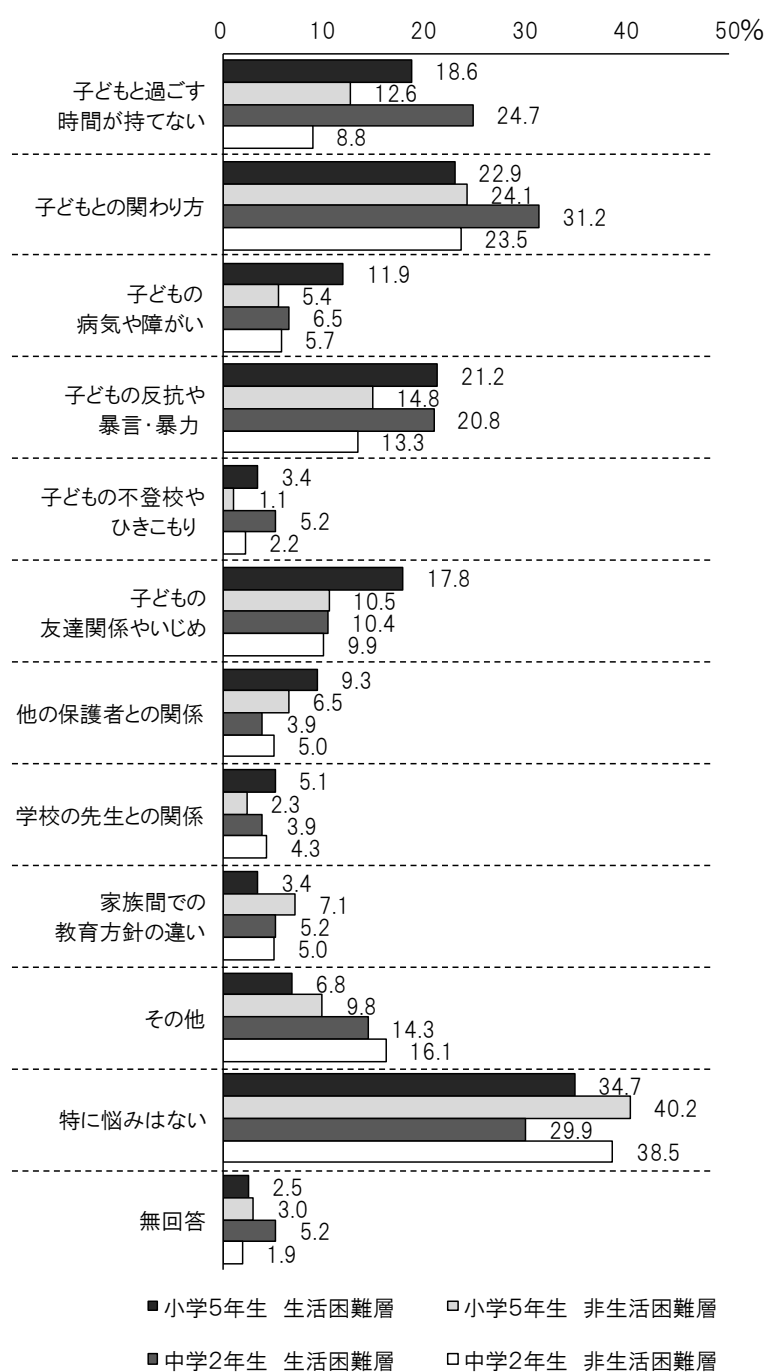
生活保護世帯について見ると、いずれも「身近な人（友人や同僚、地域の人）」が5割台から6割台で最も多く、学年が上がると高くなっています。また、小学生では「市役所等の窓口」が23.3%と、中学生の11.4%に比べて11.9ポイント、「インターネットの相談サイトや子育て関連のSNS(ツイッターなど)」が33.3%と、中学生の25.3%に比べて8.0ポイント高くなっています。



問2 現在、お子さん(兄弟姉妹を含む)のことで悩んでいることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

学校調査

現在、子どものことで悩んでいることがあるかについては、「特に悩みはない」が多いものの、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「子どもと過ごす時間が持てない」「子どもの反抗や暴言・暴力」で非生活困難層を上回っています。その他にも、小学5年生では「子どもの病気や障がい」「子どもの友達関係やいじめ」で、中学2年生では「子どもとの関わり方」で、非生活困難層を上回っています。このことから、生活困難層の保護者は、学年にかかわらず、子どもとの過ごす時間の少なさや子どもの反抗などで悩んでいる傾向が見られます。

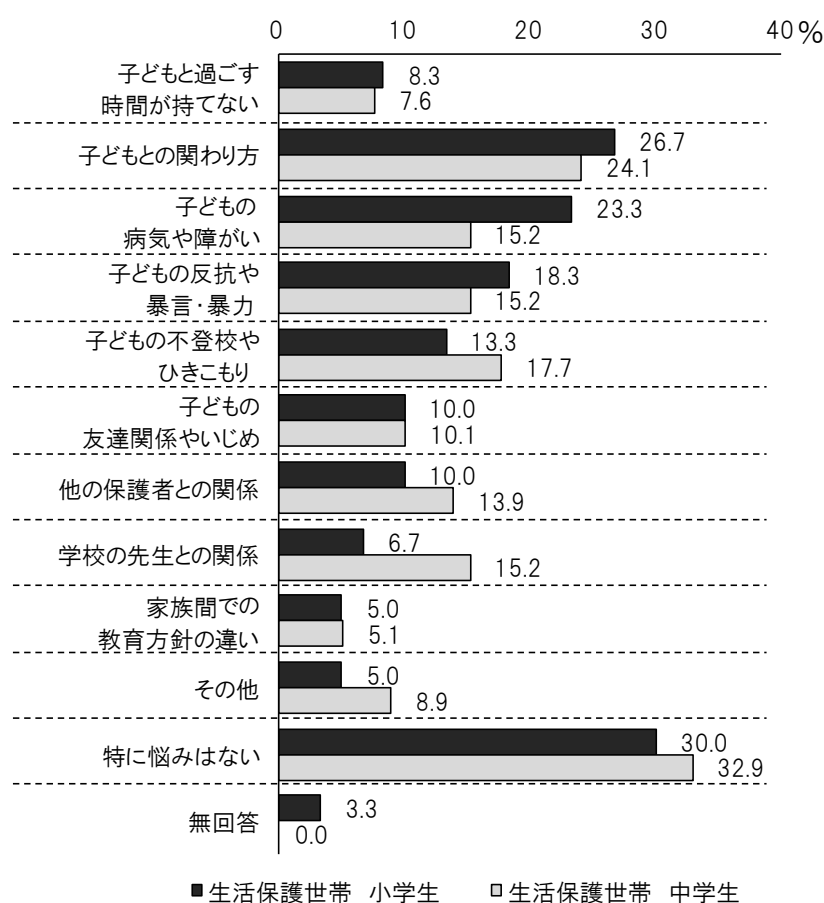


Ⅲ 保護者票

問2 現在、お子さん(兄弟姉妹を含む)のことで悩んでいることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「特に悩みはない」が3割台と最も多くなっています。悩みの中ではいずれも「子どもとの関わり方」が最も多く、小学生で26.7%、中学生で24.1%となっています。また、小学生で「子どもの病気や障がい」が23.3%と、中学生の15.2%に比べて8.1ポイント高く、中学生で「学校の先生との関係」が15.2%と、小学生の6.7%に比べて8.5ポイント高くなっています。

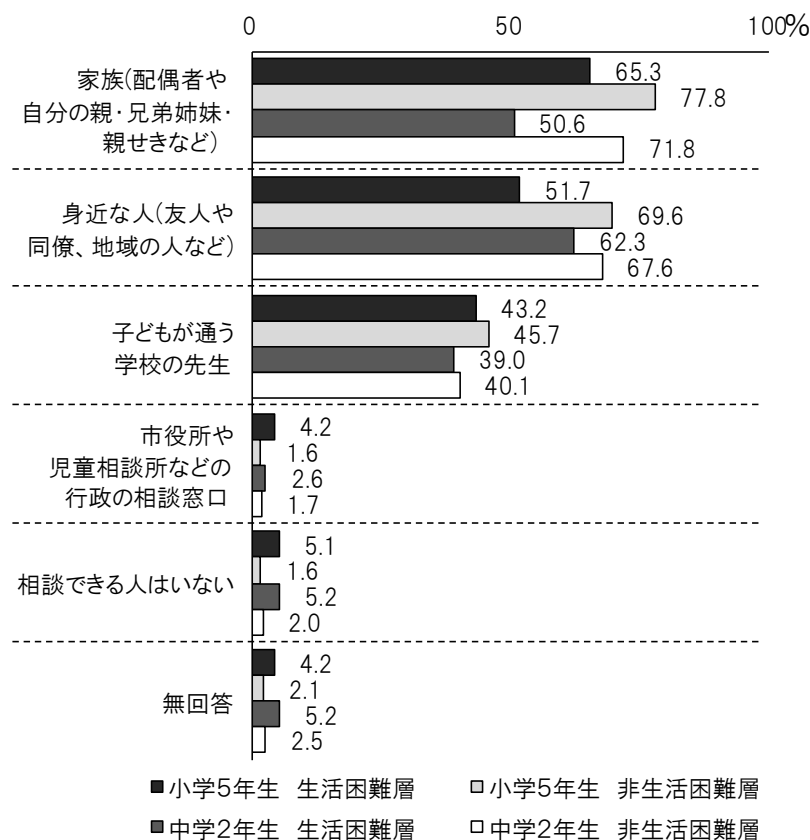


問3 あなたはお子さんに関する相談について、どこに相談しますか。(あてはまる番号すべてに○)

A. 子どもの勉強や学校に関する相談

学校調査

子どもの勉強や学校に関する相談をどこにするかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「家族（配偶者や自分の親・兄弟姉妹・親せきなど）」で10ポイント以上非生活困難層を下回っており、特に中学2年生では非生活困難層に比べ21.2ポイントの開きがあります。その他にも、小学5年生では「身近な人（友人や同僚、地域の人など）」が、非生活困難層に比べ17.9ポイント下回っています。このことから、生活困難層の保護者は子どもの勉強や学校に関する相談について、非生活困難層と比べて家族や身近な人に頼ることができていない傾向が見られます。



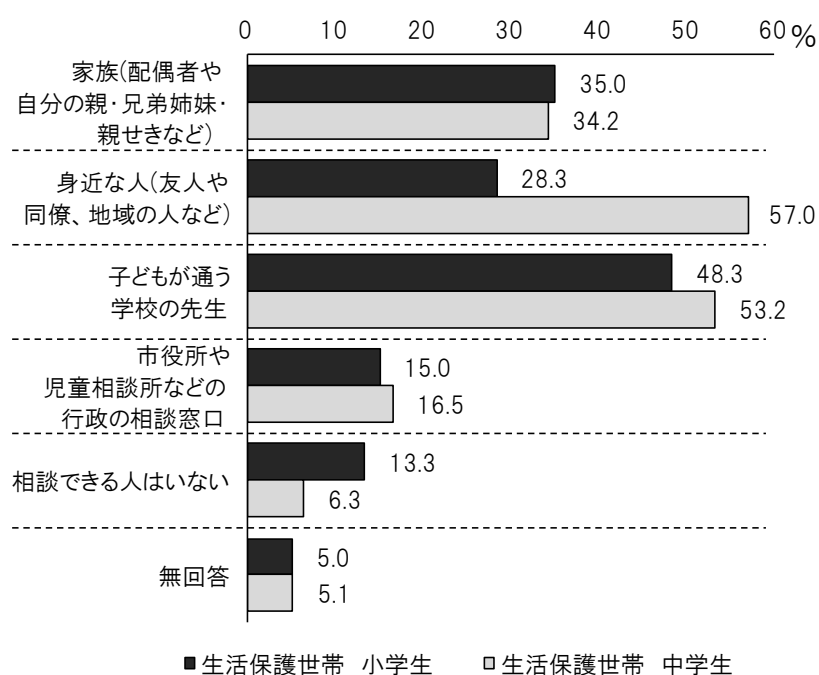
Ⅲ 保護者票

問3 あなたはお子さんに関する相談について、どこに相談しますか。(あてはまる番号すべてに○)

A. 子どもの勉強や学校に関する相談

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「子どもが通う学校の先生」が48.3%、中学生では「身近な人（友人や同僚、地域の人など）」が57.0%と最も多く、特に中学生では「身近な人（友人や同僚、地域の人など）」で28.7ポイント小学生を上回っています。また、小学生では「相談できる人はいない」が13.3%と、中学生の6.3%に比べて7.0ポイント高くなっています。

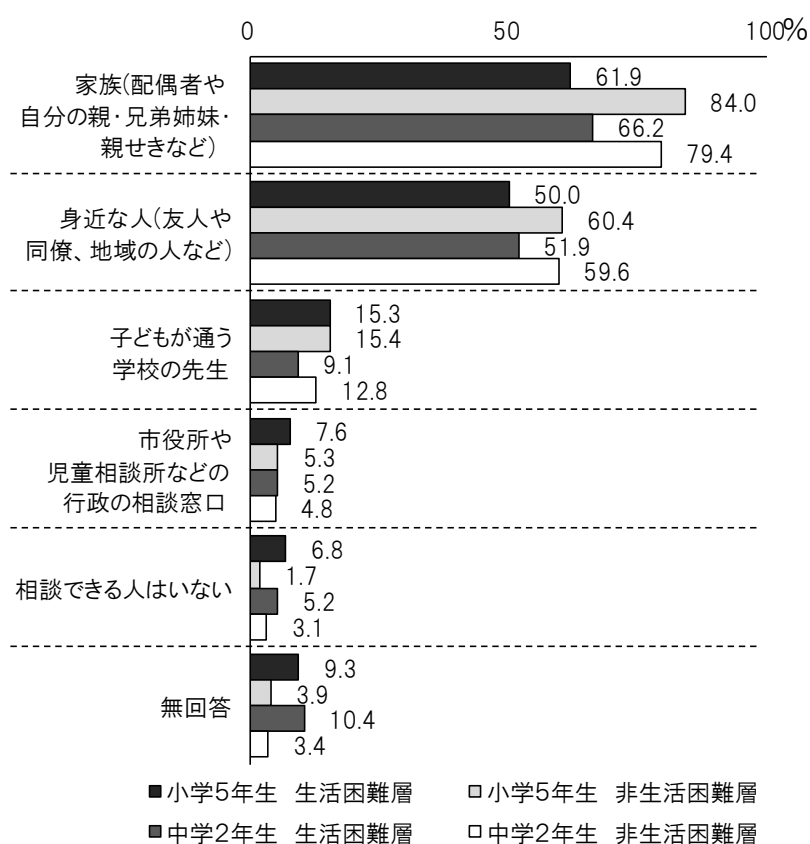


問3 あなたはお子さんに関する相談について、どこに相談しますか。(あてはまる番号すべてに○)

B. 子どもの健康や発育に関する相談

学校調査

子どもの健康や発育に関する相談をどこにするかについても、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「家族（配偶者や自分の親・兄弟姉妹・親せきなど）」で10ポイント以上非生活困難層を下回っており、特に小学5年生では非生活困難層に比べ22.1ポイントの開きがあります。その他にも、小学5年生の生活困難層では「身近な人（友人や同僚、地域の人など）」が、非生活困難層に比べ10ポイント以上下回っています。このことから、生活困難層の保護者は、子どもの健康や発育に関する相談について、非生活困難層と比べて家族や身近な人に頼ることができていない傾向が見られます。



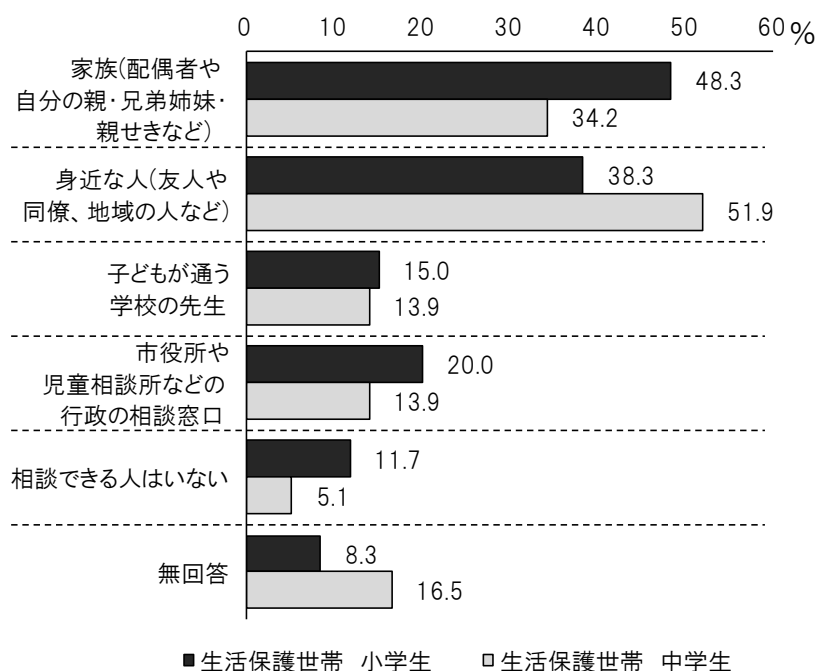
Ⅲ 保護者票

問3 あなたはお子さんに関する相談について、どこに相談しますか。(あてはまる番号すべてに○)

B. 子どもの健康や発育に関する相談

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「家族（配偶者や自分の親・兄弟姉妹・親せきなど）」が48.3%、中学生では「身近な人（友人や同僚、地域の人など）」が51.9%と、最も多くなっています。また、小学生では「相談できる人はいない」が11.7%と、中学生の5.1%に比べて6.6ポイント高くなっています。



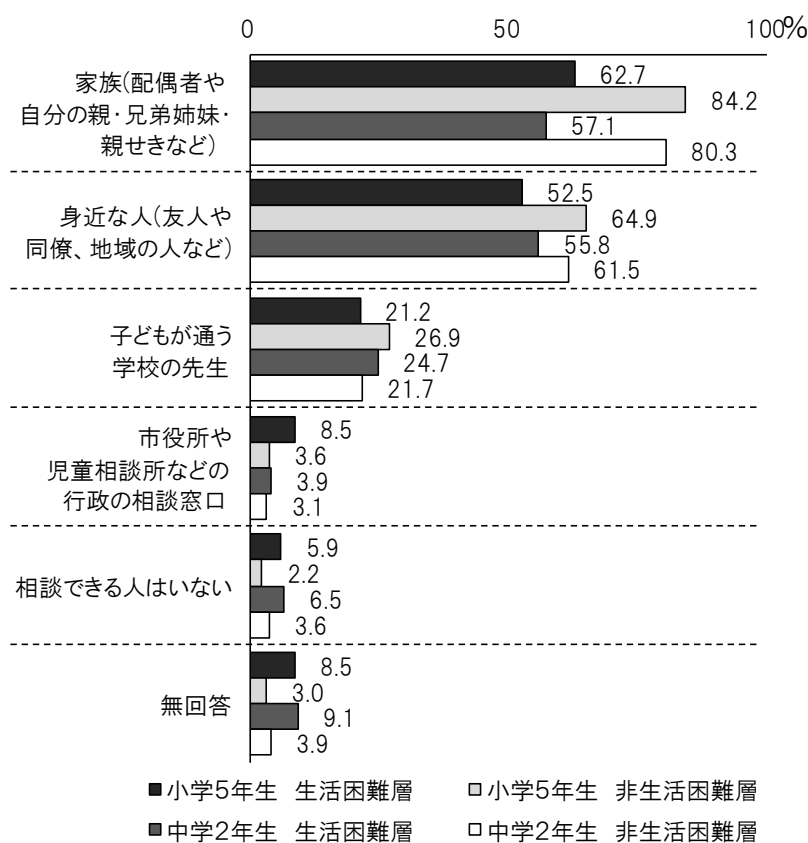
問3 あなたはお子さんに関する相談について、どこに相談しますか。(あてはまる番号すべてに○)

C. 子どもの問題行動やしつけに関する相談

学校調査

子どもの問題行動やしつけに関する相談をどこにするかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「家族（配偶者や自分の親・兄弟姉妹・親せきなど）」で非生活困難層を20ポイント以上下回っています。その他にも、小学5年生の生活困難層では「身近な人（友人や同僚、地域の人など）」が、非生活困難層に比べ12.4ポイント下回っています。また、「子どもが通う学校の先生」は、小学5年生、中学2年生のいずれも生活困難層・非生活困難層にかかわらず20%を超え、子どもの健康や発育に関する相談と比べると高い割合となっています。

このことから、生活困難層の保護者は、子どもの問題行動やしつけに関する相談についても、非生活困難層と比べて家族や身近な人に頼ることができていない傾向が見られます。



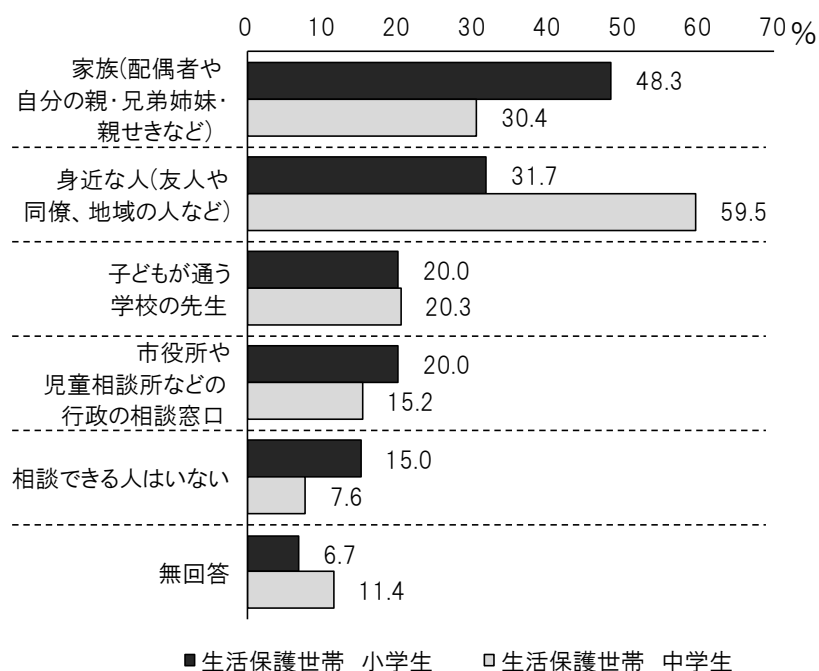
Ⅲ 保護者票

問3 あなたはお子さんに関する相談について、どこに相談しますか。(あてはまる番号すべてに○)

C. 子どもの問題行動やしつけに関する相談

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「家族（配偶者や自分の親・兄弟姉妹・親せきなど）」が48.3%、中学生では「身近な人（友人や同僚、地域の人など）」が59.5%と、最も多くなっています。また、小学生では「相談できる人はいない」が15.0%と、中学生の7.6%に比べて7.4ポイント高くなっています。

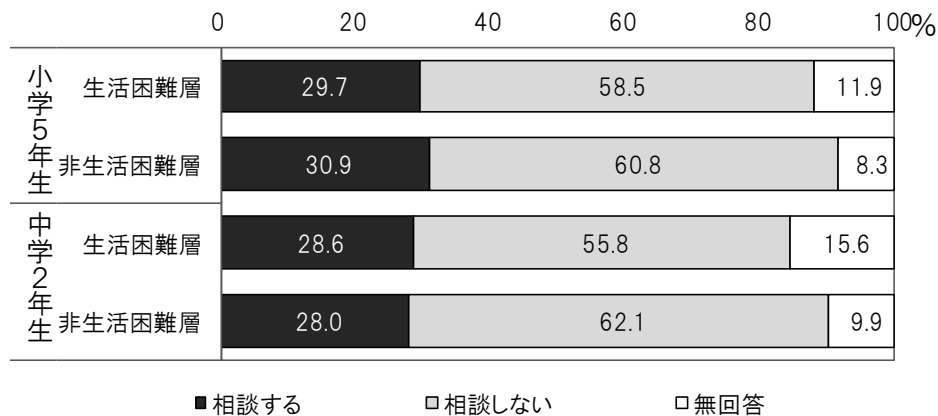


問4 あなたは、子育てに限らず暮らしの中で困ったときに以下の公的機関に相談しますか。
(それぞれについて、○はひとつだけ)

A. 市役所の窓口

学校調査

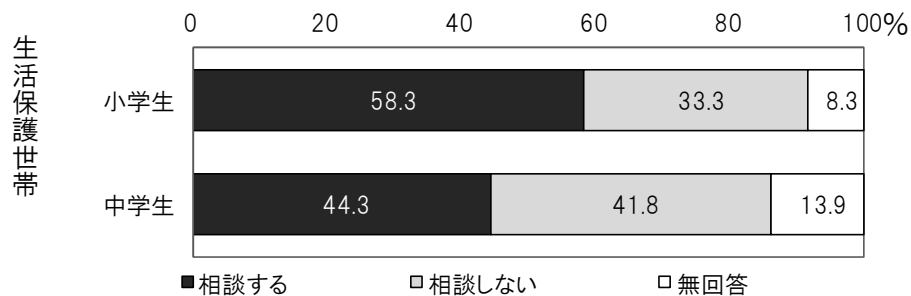
暮らしの中で困ったときに市役所の窓口相談するかについては、すべての対象で「相談しない」が6割前後で最も多く、対象ごとの差はありません。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「相談する」が4割台から5割台と、「相談しない」を上回っており、学年が上がると低くなっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「相談する」が顕著に高くなっています。



Ⅲ 保護者票

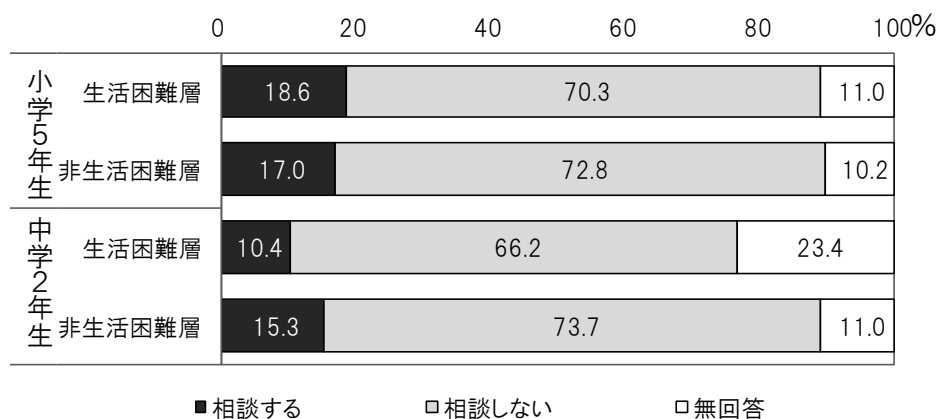
問4 あなたは、子育てに限らず暮らしの中で困ったときに以下の公的機関に相談しますか。

(それぞれについて、○はひとつだけ)

B. 子育て支援センター、子育て支援拠点(子育てサポートプラザ、子育てひろばポッポ♡、近くの保育園、公民館など)

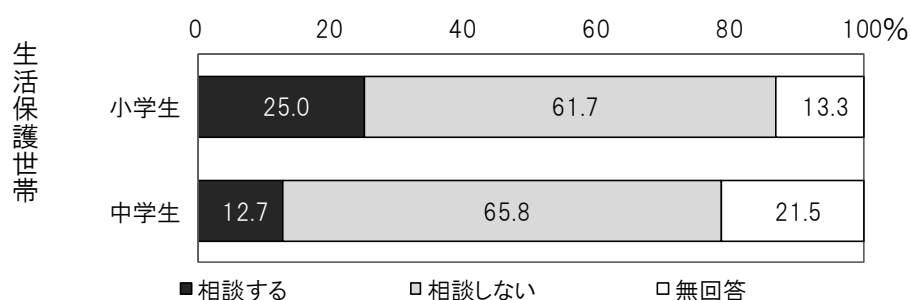
学校調査

暮らしの中で困ったときに子育て支援センター、子育て支援拠点(子育てサポートプラザ、子育てひろばポッポ♡、近くの保育園、公民館など)に相談するかについては、すべての対象で「相談しない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、中学2年生では「相談する」が10.4%と、非生活困難層に比べ4.9ポイント低く、小学5年生の生活困難層と比べても低くなっています。このことから、学年が上がると、生活困難層の保護者は子育て支援センター、子育て支援拠点に相談する意向が非生活困難層に比べ低い傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「相談しない」が6割台と、「相談する」を上回っています。また、小学生では「相談する」が25.0%と、中学生の12.7%に比べて12.3ポイント高くなっています。

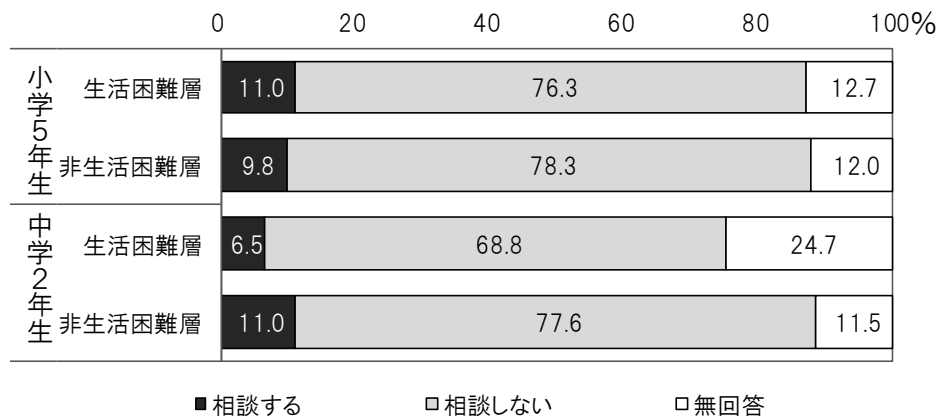


問4 あなたは、子育てに限らず暮らしの中で困ったときに以下の公的機関に相談しますか。
(それぞれについて、○はひとつだけ)

C. 児童相談所

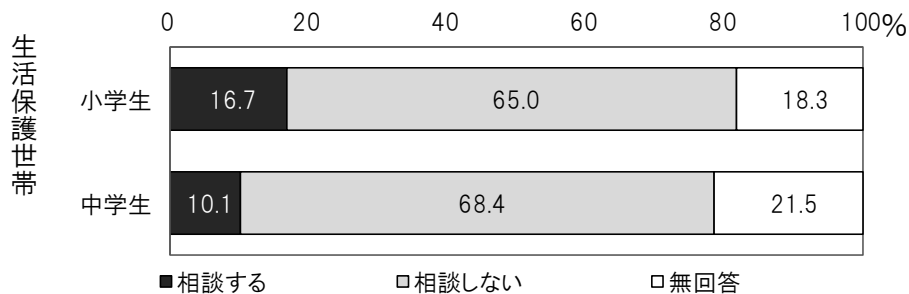
学校調査

暮らしの中で困ったときに児童相談所に相談するかについては、すべての対象で「相談しない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、学年が上がると児童相談所に相談する意向の低下が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「相談しない」が6割台と、「相談する」を上回っており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。



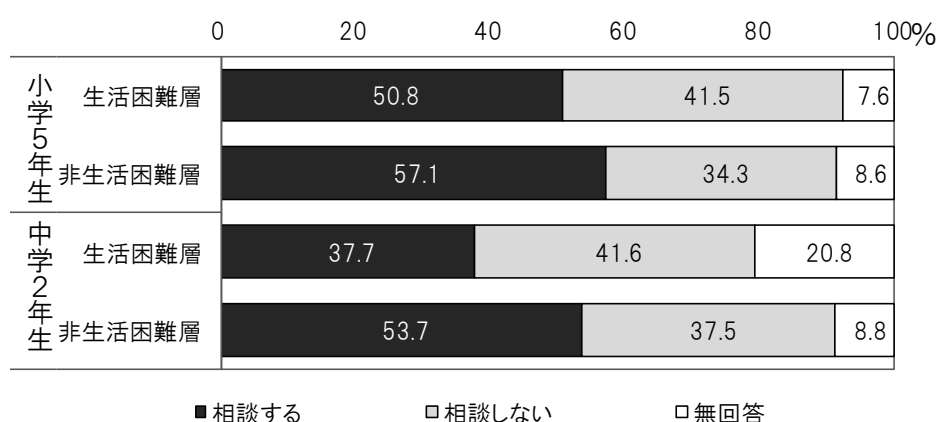
Ⅲ 保護者票

問4 あなたは、子育てに限らず暮らしの中で困ったときに以下の公的機関に相談しますか。
(それぞれについて、○はひとつだけ)

D. 子どもが通う学校、保育園、幼稚園の先生

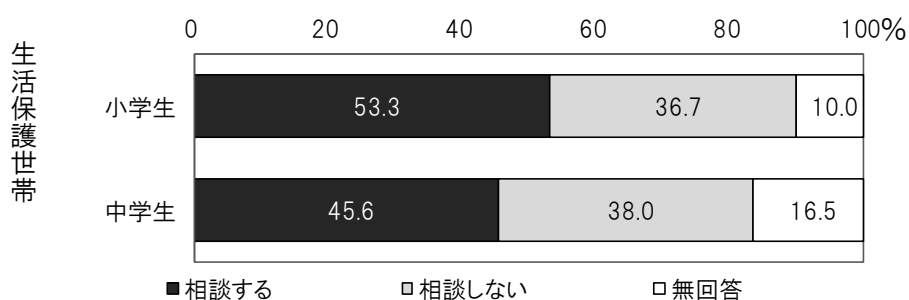
学校調査

暮らしの中で困ったときに子どもが通う学校、保育園、幼稚園の先生に相談するかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「相談する」が非生活困難層を下回っており、特に中学2年生では非生活困難層に比べ 16.0 ポイント下回っています。このことから、生活困難層の保護者は非生活困難層に比べ子どもが通う学校、保育園、幼稚園の先生に相談する意向は低く、特に中学2年生になるとその差は拡大し、「相談しない」と考える保護者が多くなる傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「相談する」が4割台から5割台と、「相談しない」を上回っており、学年が上がると低くなっています。



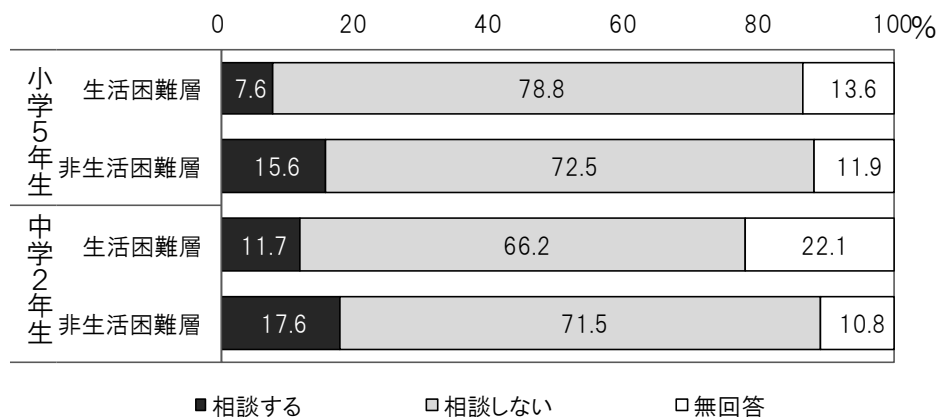
問4 あなたは、子育てに限らず暮らしの中で困ったときに以下の公的機関に相談しますか。
(それぞれについて、○はひとつだけ)

E. 子どもが通う学校のスクールカウンセラー

学校調査

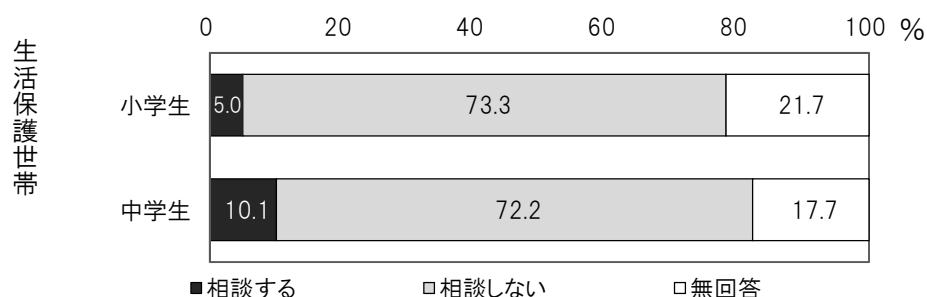
暮らしの中で困ったときに子どもが通う学校のスクールカウンセラーに相談するかについては、すべての対象で「相談しない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「相談する」は非生活困難層を下回っており、特に小学5年生では非生活困難層に比べ8.0ポイント低くなっています。また、学年が上がると、生活困難層、非生活困難層のいずれも、「相談する」は上昇しています。

このことから、生活困難層の保護者は非生活困難層に比べスクールカウンセラーに相談する意向は低いものの、中学2年生になるとわずかに意向の上昇が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「相談しない」が7割台と、「相談する」を上回っており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。



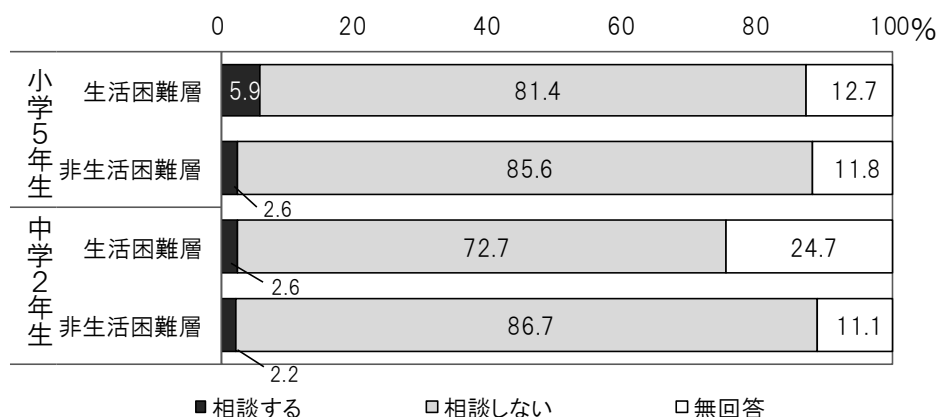
Ⅲ 保護者票

問4 あなたは、子育てに限らず暮らしの中で困ったときに以下の公的機関に相談しますか。
(それぞれについて、○はひとつだけ)

F. 地域の民生委員・児童委員

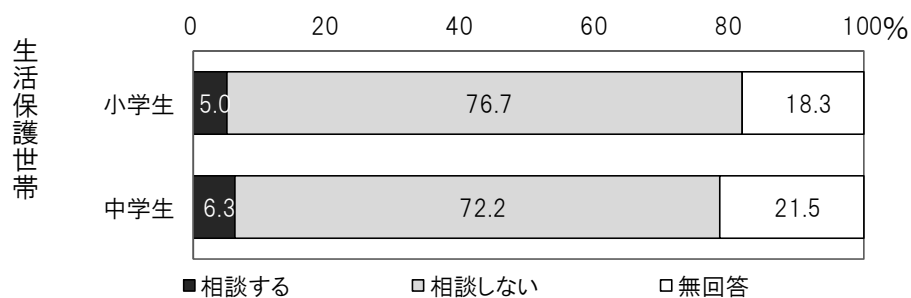
学校調査

暮らしの中で困ったときに地域の民生委員・児童委員に相談するかについては、すべての対象で「相談しない」が最も多く、7割を超えています。生活困難層の小学5年生では「相談する」が5.9%と、わずかに高くなっています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「相談しない」が7割台と、「相談する」を上回っており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

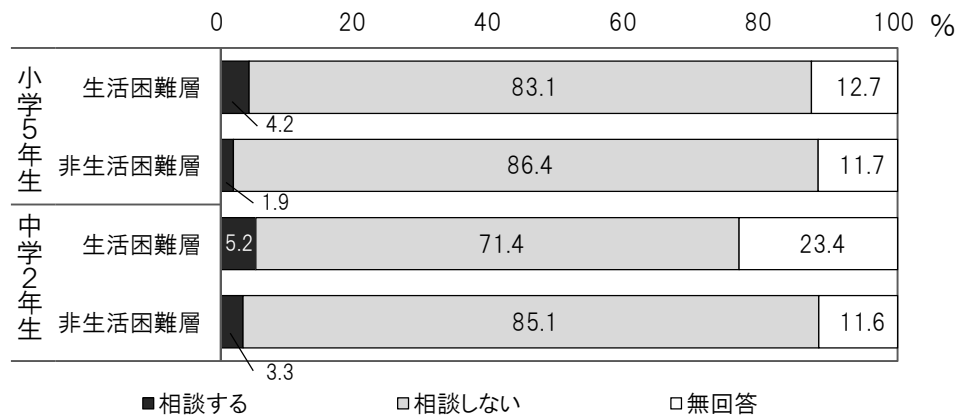


問4 あなたは、子育てに限らず暮らしの中で困ったときに以下の公的機関に相談しますか。
(それぞれについて、○はひとつだけ)

G. 社会福祉協議会

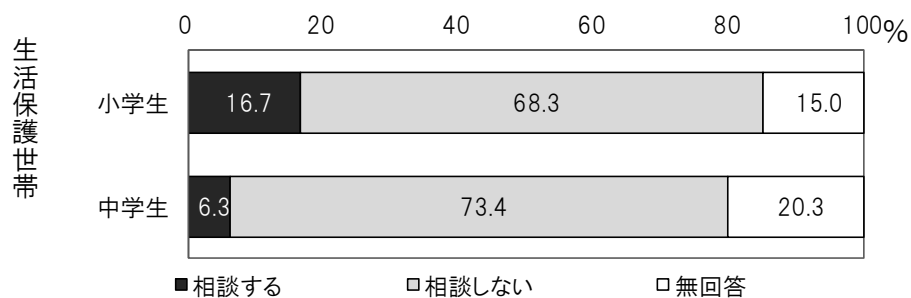
学校調査

暮らしの中で困ったときに社会福祉協議会に相談するかについては、すべての対象で「相談しない」が7割を超えて最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「相談する」が非生活困難層よりもわずかに高くなっています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「相談しない」が6割台から7割台と、「相談する」を上回っています。また、小学生では「相談する」が16.7%と、中学生の6.3%に比べて10.4ポイント高くなっています。



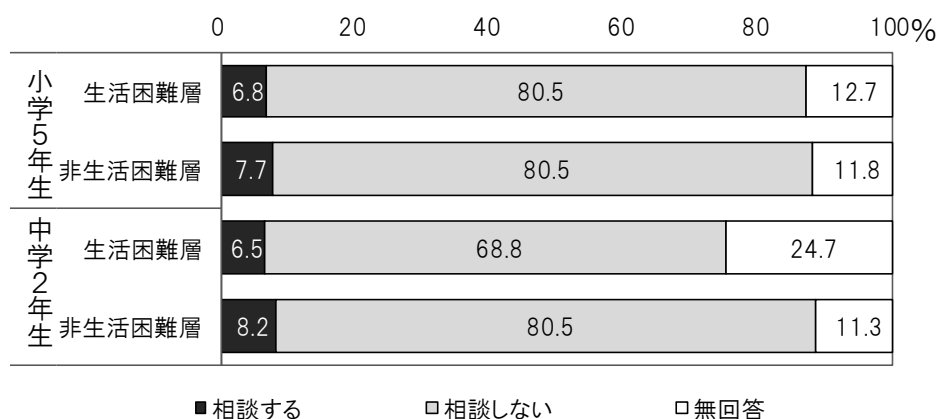
Ⅲ 保護者票

問4 あなたは、子育てに限らず暮らしの中で困ったときに以下の公的機関に相談しますか。
(それぞれについて、○はひとつだけ)

H. 地域保健センター

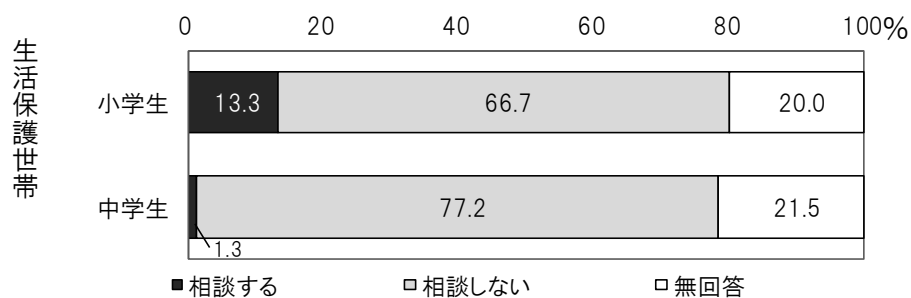
学校調査

暮らしの中で困ったときに地域保健センターに相談するかについては、すべての対象で「相談しない」が最も多く、生活困難層・非生活困難層間での傾向の差は見られません。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「相談しない」が6割台から7割台と、「相談する」を上回っています。また、小学生では「相談する」が13.3%と、中学生の1.3%に比べて12.0ポイント高くなっています。

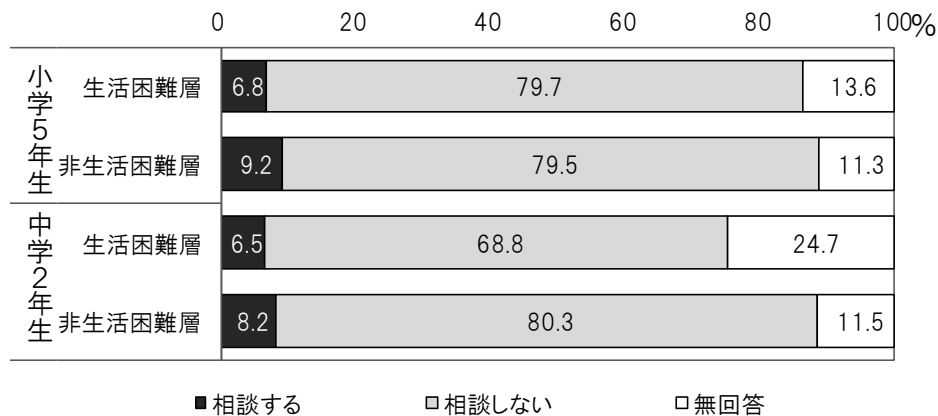


問4 あなたは、子育てに限らず暮らしの中で困ったときに以下の公的機関に相談しますか。
（それぞれについて、○はひとつだけ）

Ⅰ. ハローワーク

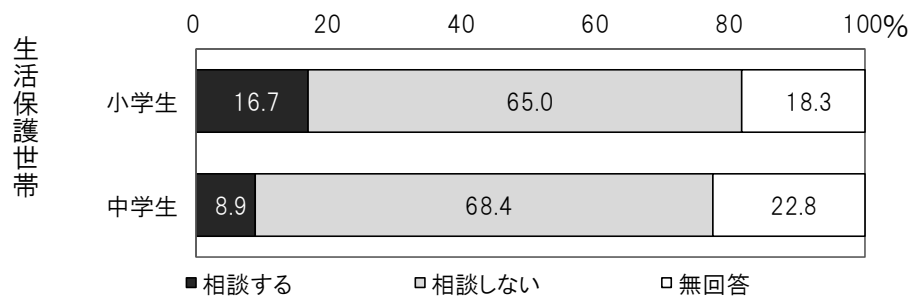
学校調査

暮らしの中で困ったときにハローワークに相談するかについては、すべての対象で「相談しない」が最も多く、生活困難層・非生活困難層間での差は見られません。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「相談しない」が6割台と、「相談する」を上回っています。また、小学生では「相談する」が16.7%と、中学生の8.9%に比べて7.8ポイント高くなっています。

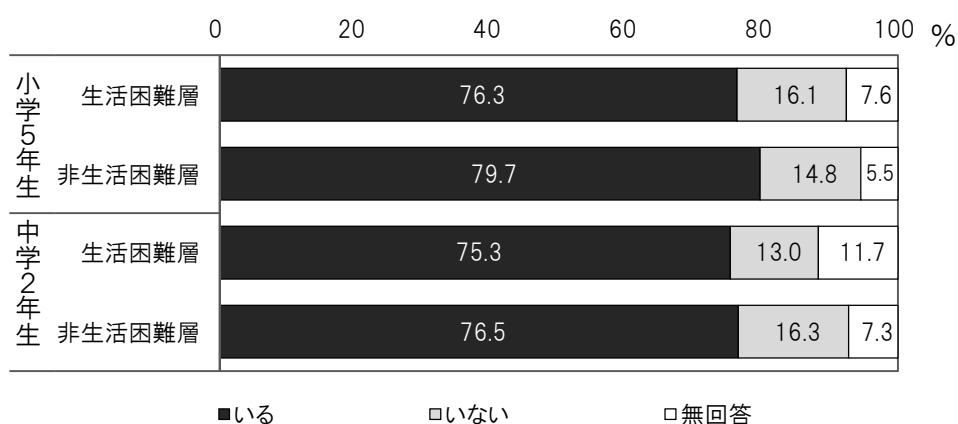


Ⅲ 保護者票

問5 お子さんの具合が悪い時や、あなたに用事があるときに、頼ることができる親せきや友人はいますか。(○はひとつだけ)

学校調査

子どもの具合が悪い時や、用事があるときに、頼ることができる親戚や友人がいるかについては、すべての対象で「いる」が最も多く、生活困難層・非生活困難層間での差は見られません。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「いる」が5割台から6割台と、「いない」を上回っており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

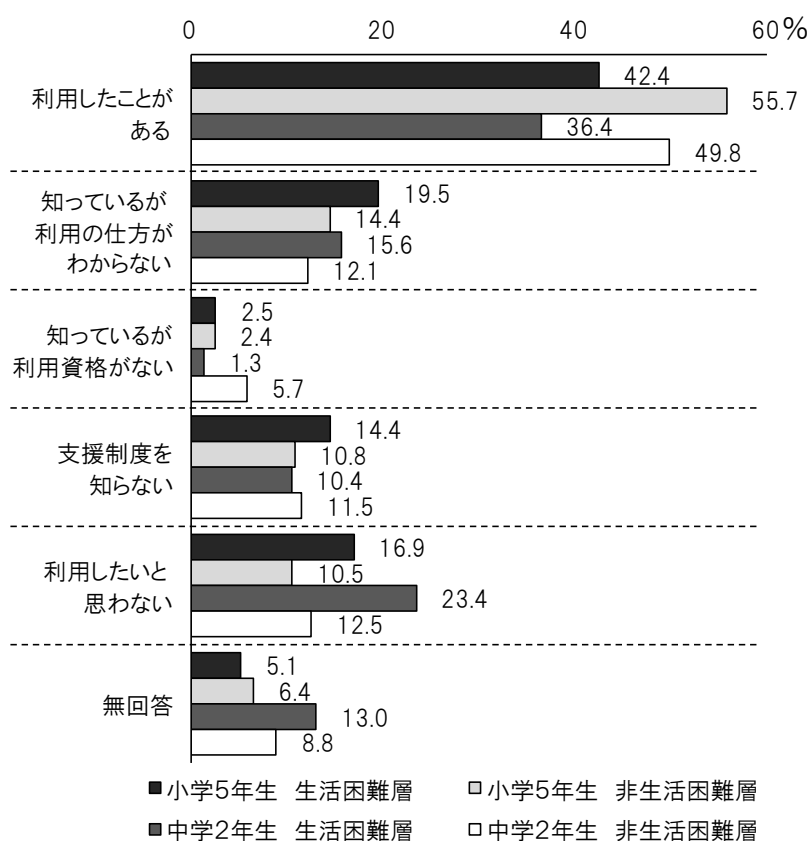


問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

A. 子育て支援センター、子育て支援拠点(子育てサポートプラザ、子育てひろばポッポ♡、近くの保育園、公民館など)

学校調査

これまでに子育て支援センター、子育て支援拠点(子育てサポートプラザ、子育てひろばポッポ♡、近くの保育園、公民館など)を利用したことがあるかについては、すべての対象で「利用したことがある」が最も多く、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも非生活困難層を10ポイント以上下回っています。また、「利用したいと思わない」では非生活困難層を上回り、学年が上がると増加しています。このことから、生活困難層では非生活困難層と比べて子育て支援センター、子育て支援拠点の利用経験は低く、利用を希望しない傾向が見られます。



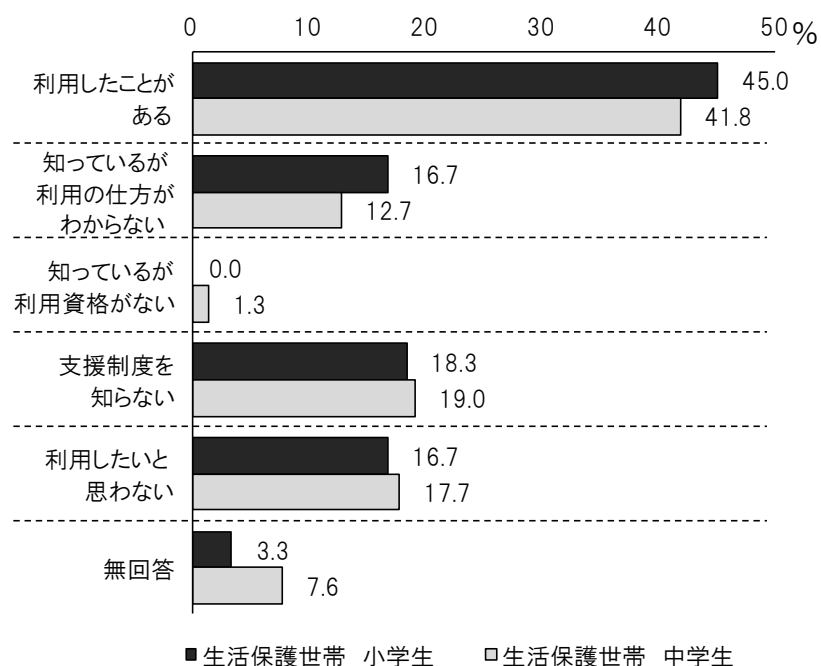
Ⅲ 保護者票

問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

A. 子育て支援センター、子育て支援拠点(子育てサポートプラザ、子育てひろばポッポ♡、近くの保育園、公民館など)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「利用したことがある」が4割台と最も多くなっており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

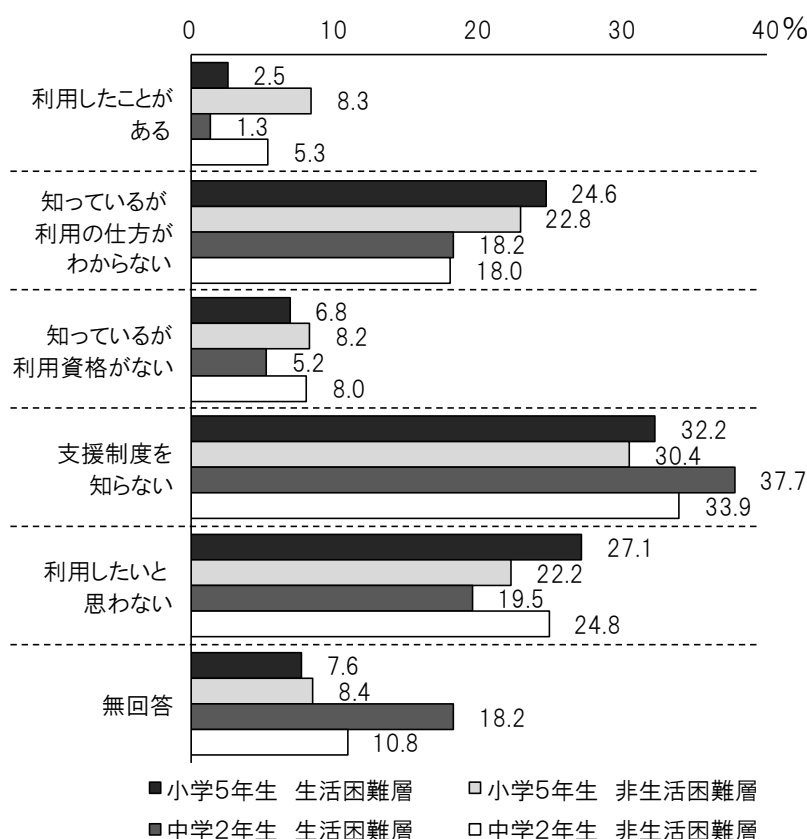


問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

B. ファミリー・サポート・センター

学校調査

これまでにファミリー・サポート・センターを利用したことがあるかについては、すべての対象で「支援制度を知らない」が最も多く、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層を上回っています。また、小学5年生で「利用したいと思わない」「知っているが利用の仕方がわからない」が次いで高くなっています。さらに、「利用したことがある」は小学5年生、中学2年生のいずれもで非生活困難層を下回り、わずかとなっています。このことから、ファミリー・サポート・センターは生活困難層・非生活困難層にかかわらず、認知度の低さ、利用方法が不明であることから利用に結びついていない状況がうかがえます。



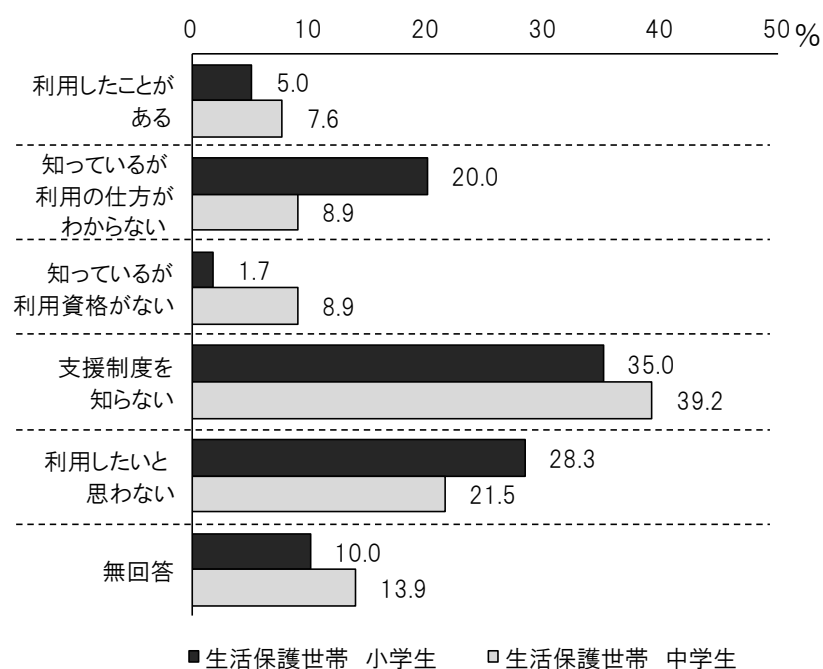
Ⅲ 保護者票

問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

B. ファミリー・サポート・センター

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「支援制度を知らない」が3割台と最も多くなっています。また、小学生では「知っているが利用の仕方がわからない」が20.0%と、中学生の8.9%に比べて11.1ポイント、中学生では「知っているが利用資格がない」が8.9%と、小学生の1.7%に比べて7.2ポイント高くなっています。また、小学生、中学生のいずれも、「利用したいと思わない」が2割台となっています。

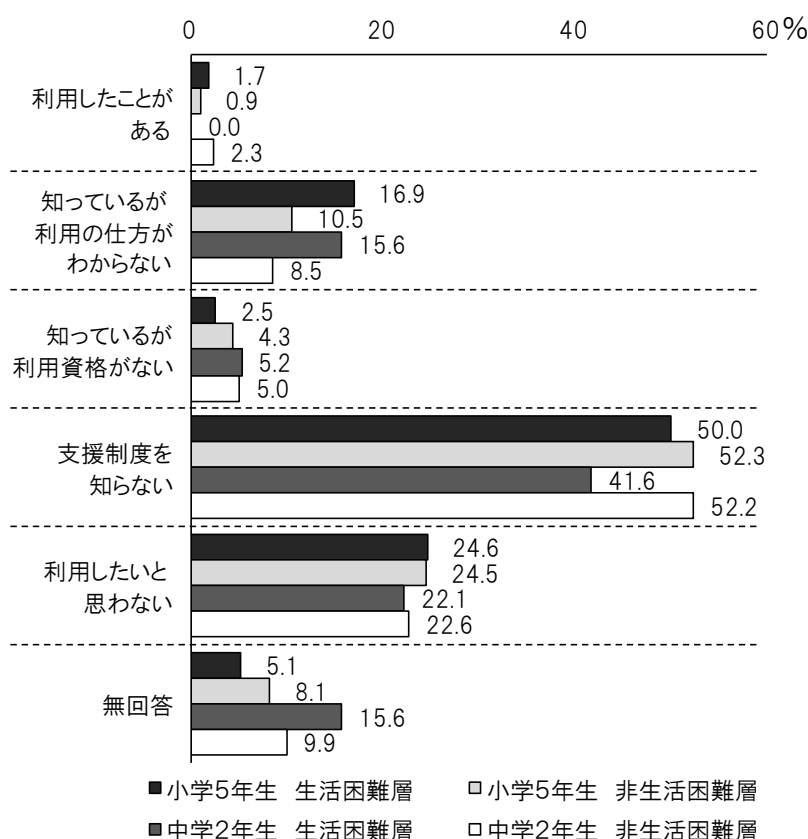


問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

C. 訪問支援・ホームスタート

学校調査

これまでに訪問支援・ホームスタートを利用したことがあるかについては、すべての対象で「支援制度を知らない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、中学2年生では、「支援制度を知らない」で非生活困難層を10ポイント以上下回っているほか、「知っているが利用の仕方がわからない」では小学5年生、中学2年生のいずれも非生活困難層を上回っています。また、「利用したいと思わない」がすべての対象で2割を超えています。このことから、支援制度を知らない割合は生活困難層・非生活困難層のいずれも4割を超えており、特に生活困難層では、非生活困難層と比べて訪問支援・ホームスタートの利用の仕方がわからない保護者の割合が高いことがわかります。



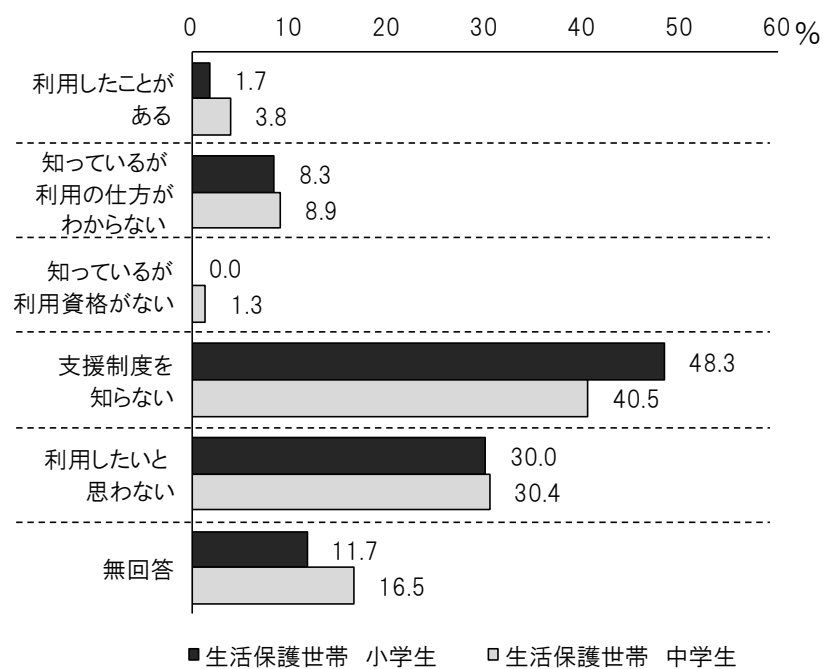
Ⅲ 保護者票

問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

C. 訪問支援・ホームスタート

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「支援制度を知らない」が4割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、小学生、中学生のいずれも、「利用したいと思わない」が3割台となっています。

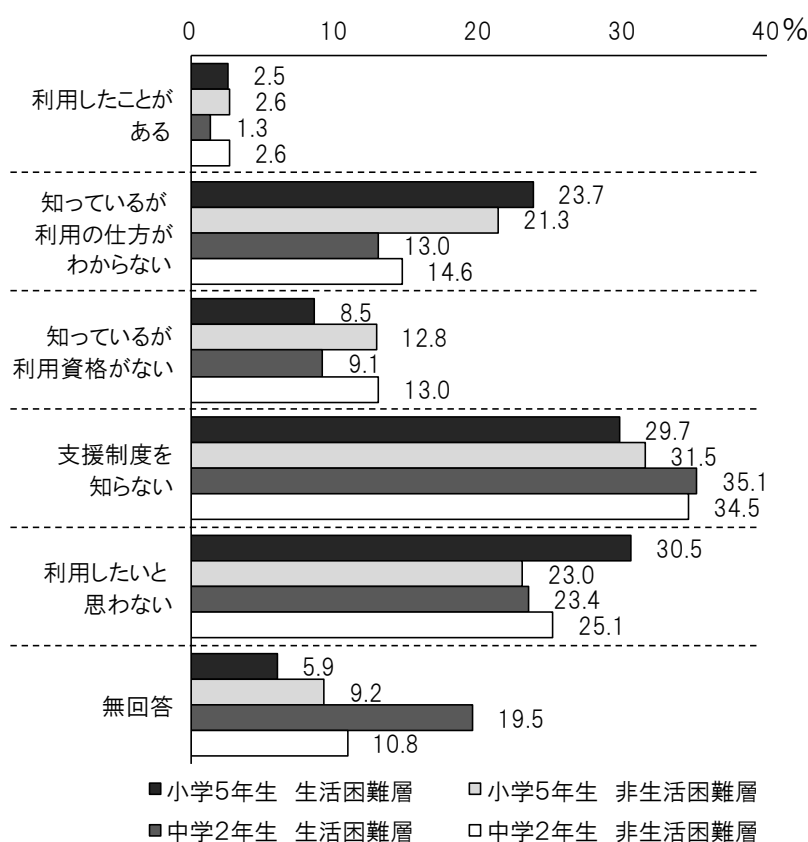


問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

D. 病児・病後児保育

学校調査

これまでに病児・病後児保育を利用したことがあるかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生では「知っているが利用の仕方がわからない」「利用したいと思わない」が非生活困難層を上回っています。学年が上がると、生活困難層・非生活困難層のいずれも「知っているが利用の仕方がわからない」では減少、「支援制度を知らない」では増加しています。このことから、小学5年生の生活困難層では一定の認知度はあるものの利用方法がわからない保護者と、利用を希望しない保護者の割合が高くなっています。



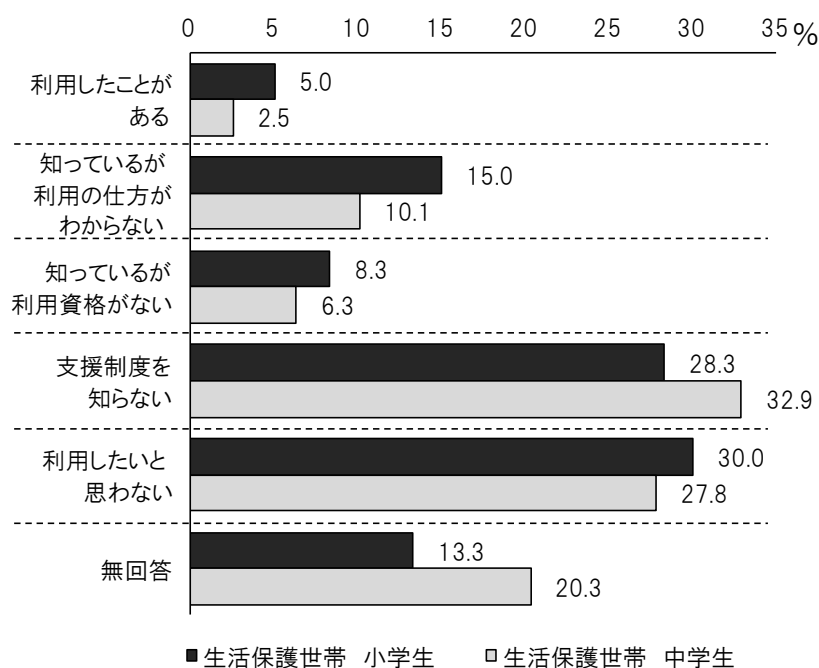
Ⅲ 保護者票

問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

D. 病児・病後児保育

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「利用したいと思わない」が30.0%、中学生では「支援制度を知らない」が32.9%と最も多くなっています。

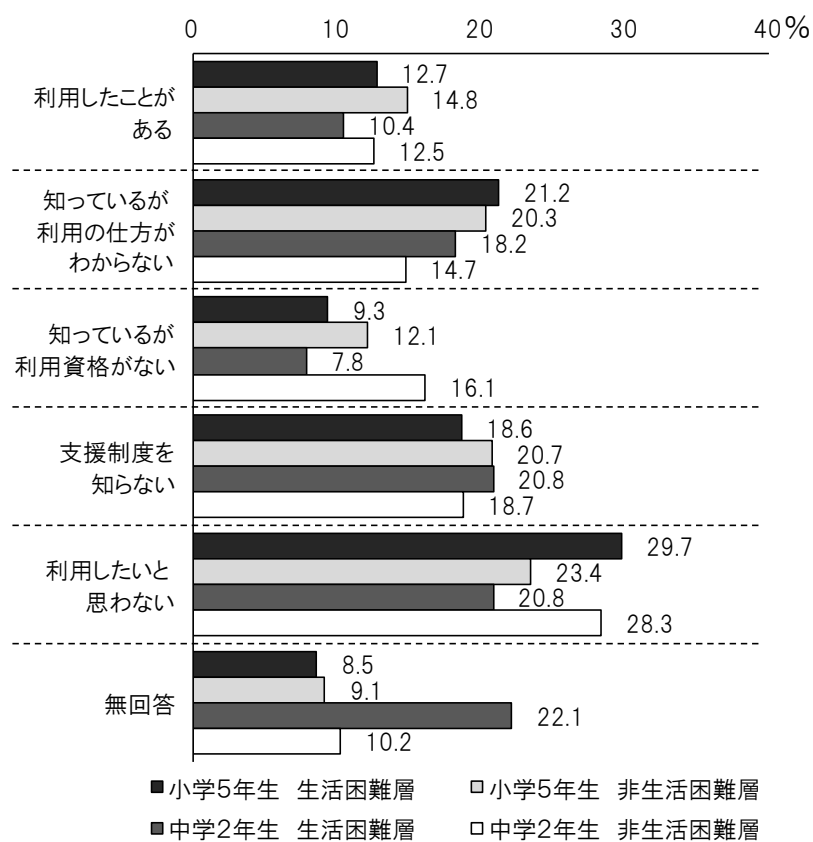


問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

E. 一時預かり(一時保育)

学校調査

これまでに一時預かり(一時保育)を利用したことがあるかについては、すべての対象で「利用したいと思わない」が2割を超えて最も高く、特に、小学5年生の生活困難層では、非生活困難層を6.3ポイント上回っています。また、「利用したことがある」はいずれの対象でも1割程度となっています。このことから、一時預かり(一時保育)については、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、利用経験は低く、特に小学5年生では生活困難層で利用を希望しない保護者の割合が高いことがわかります。



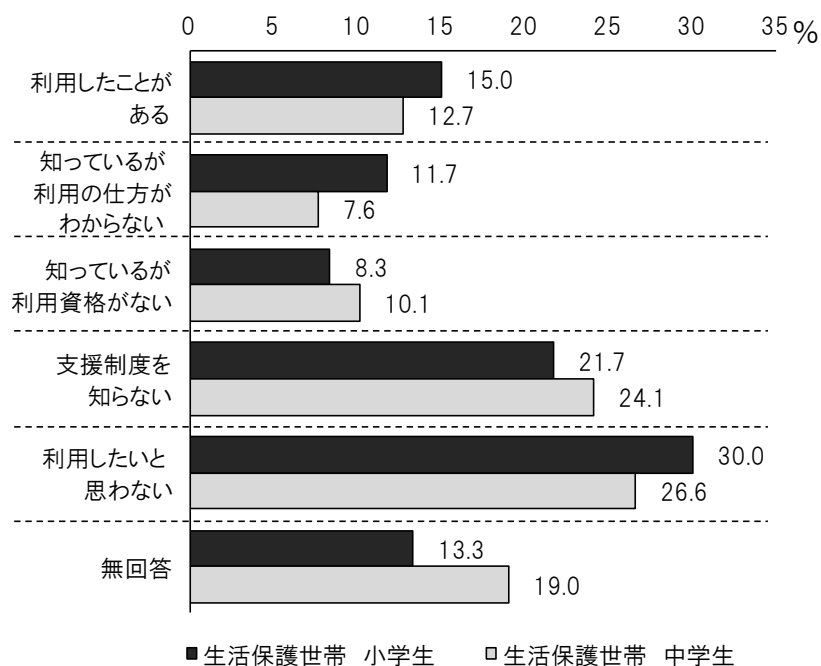
Ⅲ 保護者票

問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

E. 一時預かり(一時保育)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「利用したいと思わない」が2割台から3割と最も多く、次いで「支援制度を知らない」が2割台となっています。

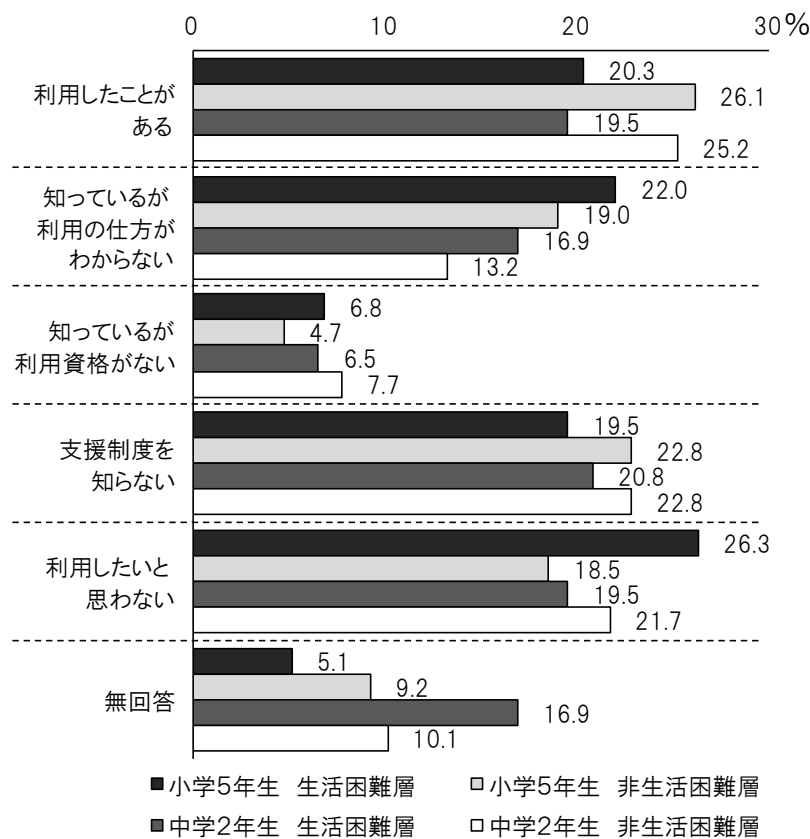


問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

F. 児童センター

学校調査

これまでに児童センターを利用したことがあるかについては、非生活困難層の小学5年生、中学2年生のいずれも「利用したことがある」が最も高い一方、生活困難層では非生活困難層を下回っています。また、生活困難層の小学5年生では、「利用したいと思わない」が26.3%と特に高くなっています。このことから、生活困難層の小学5年生、中学2年生のいずれも利用経験が低く、特に小学5年生の生活困難層では利用を希望しない保護者の割合が高いことがわかります。



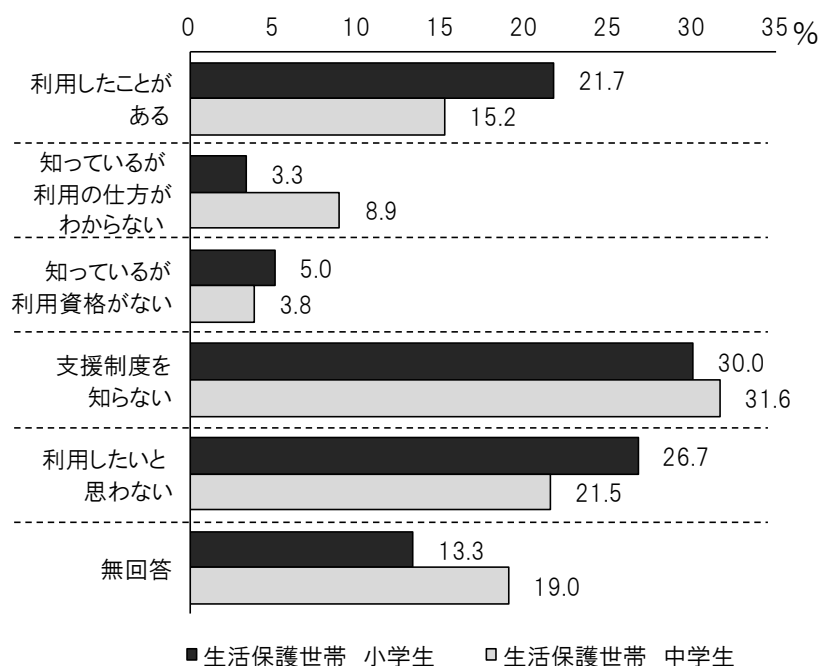
Ⅲ 保護者票

問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

F. 児童センター

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「支援制度を知らない」が3割台と最も高く、次いで「利用したいと思わない」が2割台となっています。また、小学生では「利用したことがある」が21.7%と、中学生の15.2%に比べてやや高くなっています。

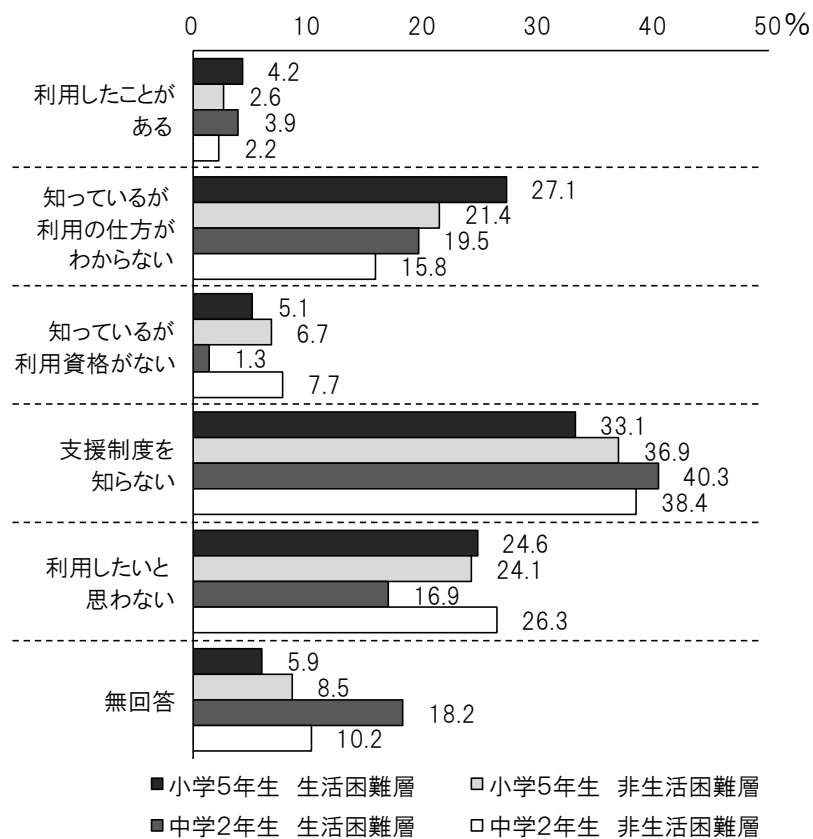


問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

G. 子ども食堂

学校調査

これまでに子ども食堂を利用したことがあるかについては、すべての対象で「支援制度を知らない」が最も多くなっていますが、生活困難層に着目すると、特に中学2年生では「利用したいと思わない」で非生活困難層を9.4ポイント下回り、生活困難層・非生活困難層間で差が見られます。また、小学5年生、中学2年生のいずれも「知っているが利用の仕方がわからない」で非生活困難層を上回っており、特に小学5年生では5.7ポイント非生活困難層との開きがある状況です、さらに、生活困難層・非生活困難層にかかわらず「利用したことがある」はわずかとなっています。このことから、子ども食堂については生活困難層・非生活困難層にかかわらず利用経験はわずかであり、支援制度自体の認知度が低く、利用方法がわからないことで利用に結びついていないことがうかがえます。



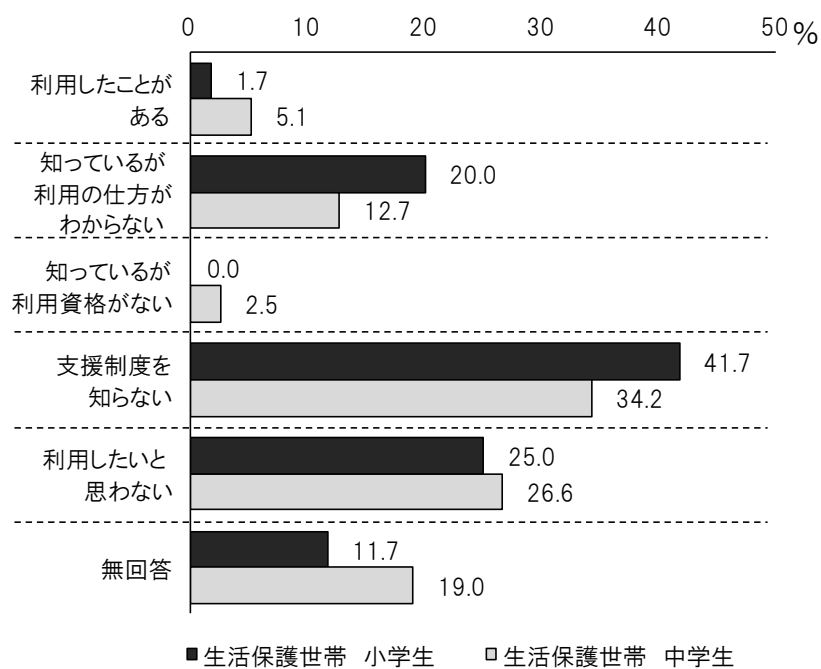
Ⅲ 保護者票

問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

G. 子ども食堂

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「支援制度を知らない」が3割台から4割台と最も多く、学年が上がるとやや低くなっています。また、「利用したいと思わない」がいずれも2割を超えています。

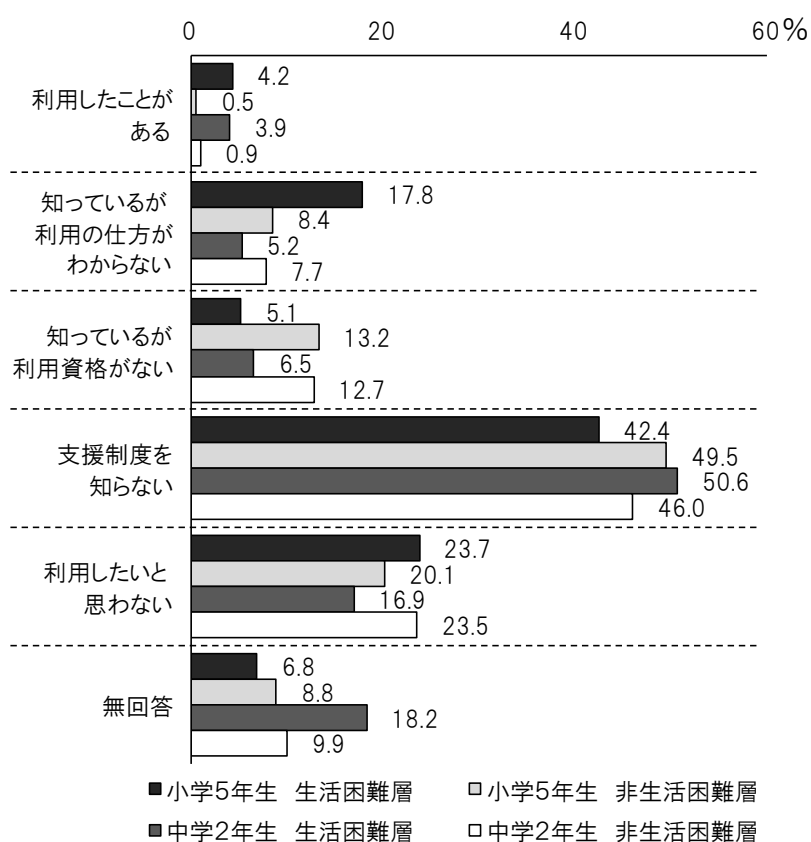


問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

H. 生活福祉資金

学校調査

これまでに生活福祉資金を利用したことがあるかについては、すべての対象で「支援制度を知らない」が最も多く、4割を超えています。生活困難層に着目すると、小学5年生では「知っているが利用の仕方がわからない」が17.8%で非生活困難層と比べ9.4ポイント高くなっています。また小学5年生、中学2年生のいずれも「知っているが利用資格がない」で、非生活困難層を下回っています。このことから、生活福祉資金については、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、支援制度自体の認知度が低い傾向が見られます。



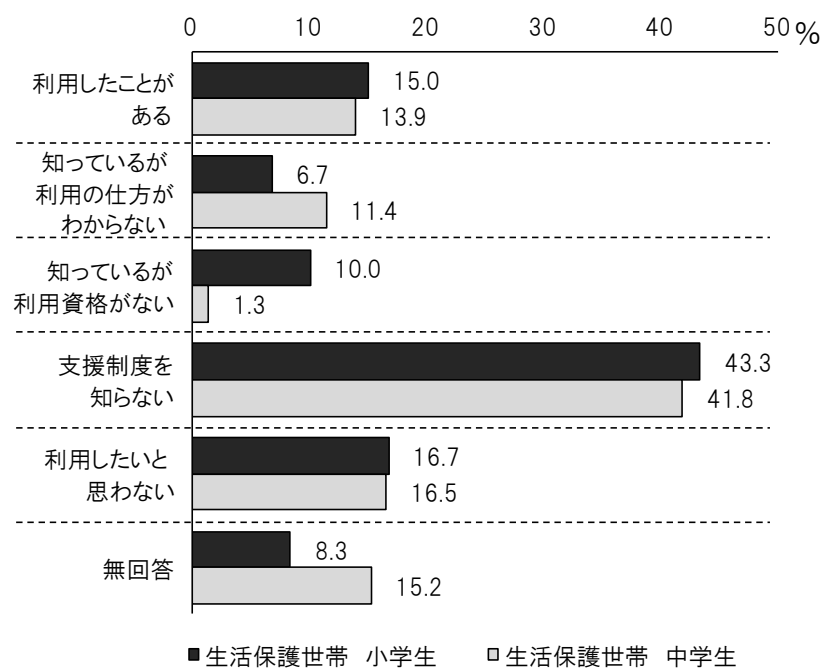
Ⅲ 保護者票

問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

H. 生活福祉資金

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「支援制度を知らない」が4割台と最も多くなっています。また、小学生では「知っているが利用資格がない」が10.0%と、中学生の1.3%に比べて8.7ポイント高くなっています。

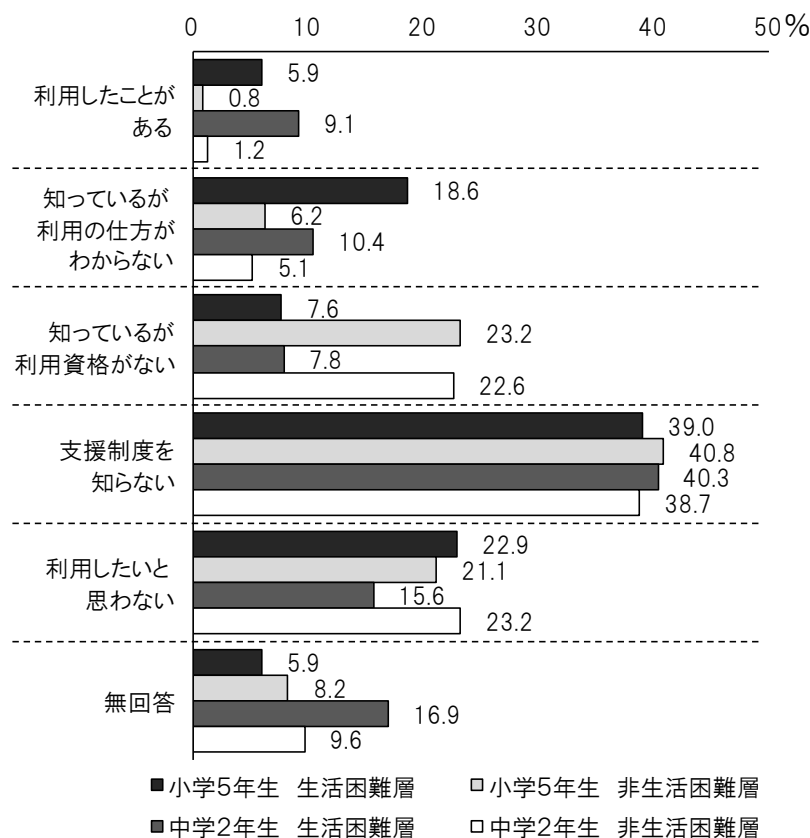


問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

Ⅰ. 母子及び父子並びに寡婦福祉資金

学校調査

これまでに母子及び父子並びに寡婦福祉資金を利用したことがあるかについては、すべての対象で「支援制度を知らない」が最も多く、4割前後となっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「利用したことがある」「知っているが利用の仕方がわからない」で非生活困難層を上回っています。このことから、母子及び父子並びに寡婦福祉資金については、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、支援制度自体の認知度が低いものの、生活困難層では利用経験のある保護者が一定数おり、利用方法がわからないことで利用に結びついていない保護者が非生活困難層と比べて多く、事業ニーズはあることがわかります。



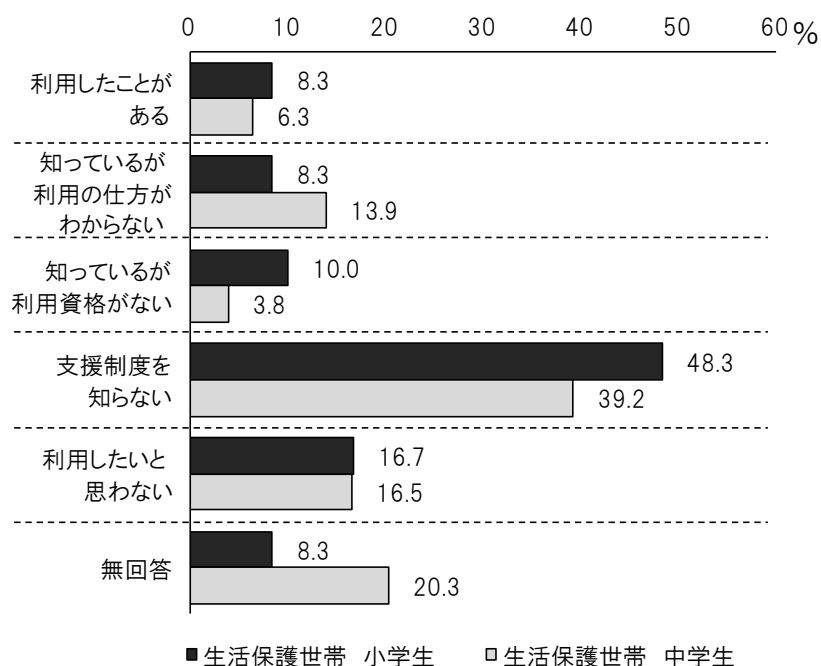
Ⅲ 保護者票

問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

Ⅰ. 母子及び父子並びに寡婦福祉資金

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「支援制度を知らない」が3割台から4割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、「利用したいと思わない」がいずれも1割台となっています。

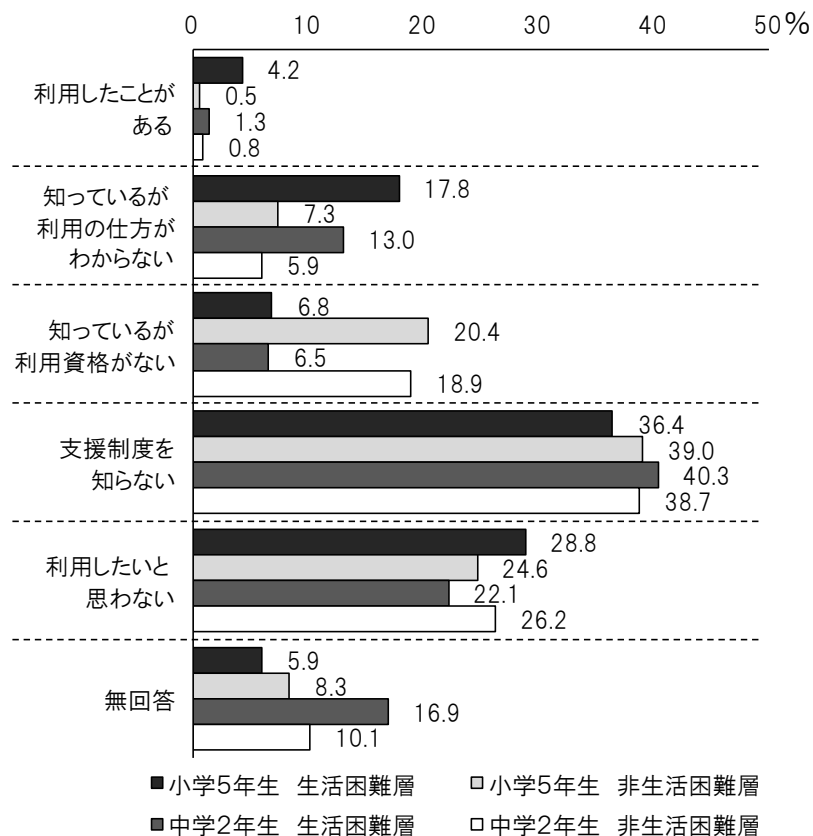


問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

J. 生活困窮者自立相談

学校調査

これまでに生活困窮者自立相談を利用したことがあるかについては、すべての対象で「支援制度を知らない」が最も多く、すべての対象で、4割前後となっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「利用したことがある」「知っているが利用の仕方がわからない」で非生活困難層を上回っており、概ね母子及び父子並びに寡婦福祉資金の結果と同様の傾向が見られます。



Ⅲ 保護者票

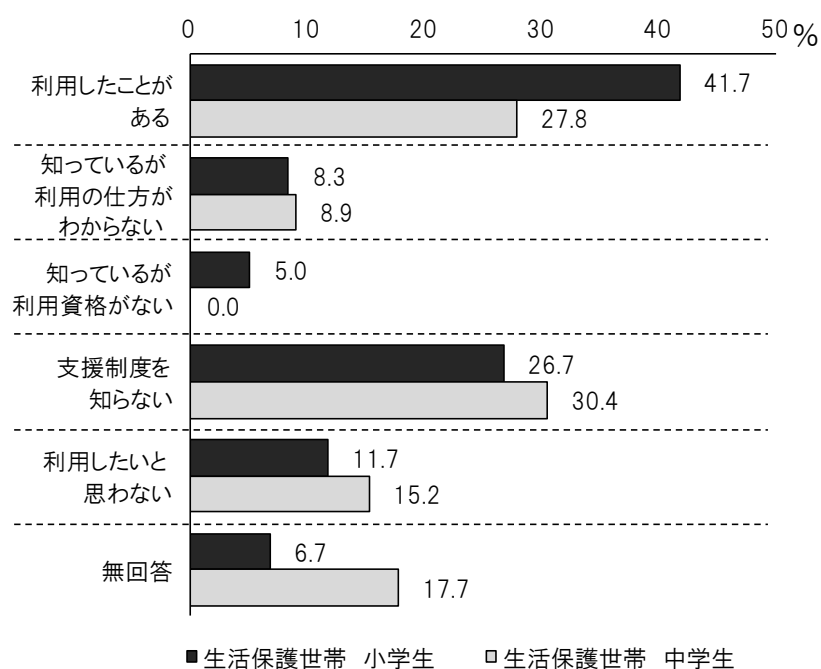
問6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

J. 生活困窮者自立相談

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「利用したことがある」が41.7%、中学生では「支援制度を知らない」が30.4%と、最も多くなっています。また、「利用したいと思わない」がいずれも1割台となっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「利用したことがある」が顕著に高くなっています。

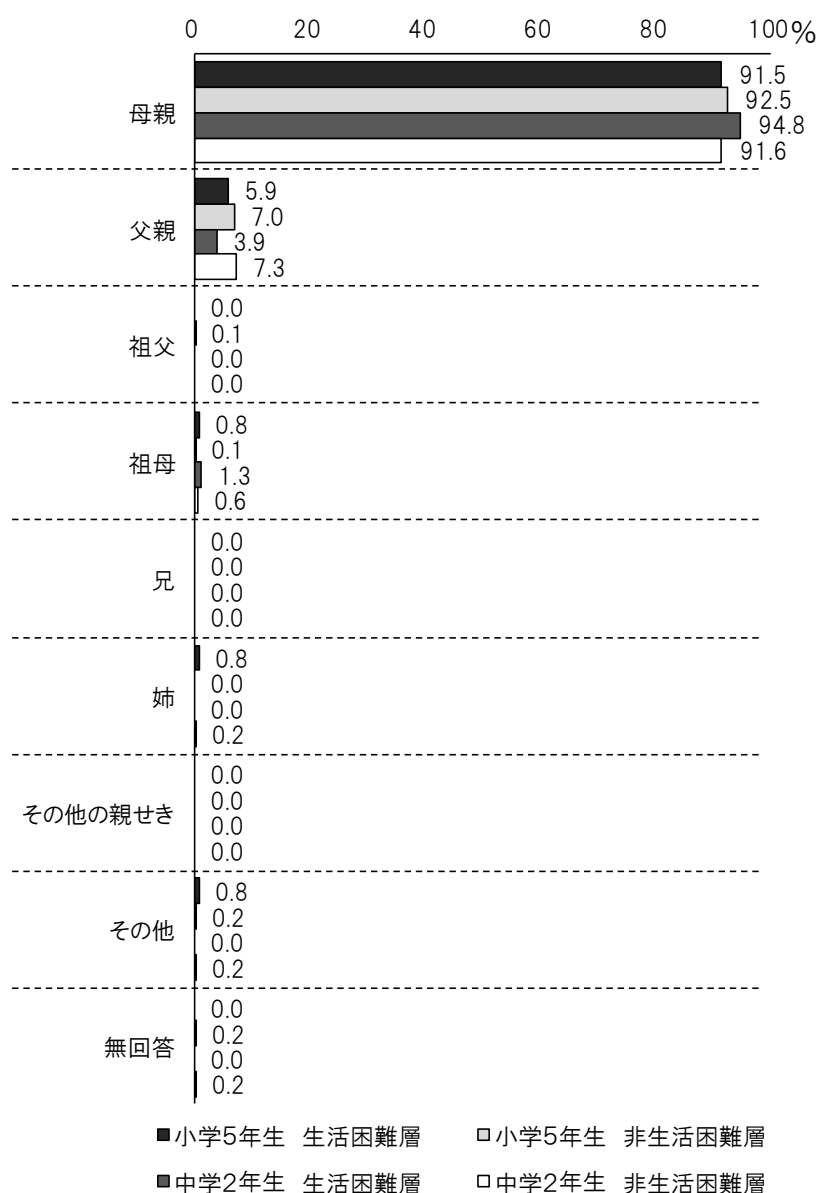


2. あなたとあなたのご家族のことについて

問7 お子さんとあなたの関係は、次のどれにあたりますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

子どもとの関係については、すべての対象で「母親」が最も多く、対象ごとの差は見られません。生活困難層・非生活困難層にかかわらず、母親による回答が大多数を占める結果となりました。

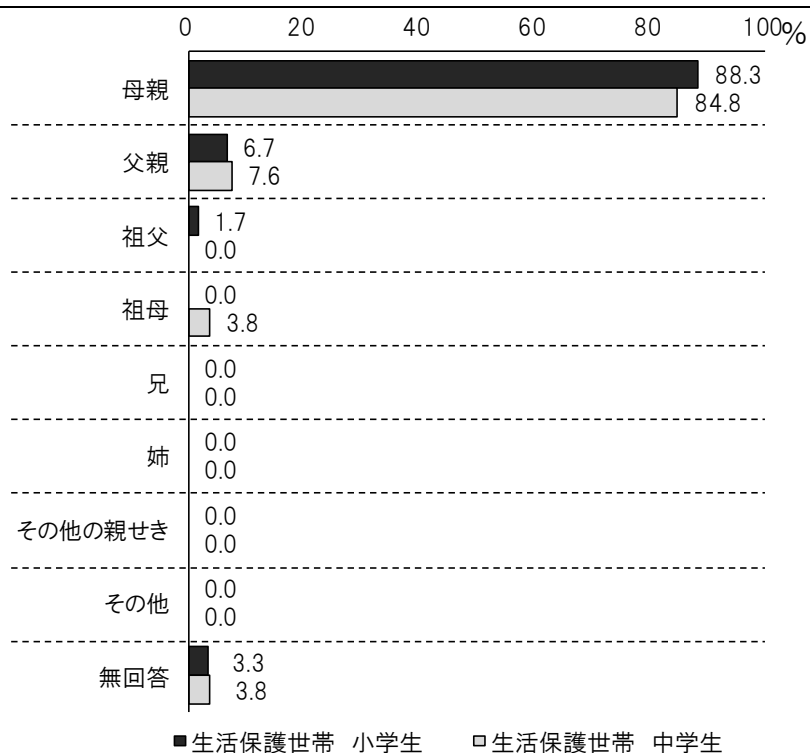


Ⅲ 保護者票

問7 お子さんとあなたの関係は、次のどれにあたりますか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

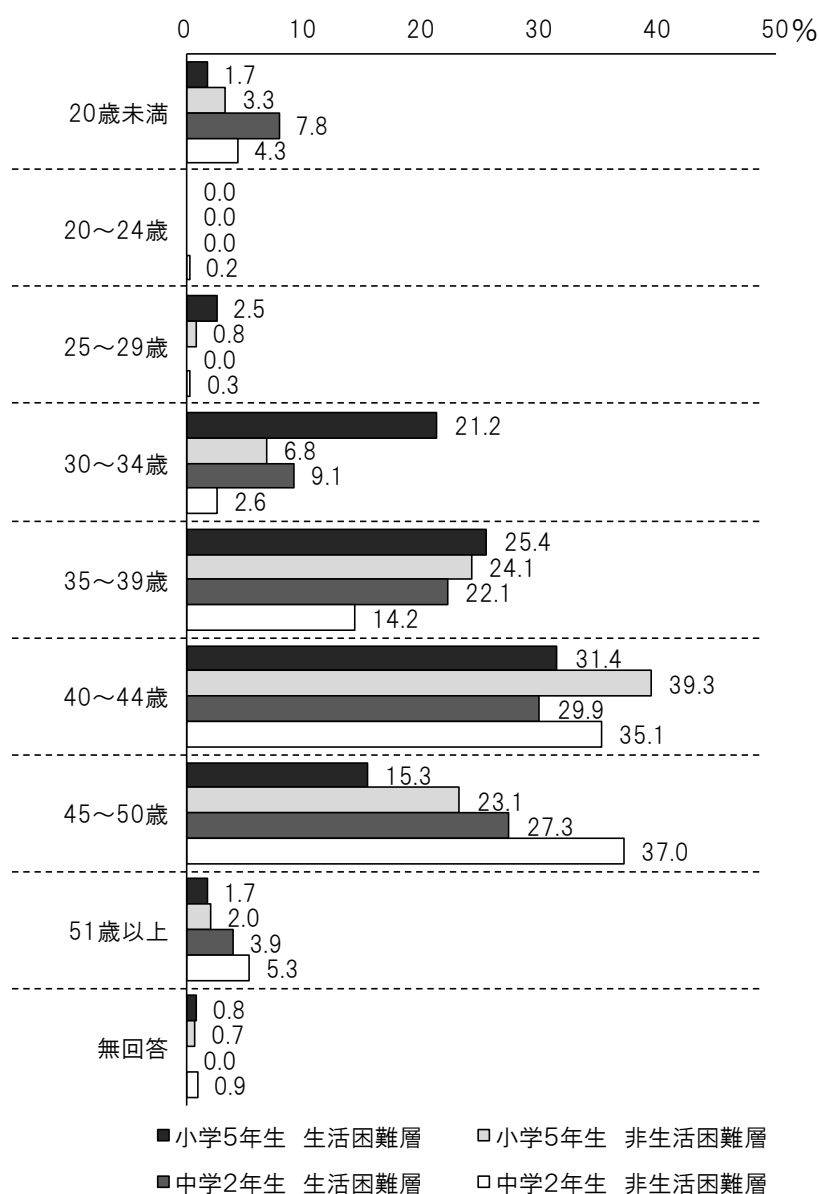
生活保護世帯について見ると、いずれも「母親」が8割台と最も多く、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。



問8 お子さんのお母さんの現在の年齢を教えてください。(〇はひとつだけ)

学校調査

母親の現在の年齢については、小学5年生の生活困難層・非生活困難層、中学2年生の生活困難層では「40～44 歳」が最も多く、中学2年生の非生活困難層では、少し高めの「45～50 歳」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では「30～34 歳」も21.2%と突出して多いほか、中学2年生では「20 歳未満」も7.8%いる状況です。このことから、小学5年生、中学2年生のいずれも、生活困難層の母親の現在の年齢は非生活困難層と比べやや低い傾向が見られます。

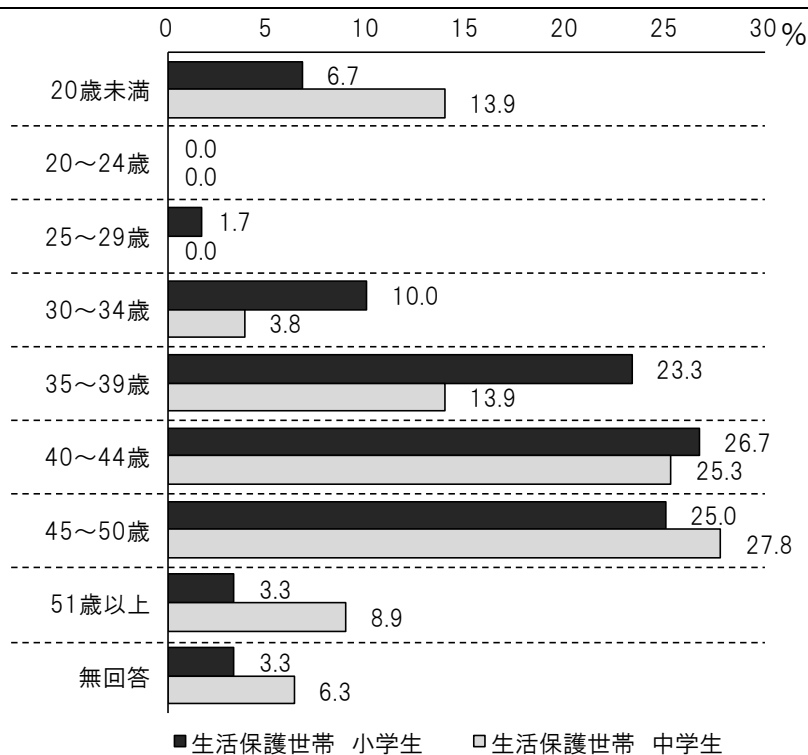


Ⅲ 保護者票

問8 お子さんのお母さんの現在の年齢を教えてください。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

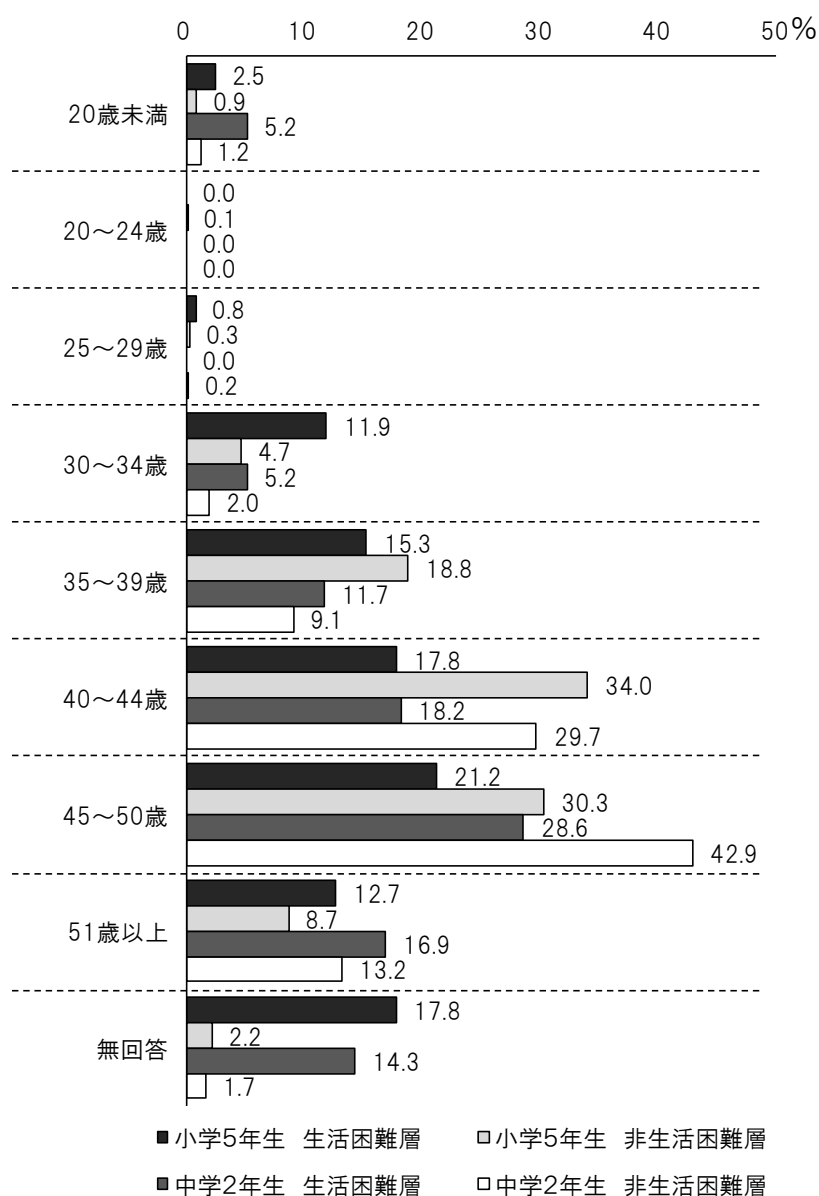
生活保護世帯について見ると、小学生では「40～44 歳」が 26.7%、中学生では「45～50 歳」が 27.8%と、最も多くなっています。また、小学生では「30～34 歳」「35～39 歳」が、中学生に比べて多くなっています。



問9 お子さんのお父さんの現在の年齢を教えてください。(〇はひとつだけ)

学校調査

父親の現在の年齢については、小学5年生の非生活困難層では「40～44 歳」、小学5年生の生活困難層、中学2年生の生活困難層・非生活困難層では「45～50 歳」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、年齢が幅広く分布しており、「30～34 歳」「51 歳以上」のいずれも非生活困難層を上回っています。また、わずかながら「20 歳未満」も非生活困難層を上回っています。このことから、生活困難層の父親の現在の年齢は、非生活困難層と比べて幅広い年代に分布する傾向が見られます。

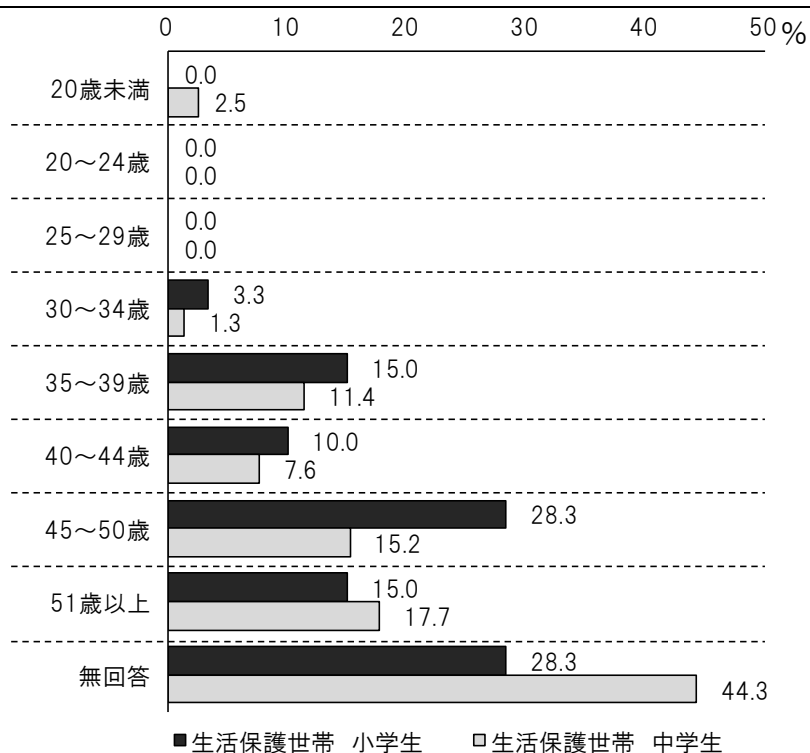


Ⅲ 保護者票

問9 お子さんのお父さんの現在の年齢を教えてください。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「45～50 歳」が 28.3%、中学生では「51 歳以上」が 17.7%と、最も多くなっています。

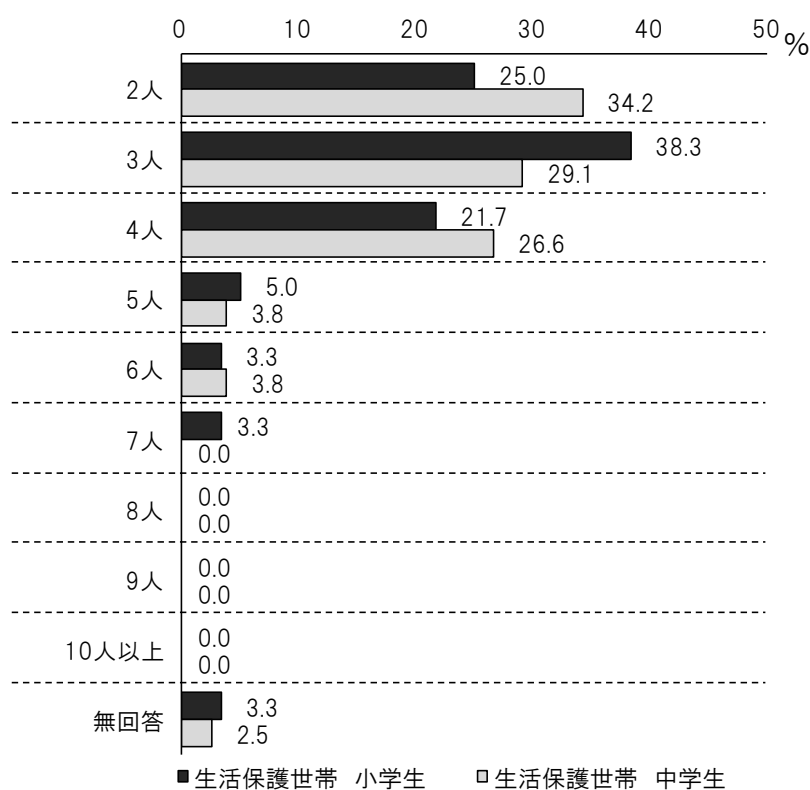


問 10 あなたとお子さんを含めた、家族全員の人数は何人ですか。（単身赴任やひとり暮らしのお子さんなど、別居していても生計を一緒にする方はすべて含みます。）（○はひとつだけ）

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「3人」が38.3%、中学生では「2人」が34.2%と、最も多くなっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、世帯の人数が顕著に少ない状況がうかがえます。

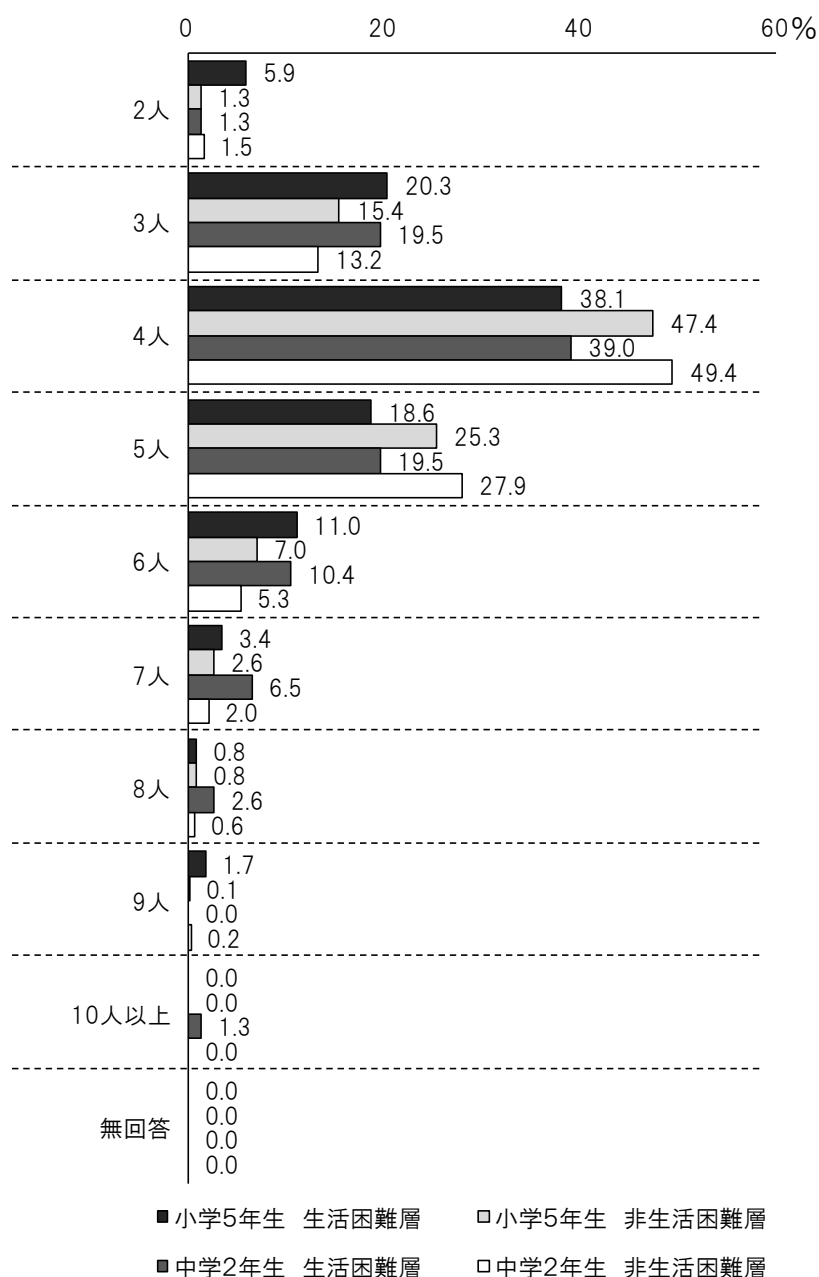


Ⅲ 保護者票

問 10 あなたとお子さんを含めた、家族全員の人数は何人ですか。（単身赴任やひとり暮らしのお子さんなど、別居していても生計を一緒にする方はすべて含みます。）（○はひとつだけ）

学校調査

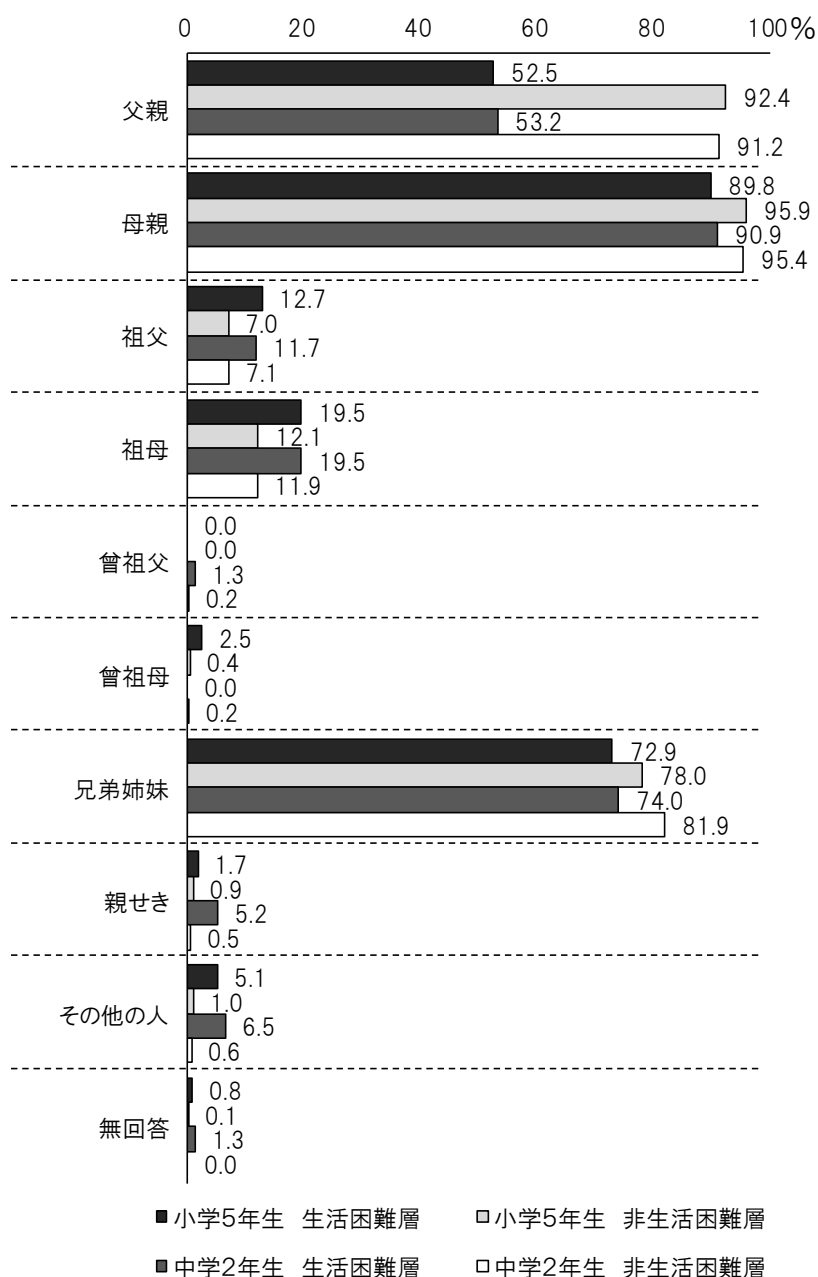
家族の人数については、すべての対象で「4人」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「4人」と「5人」では非生活困難層を下回っている一方、「3人」「6人」「7人」では非生活困難層を上回っています。このことから、生活困難層では、非生活困難層と比べて世帯の人数に幅があり、特に「3人」と「6人」以上の割合が多くなっています。



問 11 お子さんと同じ居しているご家族の方はどなたですか。兄弟姉妹については、人数も教えてください。(あてはまるものすべてに○)

学校調査

子どもと同じ居している家族については、すべての対象で「母親」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「父親」が非生活困難層に比べて40ポイント弱下回っており、大きな開きが見られます。また、「祖父」「祖母」が、非生活困難層を上回って1割台見られます。このことから、生活困難層では父親と同じ居していない家庭の割合が非生活困難層と比べて多い一方、祖父や祖母との同居をしている家庭はやや非生活困難層よりも多い傾向が見られます。



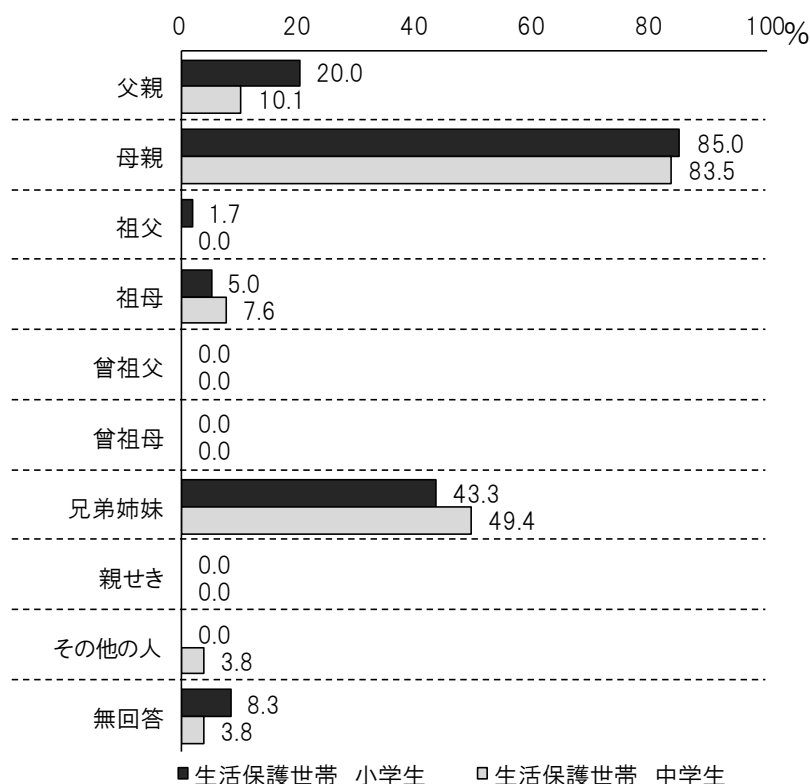
Ⅲ 保護者票

問 11 お子さんと同じ居しているご家族の方はどなたですか。兄弟姉妹については、人数も教えてください。(あてはまるものすべてに○)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「母親」が8割台と最も多く、次いで「兄弟姉妹」が4割台となっています。また、中学生では「父親」が10.1%と、小学生の20.0%に比べて9.9ポイント低くなっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「父親」と「兄弟姉妹」がともに顕著に低くなっています。

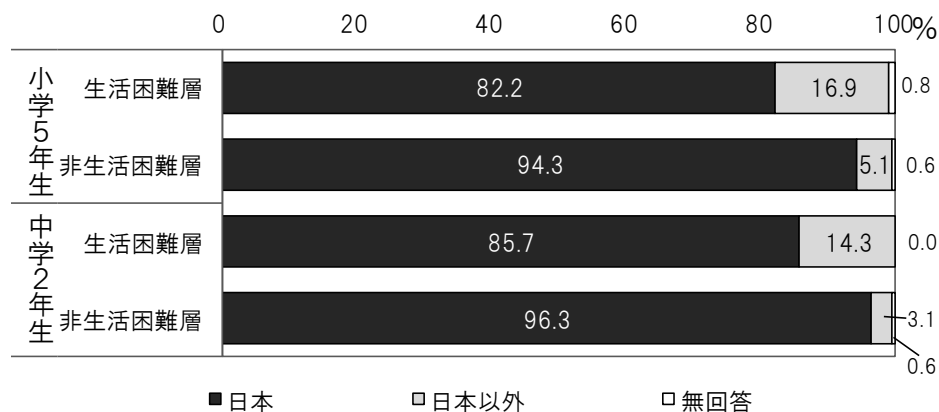


問 12 お子さんのご両親の国籍にあてはまる番号を、それぞれ教えてください。(それぞれについて、○はひとつだけ)

A. お母さん

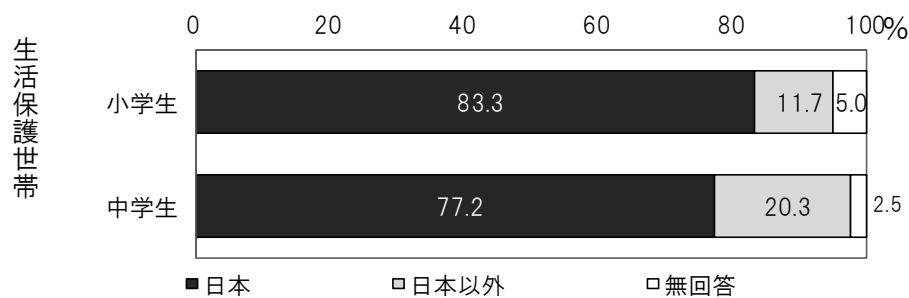
学校調査

母親の国籍については、すべての対象で「日本」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「日本以外」が非生活困難層を10ポイント以上高くなっています。このことから、生活困難層では母親の国籍が日本以外である家庭の割合が非生活困難層よりも多いことがわかります。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「日本」が7割台から8割台と、「日本以外」を大きく上回っています。また、中学生では「日本以外」が20.3%となっています。



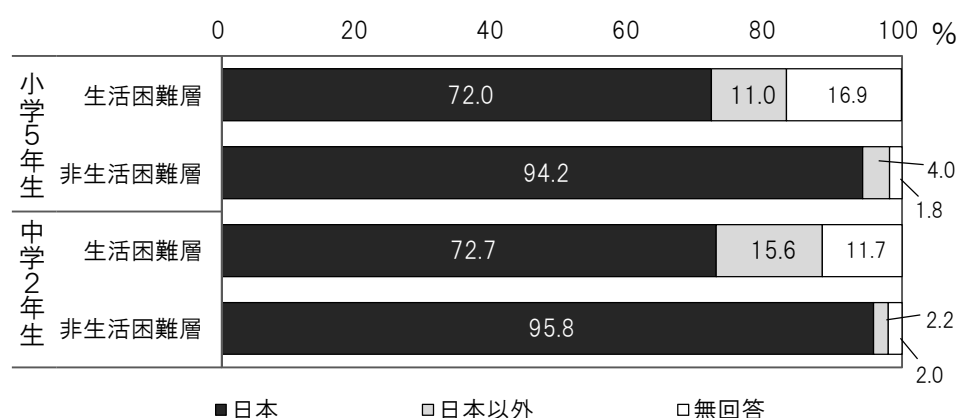
Ⅲ 保護者票

問 12 お子さんのご両親の国籍にあてはまる番号を、それぞれ教えてください。(それぞれについて、○はひとつだけ)

B. お父さん

学校調査

父親の国籍については、すべての対象で「日本」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「日本以外」が非生活困難層を7ポイント以上高くなっています。このことから、生活困難層では父親の国籍が日本以外である家庭の割合が非生活困難層よりも多いことがわかります。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「日本」が5割台から7割と、「日本以外」を大きく上回っています。



3. お子さんのお母さん、お父さんの仕事について

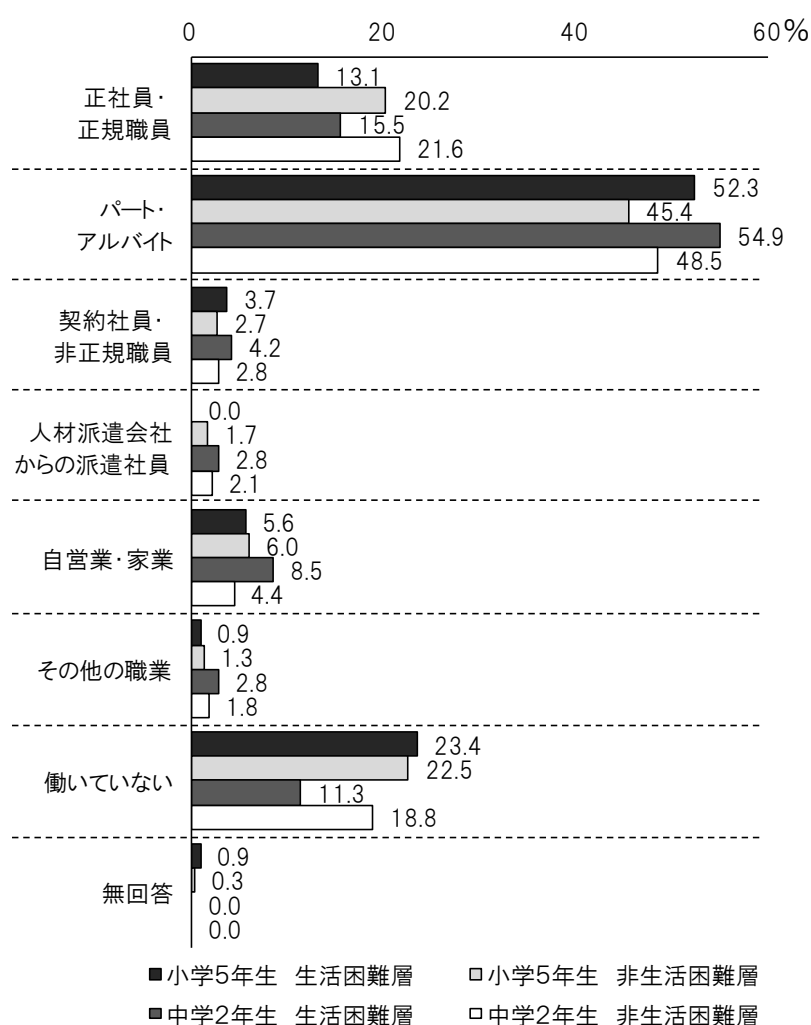
【お子さんのお母さんについて】

現在、お子さんとお母さんが生計を一緒にしていない場合は、問 14 に進んでください

問 13 お子さんのお母さんの現在の職業の雇用形態は、どれになりますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

子どもの母親の現在の職業の雇用形態については、すべての対象で「パート・アルバイト」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「パート・アルバイト」では非生活困難層を上回り5割台となっている一方、「正社員・正規職員」では非生活困難層を下回り、1割台となっています。また、「働いていない」は中学2年生では非生活困難層を7.5ポイント下回っています。このことから、生活困難層では非生活困難層と比べて「パート・アルバイト」の割合がやや高く、学年が上がると母親が働く割合が高くなる傾向が見られます。



Ⅲ 保護者票

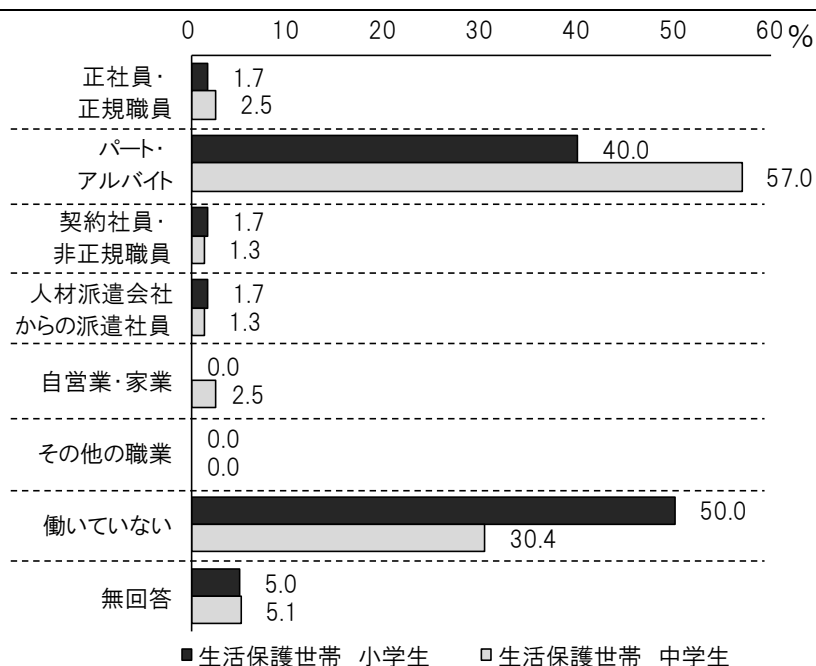
【お子さんのお母さんについて】

現在、お子さんとお母さんが生計を一緒にしていない場合は、問 14 に進んでください

問 13 お子さんのお母さんの現在の職業の雇用形態は、どれになりますか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「パート・アルバイト」が4割、中学生では「働いていない」が5割台と最も多くなっています。「働いていない」について、学年が上がると低くなるものの、学校調査と比べると顕著に高くなっています。

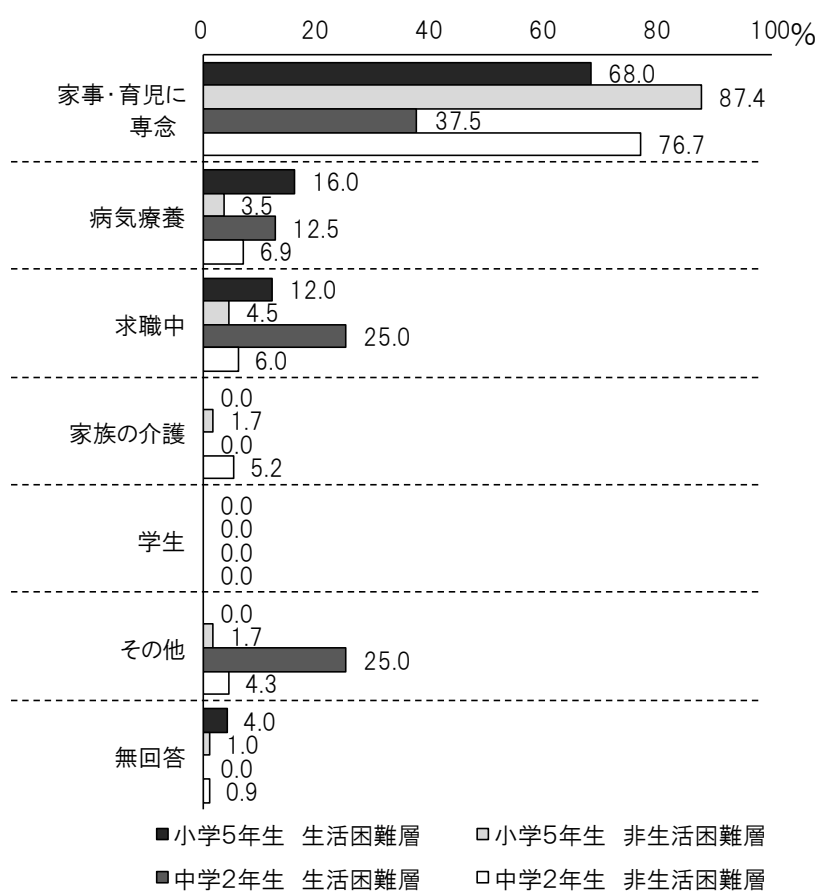


問 13 で「7. 働いていない」を選んだ方にお伺いします。

問 13-1 お子さんのお母さんの生活の状況をおしえてください。(〇はひとつだけ)

学校調査

働いていない場合の子どもの母親の生活の状況については、すべての対象で「家事・育児に専念」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「家事・育児に専念」で非生活困難層を大きく下回り、特に中学2年生では39.2ポイント低くなっています。また、「病気療養」「求職中」で非生活困難層を上回り、特に中学2年生では「求職中」が25.0%と高くなっています。このことから、生活困難層では、母親が働いていない理由として、病気療養や求職中の割合が高い傾向が見られます。



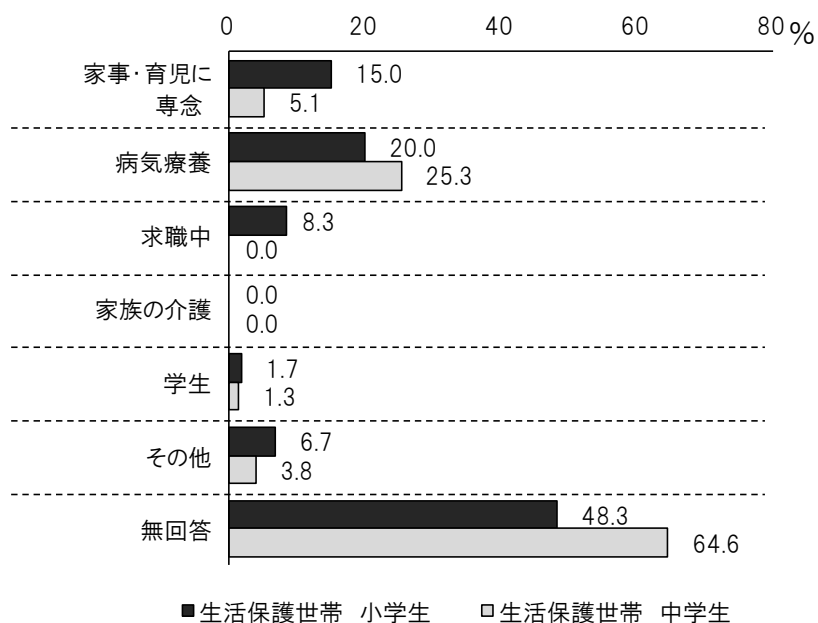
Ⅲ 保護者票

問 13 で「7. 働いていない」を選んだ方にお伺いします。

問 13-1 お子さんのお母さんの生活の状況をおしえてください。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「病気療養」が2割台と最も多くなっています。また、小学生では「家事・育児に専念」が15.0%と、中学生の5.1%に比べて9.9ポイント、「求職中」が8.3%と、中学生の0.0%に比べて8.3ポイント高くなっています。

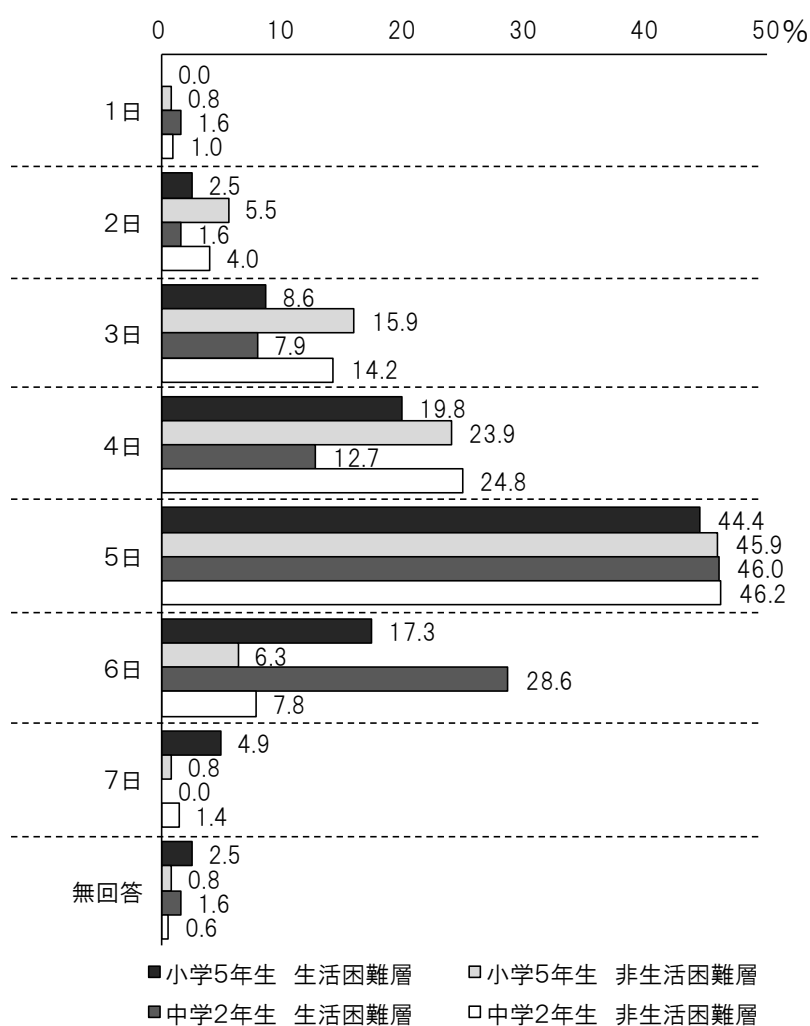


問 13 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

問 13-2 お子さんのお母さんは、1週間のうち、どのくらい仕事をしていますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

子どもの母親が1週間のうちどのくらい仕事をしているかについては、すべての対象で「5日」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「6日」が非生活困難層を上回り、「3日」「4日」で非生活困難層を下回っています。このことから、生活困難層では、母親が働いている日数が多い傾向が見られます。



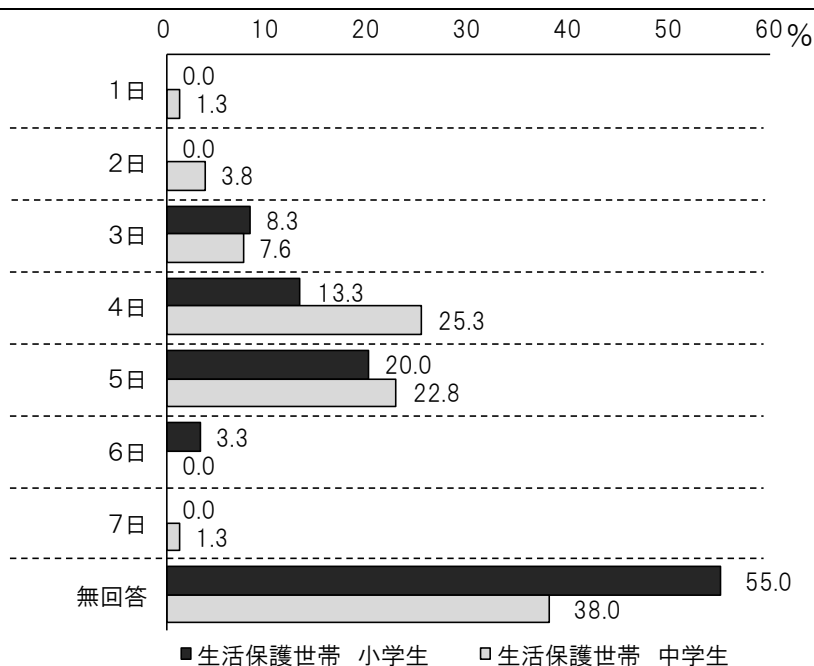
Ⅲ 保護者票

問 13 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

問 13-2 お子さんのお母さんは、1週間のうち、どのくらい仕事をしていますか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「5日」が20.0%、中学生では「4日」が25.3%と最も多くなっています。

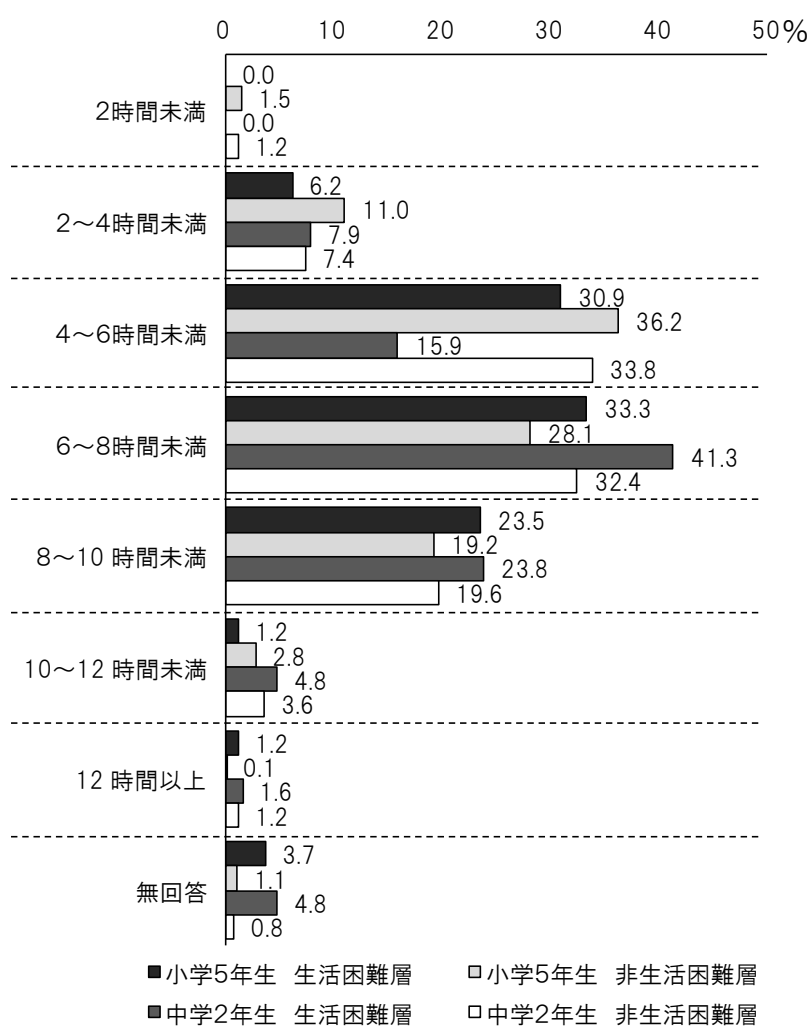


問 13 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

問 13-3 お子さんのお母さんは、1日あたり平均何時間ぐらい仕事をしていますか。(○はひとつだけ) ■複数のお仕事をしている場合は合わせた時間数をお答えください。

学校調査

子どもの母親が1日あたり平均何時間仕事をしているかについては、小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層では「4～6時間未満」が最も多い一方、生活困難層では「6～8時間未満」が最も多く、「8～10時間未満」でも非生活困難層を上回っています。このことから、生活困難層では、母親の1日当たりの労働時間が長い傾向が見られます。



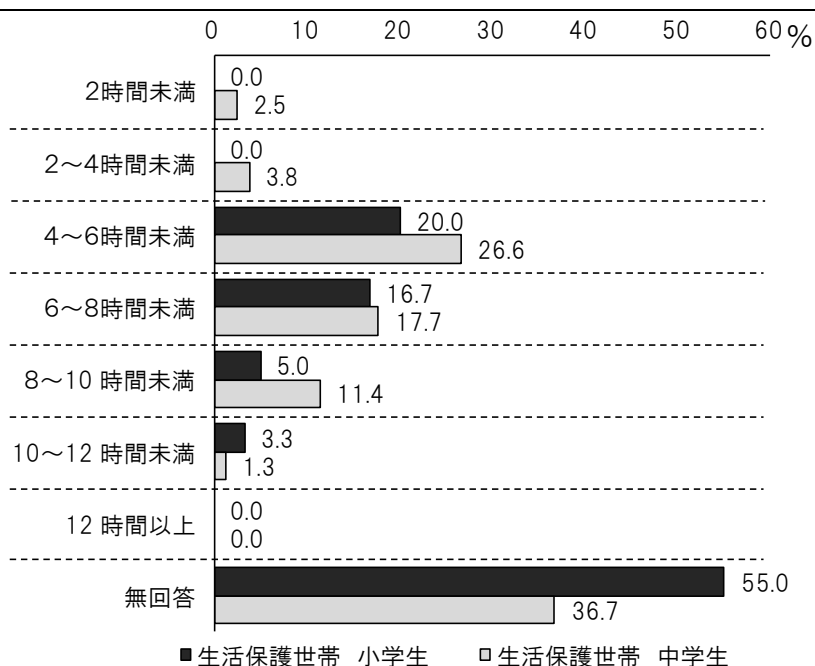
Ⅲ 保護者票

問 13 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

問 13-3 お子さんのお母さんは、1日あたり平均何時間ぐらい仕事をしていますか。(○はひとつだけ) ■複数のお仕事をしている場合は合わせた時間数をお答えください。

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「4～6時間未満」が2割台と最も多くなっています。また、中学生では「8～10時間未満」が11.4%と、小学生の5.0%に比べて6.4ポイント高くなっています。

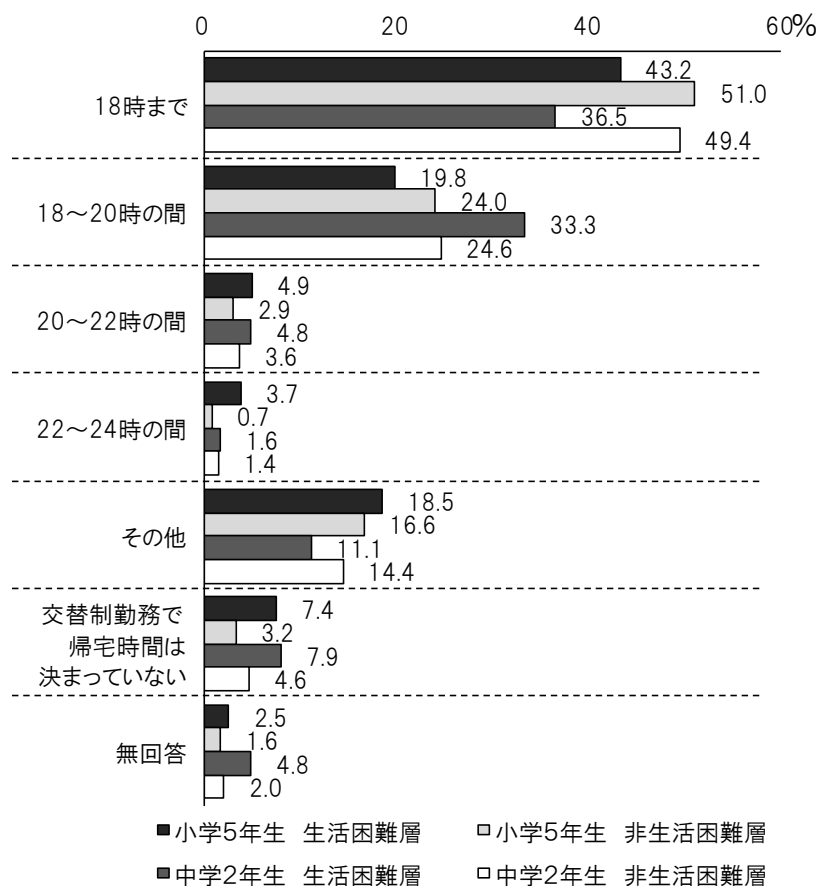


問 13 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

問 13-4 お子さんのお母さんの、概ねの帰宅時間を教えてください。(〇はひとつだけ)

学校調査

子どもの母親の概ねの帰宅時間については、すべての対象で「18時まで」が最も多くなっていますが、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層を7ポイント以上下回っています。また、中学2年生の生活困難層では「18～20時の間」が33.3%と、「18時まで」に次いで多く、非生活困難層を8.7ポイント上回っています。また、小学5年生、中学2年生のいずれも、生活困難層では「20～22時の間」「22～24時の間」「交代制勤務で帰宅時間は決まっていない」が、いずれも非生活困難層に比べてやや多くなっています。このことから、生活困難層では、母親の帰宅時間が遅い傾向が見られます。また、20時以降の帰宅や不規則な帰宅時間の母親の割合も、生活困難層の方が多くなっています。



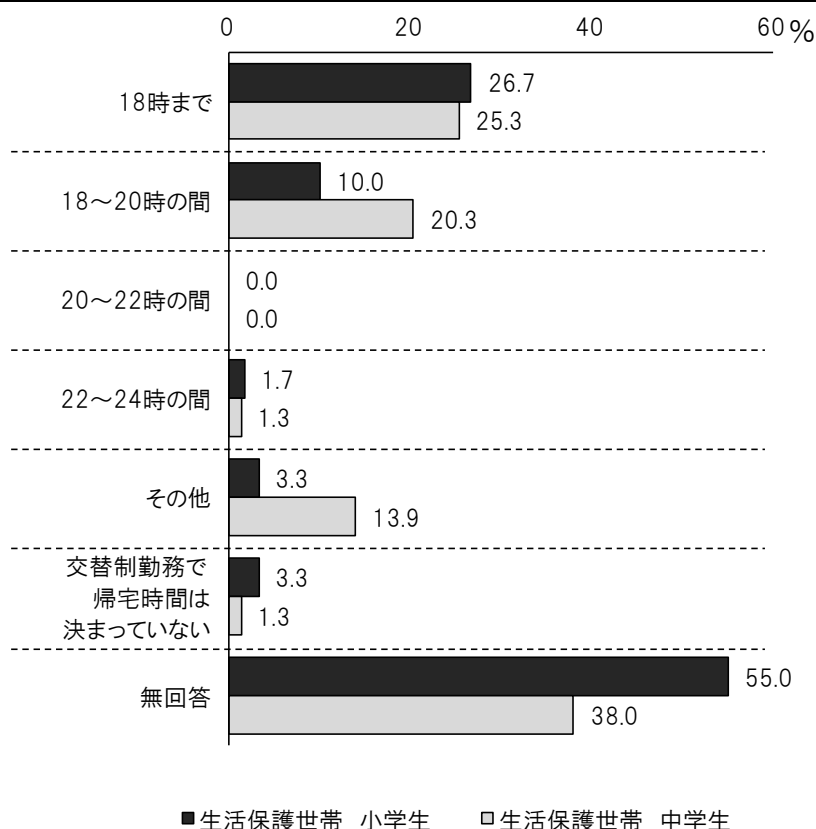
Ⅲ 保護者票

問 13 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

問 13-4 お子さんのお母さんの、概ねの帰宅時間を教えてください。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「18 時まで」が2割台と最も多くなっています。また、中学生では「18～20 時の間」が 20.3%と、小学生の 10.0%に比べて 10.3 ポイント高くなっています。このことから、学年が上がると母親の帰宅時間が遅くなる傾向が見られます。



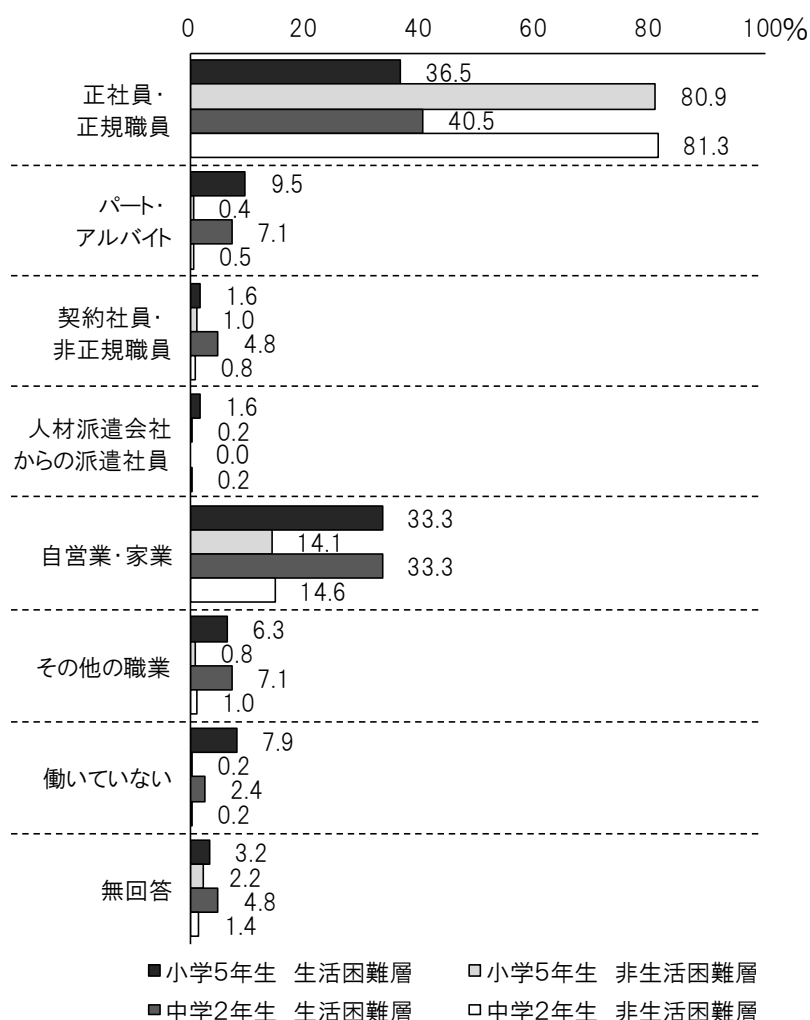
【お子さんのお父さんについて】

現在、お子さんとお父さんが生計を一緒にしていない場合は、問 15 に進んでください

問 14 お子さんのお父さんの現在の職業の雇用形態は、どれになりますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

子どもの父親の現在の職業の雇用形態については、すべての対象で「正社員・正規職員」が最も多くなっていますが、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層を40ポイント以上下回っています。また、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「自営業・家業」が3割を超えて多いほか、「パート・アルバイト」「その他の職業」「働いていない」でも非生活困難層をやや上回っています。このことから、生活困難層の父親の職業は、非生活困難層と比べて「正社員・正規職員」の割合が低く、「自営業・家業」「パート・アルバイト」の割合が多い傾向が見られます。



Ⅲ 保護者票

【お子さんのお父さんについて】

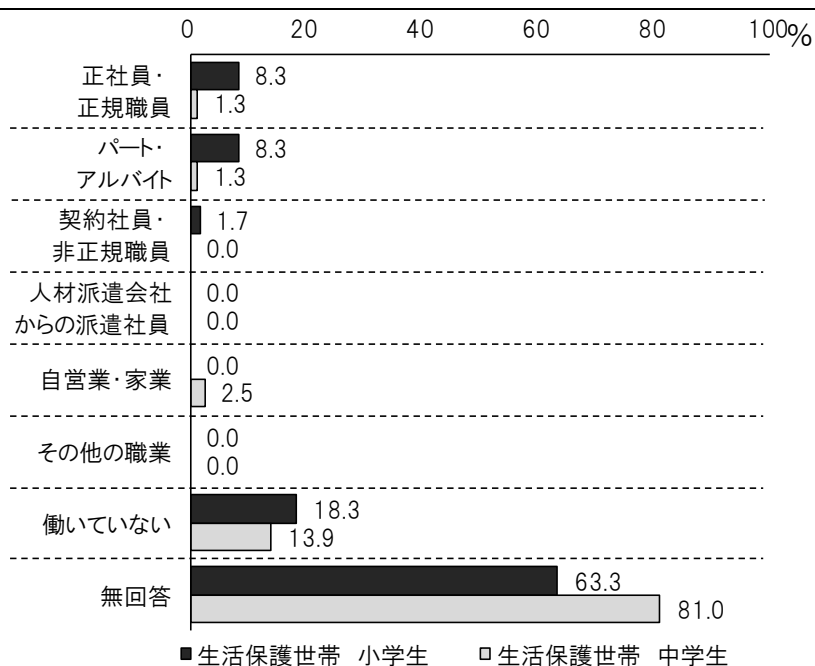
現在、お子さんとお父さんが生計を一緒にしていない場合は、問 15 に進んでください

問 14 お子さんのお父さんの現在の職業の雇用形態は、どれになりますか。(○はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「働いていない」が1割台と最も多くなっています。また、小学生では「正社員・正規職員」「パート・アルバイト」がともに8.3%と、中学生に比べてやや多くなっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「働いていない」が顕著に多くなっています。

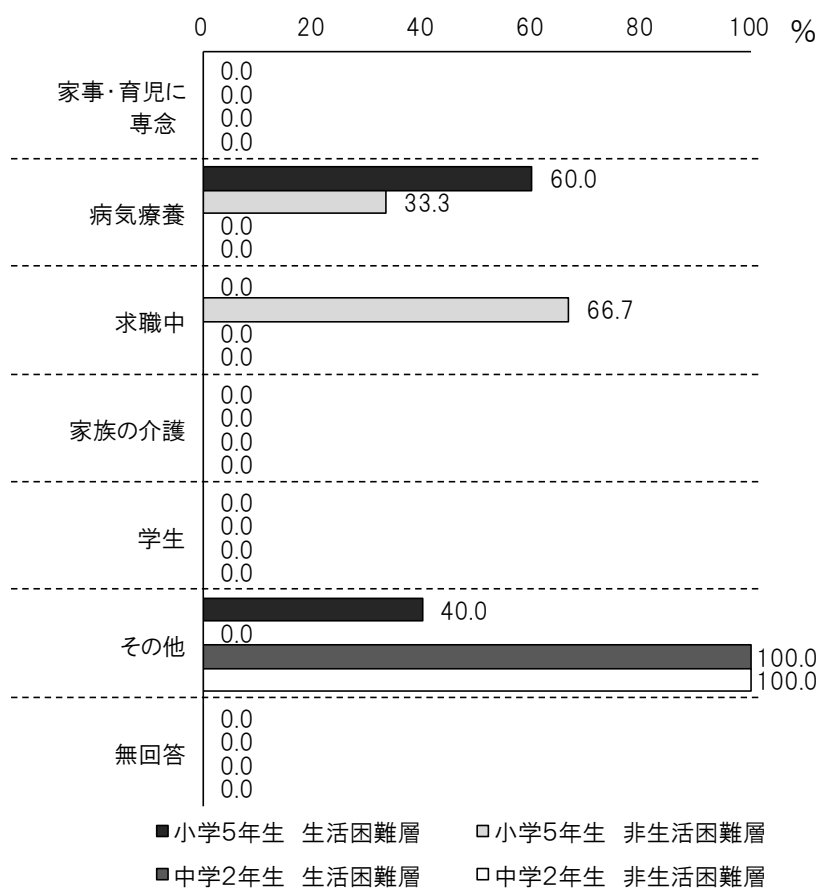


問 14 で「7. 働いていない」を選んだ方にお伺いします。

問 14-1 お子さんのお父さんの生活の状況をおしえてください。(〇はひとつだけ)

学校調査

働いていない場合の子どもの父親の生活の状況については、小学5年生では生活困難層で「病気療養」、非生活困難層で「求職中」、中学2年生では生活困難層・非生活困難層のいずれも「その他」の回答が最も多くなっています。



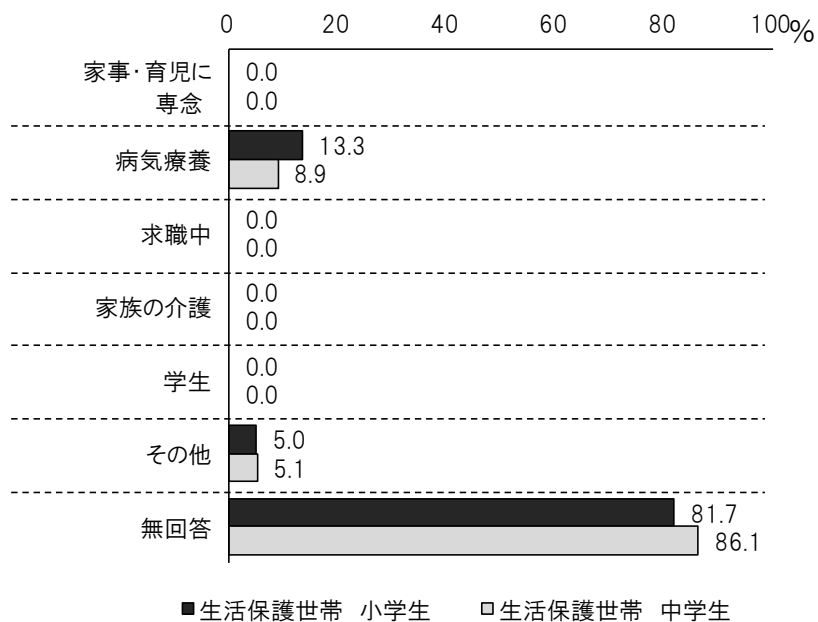
Ⅲ 保護者票

問 14 で「7. 働いていない」を選んだ方にお伺いします。

問 14-1 お子さんのお父さんの生活の状況をおしえてください。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、「病気療養」「その他」の回答が見られました。

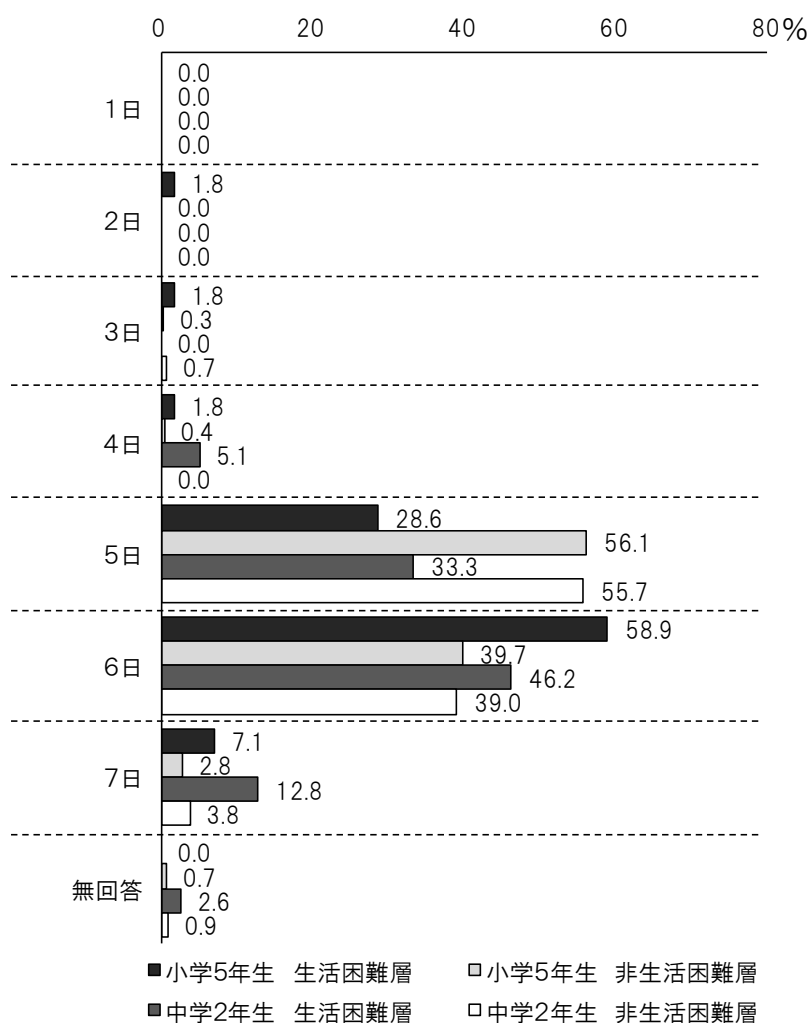


問 14 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

問 14-2 お子さんのお父さんは、1週間のうち、どのくらい仕事をしていますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

子どもの父親が1週間のうちどのくらい仕事をしているかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「6日」で非生活困難層を上回って最も多く、特に小学5年生では58.9%と突出して高くなっています。また、「5日」で非生活困難層を27.5ポイント下回っています。このことから、生活困難層では、父親が働いている日数が多い傾向が見られます。



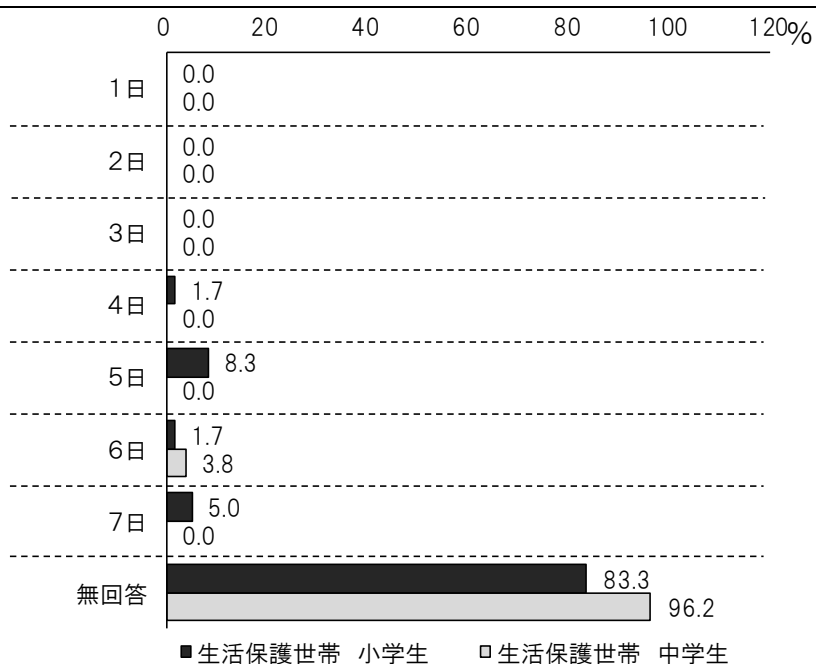
Ⅲ 保護者票

問 14 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

問 14-2 お子さんのお父さんは、1週間のうち、どのくらい仕事をしていますか。(○はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、「4日」～「7日」について、わずかに回答が見られました。小学生では、「5日」が8.3%と最も多く、次いで「7日」が5.0%となっています。

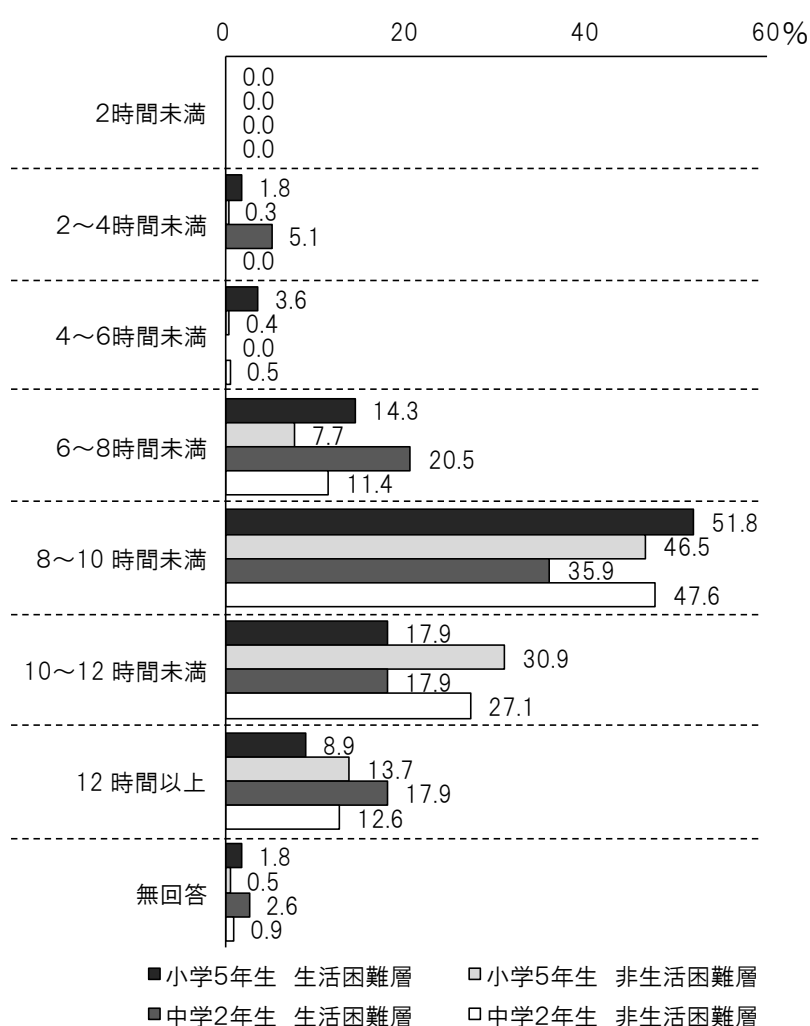


問 14 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

問 14-3 お子さんのお父さんは、1日あたり平均何時間ぐらい仕事をしていますか。(〇はひとつだけ) ㊦複数のお仕事をしている場合は合わせた時間数をお答えください。

学校調査

子どもの父親が1日あたり平均何時間仕事をしているかについては、すべての対象で「8～10時間未満」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「6～8時間未満」で非生活困難層を上回っている一方、「10～12時間未満」では非生活困難層を下回っています。また、中学2年生の生活困難層では「12時間以上」も非生活困難層と比べやや高くなっています。このことから、生活困難層では、父親が働いている1日当たりの時間は、非生活困難層と比べて概ね短い傾向が見られます。



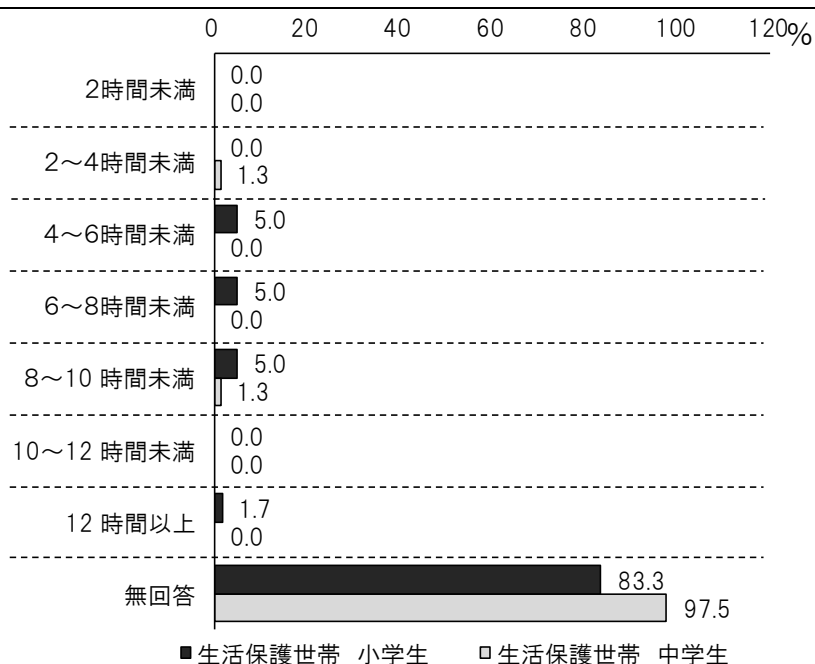
Ⅲ 保護者票

問 14 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

問 14-3 お子さんのお父さんは、1日あたり平均何時間ぐらい仕事をしていますか。(○はひとつだけ) ■複数のお仕事をしている場合は合わせた時間数をお答えください。

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「4～6時間未満」「6～8時間未満」「8～10時間」がいずれも5.0%、中学生では「2～4時間未満」と「8～10時間未満」が1.3%と、それぞれわずかながら見られました。

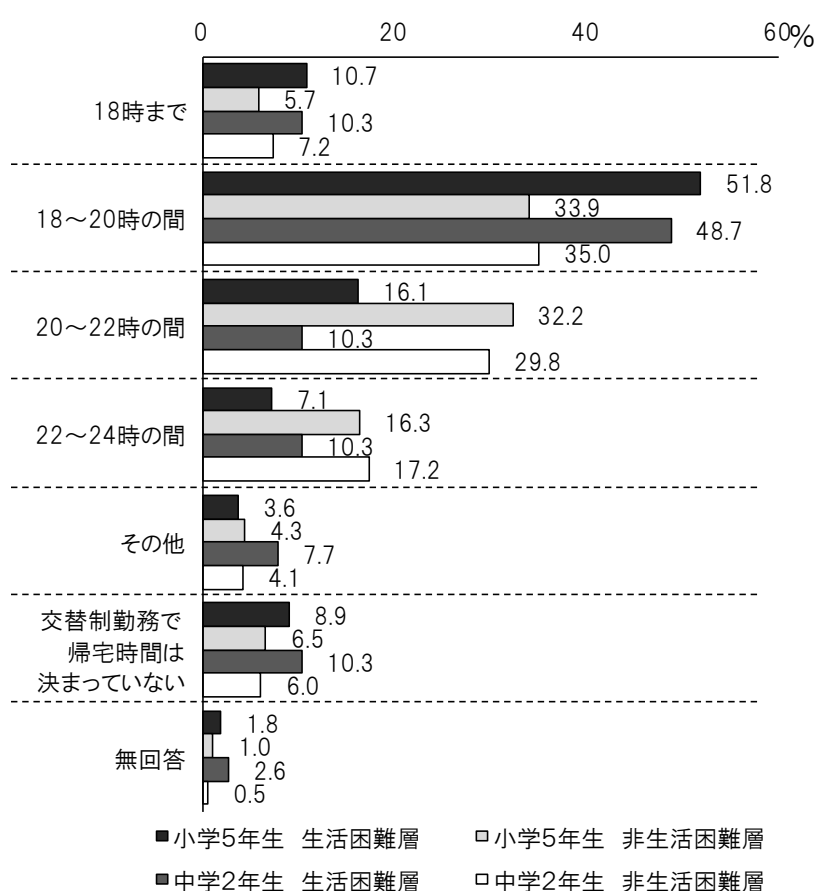


問 14 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

問 14-4 お子さんのお父さんの、概ねの帰宅時間を教えてください。(〇はひとつだけ)

学校調査

子どもの父親の概ねの帰宅時間については、すべての対象で「18～20 時の間」が最も多くなっていますが、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層を 10 ポイント以上上回り、5 割前後と特に多くなっています。また、「18 時まで」と「交替制勤務で帰宅時間は決まっていない」でも、小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層をやや上回っています。このことから、生活困難層の父親では、非生活困難層と比べて帰宅時間が早い傾向が見られるほか、不規則な時間となっている割合もやや多い状況がわかります。



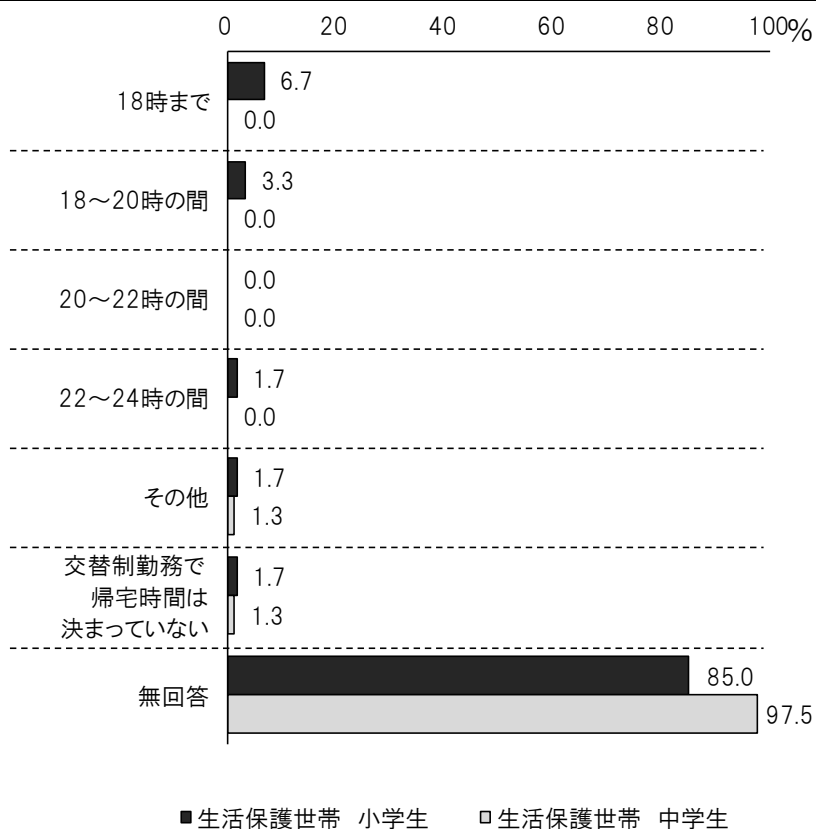
Ⅲ 保護者票

問 14 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

問 14-4 お子さんのお父さんの、概ねの帰宅時間を教えてください。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「18 時まで」が 6.7%、中学生では「その他」と「交替制勤務で帰宅時間は決まっていない」が 1.3%と、それぞれわずかながら見られました。

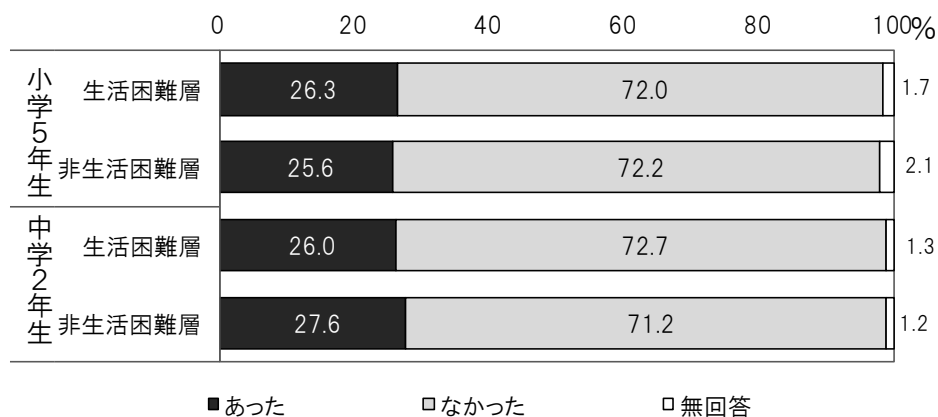


4. お子さんの健康状況について

問 15 これまでに、お子さんを医療機関に連れていった方がよいと思ったが、実際には連れていかなかったことがありますか。(○はひとつだけ)

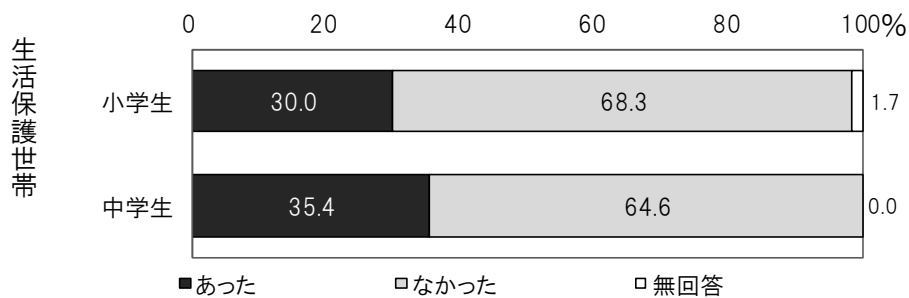
学校調査

これまでに、子どもを医療機関に連れて行った方がよいと思ったが、実際には連れていかなかったことがあるかについては、すべての対象で「なかった」が最も多く、対象ごとの差は見られません。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「なかった」が6割台と、「あった」を上回っており、学年にかかわらず、ほぼ同様の傾向が見られます。



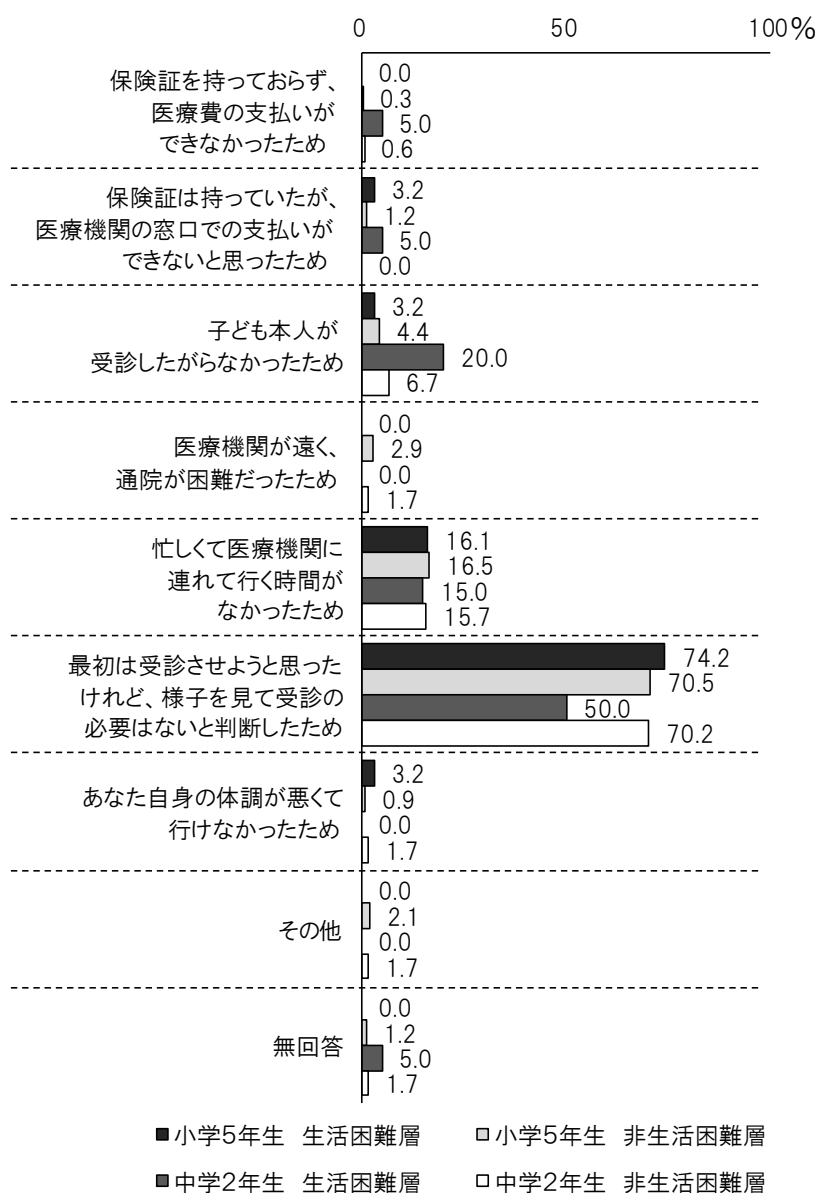
Ⅲ 保護者票

問 15 で「1. あった」を選んだ方にお伺いします。

問 15-1 医療機関に連れていかなかった理由のうち、最も近いものに○をつけてください。
(○はひとつだけ)

学校調査

医療機関に連れていかなかった理由については、すべての対象で「最初を受診させようと思ったけれど、様子を見て受診の必要はないと判断したため」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、中学2年生では、「最初を受診させようと思ったけれど、様子を見て受診の必要はないと判断したため」が非生活困難層を 20.2 ポイント下回っている一方、「子ども本人が受診しなかったため」では非生活困難層を 13.3 ポイント上回っています。このことから、医療機関に子どもを連れて行かなかった理由では、生活困難層・非生活困難層ともに受診が必要ないと判断したことが主となっており、中学2年生では生活困難層で子ども本人の非受診意向がやや高いものの、小学5年生、中学2年生のいずれも、医療費の支払い等を理由に挙げている人はごくわずかとなっています。

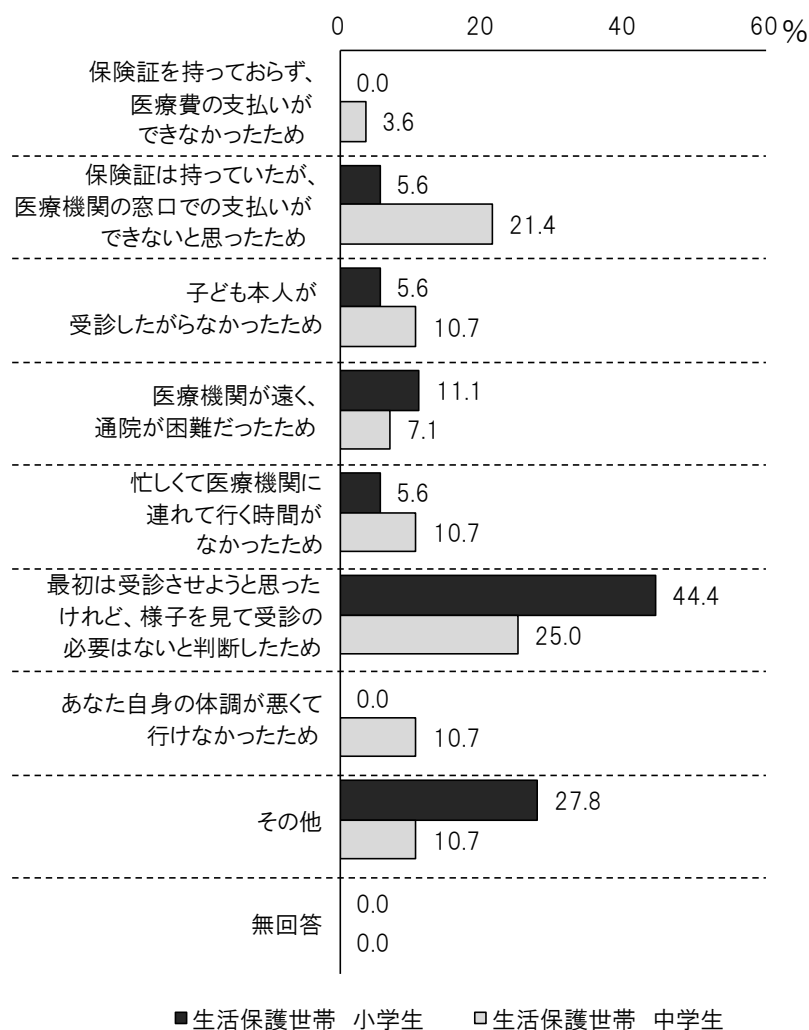


問 15 で「1. あった」を選んだ方にお伺いします。

問 15-1 医療機関に連れていかなかった理由のうち、最も近いものに○をつけてください。
(○はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「最初は受診させようと思ったけれど、様子を見て受診の必要はないと判断したため」が2割台から4割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「保険証は持っていたが、医療機関の窓口での支払いができないと思ったため」が21.4%と、小学生に比べて15.8ポイント、「あなた自身の体調が悪くて行けなかったため」が10.7%と、小学生に比べて10.7ポイント高くなっています。

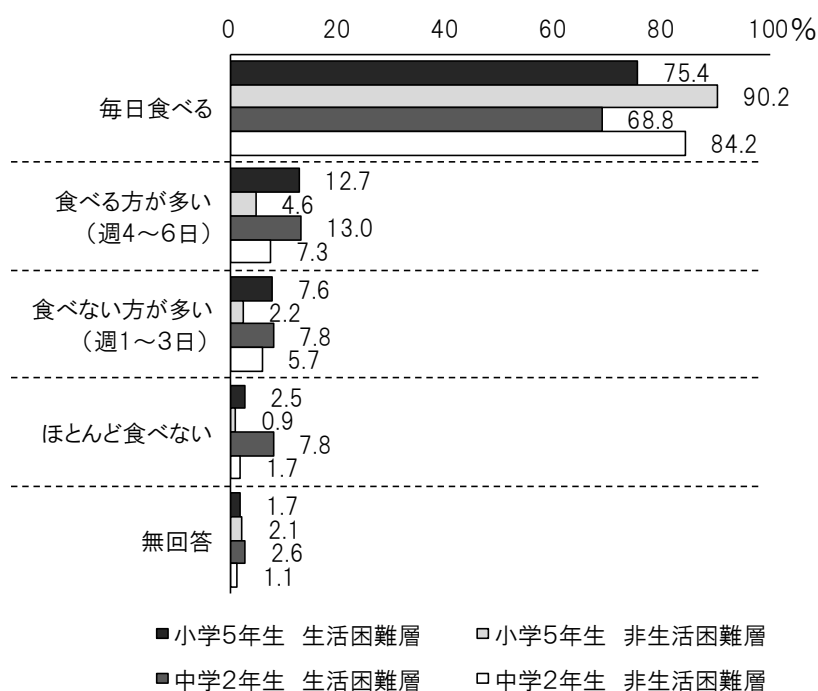


Ⅲ 保護者票

問 16 お子さんは、普段、朝食を食べていますか。この 1 か月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。(〇はひとつだけ)

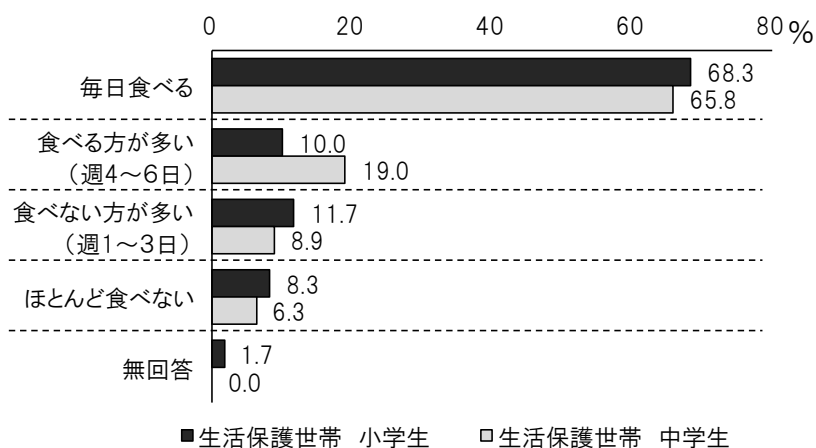
学校調査

子どもが普段、朝食を食べているかについては、すべての対象で「毎日食べる」が最も多くなっていますが、生活困難層では、小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層を10ポイント以上下回っています。また、「食べる方が多い(週4～6日)」「食べない方が多い(週1～3日)」「ほとんど食べない」について、小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層をやや上回っています。このことから、生活困難層では、学年を問わず、朝食の欠食をする子どもの割合が非生活困難層と比べてやや高い傾向が見られます。



生活保護調査

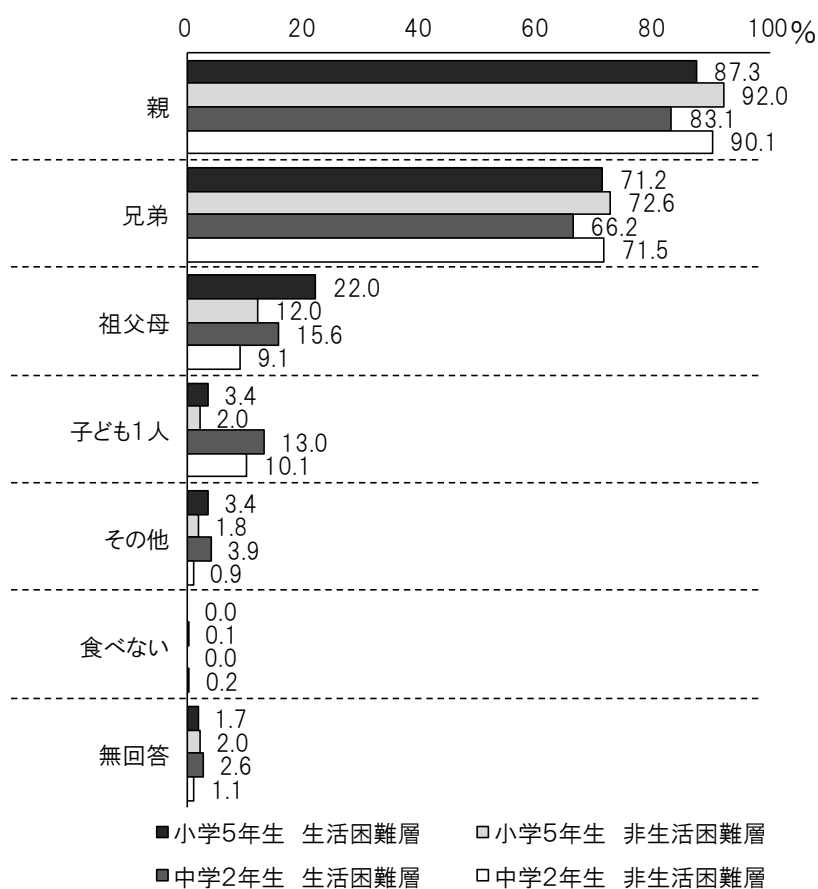
生活保護世帯について見ると、いずれも「毎日食べる」が6割台と最も多くなっています。また、中学生では「食べる方が多い(週4～6日)」が19.0%と、小学生に比べて9.0ポイント高くなっています。



問 17 お子さんは、夕食を誰と食べることが多いですか。(あてはまる番号すべてに○)

学校調査

子どもが夕食を食べることが多い相手については、すべての対象で「親」が最も多く、次いで「兄弟」となっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「祖父母」が非生活困難層に比べやや多くなっています。また、中学2年生で「子ども1人」の割合が生活困難層・非生活困難層にかかわらず1割台となっています。このことから、生活困難層・非生活困難層にかかわらず、子どもは親や兄弟と夕食をとっている家庭が多い状況ではあるものの、子ども1人の家庭も見られるほか、生活困難層では、非生活困難層と比べて祖父母もやや多く見られます。



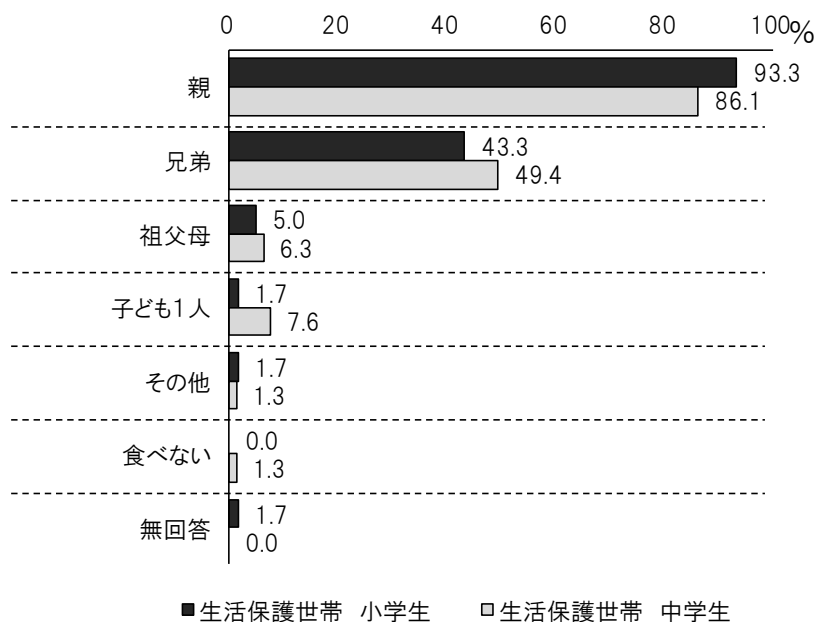
Ⅲ 保護者票

問 17 お子さんは、夕食を誰と食べることが多いですか。(あてはまる番号すべてに○)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「親」が8割台から9割台と最も多く、次いで「兄弟」が4割台となっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「兄弟」が顕著に低くなっています。

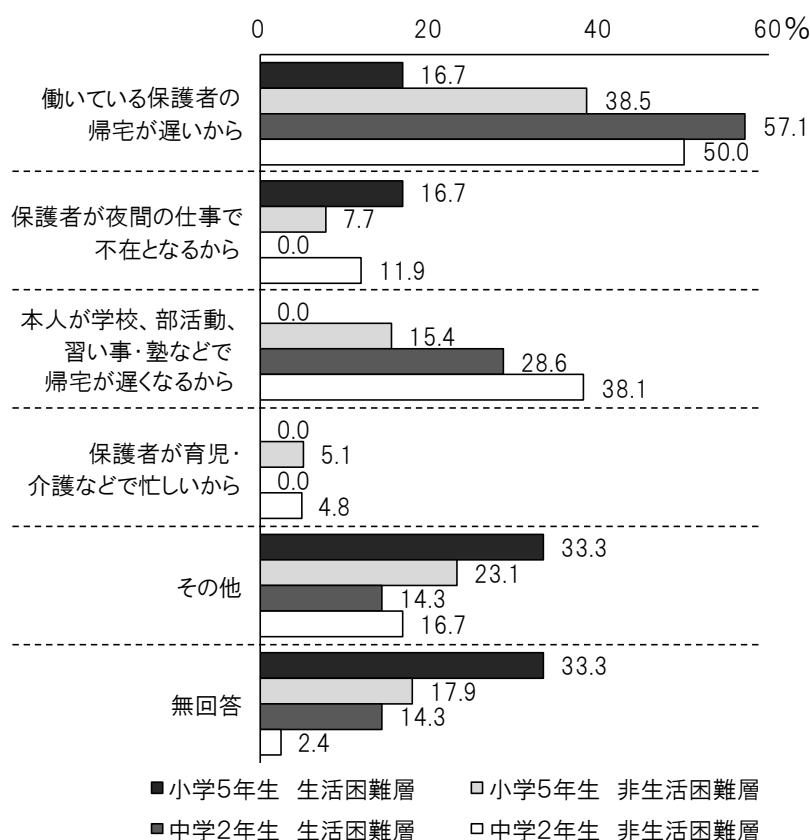


問 17 で「2. 兄弟」のみ、または「4. 子ども1人」を選んだ方にお伺いします。

問 17-1 お子さんが夕食を子どもだけで食べる最も大きな理由はなんですか。(あてはまる番号すべてに○)

学校調査

子どもが夕食を子どもだけで食べる最も大きな理由については、小学5年生の非生活困難層と、中学2年生の生活困難層・非生活困難層で「働いている保護者の帰宅が遅いから」が3割後半から5割後半、小学5年生の生活困難層で「その他」が33.3%と最も多くなっています。学年が上がると、生活困難層・非生活困難層のいずれも「働いている保護者の帰宅が遅いから」が高くなっており、特に生活困難層では、中学2年生で57.1%となっています。また、生活困難層に着目すると、小学5年生では「保護者が夜間の仕事で不在となるから」も16.7%見られます。このことから、生活困難層では、小学5年生で働いている保護者が夜間不在となることや、学年が上がると帰宅が遅い割合が増加することが主な理由となっています。



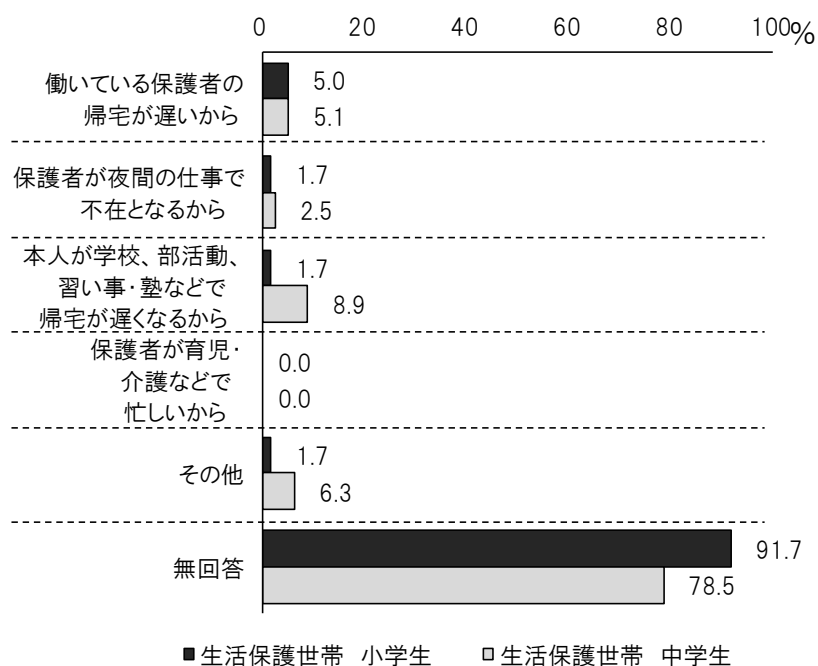
Ⅲ 保護者票

問 17 で「2. 兄弟」のみ、または「4. 子ども1人」を選んだ方にお伺いします。

問 17-1 お子さんが夕食を子どもだけで食べる最も大きな理由は何ですか。(あてはまる番号すべてに○)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「働いている保護者の帰宅が遅いから」が5.0%、中学生では「本人が学校、部活動、習い事・塾などで帰宅が遅くなるから」が8.9%と、最も多くなっています。

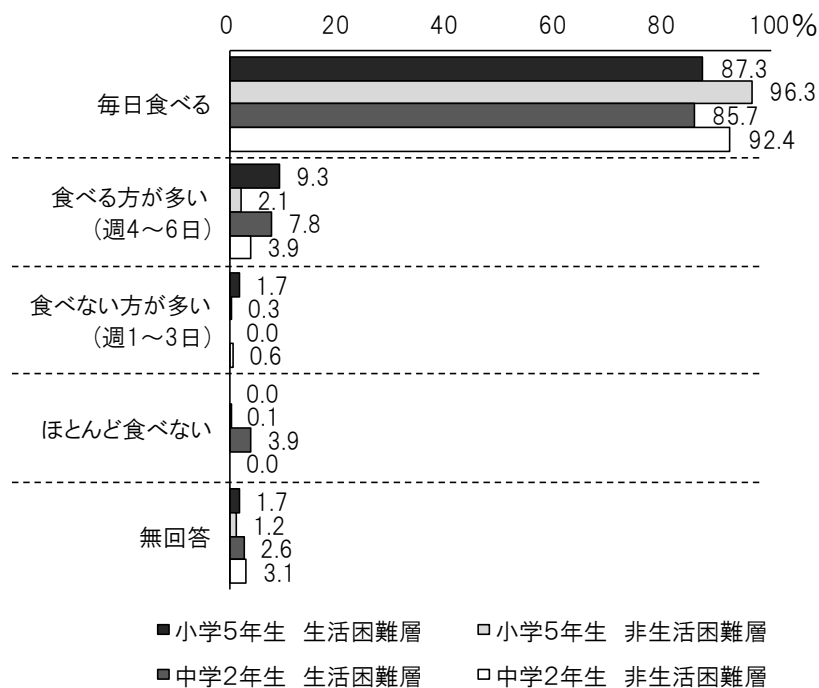


問18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この1ヵ月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。（それぞれについて、○はひとつだけ）

A. 穀類(ごはん、パン、シリアルなど)

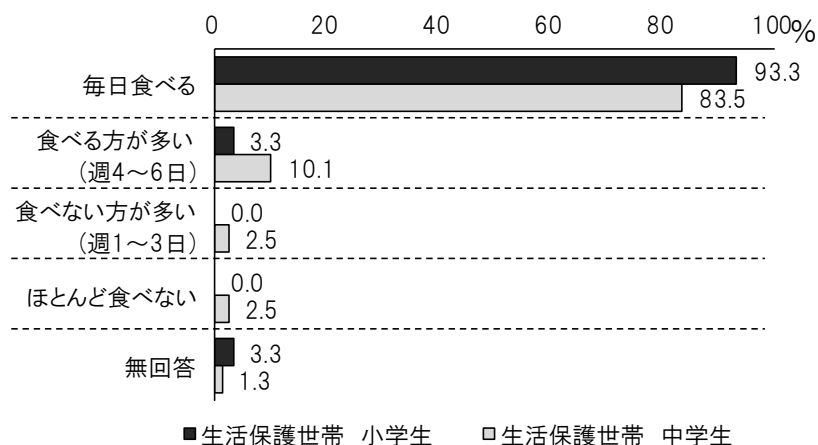
学校調査

子どもが普段、学校給食を除いて、穀類（ごはん、パン、シリアルなど）を食べる頻度については、すべての対象で「毎日食べる」が最も多くなっていますが、生活困難層では小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層を下回って8割台となっています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、「毎日食べる」が8割台から9割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「食べる方が多い（週4～6日）」が10.1%と1割台見られます。



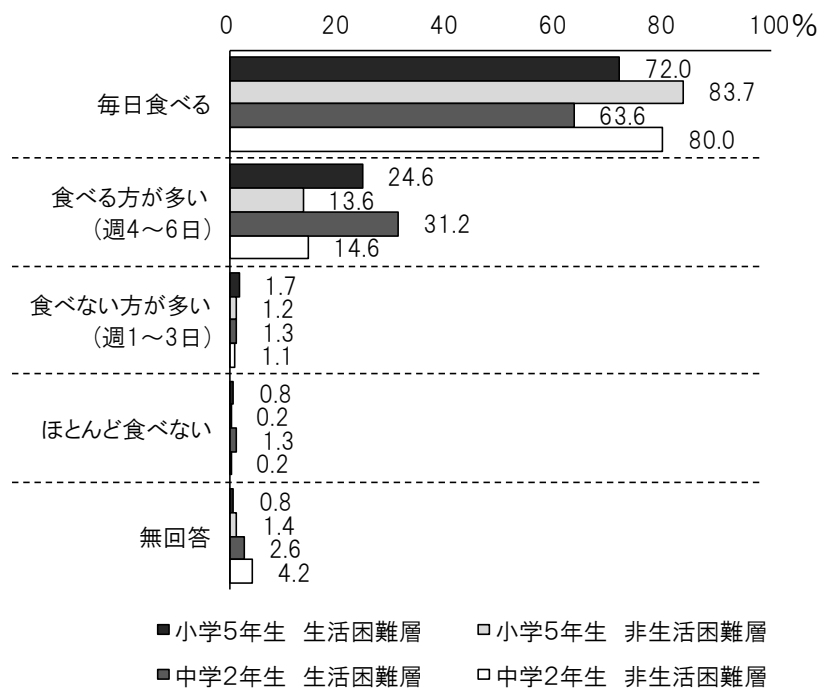
Ⅲ 保護者票

問18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この1ヵ月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。（それぞれについて、○はひとつだけ）

B. 魚・肉・卵・大豆(加工食品も含む)

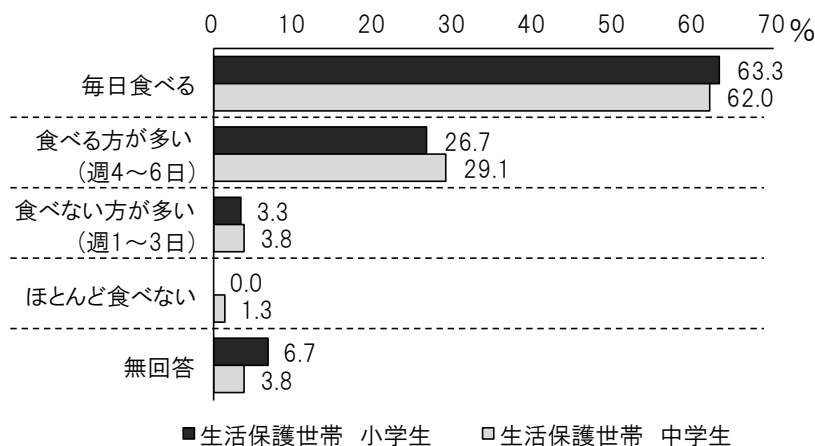
学校調査

子どもが普段、学校給食を除いて、魚・肉・卵・大豆（加工食品も含む）を食べる頻度については、すべての対象で「毎日食べる」が最も多くなっていますが、生活困難層では小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層を10ポイント以上下回っています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、「毎日食べる」が6割台と最も多く、次いで「食べる方が多い（週4～6日）」が2割台となっており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

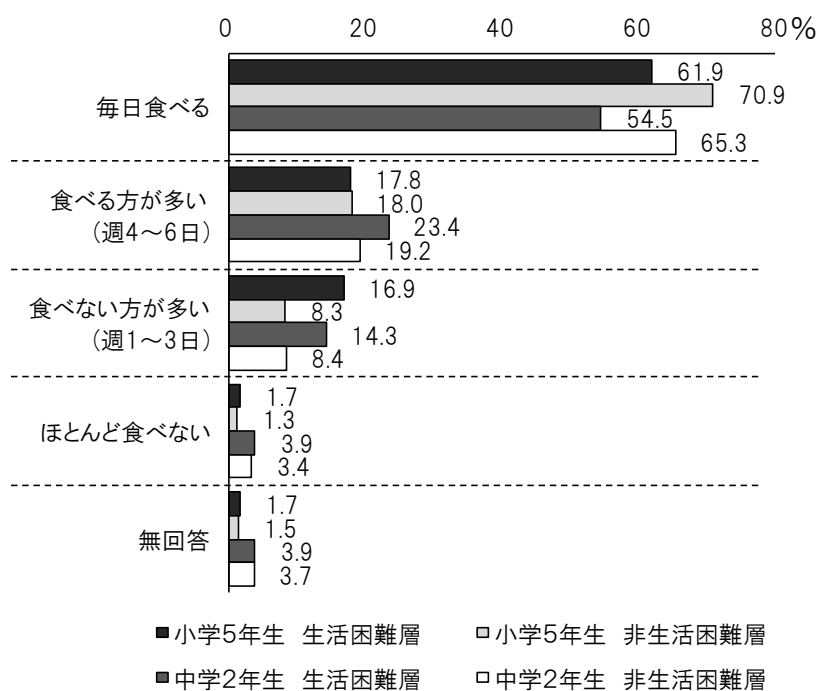


問18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この1ヵ月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。（それぞれについて、○はひとつだけ）

C. 野菜

学校調査

子どもが普段、学校給食を除いて、野菜を食べる頻度については、すべての対象で「毎日食べる」が最も多くなっていますが、生活困難層では小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層を10ポイント前後下回っています。



Ⅲ 保護者票

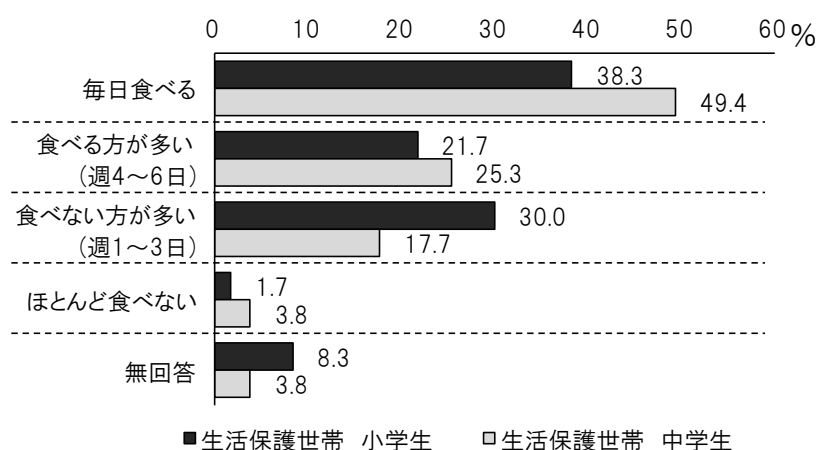
問 18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この 1 カ月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。（それぞれについて、○はひとつだけ）

C. 野菜

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「毎日食べる」が3割台から4割台と最も多く、学年が上がると割合が高くなっています。また、小学生では「食べない方が多い（週1～3日）」が30.0%と、中学生に比べて12.3ポイント高くなっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、顕著に頻度が低い傾向が見られます。

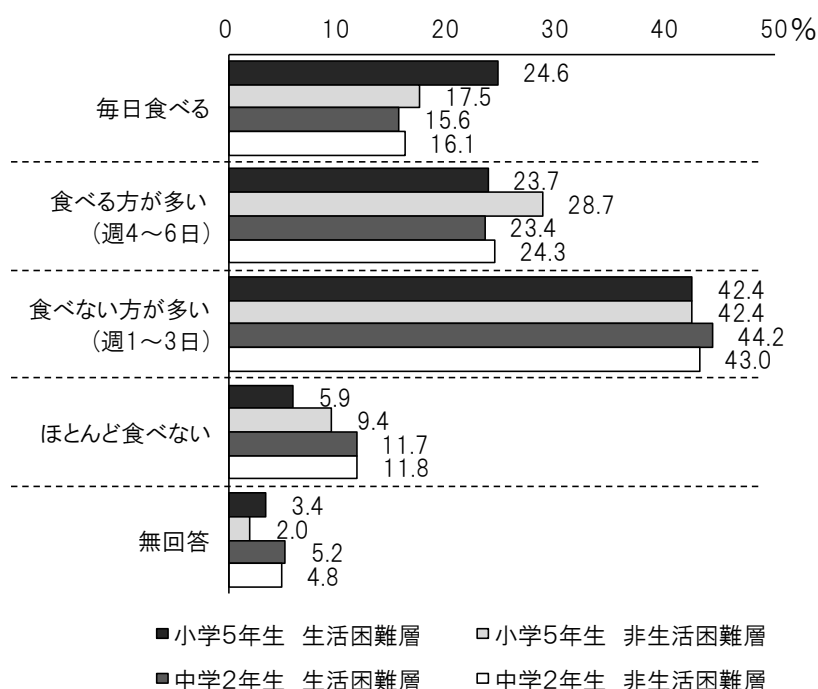


問18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この1ヵ月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。（それぞれについて、○はひとつだけ）

D. 果物

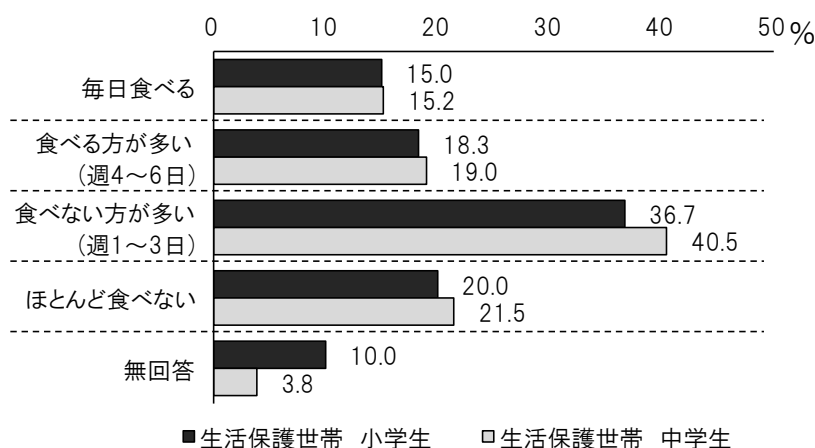
学校調査

子どもが普段、学校給食を除いて、果物を食べる頻度については、すべての対象で「食べない方が多い（週1～3回）」が最も多く、4割台となっています。また、生活困難層に着目すると、小学5年生では生活困難層で「毎日食べる」が24.6%と、非生活困難層に比べ7.1ポイント高くなっています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「食べない方が多い（週1～3日）」が3割台から4割台と最も多くなっています。また、「ほとんど食べない」がいずれも2割を超えています。



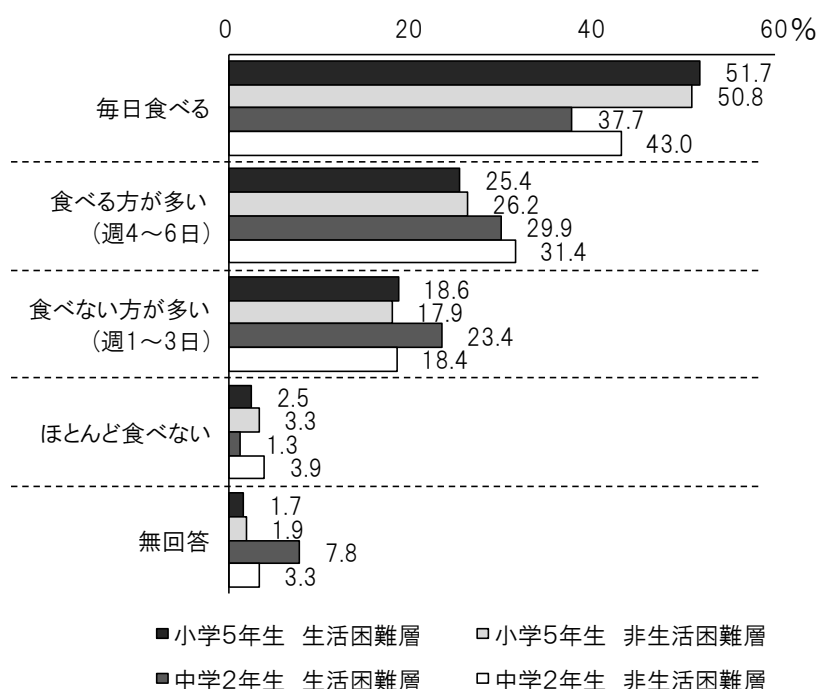
Ⅲ 保護者票

問18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この1ヵ月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。（それぞれについて、○はひとつだけ）

E. 牛乳・乳製品(チーズ、ヨーグルトなど)

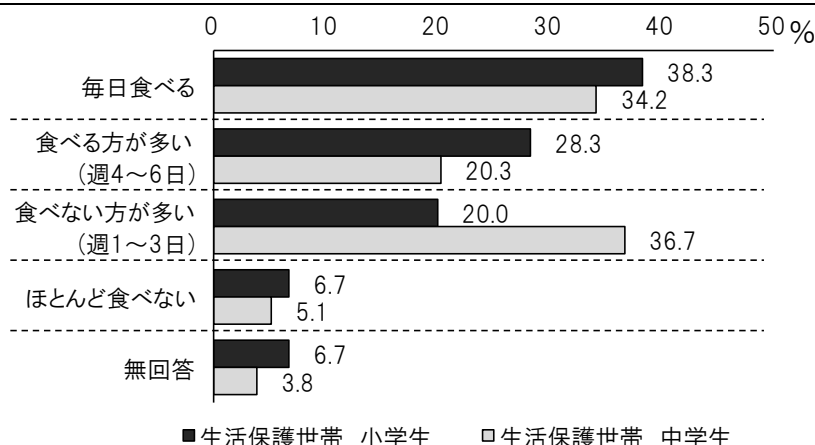
学校調査

子どもが普段、学校給食を除いて、牛乳・乳製品（チーズ、ヨーグルトなど）を食べる頻度については、すべての対象で「毎日食べる」が最も多くなっています。学年が上がると、「毎日食べる」は少なくなっており、特に生活困難層では、小学5年生で「毎日食べる」が51.7%なのに対して、中学2年生では37.7%と、減少傾向が顕著に見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「毎日食べる」が38.3%、中学生では「食べない方が多い（週1～3日）」が36.7%と、最も多くなっています。また、小学生では「毎日食べる」と「食べる方が多い（週4～6日）」が中学生に比べて多い一方、中学生では食べない方が多い（週1～3日）」が小学生に比べて顕著に多くなっています。

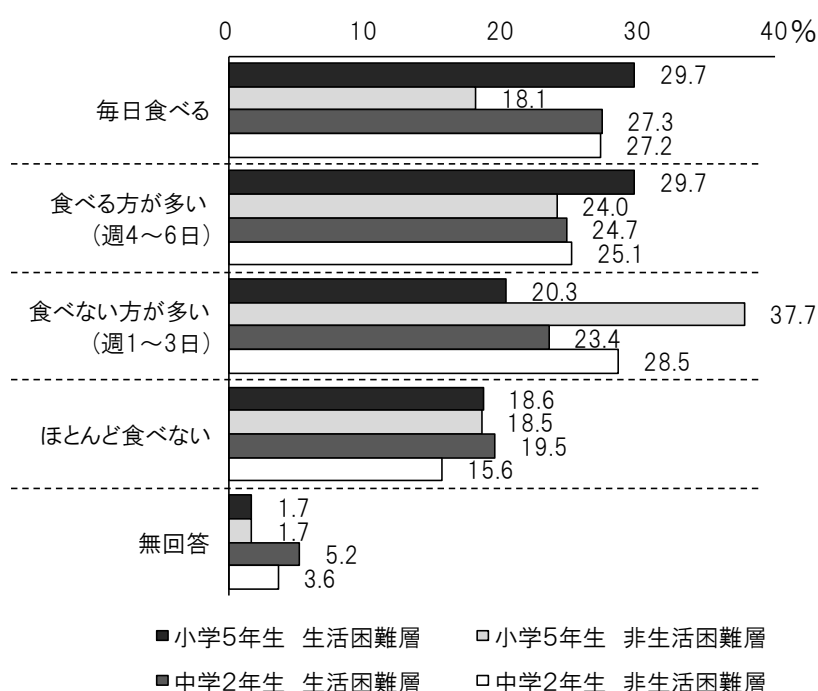


問18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この1ヵ月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。（それぞれについて、○はひとつだけ）

F. 甘い飲み物（炭酸飲料、スポーツドリンクなど）

学校調査

子どもが普段、学校給食を除いて、甘い飲み物（炭酸飲料、スポーツドリンクなど）を飲む頻度については生活困難層に着目すると、小学5年生では「毎日食べる」と「食べる方が多い（週4～6日）」がいずれも29.7%と最も高く、特に「毎日食べる」では非生活困難層を11.6ポイント上回っています。また、小学5年生、中学2年生のいずれも「食べない方が多い（週1～3日）」で非生活困難層を下回っており、生活困難層の摂取頻度が高い傾向が見られます。



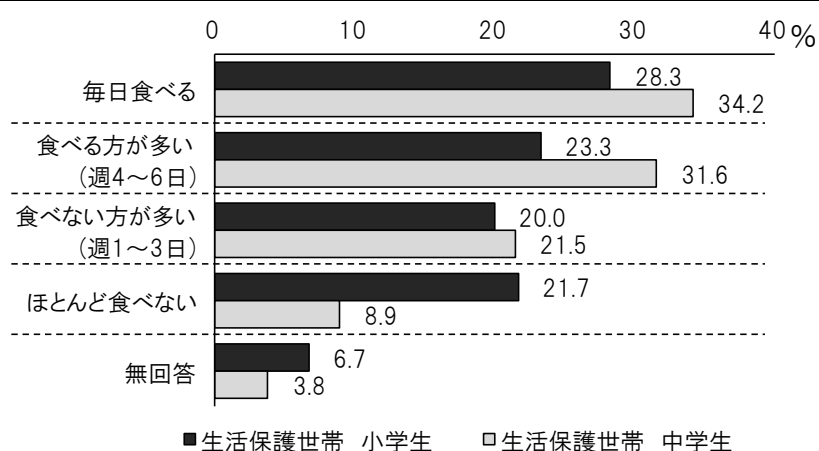
Ⅲ 保護者票

問 18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この 1 カ月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。（それぞれについて、○はひとつだけ）

F. 甘い飲み物（炭酸飲料、スポーツドリンクなど）

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「毎日食べる」が2割台から3割台と最も多く、次いで「食べる方が多い（週4～6日）」が2割台から3割台となっており、学年が上がると高くなっています。また、小学生では「ほとんど食べない」が 21.7%と、中学生に比べて 12.8 ポイント高くなっています。このことから、学年が上がると摂取頻度が高くなる傾向が見られます。

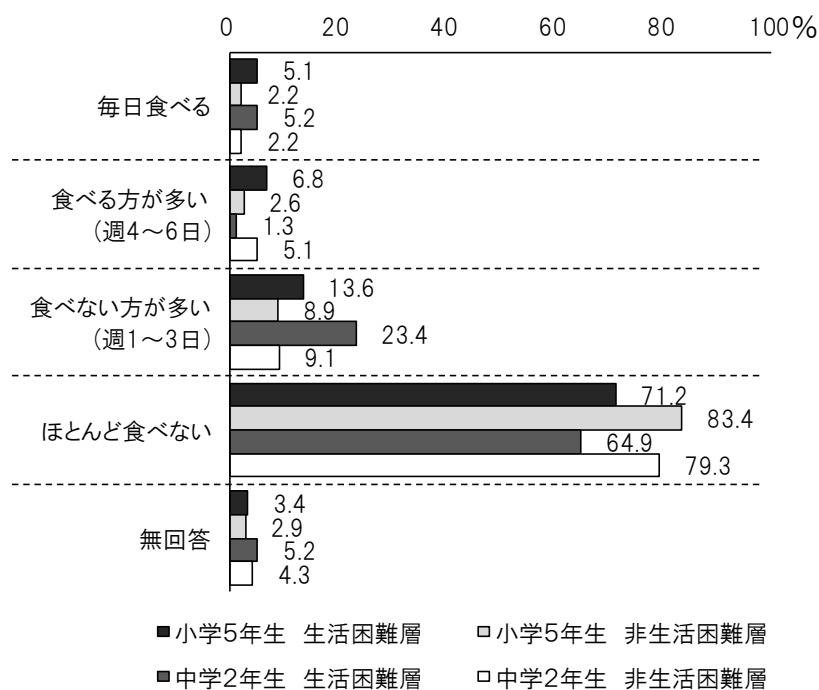


問18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この1ヵ月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。（それぞれについて、○はひとつだけ）

G. お菓子(食事として)

学校調査

子どもが普段、学校給食を除いて、お菓子（食事として）を食べる頻度については、すべての対象で「ほとんど食べない」が最も多くなっていますが、生活困難層では小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層を下回っています。また、生活困難層では、小学5年生、中学2年生のいずれも、「毎日食べる」で非生活困難層を上回っており、非生活困難層と比べて摂取頻度がやや高い傾向が見られます。



Ⅲ 保護者票

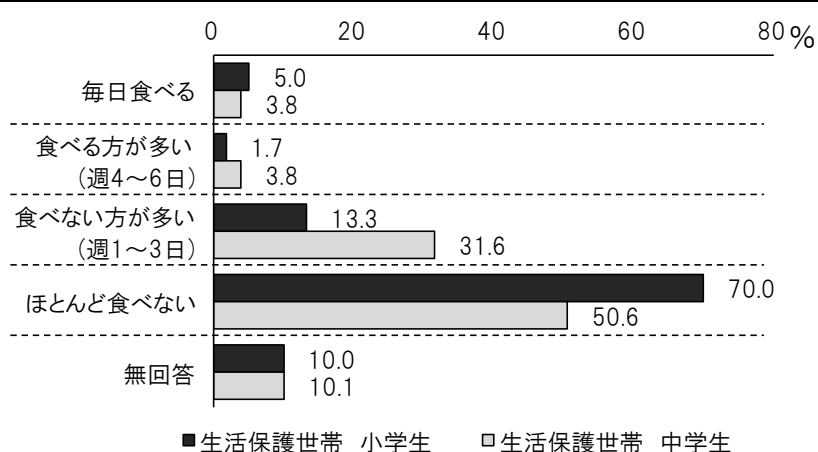
問18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この1ヵ月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。（それぞれについて、○はひとつだけ）

G. お菓子(食事として)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「ほとんど食べない」が5割台から7割と最も多く、次いで「食べない方が多い（週1～3日）」が1割台から3割台となっています。

学校調査と比べると、中学生では、学校調査の中学2年生と比べて摂取頻度が高くなっています。

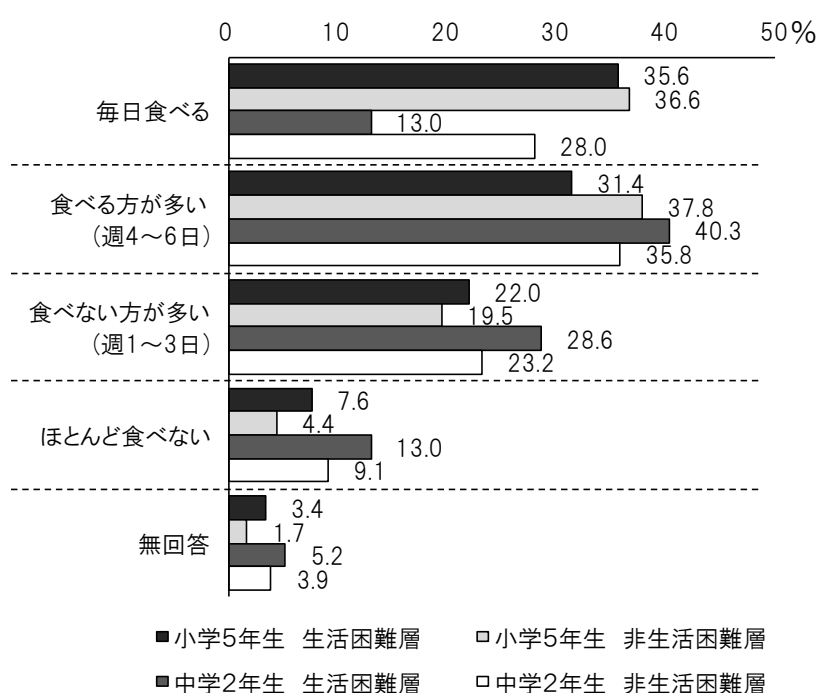


問 18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この 1 カ月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。（それぞれについて、○はひとつだけ）

H. お菓子(間食として)

学校調査

子どもが普段、学校給食を除いて、お菓子（間食として）を食べる頻度については、小学5年生では生活困難層・非生活困難層のいずれも「いずれも毎日食べる」が3割後半となっていますが、学年が上がると減少し、特に中学2年生の生活困難層では「ほとんど食べない」が13.0%となっています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層に比べ摂取頻度が低く、特に中学2年生でその傾向が顕著に見られます。



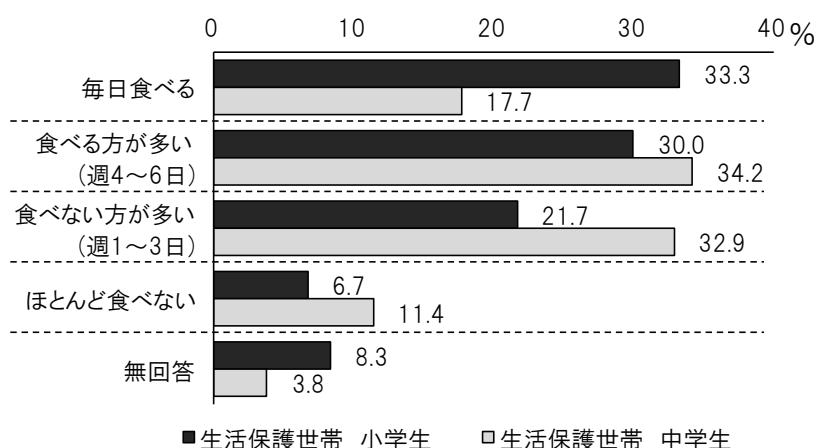
Ⅲ 保護者票

問18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この1ヵ月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。（それぞれについて、○はひとつだけ）

H. お菓子(間食として)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「毎日食べる」が33.3%、中学生では「食べる方が多い(週4～6日)」が34.2%と、最も多くなっています。このことから、学年が上がると間食としてのお菓子を食べる頻度が低くなる傾向が見られます。

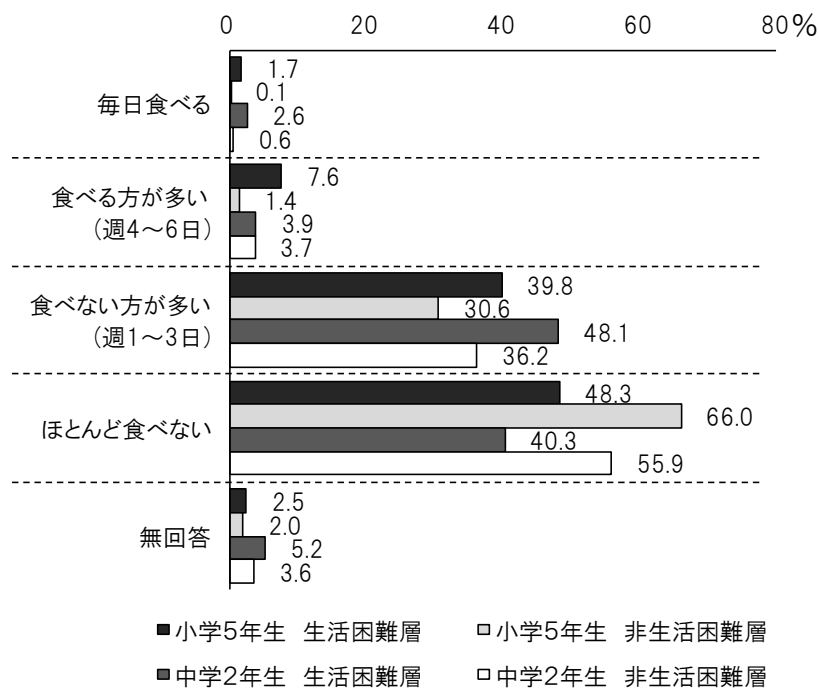


問18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この1ヵ月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。（それぞれについて、○はひとつだけ）

Ⅰ. インスタントラーメンやカップ麺

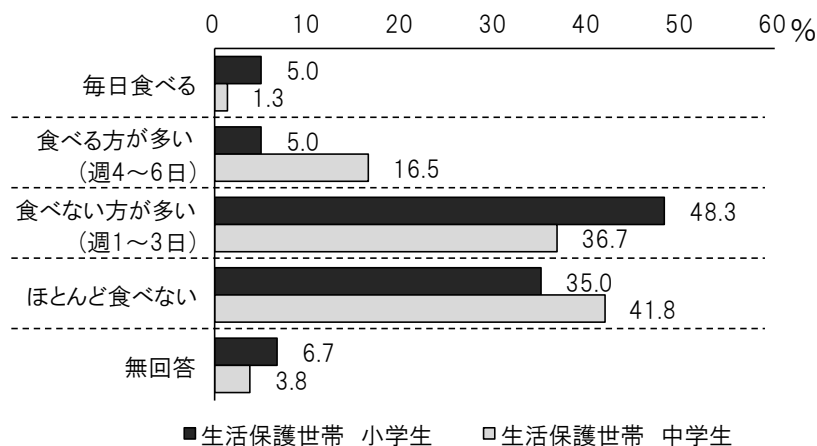
学校調査

子どもが普段、学校給食を除いて、インスタントラーメンやカップ麺を食べる頻度については生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「ほとんど食べない」で非生活困難層を上回っており、摂取頻度が高い傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「食べない方が多い（週1～3日）」が48.3%、中学生では「ほとんど食べない」が41.8%と、最も多くなっています。



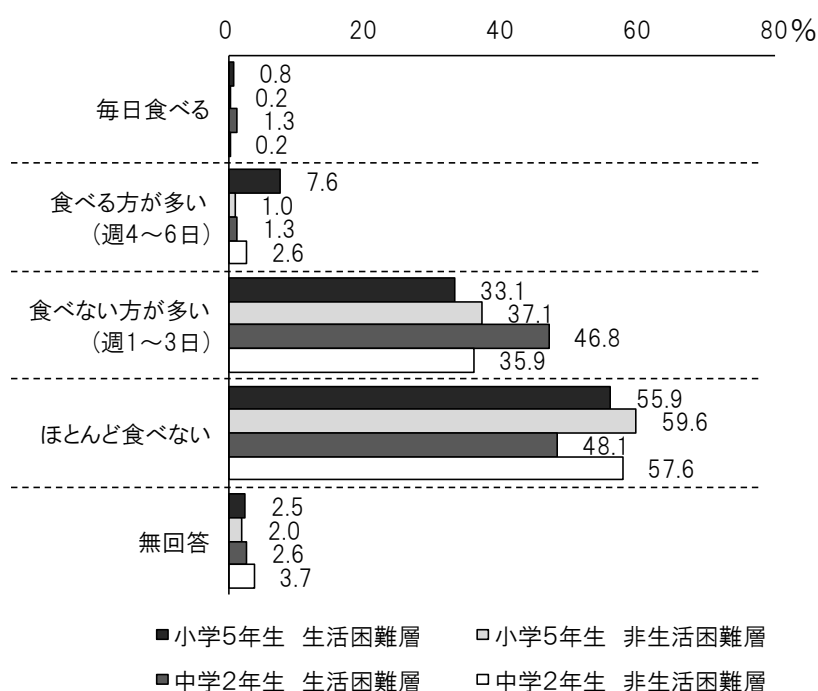
Ⅲ 保護者票

問18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この1ヵ月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。（それぞれについて、○はひとつだけ）

J. ファストフード

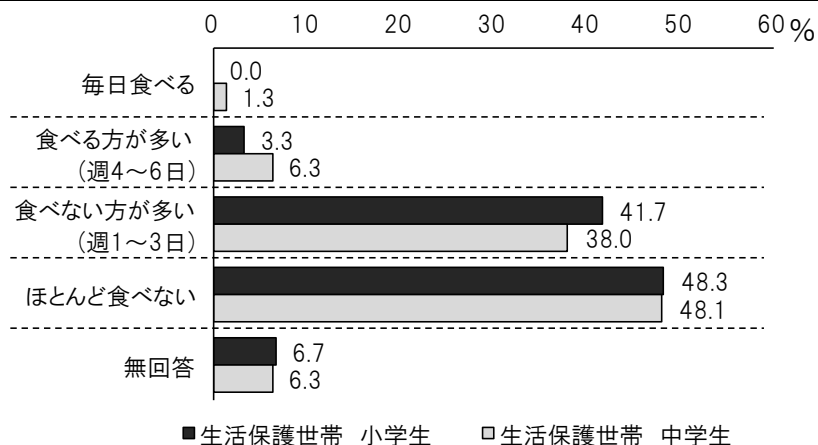
学校調査

子どもが普段、学校給食を除いて、ファストフードを食べる頻度については、すべての対象で「ほとんど食べない」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、小学5年生では「食べる方が多い(週4～6日)」、中学2年生では「食べない方が多い(週1～3日)」で非生活困難層を上回っています。このことから、生活困難層の方が摂取頻度が高い傾向が見られます。



生活保護調査

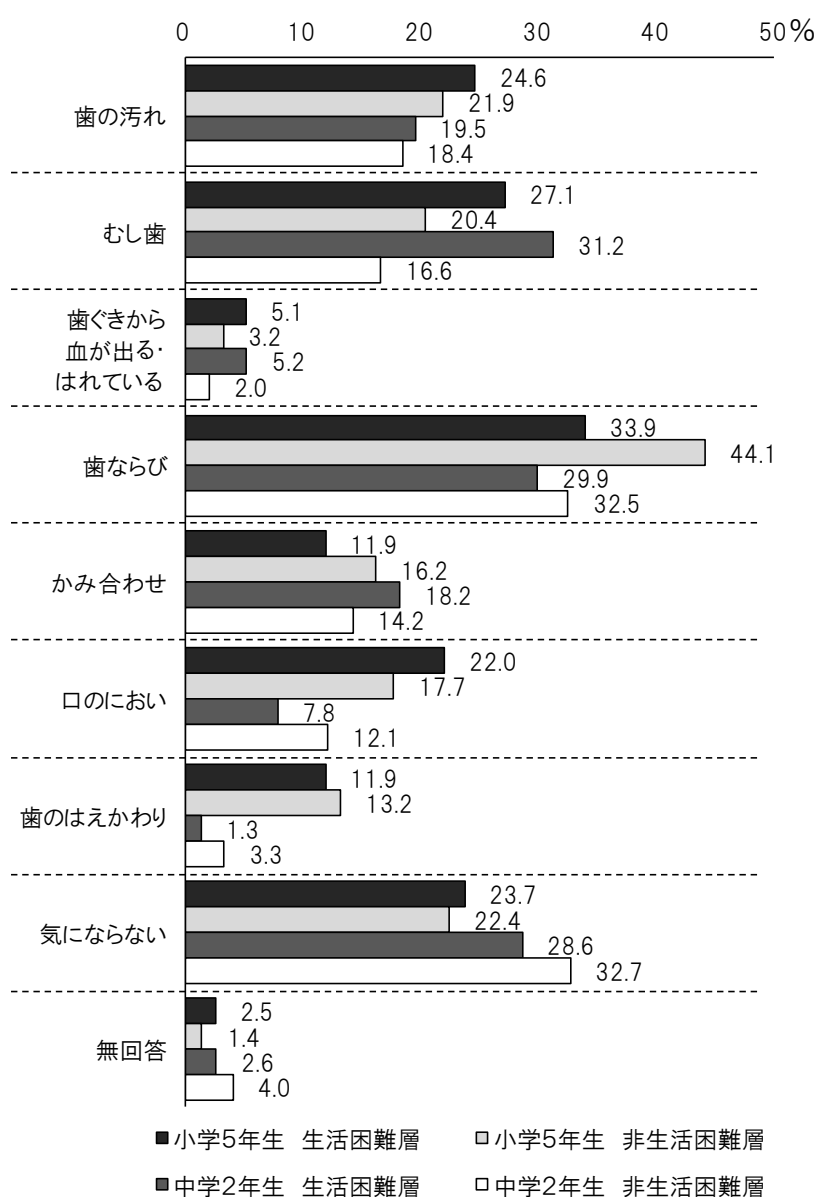
生活保護世帯について見ると、いずれも「ほとんど食べない」が4割台と最も多く、次いで「食べない方が多い(週1～3日)」が3割台から4割台となっており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。



問 19 お子さんの歯や口のことで、気になることがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

学校調査

子どもの歯や口のことで気になることがあるかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「むし歯」「歯の汚れ」で非生活困難層をやや上回り、特に中学2年生では、「むし歯」で14.6ポイント非生活困難層を上回っています。また、小学5年生では「口のにおい」でも4.3ポイント非生活困難層を上回っています。一方、非生活困難層では、小学5年生では「歯ならび」、中学2年生では「気にならない」が最も多くなっています。このことから、生活困難層では、気になる内容として、歯ならびよりも、口腔環境の悪化やむし歯、歯の汚れなどが上位となる傾向が見られます。

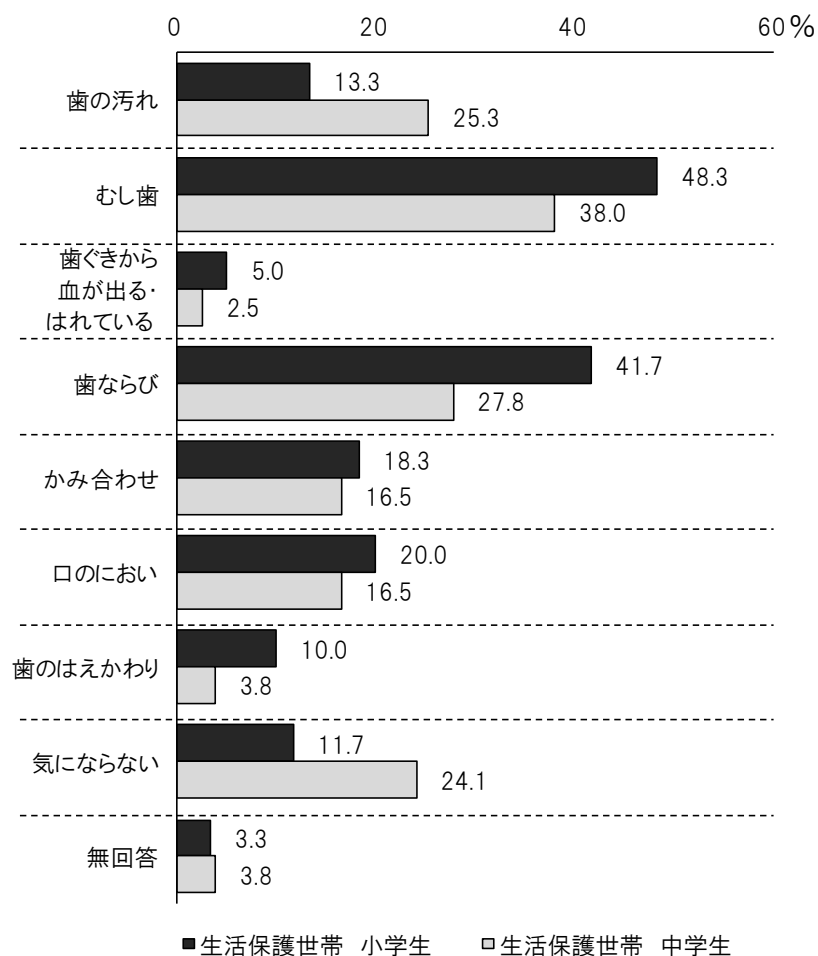


Ⅲ 保護者票

問 19 お子さんの歯や口のことで、気になることがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

生活保護調査

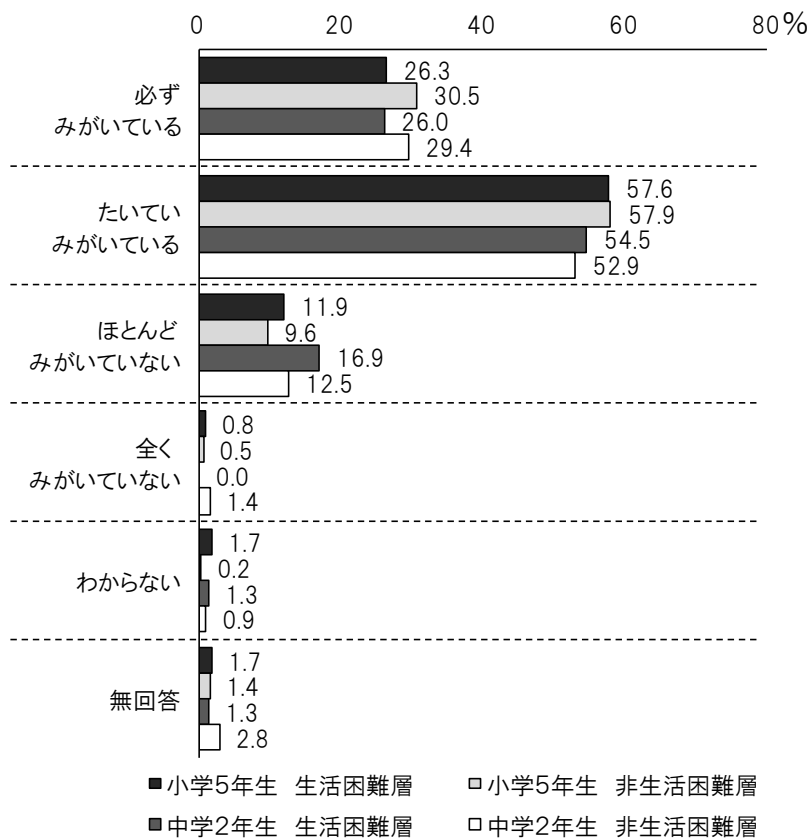
生活保護世帯について見ると、いずれも「むし歯」が3割台から4割台と最も多く、次いで「歯ならび」が2割台から4割台となっており、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「歯の汚れ」が25.3%、「気にならない」が24.1%と、いずれも小学生に比べて10ポイント以上高くなっています。



問 20 お子さんは毎食後に歯をみがいていますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

子どもが毎食後に歯をみがいているかについては、すべての対象で「たいていみがいてい
る」が最も多く、対象ごとの差は見られません。

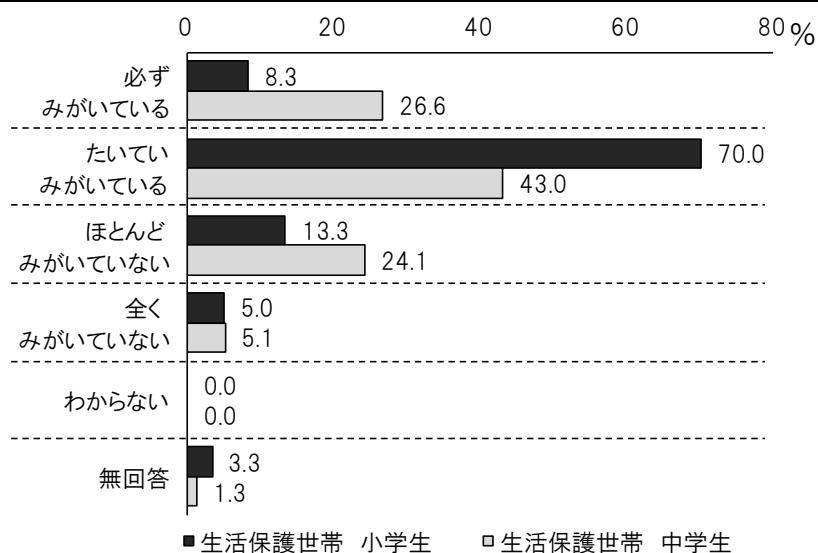


Ⅲ 保護者票

問 20 お子さんは毎食後に歯をみがいていますか。(○はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「たいていみがいている」が4割台から7割と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「必ずみがいている」が26.6%と、小学生に比べて18.3ポイント、「ほとんどみがいていない」が24.1%と、小学生の13.3%に比べて10.8ポイント高くなっており、学年が上がるとみがく子とみがかない子の両極端に分かれています。

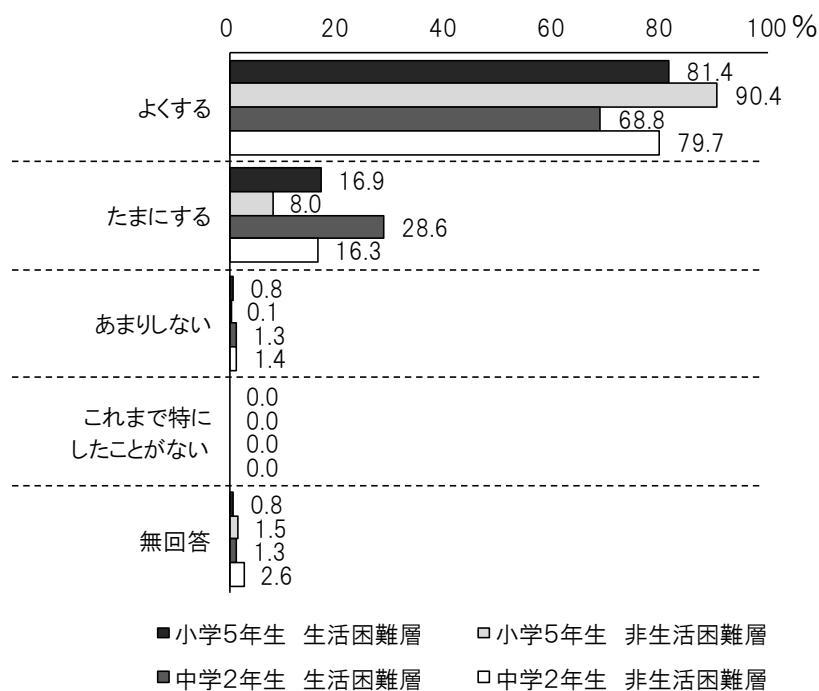


5. 子育てや教育について

問 21 あなたは、お子さんとよく会話をしますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

子どもとよく会話をするかについては、すべての対象で「よくする」が最も多くなっていますが、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層を10ポイント前後下回っています。また、「たまにする」では非生活困難層を10ポイント前後上回っています。このことから、生活困難層では、保護者と子どもの会話の頻度が非生活困難層と比べて低い傾向が見られます。

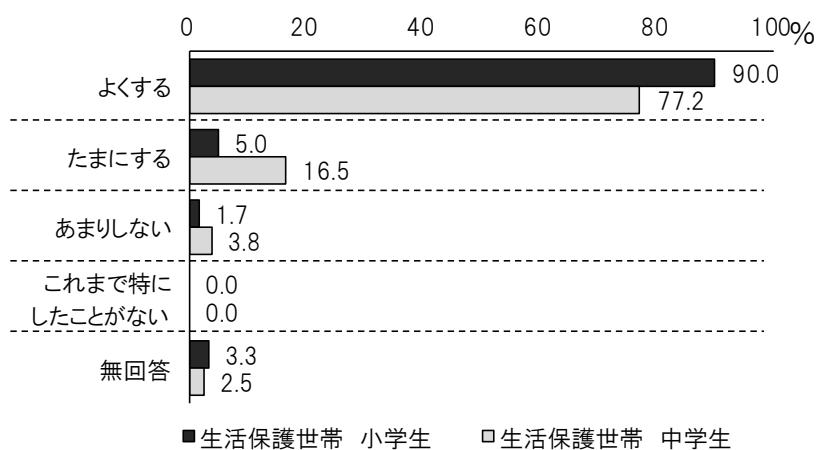


Ⅲ 保護者票

問 21 あなたは、お子さんとよく会話をしますか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「よくする」が7割台から9割と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「たまにする」が16.5%と、小学生の5.0%に比べて、11.5ポイント高く、学年が上がると会話の頻度はやや減少しています。

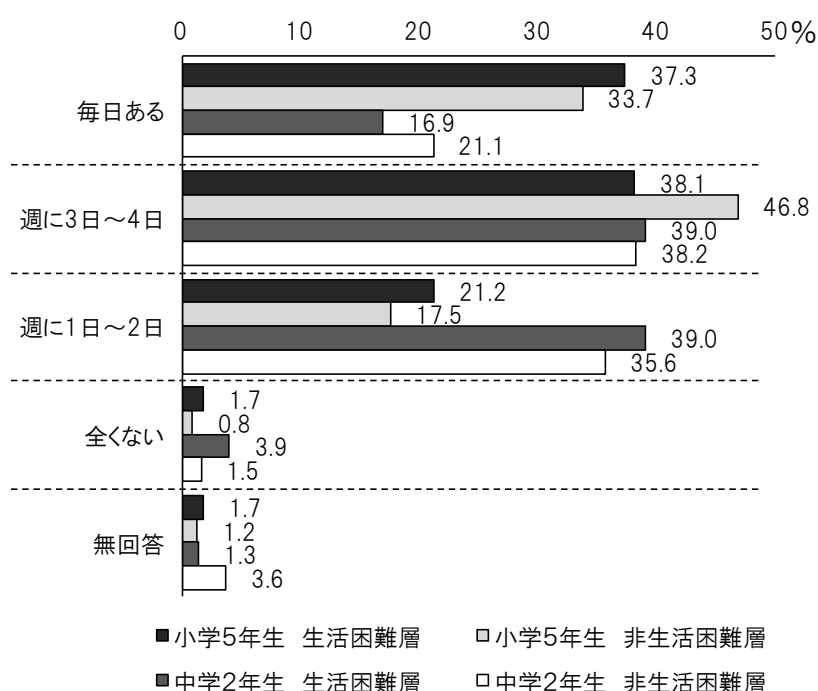


問 22 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

A. お子さんができたことや頑張ったことをほめて、一緒に喜ぶ

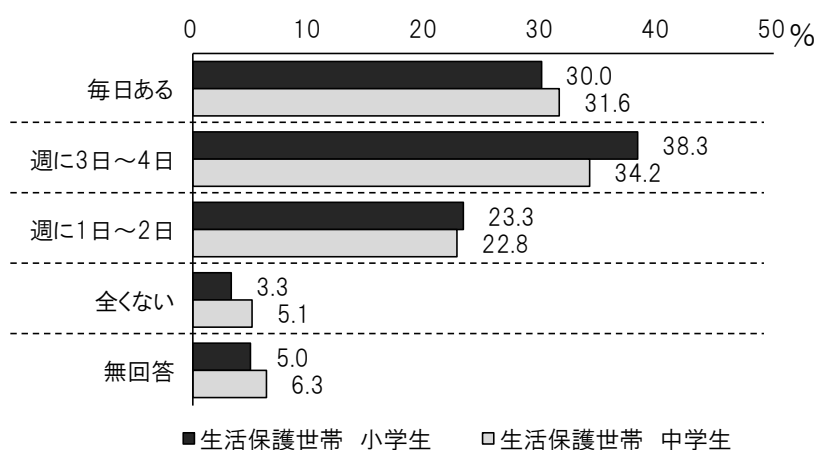
学校調査

子どもができたことや頑張ったことをほめて、一緒に喜んでいるかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生では「週に3日～4日」が38.1%、中学2年生では「週に3日～4日」と「週に1日～2日」がともに39.0%と最も多くなっています。非生活困難層と比較すると、中学2年生ではやや頻度が低い傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「週に3日～4日」が3割台前半から後半と最も多く、次いで「毎日ある」が3割から3割強となっており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。



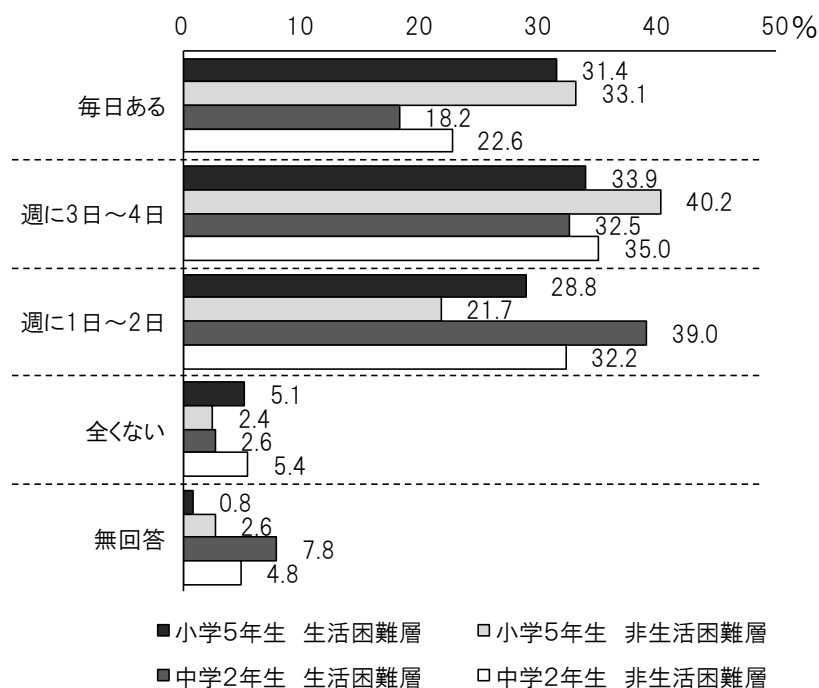
Ⅲ 保護者票

問 22 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

B. お子さんの気持ちを言葉にする

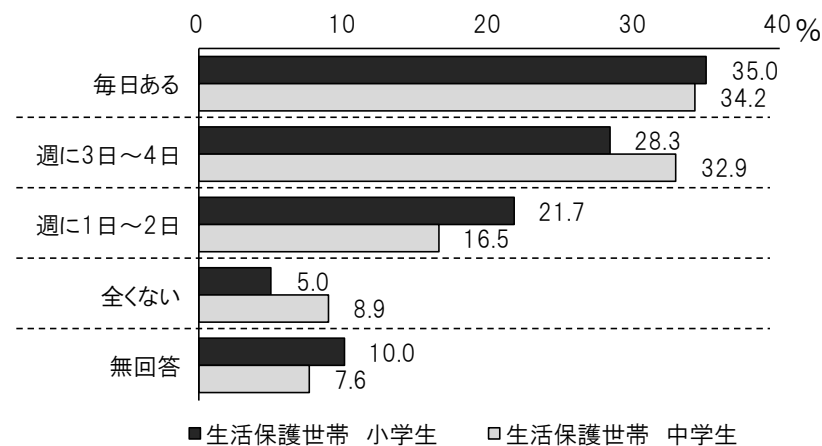
学校調査

子どもの気持ちを言葉にしているかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生では「週に3日～4日」が33.9%、中学2年生では「週に1日～2日」が39.0%と最も多くなっています。非生活困難層と比較すると、中学2年生ではやや頻度が低い傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「毎日ある」が3割台と最も多く、次いで「週に3日～4日」が2割台から3割台となっています。

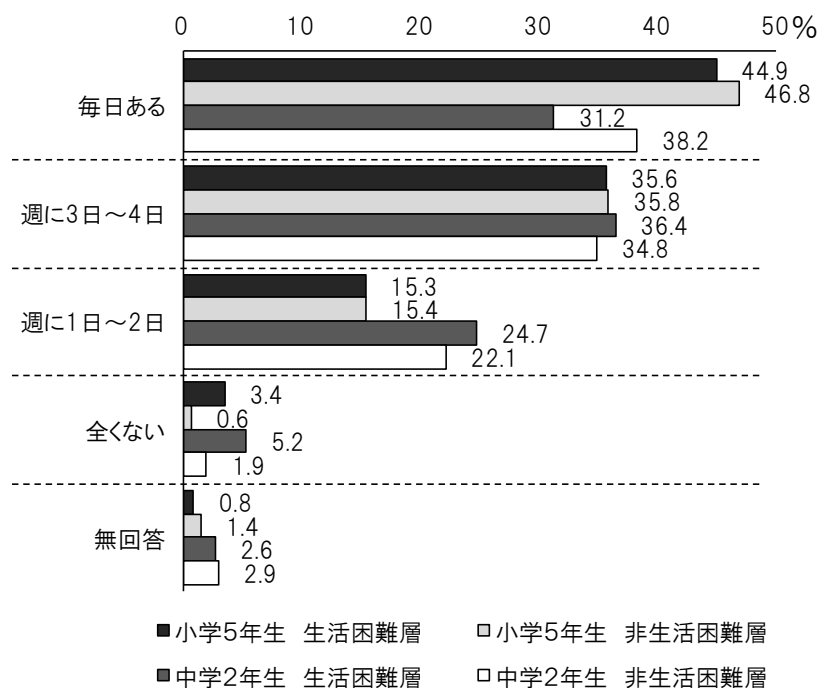


問 22 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

C. お子さんの学校での出来事について、じっくり耳を傾けて応じる

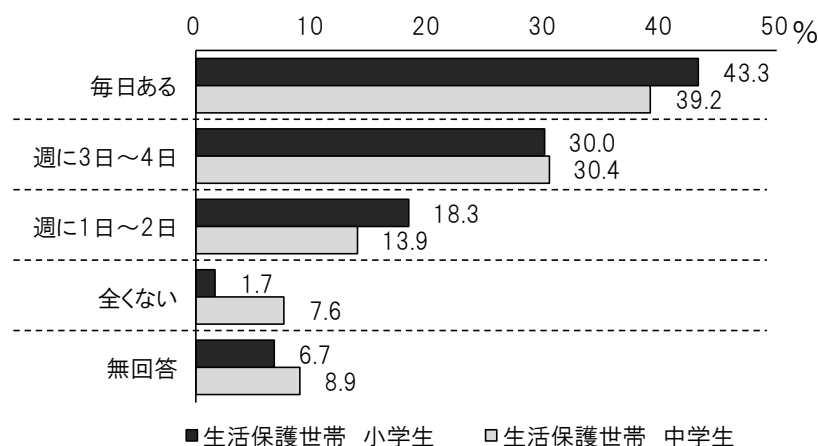
学校調査

子どもの学校での出来事について、じっくり耳を傾けて応じているかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生では「毎日ある」が44.9%、中学2年生では「週に3日～4日」が36.4%と最も多くなっています。非生活困難層と比較すると、中学2年生ではやや頻度が低い傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「毎日ある」が3割台から4割台と最も多く、次いで「週に3日～4日」が3割台となっています。



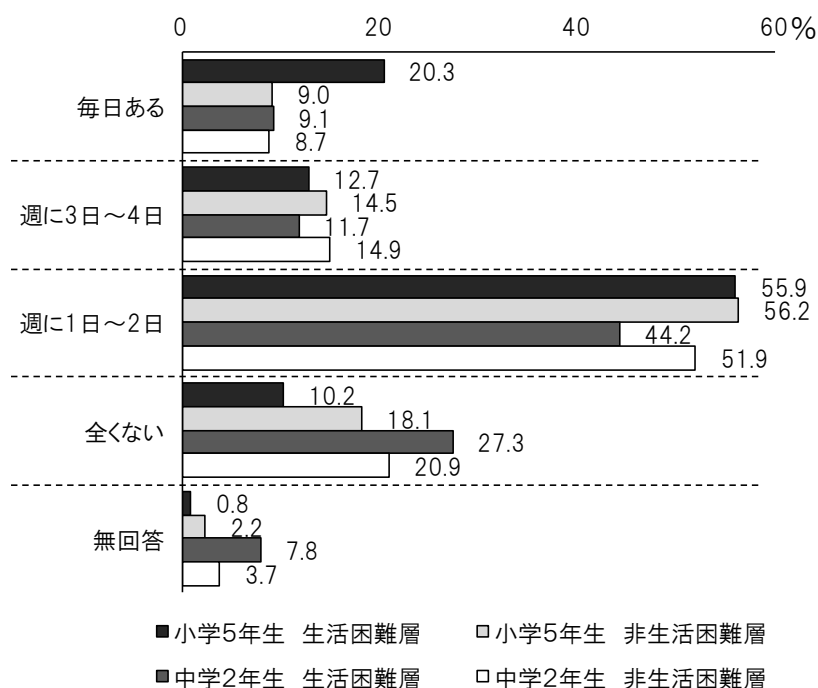
Ⅲ 保護者票

問 22 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

D. お子さんと将来の夢について話す

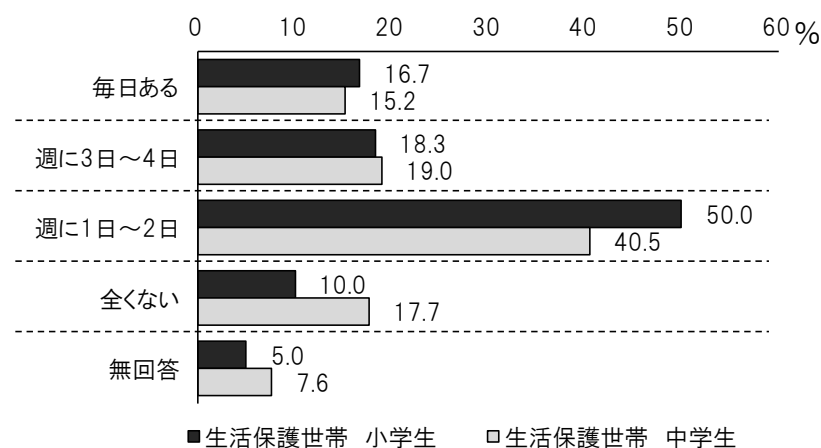
学校調査

子どもと将来の夢について話しているかについては、すべての対象で「週に1日～2日」が最も多くなっています。また生活困難層に着目すると、小学5年生では「毎日ある」が20.3%と、非生活困難層に比べ11.3ポイント上回っているほか、中学2年生では「全くない」が6.4ポイント上回っています。このことから、学年が上がると、お子さんと将来の夢について話す頻度は下がる傾向が見られ、特に生活困難層では顕著になっています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「週に1日～2日」が4割台から5割と最も多くなっています。また、中学生では「全くない」が17.7%と、小学生に比べて7.7ポイント高くなっています。

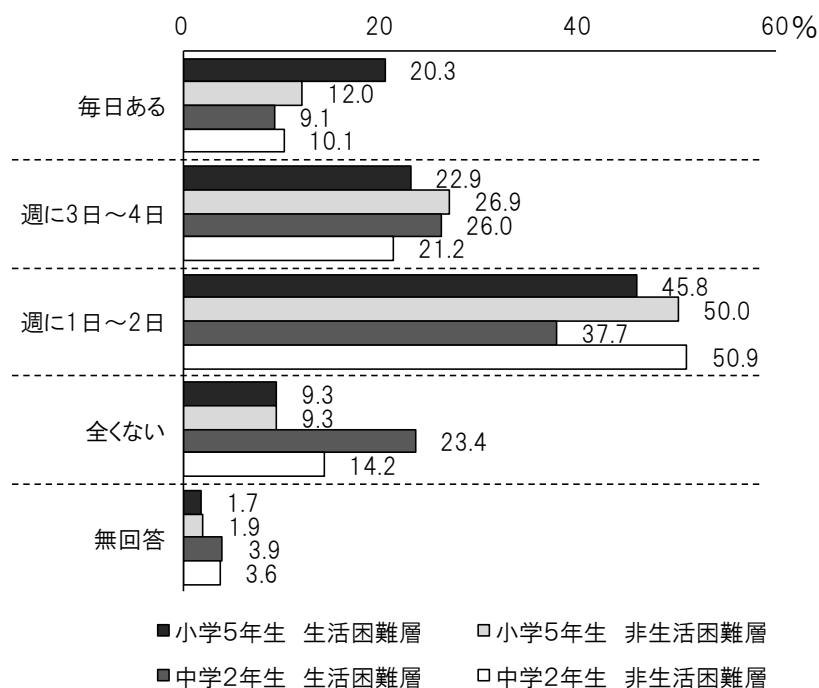


問 22 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

E. お子さんが興味を持ったことを一緒に調べる

学校調査

子どもが興味を持ったことを一緒に調べるかについては、すべての対象で「週に1日～2日」が最も多くなっていますが、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも非生活困難層を下回っています。また、小学5年生では「毎日ある」が20.3%、中学2年生では「全くない」が23.4%と、それぞれ非生活困難層を10ポイント前後上回っています。このことから、学年が上がると、お子さんが興味を持ったことを一緒に調べる頻度は下がる傾向が見られ、特に生活困難層では顕著になっています。



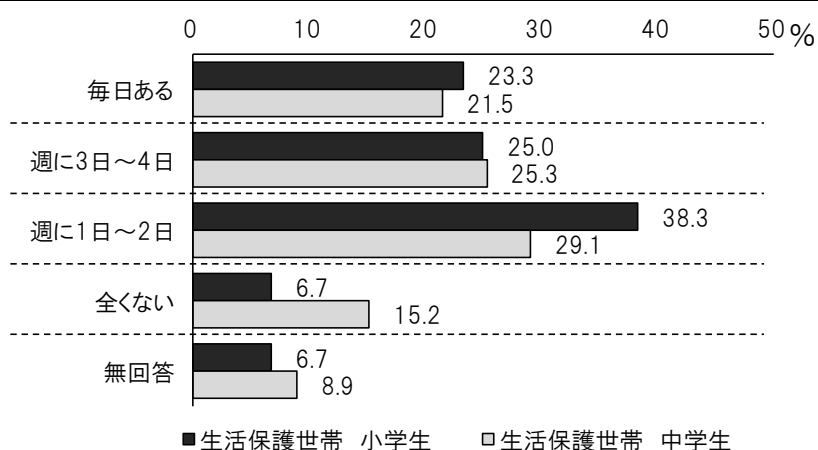
Ⅲ 保護者票

問 22 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。（それぞれについて、○はひとつだけ）

E. お子さんが興味を持ったことを一緒に調べる

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「週に1日～2日」が2割台から3割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「全くない」が15.2%と、小学生の6.7%に比べて8.5ポイント高く、学年が上がるにつれ子どもが興味を持ったことを一緒に調べる頻度は低くなっています。

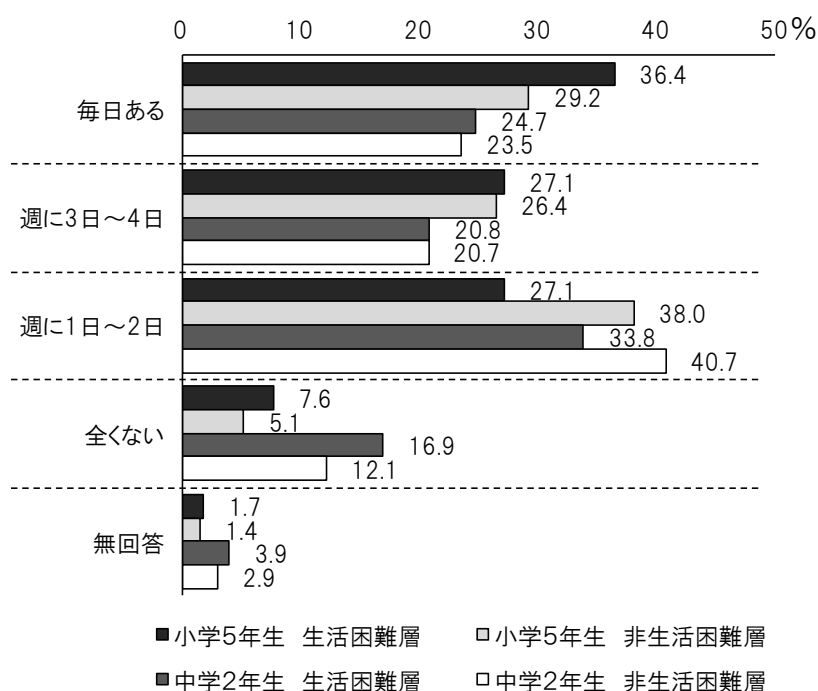


問 22 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

F. お子さんに家でお手伝いをさせている

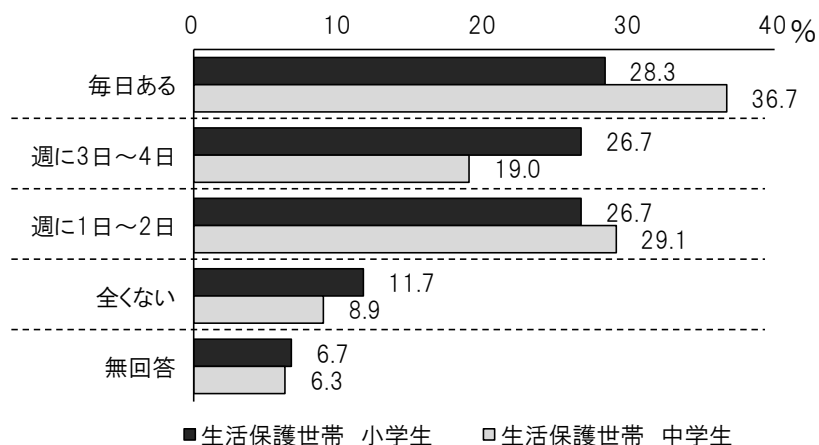
学校調査

子どもに家でお手伝いをさせているかについては、生活困難層の小学5年生では「毎日ある」が36.4%、生活困難層の中学2年生と非生活困難層の小学5年生・中学2年生では「週に1日～2日」が3割台から4割台と最も多くなっています。生活困難層では、特に小学5年生で、非生活困難層と比べてお子さんに家でお手伝いをさせている頻度が高い傾向が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「毎日ある」が2割台から3割台と最も多くなっています。また、小学生では「週に3日～4日」が26.7%と、中学生の19.0%に比べて7.7ポイント高くなっています。

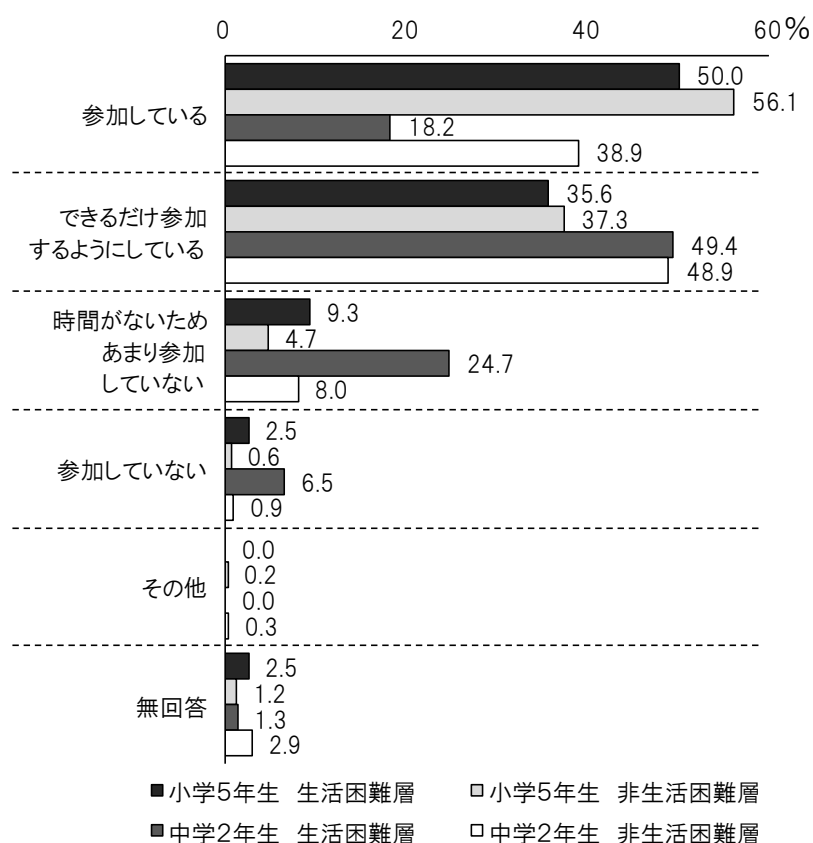


Ⅲ 保護者票

問 23 あなたのご家庭では、お子さんの学校行事へ参加していますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

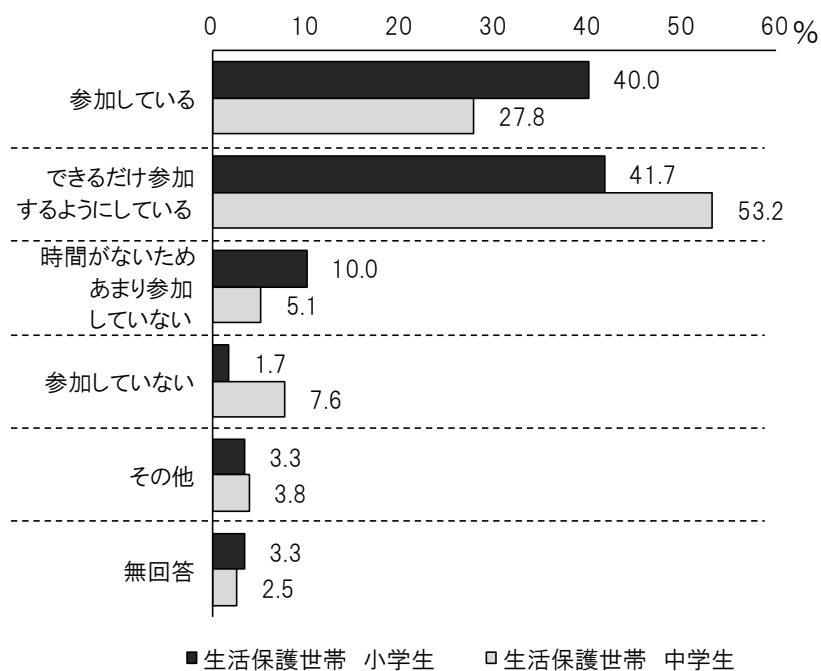
子どもの学校行事へ参加しているかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも、「参加している」で非生活困難層を下回っています。特に、中学2年生では、「参加している」で非生活困難層を 20.7 ポイント下回っている一方、「時間がないためあまり参加していない」で非生活困難層を 16.7 ポイント上回っています。このことから、生活困難層では、学年を問わず学校行事への保護者の参加割合が非生活困難層と比べて低く、特に中学2年生では時間のなさ等を理由にその傾向が顕著となっています。



問 23 あなたのご家庭では、お子さんの学校行事へ参加していますか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「できるだけ参加するようにしている」が4割台から5割台と最も多く、次いで「参加している」が2割台から4割となっています。中学生では「参加している」が小学生と比べて低く、学年が上がると学校行事への保護者の参加割合が低くなっています。



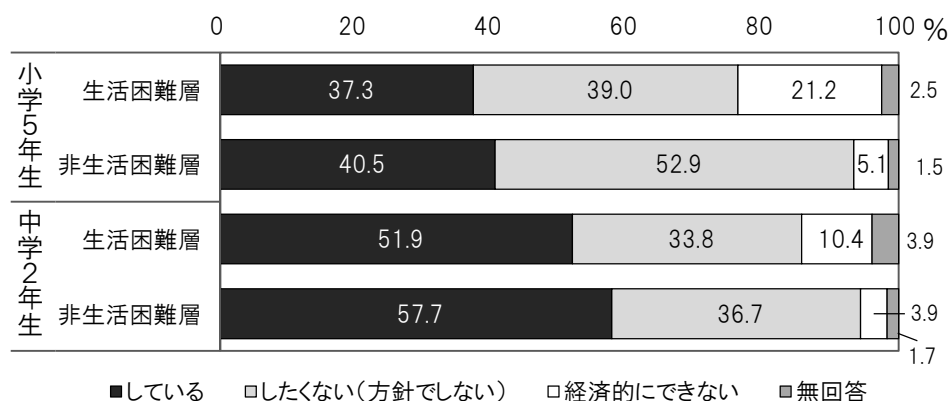
Ⅲ 保護者票

問 24 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

A. 毎月お小遣いを渡す

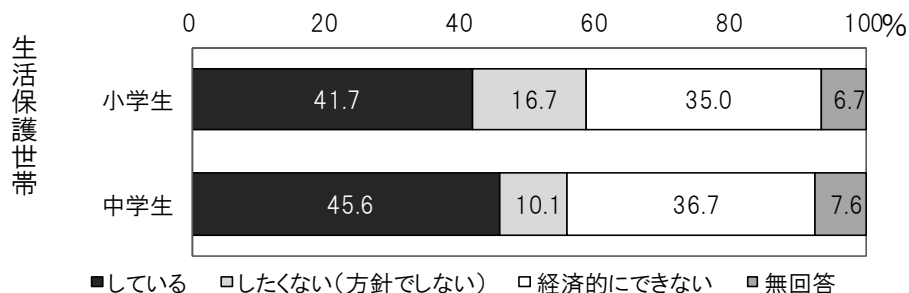
学校調査

子どもに毎月のお小遣いを渡しているかについては、小学5年生で「したくない(方針でしない)」が3割後半から5割前半、中学2年生で「している」が5割前半から後半と最も多くなっています。生活困難層に着目すると、「経済的にできない」について、小学5年生では21.2%と非生活困難層を16.1ポイント上回って特に高いほか、中学2年生でも10.4%となっています。このことから、毎月お小遣いを渡すことについて、生活困難層では「経済的にできない」家庭があり、特に小学5年生で顕著に見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「している」が4割台と最も多く、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

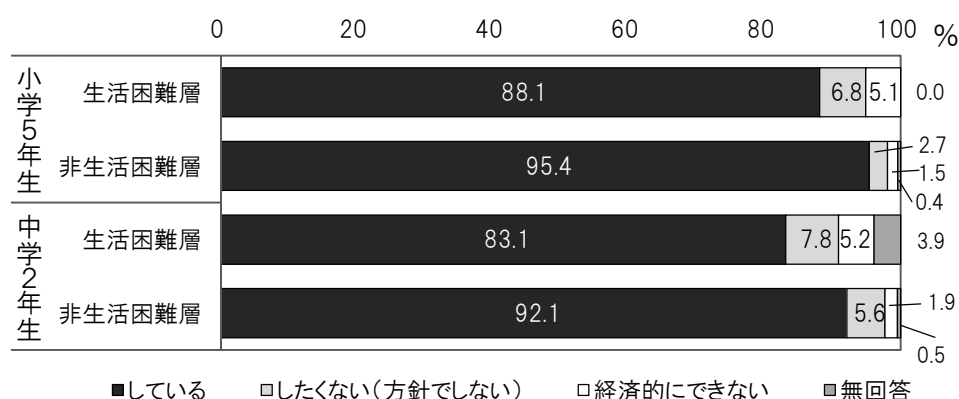


問 24 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

B. 毎年新しい洋服・靴を買う

学校調査

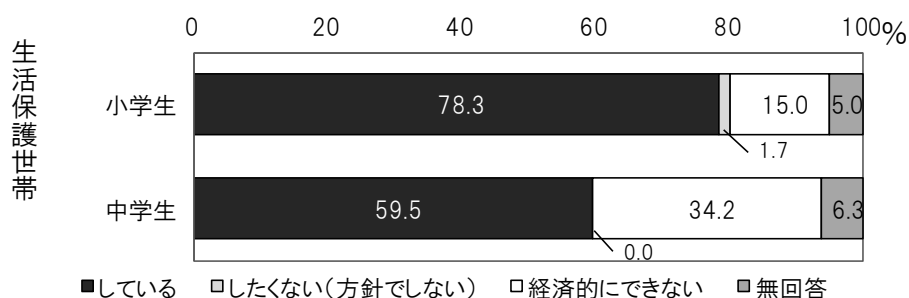
毎年新しい洋服・靴を買うかについては、すべての対象で「している」が最も多く、生活困難層・非生活困難層にかかわらず8割を超えています。生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「したくない(方針でしない)」「経済的にできない」でやや非生活困難層を上回っており、わずかながら毎年新しい洋服・靴を買うことをしない家庭があることがわかります。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「している」が最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「経済的にできない」が34.2%と、学年が上がると顕著に高くなっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「している」は顕著に低く、「経済的にできない」は顕著に高くなっています。



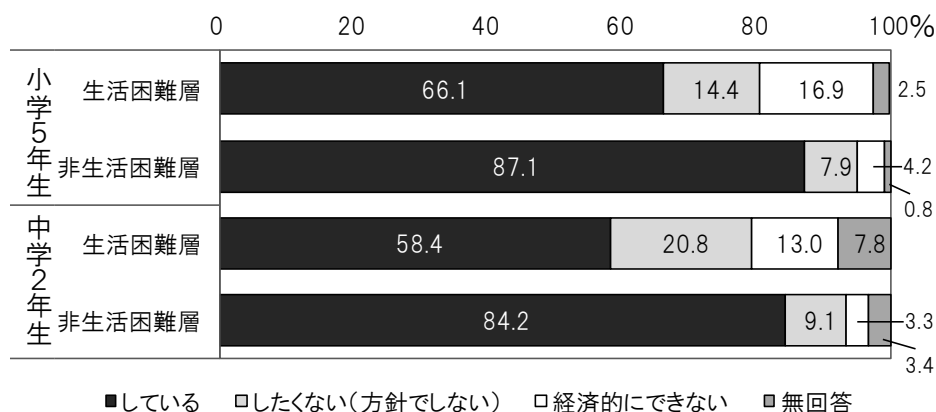
Ⅲ 保護者票

問 24 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

C. 子どもの年齢にあった本を買う

学校調査

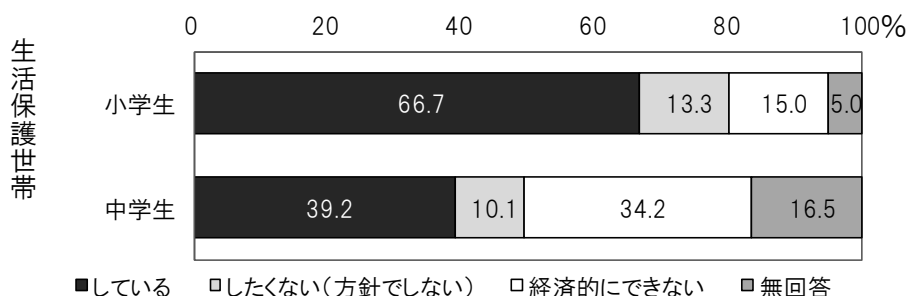
子どもの年齢にあった本を買うかについては、すべての対象で「している」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、「している」の割合で小学5年生、中学2年生のいずれも非生活困難層を下回っている一方、「したくない(方針でしない)」「経済的にできない」の合計は小学5年生、中学2年生のいずれも3割を超えています。また、「経済的にできない」が生活困難層では小学5年生、中学2年生のいずれも1割を超えています。このことから、子どもの年齢にあった本を買うことは、生活困難層の家庭では実施割合がほかの項目と比べて低く、経済的に難しい状況も見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「している」が最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「経済的にできない」が34.2%と、学年が上がると顕著に高くなっています。

中学生では、学校調査の中学2年生と比べて「している」は顕著に低く、「経済的にできない」は顕著に高くなっています。

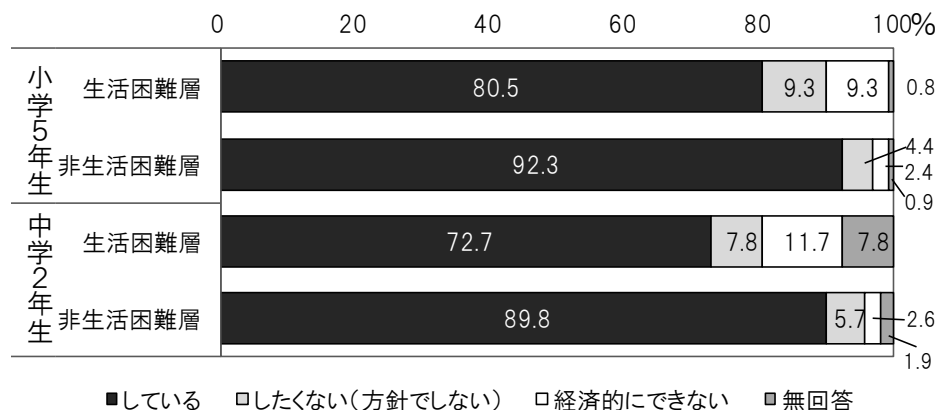


問 24 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

D. 子ども用のスポーツ用品・おもちゃを買う

学校調査

子ども用のスポーツ用品・おもちゃを買うかについては、すべての対象で「している」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、「している」の割合は小学5年生、中学2年生のいずれも非生活困難層を10ポイント以上下回っています。また、「したくない(方針でしない)」「経済的にできない」の合計は、小学5年生、中学2年生のいずれも2割弱と非生活困難層を上回っています。このことから、子ども用のスポーツ用品・おもちゃを買うことは、生活困難層・非生活困難層にかかわらず実施割合は高いものの、生活困難層では経済的に難しい家庭もあることがわかります。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「している」が4割台から6割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、「経済的にできない」がいずれも2割台から3割台となり、学年が上がると高くなっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「している」は顕著に低く、「経済的にできない」は顕著に高くなっています。



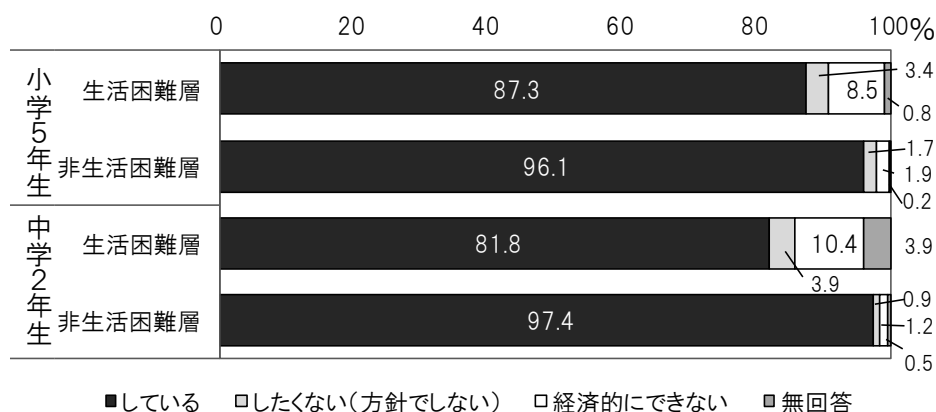
Ⅲ 保護者票

問 24 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

E. 自宅で宿題をすることができる場所を与える

学校調査

自宅で宿題をすることができる場所を与えるかについては、すべての対象で8割を超えて「している」が最も多くなっています。生活困難層・非生活困難層にかかわらず、「したくない(方針でしない)」はわずかとなっている一方、生活困難層に着目すると、「経済的にできない」が小学5年生では8.5%、中学2年生では10.4%と、いずれも非生活困難層を上回っています。このことから、自宅で宿題をすることができる場所を与えることは、生活困難層・非生活困難層にかかわらず重視されているものの、生活困難層では経済的に難しい家庭もあることがわかります。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「している」が6割台から8割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「経済的にできない」が22.8%と、学年が上がると顕著に高くなっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「している」は低く、特に中学2年生では顕著に低くなっています。また、中学2年生では、「経済的にできない」が顕著に高くなっています。

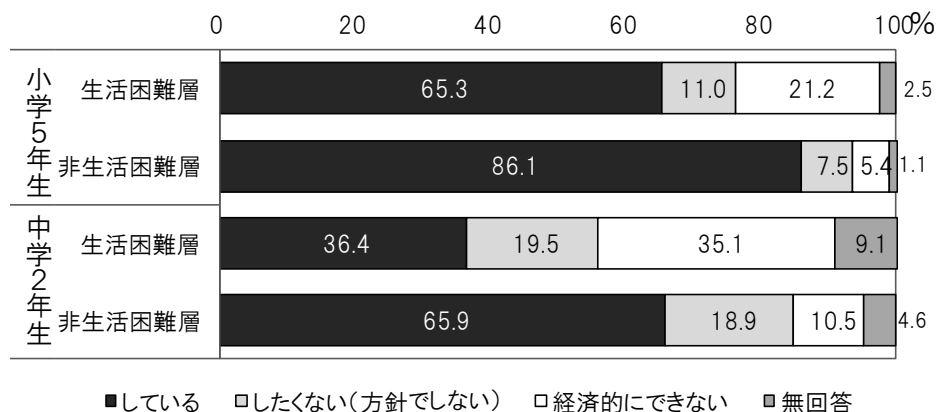


問 24 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

F. 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる

学校調査

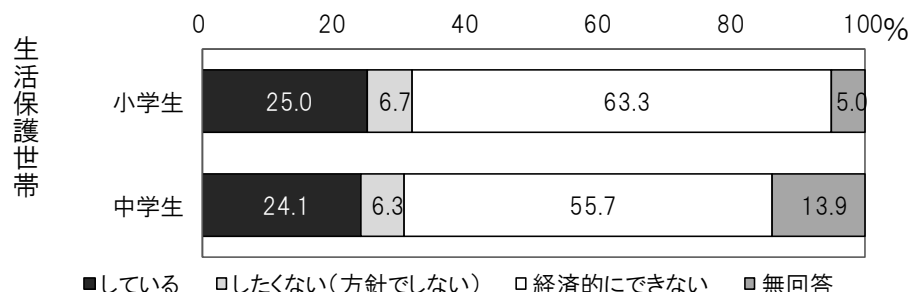
習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせることについては、すべての対象で「している」が最も多く、生活困難層に着目すると、小学5年生では65.3%、中学2年生では36.4%と、いずれも非生活困難層を下回り、学年が上がるとその差が拡大しています。一方、「経済的にできない」が、小学5年生では21.2%、中学2年生では35.1%と、いずれも非生活困難層を上回り、こちらも学年が上がるとその差が拡大しています。このことから、習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせることは、生活困難層の家庭では経済的に難しい割合が特に高く、学年が上がるとさらにその傾向が強まることがわかります。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「経済的にできない」が5割台から6割台と最も多いものの、学年が上がるとやや低くなっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「している」は顕著に低く、「経済的にできない」は顕著に高くなっています。



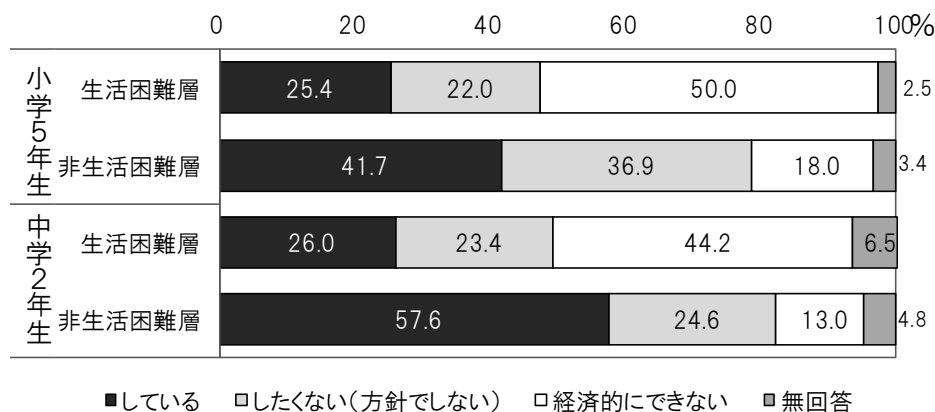
Ⅲ 保護者票

問 24 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

G. 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)

学校調査

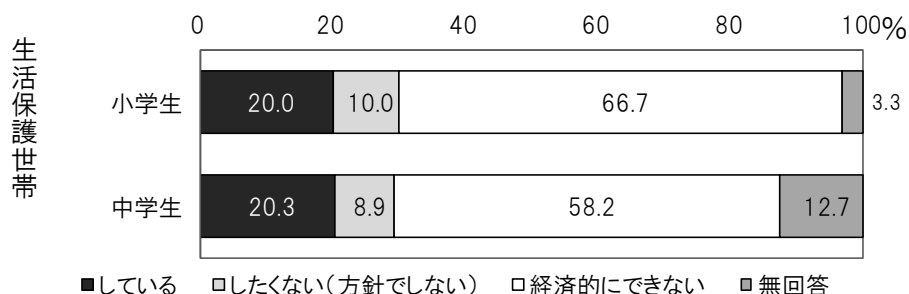
学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)かについて、「している」は、生活困難層では小学5年生、中学2年生のいずれも2割半ば程度で非生活困難層を下回っており、特に中学2年生では31.6ポイントの開きがある状況です。また、「経済的にできない」が、生活困難層では小学5年生では50.0%、中学2年生では44.2%と、学年が上がるとやや低くなっているものの、いずれも非生活困難層を30ポイント以上上回っています。このことから、生活困難層では、学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)ことが経済的に難しい家庭が小学5年生では半数を占め、学年が上がるとやや実施割合が上がるものの、中学2年生でも4割以上が経済的に難しいことがわかります。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「経済的にできない」が5割台から6割台と最も多いものの、学年が上がるとやや低くなっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「している」は顕著に低く、「経済的にできない」は顕著に高くなっています。

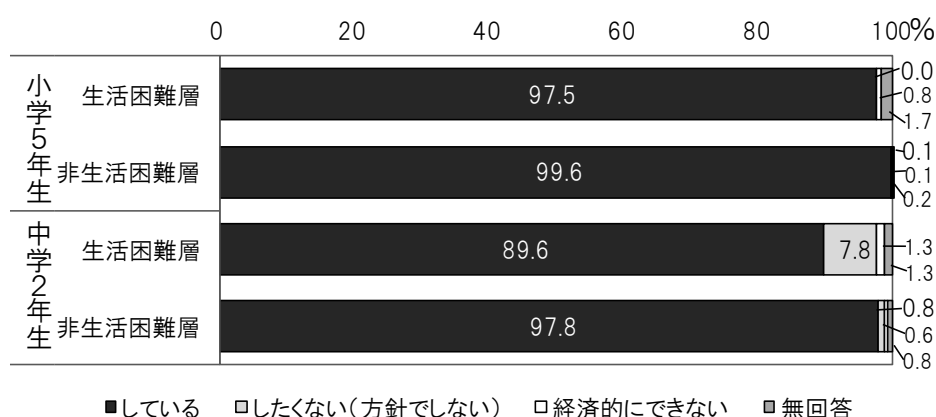


問 24 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

H. お誕生日のお祝いをする

学校調査

お誕生日のお祝いをするかについては、すべての対象で「している」が最も多くなっています。また、中学2年生では生活困難層で「している」が89.6%と、非生活困難層に比べ8.2ポイント低く、「したくない(方針でしない)」が7.8%となっています。このことから、お誕生日のお祝いをすることは、生活困難層・非生活困難層にかかわらず重視されている一方で、中学2年生の生活困難層では、「したくない(方針でしない)」家庭も見られることがわかります。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「している」が8割台から9割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「経済的にできない」が8.9%とやや見られます。



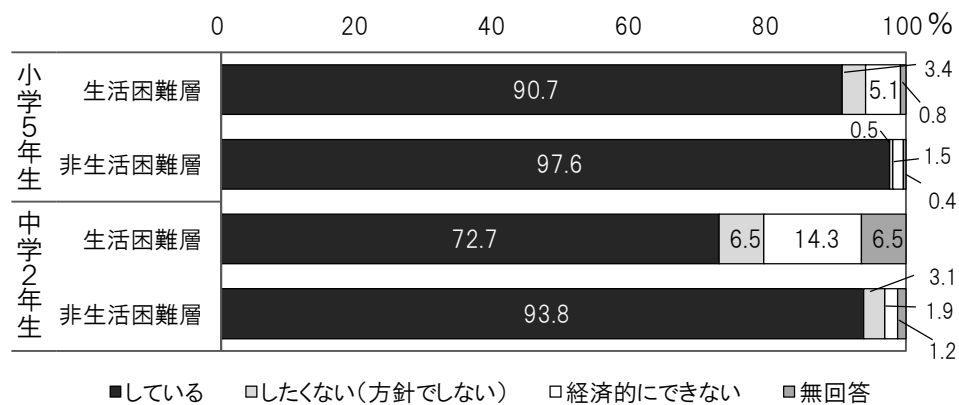
Ⅲ 保護者票

問 24 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

Ⅰ. 買い物やレジャー施設に行く

学校調査

買い物やレジャー施設に行くかについては、すべての対象で「している」が最も多くなっていますが、中学2年生では生活困難層で「している」が72.7%と、非生活困難層に比べ21.1ポイント低く、学年が上がると生活困難層では「している」の割合の低下が顕著に見られます。また、中学2年生の生活困難層では「経済的にできない」が14.3%と、非生活困難層を12.4ポイント上回っています。このことから、買い物やレジャー施設に行くことは、生活困難層では学年が上がると実行割合が低くなり、経済的に難しい家庭の増加が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「している」が5割台から6割台と最も多いものの、学年が上がるとやや低くなっています。また、「経済的にできない」がいずれも2割台から3割台となっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「している」は低く、「経済的にできない」は高くなっています。

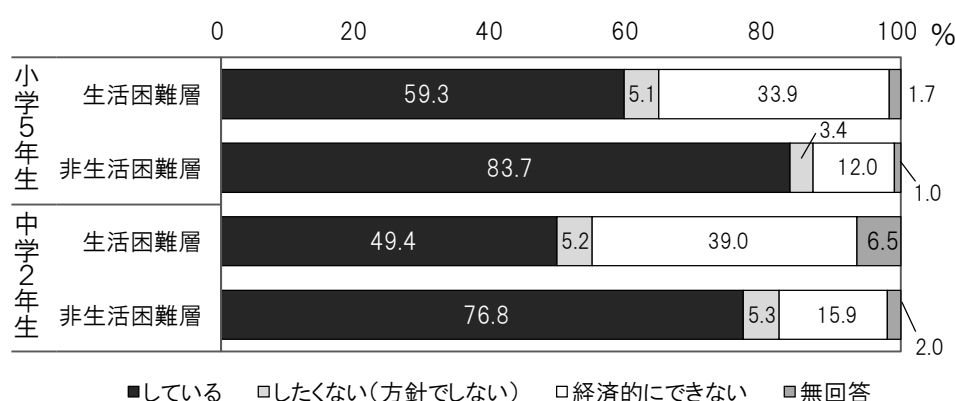


問 24 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

J. 1年に1回くらい家族旅行に行く

学校調査

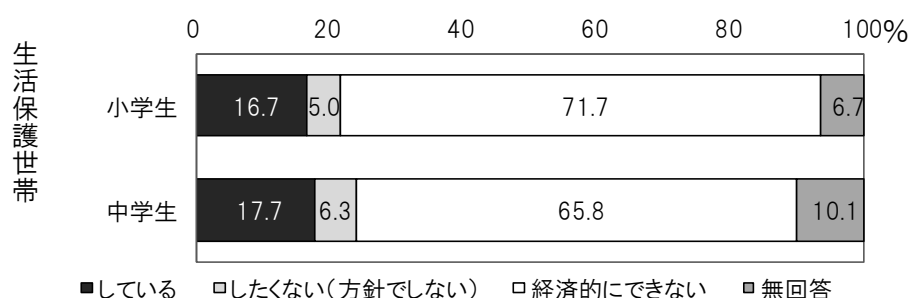
1年に1回くらい家族旅行に行くかについては、すべての対象で「している」が最も多くなっていますが、小学5年生、中学2年生のいずれも生活困難層では非生活困難層を20ポイント以上下回り、学年が上がると割合の低下が見られます。また、小学5年生、中学2年生のいずれも生活困難層では「経済的にできない」が3割を超え、学年が上がると非生活困難層との差が拡大しています。このことから、1年に1回くらい家族旅行に行くことは、生活困難層では学年が上がると実行割合が低くなり、経済的に難しい家庭の増加が見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「経済的にできない」が6割台から7割台と最も多く、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「している」は低く、「経済的にできない」は顕著に高くなっています。



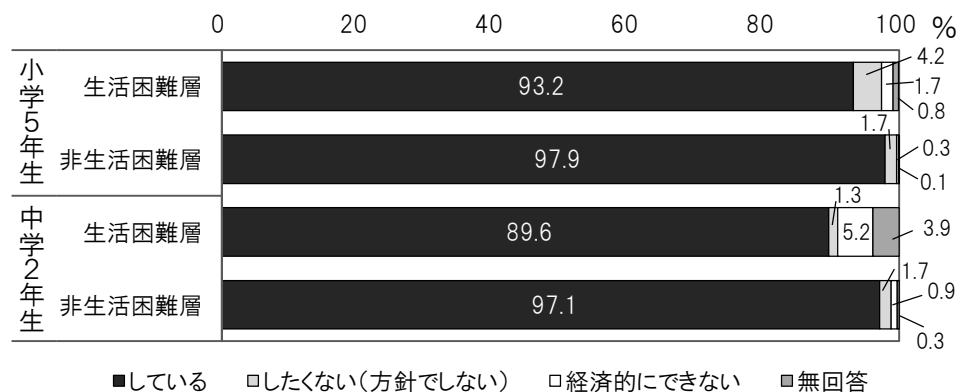
Ⅲ 保護者票

問 24 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

K. クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる

学校調査

クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげるかについては、すべての対象で「している」が最も多く、生活困難層・非生活困難層での大きな差はない状況です。ただ、生活困難層では中学2年生で「している」が89.6%となっており、学年が上がると生活困難層では実行割合がやや低下しています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「している」が7割台から8割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「経済的にできない」が19.0%と、学年が上がると顕著に高くなっています。

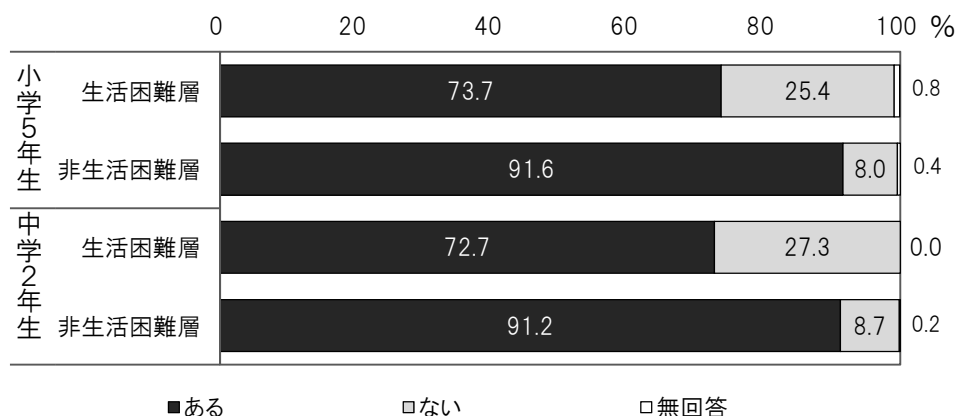
学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「している」はやや低く、「経済的にできない」はやや高くなっています。



問 25 お子さんが落ち着いて勉強できる環境がありますか。(○はひとつだけ)

学校調査

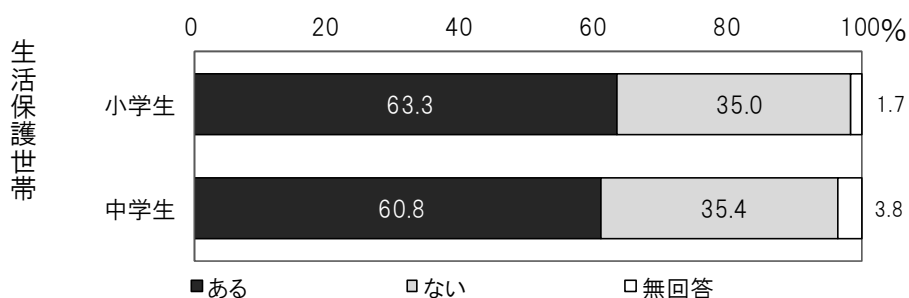
子どもが落ち着いて勉強できる環境があるかについては、すべての対象で「ある」が最も多くなっていますが、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも非生活困難層を20ポイント弱下回っています。また、「ない」が、小学5年生、中学2年生のいずれも2割台となっており、生活困難層ではお子さんが落ち着いて勉強できる環境がない家庭が4分の1程度ある状況です。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「ある」が6割台と、「ない」を上回っており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「ある」はやや低く、「ない」はやや高くなっています。

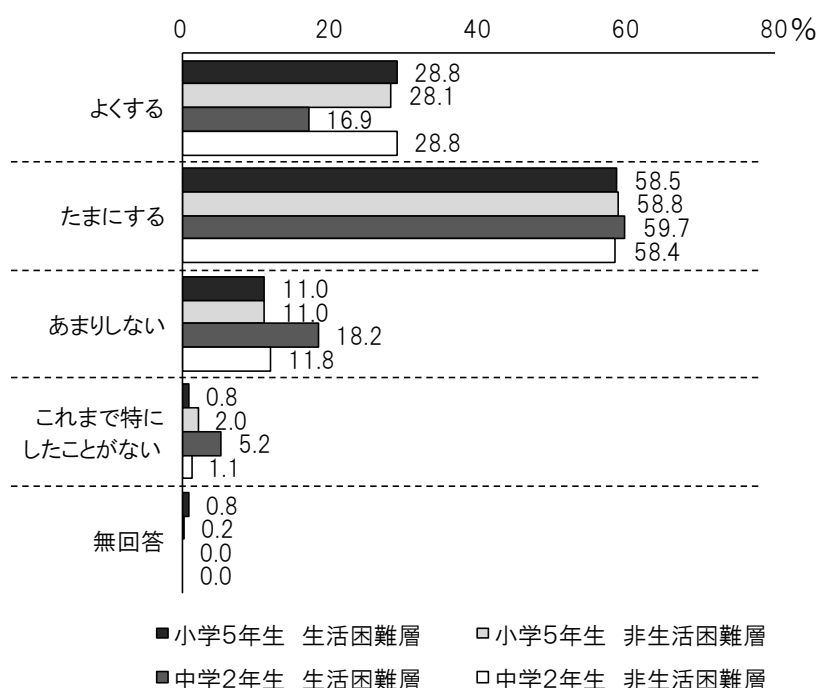


Ⅲ 保護者票

問 26 あなたは、お子さんの将来(夢・進路・職業等)について、お子さんと一緒に考えたり、話すことがありますか。(〇はひとつだけ)

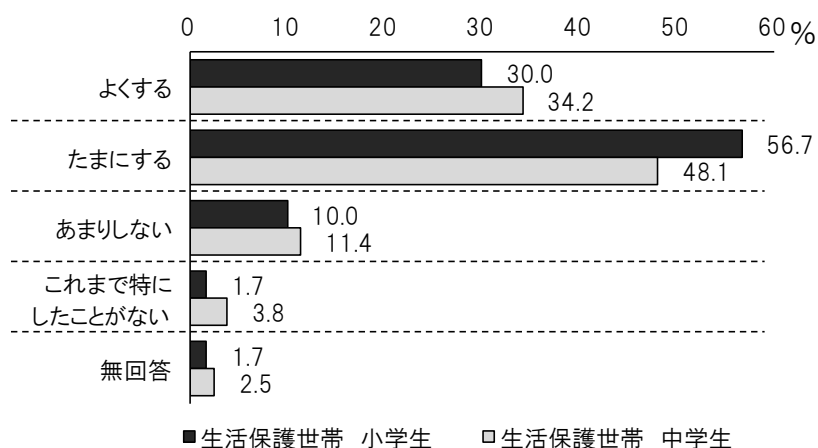
学校調査

子どもの将来(夢・進路・職業等)について、一緒に考えたり、話したりするかについては、すべての対象で「たまにする」が最も多くなっています。生活困難層に着目すると、中学2年生では「よくする」で非生活困難層を11.9ポイント下回っている一方、「あまりしない」で非生活困難層を6.4ポイント上回っています。このことから、お子さんの将来(夢・進路・職業等)について、お子さんと一緒に考えたり、話すことは、小学5年生では生活困難層・非生活困難層間の差は見られないものの、中学2年生では生活困難層で頻度が低下していることがわかります。



生活保護調査

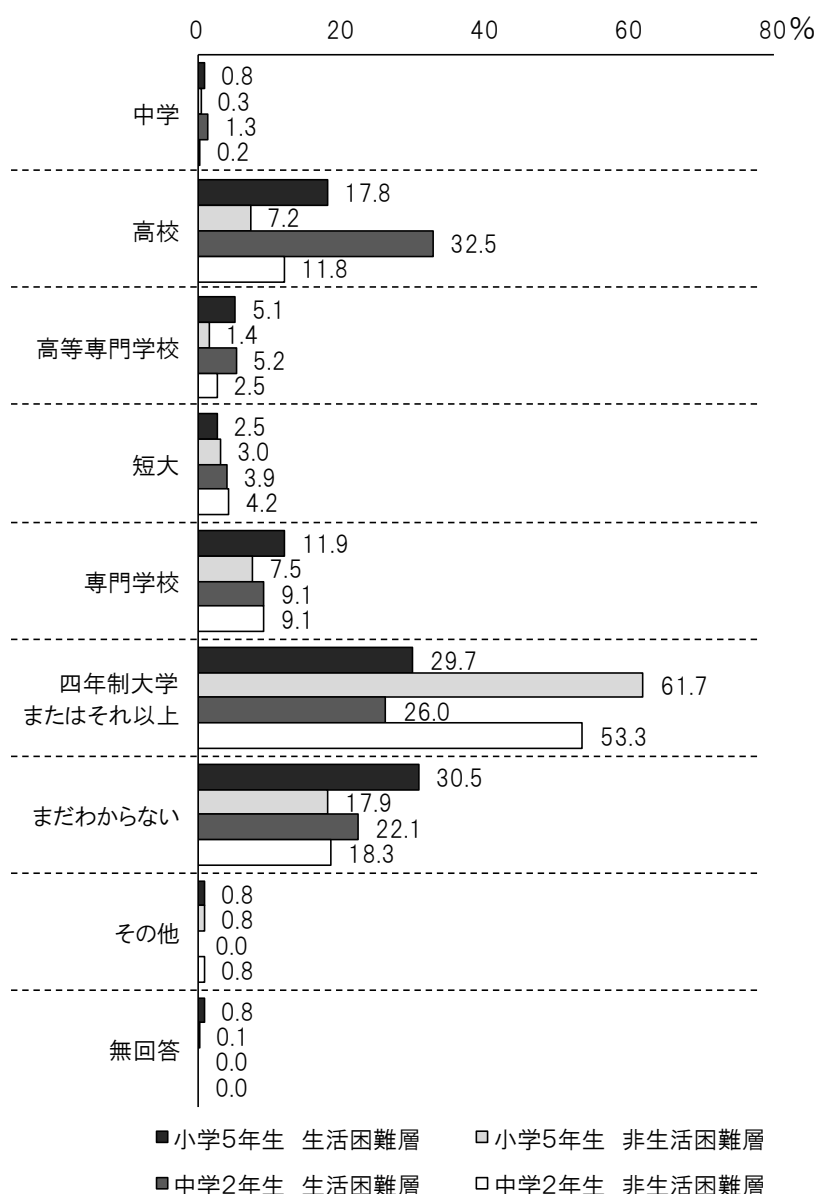
生活保護世帯について見ると、いずれも「たまにする」が4割台から5割台と最も多く、次いで「よくする」が3割台となっています。



問 27 お子さんにどの段階までの教育を受けさせたいですか。(〇はひとつだけ)

学校調査

子どもにどの段階までの教育を受けさせたいかについては、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「高校」で非生活困難層を10ポイント以上上回り、特に中学2年生では20.7ポイントの開きがある状況です。また、「四年制大学またはそれ以上」については、小学5年生、中学2年生のいずれも非生活困難層を下回り、30ポイント前後の大きな開きがある状況です。このことから、生活困難層では、非生活困難層で5割以上が希望する「四年制大学またはそれ以上」と比べて、「高校」の割合が高く、学年が上がるとその傾向が強まることがわかります。

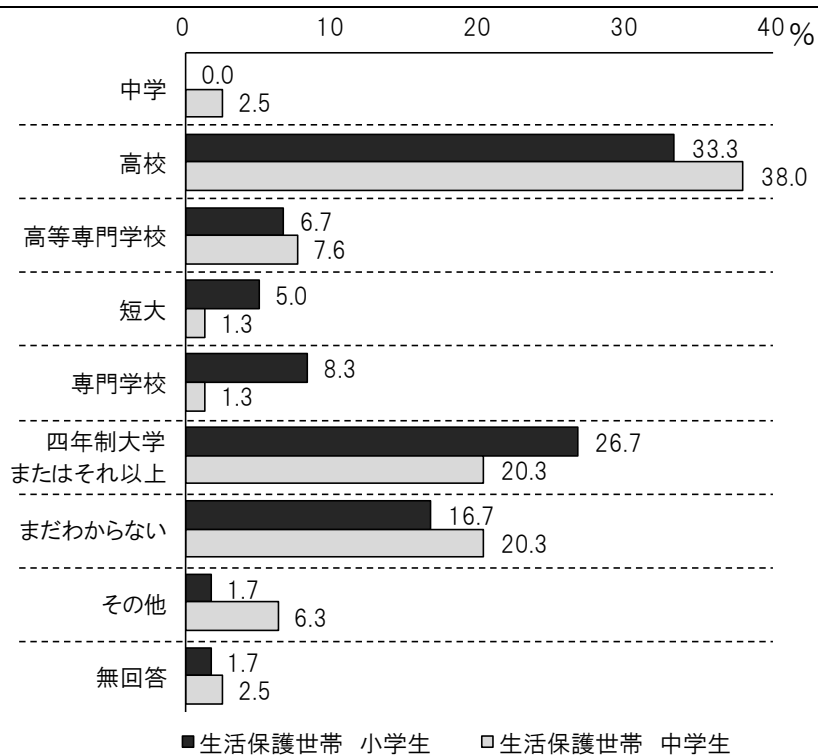


Ⅲ 保護者票

問 27 お子さんにどの段階までの教育を受けさせたいですか。(○はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「高校」が3割台と最も多く、次いで「四年制大学またはそれ以上」が2割台となっています。学年が上がると「高校」が多くなっている一方、「四年制大学またはそれ以上」は低くなっています。



6. 現在の暮らしについて

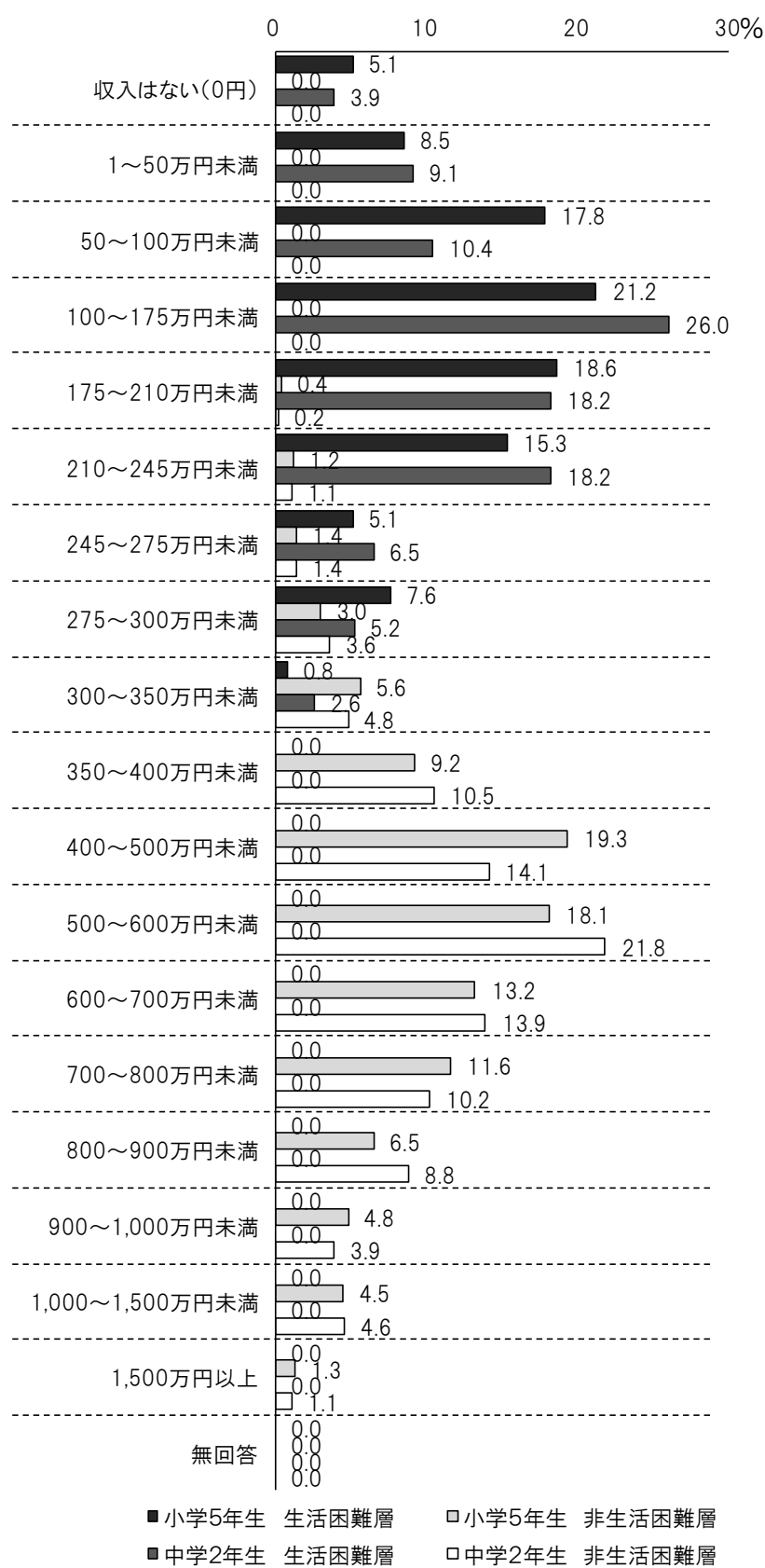
問 28 昨年 1 年間(2017 年 1 月～2017 年 12 月)のご家族の手取り収入(税金や保険料を引いた、実際に手元に入ってくるお金)の額を教えてください。(就労で得た収入のほか、公的な手当や援助による収入なども含めた 1 年間の手取り収入になります。)(○はひとつだけ)

学校調査

昨年 1 年間の家族の手取り年収の額については、小学 5 年生、中学 2 年生のいずれも生活困難層で「100～175 万円未満」が 2 割前半から半ば、小学 5 年生の非生活困難層で「400～500 万円未満」が 19.3%、中学 2 年生の非生活困難層で「500～600 万円未満」が 21.8%と最も多くなっています。手取り年収の分布には、小学 5 年生、中学 2 年生での大きな差はなく、生活困難層では、「100～175 万円未満」から「210～245 万円未満」の間の階級ではいずれも非生活困難層を 10 ポイント以上上回っています。一方、非生活困難層では、「350～400 万円未満」から「700～800 万円未満」ではいずれも生活困難層を 10 ポイント以上上回っています(「350～400 万円未満」の小学 5 年生を除く)。

→グラフは次ページ

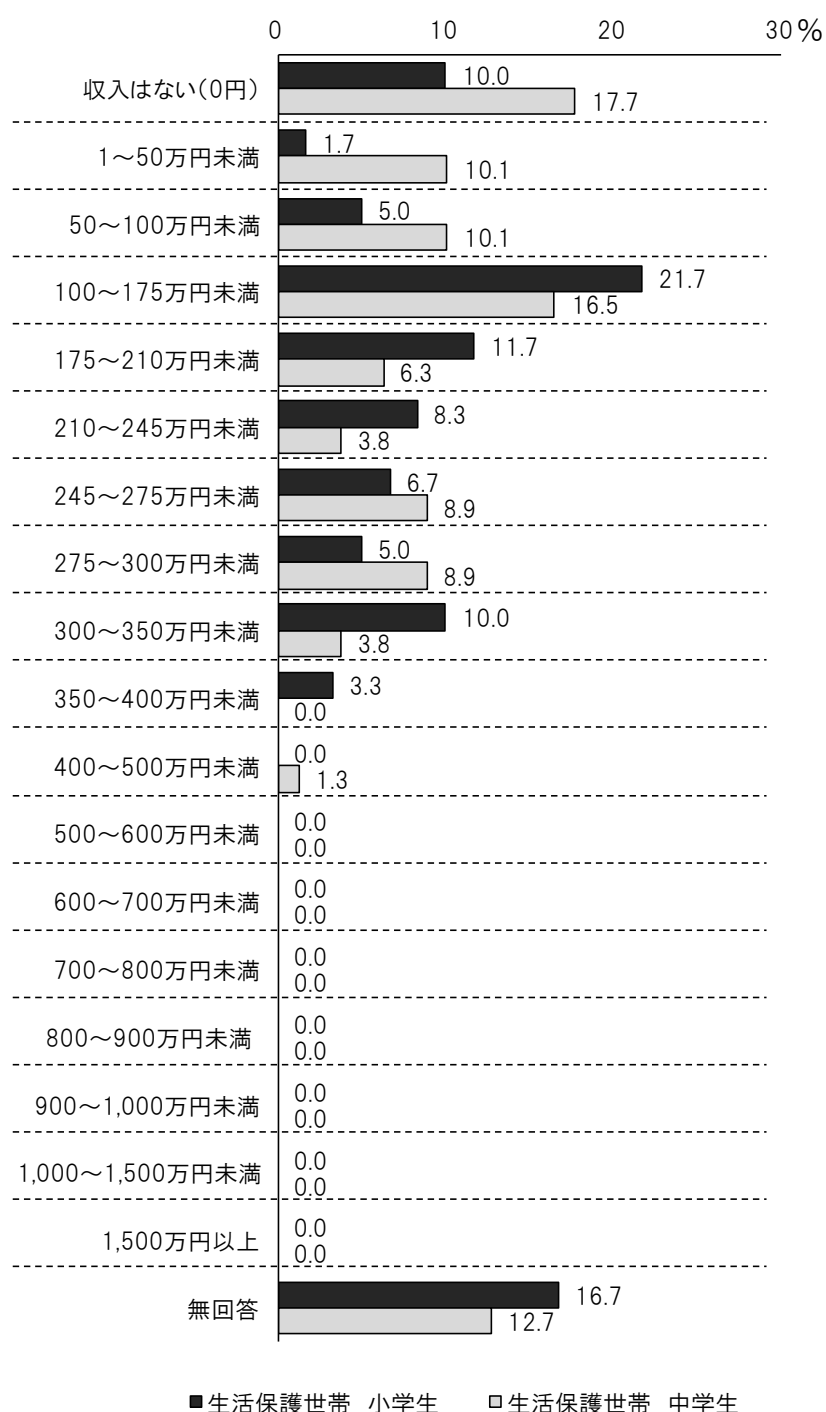
Ⅲ 保護者票



問 28 昨年 1 年間(2017 年 1 月～2017 年 12 月)のご家族の手取り収入(税金や保険料を引いた、実際に手元に入ってくるお金)の額を教えてください。(就労で得た収入のほか、公的な手当や援助による収入なども含めた1年間の手取り収入になります。)(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「100～175万円未満」が21.7%、中学生では「収入はない(0円)」が17.7%と、最も多くなっています。また、中学生では「1～50万円未満」「50～100万円未満」が小学生に比べて多く、1割を超えています。

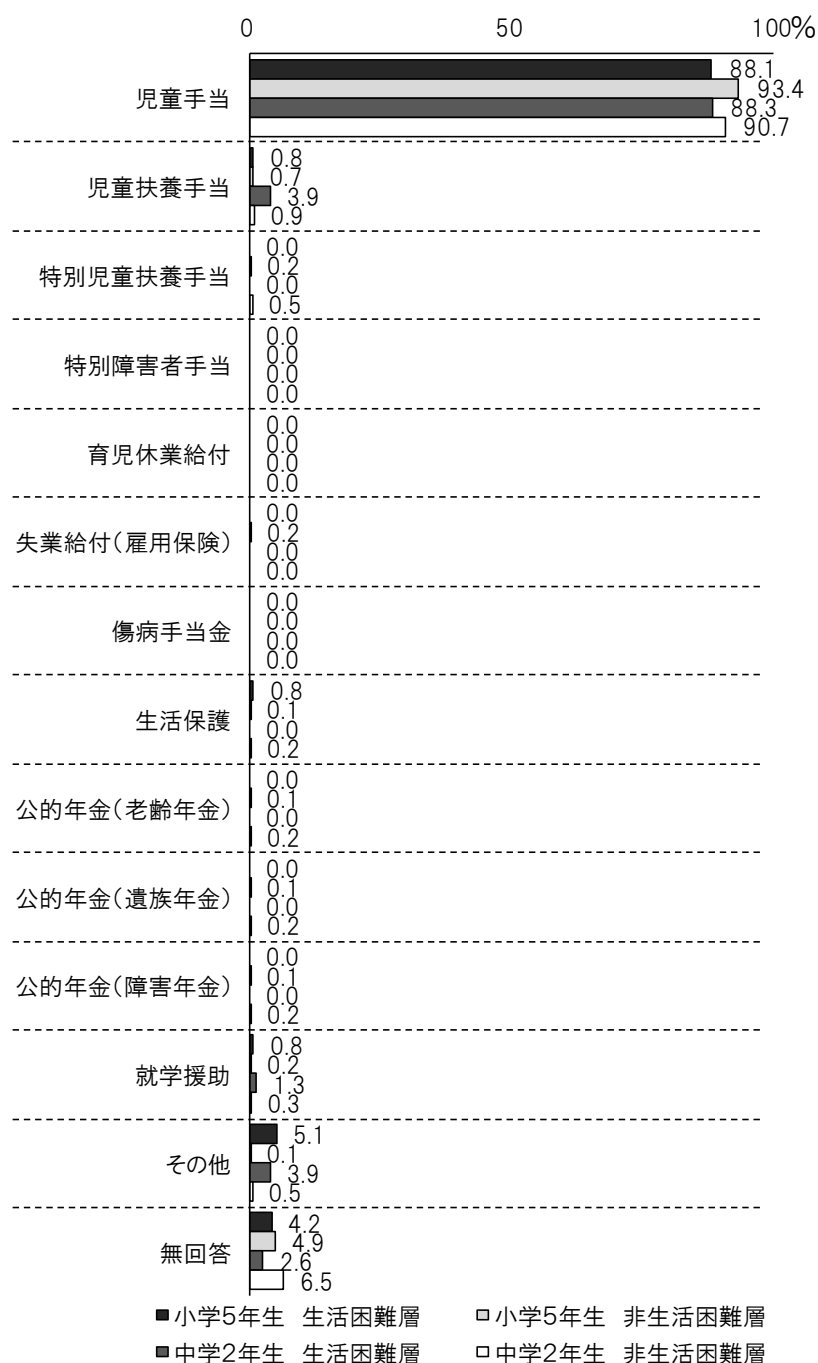


Ⅲ 保護者票

問 29 あなたのご家庭で受けている公的年金、社会手当などの社会保障給付金があれば、すべてに○をつけてください。

学校調査

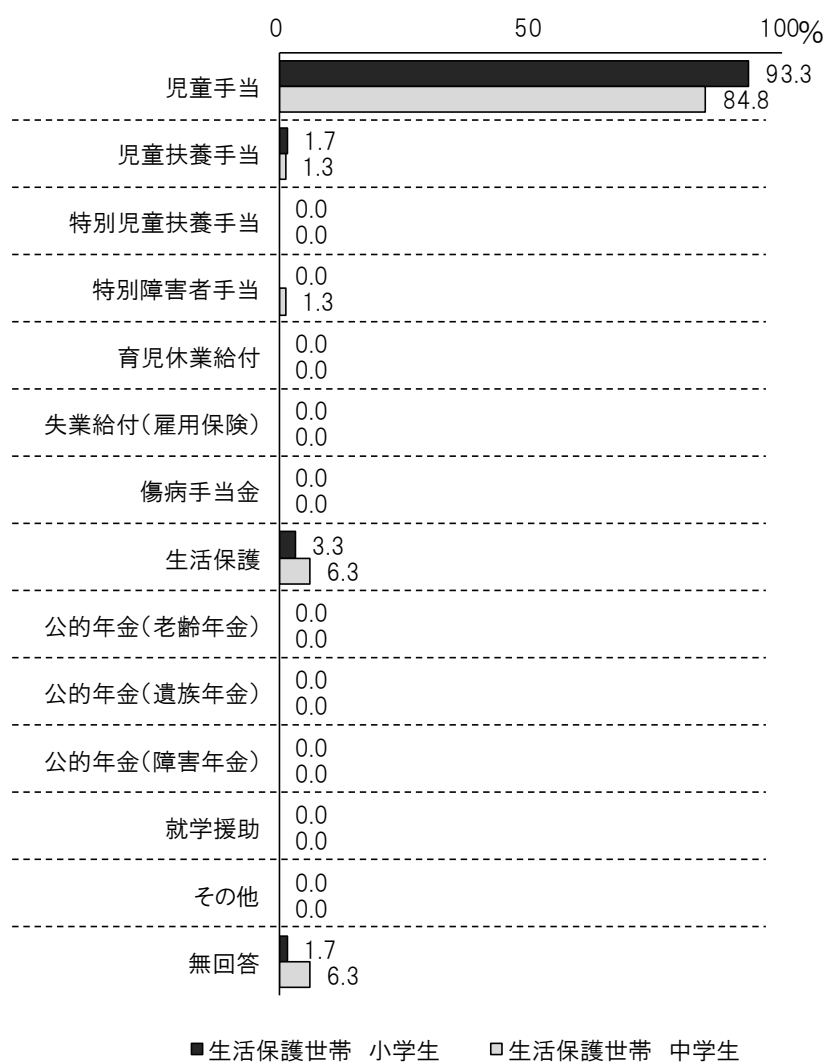
家庭で受けている公的年金、社会手当などの社会保障給付金については、すべての対象で「児童手当」が最も多く、対象ごとの差は見られません。



問 29 あなたのご家庭で受けている公的年金、社会手当などの社会保障給付金があれば、すべてに○をつけてください。

生活保護調査

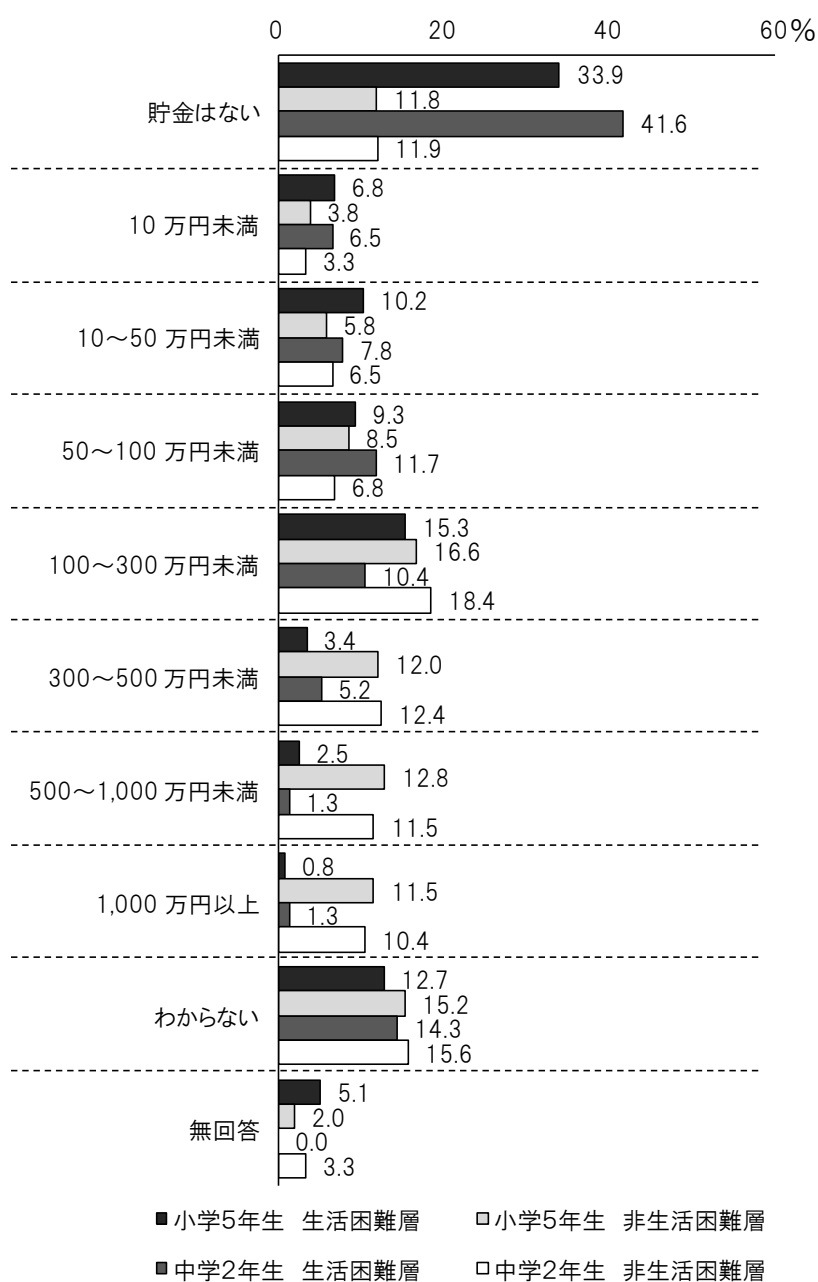
生活保護世帯について見ると、いずれも「児童手当」が8割台から9割台と最も多くなっています。



問 30 現在の貯金額はどのくらいですか。ご家族の貯金すべての合計金額でお答えください(○はひとつだけ)

学校調査

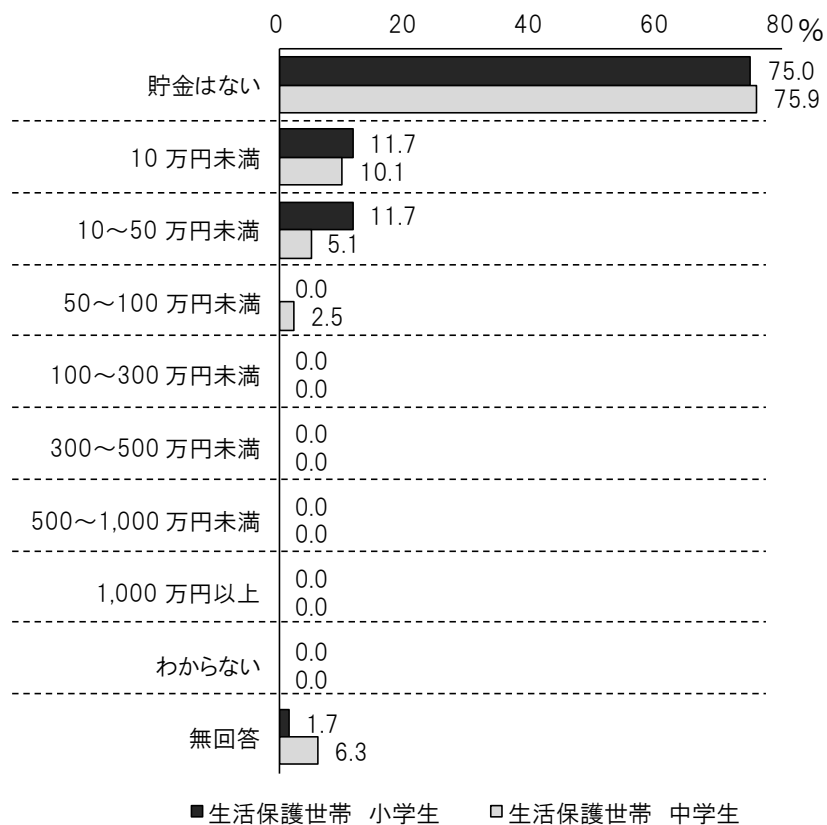
現在の貯金額については、小学5年生、中学2年生のいずれも生活困難層で「貯金はない」が3割半ばから4割前半、非生活困難層で「100～300万円未満」が1割半ばから後半と最も多くなっています。また、生活困難層に着目すると、「貯金はない」が、小学5年生では33.9%、中学2年生では41.6%と、いずれも非生活困難層に比べ20ポイント以上高く、学年が上がるとその差は拡大しています。また、「300～500万円未満」以上の階級では、顕著に生活困難層では非生活困難層を下回っています。このことから、生活困難層では貯金額が非生活困難層と比べて少ない傾向にあり、学年が上がるとよりその傾向が強く見られます。



問 30 現在の貯金額はどのくらいですか。ご家族の貯金すべての合計金額でお答えください(○はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「貯金はない」が7割台と最も多くなっています。また、小学生、中学生のいずれも「10万円未満」は1割を超え、学校調査と比べて全体に貯金額が少なくなっています。

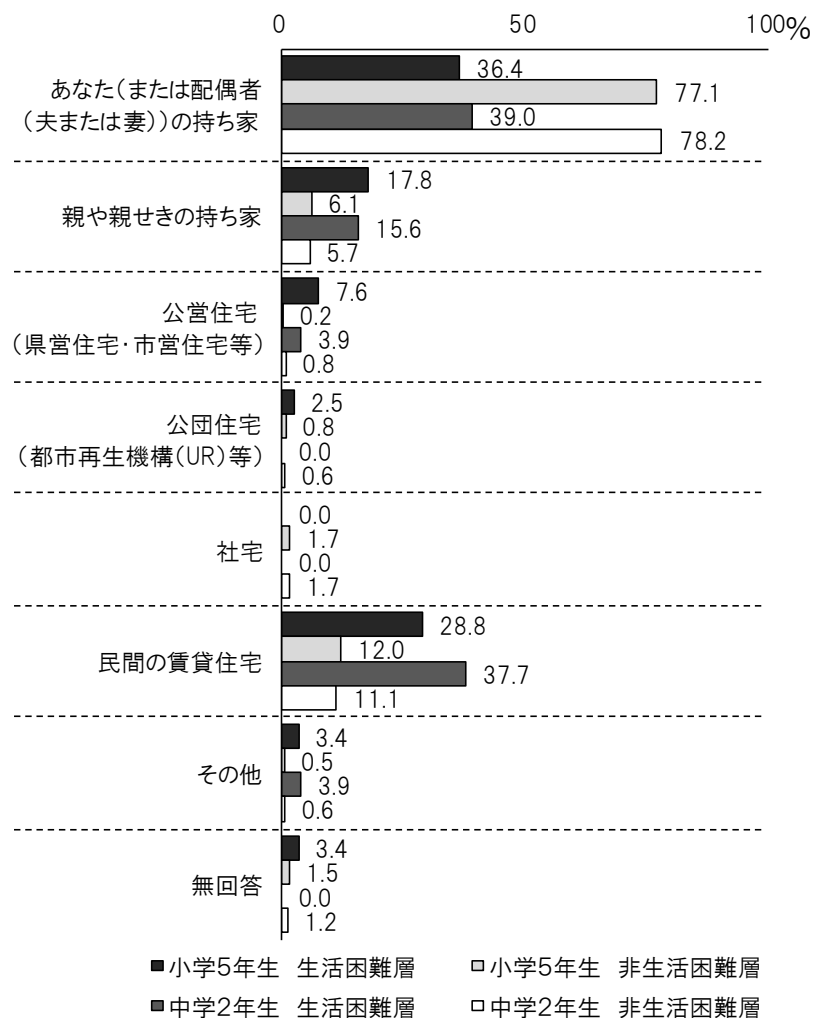


Ⅲ 保護者票

問 31 現在の住居形態について教えてください。(〇はひとつだけ)

学校調査

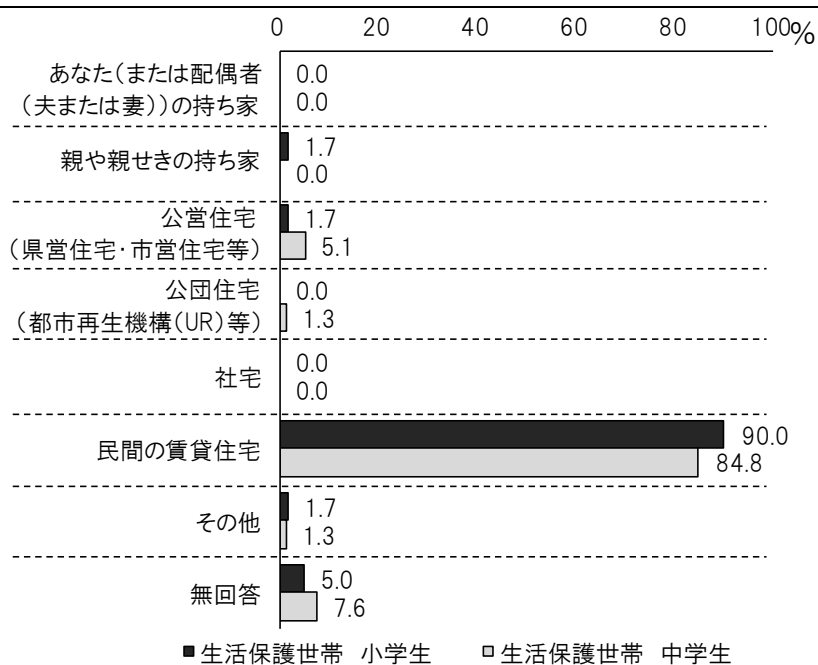
現在の住居形態については、すべての対象で「あなた（または配偶者（夫または妻））の持ち家」が最も多くなっていますが、生活困難層では小学5年生、中学2年生のいずれも非生活困難層を 40 ポイント前後下回っています。また、生活困難層では小学5年生、中学2年生のいずれも「民間の賃貸住宅」で非生活困難層を 10 ポイント以上上回り、特に中学2年生では、非生活困難層と 26.6 ポイントの開きがある状況です。加えて、「親や親せきの持ち家」についても、生活困難層では小学5年生、中学2年生のいずれも非生活困難層を 10 ポイント前後上回っています。このことから、生活困難層では、自身または配偶者による持ち家の割合が低く、民間の賃貸住宅等の費用負担が比較的小さい住宅への居住割合が高いことがわかります。



問 31 現在の住居形態について教えてください。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「民間の賃貸住宅」が8割台から9割と最も多く、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

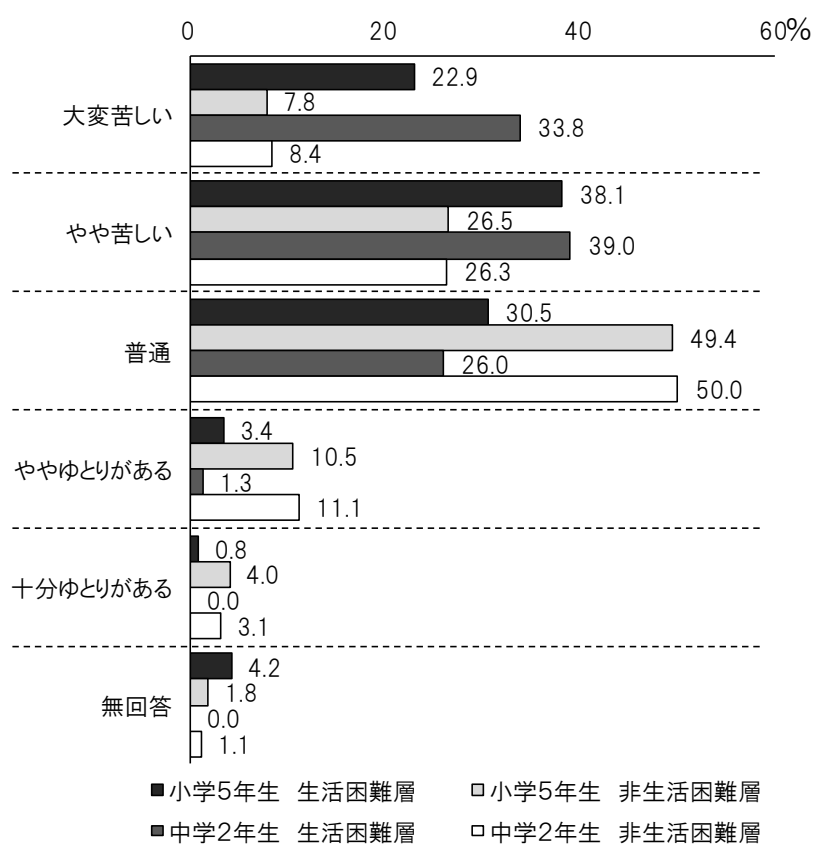


Ⅲ 保護者票

問 32 あなたのご家庭の現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

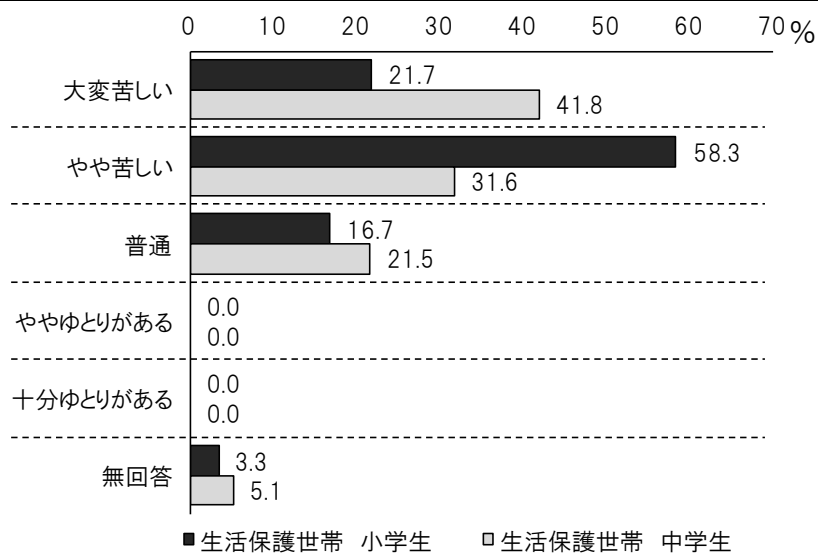
家庭の現在の暮らしの状況を総合的にみてどう感じるかについては、小学5年生、中学2年生のいずれも非生活困難層では「普通」が最も多い一方、生活困難層では「大変苦しい」と「やや苦しい」がいずれも2割から4割弱を占めており、特に「大変苦しい」では学年が上がると非生活困難層との差が拡大している状況です。「大変苦しい」と「やや苦しい」の合計は、生活困難層では小学5年生で61.0%、中学2年生で72.8%となっています。このことから、生活困難層では生活が経済的に苦しいと感じている家庭が多く、学年が上がるとその傾向が強まっていることがわかります。



問 32 あなたのご家庭の現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「やや苦しい」が58.3%、中学生では「大変苦しい」が41.8%と、最も多くなっています。このことから、学年が上がると、生活が経済的に苦しいと感じる傾向が強まっていることがわかります。

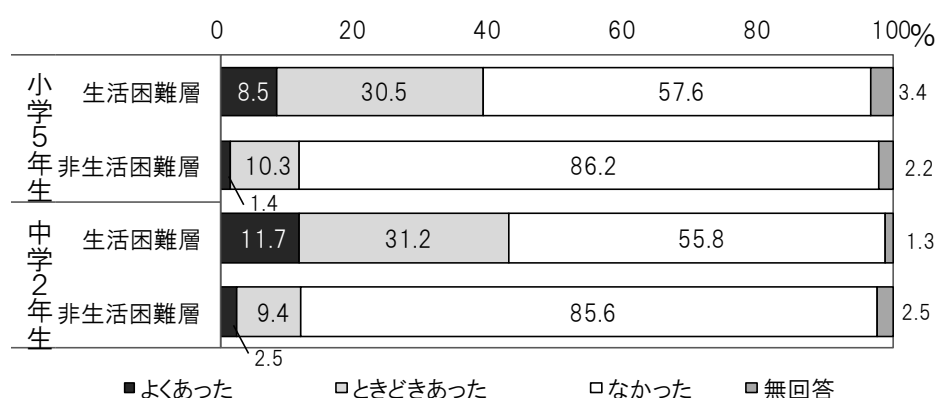


Ⅲ 保護者票

問 33 あなたのご家庭では、過去1年間の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料または衣類が買えないことがありましたか。(〇はひとつだけ)

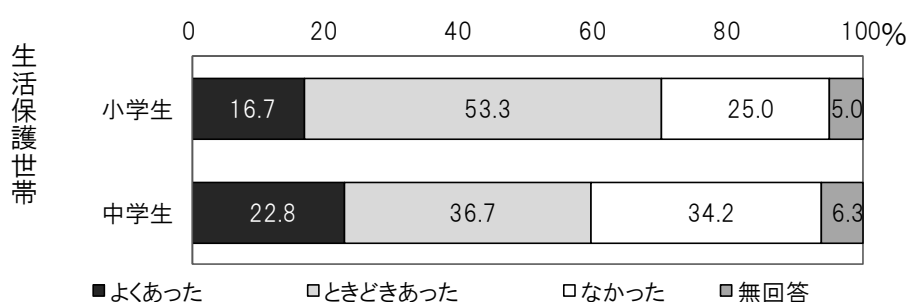
学校調査

過去1年間の間に、お金が足りなくて家族が必要とする食料または衣類が買えないことがあったかについては、すべての対象で「なかった」が最も多くなっていますが、小学5年生、中学2年生のいずれも、非生活困難層では30ポイント弱下回って5割台となっています。また、小学5年生、中学2年生のいずれも、「ときどきあった」が、生活困難層では3割台となり、非生活困難層を20ポイント程度上回っています。このことから、経済的理由で家族が必要とする食料または衣類が買えない経験については、頻度としては高くないものの、生活困難層で見られます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「ときどきあった」が3割台から5割台と最も多くなっています。また、学年が上がると「よくあった」と「なかった」がいずれも多くなり、両極端の傾向が強まっています。

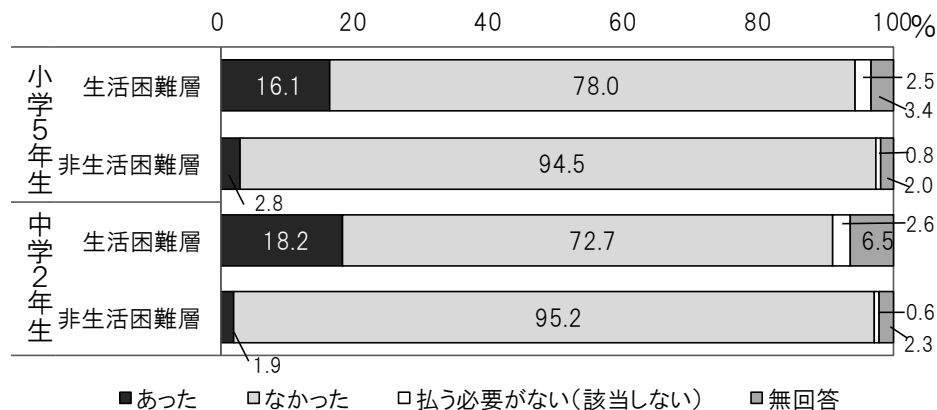


問 34 あなたのご家庭では、過去1年間に、経済的な理由のために以下のA～Hの費用を支払えないことがありましたか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

A. 電話料金

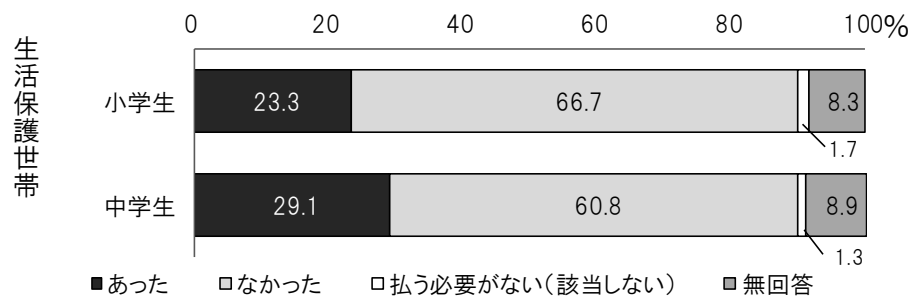
学校調査

過去1年間に、経済的な理由のために電話料金を支払えないことがあったかについては、小学5年生、中学2年生のいずれも、生活困難層では「あった」が1割台となっており、生活困難層では電話料金が経済的に支払えない家庭があることがわかります。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「なかった」が6割台と最も多く、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。



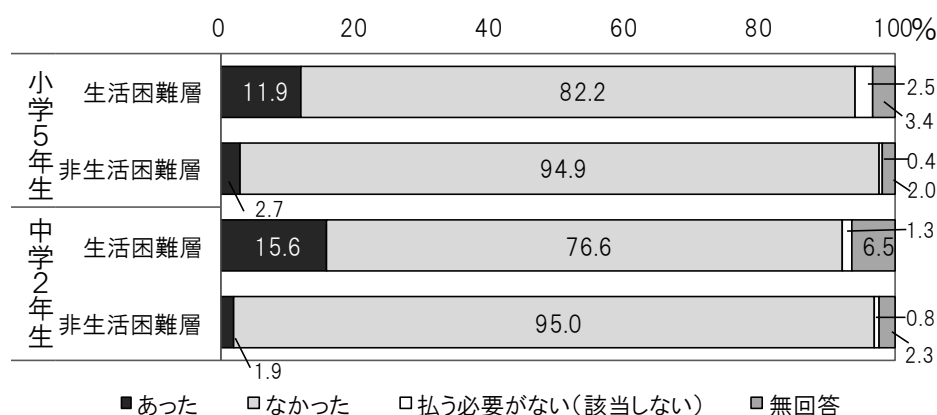
Ⅲ 保護者票

問 34 あなたのご家庭では、過去1年間に、経済的な理由のために以下のA～Hの費用を支払えないことがありましたか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

B. 電気料金

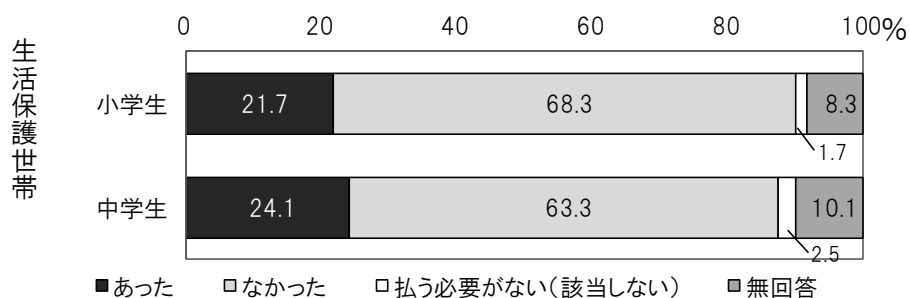
学校調査

過去1年間に、経済的な理由のために電気料金を支払えないことがあったかについては、小学5年生、中学2年生のいずれも、生活困難層では「あった」が1割台となっており、生活困難層では電気料金が経済的に支払えない家庭があることがわかります。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「なかった」が6割台と最も多く、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

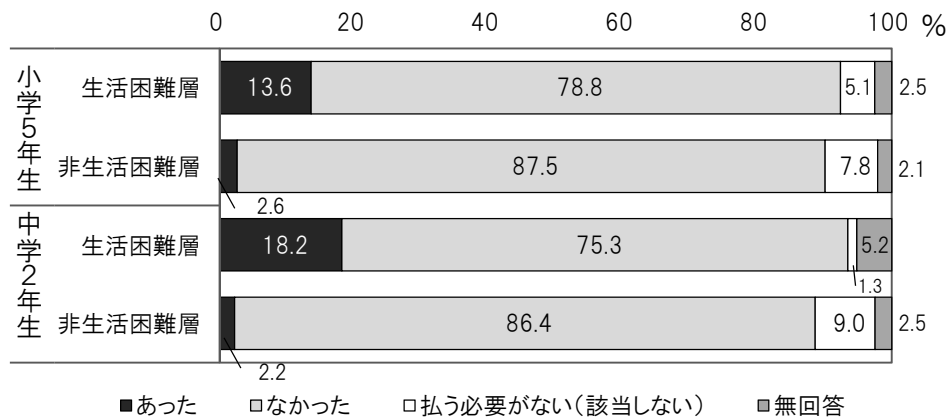


問 34 あなたのご家庭では、過去1年間に、経済的な理由のために以下のA～Hの費用を支払えないことがありましたか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

C. ガス料金

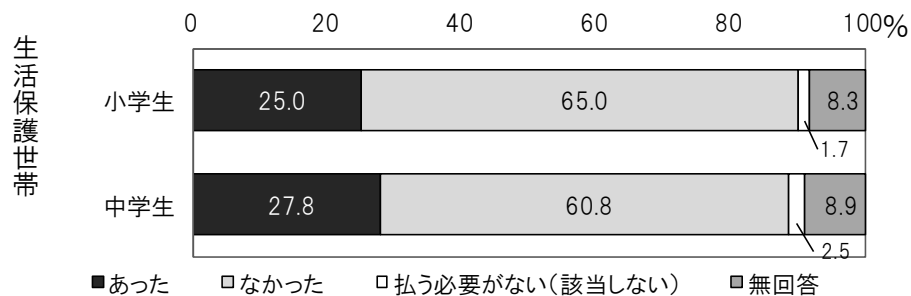
学校調査

過去1年間に、経済的な理由のためにガス料金を支払えないことがあったかについては、小学5年生、中学2年生のいずれも、生活困難層では「あった」が1割台となっており、生活困難層ではガス料金が経済的に支払えない家庭があることがわかります。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「なかった」が6割台と最も多く、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。



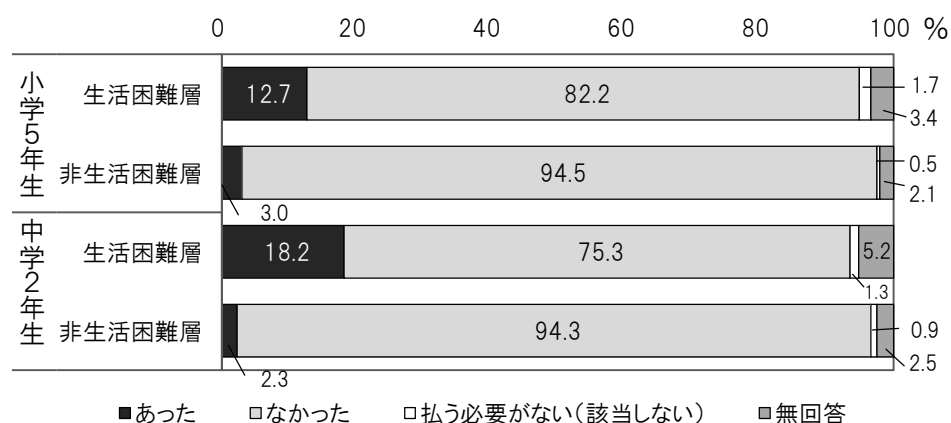
Ⅲ 保護者票

問 34 あなたのご家庭では、過去1年間に、経済的な理由のために以下のA～Hの費用を支払えないことがありましたか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

D. 水道料金

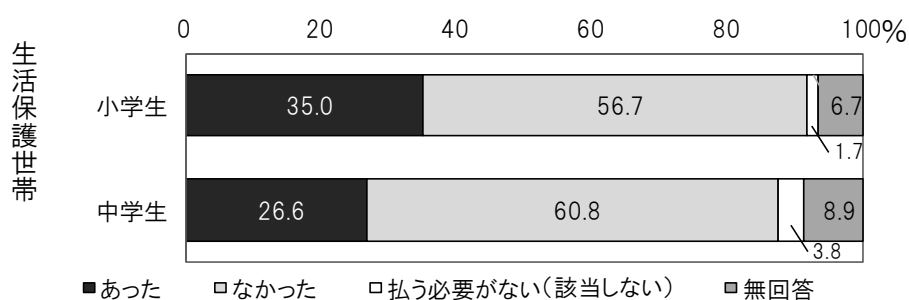
学校調査

過去1年間に、経済的な理由のために水道料金を支払えないことがあったかについては、小学5年生、中学2年生のいずれも、生活困難層では「あった」が1割台となっており、生活困難層では水道料金が経済的に支払えない家庭があることがわかります。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「なかった」が5割台から6割台と最も多くなっています。また、小学生では「あった」が35.0%と、中学生の26.6%に比べて8.4ポイント高くなっています。

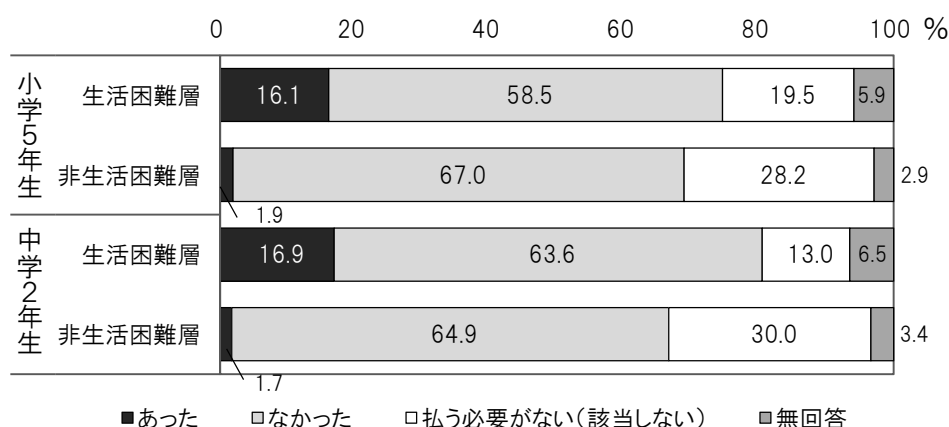


問 34 あなたのご家庭では、過去1年間に、経済的な理由のために以下のA～Hの費用を支払えないことがありましたか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

E. 家賃

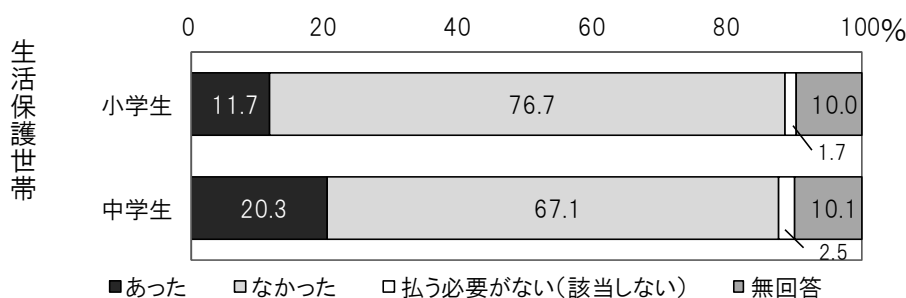
学校調査

過去1年間に、経済的な理由のために家賃を支払えないことがあったかについては、小学5年生、中学2年生のいずれも、生活困難層では「あった」が1割台となっており、生活困難層では家賃が経済的に支払えない家庭があることがわかります。また、小学5年生、中学2年生での差がほとんどなく、さらに、電気、ガス、水道の各料金と比べると、小学5年生では支払えない家庭の割合がやや高い項目となっています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「なかった」が6割台から7割台と最も多いものの、学年が上がると「あった」が20.3%と、小学生の11.7%に比べて8.6ポイント高くなっています。



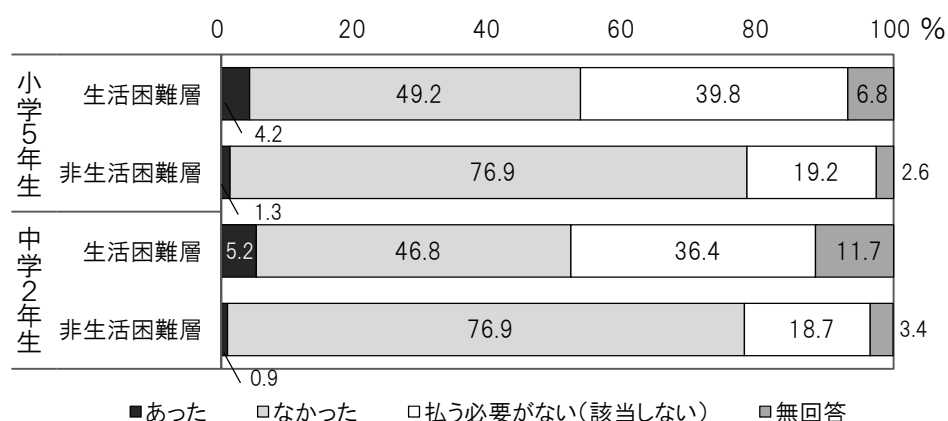
Ⅲ 保護者票

問 34 あなたのご家庭では、過去1年間に、経済的な理由のために以下のA～Hの費用を支払えないことがありましたか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

F. 住宅ローン

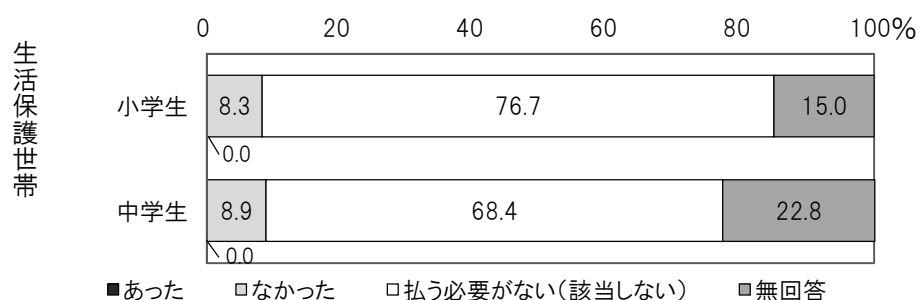
学校調査

過去1年間に、経済的な理由のために住宅ローンを支払えないことがあったかについては、小学5年生、中学2年生のいずれも、生活困難層では「あった」が非生活困難層よりもわずかに多くなっています。また、小学5年生、中学2年生のいずれも、生活困難層では「払う必要がない(該当しない)」も3割台となっており、住宅購入の経験がない家庭の割合が非生活困難層よりも高いことがうかがえます。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「払う必要がない(該当しない)」が6割台から7割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。

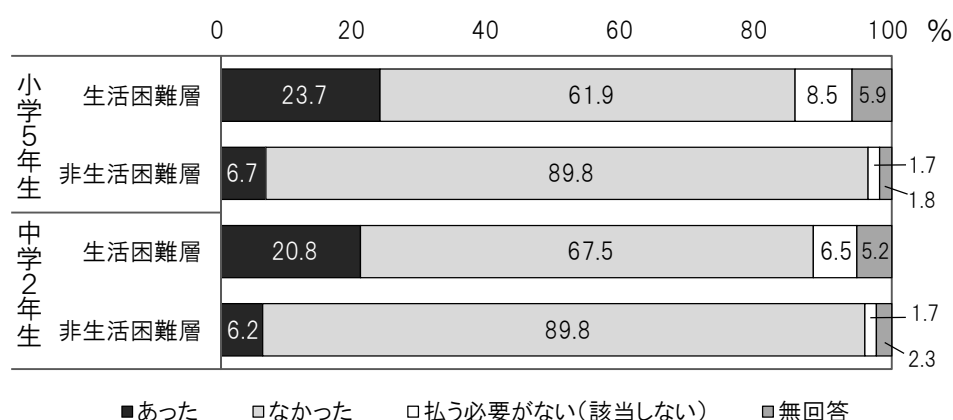


問 34 あなたのご家庭では、過去1年間に、経済的な理由のために以下のA～Hの費用を支払えないことがありましたか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

G. 税金・国民健康保険料

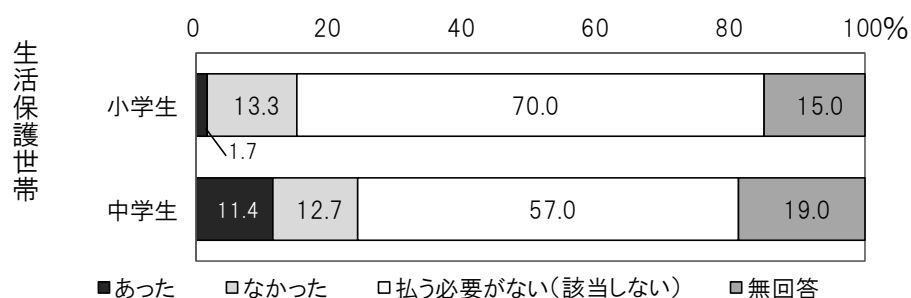
学校調査

過去1年間に、経済的な理由のために税金・国民健康保険料を支払えないことがあったかについては、小学5年生、中学2年生のいずれも、生活困難層では「あった」が非生活困難層よりも多く、2割を超えています。ほかの各料金と比べて、非生活困難層の「あった」の割合が高く、支払えなかった経験が高い項目となっています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「払う必要がない(該当しない)」が5割台から7割と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。また、中学生では「あった」が11.4%と、小学生の1.7%に比べて9.7ポイント高くなっています。



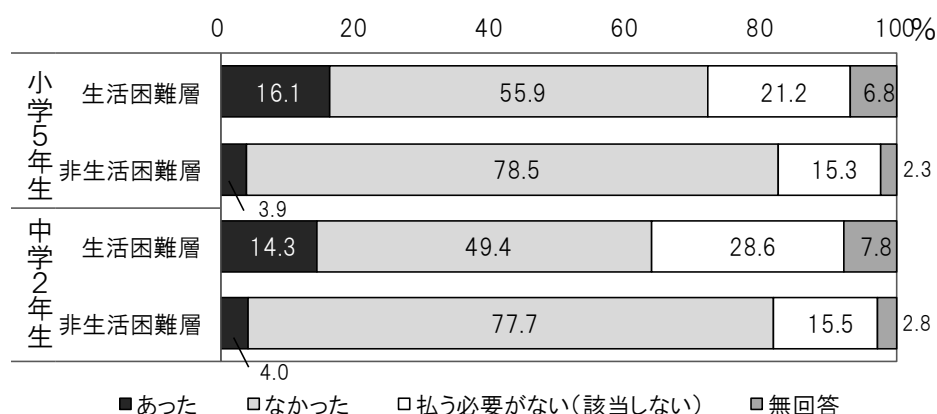
Ⅲ 保護者票

問 34 あなたのご家庭では、過去1年間に、経済的な理由のために以下のA～Hの費用を支払えないことがありましたか。(それぞれについて、○はひとつだけ)

H. 借入金(クレジットカード含む)

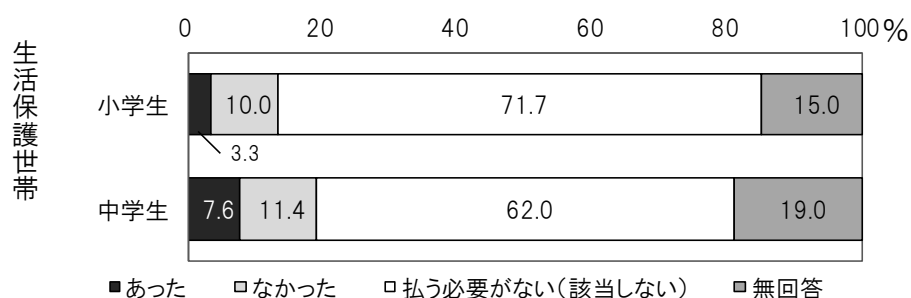
学校調査

過去1年間に、経済的な理由のために借入金(クレジットカード含む)を支払えないことがあったかについては、小学5年生、中学2年生のいずれも、生活困難層では「あった」が非生活困難層よりも多く、1割台となっています。また、生活困難層では「払う必要がない(該当しない)」が小学5年生、中学2年生のいずれも2割を超えており、借入金がない割合が非生活困難層と比べて高いことがわかります。



生活保護調査

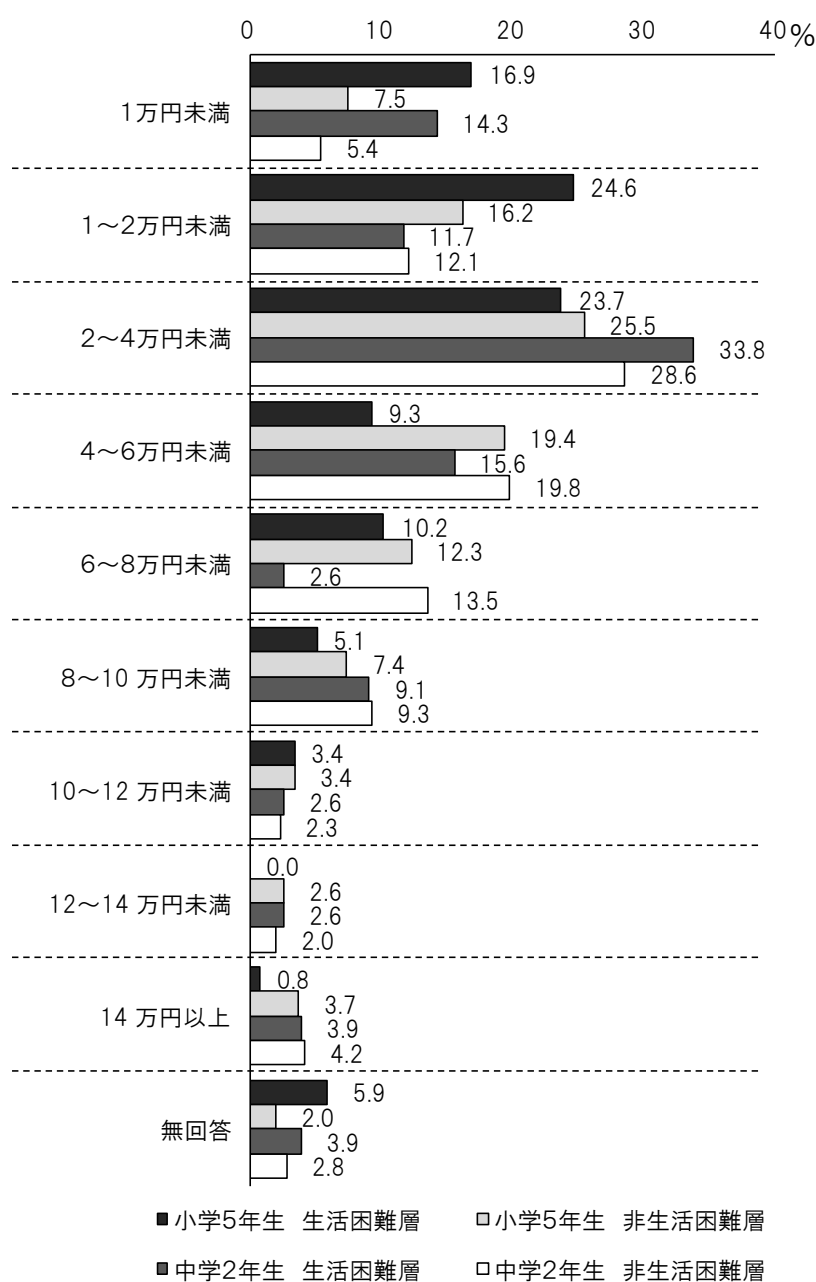
生活保護世帯について見ると、いずれも「払う必要がない(該当しない)」が6割台から7割台と最も多いものの、学年が上がると低くなっています。



問 35 あなたのご家庭のすべてのお子さんの保育料、学校教育、学習塾、習い事等にかかる毎月のおおよその金額を教えてください。(〇はひとつだけ)

学校調査

家庭のすべての子どもの保育料、学校教育、学習塾、習い事等にかかる毎月の金額については、小学5年生の生活困難層では「1～2万円未満」が24.6%、小学5年生の非生活困難層と、中学2年生の生活困難層・非生活困難層では「2～4万円未満」が2割半ばから3割半ばと最も多くなっています。また、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「1万円未満」が1割を超えています。このことから、生活困難層では、非生活困難層と比べてお子さんの保育料、学校教育、学習塾、習い事等にかかる費用の合計は低い金額に分布しており、「1万円未満」も1割以上いるものの、お子さんの学年が上がると、かかる金額は増加することがうかがえます。

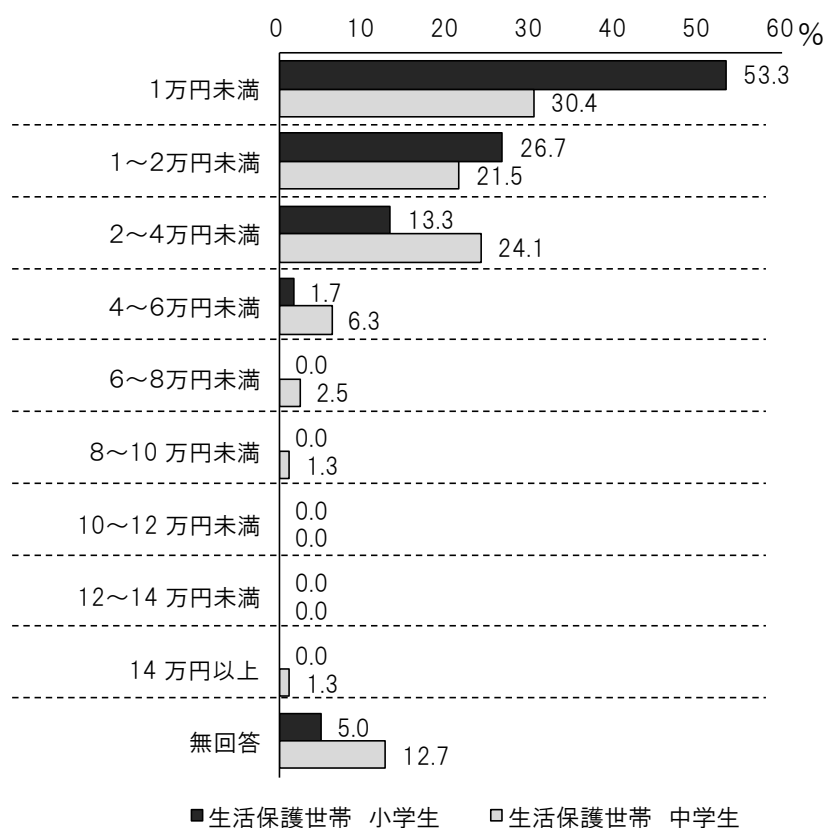


Ⅲ 保護者票

問 35 あなたのご家庭のすべてのお子さんの保育料、学校教育、学習塾、習い事等にかかる毎月のおおよその金額を教えてください。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

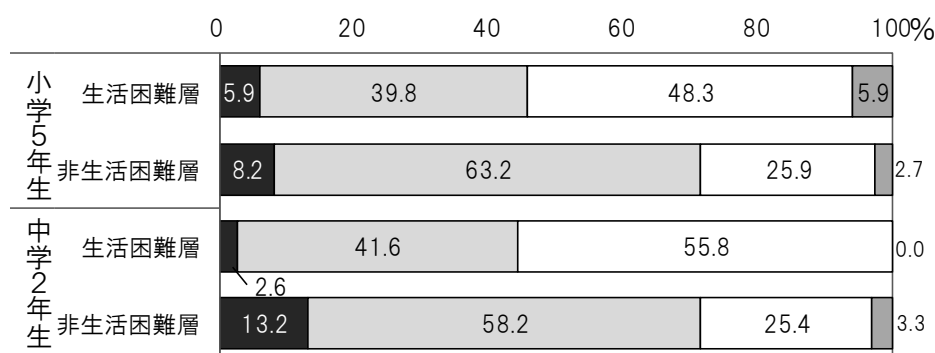
生活保護世帯について見ると、いずれも「1万円未満」が3割台から5割台と最も多く、次いで小学生では「1～2万円未満」が26.7%、中学生では「2～4万円未満」が24.1%となっています。このことから、学年が上がると、子どもの保育料、学校教育、学習塾、習い事等にかかる費用の合計金額は増加することがうかがえます。



問 36 今後、教育を受けさせるための、お金の準備はできていますか。(もっとも近いものひとつに○)

学校調査

今後、教育を受けさせるためのお金の準備はできているかについては、小学5年生・中学2年生のいずれも、生活困難層で「全く準備できていない」が4割後半から5割半ば、非生活困難層で「準備を始めている」が5割後半から6割前半と最も多くなっています。また、「全く準備できていない」が、小学5年生では生活困難層で48.3%と、非生活困難層に比べ22.4ポイント高く、中学2年生では生活困難層で55.8%と、非生活困難層に比べ30.4ポイント高くなっています。

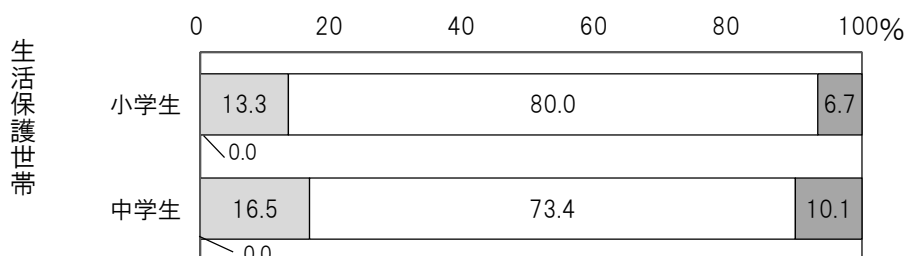


■ 十分準備できている □ 準備を始めている □ 全く準備できていない ■ 無回答

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「全く準備できていない」が7割台から8割と最も多く、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「全く準備できていない」が顕著に多くなっています。また、「十分準備できている」と回答した人はおらず、金銭的な準備ができていない状況がうかがえます。



■ 十分準備できている □ 準備を始めている □ 全く準備できていない ■ 無回答

7. ご両親のこれまでの経験について

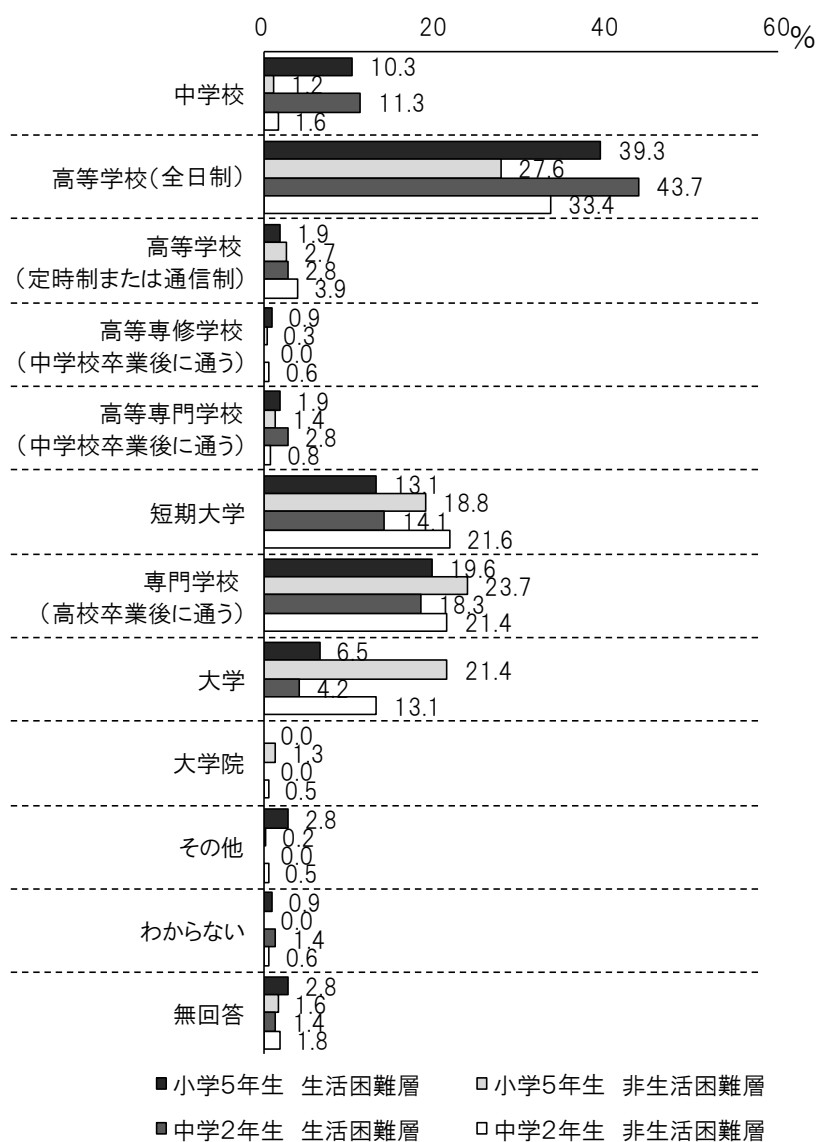
【お子さんのお母さんについて】

現在、お子さんとお母さんが生計を一緒にしていない場合は、問 40 に進んでください

問 37 お子さんのお母さんが、最後に通った学校はどちらになりますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

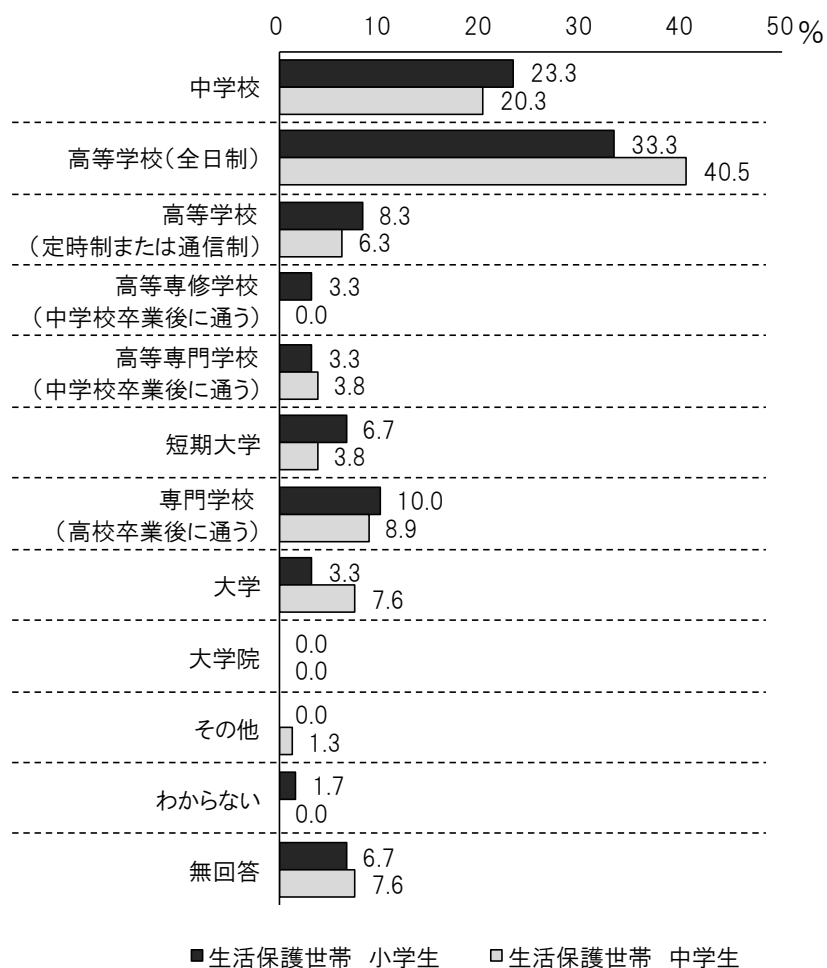
子どもの母親が最後に通った学校については、すべての対象で「高等学校（全日制）」が最も多くなっていますが、生活困難層に着目すると、小学5年生では39.3%、中学2年生では43.7%と、いずれも非生活困難層を10ポイント以上上回っています。また、小学5年生、中学2年生のいずれも、生活困難層では「中学」も1割程度見られます。このことから、生活困難層の母親では「短期大学」「専門学校（高校卒業後に通う）」「大学」まで進んでいない割合が高く、「中学」や「高等学校（全日制）」が最終学歴の割合が非生活困難層よりも高いことがわかります。



問 37 お子さんのお母さんが、最後に通った学校はどちらになりますか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「高等学校（全日制）」が3割台から4割台と最も多く、学年が上がると多くなっています。次いで、「中学校」が2割台となっているほか、中学生では「大学」が小学生に比べてやや多くなっています。

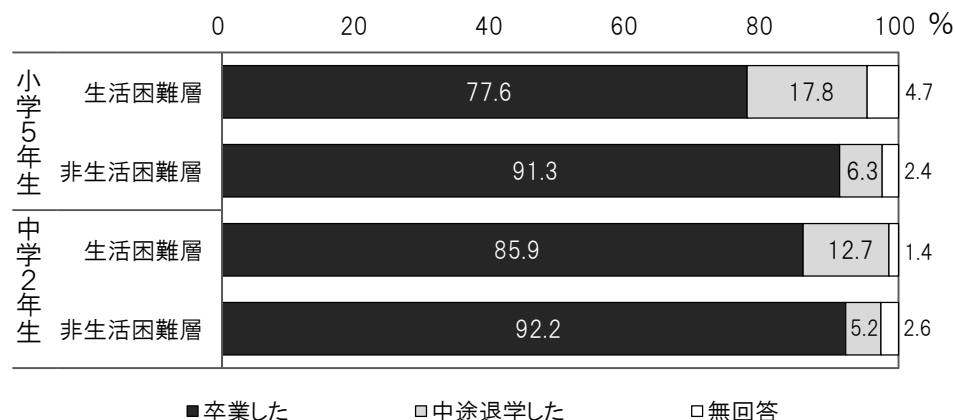


Ⅲ 保護者票

問 38 お子さんのお母さんは、問 37 で回答した学校を卒業されましたか。(〇はひとつだけ)

学校調査

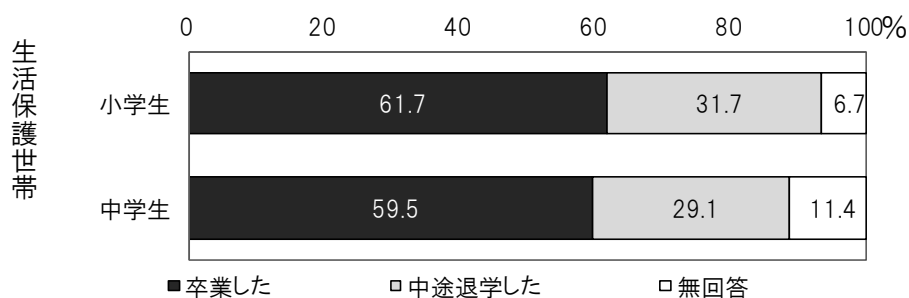
子どもの母親は問 37 で回答した学校を卒業したかについては、すべての対象で「卒業した」が最も多くなっていますが、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「中途退学した」が1割を超え、非生活困難層を上回っています。このことから、生活困難層の母親では、中途退学の割合が高くなっています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「卒業した」が5割台から6割台と、「中途退学した」を上回っており、学年にかかわらず、同様の傾向となっています。

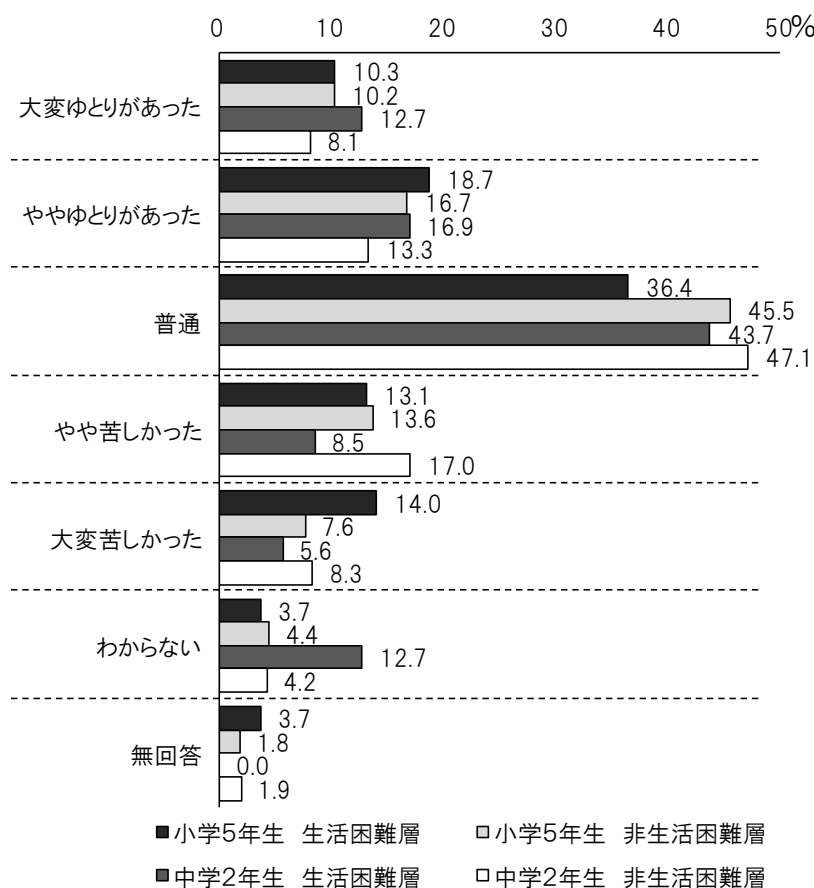
学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「中退した」が顕著に多くなっています。



問 39 お子さんのお母さんが 中学3年(15 歳)頃のご家庭の経済状況について、教えてください。(もっとも近いものひとつに○)

学校調査

子どもの母親が中学3年(15 歳)頃の家庭の経済状況については、すべての対象で「普通」が最も多くなっています。また、小学5年生では生活困難層で「大変苦しかった」が14.0%と、非生活困難層に比べ6.4 ポイント高くなっており、小学5年生の生活困難層では、母親が15歳の頃に家庭の経済状況が苦しい家庭の割合がやや高かった状況が見られます。



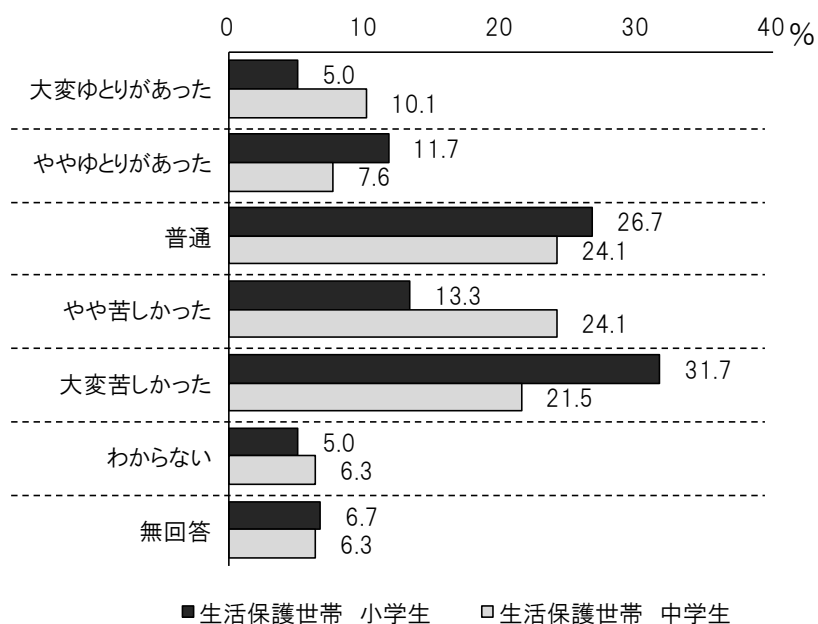
Ⅲ 保護者票

問 39 お子さんのお母さんが 中学3年(15 歳)頃のご家庭の経済状況について、教えてください。(もっとも近いものひとつに○)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「大変苦しかった」が31.7%、中学生では「普通」と「やや苦しかった」がともに24.1%と、最も多くなっています。

学校調査と比べると、小学生、中学生のいずれも、「やや苦しかった」と「大変苦しかった」がともに顕著に多く、経済状況が苦しい傾向にあったことがわかります。



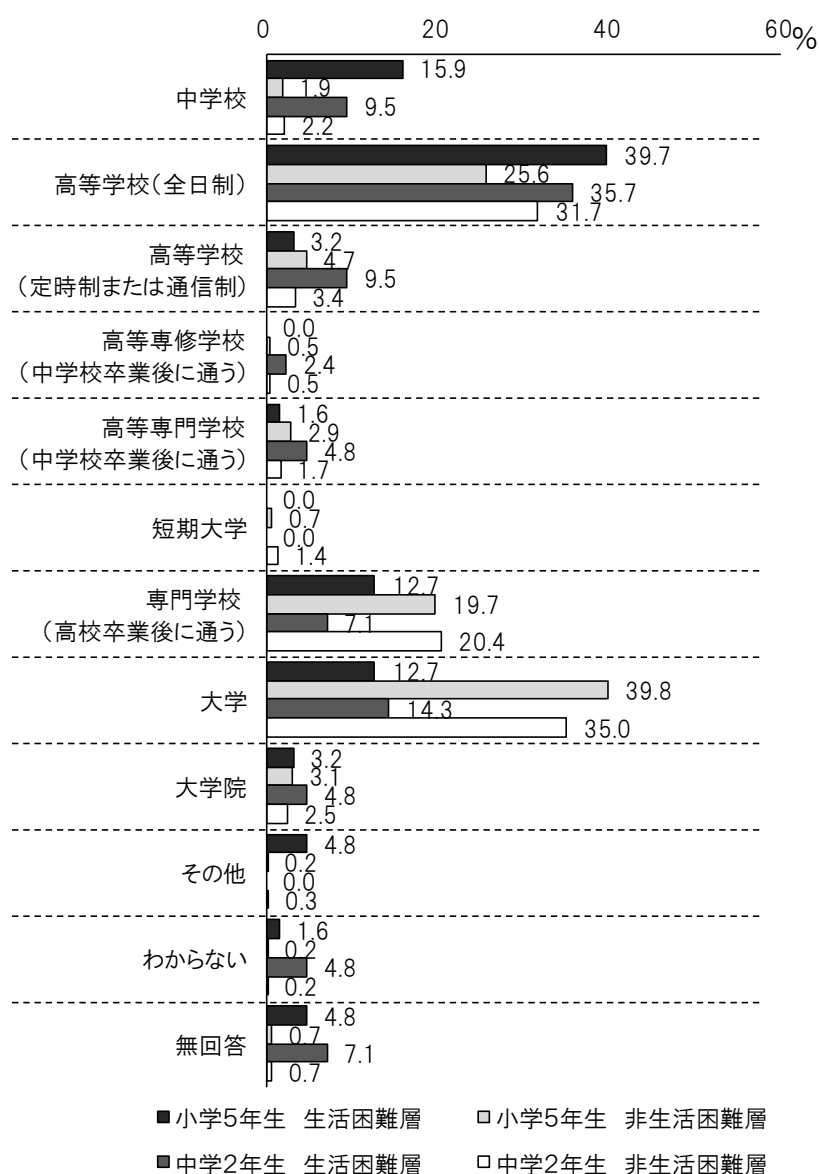
【お子さんのお父さんについて】

現在お子さんとお父さんが生計を一緒にしていない場合、問 40～問 42 は回答する必要はありません

問 40 お子さんのお父さんが、最後に通った学校はどちらになりますか。(〇はひとつだけ)

学校調査

子どもの父親が最後に通った学校については、小学5年生、中学2年生のいずれも、生活困難層では「高等学校(全日制)」が3割半ばから後半で最も多い一方、非生活困難層では「大学」が3割半ばから後半と最も多くなっています。また、小学5年生、中学2年生のいずれも、生活困難層では「中学」も1割前後となっています。このことから、非生活困難層の父親では「大学」が3割台で多数派であるものの、生活困難層の父親では「中学」や「高等学校(全日制)」が最終学歴の割合が非生活困難層よりも高いことがわかります。

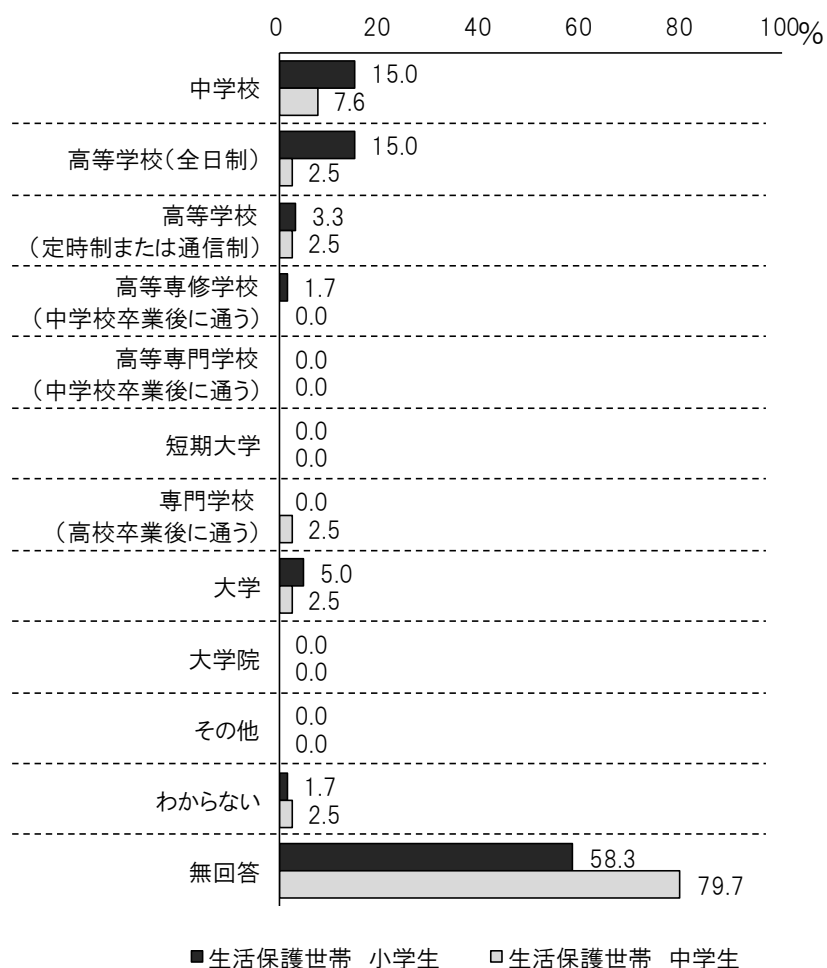


Ⅲ 保護者票

問 40 お子さんのお父さんが、最後に通った学校はどちらになりますか。(〇はひとつだけ)

生活保護調査

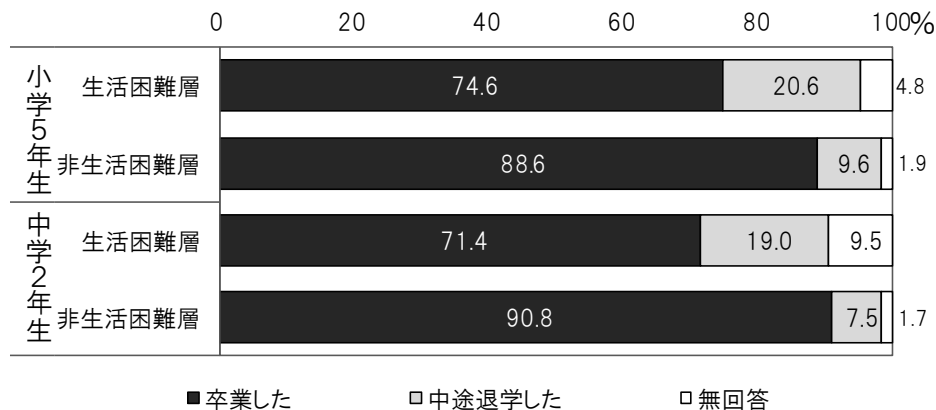
生活保護世帯について見ると、小学生では「中学校」と「高等学校(全日制)」がともに 15.0%、中学生では「中学校」が 7.6%見られました。



問 41 お子さんのお父さんは、問 40 で回答した学校を卒業されましたか。(〇はひとつだけ)

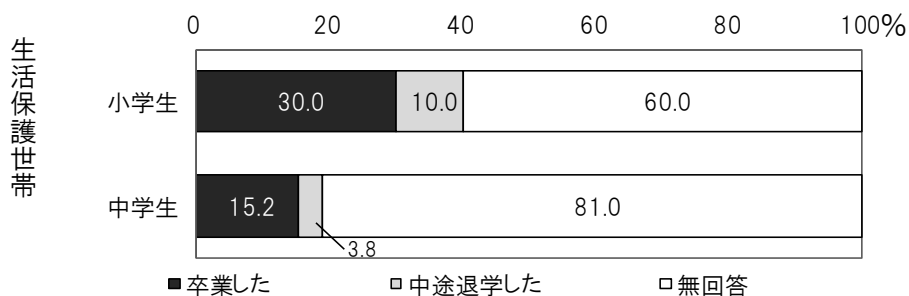
学校調査

子どもの父親は問 40 で回答した学校を卒業したかについては、すべての対象で「卒業した」が最も多くなっていますが、生活困難層に着目すると、小学5年生、中学2年生のいずれも「中途退学した」が2割前後となり、非生活困難層を上回っています。このことから、生活困難層の父親では、中途退学の割合が高くなっています。



生活保護調査

生活保護世帯について見ると、いずれも「卒業した」が1割台から3割と、「中途退学した」を上回っているものの、学年が上がると低くなっています。また、小学生では「中途退学した」が10.0%となっています。

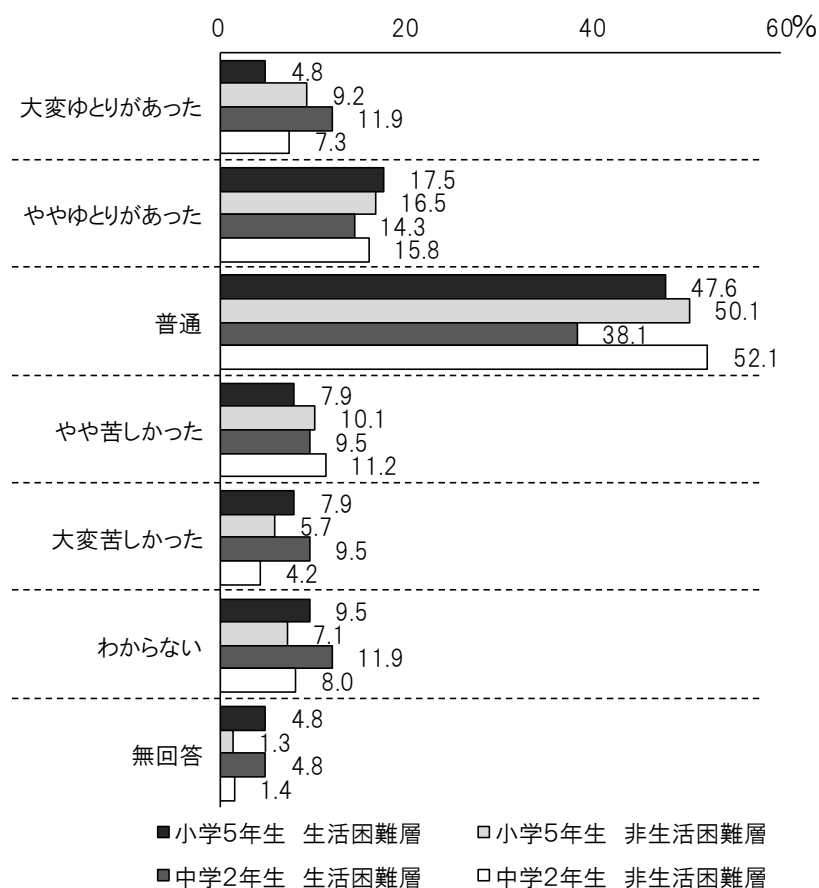


Ⅲ 保護者票

問 42 お子さんのお父さんが中学3年(15 歳)頃のご家庭の経済状況について、教えてください。(もっとも近いものひとつに○)

学校調査

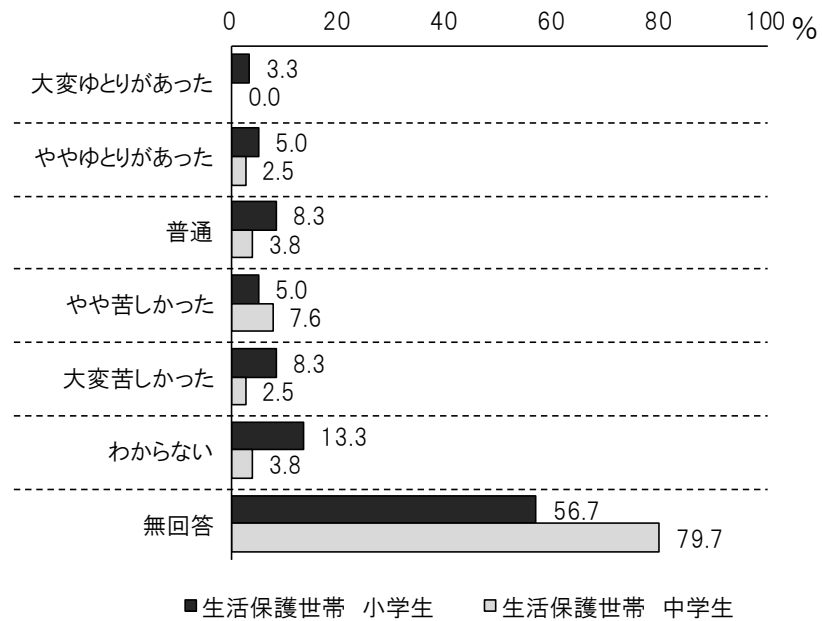
子どもの父親が中学3年(15 歳)頃の家庭の経済状況については、すべての対象で「普通」が最も多くなっています。また、中学2年生では生活困難層で「大変苦しかった」が 9.5%と、非生活困難層に比べやや高いものの、父親が 15 歳の頃の家庭の経済状況については、生活困難層・非生活困難層間で大きな差はないことがわかります。



問 42 お子さんのお父さんが中学3年(15 歳)頃のご家庭の経済状況について、教えてください。(もっとも近いものひとつに○)

生活保護調査

生活保護世帯について見ると、小学生では「わからない」が 13.3%、中学生では「やや苦しかった」が 7.6%と、最も多くなっています。



Ⅳ 課題と今後の方向性

1. 生活困難層の状況

本調査においては「生活困難層」を所得のみで定義付けしていますが、生活水準を測る剥奪に関する状況を見ても、生活困難層においては物質的な所有状況、教育、経験、医療、支払い困難などの多様な面で、困難な状況にあることがうかがえます。

また、生活困難層の保護者の特徴を見ると、父母共に学歴が低い傾向が見られるほか、現在の職業についても正社員が少なくなっています。また、子どもとの関わりについては、生活困難層では、親子の会話の頻度が低い傾向が見られるほか、学年が上がると学校行事への参加頻度も低くなっています。

さらに、子どもの非認知能力³については、特に中学2年生の生活困難層で、非生活困難層と比べて自己肯定感が低い傾向が見られます。

このように、生活困難層においては、家庭、保護者、子ども、親子の関わりの中のいずれの状況についても、非生活困難層と比べて、困難な状況にある割合が高い傾向が見られます。さらに、複数の要因が複合的に絡まることで、より困難な状況に陥ることも推察されます。これらの状況は外部から見えにくいものも多くあることから、本調査を通して、貧困の見えづらさが明らかとなりました。

³ 非認知能力：数値化できる能力である「認知能力」に対比される言葉であり、数値で測ることのできない内面的な能力を指す。目標や意欲、興味・関心をもち、粘り強く、仲間と協調して取り組む力や姿勢を言い、文科省では「学びに向かう力や人間性など」として、2020年より開始される新たな学習指導要領のなかに組み込んでいる。

■調査結果より

剥奪に関する状況

物質的剥奪状況については、子どもの回答で、本・マンガや雑誌、携帯電話・スマートフォン、服などの所有割合は、生活困難層と非生活困難層では大きな差が出ていない状況です。（子ども問2①②⑤⑨：8-9,12,16 ページ）一方、中学2年生では、自分の使う部屋、パソコン、ほとんどの友達が持っているおもちゃやゲーム機、くつ、おこづかいについて、生活困難層と非生活困難層を比べると、所有割合に差が見られます。（子ども問2③④⑧⑩⑪：10-11,15,17-18 ページ）

教育については、学習塾に行く時間について、生活困難層では「まったくしない」が7割を超えて非生活困難層と比べて高く、さらに、学年が上がるとその差が拡大する傾向が見られます。（子ども問4⑧：42 ページ）また、勉強机について、生活困難層では非生活困難層をやや下回っており、生活困難層で非生活困難層と比べて所有割合の差が見られます。（子ども問2⑥：13 ページ）

経験の剥奪状況については、買い物やレジャー施設に行く・1年に1回くらい家族旅行に行くといった経験の剥奪状況については、生活困難層において「経済的にできない」割合が高く、特に家族旅行では生活困難層で3割を超えています。（保護者問24.IJ：260-261 ページ）

医療の剥奪状況については、必要性を感じても医療機関に連れて行かなかった理由として「保険証を持っておらず、医療費の支払いができなかったため」「保険証は持っていたが、医療機関の窓口での支払いができないと思ったため」が、中学2年生の生活困難層において、いずれも5.0%とごくわずかですが存在しています。（保護者問15-1：216 ページ）

支払い困難経験

お金が足りずに家族が必要とする食料や衣料を買えなかった経験は、生活困難層では「よくあった」が約1割、「ときどきあった」が約3割と高くなっています。（保護者問33：278ページ）

また、経済的な理由で支払えなかったことが「あった」ものは、生活困難層では電話料金、電気料金、ガス料金、水道料金、家賃、借入金がいずれも1割台、税金・国民健康保険料が約2割となっており、非生活困難層と比べて高くなっています。（保護者問34A,B,C,D,E,G,H：279-283, 285-286ページ）

親子の交流

保護者と子どもの会話の頻度が「よくする」は、生活困難層では非生活困難層と比べて10ポイント前後低くなっています。（保護者問21：241ページ）

また、子どもの学校行事への保護者の参加は、中学2年生の生活困難層では「参加している」が2割弱と特に低く、「時間がないためあまり参加していない」も24.7%と高くなっています。（保護者問23：250ページ）

子どもの非認知能力（自己肯定感）

中学2年生の生活困難層では、＜自分は家族に愛されていると思う＞と＜自分は人のために役立っていると思う＞において「思わない」の割合が非生活困難層と比べると高く、特に＜自分は人のために役立っていると思う＞では「思わない」が35.1%となっています。（子ども問26④⑤：134-135ページ）

父母の特徴

生活困難層では、父母の年齢が若い割合がやや高いほか、父母の国籍が「日本以外」の割合もやや高くなっています。（保護者問8, 9, 12A,B：185,187,193-194ページ）

また、父母共に最後に通った学校は「中学校」「高等学校（全日制）」の割合が高いほか、現在の職業では、父母共に「正社員・正規職員」が低くなっています。（保護者問13, 14, 37, 40：195, 205, 291, 295ページ）

困難を抱える家庭への支援の状況

現状としては、各団体の活動のなかで貧困と思われる家庭が見られた場合に、必要な支援につなげていますが、資源量は不足している状況があります。（資源量調査：341-342ページ）

課題

- 生活困難層は、物質、教育、経験、医療など様々な側面で剥奪状況にあります
- 生活困難層の保護者については、学歴の低さや正社員でないことも一因と考えられる貧困のサイクルの存在が推察されます
- 生活困難層では、親子での交流機会が少ない状況です
- 生活困難層の子どもの自己肯定感については、特に学年が上がると非生活困難層と比べて低い傾向が見られます
- 川口市では生活困難層を支える資源量が不足しており、十分な支援が行き届いていない状況が見られます

Ⅳ 課題と今後の方向性

必要となる取組

調査の結果、川口市においても生活困難な子育て世帯がいることが明らかになりました。特に、生活困難な家庭では、経済的な側面のみならず、様々な側面で剥奪状況にあることが推測されます。さらに、親子での交流機会の不足や、子どもの自己肯定感の低さ等も見られています。そのため、今後総合的な子どもの貧困対策を推進し、貧困のサイクルを断ち切るための取組が必要となっています。

具体的には、貧困対策に特化した検討を行う会議体の設置や、市民等に対する啓発などにより、貧困対策への理解促進と検討の仕組みづくりを行うことが求められます。また、貧困家庭が支援を必要とする際に見つけることができ、適切な支援につなげられるためのネットワークづくりも進めていくことが必要です。

他自治体事例

- 子どもの貧困対策ネットワーク会議の実施
子どもの貧困対策に正面から向き合おうとする民間企業・NPO・町会などの地域組織や団体、および行政が一体となったネットワーク会議を立ち上げている事例。貧困の連鎖を断ち切り、すべての子どもたちが夢に向かってチャレンジできる社会の構築を目指して、子どもの貧困対策推進に向け活動している。
- 多世代型のコミュニティの整備
子どもの貧困対策について、子ども食堂をはじめとする地域での居場所づくりを行っている事例。地域の中で、子どもが食事をとることのできる機能を整備した場所を定期的・不定期的に開催している。また、地域全体で子どもを見守ることができるよう、年代を問わず、地域に開かれた様々な人が集うことができる場所としての機能を持たせることも考えられる。
- 子どもの貧困対策の啓発
子どもの貧困対策について、講演会や講座、勉強会などを行っている事例。市民や地域、団体、民間企業など、幅広く啓発を行い、子どもの貧困対策事業を支える人材づくりを展開している。

2. 個別の支援分野に関連した状況

(1) 教育の支援

① 学校教育について

生活困難層では、子どもの学校の授業の理解度は低く、また学年が上がるほどわからない割合は増えています。

また、子ども自身が学校に行きたくないと思ったことやいじめられた経験が、非生活困難層と比べて多くなっています。さらに、中学2年生の生活困難層では、学校の先生との関わりも薄い傾向が見られます。

■調査結果より

学校の授業の理解度

学校の授業が「あまりわからない」「わからないことが多い」「ほとんどわからない」を合わせると、生活困難層では小学5年生で28.8%、中学2年生で46.8%となっており、非生活困難層との差は小学5年生で13.5ポイント、中学2年生で18.7ポイントと、学年が上がるほどわからない割合や非生活困難層との差が開いています。（子ども問9：72ページ）

通学意欲

学校の授業で使うものを忘れずに準備できるかについては、小学5年生の生活困難層で「よくできる」が少なく、「あまりできない」が多くなっています。（子ども問8：71ページ）

学校に行きたくないと思うことが「よくあった」は、中学2年生の生活困難層で2割半ばと他に比べて高くなっています。また、いじめられたことが「よくあった」と「ときどきあった」を合わせた割合は、小学5年生の生活困難層で2割半ばと他に比べて高くなっています。（子ども問10①③：74,78ページ）

先生との関わり

〈学校の先生からよいところを認められていると思う〉や〈学校の先生と話すのはうれしいと思う〉について、中学2年生の生活困難層では「そう思わない」が3割台と、特に高くなっています。（子ども問16④⑤：95-96ページ）

課題

- 生活困難層では、学校での勉強がわからない子どもが多く、学年が上がるほど増えています
- 生活困難層では、学校に通うことに積極的になれない子どもが多くはないものがあります

必要となる取組

調査の結果、生活困難層では学校での勉強がわからない子どもが多く、基礎学力の定着が十分でないケースが多いことが推測されます。また、学校に通うことに積極的になれない子どもも少数ではあるもののいるため、安心して通学できる環境の整備が必要となっています。

そのため、基礎学力の定着に向けた小中学校における補習や個別指導などの充実や、生活困難層に気付きサポートできるような体制としてスクールソーシャルワーカーの増員や教職員への啓発などの取組が求められます。

Ⅳ 課題と今後の方向性

他自治体 事例

- 学校における学力向上対策
国語や算数・数学、英語などの基礎的・基本的な学力に関する内容について、長期休業期間や放課後の補習を学校において実施している。
- 学力向上のための講師の配置
定着度が十分でない児童に対し、別教室などで学力向上のための講師による個別学習指導を行い、つまずきの早期解消を図っている。
- スクールソーシャルワーカーの増員
学校をプラットフォームとした子どもの貧困の掘り起こしの強化として、スクールソーシャルワーカーを増員。教職員とスクールソーシャルワーカーが連携し、経済的に困難な状況にある子どもたちを積極的に掘り起こし、福祉へつないでいる。

② 学校外の学習について

生活困難層では、子どもが自宅で勉強できる場所がない割合が高く、実際に自宅で勉強や宿題をしなかったり、短時間であったりする割合が高くなっています。また、経済的理由などから通塾率も低く、学校外の学習機会が少ない子どもが多い傾向が見られます。

一方、子どもの生活実態調査における利用意向については生活困難状況での差は見られませんが、校外の無料の学習機会について、市で行う子どもの生活・学習支援事業の調査結果から成果が出ている様子がうかがえます。

■調査結果より

家庭での学習環境

自分の使う部屋は、「持っていないので欲しい」が生活困難層において、非生活困難層よりも10ポイント程度高くなっています。（子ども問2③：10ページ）

また、保護者が自宅で宿題をすることができ場所を与えているかについて「経済的にできない」は、生活困難層において、非生活困難層よりもやや高く、1割前後見られるほか、子どもが落ち着いて勉強できる環境が「ない」は、生活困難層では2割半ば程度で、非生活困難層に比べて高くなっています。（保護者問24E, 25：256, 263ページ）

実際に、帰宅後に勉強や宿題を「まったくしない」と「1時間以内」を合わせた割合は、生活困難層の小学5年生で47.5%、中学2年生で63.6%となっており、非生活困難層との差は小学5年生で9.9ポイント、中学2年生で20.3ポイントと、学年が上がるほど勉強にかかる時間の差が開いています。（子ども問4①：28ページ）

習い事や塾の状況

帰宅後の過ごし方として、習い事や学習塾で過ごすことが「多くない」割合は、生活困難層では非生活困難層に比べて高くなっています。特に、学習塾については、中学2年生では「多くない」が非生活困難層に比べて17.2ポイント高く、小学5年生よりも差が開いています。（子ども問3④⑤：22-23ページ）

同様に、帰宅後にかける時間として、学習塾に行くことを「まったくしない」は、生活困難層の小学5年生で78.8%、中学2年生で72.7%となっており、非生活困難層との差は小学5年生で16.2ポイント、中学2年生で24.1ポイントとなっています。（子ども問4⑧：42ページ）

また、保護者が子どもを習い事や学習塾に通わせることが「経済的にできない」は、生活困難層において、非生活困難層よりも高い割合となっており、特に学習塾については30ポイント以上差が出ています。（保護者問24F, G：257-258ページ）

学校外の学習支援利用意向

学校以外で勉強を無料でみてくれる場所を「使ってみたい」は、小学5年生では生活困難層で約3割（非生活困難層で2割半ば）、中学2年生では生活困難層・非生活困難層のいずれも約3割半ばと、大きな差はない状況です。（子ども問6④：65ページ）

学習支援事業の状況

市で行う子どもの生活・学習支援事業の調査結果を見ると、事業利用者の子どもの本人からは、「学校でわからなかったことを教室で聞いて良かった」「勉強がわかるようになった」といった声が多く挙げられており、直接的な目的である学習面での成果が上がっていることが推測されます。さらに、内面の成長やコミュニケーションにおいても、前向きな変化が見られます。（子どもの生活・学習支援事業の調査結果：331-335ページ）

その他の団体の学習支援等の状況

外国籍の子ども向けの日本語教室が実施されているなど、市で多い外国籍家庭の子どもに支援をしている団体が存在しています。（資源量調査：341-342ページ）

Ⅳ 課題と今後の方向性

課題

- 生活困難層の家庭では、家庭において、子どもが学習できる環境や習慣がない状況です
- 生活困難層の家庭では、経済的な理由から、子どもが通塾できていない家庭が多くなっています

必要となる取組

調査の結果、生活困難層では学校での勉強がわからないだけでなく、家庭での学習環境や習慣がない上、経済的理由などから塾に通えないなど、学校外の学習機会が少ない傾向が見られます。

そのため、家庭等学校外での学習習慣の定着や、経済的に通塾が困難な家庭への学習支援として、現状実施している子どもの生活・学習支援事業を充実するほか、利用可能な対象を広げた無料の塾や無料の家庭教師派遣などの取組が求められます。

他自治体事例

- 無料の家庭教師派遣
経済的に通塾が困難な家庭に対し、基本的な生活習慣の習得、学習習慣の定着、苦手科目の克服、受験対策等を目的に、無料で家庭教師を家庭に派遣している。
- 無料の学習塾の実施
成績上位で学習意欲も高いものの、経済的理由などにより塾等の学習機会の少ない生徒を中心として、民間教育機関を活用した指導力の高い講師による学習機会を提供している。

③ 進学について

子ども自身の進学希望及び保護者の子どもに対する進学意向は、小学5年生、中学2年生のいずれも生活困難層では高校や専門学校までが高く、非生活困難層と比べると、より高次の進学段階への希望が低い傾向が見られます。

その理由の一部として、生活困難層では貯金が無い割合が高いほか、今後教育を受けさせるためのお金の準備が全くできていない人が約5割と多い状況が見られます。また、大学等の進学を断念するとの声や、奨学金など進学補助を知っていても貸与型の奨学金の将来負担への懸念があるとの声も聞かれ、進学にあたって発生する経済的な負担が懸念されている状況がうかがえます。

■調査結果より

進学希望・意向

子ども自身の進学希望は、小学5年生では生活困難層において「中学校」「高校」「専門学校」が非生活困難層に比べて高く、中学2年生では生活困難層において「高校」が約4割（非生活困難層では1割半ば）と非生活困難層に比べて高くなっています。「4年制大学」については、生活困難層の小学5年生で16.9%、中学2年生で20.8%となっており、非生活困難層との差が小学5年生で12.9ポイント、中学2年生で16.2ポイントとなっています。（子ども問27：138ページ）

保護者が受けさせたい教育段階は、生活困難層では「高校」や「まだわからない」が非生活困難層と比べて高くなっています。「四年制大学またはそれ以上」については、生活困難層の小学5年生で29.7%、中学2年生で26.0%となっており、非生活困難層との差が小学5年生で32.0ポイント、中学2年生で27.3ポイントとなっています。（保護者問27：265ページ）

将来展望

子ども本人の将来なりたい夢や職業について、中学2年生の生活困難層では「ない」が約4割と高くなっています。（子ども問28：140ページ）

教育資金

今後教育を受けさせるためのお金の準備は、「全く準備できていない」が生活困難層の小学5年生で48.3%、中学2年生で55.8%となっており、非生活困難層との差は小学5年生で22.4ポイント、中学2年生で30.4ポイントとなっており、学年が上がるほど、できていない割合も、非生活困難層との差も大きくなっています。（保護者問36：289ページ）なお、生活困難層では家族の貯金について、「貯金はない」が、小学5年生で約3割、中学2年生で約4割と、非生活困難層の約1割に比べて高くなっています。（保護者問30：272ページ）

奨学金や支援制度

市で行う子どもの生活・学習支援事業の調査結果を見ると、学習意欲があり成績が優秀であっても、費用等の懸念から大学等の進学を断念するケースがあるほか、奨学金などの進学補助を知っていても貸与型の奨学金の将来負担への懸念から進学を断念するケースもある状況です。（子どもの生活・学習支援事業の調査結果：324ページ）

課題

- 生活困難層の家庭では、子ども本人・保護者ともに大学進学の進学希望・意向は低く、また教育資金の準備ができていない状況が見られます
- 生活困難層の家庭では、進学を希望していても、費用等の懸念や奨学金の返済負担への懸念から進学を断念するケースが見られます

Ⅳ 課題と今後の方向性

必要となる取組

調査の結果、生活困難層では教育資金の準備が困難な場合が多く、大学進学希望が低い傾向が見られます。また、成績優秀者でも、費用面を理由に断念せざるを得ないケースもあります。

そのため、進学等に係る教育資金の援助策として、子どもの進学を支援する基金の設置、支援制度を最大限活用してもらうための周知、既に実施している給付型奨学金の拡充など、進学希望者が進学を叶えられるための取組の推進が求められます。

他自治体事例

- 子ども・若者応援基金の設置

頑張る子ども・若者のさらなる応援や、機会格差をなくす取組の充実を用途として、個人、企業、その他団体から寄附金の形で募集するもの。集まった基金は、児童養護施設などで生活する子どもへの学習・進学等の支援に活用する。納付者は、確定申告等の手続きにより、寄附金のうち 2 千円を超える額については、寄附金控除の適用を受けることができる。

- 進学を応援する子ども向けハンドブックの作成

生活保護受給者に向けて、進路の選択肢とそれぞれに必要な費用、各種助成制度や奨学金制度の仕組みや申込みスケジュール等についてまとめたハンドブックを作成。進学をより現実的に捉え、制度等を最大限活用して進路選択の決断ができるよう応援する内容になっている。

(2) 生活の支援

① 生活実態について

平日の帰宅後の過ごし方は、生活困難層では家庭外で過ごす時間がやや多く、特に中学2年生では自分の家で家族と過ごす割合が、非生活困難層と比べて低くなっています。一方、自宅にいる場合はテレビやDVDを見る時間、パソコン・スマホでインターネットやゲームをする時間が小学5年生で、生活困難層と比べて長い傾向が見られます。

また、学校以外で勉強、進学、家族のことなど、なんでも相談できる場所を使うことへの関心が、特に小学5年生の生活困難層で高くなっています。

■調査結果より

平日帰宅後の過ごし方

平日帰宅後に、自分の家で家族と過ごすことが多い割合は、特に中学2年生の生活困難層では、非生活困難層と比べて低くなっています。また、ショッピングセンターやファストフード店で友達などと過ごす割合は、生活困難層において、「多い」割合が非生活困難層と比べて若干高くなっています。一方、平日の放課後に夜までいることができる場所を「使ってみたい」は小学5年生では生活困難層で約2割（非生活困難層で1割半ば）、中学2年生では生活困難層・非生活困難層のいずれも約3割と、大きな差はない状況です。（子ども問3①⑧、問6①：19,26,60ページ）

また、家で本（マンガはのぞく）、マンガや雑誌を読むことを「まったくしない」は、特に中学2年生の生活困難層において6割を超え、他の項目に比べて高くなっています。（子ども問4②③：30,32ページ）一方、テレビやDVDを見る時間やパソコン・スマホでインターネットやゲームをする時間が2時間以上は、小学5年生の生活困難層において4割弱と、非生活困難層と比べて高くなっています。（子ども問4④⑤：34,36ページ）

休日の過ごし方

休日の過ごし方として、自分の家以外の家で過ごすことが「多い」は、生活困難層では約3割と、非生活困難層に比べて高いものの、家以外で休日にいることができる場所を「使ってみたい」は、小学5年生では生活困難層で約3割（非生活困難層で2割半ば）、中学2年生では生活困難層・非生活困難層のいずれも約4割と、大きな差はない状況です。（子ども問5③、問6②：52,62ページ）

相談意向

学校以外で勉強、進学、家族のことなど、なんでも相談できる場所を「使ってみたい」は小学5年生の生活困難層では約4割と、特に高くなっています。（子ども問6⑤：67ページ）

課題

- 生活困難層の家庭では、平日帰宅後や休日に家族で過ごす時間が少ない状況です
- 生活困難層の家庭では、子どもが何でも相談できる場所が求められています

必要となる取組

調査の結果、生活困難層では平日帰宅後や休日に家族で過ごす時間が少なく、安心して過ごせる居場所や相談できる場所が少ないことが推測されます。
そのため、相談を含めた子どもの居場所づくりなどの取組が求められます。

Ⅳ 課題と今後の方向性

他自治体 事例

- 地域における子どもの居場所づくりの支援

孤立の防止や支援につなげるため、放課後や長期休業中に、小中高生が学校や家庭以外で安全安心に利用できる居場所を提供している。また、地域の様々な主体による自主的な子どもの居場所づくりを支援するため、補助金の交付や各種団体のネットワーク化、居場所の情報のとりまとめと発信などを行っている。

② 健康・生活習慣について

生活困難層では、子ども自身が自分を健康だと思う割合は非生活困難層に比べてやや低くなっています。その背景として、朝食の欠食や、栄養バランスの悪い食生活の実態が見られます。

また、歯みがきの習慣がついていない割合もやや高く、実際にむし歯が非生活困難層に比べて多い傾向が見られます。

■調査結果より

健康状態

自身の健康状態について「健康だと思う」は、生活困難層の小学5年生で56.8%、中学2年生では51.9%となっており、非生活困難層との差はそれぞれ12.3ポイント、7.5ポイントと、非生活困難層に比べてやや低くなっています。（子ども問18：114ページ）

欠食・栄養状態

朝食を「毎日食べる」は、生活困難層の小学5年生で75.4%、中学2年生で68.8%でとなっており、非生活困難層との差は小学5年生で14.8ポイント、中学2年生で15.4ポイントと、非生活困難層に比べて低くなっています。（保護者問16：218ページ）

給食以外の食事内容について、生活困難層で「毎日食べる」が非生活困難層を下回っているのは、穀類、魚・肉・卵・大豆、野菜となっています。（保護者問18A,B,C：223-225ページ）

一方、給食以外の食事内容について、生活困難層で「毎日食べる」が非生活困難層を上回っているのは、甘い飲み物、食事としてのお菓子、インスタントラーメンやカップ麺となっています。（保護者問18F,G,I：229,231,235ページ）

むし歯の状況

歯みがきについて、小学5年生の生活困難層では「朝・昼・夜にみがく」が非生活困難層に比べて9.0ポイント低く、今痛い歯やむし歯が「1本」「2本」「3本」の割合についても非生活困難層に比べてやや高くなっています。（子ども問24、問25：127,129ページ）

一方、保護者が子どもの歯のことで気になることについて、「むし歯」は生活困難層において3割前後と非生活困難層に比べてやや高くなっています。（保護者問19：237ページ）

課題

- 生活困難層の家庭では、子どもが朝食を毎日食べていない状況が見られます
- 生活困難層の子どもは、栄養バランスの悪い食生活が多くなっています
- 生活困難層では、歯みがき習慣がついていない子どももあり、むし歯が多くなっています

必要となる取組

調査の結果、生活困難層では朝食を毎日食べていなかったり栄養バランスの良い食生活となっていなかったりする割合が高いほか、歯みがき習慣がついておらずむし歯があるケースが多いなど、適切な生活習慣が身につかず、健康状態にも影響が出ていることが推測されます。

そのため、歯みがき指導も含めた朝食をとる習慣が付けられるような支援や、栄養バランスの良い食生活が送れるような食材提供などの取組が求められます。また、食事の重要性や栄養への理解を促すための取組も求められます。

Ⅳ 課題と今後の方向性

他自治体 事例

- 学校での朝食提供
50 円などの低価格あるいは無料で、学校において登校時間帯における朝食提供を行っている。食品は協力企業から調達し、準備や運営はボランティアで行うなどの方法がある。また、自治体によっては朝食提供に合わせた歯みがき指導を行うケースもある。
- 子ども宅食の実施
主にふるさと納税を活用して資金調達を行い、企業・団体等から譲り受けた食品等を生活困窮家庭に運送会社の協力のもと配達している。配達を通じて家庭を見守り、困りごとが起こる前のサポートにもつなげている。
- 農作業体験の実施
子どもや保護者、引きこもりの若者、大学生や高齢者等、多世代の様々な参加者が、農作業で共に食材を収穫し、参加者皆で料理し、食べるイベントを実施。様々な年代の人とふれあいながら農作業に取り組むことで、子ども達なりの役割を持って充実感を得ることができる。また、食への感謝の念を育み、栄養や食材に関する知識も身に付けることができる。

③ 親子の交流や子どもの自己肯定感について

家族との関わり方として、保護者と子どもの会話の頻度は生活困難層において少ないほか、子どもの学校行事への参加についても少ない傾向が見られます。

また、中学2年生の生活困難層では、＜自分は家族に愛されていると思う＞や＜自分は人のために役立っていると思う＞といった自己肯定感が低い傾向が見られます。

■調査結果より

親子の交流

保護者と子どもの会話の頻度が「よくする」は、生活困難層では非生活困難層に比べて10ポイント前後低くなっています。（保護者問21：241ページ）

子どもの学校行事への保護者の参加は、中学2年生の生活困難層では「参加している」が2割弱と特に低く、「時間がないためあまり参加していない」も24.7%と高くなっています。（保護者問23：250ページ）

子どもの非認知能力（自己肯定感）

中学2年生の生活困難層では、＜自分は家族に愛されていると思う＞と＜自分は人のために役立っていると思う＞において「思わない」の割合が非生活困難層と比べると高く、特に＜自分は人のために役立っていると思う＞では「思わない」が35.1%となっています。（子ども問26④⑤：134-135ページ）

また、小学5年生の生活困難層では、＜ひとりでいることがさびしいと思う＞において「とても思う」の割合が47.5%と、他の項目と比べると高くなっています。（子ども問26⑦：137ページ）

課題

- 生活困難層の家庭では、保護者と子どもの関わる時間が少なくなっています
- 生活困難層の家庭では、子どもの自己肯定感が低い傾向にあります

必要となる取組

調査の結果、生活困難層では保護者と子どもの関わる機会や時間が少なく、子どもの自己肯定感が低い傾向が若干ですが見受けられます。

子どもの自己肯定感は、周囲との関わりの中で育まれるものであるため、子どもが保護者や学校、地域の人を始めとする周囲と安定的な関係を築き自己肯定感を育むことができるよう、地域における社会参加の促進、大人を含む幅広い年代との交流、スクールカウンセラーの充実や教育等の現場職員への啓発などの取組が求められます。

他自治体事例

- 放課後の子どもの居場所における大人との交流
放課後の空き教室を利用して、小中学生向けのカフェを開設している事例。運営は地域の大人が実施しており、子どもにとっては、放課後の遊び場、大人への相談場所、勉強スペースなどになっている。
- 生き方に関する授業の実施
大学生や大人を学校に招いて、スピーカーとなってもらい、様々な職業や生き方についての授業を実施する。様々な生き方を子どもに対して説明することで、将来に対する視野を広げるとともに、自らの意思で生き方を決定し、社会に関わっていく力を養う。

Ⅳ 課題と今後の方向性

他自治体 事例

- スクールカウンセラーの配置時間数の拡大
子どもの心理的ケアを行うスクールカウンセラーを全校配置するとともに、配置時間数を拡大している。
- 教職員の貧困に気づく力の向上
スクールソーシャルワーカーを講師とし、全教職員が隠れた貧困に気づき、自己肯定感の向上等を含めた関わりができるようになるための研修を開催する。

④ 保護者への情報提供や相談支援について

生活困難層では、非生活困難層に比べて、子育て等に関する情報が入手できていないことがうかがえます。また、母子および父子並びに寡婦福祉資金、生活困窮者自立相談などの支援制度について、知っていても利用方法がわからない割合が、非生活困難層に比べて高くなっています。

さらに、悩みがある割合が高い一方、相談先や支援制度にアクセスできていない割合が、非生活困難層に比べて高い傾向が見られ、悩みを抱えている保護者が多いことが推察されます。

■調査結果より

情報源

子育てや暮らしに関する情報源は、生活困難層では全体的に非生活困難層に比べて少なく、情報を十分に入手できていないことがうかがえます。（保護者問1：143 ページ）

悩みや相談先

子育てに関して悩んでいることは、生活困難層では「特に悩みはない」が非生活困難層に比べて低く、「子どもと過ごす時間が持てない」や「子どもの反抗や暴言・暴力」については小学5年生・中学2年生ともに2割前後で、非生活困難層に比べて高い項目となっています。（保護者問2：145 ページ）

一方、子どもに関する相談先は、上位となっている「家族」や「身近な人」で非生活困難層を下回っており、何らかの相談先はあるものの、非生活困難層と比べると、相談先が限定的である状況です。（保護者問3A,B,C：147,149,151 ページ）

また、子育てに限らず困った時に相談する公的機関については、〈子どもが通う学校、保育園、幼稚園の先生〉で差が見られ、特に中学2年生の生活困難層では「相談する」が16.0ポイント非生活困難層を下回っています。（保護者問4D：156 ページ）

さらに、生活自立サポートセンターにおいて、子どもがいる家庭からの相談が件数として多くはないものの見られ、その中で学習支援などの実際の支援につながる場合もあります。（資源量調査：341-342 ページ）

支援制度の利用状況

支援制度の利用状況として、母子および父子並びに寡婦福祉資金、生活困窮者自立相談については、生活困難層において「知っているが利用の仕方がわからない」が非生活困難層に比べて高くなっています。（保護者問6H,I,J：177,179,181 ページ）

また、子育て支援センター・子育て支援拠点や、児童センターについては、「利用したことがある」が生活困難層において非生活困難層に比べて低くなっています。（保護者問6A,F：163,173 ページ）

課題

- 生活困難層の家庭では、情報源が少なく、各種支援制度の利用の仕方がわからない保護者が多くなっています
- 生活困難層の家庭では、保護者に悩みがあるにもかかわらず、子どもに関して相談できる先が少ない傾向があります

Ⅳ 課題と今後の方向性

必要となる取組

調査の結果、生活困難層では悩みがある保護者が多くなっているにもかかわらず、相談先や情報源のチャンネルが少なく、各種支援制度にアクセスできていない人が多い傾向にあります。

そのため、生活困難層に気づき、必要な人に必要な情報を届けられるための情報発信や、相談を行うための窓口やコーディネーターの配置などの取組が求められます。

他自治体事例

- 子どもに関する総合相談窓口の設置
子どもに関する総合相談窓口を開設し、ひとり親支援、就労支援、子育て相談など総合的な相談に対応し、必要な支援につなげるなど、子どもの貧困対策を含む総合的な支援を行う。
- 子どもコーディネーターの配置
困難を抱えている子どもや家庭を早期に把握し、必要な支援につなげることを目的として、子どもコーディネーターを配置している。子どもコーディネーターは、地域の関係先の巡回による情報収集や、ワンストップの相談窓口として相談を受けるほか、必要な家庭に対し行政や民間の支援策等の情報を提供する。
- 窓口での情報提供
ひとり親家庭での貧困率が高いことを受け、離婚届を取りに来た人に対し、養育費の額や支払期間などを記入する独自の「合意書」を手渡すことで、事前の情報提供を行う。

(3) 保護者に対する就労の支援

生活困難層では、保護者の職業は、正社員・正規職員の割合が父母ともに低くなっています。

母親については、非生活困難層に比べて、週を通して長時間労働の傾向にあるほか、病気療養や求職中などが、働いていない理由として高い一方、家事・育児に専念するために母親が働かないという家庭は少ないことがうかがえます。

父親については、非生活困難層に比べて、1日当たりの就労時間は短い一方で、1週当たりの就労時間は長い傾向が見られます。正社員・正規職員の割合は顕著に低い一方、自営業・家業の割合は高くなっています。

■調査結果より

母親の就業状況

母親の雇用形態は、生活困難層において「正社員・正規職員」が1割台と低い一方、「パート・アルバイト」が5割台と高くなっています。働いていない場合の理由は「病気療養」「求職中」の割合が生活困難層では1割を超え高い一方、「家事・育児に専念」では非生活困難層に比べて低くなっています。(保護者問13、13-1:195,197ページ)

また、母親の仕事の頻度は「6日」が生活困難層では顕著に高く、非生活困難層と比べて10ポイント以上の差が見られるほか、1日あたりの就労時間も「8～10時間未満」がやや高くなっています。帰宅時間は、生活困難層において20時以降が若干高いほか、「交代制勤務で帰宅時間は決まっていない」についてもやや高くなっています。(保護者問13-2,13-3,13-4:199,201,203ページ)

父親の就業状況

父親の雇用形態は、生活困難層において「正社員・正規職員」が4割前後と非生活困難層と比べて顕著に低い一方、「自営業・家業」が3割台と高くなっています。(保護者問14:205ページ)

また、父親の仕事の頻度は「6日」や「7日」が生活困難層では高く、合計すると6割前後となっている一方で、1日あたりの就労時間は8時間未満の割合が非生活困難層と比べて高く、帰宅時間は20時までの比較的早い時間帯が非生活困難層に比べて高くなっています。(保護者問14-2,14-3,14-4:209,211,213ページ)

課題

- 生活困難層の保護者は、正社員以外の働き方が多く、非生活困難層と比べて収入が少ないことが推測されます
- 生活困難層の保護者の中には、働きたくとも働けていない層もいる状況です

必要となる取組

調査の結果、生活困難層では正社員以外の働き方が多いことから収入が少ないことが推測されるほか、「病気療養」や「求職中」など働きたくとも働けていない層も一定数います。

そのため、収入増に向けた転職や資格取得支援や、就労に向けた支援などの取組が求められます。

他自治体事例

- 資格取得支援
県等で実施する就労に向けた資格取得の講座等の案内を行うとともに、円滑な受講に向けて、就学前の子どもがいる場合、講座受講の際一時的に保育所等に預けるための枠を設けている。

参考資料1 子どもの生活・学習支援事業の調査結果

1. 子どもの生活・学習支援事業の調査結果の概要

子どもの貧困対策を進めていくための資料として、子どもの生活・学習支援事業を利用する子ども及び保護者と、支援者としての学習支援員の視点から、子どもを取り巻く家庭の現状及び課題を把握するため、調査を実施しました。

学習支援員調査

- 対象 象：川口市内の「子どもの生活・学習支援事業」の学習支援教室を担当する学習支援員
- 調査期間：アンケート調査：平成30年8月3日～10日
ヒアリング調査：平成30年8月21、22、31日
- 調査方法：調査票の直接配布・回収、調査票を基にヒアリングを実施
- 回収結果：調査票 14件

教室利用者調査

- 対象 象：川口市内の「子どもの生活・学習支援事業」の学習支援教室を利用している子ども
- 調査期間：アンケート調査：平成30年8月22、30、31日（ヒアリング時に実施）
ヒアリング調査：平成30年8月22、30、31日
- 調査方法：調査票の直接配布・回収、調査票を基に一部の方にはヒアリングを実施
- 回収結果：調査票 32件

教室利用者保護者調査

- 対象 象：川口市内の「子どもの生活・学習支援事業」の学習支援教室を利用している子どもの保護者
- 調査期間：平成30年7月25日～8月9日
- 調査方法：調査票の郵送配布・回収
- 回収結果：調査票 58件

《川口市の「子どもの生活・学習支援事業」について》（平成31年3月現在）

以下の（1）から（4）のいずれかの世帯に属する、市内在住の小学4年生から6年生、中学生、高校生・高校中退者・中学卒業後未進学者とその保護者が対象となります。

- （1）生活保護を受給している世帯
- （2）就学援助を受給している世帯
- （3）ひとり親世帯
- （4）その他支援が必要と認められる世帯

事業内容としては、学習教室の開催及び居場所の提供、家庭訪問による学習・相談支援、学習教室に併せての食事の提供、就労体験・ボランティア体験の提供等を行っています。

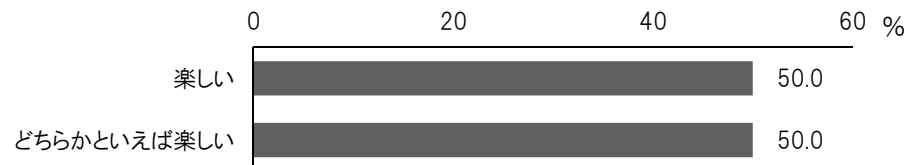
2. 学習支援員調査

(1) 学習支援事業について

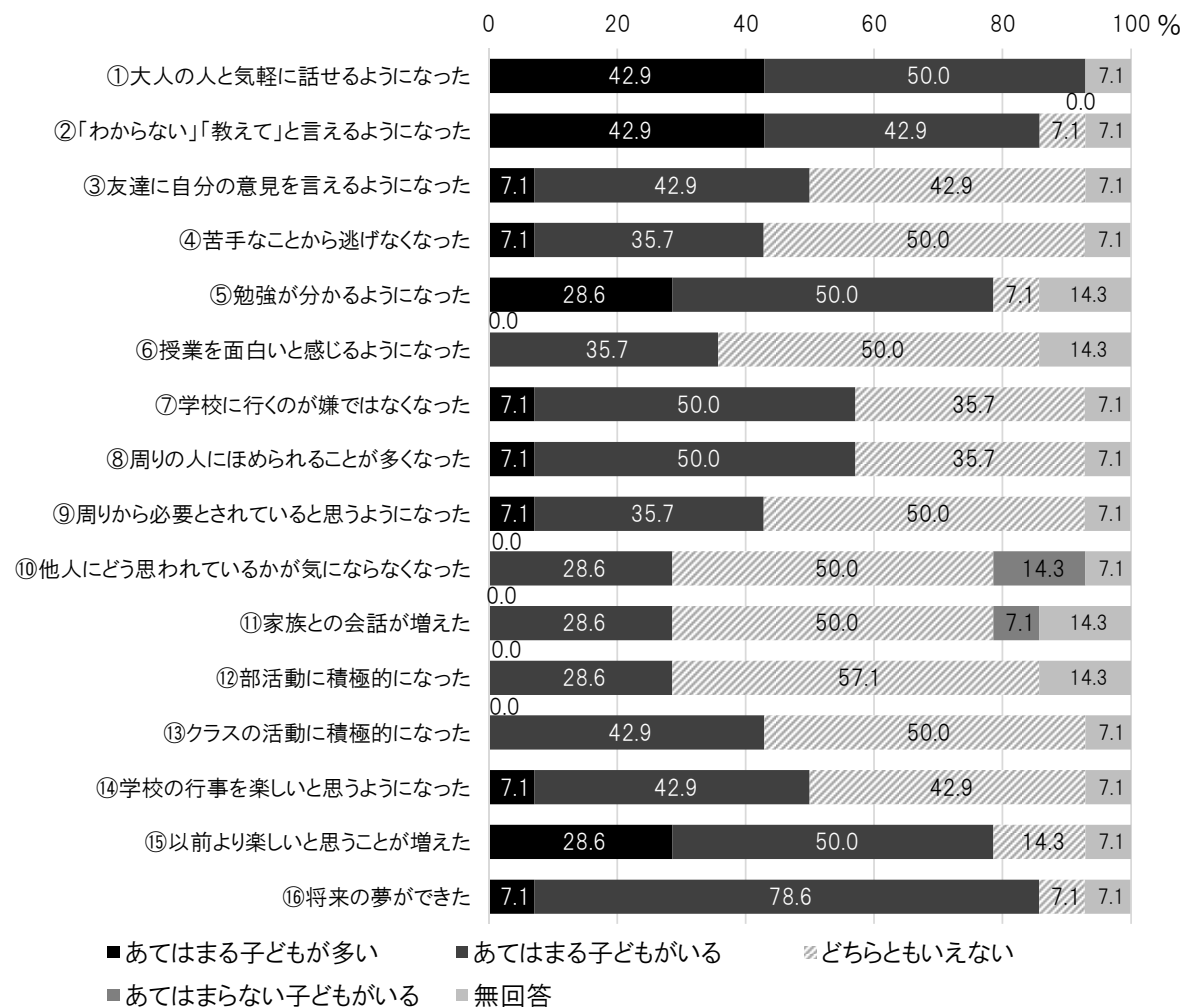
Q1 あなたが主に担当する学年はどれですか。(すべてに○)

小学生：64.3% 中学生：100.0% 高校生：85.7%

Q2 子ども達は、教室に来るのが楽しそうにみえますか。(1つに○)



Q3 教室に通う児童・生徒を見ている中で、教室に通う前と変わったと思うことはありますか。(それぞれ1つに○)



Q4 Q3以外に感じる子どもの良い変化があれば教えてください。

- 高校進学を希望するなど進学面の意欲や、机に向かえるようになるなど学習面で意欲が出た。
- 大人に対して当たりの強い子や感情の起伏が激しい子が、言葉遣いや態度が良くなった。
- 自分の気持ちの表出ができるようになったり、学校や家の不満などの相談ができるようになった。
- 友人関係や教室に来ている後輩の面倒を見るなど、コミュニケーションが円滑になった。
- 新たな興味をもったり、新しい見方など考え方を知った。
- 食の好き嫌いが減った。

ヒアリング結果:Q3・Q4について

【見られた変化】

- 高校生でも中1の英語から勉強して学力が伸び、一つ良い影響が出ると、他も意欲が出て来た。
- そもそも教室に来られるようになったこと自体が大きな変化。
- 親から認められないで育った子の自己肯定感が上昇したケースがある。
- 全く話さなかった子が、うなずくようになったりする。

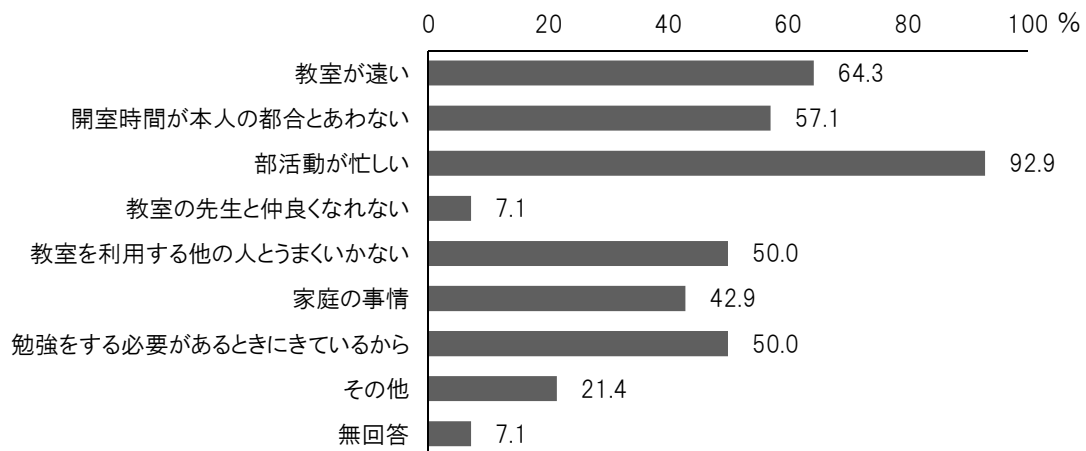
【変化が見られる場合の特徴】

- 自分を肯定できる、チャレンジできると感じる事が変化に大きく関わっているのではないかな。
- 変化というよりかは、殻を破って本来の姿が見えてきているという印象。
- 教科書を改めて説明するなどにより、「わかった」ということをきっかけにして自信がついたことが、そのあと明るくなることにつながったりする。
- 支援員を「先生」と捉えている子は心を開きにくい、応援している立場であるということをしちゃんと説明することで心を開いて話をしてくれる場合がある。

【変化が見られるまでの期間】

- 個々によって異なるが、まずは継続して来てもらうことが効果的。また、スタートラインが個々で大きく異なるため、何を「変化」と捉えるかは難しい側面もある。
- 椅子に座る時間が長くなったり勉強が楽しくなったりというようなことは、早い子の場合だと数回来ただけで学力の向上が見られる。また、中間テストよりも期末テストの方で点数が上がるなど、テストの機会ごとに変化がある。
- 半年くらいだと、なかなか変化は見えづらいが、小さい変化はある。例えば、やればできる、と思えるようになったり、嫌いなことに挑戦できるようになったりするなど。
- 学力は1年くらいで変化しやすい。コミュニケーションは、3年くらいかかる場合もあり、長い期間が必要。
- 大人と気軽に話せるようになった、楽しいことが増えたなどは、半年～1年くらいでようやく目に見える変化があると感じる。

Q5 教室の利用頻度が減った・来なくなった場合、その理由を把握していれば教えてください。(すべてに○)



ヒアリング結果:Q5について

【教室が遠い・時間が合わない】

- 近くにあれば行きたいという声はある。
- 小学生でもクラブ活動がある。クラブ活動や部活終了後だと、時間があまり使えないので来られない子がいる。
- 高校生では、アルバイトが理由で来られない子がいる。

【他の子とうましくない】

- 不登校の子は、同じ学校の子と会わないよう、近くの教室を避ける傾向はある。
- 同じ学校の子で仲が悪い子が来て、行きづらくなる場合がある。
- 年度の最初は人数が少ないが、年度の後半で人数が増えた場合に、にぎやかな雰囲気が苦手であづらくなる場合がある。

【送り迎え】

- 小学生の子どもの場合はお迎えが必要で、友達のお母さんにお迎えを頼んでいたが頼みきれなくなって来られなくなったケースがあった。
- 送り迎えが難しくなったり、兄弟が来られなくなると一緒に来なくなるケースがあった。

【その他の居場所】

- 生徒会やアルバイト先などに居場所を見つけて、来なくなることがある。

Q6 現在登録のみできていない子どもに来てもらうためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。

- 学習以外の目的も伝える
- 事業の説明やお試し参加を行う
- 保護者や子どもとの信頼関係を作る
- 教室数を増やす
- 各家庭の現状やニーズを把握する
- 関係機関との連携を密にする
- 電話連絡と訪問を行う
- 支援員を増やす

ヒアリング結果:Q6について

【教室・支援員の増加】

- 教室数が増えるためには、支援員が増えないとできないが、人員不足の状況がある。
- ボランティアや非常勤の支援員もいるが、支援員の仕事は教室だけではなく、訪問・電話相談・ひとり親支援・就労体験なども対応している。その他、関係機関へつないだり、来ていない子へのアプローチを行ったりするなどの業務により、多忙な状況がある。
- 食事をつくる部分などは地域の方やボランティアなどをお願いすることも可能ではあるが、平日夕方は人手が集まらない。また、事業の特殊性上、地域の方にはなかなかお願いしにくい部分もある。
- 不登校の子や教室に来るのが難しそうな子については、家庭に訪問して見ている子もいる。

【家庭への連絡】

- 雑談で気になる家庭の話は聞くこともあるので、家庭訪問の必要性は感じてマンパワーの関係で難しい。また、気になる家庭があっても、関係が作れないと呼びかけも難しい。
- 登録のみの家庭には支援員が訪問したりしているが、連絡がつかなかったり、会えなかったりする。両親が在宅している時間は、教室の時間や土日と重なることが多く、電話連絡や訪問の調整が難しい。市の方で橋渡しの支援をいただけるとできることが増える。

【趣旨の理解】

- ふつうの学習塾だと思っている保護者もいるため、事業の趣旨を説明することが必要。説明をしっかりとすれば、ニーズが出てくるのではないかと感じる。
- 学校によっては、学習支援教室の内容や趣旨を理解してくれていない所もある。理解してもらえれば、連携して密に支援ができる。

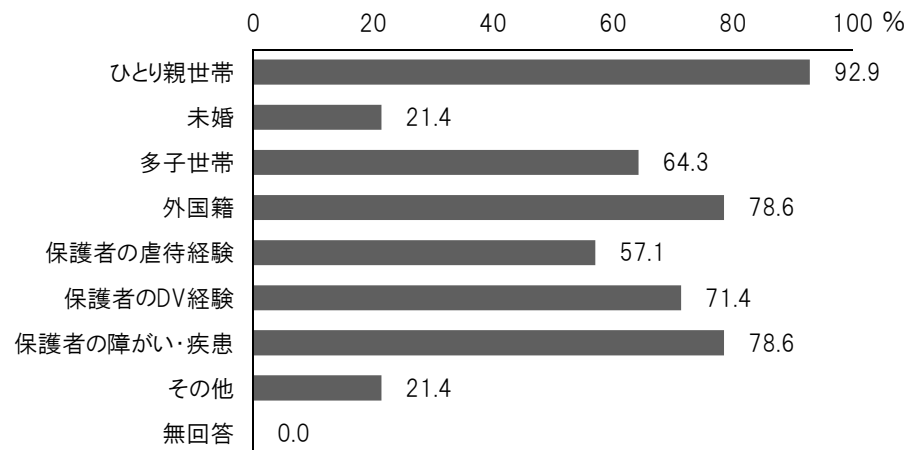
【その他】

- とりあえず登録だけはしておいて、高校受験に向けて中学3年生からは参加したいというケースもある。

(2) お子さんやご家庭の様子について

① 背景や特徴

Q7 困難を抱える家庭において、貧困以外にどのような背景や特徴が見られますか。
(すべてに○)



Q8 上記の具体例などについて記入してください。

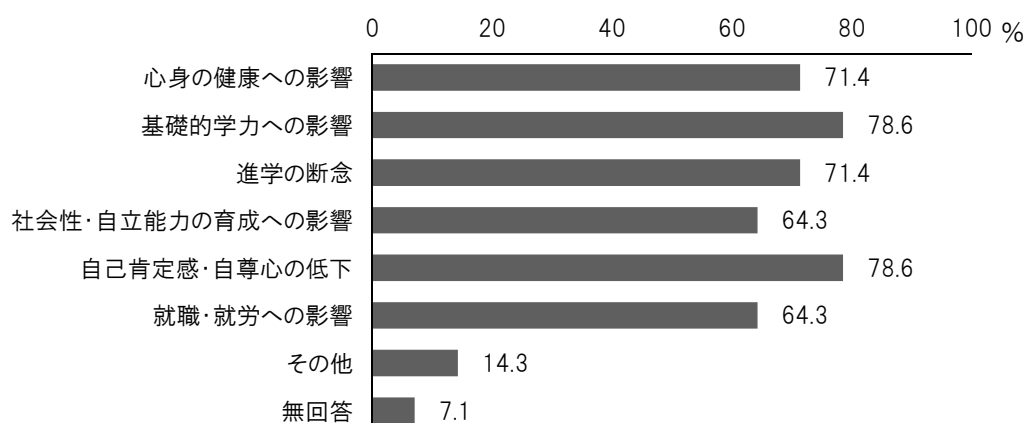
- ひとり親世帯では、相談する人がいないことや、総じて困難を抱えるケースが多い。
- 多子世帯では、一人ひとりの子どもにかけられるお金が少ない。
- 外国籍家庭では、日本語がわからず情報収集・行政サービスのアクセスができない。
- 保護者のDV経験では、地域からの孤立や、精神疾患を発症してしまうなど複合的問題もある。
- 保護者の障がい・疾患では、適切な支援を受けられていない。
- 家庭内で世界が完結してしまったり、様々な要因から人間関係構築が難しい。
- 保護者自身の自己肯定感の低さから、子どもに過剰な我慢を強いるなどの影響がある。
- 金銭管理・生活能力のなさから、月末に食べ物が無かったり、家が片づけられていなかったりする。
- 子どもが家事や下の子の面倒、介護を担っている。
- 子の居場所が家がない。

ヒアリング結果:Q7・Q8について

【地域差】

- 子どもの様子の地域差はあると感じる。北部は熱心、南部は家から出ないイメージがある。
- 西側の地価が安いいため、保護世帯や外国籍の家庭が集まりやすい。一方、東側は坂・勾配がある地形で車がないと難しい環境のため、就学援助世帯が多い。就学援助世帯の方が外に出やすい。
- 京浜東北線の沿線は外国籍の方が多い。

Q9 経済的困窮に伴い、どのような影響や課題がありますか。(すべてに○)



Q10 上記の具体例などについて記入してください。

- 学習意欲がない、学校の授業についていけず、基礎学力が定着していない。
- 奨学金などの進学補助を知らなかったり、知っていても貸与型への懸念から進学を断念したりする。
- どうせできないなど、自己肯定感が低く、将来の夢・希望を持てない。
- 保護者が働いていない場合、社会人としてのイメージを描けず就職への意欲がない。
- 体験の幅が非常に少ない、新聞や本に触れる機会が少ないなど、多様な経験が不足している。
- 保護者の適切な関わりがなく、自己肯定感の低下やコミュニケーション力不足になっている。

ヒアリング結果:Q9・Q10について

【学習・進学意欲】

- 基礎的学力は、通っていて、褒められると上がっていく。
- 情報を提供することで高校への進学意欲が湧いてくる子もいる。
- 高校に進学することで、さらに大学へ進学したいという意欲が湧く子もいる。

【奨学金や支援制度について】

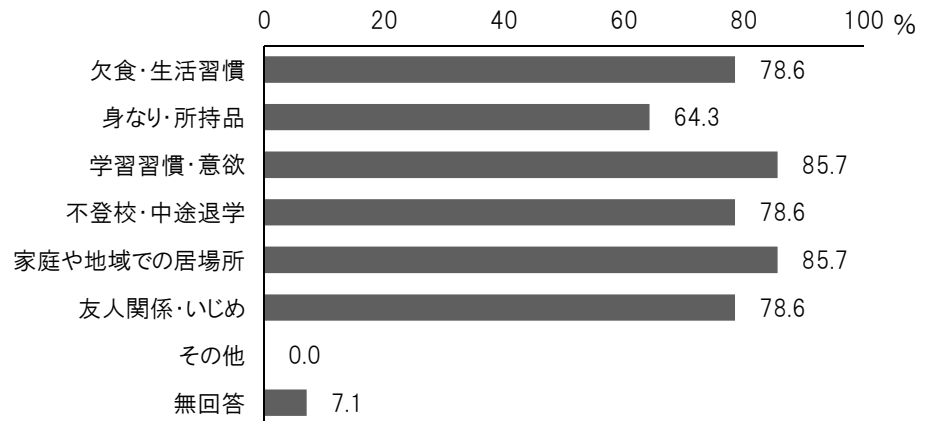
- 奨学金は将来の借金となる。就職してもどうなるかわからない時代背景の中で、慎重になる場合は多い。
- 生活保護世帯では、借りられることも知らない事が多い。また、ケースワーカー自身が理解していない場合もあり、機会を逃してしまうこともある。ケースワーカーによって対応が異なる。
- 制度の説明はするが、親と子どもが同じレベルで思えないと利用に至らない。事前に用意するお金や保証人のことなどで、保護者がブレーキをかけてしまう場合もある。
- 優秀で進学校の公立校に入っても、真剣に検討している家庭ほど、大学費用の捻出や学力の関係から細かにシュミレーションし、進学を断念して就職を選択する場合がある。

【ロールモデルの欠如】

- 保護者の方が就労していない場合は、働くことへのイメージが弱く、働くことの責任感、大変さが想像できず、アルバイトで良いといった考えにつながることもある。
- 保護者が昼まで寝ているといった生活習慣や、兄弟の進学状況に影響されることもある。
- 多様なロールモデルが欠如していることにより、進学先や将来の夢に制限がかかる。
- 経験の少なさが、発想の広がりにも制限をかけることにつながっているケースがある。

② 子ども・若者の様子・状況

Q11 生活や学習の様子で特徴的な状況は、どのようなことですか。(すべてに○)



Q12 上記の具体的な状況などについて記入してください。

- おかわりが多い等欠食がうかがわれる子がいたり、歯みがきができなかったりする等、生活習慣が身についていない。
- 年齢にしては幼い・サイズが小さい服や、いつも同じ服で参加している。
- 集中して学習ができない、学校の授業についていけない。
- 身なりなどからいじめられたり、不登校になるケースもある。
- 学習教室を、居場所やよりどころとする子どもも多い。

ヒアリング結果:Q11・Q12 について

【生活習慣】

- 母親が夕食を作っていない家庭があり、教室で食事を食べさせている子がいる。
- アレルギーなどではなく、野菜はすべて食べられないといったような極端な好き嫌いがある子どもについて、保護者と接すると、家族全員同様の食習慣な場合もある。

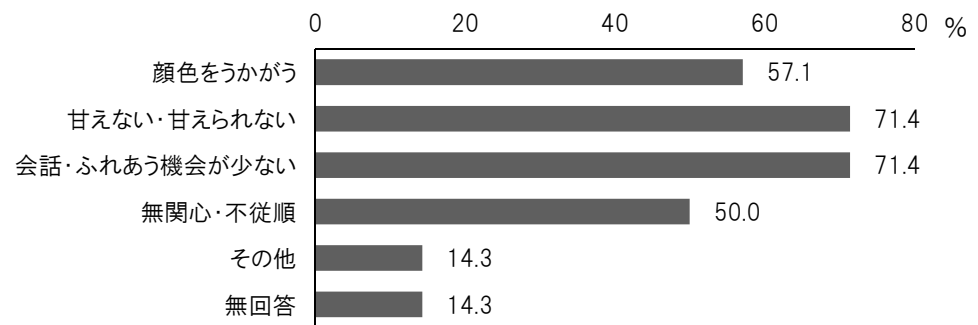
【身なり】

- 服装や身なりは二極化している。周りからの目を気にして、食事を抜いてでも、服装にお金をかけている場合もある。見た目でわかる子はまれである。

【発達障害】

- 発達障害などが背景にあるものの、保護者が認めたがらないことや、知識がないことが多い。
- 子ども本人の状況で発達障害が疑われても、学校の先生から保護者に伝えられていなかったり、保護者自身が認めなかったりすること多い。
- 親が発達障害に気づいていたとしても、相談機関につなげられていない。教育相談センターは平日昼間のみなので、働いている保護者の場合、相談の必要性を認識しているものの相談できていない。

Q13 保護者との関係で特徴的な状況は、どのようなことですか。(すべてに○)



Q14 上記の具体的な状況などについて記入してください。

- 子が親の顔色をうかがいこわがったり遠慮したりする。
- 親が子に無関心、または、親が子に過干渉。
- 親に否定されて育ち、自己肯定感が低い。
- 親子の会話が少なくなど、コミュニケーション不足。

ヒアリング結果:Q13・Q14 について

【無関心・関わりが薄い】

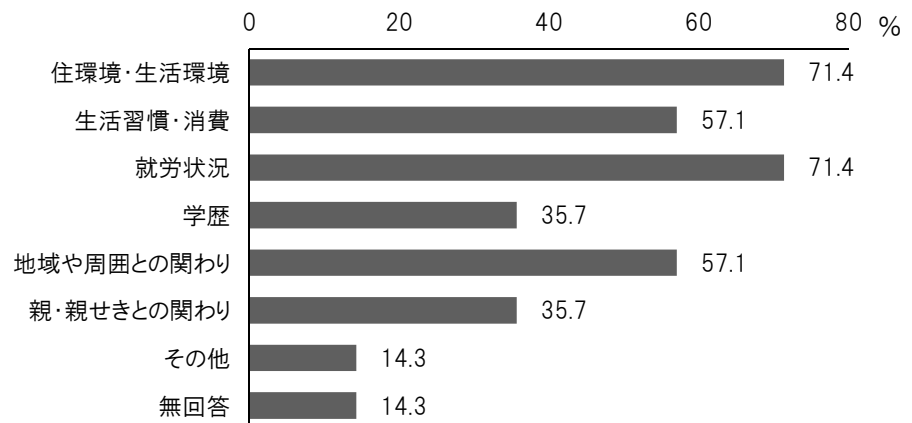
- 無関心というよりは、仕事に出ていて子どもと関わる時間がない。子どもの居場所、学校に行っているかも把握していない親もいる。
- 経済的に立て直すことが優先だと思っている親も多い。
- さみしい子は多い。話を聞いて欲しい子は多い。受け入れられていない子は多い。
- 子どもが親に無関心である場合もある。

【過干渉】

- 過干渉の場合は、親が精神疾患などを持っており、自分みたいになってほしくないという思いから過干渉になってしまうこともある。
- 親の意向から子どもの行動を決めている親もいる。
- 親と子どもの関係が深すぎるにより、共依存のような関係性の場合もある。

③ 保護者の様子・状況

Q15 生活や就労の様子で特徴的な状況は、どのようなことですか。(すべてに○)



Q16 上記の具体的な状況などについて記入してください。

- 住環境・生活環境では、部屋が汚い・ごみ屋敷など、衛生面で劣悪。
- 生活習慣・消費では、金銭管理能力の欠如。
- 就労状況では、働いていても収入が足りない世帯や、就労継続が難しい世帯もある。
- 学歴では、保護者が中卒で高校進学に否定的であるなど、進学意欲の低さにつながることもある。
- 地域や周囲との関わりでは、保護者が学校で他の保護者とつきあえず、地域の輪にも入れない。
- 親・親せきとの関わりでは、疎遠である場合と、非常に濃い場合と両極端。

ヒアリング結果:Q15・Q16 について

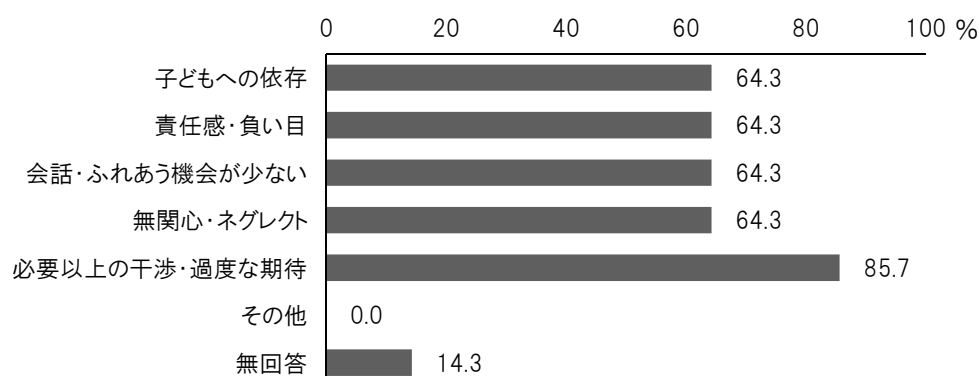
【住環境】

- ごみ屋敷が多い。
- 家に机がなく、食事も床でしている場合もある、また弁当やカップラーメンになりがち。
- 台所が使えず、茶碗をお風呂で洗ったりする。

【DVのケース】

- 多くないが、DVなどを要因として外部の土地から来た場合は土地勘がなく、周囲の交通機関、インフラ情報などにリーチできず、家から出られていない場合がある。
- 土地に定着感がないまま暮らしている場合、子どもも学校に行っていなかったり、買い物に苦労していたりする。

Q17 子ども・若者との関係で特徴的な状況は、どのようなことですか。(すべてに○)



Q18 上記の具体的な状況などについて記入してください。

- 子どもへ依存していたり、下の子の世話を上の子に任せるなど、家事育児を頼っている。
- ひとり親世帯では離婚したことへの負い目がある。
- 必要以上に子どもに気をつかうなど、子どもに強く言えない。
- 家の中でコミュニケーションがないなど、会話・ふれあう機会が少ない。
- 子どもに任せているといって進路なども考えなかったり、不登校や非行でも無関心。
- 必要以上の干渉で子どもの主体性がなくなる。
- 自分の様になってほしくないという気持ちから過度な期待をしてしまう。

ヒアリング結果:Q17・Q18について

【無関心】

- 子どもに期待しないケースがある。例えば、保護者自身がこうだから子どもも同じ程度だろうと考えたり、子どもを必要以上に過小評価したりして、ネガティブな言葉を保護者が発する、進学を妨げるなどもある。

【過干渉や期待】

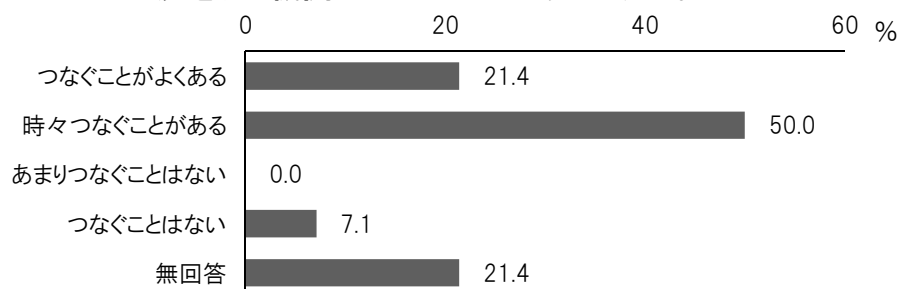
- 子どもが心配で、保護者が長時間電話をしてきたり、日々報告書の提出を求めたりする人がいる。
- お世話になった分を返せるよう、自衛隊に入ることを推奨したりするケースもある。
- 親が口うるさく、反抗している子もいる。

【保護者自身】

- ロールモデルが親自身になく、安定的に育てられていない。親自身が地域とつながっていないなど、保護者が社会から孤立していると、子どもの世界が狭い。
- 子どもが成功することで、保護者自身も変わらなくてはいけないと思ってしまうプレッシャーを感じてしまう場合もある。

(3) 学習支援事業以外の支援や連携について

Q19 課題のある子どもや家庭を、他機関につなぐことはありますか。



Q20 【つなぐことがある場合】

どのような内容で、どのような機関につないでいますか。

分野	つないだ機関	つないだ子ども・状況
不登校など	学校 (担任、スクールカウンセラー)	不登校の子に関して、現状の学力のすり合わせや学習計画、最終的には不登校から登校へ持っていく支援方針のすりあわせを学校と行っている。
	スクールソーシャルワーカー	不登校などの問題のある子ども、家庭全般が困難な時
	適応指導教室	不登校の子などを主に、昼間学校に行けていない子をつなげたことはある。学校には行けていないが、そこには毎日通えるようになった子もあり、その後、学校にも別室登校ではあるが、行けるようになった。
	教育相談所 (芝園、公民館の出張相談)	不登校や発達相談、学校と世帯との関係に課題が見られる場合や不登校が中心のとき
	高校見学同行、SSW	学力・不登校
進学・就職	希望する施設	高校生の就労体験希望者
	社会福祉協議会	大学、専門学校等の奨学金の相談の件
	一般社団法人コラボ	夜の仕事に就いた女子高生
外国籍	日本語教室、自主夜間中学	外国籍
虐待	児童相談所、主任児童委員、子育て相談課	虐待(疑い含む)
発達・障害	児童相談所	発達についての相談
	医療相談窓口、障害福祉課、障害者支援センター	発達の障害、障害の有無判断が必要と思われるケース 親の精神疾患
	特別支援学校のコーディネーター	何らかの障害が疑われ、進路を特別支援にした方がよいと思われる子ども
その他	子ども食堂	居場所がない子、いつも親の食事を作っている女子高生
	東部中央福祉事務所等	母子及び寡婦福祉資金貸付制度の件
	市社協、自立相談支援窓口	保護受給していない世帯についての生活全般に課題が見られる場合

ヒアリング結果:Q19・20 について

- 以前よりは、かなり子どもとつながりやすくなった。
- 子どもへの家庭訪問をするにあたって、その子の周辺の人にアプローチをして、つながっていている。
- 個人情報の問題はあがあるが、川口市はどこに問い合わせても教えてくれるのがありがたい。

Q21 【つなぐことがある場合】

他機関と連携をするうえで、どのような課題がありますか。

- 以前に比べるとよくなったが、学習支援事業自体が知られていない。
- 他機関についてもっと知る機会があるとよい。
- うまくいっているのかどうかのアフターフォローができるとよい。
- 他機関との認識のずれがある場合がある。
- 明らかな問題はつなぎやすいが、明らかな問題とまで言えない時の連携先が不明。

ヒアリング結果:Q21 について

【学校との連携について】

- 校長会で話をして欲しい。
- 学校にパンフレットを置いていただいているが、どこに置いてあるかわからない先生もいる。
- スクールソーシャルワーカーは、担当する子どもが多かったり、勤務日などの制約があったりで忙しいため、相談しても止まってしまって支援が進まないケースなどがああった。
- 教育と福祉で領域が違うという考えの先生もおり、本事業の主旨を理解していただく必要もある。

【カンファレンス等の実施について】

- カンファレンスのような取り組みがあると連携しやすい。
- カンファレンスを実施するにあたって、どこが主導権を取って進めるかという問題があり、市自体が音頭をとる窓口になるか、音頭をとる人を紹介してもらえるとよい。

【他機関との連携】

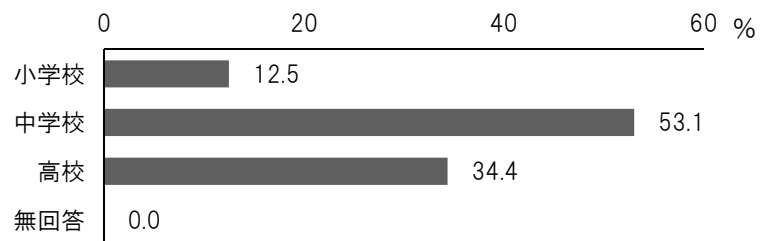
- 他の機関に知ってもらうためのアナウンスをどのようにしていくとよいか模索している。
- 他機関のことを知る機会がない。年に1回でも他機関のことを知ることができれば上手く協力していけるのではないか。

【もっと連携をしたい機関等】

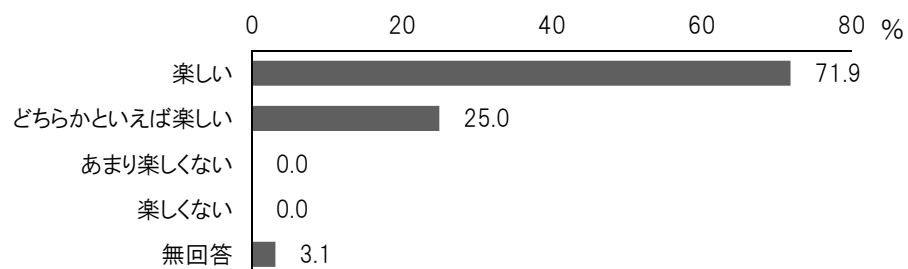
- 教育委員会で本事業のことを広めてもらえると、学校とのやりとりが円滑に進むのではないか。
- 学校とはもう少し深い密度でつながりを持ちたい。現状は、学校や先生個人によって、対応に差がある。
- 医療のみでなく、精神保健福祉の面で保健所とも連携したい。

3. 教室利用者調査

Q1 あなたの通う学校を教えてください。(1つに○)



Q2 この学習教室に来るのは楽しいですか。(1つに○)



ヒアリング結果:Q2について(楽しい理由)

【友達と話せる】

- 友達としゃべるのが楽しい。通っていて新しい友だちもできたり、ここでしか会えない子に会えたりする。
- 小学校から同じで高校が違う友達とも、ここでは会える。

【支援員と話せる】

- 支援員と話しているのが楽しい。
- 他の人には話せないことでも支援員さんには話せる。学校での人間関係のことや、趣味の話など。
- 学校であったことを話したり、相談ができたり、的確なアドバイスをもらえたりする。

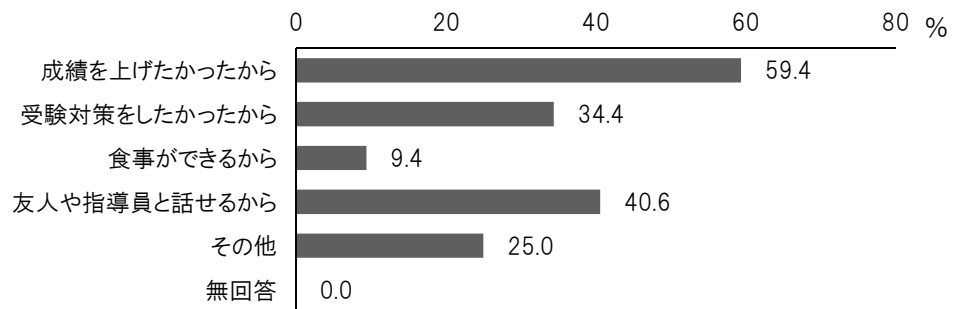
【学習面】

- 支援員の教え方がわかりやすく、学校の授業でわからないことを聞けたりする。
- 学校だと人数も多く質問しづらいが、ここだと聞くことができる。
- 支援員が厳しめに教えてくれるのが、逆に親より良い。困ったときは優しくしてくれる。
- わからないことや知らないことがわかったときが楽しい。
- 勉強がわかるようになってきて楽しくなってきた。

【食事が美味しい】

- ご飯が美味しい。
- 食事が楽しい。

Q3 この学習教室を利用するきっかけについて教えてください。
(あてはまるものすべてに○)



ヒアリング結果:Q3について

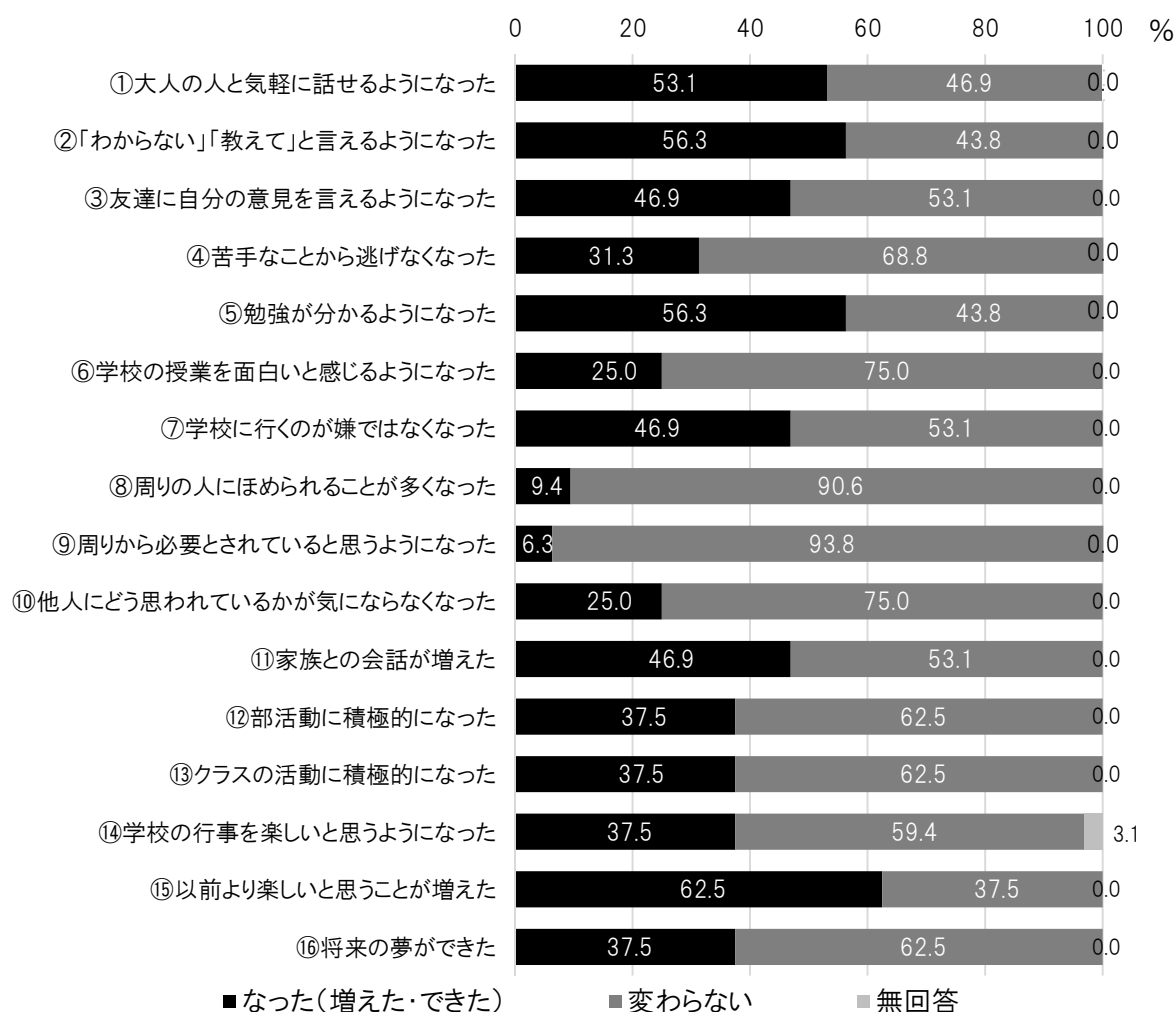
【家族・友人等からの誘い】

- 母親に言われて来たのがきっかけ。
- 親が市の手紙をきっかけに声をかけてくれた。
- 兄弟が通っていて自分も通いたいと思っていたから。
- 友達から誘われてきた。
- 学校の紹介。

【学習面の動機】

- クラスで色々あり学校に行けていなかったが、勉強しなきゃと思ったため。
- 成績を上げたかった。
- 宿題が終わるから。
- 受験を意識したため。

Q4 学習教室に通うようになってから、自分で変わったなと思うことはありますか。(それぞれ1つに○)



ヒアリング結果:Q4について

【成績向上】

- 勉強の習慣がついた、成績が上がった。
- 元々得意だった科目が、ここにきてからはもっと伸びた。
- できない教科が少しできるようになった。
- 成績は変わらないが、わかることは増えた。

【学習意欲・楽しい】

- 勉強が楽しくなった。苦手な教科でも全力でやって、できなかったことができるようになった。
- 「わからない」や「教えて」と言えるようになった。
- 勉強の点数がいつもより良くなって、楽しくなった。
- 勉強が得意でなかったが、通うようになって少しできるようになった。
- 学校の授業がわかるようになり、楽しい。学校も楽しくなった。
- 幸せなときが増えた。

参考資料1

【友達や家族とのコミュニケーション】

- 友達が増えた。
- 友達に対して自分の意見を言えるようになった。
- 部活が同じで違う学校の子と情報交換できた。
- 教室であったことを話すなど、家族との会話が増えた。

【大人とのコミュニケーション】

- 支援員（大人）と話す機会ができて、学校の先生とも積極的に話せるようになった。
- 支援員やボランティアなど色々な人と話す機会が増えたので、日常的に近所の人にも話しかけられるようになった。
- 普通の大人と話せるようになった。
- 昔は人見知りだったが、職場でも他の人と話せるようになった。

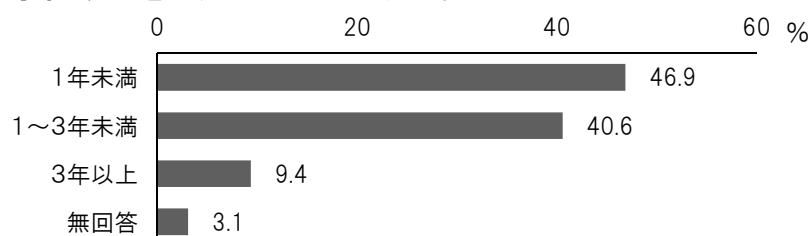
【その他の活動】

- 部活やクラス活動は以前からやっていたが、もっとよくなった。
- 人前で話すことやリーダーとして発表することは得意ではなかったけれど、やってみようかなと思うようになった。
- クラスの活動に積極的になった。

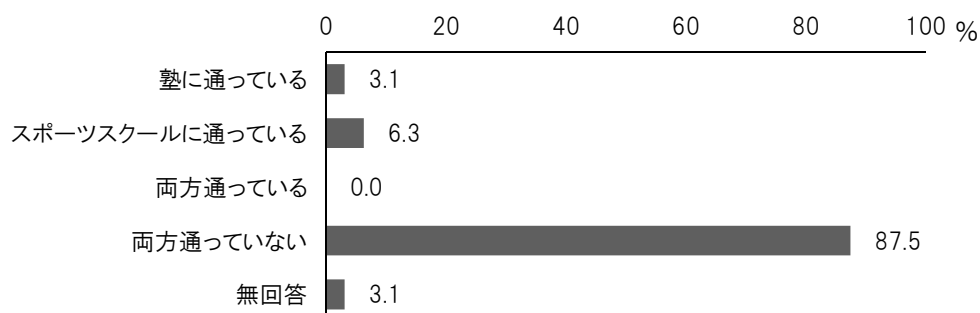
【変化なし】

- あまり変化はない。
- 大きな変化は感じない。

Q5 どのくらいの期間、学習教室を利用されていますか。(1つに○)



Q6 この学習教室の他に、塾やスイミング等のスポーツスクールに通っていますか。(1つに○)

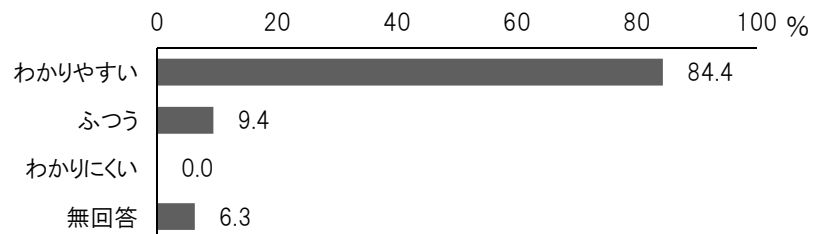


Q7 Q6で「1. 塾に通っている」に○をした方にお聞きします。塾と比べてこの学習教室の良い点や悪い点があれば教えてください。

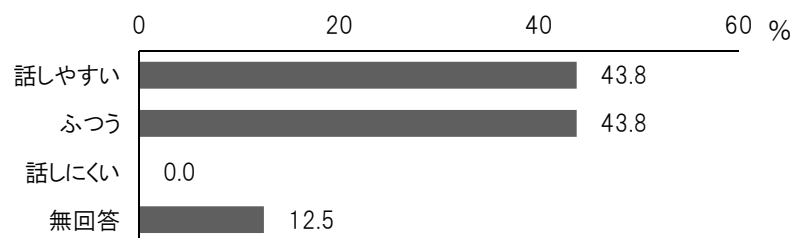
※回答無し

Q8 支援員や指導員について、どのように感じていますか。(それぞれ、1つに○)

①教え方がわかりやすいですか



②悩みや相談を話しやすいですか



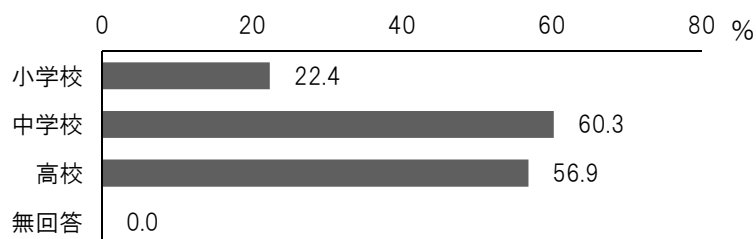
Q9 もっとこんな学習教室になったらいいな、と思うことがあれば教えてください。

ヒアリング結果:Q9について

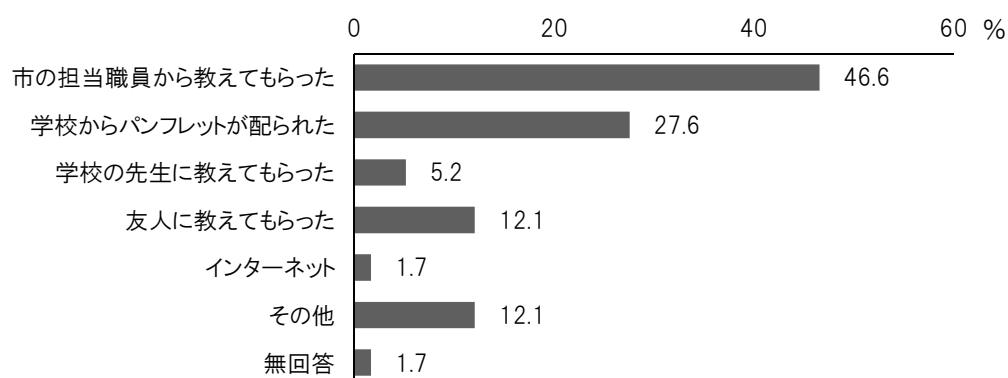
- 現状に満足している。
- 卓球など運動ができたらいい。
- 料理が美味しくなったらいい。
- 飲み物のレパートリーが増えてほしい。
- 自由に使えて検索できるパソコンが欲しい。
- プログラミングなど、パソコンを使ってできること。
- 専門教科を勉強しているので、簿記や商業科目がわかる先生がいたら嬉しい。

4. 教室利用者保護者調査

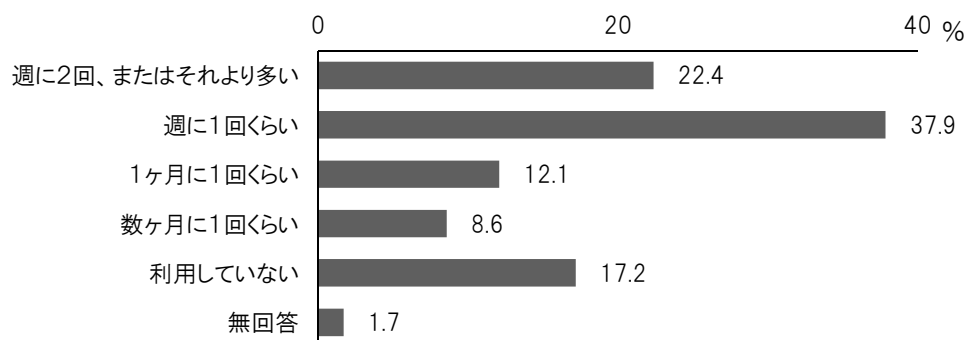
Q1 お子様の通う学校を教えてください。(兄弟姉妹分すべてに○)



Q2 学習支援事業をどのようにして知りましたか。(すべてに○)

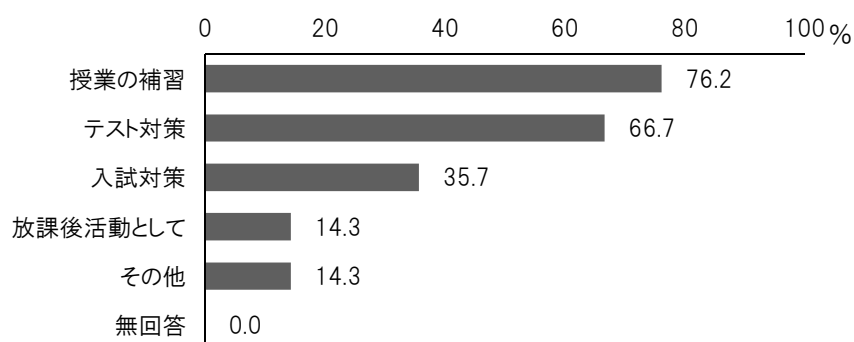


Q3 お子様は学習支援教室をどのくらい利用していますか。(1つに○)

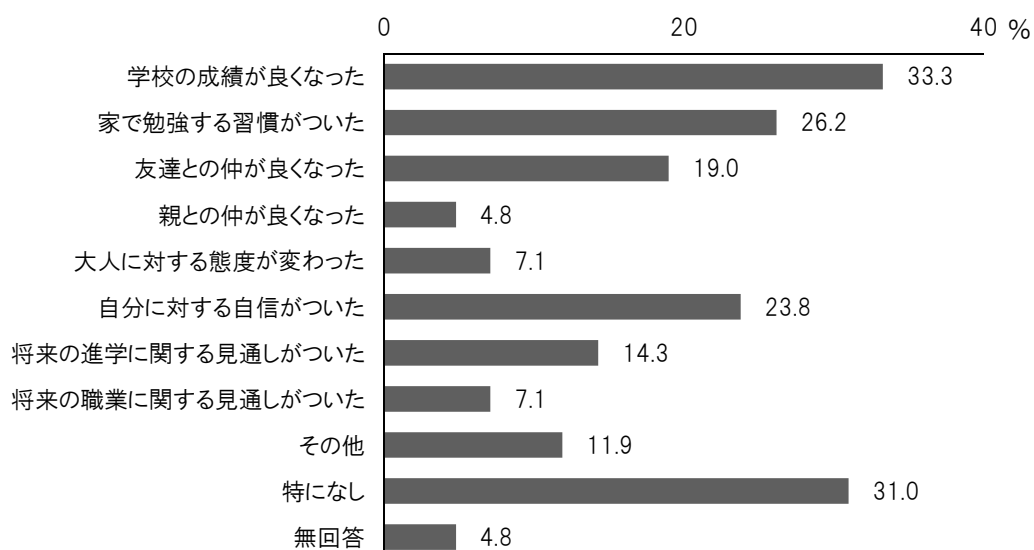


【利用されている方】

Q4 ご利用いただいている主な目的を教えてください。(すべてに○)



Q5 利用するようになってから、お子様の様子に変化があれば教えてください。(すべてに○)

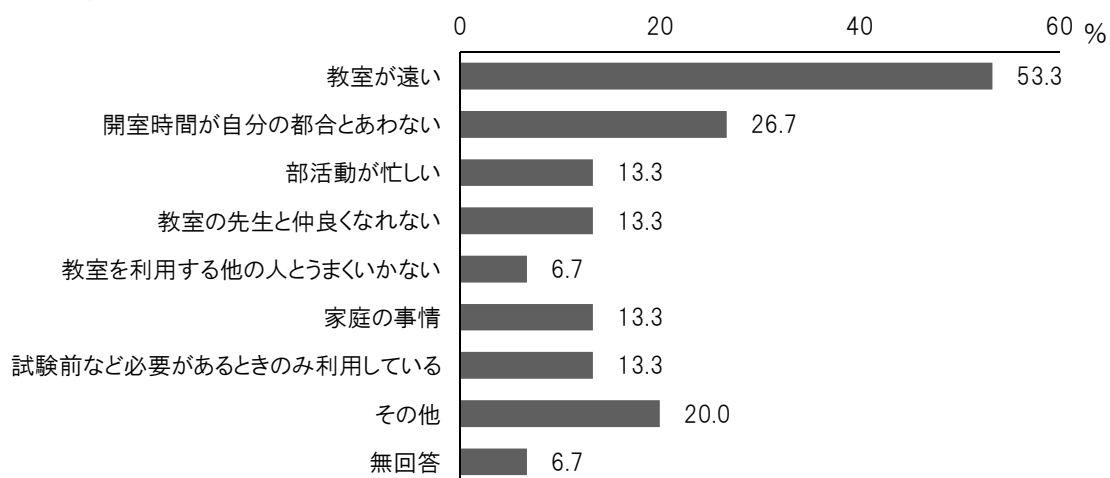


Q6 どのくらいの期間利用されていますか。(兄弟姉妹分すべてに○)

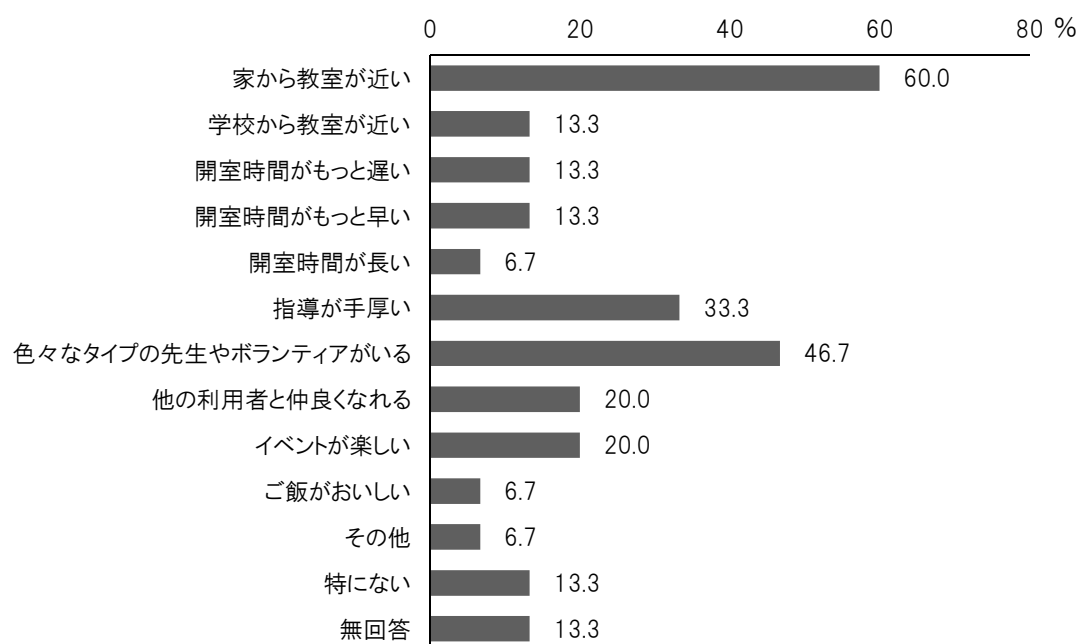


【利用されていない方】

Q7 お子様が学習支援教室をなかなか利用できない理由を教えてください。
(すべてに○)



Q8 どのような教室であれば、通わせたいと思いますか。(すべてに○)



Q9 その他、学習支援事業に関してご意見があればご自由にお書きください。

利用上の感想	● 苦手教科、苦手な単元等まで細かく見た上で必要な資料、アドバイスを頂き、本当にありがたく思っております。 ● 沢山の方々と触れ、その出会いを楽しんでいるようです。とてもありがたいです。 ● いつも大変お世話になっており、ありがとうございます。勉強や資格取得に関することや将来の職業に関する事等にも色々アドバイスや協力等して頂いて、とても感謝しております。今後も宜しくお願い致します。 ● こういった学習ができる場を設けて頂き、非常に感謝しております。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。 ● いつもお世話になっております。母親以外の大人の方とお話できる時間がとても良いようで楽しく通わせて頂いております。これからもよろしくお願い致します。とても助かっております。台風の時など連絡いただけることもとても助かっております。ありがとうございます。 ● いつも利用させてもらっています。勉強はもちろんの事、心のよりどころになっているようでとても助かっています。ありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。 ● いつも本当にありがとうございます。感謝で一杯です。紹介したお友達も喜んでくれました。 ● とても助かっています。もっと早く知りたかったです。私が病気のため市役所まで申し込みに行くのが大変でした。 ● 今年から始めさせて頂いています。初日は本人も緊張しているようでしたが、帰り迎えに行った際、笑顔で楽しかったと言ってました。勉強が苦手ですので、ぜひ宜しくお願い致します。 ● なかなかコミュニケーションをとることが恥ずかしがってしまうところがある。また、本人が勉強に対して、もっと真剣に向き合ってくれたらと思う。本人が通うことが楽しいと思えるようになるといいと思う。 ● 相談にのっていただき、勉強以外でも親子で助かっています。この制度には本当に感謝しています。 ● 食育はとても美味しそうで感謝しております。小学生の子は、大人が敵ではない！のだと接し方が良いのでしょうか。大人の方々のお手伝いが少しずつ出来るようになってきている…のかな？少々反抗期ですがありがたいです。担任の先生からほめられました。 ● なかなか都合があわずテスト前くらいしか集中して通う事が出来ませんが、また宜しくお願いします。 ● 経済的な問題で塾に通わせる事が出来ないのも、学習支援教室はとてもありがたいです。只今受験生なので、どうぞよろしくお願い致します。 ● とても親切にして頂いているようで本当にありがたく思っています。食育も始まり、おなかがすいてしまい勉強に集中できなかったのも今では集中し楽しく行っています。 ● 中学生の頃からお世話になり、今の時代公立 1 本という選択で高校受験という厳しい状況でもスタッフの皆様ののおかげで無事合格でき、高校生の今、指定校推薦での大学進学も期待できる力がつきました。本人の努力もありますが学習支援事業がなければ多分仕方なしに就職する事になっていたと思います。是非今後とも継続、発展をして欲しいです。子どもにたくさんの選択肢を持てる可能性を与えてあげてください。 ● いつも大変お世話になっておりましてありがとうございます。おかげさまで学校の成績は良好です。食事までいただいて本当にありがたいことです。
---------------	---

未利用理由	● 川口市は広いので、川口の端の市役所周辺にまともになってしまうとなかなか利用できません。せめて駅の近くにあると便利かと思います。 ● 部活が終わってしまったら、開室時間が遅い為、家に帰宅してしまい、なかなか最近は通えていなくて、本人が先生方やボランティアの方々を懐かしんでおります。また時間の都合がつけたいと思っております。いつもご親切に頂きありがとうございます。 ● 家から近い教室が少ない。部活をしているので開室時間を遅くしてほしい。間に合わない。先生の人数が少ないので自習になることもある。定期テスト前は、長い時間教えてほしい。学力がなかなか上がらない。教室の行き帰り、暗い道を通るので中央公民館や家の近くの公民館や町内の会館も考えてほしい。 ● いつもお世話になりありがとうございます。夏休みの宿題等では大変助かっております。部活がない時は時間いっぱい教われるのですが、18 時過ぎに帰宅すると教室に着くのが終了 30 分前位になってしまうので、もっと行かせたくても週 1 程度になってしまう…先生方の教え方はとてもわかりやすいと本人はとても満足しているので可能な限りはきちんと行かせたいと思っております。これからも引き続きこのような教室を開いていただきたいと思っています。 ● いつも大変お世話になってとても助かっています。高校生教室が週 2 回になり、行けない時が多くなってしまいました。以前のように中学生教室の片隅にでも行ける場所があるといいなあ…と思います。 ● 高校生になり、部活動やアルバイトなどで忙しくなりなかなか学習支援教室の利用ができなくなり、大変申し訳ありません。 ● 中学の頃は月～金いろいろな教室を利用させていただいて友達もできてありがたく思っています。高校に入ってからアルバイト等でなかなか行けていませんがたまに行った時にはよろしく願いいたします。 ● 仕事をするようになった。週 4～5 日バイト終わってから学校＆部活なかなか時間が合わない。 ● 本人の学習意欲が低く、納得させられないみたいです。 ● 利用していて良かったです。足が遠のいていましたが、気にかけて頂き連絡をもらったので、行きやすくなりました。家では気が散ってしまい集中できませんでしたが、学習教室にまた通えるようになり、レポート提出も無事できました。ありがとうございます。
その他要望	● 開室時間がもう少し長いと良いと思う。勉強内容（やった内容）がわかると良い。 ● 中学 1 年の時に体験しましたが、本人の感想では「他の人たちが黙々と勉強していたり、雰囲気がかかった」と言ってその後行きたくなることがなく残念ながら利用していませんでした。高校になり場所が変わり少し遠くなりますが、少しでも利用できるといいのですが。 ● 自習ルームなど、開室時間以外で自由に使っていい場所があると良い。 ● 自宅での学習方法を具体的に教えて頂きたいです。宿題として与えて頂かないと、なかなか始められないかもしれません。とても情報が乏しいので、受験の情報を知りたい、今から何をどれ位勉強したら良いのか、学校（高校）の情報や費用の準備など。 ● 日本の社会問題のひとつに学生（特に中学生）の自殺などがニュースになっている中で、その予防策として、心理カウンセラーの配置や心のケアにももっと積極性があってもいいかと思う。今は、指導員の方々の家庭訪問などを受けているのでとてもうれしいし心強い。他に悩んでいる子どもたちがいるのではないだろうか。 ● 数回しか通えず、うちの子自身が対人恐怖・反抗的傾向にあったので、何とも言えませんが。ボランティアの方、料理する場が暑くて大変といったような感じでちょっとピリついている方がいて、環境の見直しも必要かもですね。私自身「助けてほしい」と思って行ったのですが、気疲れしてしまいました。 ● 北辰テスト対策も強化してほしいです。

参考資料2 資源量調査結果

1. 資源量調査結果の概要

子どもの貧困対策を進めていくための資料として、地域において現存する資源量及び必要とされる資源量の把握のための調査を実施しました。

■対 象：川口市社会福祉協議会

■調査期間：平成 30 年 12 月

（ヒアリング実施：平成 30 年 12 月 28 日）

■調査方法：調査票をメールにて送付・回収の後、調査票を基にヒアリング

2. 地域で貧困家庭への支援等を行っている団体の現状

現状では、子ども食堂や学習支援などにより、困難を抱える子ども・若者を支援する団体が 13 団体あるほか、子育て支援や障害児・保護者への支援を行う団体がそれぞれ 3 団体、子どものいる外国籍家庭への支援を行う団体が 1 団体となっています。

支援内容の例としては、各団体の活動を通じて、貧困と思われる家庭が見られた場合に、状況に応じて必要となる支援につなげるなど、子どもとその保護者が健やかに生活できるように、支援に努めています。

項目	団体数
困難を抱える子ども・若者を支援する団体	13
子育て支援を行う団体	3
障害児・保護者への支援を行う団体	3
子どものいる外国籍家庭への支援を行う団体	1

3. 地域において、貧困家庭を支えるために今後求められる資源

資源量調査の結果、現在の川口市では、貧困家庭を支えていくための資源量が少ないことがわかりました。

今後は、調査の結果を踏まえて、貧困家庭を支えていくため、教育、生活、保護者への就労支援等、子どもと保護者を取り巻く様々な面での支援が必要と考えられます。特に、支援が必要な子どもや世帯を早い段階で発見することで、貧困化を食い止めることが重要と考えられます。そこで、早期発見と、発見後には必要な支援が行き届くことができるための、仕組みづくり及びネットワーク構築が求められます。

そこで、調査により把握した支援団体に加えて、資源をさらに確保していくための取り組みが必要です。具体的には、ボランティア人材の確保・育成などの人材育成に取り組むことや、地域の既存資源【児童民生委員、PTA、子ども110番の家など】の活用（連携）を実施することなどが考えられます。

一方で、地域の関係機関同士の連携・ネットワークの構築等を進めていくことで、支援団体同士で十分な情報共有がなされ、適切な支援につなげやすくなるなど、資源がより有効に活用される仕組みづくりを行うことも必要です。

参考資料3 調査票

1. 学校調査(小学5年生用)

アンケート全般に関するお問い合わせ等は、以下までお願いいたします。

川口市役所 子ども部 子ども総務課 電話 048-271-9457 (直通)

受付日時 月～金曜日 (祝日を除く) 8:30～17:15

川口市子どもの生活実態調査 (小学校5年生)

このアンケートは、みなさんが毎日どのように過ごしているか、生活の様子やふだん考えていることをお聞きします。

みなさんの声をともに、川口市ができることを考えていくための資料として使います。

このアンケートの答えは、おうちのかたや学校の先生に見られることはありません。

また、名前を記入しないので、あなたが答えたアンケートであることは、だれにもわかりません。安心して自分の思ったとおりに答えてください。

■このアンケート票は、あなた（子ども）が自分で記入してください。

■お父さんやお母さんに見せなくてもよいです。

■名前は、書かないでください。

■答えられない質問や答えたくない質問には、答える必要はありません。

■これはテストではありません。自分が思ったとおりに答えてください。

■答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

【回答例】

例1 あなたは、学校生活が楽しいですか。(○はひとつだけ)

1. 楽しい ② まあ楽しい 3. あまり楽しくない 4. 楽しくない

例2 あなたは、夕ごはんをだれと食べますか。(○はいくつでも)

① 家族(親) ② 家族(兄弟姉妹)

3. その他の家族(おじいちゃん・おばあちゃん) 4. 家族以外の人

■全部書き終わったら、自分で「子ども用 返信ふうとう」に入れて、
としてください。それを、
おうちの方のアンケート票といっしょに、大きい封筒に入れて、とじてから、
7月 13日(金) までに 担任の先生に渡してください。

343

問 1 あなたの性別を教えてください。(Oはひとつだけ)

1. 男 2. 女

学校以外でのふだんの生活の状況についてお聞きます

問 2 あなたがもっているもの、使うことができるものを教えてください。
「持っている」場合は 1 にOをつけてください。
「ないでほしい」場合は 2 にOをつけてください。
「ないけれどもほしくない」場合は 3 にOをつけてください。

	持っている	持っている いので欲しい	持っている いけれど欲 しくない
① 本（教科書やマンガはのぞきます）	1	2	3
② マンガや雑誌	1	2	3
③ 自分の使う部屋 （兄弟姉妹といっしょに使っている場合もふくみます）	1	2	3
④ インターネットにつながるパソコン （兄弟姉妹といっしょに使っている場合もふくみます）	1	2	3
⑤ 携帯電話・スマートフォン	1	2	3
⑥ 勉強机	1	2	3
⑦ スポーツ用品（バット、グローブ、ボール、運動くつ、 ユニフォームなど）	1	2	3
⑧ ほとんどの友達を持っているおもちゃ・ゲーム機	1	2	3
⑨ 自分で選んだ服	1	2	3
⑩ 複数のくつ	1	2	3
⑪ おこづかい	1	2	3

問 3 あなたは、学校からの帰宅後は、どこでだれと過ごしていますか。
「多い」と思う場合は 1 にOをつけてください。
「多くない」「まったくいない」と思う場合は 2 にOをつけてください。

	多い	多くない
① 自分の家で、家族と過ごす	1	2
② 自分の家で、ひとりで過ごす	1	2
③ 自分の家以外の家（親せき・友達）で過ごす	1	2
④ 習い事（スポーツ・音楽・習字・英語など）で先生や友達と過ごす	1	2
⑤ 学習塾で先生や友達と過ごす	1	2
⑥ 公園や児童館・児童センター、図書館で友達などと過ごす	1	2
⑦ 公園や児童館・児童センター、図書館でひとりで過ごす	1	2
⑧ ショッピングセンターやファストフード店で友達などと過ごす	1	2
⑨ ショッピングセンターやファストフード店でひとりで過ごす	1	2

問 4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑩について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。
あなたが「しない」ことは 1 に○をつけてください。
あなたが「する」ことで1回にかける時間が「1時間以内」のものは 2、
1回にかける時間が「1時間～2時間未満」のものは 3、
1回にかける時間が「2時間～3時間未満」のものは 4、
1回にかける時間が「3時間以上」のものは 5 に○をつけてください。

	まったく しない	1時間以内	1時間～ 2時間未満	2時間～ 3時間未満	3時間以上
① 勉強や宿題をする	1	2	3	4	5
② テレビやDVDを見る	1	2	3	4	5
③ 家で本（マンガはのぞく）を読む	1	2	3	4	5
④ 家でマンガや雑誌を読む	1	2	3	4	5
⑤ パソコン・スマホでインターネットやゲームをする	1	2	3	4	5
⑥ 公園や校庭で体を動かす	1	2	3	4	5
⑦ 習い事（スポーツ・音楽・習字・英語など）に行く	1	2	3	4	5
⑧ 学習塾 ¹⁰⁶ に行く	1	2	3	4	5
⑨ 家族と話したり、家の手伝いをする	1	2	3	4	5
⑩ 兄弟姉妹の世話	1	2	3	4	5
⑪ ゲームセンターやカラオケなどで遊ぶ	1	2	3	4	5

問5 あなたは、休日、学校に行かない日は、どこでだれと過ごしていますか。
「多い」と思う場合は 1 に○をつけてください。
「多くない」「まったくない」と思う場合は 2 に○をつけてください。

	多い	多くない
① 自分の家で、家族と過ごす	1	2
② 自分の家で、ひとりで過ごす	1	2
③ 自分の家以外の家（親せき・友達）で過ごす	1	2
④ 習い事（スポーツ・音楽・習字・英語など）で先生や友達と過ごす	1	2
⑤ 学習塾 ¹⁰⁶ で先生や友達と過ごす	1	2
⑥ 公園や児童館・児童センター、図書館で友達などと過ごす	1	2
⑦ 公園や児童館・児童センター、図書館でひとりで過ごす	1	2
⑧ ショッピングセンターやファストフード店で友達などと過ごす	1	2
⑨ ショッピングセンターやファストフード店でひとりで過ごす	1	2
⑩ テーマパークや観光地に、家族とでかける	1	2

問6 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。それぞれについて、○をひとつつけてください。

	使ってみたい	興味がある	使いたくない	使う必要はない
①（家以外で）平日の放課後に夜までいることができる場所	1	2	3	4
②（家以外で）休日にいることができる場所	1	2	3	4
③ 家の人がいない時、夕ご飯をみんなで食べることができる場所	1	2	3	4
④（学校以外で）勉強を無料でみでける場所	1	2	3	4
⑤（学校以外で）勉強、進学、家族のことなど、なんでも相談できる場所	1	2	3	4

学校のことや勉強のことについてお聞きします

問7 学校に行くのは楽しみですか。(Oはひとつだけ)

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問8 学校の授業で使うものを忘れずに準備できますか。(Oはひとつだけ)

1. よくできる 2. だいたいできる 3. あまりできない 4. できない

問9 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(Oはひとつだけ)

1. いつもわかる 2. だいたいわかる 3. あまりわからない
4. わからないことが多い 5. ほとんどわからない

問10 あなたは、これまでに以下のようなことがありますか。それぞれについて、Oをひとつつけてください。

	よくあった	ときどきあった	あまりなかった	なかった	わからない
① 学校に行きたくないと思った	1	2	3	4	5
② 1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)	1	2	3	4	5
③ いじめられた	1	2	3	4	5

問11 家で勉強していてわからないとき、だれに質問をしますか。(Oはひとつだけ)

1. お父さん 2. お母さん 3. 兄弟姉妹 4. 学校の先生 5. 塾の先生
6. 友達 7. その他 8. だれにも質問しない

問12 何か興味のあることを本や図鑑、辞書、インターネットを使って調べますか。(Oはひとつだけ)

1. よく調べる 2. ときどき調べる 3. あまり調べない 4. 調べない

問13 あなたは、この1か月に本（教科書やマンガ・雑誌以外の本）を何冊くらい読みましたか。(Oはひとつだけ)

※自宅以外で読んだ本も数えてください。

※パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本（電子書籍）も数えてください。

1. 読まなかった 2. 1冊 3. 2～3冊 4. 4～5冊
5. 6～7冊 6. 8～11冊 7. 12冊以上

問14 あなたが頑張っていることは何ですか。(Oはいくつでも)

1. 学校での勉強 2. スポーツや習い事 3. 趣味
4. ほかにかんがっていることがある 5. がんばっていることはない

いろいろな人とのかわりについてお聞きします

問15 あなたが一番仲が強い友達は、どのような友達ですか。(Oはひとつだけ)

1. 学校の友達 2. 学校以外の地元や近所に住んでいる友達
3. スポーツ・チームやクラブ活動の友達 4. そのほかの友達
5. 仲の良い友達はいない

問16 人とのかわりについて、ふだんどのように思っていますか。

①から⑤それぞれについて、1～3からあなたの気持ちに近いものをひとつを選んでOをつけてください。

	とてもそう思う	少しはそう思う	そう思わない
① 友達とたくさん遊んでいると思う	1	2	3
② 友達と仲良くしていると思う	1	2	3
③ 友達に好かれていていると思う	1	2	3
④ 学校の先生からよいところを認められていると思う	1	2	3
⑤ 学校の先生と話すのはうれしいと思う	1	2	3

問 17 あなたは話っていることや話みこと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。

「よく話す」場合は 1 に○をつけてください。
「ときどき話す」場合は 2 に○をつけてください。
「話さない」場合は 3 に○をつけてください。
悪い事をしていない、兄弟姉妹がいないなど、いないから話さない場合は 4 に○をつけてください。

	よく話す	ときどき話す	話さない	いない
① お母さん	1	2	3	4
② お父さん	1	2	3	4
③ おばあちゃん・おじいちゃん、いとこなどの親せき	1	2	3	4
④ 兄弟姉妹	1	2	3	4
⑤ 学校の先生	1	2	3	4
⑥ スポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生	1	2	3	4
⑦ スクールカウンセラー	1	2	3	4
⑧ 友達	1	2	3	4
⑨ インターネット上で知り合った人	1	2	3	4

あなたの健康状況についてお聞きします

問 18 あなたは今健康ですか。(○はひとつだけ)

1. 健康だと思う 2. ぶつう 3. あまり健康ではないと思う 4. 健康ではない

問 19 学校に行く日の睡眠時間を教えてください。(○はひとつだけ)

1. 6時間未満 2. 6時間以上7時間未満 3. 7時間以上8時間未満
4. 8時間以上

問 20 お風呂（または、シャワー）に入る回数はどのくらいですか。(○はひとつだけ)

1. ほぼ毎日 2. 2～3日に1回くらい 3. 4日に1回か、それより少ない

問 21 下着（パンツ）を交換する回数はどのくらいですか。(○はひとつだけ)

1. ほぼ毎日 2. 2～3日に1回くらい 3. 4日に1回か、それより少ない

問 22 あなたは、クラスの人たちと比べると、自分をどのように思いますか。次の①～⑤の項目それぞれについて、1～3のうちあてはまるものひとつに○をつけてください。

	選 択 肢		
① 笑い	1. よく笑う方	2. ぶつう	3. あまり笑わない方
② 怒り	1. よく怒る方	2. ぶつう	3. あまり怒らない方
③ 涙	1. よく泣く方	2. ぶつう	3. あまり泣かない方
④ 性格	1. 明るい方	2. ぶつう	3. あまり明るくない方
⑤ 話すこと	1. よくしゃべる方	2. ぶつう	3. あまりしゃべらない方

問 23 あなたは、つぎのことがどれくらいありますか。
「よくある」場合は 1 に○をつけてください。
「ときどきある」場合は 2 に○をつけてください。
「まったくない」場合は 3 に○をつけてください。

	よくある	ときどきある	まったくない
① 部屋の居眠り	1	2	3
② 疲れやすい	1	2	3
③ 朝、食欲がない	1	2	3

問 24 あなたはいつ倦みがきをしますか。(○はひとつだけ)

1. 朝・昼・夜にみがく 2. 朝だけみがく 3. 昼だけみがく
4. 夜だけみがく 5. みがかない

問 25 今、新しい歯や虫歯はありますか。(○はひとつだけ)

1. 1本 2. 2本 3. 3本 4. たくさんある
5. ない 6. わからない

あなたがだんだん考えていることについてお聞きします

問 26 あなたは、次の①から⑦のことについて、どのように思いますか。それぞれについて、○をひとつつけてください。

	とても思う	少しは思う	思わない
① がんばればよいことがあると思う	1	2	3
② 自分には自信があると思う	1	2	3
③ 家で過ごすのは安心できると思う	1	2	3
④ 自分は家族に愛されていると思う	1	2	3
⑤ 自分は人のために役立っていると思う	1	2	3
⑥ 不安を感じることもある	1	2	3
⑦ ひとりであることがさびしいと思う	1	2	3

問 27 どの段階まで進学したいですか。(○はひとつだけ)

1. 中学校 2. 高校 3. 高等専門学校 4. 短期大学
5. 専門学校 6. 4年制大学 7. まだわからない

問 28 将来、なりたい職業や夢はありますか。(○はひとつだけ)

1. ある 2. ない

問 28-1 問 28 で、「1. ある」と答えた方にお聞きします。

あなたのなりたい職業や夢を、親は応援してくれていますか。(○はひとつだけ)

1. 応援してくれている 2. 親には話していない
3. 親の反応がわからない 4. あまり応援してくれていない
5. 反対している

以上でアンケートはおわりです。ご協力ありがとうございました。

2. 学校調査(中学2年生用)

川口市子どもの生活実態調査 (中学校2年生)

このアンケートは、みなさんが毎日どのように過ごしているか、生活の様子やふだん考えていることをお聞きします。

みなさんの声をともに、川口市ができることを考えていくための資料として使うものです。

このアンケートの答えは、おうちのかたや学校の先生に見られることはありません。

また、名前を記入しないので、あなたが答えたアンケートであることは、だれにもわかりません。安心して自分の思ったとおりに答えてください。

■このアンケート票は、あなた（子ども）が自分で記入してください。

■お父さんやお母さんに見せなくてもよいです。

■名前は、書かないでください。

■答えられない質問や答えたくない質問には、答える必要はありません。

■これはテストではありません。自分が思ったとおりに答えてください。

■答えは、あてはまる番号に○をつけてください。



【回答例】

例1 あなたは、学校生活が楽しいですか。(○はひとつだけ)

1. 楽しい ② まあ楽しい 3. あまり楽しくない 4. 楽しくない

例2 あなたは、夕ごはんをだれと食べますか。(○はいくつでも)

- ① 家族(親) ② 家族(兄弟姉妹)
3. その他の家族(おじいちゃん・おばあちゃん) 4. 家族以外の人

■全部書き終わったら、自分で「子ども用 返信ふうとう」に入れて、とじてください。それを、

おうちの方のアンケート票といっしょに、大きい封筒に入れて、とじてから、

7月 13日 (金) までに 担任の先生に渡してください。

アンケート全般に関するお問い合わせ等は、以下までお願いいたします。

川口市役所 子ども部 子ども総務課 電話 048-271-9457 (直通)
受付日時 月～金曜日(祝日を除く) 8:30～17:15

問 1 あなたの性別を教えてください。(Oはひとつだけ)

1. 男 2. 女

学校以外でのふだんの生活の状況についてお聞きます

問 2 あなたがもっているもの、使うことができるものを教えてください。
「持っている」場合は 1 にOをつけてください。
「ないでほしい」場合は 2 にOをつけてください。
「ないけれどもほしくない」場合は 3 にOをつけてください。

	持っている	持っていないで欲しい	持っていないけれども欲しくない
① 本（教科書やマンガはのぞきます）	1	2	3
② マンガや雑誌	1	2	3
③ 自分の使う部屋 （兄弟姉妹といっしょに使っている場合もふくみます）	1	2	3
④ インターネットにつながるパソコン （兄弟姉妹といっしょに使っている場合もふくみます）	1	2	3
⑤ 携帯電話・スマートフォン	1	2	3
⑥ 勉強机	1	2	3
⑦ スポーツ用品（バット、グローブ、ボール、運動くつ、ユニフォームなど）	1	2	3
⑧ ほとんどの友達を持っているおもちゃ・ゲーム機	1	2	3
⑨ 自分で選んだ服	1	2	3
⑩ 複数のくつ	1	2	3
⑪ おこづかい	1	2	3

問 3 あなたは、学校からの帰宅後は、どこでだれと過ごしていますか。
「多い」と思う場合は 1 にOをつけてください。
「多くない」「まったくいない」と思う場合は 2 にOをつけてください。

	多い	多くない
① 自分の家で、家族と過ごす	1	2
② 自分の家で、ひとりで過ごす	1	2
③ 自分の家以外の家（親せき・友達）で過ごす	1	2
④ 習い事（スポーツ・音楽・習字・英語など）で先生や友達と過ごす	1	2
⑤ 学習塾で先生や友達と過ごす	1	2
⑥ 公園や児童館・児童センター、図書館で友達などと過ごす	1	2
⑦ 公園や児童館・児童センター、図書館でひとりで過ごす	1	2
⑧ ショッピングセンターやファストフード店で友達などと過ごす	1	2
⑨ ショッピングセンターやファストフード店でひとりで過ごす	1	2

問 4 あなたは学校からの帰^{かへ}り後、①から⑩について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。
あなたが「しない」ことは 1 に○をつけてください。
あなたが「する」ことで1回にかける時間が「1時間以内」のものは 2、
1回にかける時間が「1時間～2時間未満」のものは 3、
1回にかける時間が「2時間～3時間未満」のものは 4、
1回にかける時間が「3時間以上」のものは 5 に○をつけてください。

	まったく しない	1時間以内	1時間～ 2時間未満	2時間～ 3時間未満	3時間以上
① 勉強や宿題をする	1	2	3	4	5
② テレビやDVDを見る	1	2	3	4	5
③ 家で本（マンガはのぞく）を読む	1	2	3	4	5
④ 家でマンガや雑誌を読む	1	2	3	4	5
⑤ パソコン・スマホでインターネットやゲームをする	1	2	3	4	5
⑥ 公園や校庭で体を動かす	1	2	3	4	5
⑦ 習い事（スポーツ・音楽・習字・英語など）に行く	1	2	3	4	5
⑧ 学習 ^{しゅく} 塾に行く	1	2	3	4	5
⑨ 家族と話したり、家の手伝いをする	1	2	3	4	5
⑩ 兄弟姉妹の世話	1	2	3	4	5
⑪ ゲームセンターやカラオケなどで遊ぶ	1	2	3	4	5

問5 あなたは、休日、学校に行かない日は、どこでだれと過ごしていますか。
「多い」と思う場合は 1 に○をつけてください。
「多くない」「まったくない」と思う場合は 2 に○をつけてください。

	多い	多くない
① 自分の家で、家族と ^{いっしょ} 過ごす	1	2
② 自分の家で、ひとりで ^{ひとりで} 過ごす	1	2
③ 自分の家以外の家（祖 ^お せき・友達）で ^{いっしょ} 過ごす	1	2
④ 習い事（スポーツ・音楽・習字・英語など）で先生や友達と ^{いっしょ} 過ごす	1	2
⑤ 学習 ^{しゅく} 塾で先生や友達と ^{いっしょ} 過ごす	1	2
⑥ 公園や児童館・児童センター、図書館で友達などと ^{いっしょ} 過ごす	1	2
⑦ 公園や児童館・児童センター、図書館でひとりで ^{ひとりで} 過ごす	1	2
⑧ ショッピングセンターやファストフード店で友達などと ^{いっしょ} 過ごす	1	2
⑨ ショッピングセンターやファストフード店でひとりで ^{ひとりで} 過ごす	1	2
⑩ テーマパークや観光地に、家族とで ^{いっしょ} かける	1	2

問6 あなたは、以下のような場所があれば使^{もち}ってみたいと思いますか。それぞれについて、○をひとつつけてください。

	使 ^{もち} って みたい	使 ^{もち} い がある	使 ^{もち} い たくない	使 ^{もち} う必要は ない
①（家以外で）平日の放 ^{はな} 課後に夜まで いることができる場所	1	2	3	4
②（家以外で）休日にいることができ る場所	1	2	3	4
③ 家の人がいない時、夕 ^{ゆふ} ご飯をみんな で食べることができる場所	1	2	3	4
④（学校以外で）勉強 ^{べんきょう} を無料でみてく れる場所	1	2	3	4
⑤（学校以外で）勉強 ^{べんきょう} 、進学、家族の ことなど、なんでも相談できる場所	1	2	3	4

学校のことや勉強のことについてお聞きします

問7 学校に行くのは楽しみですか。(Oはひとつだけ)

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問8 学校の授業で使うものを忘れずに準備できますか。(Oはひとつだけ)

1. よくできる 2. だいたいできる 3. あまりできない 4. できない

問9 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(Oはひとつだけ)

1. いつもわかる 2. だいたいわかる 3. あまりわからない
4. わからないことが多い 5. ほとんどわからない

問10 あなたは、これまでに以下のようなことがありますか。それぞれについて、Oをひとつつけてください。

	よく あった	ときどき あった	あまり なかった	なかった	わからない
① 学校に行きたくないと思った	1	2	3	4	5
② 1か月以上学校を休んだ (病気の時をのぞく)	1	2	3	4	5
③ いじめられた	1	2	3	4	5

問11 家で勉強していてわからないとき、だれに質問をしますか。(Oはひとつだけ)

1. お父さん 2. お母さん 3. 兄弟姉妹 4. 学校の先生 5. 塾の先生
6. 友達 7. その他 8. だれにも質問しない

問12 何か興味のあることを本や図鑑、辞書、インターネットを使って調べますか。
(Oはひとつだけ)

1. よく調べる 2. ときどき調べる 3. あまり調べない 4. 調べない

問13 あなたは、この1か月に本（教科書やマンガ・雑誌以外の本）を何冊くらい読みましたか。
(Oはひとつだけ)

※自宅以外で読んだ本も数えてください。

※パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本（電子書籍）も数えてください。

1. 読まなかった 2. 1冊 3. 2～3冊 4. 4～5冊
5. 6～7冊 6. 8～11冊 7. 12冊以上

問14 あなたが勉強していることは何ですか。(Oはいくつでも)

1. 学校での勉強 2. 部活 3. 部活以外のスポーツや習い事
4. 趣味 5. ほかにがんばっていることがある 6. がんばっていることはない

いろいろな人とのかわりについてお聞きします

問15 あなたが一番仲が良い友達は、どのような友達ですか。(Oはひとつだけ)

1. 学校の友達 2. 学校以外の地元や近所に住んでいる友達
3. スポーツ・チームやクラブ活動の友達 4. 学習塾の友達
5. ネット上で知り合った友達 6. その他の友達 7. 仲の良い友達はいない

問16 人とのかわりについて、ふだんどのように思っていますか。

①から⑤それぞれについて、1～3からあなたの気持ちに近いものをひとつを選んでOをつけてください。

	とてもそう思う	少しはそう思う	そう思わない
① 同性の友達と遊んだり、仲よくして いると思う	1	2	3
② 異性の友達と遊んだり、仲よくして いると思う	1	2	3
③ 友達に好かれていると思う	1	2	3
④ 学校の先生からよいところを 認められていると思う	1	2	3
⑤ 学校の先生と話すのはうれしいと思う	1	2	3

問 17 あなたは話っていることや話みこと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。

「よく話す」場合は 1 に○をつけてください。
「ときどき話す」場合は 2 に○をつけてください。
「話さない」場合は 3 に○をつけてください。
悪い事をしていない、兄弟姉妹がいないなど、いないから話さない場合は 4 に○をつけてください。

	よく話す	ときどき話す	話さない	いない
① お母さん	1	2	3	4
② お父さん	1	2	3	4
③ おばあちゃん・おじいちゃん、いとこなどの親せき	1	2	3	4
④ 兄弟姉妹	1	2	3	4
⑤ 学校の先生	1	2	3	4
⑥ スポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生	1	2	3	4
⑦ スクールカウンセラー	1	2	3	4
⑧ 友達	1	2	3	4
⑨ インターネット上で知り合った人	1	2	3	4

あなたの健康状況についてお聞きします

問 18 あなたは今健康ですか。(○はひとつだけ)

1. 健康だと思う 2. ぶつう 3. あまり健康ではないと思う 4. 健康ではない

問 19 学校に行く日の睡眠時間を教えてください。(○はひとつだけ)

1. 6時間未満 2. 6時間以上7時間未満 3. 7時間以上8時間未満
4. 8時間以上

問 20 お風呂（または、シャワー）に入る回数はどのくらいですか。(○はひとつだけ)

1. ほぼ毎日 2. 2～3日に1回くらい 3. 4日に1回か、それより少ない

問 21 下着（パンツ）を交換する回数はどのくらいですか。(○はひとつだけ)

1. ほぼ毎日 2. 2～3日に1回くらい 3. 4日に1回か、それより少ない

問 22 あなたは、クラスの人たちと比べると、自分をどのように思いますか。次の①～⑤の項目それぞれについて、1～3のうちあてはまるものひとつに○をつけてください。

	選 択 肢		
① 笑い	1. よく笑う方	2. ぶつう	3. あまり笑わない方
② 怒り	1. よく怒る方	2. ぶつう	3. あまり怒らない方
③ 涙	1. よく泣く方	2. ぶつう	3. あまり泣かない方
④ 性格	1. 明るい方	2. ぶつう	3. あまり明るくない方
⑤ 話すこと	1. よくしゃべる方	2. ぶつう	3. あまりしゃべらない方

問 23 あなたは、つぎのことがどれくらいありますか。
「よくある」場合は 1 に○をつけてください。
「ときどきある」場合は 2 に○をつけてください。
「まったくない」場合は 3 に○をつけてください。

	よくある	ときどきある	まったくない
① 部屋の居眠り	1	2	3
② 疲れやすい	1	2	3
③ 朝、食欲がない	1	2	3

問 24 あなたはいつ歯みがきをしますか。(○はひとつだけ)

1. 朝・昼・夜にみがく 2. 朝だけみがく 3. 昼だけみがく
4. 夜だけみがく 5. みがかない

問 25 今、新しい歯や虫歯はありますか。(○はひとつだけ)

1. 1本 2. 2本 3. 3本 4. たくさんある
5. ない 6. わからない

あなたがだんだん考えていることについてお聞きします

問 26 あなたは、次の①から⑦のことについて、どのように思いますか。それぞれについて、○をひとつつけてください。

	とても思う	少しは思う	思わない
① がんばればよいことがあると思う	1	2	3
② 自分には自信があると思う	1	2	3
③ 家で過ごすのは安心できると思う	1	2	3
④ 自分は家族に愛されていると思う	1	2	3
⑤ 自分は人のために役立っていると思う	1	2	3
⑥ 不安を感じることもある	1	2	3
⑦ 孤独を感じることもある	1	2	3

問 27 どの段階まで進学したいですか。(○はひとつだけ)

1. 中学校 2. 高校 3. 高等専門学校 4. 短期大学
5. 専門学校 6. 4年制大学 7. まだわからない

問 28 将来、なりたい職業や夢はありますか。(○はひとつだけ)

1. ある 2. ない

問 28-1 問 28 で、「1. ある」と答えた方にお聞きします。

あなたのなりたい職業や夢を、親は応援してくれていますか。(○はひとつだけ)

1. 応援してくれている 2. 親には話していない
3. 親の反応がわからない 4. あまり応援してくれていない
5. 反対している

以上でアンケートはおわりです。ご協力ありがとうございました。

3. 学校調査(保護者用)

【お問い合わせ】

アンケート全般に関するお問い合わせ等は、以下までお願いいたします。

川口市役所 子ども部 子ども総務課 電話 048-271-9457 (直通)

受付日時 月～金曜日 (祝日を除く) 8:30～17:15

【回答方法】

- ・選択式の欄間に関しては、ご自身が選ばれた選択肢の番号に○をつけてください。
- ・「○はひとつだけ」「あてはまる番号すべてに○」の表記がある場合は、その指示に従って○をつけるようにしてください。

【回答例】

〔良い例〕

① 午前5時より前

5 午前8時台

〔悪い例〕

① 午前5時より前

5 午前8時台

【このアンケートで使うことばの意味について】

- ・「お子さん」＝ このアンケートの対象となっているお子さん
- ・「お子さん(兄弟姉妹を含む)」＝ このアンケートの対象となっているお子さんとその兄弟姉妹など、ご家庭内で養育するすべてのお子さん
- ・「あなた」＝ このアンケートに回答している方
- ・「家族」＝ 同居が別居にかかわらず、生計が同じである家族
たとえば、単身赴任をしている方やひとり暮らしのお子さんも、生計が同じであれば、「家族」に含まれます
- ・「家庭」＝ 「家族」に同じ

川口市子どもの生活実態調査(保護者用)

このアンケートは、川口市にお住まいの子育てをしている保護者の方に、子育ての実態やお子様の生活についてお聞きするものです。

寄せられたみなさまの声は、川口の子どもたちと子育てをしているみなさまのお役にたてるよう、川口市の子育て支援策・教育施策づくりに活かしてまいります。お忙しいところ大変恐縮ですが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、お願いいたします。

なお、このアンケートは市内の小学校5年生、中学校2年生の児童・生徒とその保護者の方を対象に実施しています。兄弟姉妹で、アンケート票が複数届いた場合、お手数ですが、それぞれのアンケート票に回答くださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

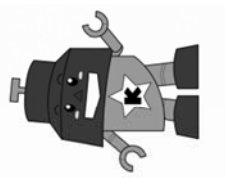
また、いただいた結果については埼玉県に情報提供いたします。

【回答にあたってのお願い】

- ・このアンケートは、保護者の方がお答えください。
- ・回答はすべて統計的に処理し、このアンケート票の情報が特定されることはありません。
- ・このアンケートは無記名で行います。アンケート票に氏名や個人を特定できる情報等を記入しないようお願いいたします。
- ・答えられない質問やお答えになりたくない質問については、お答えいただく必要はありません。
- ・回答にあたっては、鉛筆またはボールペンを使用してください。

【提出の方法】

- ・ご記入いただいたアンケート用紙は、「保護者用返信封筒」に入れて、他の人がアンケート用紙を見ることができないように封をしてください。
- ・封筒に氏名をご記入いただく必要はありません。
- ・「配布・回収封筒」にお子さんが書かれたアンケート票と一緒に入れ、封をしてから、7月 13日(金)までに 学校の担任の先生に提出してください。



子育て支援事業の利用状況についてお聞きします

問1 あなたは、子育てや暮らしに関する情報はどこから手に入れますか。
(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分の親
2. 配偶者
3. 兄弟姉妹や親せき
4. 身近な人(友人や同僚、地域の人)
5. 子どもが通う保育園、幼稚園、学校の先生
6. 市役所等の窓口
7. 広報かわぐち・市のホームページ
8. インターネットの相談サイトや子育て関連のSNS(ツイッターなど)
9. その他

問2 現在、お子さん(兄弟姉妹を含む)のことで悩んでいることはありませんか。
(あてはまる番号すべてに○)

1. 子どもと過ごす時間が持てない
2. 子どもとの関わり方
3. 子どもの病気や障がい
4. 子どもの反抗や暴言・暴力
5. 子どもの不登校やひきこもり
6. 子どもとの友達関係やいじめ
7. 他の保護者との関係
8. 学校の先生との関係
9. 家族間での教育方針の違い
10. その他
11. 特に悩みはない

問3 あなたはお子さんに関する相談について、どこに相談しますか。
(あてはまる番号すべてに○)

	A 子どもの発達や学校に関する相談	B 子どもの健康や発育に関する相談	C 子どもの問題行動やしつけに関する相談
家族(配偶者や自分の親・兄弟姉妹・親せきなど)	1	1	1
身近な人(友人や同僚、地域の人など)	2	2	2
子どもが通う学校の先生	3	3	3
市役所や児童相談所などの行政の相談窓口	4	4	4
相談できる人はいない	5	5	5

問4 あなたは、子育てに限らず暮らしの中で困ったときに以下の公的機関に相談しますか。(A～Iそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○)

	相談する	相談しない
A 市役所の窓口	1	2
B 子育て支援センター、子育て支援拠点(子育てサポートプラザ、子育てひろばポッポ、近くの保育園、公民館など)	1	2
C 児童相談所	1	2
D 子どもが通う学校、保育園、幼稚園の先生	1	2
E 子どもが通う学校のスクールカウンセラー	1	2
F 地域の民生委員・児童委員	1	2
G 社会福祉協議会	1	2
H 地域保健センター	1	2
I ハローワーク	1	2

問5 お子さんの具合が悪い時や、あなたに用事があるときに、頼ることができる親せきや友人はいますか。(○はひとつだけ)

1. いる
2. いない

問 6 あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。
(A～Jそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください)

	利用した ことがある	知っている 方がわから ない	知っている が利用資格 がない	支援制度を 知らない	利用したい と思わない
A 子育て支援センター、 子育て支援拠点 (子育てサポートプラザ、 子育てひろばほか)、 子育ての相談、公民館など)	1	2	3	4	5
B ファミリー・サポート・ センター	1	2	3	4	5
C 訪問支援・ ホームスタート	1	2	3	4	5
D 病児・病後児保育	1	2	3	4	5
E 一時預かり(一時保育)	1	2	3	4	5
F 児童センター	1	2	3	4	5
G 子ども食堂	1	2	3	4	5
H 生活福祉資金	1	2	3	4	5
I 母子及び父子並びに 寡婦福祉資金	1	2	3	4	5
J 生活困窮者自立相談 生活自立・仕事相談	1	2	3	4	5

(用語の説明)

子育て支援センター、子育て 支援拠点	主に乳幼児のお子さんと保護者の方が親子で過ごしながら子育ての不安や 悩みを相談できる施設
ファミリー・サポート・ センター	育児や介護の手伝いをしてほしい方(利用会員)と育児や介護のお手伝い をしたい方(提供会員)を登録して、育児や介護、家事を手伝ってもら うことで、子育てをする家庭を支援する制度
訪問支援・ホームスタート	地域の子育て経験のあるボランティアが子育てする家庭を訪問し、一緒に 話を聞いたり、一緒に家事や育児・外出などをして、子育てをする家庭を サポートする制度
生活福祉資金	所得が一定以下の世帯等を対象とした、低利または無利子の資金を貸付す る制度 (社会福祉協議会で受付)
母子及び父子並びに寡婦福祉 資金	ひとり親世帯を対象とした、低利または無利子の資金を貸付する制度 (市役所で受付)
生活困窮者自立相談 生活自立・仕事相談	生活に困窮し、仕事や住まいなど生活全般のお困りごとについて、自立で 生きるよう支援する相談窓口

あなたとあなたのご家族のことについてお聞きます

問 7 お子さんとあなたの関係は、次のどれにあたりますか。(○はひとつだけ)

1. 母親
2. 父親
3. 祖父
4. 祖母
5. 兄
6. 姉
7. その他の親せき
8. その他

問 8 お子さんのお母さんの現在の年齢を教えてください。(○はひとつだけ)

1. 20 歳未満
2. 20～24 歳
3. 25～29 歳
4. 30～34 歳
5. 35～39 歳
6. 40～44 歳
7. 45～50 歳
8. 51 歳以上

問 9 お子さんのお父さんの現在の年齢を教えてください。(○はひとつだけ)

1. 20 歳未満
2. 20～24 歳
3. 25～29 歳
4. 30～34 歳
5. 35～39 歳
6. 40～44 歳
7. 45～50 歳
8. 51 歳以上

問 10 あなたとお子さんを含めた、家族全員の人数は何人ですか。(単身赴任やひとり暮らしの
お子さんなど、別居していても生計を一緒にする方はすべて含みます。)
(○はひとつだけ)

1. 2 人
2. 3 人
3. 4 人
4. 5 人
5. 6 人
6. 7 人
7. 8 人
8. 9 人
9. 10 人以上

問 11 お子さんと同居しているご家族の方はどなたですか。兄弟姉妹については、人数も教えて
ください。(あてはまるものすべてに○。人数はカッコの中に数字で回答してください。)

1. 父親
2. 母親
3. 祖父
4. 祖母
5. 曾祖父
6. 曾祖母
7. 兄弟姉妹 (人)
8. 親せき
9. その他の人

問 12 お子さんのご両親の国籍にあてはまる番号を、それぞれ教えてください。(A～Bそれぞれ
について、あてはまる番号ひとつに○)

A お母さん	1. 日本	2. 日本以外
B お父さん	1. 日本	2. 日本以外

お子さんのお母さん、お父さんの仕事についてお聞きます

お子さんのお母さんについて

問 13 お子さんのお母さんの現在の職業の雇用形態は、どれになりますか。(○はひとつだけ)

※ 現在、お子さんとお母さんが生計を一緒にしている場合は、問 14 に選んでください

1. 正社員・正規職員 2. パート・アルバイト 3. 契約社員・非正規職員
4. 人材派遣会社からの派遣社員 5. 自営業・家業 6. その他の職業
7. 働いていない

問 13-1 問 13 で「7. 働いていない」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお母さんの生活の状況をおしえてください。(○はひとつだけ)

1. 家事・育児に専念 2. 病気療養 3. 求職中 4. 家族の介護 5. 学生
6. その他

問 13-2 問 13 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお母さんは、1 週間のうち、どのくらい仕事をしていますか。(○はひとつだけ)

1. 1 日 2. 2 日 3. 3 日 4. 4 日
5. 5 日 6. 6 日 7. 7 日

問 13-3 問 13 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお母さんは、1 日あたり平均何時間ぐらい仕事をしていますか。(○はひとつだけ)

■ 複数のお仕事をしている場合は合わせた時間数をお答えください。

1. 2 時間未満 2. 2 ～ 4 時間未満 3. 4 ～ 6 時間未満 4. 6 ～ 8 時間未満
5. 8 ～ 10 時間未満 6. 10 ～ 12 時間未満 7. 12 時間以上

問 13-4 問 13 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお母さんの、概ねの帰宅時間を教えてください。(○はひとつだけ)

1. 18 時まで 2. 18 ～ 20 時の間 3. 20 ～ 22 時の間
4. 22 ～ 24 時の間 5. その他 () 時頃
6. 交替制勤務で帰宅時間は決まっていない

お子さんのお父さんについて

問 14 お子さんのお父さんの現在の職業の雇用形態は、どれになりますか。(○はひとつだけ)

■ 現在、お子さんとお父さんが生計を一緒にしている場合は、問 15 に選んでください

1. 正社員・正規職員 2. パート・アルバイト 3. 契約社員・非正規職員
4. 人材派遣会社からの派遣社員 5. 自営業・家業 6. その他の職業
7. 働いていない

問 14-1 問 14 で「7. 働いていない」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお父さんの生活の状況をおしえてください。(○はひとつだけ)

1. 家事・育児に専念 2. 病気療養 3. 求職中 4. 家族の介護 5. 学生
6. その他

問 14-2 問 14 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお父さんは、1 週間のうち、どのくらい仕事をしていますか。(○はひとつだけ)

1. 1 日 2. 2 日 3. 3 日 4. 4 日
5. 5 日 6. 6 日 7. 7 日

問 14-3 問 14 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお父さんは、1 日あたり平均何時間ぐらい仕事をしていますか。(○はひとつだけ)

■ 複数のお仕事をしている場合は合わせた時間数をお答えください。

1. 2 時間未満 2. 2 ～ 4 時間未満 3. 4 ～ 6 時間未満 4. 6 ～ 8 時間未満
5. 8 ～ 10 時間未満 6. 10 ～ 12 時間未満 7. 12 時間以上

問 14-4 問 14 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお父さんの、概ねの帰宅時間を教えてください。(○はひとつだけ)

1. 18 時まで 2. 18 ～ 20 時の間 3. 20 ～ 22 時の間
4. 22 ～ 24 時の間 5. その他 () 時頃
6. 交替制勤務で帰宅時間は決まっていない

お子さんの健康状況についてお聞きます

問 15 これまでに、お子さんを医療機関に連れていった方がよいと思っただが、実際には連れていかなかったことがありますか。(○はひとつだけ)

- 1. あった
- 2. なかった

問 15-1 問 15 で「1. あった」を選んだ方にお伺いします。
医療機関に連れていかなかった理由のうち、最も近いものに○をつけてください。
(○はひとつだけ)

- 1. 保険証を持っておらず、医療費の支払いができなかったため
- 2. 保険証は持っていたが、医療機関の窓口での支払いができなかったため
- 3. 子ども本人が受診したがいなかったため
- 4. 医療機関が遠く、通院が困難だったため
- 5. 忙しくて医療機関に連れて行く時間がなかったため
- 6. 最初は受診させようと思っただけれど、様子を見て受診の必要はないと判断したため
- 7. あなた自身の体調が悪くて行けなかったため
- 8. その他

問 16 お子さんは、普段、朝食を食べていますか、この 1 か月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。(○はひとつだけ)

- 1. 毎日食べる
- 2. 食べる方が多い (週 4～6 日)
- 3. 食べない方が多い (週 1～3 日)
- 4. ほとんど食べない

問 17 お子さんは、夕食を誰と食べることが多いですか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1. 親
- 2. 兄弟
- 3. 祖父母
- 4. 子ども 1 人
- 5. その他 ()
- 6. 食べない

問 17-1 問 17 で「2. 兄弟」のみ、または「4. 子ども 1 人」を選んだ方にお伺いします。
お子さんが夕食を子どもだけで食べる最も大きな理由はなんですか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1. 働いている保護者の帰宅が遅いから
- 2. 保護者が夜間の仕事で不在となるから
- 3. 本人が学校、部活動、習い事・塾などで帰宅が遅くなるから
- 4. 保護者が育児・介護などで忙しいから
- 5. その他 ()

問 18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この 1 か月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。
(A～J それぞれについて、あてはまる番号ひとつに○)

	毎日 食べる	食べる方が 多い (週 4～6 日)	食べない方 が多い (週 1～3 日)	ほとんど 食べない
A 穀類 (ごはん、パン、シリアルなど)	1	2	3	4
B 魚・肉・卵・大豆 (加工食品も含む)	1	2	3	4
C 野菜	1	2	3	4
D 果物	1	2	3	4
E 牛乳・乳製品 (チーズ、ヨーグルト など)	1	2	3	4
F 甘い飲み物 (炭酸飲料、スポーツ ドリンクなど)	1	2	3	4
G お菓子 (食事として)	1	2	3	4
H お菓子 (間食として)	1	2	3	4
I インスタントラーメンやカップ麺	1	2	3	4
J ファーストフード	1	2	3	4

問 19 お子さんの歯や口のことで、気になることがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1. 歯の汚れ
- 2. むし歯
- 3. 歯ぐきから血が出る・はれている
- 4. 歯ならび
- 5. かみ合わせ
- 6. 口のにおい
- 7. 歯のはえかわり
- 8. 臭にならない

問 20 お子さんは毎食後に歯をみがいていますか。(○はひとつだけ)

- 1. 必ずみがいている
- 2. だいたいみがいている
- 3. ほとんどみがいていない
- 4. 全くみがいていない
- 5. わからない

子育てや教育についてお聞きします

問 21 あなたは、お子さんとよく会話をしますか。(○はひとつだけ)

- 1. よくする
- 2. たまにする
- 3. あまりしない
- 4. これまで特にしたことがない

問 22 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。
(A～Fそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○)

	毎日ある	週に3日 ～4日	週に1日 ～2日	全くない
A お子さんができたことや頑張ったことをほめて、一緒に喜ぶ	1	2	3	4
B お子さんの気持ちを言葉にする	1	2	3	4
C お子さんの学校での出来事について、じっくり耳を傾けて聴く	1	2	3	4
D お子さんとの将来の夢について話す	1	2	3	4
E お子さんが興味を持ったことを一緒に調べる	1	2	3	4
F お子さんに家でお手伝いをさせている	1	2	3	4

問 23 あなたのご家庭では、お子さんの学校行事へ参加していますか。(○はひとつだけ)

- 1. 参加している
- 2. できるだけ参加するようにしている
- 3. 時間がないためあまり参加していない
- 4. 参加していない
- 5. その他

問 24 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。
(A～Kそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○)

	している	していない したくない (方針でない)	していない
A 毎月お小遣いを渡す	1	2	3
B 毎年新しい洋服・靴を買う	1	2	3
C 子どもの年齢にあった本を買う	1	2	3
D 子ども用のスポーツ用品・おもちゃを買う	1	2	3
E 自宅で抱腹をすることができるところを与える	1	2	3
F 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる	1	2	3
G 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)	1	2	3
H お誕生日のお祝いをする	1	2	3
I 買い物やレジャー施設に行く	1	2	3
J 1年に1回くらい家族旅行に行く	1	2	3
K クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	1	2	3

問 25 お子さんが持ち書いて勉強できる環境がありますか。(○はひとつだけ)

- 1. ある
- 2. ない

問 26 あなたは、お子さんの将来(夢・進路・職業等)について、お子さんと一緒に考えたり、話すことがありますか。(○はひとつだけ)

- 1. よくする
- 2. たまにする
- 3. あまりしない
- 4. これまで特にしたことがない

問 27 お子さんにどの段階までの教育を受けさせたいですか。(○はひとつだけ)

- 1. 中学
- 2. 高校
- 3. 高等専門学校
- 4. 短大
- 5. 専門学校
- 6. 四年制大学またはそれ以上
- 7. まだわからない
- 8. その他

現在の暮らしについてお聞きします

問 28 昨年 1 年間 (2017 年 1 月～2017 年 12 月) のご家族の手取り収入 (税金や保険料を引いた、実額に手元に入ってくるお金) の額を教えてください。(就労で得た収入のほか、公的な手当や援助による収入なども含めた 1 年間の手取り収入になります。)(Oはひとつだけ)

- 1. 収入はない (0 円) 2. 1～50 万円未満 3. 50～100 万円未満
- 4. 100～175 万円未満 5. 175～210 万円未満 6. 210～245 万円未満
- 7. 245～275 万円未満 8. 275～300 万円未満 9. 300～350 万円未満
- 10. 350～400 万円未満 11. 400～500 万円未満 12. 500～600 万円未満
- 13. 600～700 万円未満 14. 700～800 万円未満 15. 800～900 万円未満
- 16. 900～1,000 万円未満 17. 1,000～1,500 万円未満 18. 1,500 万円以上

問 29 あなたのご家庭で受けている公的年金、社会手当などの社会保障給付金があれば、すべてにOをつけてください。

- 1. 児童手当 2. 児童扶養手当 3. 特別児童扶養手当
- 4. 特別障害者手当 5. 育児休業給付 (雇用保険) 6. 失業給付 (雇用保険)
- 7. 傷病手当金 8. 生活保護 9. 公的年金 (老齢年金)
- 10. 公的年金 (遺族年金) 11. 公的年金 (障害年金) 12. 就学援助
- 13. その他

問 30 現在の貯金額はどのくらいですか。ご家族の貯金すべての合計金額でお答えください (Oはひとつだけ)

- 1. 貯金はない 2. 10 万円未満 3. 10～50 万円未満
- 4. 50～100 万円未満 5. 100～300 万円未満 6. 300～500 万円未満
- 7. 500～1,000 万円未満 8. 1,000 万円以上 9. わからない

問 31 現在の住居形態について教えてください。(Oはひとつだけ)

- 1. あなた (または配偶者 (夫または妻)) の持ち家 2. 親や親せきの持ち家
- 3. 公営住宅 (県営住宅・市営住宅等) 4. 公団住宅 (都市再生機構 (UR) 等)
- 5. 社宅 6. 民間の賃貸住宅
- 7. その他

問 32 あなたのご家族の現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。(Oはひとつだけ)

- 1. 大変苦しい 2. やや苦しい 3. 普通 4. ややゆとりがある 5. 十分ゆとりがある

問 33 あなたのご家庭では、過去 1 年間の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料または衣類が買えないことがありましたか。(Oはひとつだけ)

- 1. よくあった 2. ときどきあった 3. なかった

問 34 あなたのご家庭では、過去 1 年間に、経済的な理由のために以下のA～Hの費用を支払えないことがありましたか。(A～Hそれぞれについて、あてはまる番号ひとつにO)

	あった	なかった	払う必要がない (該当しない)
A 電話料金	1	2	3
B 電気料金	1	2	3
C ガス料金	1	2	3
D 水道料金	1	2	3
E 家賃	1	2	3
F 住宅ローン	1	2	3
G 税金・国民健康保険料	1	2	3
H 借入金(クレジットカード含む)	1	2	3

問 35 あなたの家庭のすべてのお子さんの保育料、学校教育、学習費、習い事等にかかる毎月のおおよその金額を教えてください。(○はひとつだけ)

1. 1万円未満 2. 1～2万円未満 3. 2～4万円未満
4. 4～6万円未満 5. 6～8万円未満 6. 8～10万円未満
7. 10～12万円未満 8. 12～14万円未満 9. 14万円以上

問 36 今後、教育を受けさせるための、お金の準備はできていますか。
(もっとも近いものひとつに○)

1. 十分準備できている 2. 準備を始めている 3. 全く準備できていない

ご両親のこれまでの経歴についてお聞きます

お子さんのお母さんについて

問 37 お子さんのお母さんが、最後に通った学校はどちらになりますか。(○はひとつだけ)

※ 現在お子さんとお母さんが生計を一緒にしていない場合は、問 40 に進んでください

1. 中学校 2. 高等学校 (全日制) 3. 高等学校 (定時制または通信制)
4. 高等専修学校 (中学校卒業後に通う) 5. 高等専門学校 (中学校卒業後に通う)
6. 短期大学 7. 専門学校 (高校卒業後に通う) 8. 大学 9. 大学院
10. その他 11. わからない

問 38 お子さんのお母さんは、問 37 で回答した学校を卒業されましたか。(○はひとつだけ)

1. 卒業した 2. 中途退学した

問 39 お子さんのお母さんが 中学3年(15 歳)頃のご家庭の経済状況について、教えてください。
(もっとも近いものひとつに○)

1. 大変ゆとりがあった 2. ややゆとりがあった 3. 普通
4. やや苦しかった 5. 大変苦しかった 6. わからない

お子さんのお父さんについて

問 40 お子さんのお父さんが、最後に通った学校はどちらになりますか。(○はひとつだけ)

※ 現在お子さんとお父さんが生計を一緒にしていない場合、問 40～問 42 は回答する必要はありません。

1. 中学校 2. 高等学校 (全日制) 3. 高等学校 (定時制または通信制)
4. 高等専修学校 (中学校卒業後に通う) 5. 高等専門学校 (中学校卒業後に通う)
6. 短期大学 7. 専門学校 (高校卒業後に通う) 8. 大学 9. 大学院
10. その他 11. わからない

問 41 お子さんのお父さんは、問 40 で回答した学校を卒業されましたか。(○はひとつだけ)

1. 卒業した 2. 中途退学した

問 42 お子さんのお父さんが中学3年(15 歳)頃のご家庭の経済状況について、教えてください。
(もっとも近いものひとつに○)

1. 大変ゆとりがあった 2. ややゆとりがあった 3. 普通
4. やや苦しかった 5. 大変苦しかった 6. わからない

以上でアンケートはおわりです。ご協力ありがとうございました。

4. 生活保護調査(小学生用)

川口市子どもの生活実態調査(小学生用)

このアンケートは、みなさんが毎日どのように過ごしているか、生活の様子やふだん考えていることをお聞きします。

みなさんの声をもとに、川口市ができることを考えていくための資料として使うものです。

このアンケートの答えは、おうちのかたや学校の先生に見られることはありません。

また、名前を記入しないので、あなたが答えたアンケートであることは、だれにもわかりません。安心して自分の思ったとおりに答えてください。

■このアンケート票は、あなた（子ども）が自分で記入してください。

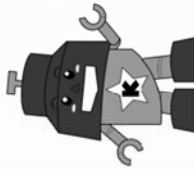
■お父さんやお母さんに見せなくてもよいです。

■名前は、書かないでください。

■答えられない質問や答えたくない質問には、答える必要はありません。

■これはテストではありません。自分が思ったとおりに答えてください。

■答えは、あてはまる番号に○をつけてください。



【回答例】

例1 あなたは、学校生活が楽しいですか。(○はひとつだけ)

1. 楽しい ② まあ楽しい 3. あまり楽しくない 4. 楽しくない

例2 あなたは、夕ごはんをだれと食べますか。(○はいくつでも)

- ① 家族(親) ② 家族(兄弟姉妹)
3. その他の家族(おじいちゃん・おばあちゃん) 4. 家族以外の人

■全部書き終わったら、自分で「子ども用 返信ふうとう」に入れて、

とじてください。それを、

おうちの方のアンケート票といっしょに、大きい封筒に入れてください。

アンケート全般に関するお問い合わせ等は、以下までお願いいたします。

川口市役所 子ども部 子ども総務課 電話 048-271-9457 (直通)
受付日時 月～金曜日(祝日を除く) 8:30～17:15

問 1 あなたの性別を教えてください。(Oはひとつだけ)

1. 男 2. 女

学校以外でのふだんの生活の状況についてお聞きます

問 2 あなたがもっているもの、使うことができるものを教えてください。
「持っている」場合は 1 にOをつけてください。
「ないでほしい」場合は 2 にOをつけてください。
「ないけれどもほしくない」場合は 3 にOをつけてください。

	持っている	持っていないので欲しい	持っていないけれど欲しくない
① 本（教科書やマンガはのぞきます）	1	2	3
② マンガや雑誌	1	2	3
③ 自分の使う部屋（兄弟姉妹といっしょに使っている場合もふくみます）	1	2	3
④ インターネットにつながるパソコン（兄弟姉妹といっしょに使っている場合もふくみます）	1	2	3
⑤ 携帯電話・スマートフォン	1	2	3
⑥ 勉強机	1	2	3
⑦ スポーツ用品（バット、グローブ、ボール、運動くつ、ユニフォームなど）	1	2	3
⑧ ほとんどの友達が持っているおもちゃ・ゲーム機	1	2	3
⑨ 自分で選んだ服	1	2	3
⑩ 複数のくつ	1	2	3
⑪ おこづかい	1	2	3

問 3 あなたは、学校からの帰宅後は、どこでだれと過ごしていますか。
「多い」と思う場合は 1 にOをつけてください。
「多くない」「まったくない」と思う場合は 2 にOをつけてください。

	多い	多くない
① 自分の家で、家族と過ごす	1	2
② 自分の家で、ひとりで過ごす	1	2
③ 自分の家以外の家（親せき・友達）で過ごす	1	2
④ 習い事（スポーツ・音楽・習字・英語など）で先生や友達と過ごす	1	2
⑤ 学習塾で先生や友達と過ごす	1	2
⑥ 公園や児童館・児童センター、図書館で友達などと過ごす	1	2
⑦ 公園や児童館・児童センター、図書館でひとりで過ごす	1	2
⑧ ショッピングセンターやファストフード店で友達などと過ごす	1	2
⑨ ショッピングセンターやファストフード店でひとりで過ごす	1	2

問 4 あなたは学校からの帰る後、①から⑩について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。
あなたが「しない」ことは 1 に○をつけてください。
あなたが「する」ことで1回にかける時間が「1時間以内」のものは 2、
1回にかける時間が「1時間～2時間未満」のものは 3、
1回にかける時間が「2時間～3時間未満」のものは 4、
1回にかける時間が「3時間以上」のものは 5 に○をつけてください。

	まったく しない	1時間以内	1時間～ 2時間未満	2時間～ 3時間未満	3時間以上
① 勉強や宿題をする	1	2	3	4	5
② テレビやDVDを見る	1	2	3	4	5
③ 家で本（マンガはのぞく）を読む	1	2	3	4	5
④ 家でマンガや雑誌を読む	1	2	3	4	5
⑤ パソコン・スマホでインターネットやゲームをする	1	2	3	4	5
⑥ 公園や校庭で体を動かす	1	2	3	4	5
⑦ 習い事（スポーツ・音楽・習字・英語など）に行く	1	2	3	4	5
⑧ 学習塾 ¹⁰⁶ に行く	1	2	3	4	5
⑨ 家族と話したり、家の手伝いをする	1	2	3	4	5
⑩ 兄弟姉妹の世話	1	2	3	4	5
⑪ ゲームセンターやカラオケなどで遊ぶ	1	2	3	4	5

問5 あなたは、休日、学校に行かない日は、どこでだれと過ごしていますか。
「多い」と思う場合は 1 に○をつけてください。
「多くない」「まったくない」と思う場合は 2 に○をつけてください。

	多い	多くない
① 自分の家で、家族と過ごす	1	2
② 自分の家で、ひとりで過ごす	1	2
③ 自分の家以外の家（親せき・友達）で過ごす	1	2
④ 習い事（スポーツ・音楽・習字・英語など）で先生や友達と過ごす	1	2
⑤ 学習塾 ¹⁰⁶ で先生や友達と過ごす	1	2
⑥ 公園や児童館・児童センター、図書館で友達などと過ごす	1	2
⑦ 公園や児童館・児童センター、図書館でひとりで過ごす	1	2
⑧ ショッピングセンターやファストフード店で友達などと過ごす	1	2
⑨ ショッピングセンターやファストフード店でひとりで過ごす	1	2
⑩ テーマパークや観光地に、家族とでかける	1	2

問6 あなたは、以下のような場所があれば使ってみたいと思いますか。それぞれについて、○をひとつつけてください。

	使ってみたい	興味がある	使いたくない	使う必要はない
①（家以外で）平日の放課後に夜までいることができる場所	1	2	3	4
②（家以外で）休日にいることができる場所	1	2	3	4
③ 家の人がいない時、夕ご飯をみんなで食べることができる場所	1	2	3	4
④（学校以外で）勉強を無料でみでくれる場所	1	2	3	4
⑤（学校以外で）勉強、進学、家族のことなど、なんでも相談できる場所	1	2	3	4

学校のことや勉強のことについてお聞きします

問7 学校に行くのは楽しみですか。(Oはひとつだけ)

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問8 学校の授業で使うものを忘れずに準備できますか。(Oはひとつだけ)

1. よくできる 2. だいたいできる 3. あまりできない 4. できない

問9 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(Oはひとつだけ)

1. いつもわかる 2. だいたいわかる 3. あまりわからない
4. わからないことが多い 5. ほとんどわからない

問10 あなたは、これまでに以下のようなことがありますか。それぞれについて、Oをひとつつけてください。

	よく あった	ときどき あった	あまり なかった	なかった	わからない
① 学校に行きたくないと思った	1	2	3	4	5
② 1か月以上学校を休んだ (病気の時をのぞく)	1	2	3	4	5
③ いじめられた	1	2	3	4	5

問11 家で勉強していてわからないとき、だれに質問をしますか。(Oはひとつだけ)

1. お父さん 2. お母さん 3. 兄弟姉妹 4. 学校の先生 5. 塾の先生
6. 友達 7. その他 8. だれにも質問しない

問12 何か興味のあることを本や図鑑、辞書、インターネットを使って調べますか。
(Oはひとつだけ)

1. よく調べる 2. ときどき調べる 3. あまり調べない 4. 調べない

問13 あなたは、この1か月に本（教科書やマンガ・雑誌以外の本）を何冊くらい読みましたか。
(Oはひとつだけ)

※自宅以外で読んだ本も数えてください。

※パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本（電子書籍）も数えてください。

1. 読まなかった 2. 1冊 3. 2～3冊 4. 4～5冊
5. 6～7冊 6. 8～11冊 7. 12冊以上

問14 あなたが頑張っていることは何ですか。(Oはいくつでも)

1. 学校での勉強 2. スポーツや習い事 3. 趣味
4. ほかにかんばっていることがある 5. がんばっていることはない

いろいろな人とのかわりについてお聞きします

問15 あなたが一番仲が強い友達は、どのような友達ですか。(Oはひとつだけ)

1. 学校の友達 2. 学校以外の地元や近所に住んでいる友達
3. スポーツ・チームやクラブ活動の友達 4. そのほかの友達
5. 仲の良い友達はいない

問16 人とのかわりについて、ふだんどのように思っていますか。

①から⑤それぞれについて、1～3からあなたの気持ちに近いものをひとつを選んでOをつけてください。

	とてもそう思う	少しはそう思う	そう思わない
① 友達とたくさん遊んでいると思う	1	2	3
② 友達と仲良くしていると思う	1	2	3
③ 友達に好かれていていると思う	1	2	3
④ 学校の先生からよいところを 認められていると思う	1	2	3
⑤ 学校の先生と話すのはうれしいと思う	1	2	3

問 17 あなたは話っていることや話みこと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。

「よく話す」場合は 1 に○をつけてください。
「ときどき話す」場合は 2 に○をつけてください。
「話さない」場合は 3 に○をつけてください。
悪い事をしていない、兄弟姉妹がいないなど、いないから話さない場合は 4 に○をつけてください。

	よく話す	ときどき話す	話さない	いない
① お母さん	1	2	3	4
② お父さん	1	2	3	4
③ おばあちゃん・おじいちゃん、いとこなどの親せき	1	2	3	4
④ 兄弟姉妹	1	2	3	4
⑤ 学校の先生	1	2	3	4
⑥ スポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生	1	2	3	4
⑦ スクールカウンセラー	1	2	3	4
⑧ 友達	1	2	3	4
⑨ インターネット上で知り合った人	1	2	3	4

あなたの健康状況についてお聞きします

問 18 あなたは今健康ですか。(○はひとつだけ)

1. 健康だと思う 2. ぶつう 3. あまり健康ではないと思う 4. 健康ではない

問 19 学校に行く日の睡眠時間を教えてください。(○はひとつだけ)

1. 6時間未満 2. 6時間以上7時間未満 3. 7時間以上8時間未満
4. 8時間以上

問 20 お風呂（または、シャワー）に入る回数はどのくらいですか。(○はひとつだけ)

1. ほぼ毎日 2. 2～3日に1回くらい 3. 4日に1回か、それより少ない

問 21 下着（パンツ）を交換する回数はどのくらいですか。(○はひとつだけ)

1. ほぼ毎日 2. 2～3日に1回くらい 3. 4日に1回か、それより少ない

問 22 あなたは、クラスの人たちと比べると、自分をどのように思いますか。次の①～⑤の項目それぞれについて、1～3のうちあてはまるものひとつに○をつけてください。

	選 択 肢		
① 笑い	1. よく笑う方	2. ぶつう	3. あまり笑わない方
② 怒り	1. よく怒る方	2. ぶつう	3. あまり怒らない方
③ 涙	1. よく泣く方	2. ぶつう	3. あまり泣かない方
④ 性格	1. 明るい方	2. ぶつう	3. あまり明るくない方
⑤ 話すこと	1. よくしゃべる方	2. ぶつう	3. あまりしゃべらない方

問 23 あなたは、つぎのことがどれくらいありますか。
「よくある」場合は 1 に○をつけてください。
「ときどきある」場合は 2 に○をつけてください。
「まったくない」場合は 3 に○をつけてください。

	よくある	ときどきある	まったくない
① 部屋の居眠り	1	2	3
② 疲れやすい	1	2	3
③ 朝、食欲がない	1	2	3

問 24 あなたはいつ歯みがきをしますか。(○はひとつだけ)

1. 朝・昼・夜にみがく
2. 朝だけみがく
3. 昼だけみがく
4. 夜だけみがく
5. みがかない

問 25 今、歯や虫歯はありますか。(○はひとつだけ)

1. 1本
2. 2本
3. 3本
4. たくさんある
5. ない
6. わからない

あなたがだんだん考えていることについてお聞きします

問 26 あなたは、次の①から⑦のことについて、どのように思いますか。それぞれについて、○をひとつつけてください。

	とても思う	少しは思う	思わない
① がんばればよいことがあると思う	1	2	3
② 自分には自信があると思う	1	2	3
③ 家で過ごすのは安心できると思う	1	2	3
④ 自分は家族に愛されていると思う	1	2	3
⑤ 自分は人のために役立っていると思う	1	2	3
⑥ 不安を感じることもある	1	2	3
⑦ ひとりであることがさびしいと思う	1	2	3

問 27 どの段階まで進学したいですか。(○はひとつだけ)

1. 中学校
2. 高校
3. 高等専門学校
4. 短期大学
5. 専門学校
6. 4年制大学
7. まだわからない

問 28 将来、なりたい職業や夢はありますか。(○はひとつだけ)

1. ある
2. ない

問 28-1 問 28 で、「1. ある」と答えた方にお聞きします。

あなたのなりたい職業や夢を、親は応援してくれていますか。(○はひとつだけ)

1. 応援してくれている
2. 親には話していない
3. 親の反応がわからない
4. あまり応援してくれていない
5. 反対している

問 29 あなたの学年を教えてください。(○はひとつだけ)

1. 小学校4年生
2. 小学校5年生
3. 小学校6年生

以上でアンケートはおわりです。ご協力ありがとうございました。

5. 生活保護調査(中学生用)

川口市子どもの生活実態調査(中学生用)

このアンケートは、みなさんが毎日どのように過ごしているか、生活の様子やふだん考えていることをお聞きします。

みなさんの声をもとに、川口市ができることを考えていくための資料として使うものです。

このアンケートの答えは、おうちのかたや学校の先生に見られることはありません。

また、名前を記入しないので、あなたが答えたアンケートであることは、だれにもわかりません。安心して自分の思ったとおりに答えてください。



- このアンケート票は、あなた（子ども）が自分で記入してください。
- お父さんやお母さんに見せなくてもよいです。
- 名前は、書かないでください。
- 答えられない質問や答えたくない質問には、答える必要はありません。
- これはテストではありません。自分が思ったとおりに答えてください。
- 答えは、あてはまる番号に○をつけてください。

【回答例】

- 例1 あなたは、学校生活が楽しいですか。(○はひとつだけ)
1. 楽しい ② まあ楽しい 3. あまり楽しくない 4. 楽しくない
- 例2 あなたは、夕ごはんをだれと食べますか。(○はいくつでも)
- ① 家族(親) ② 家族(兄弟姉妹) 3. その他の家族(おじいちゃん・おばあちゃん) 4. 家族以外の人

■ 全部書き終わったら、自分で「子ども用 返信ふうとう」に入れて、とじてください。それを、
おうちの方のアンケート票といっしょに、大きい封筒に入れてください。

アンケート全般に関するお問い合わせ等は、以下までお願いいたします。

川口市役所 子ども部 子ども総務課 電話 048-271-9457 (直通)
受付日時 月～金曜日（祝日を除く） 8：30～17：15

問 1 あなたの性別を教えてください。(Oはひとつだけ)

1. 男
2. 女

学校以外でのふだんの生活の状況についてお聞きます

問 2 あなたがもっているもの、使うことができるものを教えてください。
「持っている」場合は 1 にOをつけてください。
「ないでほしい」場合は 2 にOをつけてください。
「ないけれどもほしくない」場合は 3 にOをつけてください。

	持っている	持っていないで欲しい	持っていないけれども欲しくない
① 本（教科書やマンガはのぞきます）	1	2	3
② マンガや雑誌	1	2	3
③ 自分の使う部屋 （兄弟姉妹といっしょに使っている場合もふくみます）	1	2	3
④ インターネットにつながるパソコン （兄弟姉妹といっしょに使っている場合もふくみます）	1	2	3
⑤ 携帯電話・スマートフォン	1	2	3
⑥ 勉強机	1	2	3
⑦ スポーツ用品（バット、グローブ、ボール、運動くつ、ユニフォームなど）	1	2	3
⑧ ほとんどの友達を持っているおもちゃ・ゲーム機	1	2	3
⑨ 自分で選んだ服	1	2	3
⑩ 複数のくつ	1	2	3
⑪ おこづかい	1	2	3

問 3 あなたは、学校からの帰宅後は、どこでだれと過ごしていますか。
「多い」と思う場合は 1 にOをつけてください。
「多くない」「まったくいない」と思う場合は 2 にOをつけてください。

	多い	多くない
① 自分の家で、家族と過ごす	1	2
② 自分の家で、ひとりで過ごす	1	2
③ 自分の家以外の家（祖せき・友達）で過ごす	1	2
④ 習い事（スポーツ・音楽・習字・英語など）で先生や友達と過ごす	1	2
⑤ 学習塾で先生や友達と過ごす	1	2
⑥ 公園や児童館・児童センター、図書館で友達などと過ごす	1	2
⑦ 公園や児童館・児童センター、図書館でひとりで過ごす	1	2
⑧ ショッピングセンターやファストフード店で友達などと過ごす	1	2
⑨ ショッピングセンターやファストフード店でひとりで過ごす	1	2

問 4 あなたは学校からの帰^{かへ}り後、①から⑩について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。
 あなたが「しない」ことは 1 に○をつけてください。
 あなたが「する」ことで1回にかける時間が「1時間以内」のものは 2、
 1回にかける時間が「1時間～2時間未満」のものは 3、
 1回にかける時間が「2時間～3時間未満」のものは 4、
 1回にかける時間が「3時間以上」のものは 5 に○をつけてください。

	まったく しない	1時間以内	1時間～ 2時間未満	2時間～ 3時間未満	3時間以上
① 勉強や宿題をする	1	2	3	4	5
② テレビやDVDを見る	1	2	3	4	5
③ 家で本（マンガはのぞく）を読む	1	2	3	4	5
④ 家でマンガや雑誌を読む	1	2	3	4	5
⑤ パソコン・スマホでインターネットやゲームをする	1	2	3	4	5
⑥ 公園や校庭で体を動かす	1	2	3	4	5
⑦ 習い事（スポーツ・音楽・習字・英語など）に行く	1	2	3	4	5
⑧ 学習 ^{しゅくしつ} 塾に行く	1	2	3	4	5
⑨ 家族と話したり、家の手伝いをする	1	2	3	4	5
⑩ 兄弟姉妹の世話	1	2	3	4	5
⑪ ゲームセンターやカラオケなどで遊ぶ	1	2	3	4	5

問5 あなたは、休日、学校に行かない日は、どこでだれと過ごしていますか。
 「多い」と思う場合は 1 に○をつけてください。
 「多くない」「まったくない」と思う場合は 2 に○をつけてください。

	多い	多くない
① 自分の家で、家族と ^{いっしょ} 過ごす	1	2
② 自分の家で、ひとりで ^{ひとりで} 過ごす	1	2
③ 自分の家以外の家（祖 ^{おじ} せき・友達）で ^{いっしょ} 過ごす	1	2
④ 習い事（スポーツ・音楽・習字・英語など）で先生や友達と ^{いっしょ} 過ごす	1	2
⑤ 学習 ^{しゅくしつ} 塾で先生や友達と ^{いっしょ} 過ごす	1	2
⑥ 公園や児童館・児童センター、図書館で友達などと ^{いっしょ} 過ごす	1	2
⑦ 公園や児童館・児童センター、図書館でひとりで ^{ひとりで} 過ごす	1	2
⑧ ショッピングセンターやファストフード店で友達などと ^{いっしょ} 過ごす	1	2
⑨ ショッピングセンターやファストフード店でひとりで ^{ひとりで} 過ごす	1	2
⑩ テーマパークや観光地に、家族とで ^{いっしょ} かける	1	2

問6 あなたは、以下のような場所があれば使^{もち}ってみたいと思いますか。それぞれについて、○をひとつつけてください。

	使 ^{もち} って みたい	使 ^{もち} い がある	使 ^{もち} い たくない	使 ^{もち} う必要は ない
①（家以外で）平日の放 ^{はな} 課後に夜まで いることができる場所	1	2	3	4
②（家以外で）休日にいることができ る場所	1	2	3	4
③ 家の人がいない時、夕ご飯をみんな で食べることができる場所	1	2	3	4
④（学校以外で）勉強を無料でみてく れる場所	1	2	3	4
⑤（学校以外で）勉強、進学、家族の ことなど、なんでも相談できる場所	1	2	3	4

学校のことや勉強のことについてお聞きします

問7 学校に行くのは楽しみですか。(Oはひとつだけ)

1. とてもそう思う 2. そう思う 3. あまり思わない 4. 思わない

問8 学校の授業で使うものを忘れずに準備できますか。(Oはひとつだけ)

1. よくできる 2. だいたいできる 3. あまりできない 4. できない

問9 あなたは、学校の授業がわからないことがありますか。(Oはひとつだけ)

1. いつもわかる 2. だいたいわかる 3. あまりわからない
4. わからないことが多い 5. ほとんどわからない

問10 あなたは、これまでに以下のようなことがありますか。それぞれについて、Oをひとつつけてください。

	よくあった	ときどきあった	あまりなかった	なかった	わからない
① 学校に行きたくないと思った	1	2	3	4	5
② 1か月以上学校を休んだ(病気の時をのぞく)	1	2	3	4	5
③ いじめられた	1	2	3	4	5

問11 家で勉強していてわからないとき、だれに質問をしますか。(Oはひとつだけ)

1. お父さん 2. お母さん 3. 兄弟姉妹 4. 学校の先生 5. 塾の先生
6. 友達 7. その他 8. だれにも質問しない

問12 何か興味のあることを本や図鑑、辞書、インターネットを使って調べますか。(Oはひとつだけ)

1. よく調べる 2. ときどき調べる 3. あまり調べない 4. 調べない

問13 あなたは、この1か月に本(教科書やマンガ・雑誌以外の本)を何冊くらい読みましたか。(Oはひとつだけ)

※自宅以外で読んだ本も数えてください。

※パソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本(電子書籍)も数えてください。

1. 読まなかった 2. 1冊 3. 2～3冊 4. 4～5冊
5. 6～7冊 6. 8～11冊 7. 12冊以上

問14 あなたが勉強していることは何ですか。(Oはいくつでも)

1. 学校での勉強 2. 部活 3. 部活以外のスポーツや習い事
4. 趣味 5. ほかにがんばっていることがある 6. がんばっていることはない

いろいろな人とのかわりについてお聞きします

問15 あなたが一番仲が良い友達は、どのような友達ですか。(Oはひとつだけ)

1. 学校の友達 2. 学校以外の地元や近所に住んでいる友達
3. スポーツ・チームやクラブ活動の友達 4. 学習塾の友達
5. ネット上で知り合った友達 6. その他の友達 7. 仲の良い友達はいない

問16 人とのかわりについて、ふだんどのように思っていますか。

①から⑤それぞれについて、1～3からあなたの気持ちに近いものをひとつを選んでOをつけてください。

	とてもそう思う	少しはそう思う	そう思わない
① 同性の友達と遊んだり、仲よくして思う	1	2	3
② 異性の友達と遊んだり、仲よくして思う	1	2	3
③ 友達に好かれていると思う	1	2	3
④ 学校の先生からよいところを認められていると思う	1	2	3
⑤ 学校の先生と話すのはうれしいと思う	1	2	3

問 17 あなたは話っていることや話みこと、楽しいことや悲しいことを、だれにどれくらい話しますか。

「よく話す」場合は 1 に○をつけてください。

「ときどき話す」場合は 2 に○をつけてください。

「話さない」場合は 3 に○をつけてください。

悪い事をしていない、兄弟姉妹がいないなど、いないから話さない場合は 4 に○をつけてください。

	よく話す	ときどき話す	話さない	いない
① お母さん	1	2	3	4
② お父さん	1	2	3	4
③ おばあちゃん・おじいちゃん、いとこなどの親せき	1	2	3	4
④ 兄弟姉妹	1	2	3	4
⑤ 学校の先生	1	2	3	4
⑥ スポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生	1	2	3	4
⑦ スクールカウンセラー	1	2	3	4
⑧ 友達	1	2	3	4
⑨ インターネット上で知り合った人	1	2	3	4

あなたの健康状況についてお聞きします

- 問 18 あなたは今健康ですか。(○はひとつだけ)
1. 健康だと思う 2. ぶつう 3. あまり健康ではないと思う 4. 健康ではない
- 問 19 学校に行く日の睡眠時間を教えてください。(○はひとつだけ)
1. 6時間未満 2. 6時間以上7時間未満 3. 7時間以上8時間未満
4. 8時間以上
- 問 20 お風呂(または、シャワー)に入る回数はどのくらいですか。(○はひとつだけ)
1. ほぼ毎日 2. 2～3日に1回くらい 3. 4日に1回か、それより少ない
- 問 21 下着(パンツ)を交換する回数はどのくらいですか。(○はひとつだけ)
1. ほぼ毎日 2. 2～3日に1回くらい 3. 4日に1回か、それより少ない
- 問 22 あなたは、クラスの人たちと比べると、自分をどのように思いますか。次の①～⑤の項目それぞれについて、1～3のうちあてはまるものひとつに○をつけてください。

	選 択 肢		
① 笑い	1. よく笑う方	2. ぶつう	3. あまり笑わない方
② 怒り	1. よく怒る方	2. ぶつう	3. あまり怒らない方
③ 涙	1. よく泣く方	2. ぶつう	3. あまり泣かない方
④ 性格	1. 明るい方	2. ぶつう	3. あまり明るくない方
⑤ 話すこと	1. よくしゃべる方	2. ぶつう	3. あまりしゃべらない方

問 23 あなたは、つぎのことがどれくらいありますか。
「よくある」場合は 1 に○をつけてください。
「ときどきある」場合は 2 に○をつけてください。
「まったくない」場合は 3 に○をつけてください。

	よくある	ときどきある	まったくない
① 部屋の居眠り	1	2	3
② 疲れやすい	1	2	3
③ 朝、食欲がない	1	2	3

問 24 あなたはいつ歯みがきをしますか。(○はひとつだけ)

1. 朝・昼・夜にみがく 2. 朝だけみがく 3. 昼だけみがく
4. 夜だけみがく 5. みがかない

問 25 今、歯や虫歯はありますか。(○はひとつだけ)

1. 1本 2. 2本 3. 3本 4. たくさんある
5. ない 6. わからない

あなたがだんだん考えていることについてお聞きします

問 26 あなたは、次の①から⑦のことについて、どのように思いますか。それぞれについて、○をひとつつけてください。

	とても思う	少しは思う	思わない
① がんばればよいことがあると思う	1	2	3
② 自分には自信があると思う	1	2	3
③ 家で過ごすのは安心できると思う	1	2	3
④ 自分は家族に愛されていると思う	1	2	3
⑤ 自分は人のために役立っていると思う	1	2	3
⑥ 不安を感じることもある	1	2	3
⑦ 孤独を感じることもある	1	2	3

問 27 どの段階まで進みたいですか。(○はひとつだけ)

1. 中学校 2. 高校 3. 高等専門学校 4. 短期大学
5. 専門学校 6. 4年制大学 7. まだわからない

問 28 将来、なりたい職業や夢はありますか。(○はひとつだけ)

1. ある 2. ない

問 28-1 問 28 で、「1. ある」と答えた方にお聞きします。

あなたのなりたい職業や夢を、親は応援してくれていますか。(○はひとつだけ)

1. 応援してくれている 2. 親には話していない
3. 親の反応がわからない 4. あまり応援してくれていない
5. 反対している

問 29 あなたの学年を教えてください。(○はひとつだけ)

1. 中学校 1 年生 2. 中学校 2 年生 3. 中学校 3 年生

以上でアンケートはおわりです。ご協力ありがとうございました。

6. 生活保護調査(保護者用)

川口市子どもの生活実態調査(保護者用)

このアンケートは、川口市にお住まいの子育てをしている保護者の方に、子育ての実態やお子様の生活についてお聞きするものです。

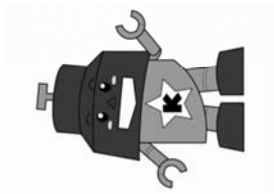
寄せられたみなさまの声は、川口の子どもたちと子育てをしているみなさまのお役にたてるよう、川口市の子育て支援策・教育施策づくりに活かしてまいります。お忙しいところ大変恐縮ですが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、お願いいたします。

【回答にあたってのお願い】

- このアンケートは、保護者の方がお答えください。
- 回答はすべて統計的に処理し、このアンケート票の情報が特定されることはありません。
- このアンケートは無記名で行います。アンケート票に氏名や個人を特定できる情報等を記入しないようお願いいたします。
- 答えられない質問やお答えになりたくない質問については、お答えいただく必要はありません。
- 回答にあたっては、鉛筆またはボールペンを使用してください。

【提出の方法】

- ご記入いただいたアンケート用紙は、「保護者用 返信封筒」に入れて、他の人がアンケート用紙を見ることができないように封をしてください。
- 封筒に氏名をご記入いただく必要はありません。
- 「大きい回収封筒」にお子さんが書かれたアンケート票と一緒に入れ、封をしてから、7月 31日(火)までにポストに投函してください。



【お問い合わせ】

アンケート全般に関するお問い合わせ等は、以下までお願いいたします。

川口市役所	子ども総務課	電話	048-271-9457 (直通)
受付日時	月～金曜日 (祝日を除く)		8:30～17:15

【回答方法】

- 選択式の質問に関しては、ご自身が選ばれた選択肢の番号に○をつけてください。
- 「○はひとつだけ」「あてはまる番号すべてに○」の表記がある場合は、その指示に従って○をつけるようにしてください。

【回答例】

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 〔良い例〕 | 〔悪い例〕 |
| ① 午前5時より前
5. 午前8時台 | ① 午前5時より前
5. 午前8時台 |

【このアンケートで使うことばの意味について】

- 「お子さん」 = このアンケートの対象となっているお子さん
- 「お子さん(兄弟姉妹を含む)」 = このアンケートの対象となっているお子さんとその兄弟姉妹など、ご家庭内で養育するすべてのお子さん
- 「あなた」 = このアンケートに回答している方
- 「家族」 = 同居が別居にかかわらず、生計が同じである家族
たとえば、単身赴任をしている方やひとり暮らしのお子さんも、生計が同じであれば、「家族」に含まれます
- 「家庭」 = 「家族」に同じ

子育て支援事業の利用状況についてお聞きします

問1 あなたは、子育てや暮らしに関する情報はどこから手に入れますか。
(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分の親
2. 配偶者
3. 兄弟姉妹や親せき
4. 身近な人(友人や同僚、地域の人)
5. 子どもが通う保育園、幼稚園、学校の先生
6. 市役所等の窓口
7. 広報かわぐち・市のホームページ
8. インターネットの相談サイトや子育て関連のSNS(ツイッターなど)
9. その他

問2 現在、お子さん(兄弟姉妹を含む)のことで悩んでいることはありませんか。
(あてはまる番号すべてに○)

1. 子どもと過ごす時間が持てない
2. 子どもとの関わり方
3. 子どもの病気や障がい
4. 子どもの反抗や暴言・暴力
5. 子どもの不登校やひきこもり
6. 子どもとの友達関係やいじめ
7. 他の保護者との関係
8. 学校の先生との関係
9. 家族間での教育方針の違い
10. その他
11. 特に悩みはない

問3 あなたはお子さんに関する相談について、どこに相談しますか。
(あてはまる番号すべてに○)

	A 子どもの発達や学校に関する相談	B 子どもの健康や発育に関する相談	C 子どもの問題行動やしつけに関する相談
家族(配偶者や自分の親・兄弟姉妹・親せきなど)	1	1	1
身近な人(友人や同僚、地域の人など)	2	2	2
子どもが通う学校の先生	3	3	3
市役所や児童相談所などの行政の相談窓口	4	4	4
相談できる人はいない	5	5	5

問4 あなたは、子育てに限らず暮らしの中で困ったときに以下の公的機関に相談しますか。(A～Iそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○)

	相談する	相談しない
A 市役所の窓口	1	2
B 子育て支援センター、子育て支援拠点(子育てサポートプラザ、子育てひろばポッポ、近くの保育園、公民館など)	1	2
C 児童相談所	1	2
D 子どもが通う学校、保育園、幼稚園の先生	1	2
E 子どもが通う学校のスクールカウンセラー	1	2
F 地域の民生委員・児童委員	1	2
G 社会福祉協議会	1	2
H 地域保健センター	1	2
I ハローワーク	1	2

問5 お子さんの具合が悪い時や、あなたに用事があるときに、頼ることができる親せきや友人はいますか。(○はひとつだけ)

1. いる
2. いない

問 6 あなたは、生活をいく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。
(A～Jそれぞれについて、あてはまるものに○をつけてください)

	利用した ことがある	知っている 方がわから ない	知っている が利用資格 がない	支援制度を 知らない	利用したい と思わない
A 子育て支援センター、 子育て支援拠点 (子育てサポートプラザ、 子育てひろばのほかに、 近隣の保育園、公民館など)	1	2	3	4	5
B ファミリー・サポート・ センター	1	2	3	4	5
C 訪問支援・ ホームスタート	1	2	3	4	5
D 病児・病後児保育	1	2	3	4	5
E 一時預かり(一時保育)	1	2	3	4	5
F 児童センター	1	2	3	4	5
G 子ども食堂	1	2	3	4	5
H 生活福祉資金	1	2	3	4	5
I 母子及び父子並びに 寡婦福祉資金	1	2	3	4	5
J 生活困窮者自立相談 生活自立・仕事相談	1	2	3	4	5

(用語の説明)

子育て支援センター、子育て 支援拠点	主に乳幼児のお子さんと保護者の方が親子で過ごしながら子育ての不安や 悩みを相談できる施設
ファミリー・サポート・ センター	育児や介護の手伝いをしてほしい方(利用会員)と育児や介護のお手伝い をしたい方(提供会員)を登録して、育児や介護、家事を手伝ってもら うことで、子育てをする家庭を支援する制度
訪問支援・ホームスタート	地域の子育て経験のあるボランティアが子育てする家庭を訪問し、一緒に 話を聞いたり、一緒に家事や育児・外出などをし、子育てをする家庭を サポートする制度
生活福祉資金	所得が一定以下の世帯等を対象とした、低利または無利子の資金を貸付す る制度 (社会福祉協議会で受付)
母子及び父子並びに寡婦福祉 資金	ひとり親世帯を対象とした、低利または無利子の資金を貸付する制度 (市役所で受付)
生活困窮者自立相談 生活自立・仕事相談	生活に困窮し、仕事や住まいなど生活全般のお困りごとについて、自立で きるよう支援する相談窓口

あなたとあなたのご家族のことについてお聞きします

問 7 お子さんとあなたの関係は、次のどれにあたりますか。(○はひとつだけ)

1. 母親
2. 父親
3. 祖父
4. 祖母
5. 兄
6. 姉
7. その他の親せき
8. その他

問 8 お子さんのお母さんの現在の年齢を教えてください。(○はひとつだけ)

1. 20 歳未満
2. 20～24 歳
3. 25～29 歳
4. 30～34 歳
5. 35～39 歳
6. 40～44 歳
7. 45～50 歳
8. 51 歳以上

問 9 お子さんのお父さんの現在の年齢を教えてください。(○はひとつだけ)

1. 20 歳未満
2. 20～24 歳
3. 25～29 歳
4. 30～34 歳
5. 35～39 歳
6. 40～44 歳
7. 45～50 歳
8. 51 歳以上

問 10 あなたとお子さんを含めた、家族全員の人数は何人ですか。(単身赴任やひとり暮らしの
お子さんなど、別居しているも生計を一緒にする方はすべて含みます。)
(○はひとつだけ)

1. 2 人
2. 3 人
3. 4 人
4. 5 人
5. 6 人
6. 7 人
7. 8 人
8. 9 人
9. 10 人以上

問 11 お子さんと同居しているご家族の方はどなたですか。兄弟姉妹については、人数も教えて
ください。(あてはまるものすべてに○。人数はカッコの中に数字で回答してください。)

1. 父親
2. 母親
3. 祖父
4. 祖母
5. 曾祖父
6. 曾祖母
7. 兄弟姉妹 (人)
8. 親せき
9. その他の人

問 12 お子さんのご両親の国籍にあてはまる番号を、それぞれ教えてください。(A～Bそれぞれ
について、あてはまる番号ひとつに○)

A お母さん	1. 日本	2. 日本以外
B お父さん	1. 日本	2. 日本以外

お子さんのお母さん、お父さんの仕事についてお聞きます

お子さんのお母さんについて

問 13 お子さんのお母さんの現在の職業の雇用形態は、どれになりますか。(○はひとつだけ)
※ 現在、お子さんとお母さんが生計を一緒にしている場合、問 14 に選んでください

1. 正社員・正規職員 2. パート・アルバイト 3. 契約社員・非正規職員
4. 人材派遣会社からの派遣社員 5. 自営業・家業 6. その他の職業
7. 働いていない

問 13-1 問 13 で「7. 働いていない」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお母さんの生活の状況をおしえてください。(○はひとつだけ)

1. 家事・育児に専念 2. 病気療養 3. 求職中 4. 家族の介護 5. 学生
6. その他

問 13-2 問 13 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお母さんは、1 週間のうち、どのくらい仕事をしていますか。(○はひとつだけ)

1. 1 日 2. 2 日 3. 3 日 4. 4 日
5. 5 日 6. 6 日 7. 7 日

問 13-3 問 13 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお母さんは、1 日あたり平均何時間ぐらい仕事をしていますか。(○はひとつだけ)

■ 複数のお仕事をしている場合は合わせた時間数をお答えください。

1. 2 時間未満 2. 2 ～ 4 時間未満 3. 4 ～ 6 時間未満 4. 6 ～ 8 時間未満
5. 8 ～ 10 時間未満 6. 10 ～ 12 時間未満 7. 12 時間以上

問 13-4 問 13 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお母さんの、概ねの帰宅時間を教えてください。(○はひとつだけ)

1. 18 時まで 2. 18 ～ 20 時の間 3. 20 ～ 22 時の間
4. 22 ～ 24 時の間 5. その他 () 時頃
6. 交替制勤務で帰宅時間は決まっていない

お子さんのお父さんについて

問 14 お子さんのお父さんの現在の職業の雇用形態は、どれになりますか。(○はひとつだけ)
■ 現在、お子さんとお父さんが生計を一緒にしている場合、問 15 に選んでください

1. 正社員・正規職員 2. パート・アルバイト 3. 契約社員・非正規職員
4. 人材派遣会社からの派遣社員 5. 自営業・家業 6. その他の職業
7. 働いていない

問 14-1 問 14 で「7. 働いていない」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお父さんの生活の状況をおしえてください。(○はひとつだけ)

1. 家事・育児に専念 2. 病気療養 3. 求職中 4. 家族の介護 5. 学生
6. その他

問 14-2 問 14 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお父さんは、1 週間のうち、どのくらい仕事をしていますか。(○はひとつだけ)

1. 1 日 2. 2 日 3. 3 日 4. 4 日
5. 5 日 6. 6 日 7. 7 日

問 14-3 問 14 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお父さんは、1 日あたり平均何時間ぐらい仕事をしていますか。(○はひとつだけ)

■ 複数のお仕事をしている場合は合わせた時間数をお答えください。

1. 2 時間未満 2. 2 ～ 4 時間未満 3. 4 ～ 6 時間未満 4. 6 ～ 8 時間未満
5. 8 ～ 10 時間未満 6. 10 ～ 12 時間未満 7. 12 時間以上

問 14-4 問 14 で「働いている(1. ～6.)」を選んだ方にお伺いします。

お子さんのお父さんの、概ねの帰宅時間を教えてください。(○はひとつだけ)

1. 18 時まで 2. 18 ～ 20 時の間 3. 20 ～ 22 時の間
4. 22 ～ 24 時の間 5. その他 () 時頃
6. 交替制勤務で帰宅時間は決まっていない

お子さんの健康状況についてお聞きます

問 15 これまでに、お子さんを医療機関に連れていった方がよいと思っただが、実際には連れていかなかったことがありますか。(○はひとつだけ)

- 1. あった
- 2. なかった

問 15-1 問 15 で「1. あった」を選んだ方にお伺いします。
医療機関に連れていかなかった理由のうち、最も近いものに○をつけてください。
(○はひとつだけ)

- 1. 保険証を持っておらず、医療費の支払いができなかったため
- 2. 保険証は持っていたが、医療機関の窓口での支払いができなかったため
- 3. 子ども本人が受診したがりなかったため
- 4. 医療機関が遠く、通院が困難だったため
- 5. 忙しくて医療機関に連れて行く時間がなかったため
- 6. 最初は受診させようと思っただけれど、様子を見て受診の必要はないと判断したため
- 7. あなた自身の体調が悪くて行けなかったため
- 8. その他

問 16 お子さんは、普段、朝食を食べていますか、この 1 か月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。(○はひとつだけ)

- 1. 毎日食べる
- 2. 食べる方が多い (週 4～6 日)
- 3. 食べない方が多い (週 1～3 日)
- 4. ほとんど食べない

問 17 お子さんは、夕食を誰と食べることが多いですか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1. 親
- 2. 兄弟
- 3. 祖父母
- 4. 子ども 1 人
- 5. その他 ()
- 6. 食べない

問 17-1 問 17 で「2. 兄弟」のみ、または「4. 子ども 1 人」を選んだ方にお伺いします。
お子さんが夕食を子どもだけで食べる最も大きな理由はなんですか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1. 働いている保護者の帰宅が遅いから
- 2. 保護者が夜間の仕事で不在となるから
- 3. 本人が学校、部活動、習い事・塾などで帰宅が遅くなるから
- 4. 保護者が育児・介護などで忙しいから
- 5. その他 ()

問 18 お子さんは、普段、学校で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この 1 か月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。
(A～Hそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○)

	毎日 食べる	食べる方が 多い (週 4～6 日)	食べない方 が多い (週 1～3 日)	ほとんど 食べない
A 穀類 (ごはん、パン、シリアルなど)	1	2	3	4
B 魚・肉・卵・大豆 (加工食品も含む)	1	2	3	4
C 野菜	1	2	3	4
D 果物	1	2	3	4
E 牛乳・乳製品 (チーズ、ヨーグルトなど)	1	2	3	4
F 甘い飲み物 (炭酸飲料、スポーツドリンクなど)	1	2	3	4
G お菓子 (食事として)	1	2	3	4
H お菓子 (間食として)	1	2	3	4
I インスタントラーメンやカップ麺	1	2	3	4
J ファーストフード	1	2	3	4

問 19 お子さんの歯や口のことで、気になることがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1. 歯の汚れ
- 2. むし歯
- 3. 歯ぐきから血が出る・はれている
- 4. 歯ならび
- 5. かみ合わせ
- 6. 口のにおい
- 7. 歯のはえかわり
- 8. 気にならない

問 20 お子さんは毎食後に歯をみがいていますか。(○はひとつだけ)

- 1. 必ずみがいている
- 2. だいていみがいている
- 3. ほとんどみがいていない
- 4. 全くみがいていない
- 5. わからない

子育てや教育についてお聞きします

問 21 あなたは、お子さんとよく会話をしますか。(○はひとつだけ)

- 1. よくする
- 2. たまにする
- 3. あまりしない
- 4. これまで特にしたことがない

問 22 あなたのご家庭では、お子さんと次のようなことをすることがありますか。
(A～Fそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○)

	毎日ある	週に3日 ～4日	週に1日 ～2日	全くない
A お子さんができたことや頑張ったことをほめて、一緒に喜ぶ	1	2	3	4
B お子さんの気持ちを言葉にする	1	2	3	4
C お子さんの学校での出来事について、じっくり耳を傾けて聴く	1	2	3	4
D お子さんとの将来の夢について話す	1	2	3	4
E お子さんが興味を持ったことを一緒に調べる	1	2	3	4
F お子さんに家でお手伝いをさせている	1	2	3	4

問 23 あなたのご家庭では、お子さんの学校行事へ参加していますか。(○はひとつだけ)

- 1. 参加している
- 2. できるだけ参加するようにしている
- 3. 時間がないためあまり参加していない
- 4. 参加していない
- 5. その他

問 24 あなたのご家庭では、お子さんに次のことをしていますか。
(A～Kそれぞれについて、あてはまる番号ひとつに○)

	している	していない したくない (方針でない)	していない 経済的に できない
A 毎月お小遣いを渡す	1	2	3
B 毎年新しい洋服・靴を買う	1	2	3
C 子どもの年齢にあった本を買う	1	2	3
D 子ども用のスポーツ用品・おもちゃを買う	1	2	3
E 自宅で抱腹をすることができるところを与える	1	2	3
F 習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わせる	1	2	3
G 学習塾に通わせる(または家庭教師に来てもらう)	1	2	3
H お誕生日のお祝いをする	1	2	3
I 買い物やレジャー施設に行く	1	2	3
J 1年に1回くらい家族旅行に行く	1	2	3
K クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる	1	2	3

問 25 お子さんが持ち書いて勉強できる環境がありますか。(○はひとつだけ)

- 1. ある
- 2. ない

問 26 あなたは、お子さんの将来(夢・進路・職業等)について、お子さんと一緒に考えたり、話すことがありますか。(○はひとつだけ)

- 1. よくする
- 2. たまにする
- 3. あまりしない
- 4. これまで特にしたことがない

問 27 お子さんにどの段階までの教育を受けさせたいですか。(○はひとつだけ)

- 1. 中学
- 2. 高校
- 3. 高等専門学校
- 4. 短大
- 5. 専門学校
- 6. 四年制大学またはそれ以上
- 7. まだわからない
- 8. その他

現在の暮らしについてお聞きします

問 28 昨年 1 年間 (2017 年 1 月～2017 年 12 月) のご家族の手取り収入 (税金や保険料を引いた、実額に手元に入ってくるお金) の額を教えてください。(就労で得た収入のほか、公的な手当や援助による収入なども含めた 1 年間の手取り収入になります。)(Oはひとつだけ)

- 1. 収入はない (0 円) 2. 1～50 万円未満 3. 50～100 万円未満
- 4. 100～175 万円未満 5. 175～210 万円未満 6. 210～245 万円未満
- 7. 245～275 万円未満 8. 275～300 万円未満 9. 300～350 万円未満
- 10. 350～400 万円未満 11. 400～500 万円未満 12. 500～600 万円未満
- 13. 600～700 万円未満 14. 700～800 万円未満 15. 800～900 万円未満
- 16. 900～1,000 万円未満 17. 1,000～1,500 万円未満 18. 1,500 万円以上

問 29 あなたのご家庭で受けている公的年金、社会手当などの社会保障給付金があれば、すべてにOをつけてください。

- 1. 児童手当 2. 児童扶養手当 3. 特別児童扶養手当
- 4. 特別障害者手当 5. 育児休業給付 6. 失業給付 (雇用保険)
- 7. 傷病手当金 8. 生活保護 9. 公的年金 (老齢年金)
- 10. 公的年金 (遺族年金) 11. 公的年金 (障害年金) 12. 就学援助
- 13. その他

問 30 現在の貯金額はどのくらいですか。ご家族の貯金すべての合計金額でお答えください (Oはひとつだけ)

- 1. 貯金はない 2. 10 万円未満 3. 10～50 万円未満
- 4. 50～100 万円未満 5. 100～300 万円未満 6. 300～500 万円未満
- 7. 500～1,000 万円未満 8. 1,000 万円以上 9. わからない

問 31 現在の住居形態について教えてください。(Oはひとつだけ)

- 1. あなた (または配偶者 (夫または妻)) の持ち家 2. 親や親せきの持ち家
- 3. 公営住宅 (県営住宅・市営住宅等) 4. 公団住宅 (都市再生機構 (UR) 等)
- 5. 社宅 6. 民間の賃貸住宅
- 7. その他

問 32 あなたのご家庭の現在の暮らしの状況を総合的にみて、どう感じていますか。(Oはひとつだけ)

- 1. 大変苦しい 2. やや苦しい 3. 普通 4. ややゆとりがある 5. 十分ゆとりがある

問 33 あなたのご家庭では、過去 1 年間の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料または衣類が買えないことがありましたか。(Oはひとつだけ)

- 1. よくあった 2. ときどきあった 3. なかった

問 34 あなたのご家庭では、過去 1 年間に、経済的な理由のために以下のA～Hの費用を支払えないことがありましたか。(A～Hそれぞれについて、あてはまる番号ひとつにO)

	あった	なかった	払う必要がない (該当しない)
A 電話料金	1	2	3
B 電気料金	1	2	3
C ガス料金	1	2	3
D 水道料金	1	2	3
E 家賃	1	2	3
F 住宅ローン	1	2	3
G 税金・国民健康保険料	1	2	3
H 借入金(クレジットカード含む)	1	2	3

問 35 あなたの家庭のすべてのお子さんの保育料、学校教育、学習費、習い事等にかかる毎月のおおよその金額を教えてください。(○はひとつだけ)

- 1. 1万円未満 2. 1～2万円未満 3. 2～4万円未満
- 4. 4～6万円未満 5. 6～8万円未満 6. 8～10万円未満
- 7. 10～12万円未満 8. 12～14万円未満 9. 14万円以上

問 36 今後、教育を受けさせるための、お金の準備はできていますか。
(もっとも近いものひとつに○)

- 1. 十分準備できている 2. 準備を始めている 3. 全く準備できていない

ご両親のこれまでの経歴についてお聞きます

お子さんのお母さんについて

問 37 お子さんのお母さんが、最後に通った学校はどちらになりますか。(○はひとつだけ)
※ 現在お子さんとお母さんが生計を一緒にしていない場合は、問 40 に進んでください

- 1. 中学校 2. 高等学校 (全日制) 3. 高等学校 (定時制または通信制)
- 4. 高等専修学校 (中学校卒業後に通う) 5. 高等専門学校 (中学校卒業後に通う)
- 6. 短期大学 7. 専門学校 (高校卒業後に通う) 8. 大学 9. 大学院
- 10. その他 11. わからない

問 38 お子さんのお母さんは、問 37 で回答した学校を卒業されましたか。(○はひとつだけ)

- 1. 卒業した 2. 中途退学した

問 39 お子さんのお母さんが 中学3年(15 歳)頃のご家庭の経済状況について、教えてください。
(もっとも近いものひとつに○)

- 1. 大変ゆとりがあった 2. ややゆとりがあった 3. 普通
- 4. やや苦しかった 5. 大変苦しかった 6. わからない

お子さんのお父さんについて

問 40 お子さんのお父さんが、最後に通った学校はどちらになりますか。(○はひとつだけ)
※現在お子さんとお父さんが生計を一緒にしていない場合、問 40～問 42 は回答する必要はありません。

- 1. 中学校 2. 高等学校 (全日制) 3. 高等学校 (定時制または通信制)
- 4. 高等専修学校 (中学校卒業後に通う) 5. 高等専門学校 (中学校卒業後に通う)
- 6. 短期大学 7. 専門学校 (高校卒業後に通う) 8. 大学 9. 大学院
- 10. その他 11. わからない

問 41 お子さんのお父さんは、問 40 で回答した学校を卒業されましたか。(○はひとつだけ)

- 1. 卒業した 2. 中途退学した

問 42 お子さんのお父さんが中学3年(15 歳)頃のご家庭の経済状況について、教えてください。
(もっとも近いものひとつに○)

- 1. 大変ゆとりがあった 2. ややゆとりがあった 3. 普通
- 4. やや苦しかった 5. 大変苦しかった 6. わからない

以上でアンケートはおわりです。ご協力ありがとうございました。

7. 子どもの生活・学習支援事業の調査(学習支援員用)

学習支援事業 支援者アンケート

1. 学習支援事業について

Q1 あなたが主に担当する学年はどれですか。(すべてに○)

1. 小学生

2. 中学生

3. 高校生

Q2 子ども達は、教室に来るのが楽しそうにみえますか。(1つに○)

1. 楽しい

2. どちらかといえば楽しい

3. あまり楽しくない

4. 楽しくない

Q3 教室に通う児童・生徒を見ている中で、教室に通う前と変わったと思うことはありますか。(それぞれ1つに○)

	あてはまる ことが多い	あてはまる くらい	あてはまる すこ	な ど ち ら か も い え	あ て は ま ら な い
①大人のひと気軽に話せるようになった	1	2	3	4	5
②「わからない」「教えて」と言えるようになった	1	2	3	4	5
③友達に自分の意見を言えるようになった	1	2	3	4	5
④苦手なことから逃げなくなった	1	2	3	4	5
⑤勉強が分かるようになった	1	2	3	4	5
⑥授業を面白いと感じるようになった	1	2	3	4	5
⑦学校に行くのが嫌ではなくなった	1	2	3	4	5
⑧周りの人にほめられることが多くなった	1	2	3	4	5
⑨周りから必要とされていると思うようになった	1	2	3	4	5
⑩他人にどう思われているかが気にならなくなった	1	2	3	4	5
⑪家族との会話が増えた	1	2	3	4	5
⑫部活動に積極的になった	1	2	3	4	5
⑬クラスの活動に積極的になった	1	2	3	4	5
⑭学校の行事を楽しんでいると思うようになった	1	2	3	4	5
⑮以前より楽しいと思うことが増えた	1	2	3	4	5
⑯将来の夢ができた	1	2	3	4	5

Q4 Q3以外に感じる子どもの良い変化があれば教えてください。

Q5 教室の利用頻度が減った・来なくなった場合、その理由を把握していれば教えてください。(すべてに○)

1. 教室が遠い

2. 開室時間が本人の都合と合わない

3. 部活動が忙しい

4. 教室の先生と仲良くなれない

5. 教室を利用する他の人とうまくいかない

6. 家庭の事情

7. 勉強をする必要があるときにきているから

8. その他()

Q6 現在登録のみでできていない子どもにも来てもらうためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。

2

2. お子さんやご家庭の様子について

貧困やそれに伴うさまざまな困難を抱えていると思われる家庭（以下、困難を抱える家庭）の子どもや保護者の状況について、下記の観点でわかる範囲で教えてください。
※個別事例ではなく、これまでの業務を通して総合して感じていることをお聞かせください。

(1)背景や特徴

Q 7 困難を抱える家庭において、貧困以外にどのような背景や特徴が見られますか。

1. ひとり親世帯	5. 保護者の虐待経験
2. 未婚	6. 保護者のDV経験
3. 多子世帯	7. 保護者の障がい・疾患
4. 外国籍	8. その他（ ）

Q 8 上記の具体例などについて記入してください。

--

Q 13 経済的困難に伴い、どのような影響や課題がありますか。（すべてに○）

1. 心身の健康への影響	5. 自己肯定感・自尊心の低下
2. 基礎的学力への影響	6. 就職・就労への影響
3. 進学への断念	7. その他（ ）
4. 社会性・自立能力の育成への影響	

Q 14 上記の具体例などについて記入してください。

--

(2)子ども・若者の様子・状況

Q 9 生活や学習の様子で特徴的な状況は、どのようなことですか。（すべてに○）

1. 欠食・生活習慣	5. 家庭や地域での居場所
2. 身なり・所持品	6. 友人関係・いじめ
3. 学習習慣・意欲	7. その他（ ）
4. 不登校・中途退学	

Q 10 上記の具体的な状況などについて記入してください。

--

Q 11 保護者との関係で特徴的な状況は、どのようなことですか。（すべてに○）

1. 顔色をつかがう	4. 無関心・不従順
2. 甘えない・甘えられない	5. その他（ ）
3. 会話・ふれあう機会が少ない	

Q 12 上記の具体的な状況などについて記入してください。

--

(3)保護者の様子・状況

Q15 生活や就労の様子で特徴的な状況は、どのようなことですか。(すべてに○)

1. 住環境	5. 地域や周囲との関わり
2. 生活習慣・消費	6. 親・親せきとの関わり
3. 就労状況	7. その他()
4. 学歴	

Q16 上記の具体的な状況などについて記入してください。

Q17 子ども・若者との関係で特徴的な状況は、どのようなことですか。(すべてに○)

1. 子どもへの依存	4. 無関心・ネグレクト
2. 責任感・負い目	5. 必要以上の干渉・過度な期待
3. 会話・ふれあう機会が少ない	6. その他()

Q18 上記の具体的な状況などについて記入してください。

3. 学習支援事業以外の支援や連携について

Q19 課題のある子どもや家庭を、他機関につなぐことはありますか。

1. つなぐことがよくある	3. あまりつなぐことはない
2. 時々つなぐことがある	4. つなぐことはない

Q20 【つなぐことがある場合】
どのような内容で、どのような機関につないでいます。

Q21 【つなぐことがある場合】
他機関と連携をするうえで、どのような課題がありますか。

ご回答いただきどうもありがとうございました。

8. 子どもの生活・学習支援事業の調査(教室利用者用)

学習教室利用アンケート

Q1 あなたの通う学校を教えてください。(1つに○)

1. 小学校

2. 中学校

3. 高校

Q2 この学習教室に来るのは楽しいですか。(1つに○)

1. 楽しい

2. どちらかといえば楽しい

3. あまり楽しくない

4. 楽しくない

Q3 この学習教室を利用するきっかけについて教えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 成績を上げたかったから

2. 受験対策をしたかったから

3. 食事ができるから

4. 友人や指導員と話せるから

5. その他()

Q4 学習教室に通うようになってから、自分で変わったなと思うことはありますか。(それぞれ、どちらかに○)

①大人の人と気軽に話せるようになった

②「わからない」「教えて」と言えるようになった

③友達に自分の意見を言えるようになった

④苦手なことから逃げなくなった

⑤勉強が分かるようになった

⑥学校の授業を面白く感じるようになった

⑦学校に行くのが嫌ではなくなった

⑧周りの人にほめられることが多くなった

⑨周りから必要とされていると思うようになった

⑩他人にどう思われているかが気にならなくなった

⑪家族との会話が増えた

⑫部活動に積極的になった

⑬クラスの活動に積極的になった

⑭学校の行事を楽しんでいると思うようになった

⑮以前より楽しいと思うことが増えた

⑯将来の夢ができた

なった

なかった

増えた

なかった

できた

Q5 どのくらいの期間、学習教室を利用されていますか。(1つに○)

1. 1年未満

2. 1～3年未満

3. 3年以上

Q6 この学習教室の他に、塾やスイミング等のスポーツスクールに通っていますか。(1つに○)

1. 塾に通っている

2. スポーツスクールに通っている

3. 両方通っている

4. 両方通っていない

Q7 Q6で「1. 塾に通っている」に○をした方にお聞きします。塾と比べてこの学習教室の良い点や悪い点があれば教えてください。

Q8 支援員や指導員について、どのように感じていますか。(それぞれ、1つに○)

①教え方がわかりやすいですか

②悩みや相談を話しやすいですか

わかりやすい

話しやすい

ふつう

ふつう

わかりにくい

話しにくい

Q9 もっとこんな学習教室になったらいいな、と思うことがあれば教えてください。

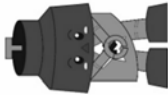
どうもありがとうございます。支援員に提出してお帰り下さい。

386

9. 子どもの生活・学習支援事業の調査(教室利用者保護者用)

子どもの生活・学習支援事業 保護者アンケート

日頃より市政の推進について温かいご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
このアンケートは、川口市が、学習支援事業の登録をされている保護者の方に、事業の感想などについてお聞きするものです。寄せられたみなさまの声は、今後の学習支援事業に活かしてまいります。
お忙しいところ大変恐縮ですが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、お願いいたします。
記入済みのアンケートは、同封の切手を貼付した返信用封筒に入れ、ポストに投函してください。
なお、不明な点がございましたら、以下の担当までご連絡ください。



【担当】
川口市役所 子ども部 子ども総務課
竹内、仲田、堤田
電話 048-271-9457 (直通)

Q1 お子様の通う学校を教えてください。(兄弟姉妹分すべてに○)

1. 小学校	2. 中学校	3. 高校
--------	--------	-------

Q2 学習支援事業をどのようにして知りましたか。(すべてに○)

1. 市の担当職員から教えてもらった	4. 友人に教えてもらった
2. 学校からパンフレットが配られた	5. インターネット
3. 学校の先生に教えてもらった	6. その他()

Q3 お子様は学習支援教室をどのくらい利用していますか。(1つに○)

1. 週に2回、またはそれより多い	4. 数ヶ月に1回くらい
2. 週に1回くらい	5. 利用していない
3. 1ヶ月に1回くらい	

【利用されている方】

Q4 ご利用いただいている主な目的を教えてください。(すべてに○)

1. 授業の補習	4. 放課後活動として
2. テスト対策	5. その他()
3. 入試対策	

【利用されている方】

Q5 利用するようになってから、お子様の様子に変化があれば教えてください。(すべてに○)

1. 学校の成績が良くなった	6. 自分に対する自信がついた
2. 家で勉強する習慣がついた	7. 将来の進学に関する見通しがついた
3. 友達との仲が良くなった	8. 将来の職業に関する見通しがついた
4. 親との仲が良くなった	9. その他()
5. 大人に対する態度が変わった	10. 特になし

Q6 どのくらいの期間利用されていますか。(兄弟姉妹分すべてに○)

1. 1年未満	2. 1～3年未満	3. 3年以上
---------	-----------	---------

【利用されていない方】

Q7 お子様は学習支援教室をなかなか利用できない理由を教えてください。(すべてに○)

1. 教室が遠い	5. 教室を利用する他の人とうまくいかない
2. 開室時間が自分の都合と合わない	6. 家庭の事情
3. 部活動が忙しい	7. 試験前など必要があるときのみ利用している
4. 教室の先生と仲良くなれない	8. その他()

Q8 どのような教室であれば、通わせたいと思いますか。(すべてに○)

1. 家から教室が近い	7. 色々なタイプの先生やボランティアがいる
2. 学校から教室が近い	8. 他の利用者と仲良くなれる
3. 開室時間がもっと遅い	9. イベントが楽しい
4. 開室時間がもっと早い	10. ご飯がおいしい
5. 開室時間が長い	11. その他()
6. 指導が手厚い	12. 特になし

Q9 その他、学習支援事業に関してご意見があればご自由にお書きください。

ご回答どうもありがとうございました。
回答した用紙は封筒に入れ、**8月9日(木)までにポストに投函**してください。

387

10. 資源量調査

関係機関調査

調査へのご協力をお願い

関係機関のみさまには、日頃から市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

今、子どもの貧困が大きな社会問題として注目されている中で、家庭の経済状況にかかわらず、すべての子どもが健やかに成長していけるような必要な方策を検討するため、関係する機関の皆様には、ピアリングを実施させていただくこととなりました。

お忙しい中でお手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願いいたします。

平成30年11月

川口市

【問い合わせ】

川口市役所 子ども部 子ども総務課

竹内、仲田、堀田

電話 048-271-9457(直通)

機関の名称	
調査票記載者名	

Q1 貴機関として、困難を抱える家庭の子ども・若者や保護者に対し、どのような支援を行っているか教えて下さい(自由記述)。

Q2 貴機関が把握している、困難を抱える子ども・家庭への支援を行っている団体について、項目別に把握している数を記入して下さい。

項目	把握している数
①子どもがいる貧困家庭への支援を行う団体	
②子育て支援を行う団体	
③困難を抱える子ども・若者を支援する団体	
④障害児・保護者への支援を行う団体	
⑤(子どものいる)外国籍家庭への支援を行う団体	

Q3 貴機関が把握している、困難を抱える子ども・家庭への支援を行っている団体について、団体から聞く活動上の課題は何かありますか(自由記述)。

Q4 貴機関が把握している範囲で、困難を抱える子ども・家庭への支援を行う団体について、もっと増やしていった方がいい分野はありますか(自由記述)。

Q5 その他、困難を抱える子ども・家庭への支援について意見等ありましたらご自由にお書きください(自由記述)。